5月14日（土）

口頭発表	A会場（Zoom1）		B会場（Zoom2）		C会場（Zoom3）		D会場（Zoom4）	
司会	安部 朋世		松浦 年男		吉田 永弘			
9:00 ｜ 9:40	A-1 p.1	「誰かが次郎を倒した／次郎が倒された誰か」は成立するのか？ ―能動態・受動態の交替と「名詞の不特定性」について― 劉 志毅	B-1 p.49	高知県伊豆田神社付近の方言の形容詞のアクセント 高山 林太郎	C-1 p.97	「引用」のトテはいつから「とりたて」になったか ―体言相当句を受けるトテモとの関連から― 高谷 由貴		
9:50 ｜ 10:30	A-2 p.7	シナイが表す「未完了」について 道法 愛	B-2 p.55	西周のアクセント資料に対する一解釈 ―中輪式アクセントとして― 中村 明裕	C-2 p.103	分類語彙表番号を付与した『日本語歴史コーパス』データ 浅原 正幸　池上 尚　鈴木 泰 市村 太郎　近藤 明日子 加藤 祥　山崎 誠		
司会	大田垣 仁		平塚 雄亮		小木曽 智信		李 婷	
10:50 ｜ 11:30	A-3 p.13	日本語量副詞が修飾する名詞句の意味解釈の分析 宮前 純子	B-3 p.61	京都府南部若年層方言の語幹重複形容詞における促音・撥音音素の挿入 宮川 創	C-3 p.109	古代語の自然発生的自動詞とラレ構文の連続性について 志波 彩子	D-1 p.145	「NP1つまりNP2」の「つまり」の機能 ―同格名詞句との対照から― 乾 乃璃子
11:40 ｜ 12:20	A-4 p.19	現代日本語における副詞「わざわざ」の意味と用法 ―「せっかく」との比較を中心に― 許 燕	B-4 p.67	愛媛県大洲方言の動詞尊敬形の形態構造と通時的変化 ―言語地図・談話・文法記述のデータを用いて― 宮岡 大	C-4 p.115	上代日本語の甲類のo_1に対する琉球祖語のもう一つの音対応について セリック ケナン		
司会	甲田 直美		三井 はるみ		米谷 隆史		田中 啓行	
13:10 ｜ 13:50	A-5 p.25	形容詞〈い足す言葉〉の使用実態とその動向について ―多いい・美味しいくて・正しいかった― 浅川 哲也	B-5 p.73	関西における中国人留学生の方言使用 ―断定辞、否定辞を中心に― 殷 琦	C-5 p.121	日本語に見る音韻的年輪 ―化石化した規則と生産的な規則― 黒木 邦彦	D-2 p.151	近代翻訳小説における人称詞の翻訳 仲村 怜
14:00 ｜ 14:40	A-6 p.31	品詞性からみるナ形容詞の分類 焦 暁璐	B-6 p.79	談話標識「なんか」から見た拡張的交感機能 ―聞き手との相互作用に注目して― 肖 潔	C-6 p.127	『唐話纂要』の仮名音注にみるハ行子音について 王 竣磊	D-3 p.157	ミュージカル『オペラ座の怪人』の日本語訳における役割語 ―行為要求のモダリティを中心に― 奈良 夕里枝
司会	田中 祐輔		澤村 美幸		櫻井 豪人		李 婷	
15:00 ｜ 15:40	A-7 p.37	「十分に」の意味と構文特徴、及びその通時的変遷に関する考察 尚 暁歓	B-7 p.85	宮古語久松方言の活用パターンによる動詞分類の一試案 陶 天龍	C-7 p.133	古代日本語陳述動詞類の極性（肯否）表現の特徴 ―古代日本語中の「ロマンス語接続法」等価表現― 廉田 浩	D-4 p.163	「いきなりノダ」について 高 甜
15:50 ｜ 16:30	A-8 p.43	文末で用いられる助詞「し」の終助詞的用法 入江 祐希奈	B-8 p.91	副詞「しかと」の成立に関する一考察 吉本 裕史	C-8 p.139	「さげすむ」の変遷 ―「さげしむ」の干渉に注目して― 成田 薫子	D-5 p.169	日本語の二字漢語の分析性 ―中国語との対照― 吉 甜

5月15日（日）

ワークショップ	A会場（Zoom1）		B会場（Zoom2）		C会場（Zoom3）	
会場担当	三井 はるみ		櫻井 豪人		甲田 直美	
9:30 | 11:00	W-0 p.217	ワークショップ0 日本語の時空間変異における 複数形の多義 発表者：新永 悠人　上林 葵　平塚 雄亮 司会：平塚 雄亮	W-1 p.231	ワークショップ1 『日本語歴史コーパス』の活用 ―語彙表を用いた集計と分析― 発表者：小木曽 智信　竹内 綾乃 司会：小木曽 智信	W-2 p.245	ワークショップ2 渡日間もない外国にルーツのある 子どもに必要な日本語とは何か ―「アプリで にほんご ―がっこうに いこう―」の開発を手掛かりに考える― 発表者：櫛引 祐希子　米澤 千昌　長谷川 ユリ 司会：櫛引 祐希子
ポスター発表・学生セッション会場（oVice） …学生セッションの予稿集原稿はありません						
会場担当	田中 祐輔　吉田 永弘　李 婷					
11:10 | 12:40	P-1 p.175	日本における“端”の用法 ―山田孝雄の未完稿「「朝端」といふ語について」を契機とした漢語研究―			久保 柾子	
	P-2 p.181	辞書を母体とした語彙史試論			岩﨑 凜太郎　久保 柾子　成田 薫子　鈴木 萌楓	
	P-3 p.187	『日本語歴史コーパス　平安時代編Ⅱ訓点資料』の公開			柳原 恵津子　近藤 明日子　高田 智和 月本 雅幸　小木曽 智信	
	P-4 p.193	『日本語歴史コーパス　鎌倉時代編Ⅲ軍記』の公開			片山 久留美　呉 寧真　小木曽 智信	
	P-5 p.199	『日本語歴史コーパス　明治・大正編Ⅵ落語SP盤』の公開			服部 紀子　松崎 安子　小木曽 智信	
	P-6 p.205	『日本語歴史コーパス　明治・大正編Ⅴ新聞』の公開			髙橋 雄太　仲村 怜　間淵 洋子　小木曽 智信	
	P-7 p.211	『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における新聞記事種類の分布と典型的新聞記事の特徴			加藤 祥　浅原 正幸	
	G-1 なし	複合助詞「をもって」の隆盛と衰退			西端 省吾	
	G-2 なし	場面深刻度と人間関係における謝罪会話の特徴―接続表現を中心に―			韓 開	
	G-3 なし	大学生の会話における「（よ）う＋思考動詞」と「つもり（だ）」の使用文脈 ―「日本語話題別会話コーパス：J-TOCC」の分析を通して―			三好 優花	
	G-4 なし	若年層における推量表現形式ダロウ類・トオモウ類・否定疑問類の使い分けについて			尾関 武尊	
	G-5 なし	「誰でも」についての通史的な研究			冀 媛媛	
	G-6 なし	キャラと文法変化に関する一考察―「じゃ」「でござる」「であります」を例に―			劉 天陽	
シンポジウム会場（Zoom1）						
ホスト	北崎 勇帆					
14:00 | 17:00	 p.259	**<u>文献資料を読む　―中世語研究の継承と展開―</u>** 司会　山本 真吾（東京女子大学） キリシタン文献を読む　パネリスト　岸本 恵実（大阪大学） 抄物を読む　パネリスト　堀川 貴司（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫） 狂言資料を読む　パネリスト　大倉 浩　（筑波大学） 指定討論者　米谷 隆史（熊本県立大学）				

「誰かが次郎を倒した／次郎が倒された誰か」は成立するのか？
―能動態・受動態の交替と「名詞の不特定性」について―

劉（りゅう） 志毅（しき）（早稲田大学大学院生）

1、はじめに

「太郎が次郎を倒した／次郎が太郎に倒された」のように、同じ事態に対して、能動態と受動態の二つの描き方があると思われる。能動・受動の対立、あるいは選択については古くから論じられてきたが、動作主や被動者が不特定の存在である場合は以下の現象が見られる。(1)（2）のように、述定の場合には、能動態の動作主／受動態の被動者が不特定の名詞である場合、能動・受動は交替可能であったり交替不可能であったりする。しかし、(3）では、(1）と同様、能動態の動作主が不特定であるが、能動・受動は交替不可能となる。また、(4）のように、「らしい」が付いている場合は、能動・受動は共に自然であるため、交替可能となる。さらに、装定の場合には、(5）では受動態が不自然であるため、能動・受動は交替不可能となる一方、(6）では能動・受動が共に自然であり、両者は交替可能となる。このように、能動・受動という二つの描き方の可能性が名詞の不特定性にも影響されていることが分かる。

(1)　a.誰かが次郎を倒した。　　b.次郎が誰かに倒された。（作例[1]）
(2)　a.太郎が誰かを育てている。　　b.?誰かが太郎に育てられている。
(3)　a.?誰かが次郎を誤解する。　　b.次郎が誰かに誤解される。
(4)　a.太郎が誰かを育てているらしい。　　b.誰かが太郎に育てられているらしい。
(5)　a.次郎を倒した誰か　　b.*次郎が倒された誰か
(6)　a.太郎が倒した誰か　　b.太郎に倒された誰か

では、述定において、能動態の動作主と受動態の被動者が不特定の名詞である場合、能動・受動の選択はテンス・アスペクトの形式やモダリティとどのように関わっているのだろうか。また、装定において、能動・受動の選択はどのように「名詞の不特定性」と関係しているのか、またその原因は何なのだろうか。本発表は、能動・受動の交替の可否を通して、上記の疑問を解明することを目的としている。

2、先行研究と問題の所在

能動・受動の交替と「名詞の不特定性」との関係を探るにあたり、名詞の不特定性がどのように能動文・受動文の成立に関与するかを明らかにする必要がある。まず、久野（1978:174）では、(7a）では「なぐる」という動詞は行為者を主語の位置に置くという特定性を持っているため、「談話主題の視点のハイアラーキー」[2]に違反しているにもかかわらず、ひとりでにそうなったとされている。また、話し手が意図的に（7b）を作らなかったのではなく、単に怠慢によるものと仮定され、(7a）の視点制約違反は非意図的違反の怠慢によるものとし、ペナルティーを受けないという。

(7)　a.背の高さ八尺の大女がジョンの頭をなぐった。
　　b.ジョンは背の高さ八尺の大女に頭をなぐられた。（久野（1978:173-174）

しかし、(8a）(9a）のどちらにおいても、「談話主題の視点ハイアラーキー」から見れば、共感度は「E（次郎）＞E（誰か）」であり、「表層構造の視点ハイアラーキー」から見れば、共感度は「E（誰か）＞E（次郎）」であり、二つの共感度に矛盾があるが、なぜ（8a）と（9a）の容認度が異なるのかについては、

[1] 本発表では、特に出典を明示しない場合は作例である。なお、本発表では、実線で動詞、二重線で底名詞、波線でそれ以外の成分を示す。

[2] 久野（1978:148-149）では、「表層構造の視点ハイアラーキー」（E（主語）＞E（目的語）＞E（受身文の旧主語））が指摘されている。また、「談話主題の視点ハイアラーキー」（E（談話主題）≧E（新登場人物））も指摘されており、つまり、談話に既に登場している人物に視点を近づける方が、談話に新しく登場する人物に視点を近づけるより容易だと述べられている。「E」は共感度を指している。共感度については、久野（1978:134）では、「文中の名詞句のX指示対象に対する話し手の自己同一視化を共感と呼び、その度合い、即ち共感度をE（x）で表す」と定義されている。

「視点制約への非意図的違反」だけでは説明できないようである。

(8) a.?誰かが次郎にデートの誘いを断る。 b.次郎が誰かにデートの誘いを断られる。

(9) a.誰かが次郎を殺した。 b.次郎が誰かに殺された。

また、古賀（2018:127）では、下の（10）（11）が挙げられ、不特定主語の他動文はすべて適格、不特定主語の受動文は不適格とされている。さらに、（12）のように、被動者が「誰か」で、かつ述語動詞がテイル形である場合は不特定主語の受動文が成立するが、これは例外として位置づけられている。

(10) a.何者かが、山本が、現場近くにいる時を狙って、小野木ユミを殺し、矢野を殺したことになる。（古賀（2018:127））

b.何者かが林に中学生を引きずり込もうとしたとの情報もあった。（古賀（2018:127））

(11) *見知らぬ人が太郎に殴られた。（古賀（2018:127））

(12) 誰かが先生に怒鳴られている（ようだ）。（古賀（2018:145））

これは非常に示唆的ではあるが、不特定主語の能動文に関しては、（10）は、純粋な述定の他動文ではなく、「～ことになる」「～との情報もあった」という表現が付いている。このことが不特定主語の能動文の成立に何か関係があるのだろうか。というのは、そういった表現がついていない（13）では、能動文より受動文の方がより自然であり、不特定主語の能動文は容認度がやや低いと考えられるからである。また、不特定主語の受動文については、（14）のように、受動態が能動態と同様に、自然である例もある一方、（15）のように、受動態が能動態よりやや不自然な例も存在する。さらに、（16）のように何らかのモダリティ表現を付け加えると、不自然さが解消される例も見られる。

(13) a.?誰かが次郎を注意する。 b.次郎が誰かに注意される。

(14) a.太郎が誰かを殺した。 b.誰かが太郎に殺された。

(15) a.太郎が誰かを育てている。 b.?誰かが太郎に育てられている。（(2) 再掲）

(16) a.太郎が誰かを育てているらしい。 b.誰かが太郎に育てられているらしい。（(4) 再掲）

このように、不特定主語の能動文・受動文の成立はテンス・アスペクトの形式やモダリティと何らかの関係があるように思われるが、管見の限りこれまでの先行研究では、まだ詳しい説明がなされていない。一方、（17a）のように、連体修飾節構造においては、名詞の不特定性によって、連体修飾節構造が不自然な例がある。装定においても、能動・受動の交替がどのように「名詞の不特定性」と関わっているのかについてはまだ明らかにされていないようである。

(17) a.?誰かが感謝した次郎 b.誰かに感謝された次郎

3、研究対象と研究方法

まず、名詞の不特定性を表す名詞について、建石（2017:18）では、不特定性を表す表現として不定名詞や「ある＋名詞」などが挙げられている。本発表では、現代書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）における、それらの不特定名詞が主語として使用されている場合の使用率に基づき、最も上位の「誰か」に絞る。また、受動態の種類は日本語記述文法研究会（2009:215）で取り上げられた、受動態の動作主が存在する直接受身だけを対象とする[3]。さらに、モダリティの観点から考察を行うため、BCCWJ における用例数に基づいて、作例に使用するモダリティ表現を、日本語記述文法研究会（2003:134）で取り上げられた伝聞を表す認識のモダリティ表現のうちの「らしい」に絞る。なお、不特定の能動文については、能動・受動の交替を扱うため、他動詞文を対象とする。また、不特定の能動文と受動文を、久野（1978）で指摘された「視点の一貫性」[4]に違反しているもの、すなわち、不特定主語の能動文の目的語と不特定主語の受動文の動作主が、それぞれ特定である有生物の場合に限定する。

また、研究方法については、工藤（1990）角田（1991）劉（2022）を参考に、「動詞の他動性」と「名

[3] それは、本発表では能動態と同じ事態を表せる受動態に着目しているからである。持ち主の受身も対象となりうるが、考察に使用する動詞には持ち主受身文を構成する動詞が少ないため、今回は対象外とする。

[4] 久野（1978:136）によれば、単一の文は共感度関係に論理的矛盾を含んでいてはいけないという。

詞句階層」を考慮し、小泉ほか（1989）の『日本語基本動詞用法辞典』から、作例に使用する動詞を抽出した結果、（18）のようになる。A 類から C 類の順で他動性が弱まっていく。本発表では、奥津（1983）「視点固定の原則」[5]や古賀（2013）「テクストレベルの結束性の要請」で指摘された前文脈などの文脈要素の影響を排除するために、以下の動詞を含む作例した単文あるいは連体修飾節構造のみを考察する。

(18) A 類　殺す、縛る、育てる、倒す、騙す、逃がす、雇う、渡す（8 語）

B 類　追う、蹴る、刺す、誘う、救う、攻める、助ける、尋ねる、頼む、殴る、招く、求める（12 語）

C 類　愛する、謝る、感謝する、嫌う、誤解する、断る、叱る、責める、注意する、憎む、褒める、認める（12 語）

さらに、連体修飾節構造の類型については、劉（2022）に従い、連体修飾節構造をタイプⅠ～タイプⅢに分ける。タイプⅠは底名詞が連体修飾節の動詞と必須格的関係を持つもの、タイプⅡは底名詞が連体修飾節の動詞と非必須格的関係を持つもの、タイプⅢは連体修飾節が底名詞の内容を表すものと相対的関係を表すものである。タイプⅠは「主体」「客体」「相手」、タイプⅡは「場所」「原因」「手段」、タイプⅢは「内容補充節」「相対補充節」に分ける。

4、述定の場合の考察

4.1 不特定主語の能動文

不特定主語の能動文は（19）～（21）のように、動詞に種類にかかわらず、動詞がタ形・シテイル形・シテイタ形である場合には、容認度がより高く、能動・受動は交替しやすい。それに対し、（22）のように、動詞がル形である場合にも自然寄りと思われるものは少なくないが、容認度が相対的に低いため、能動・受動はやや交替しにくい。それは動詞がル形である場合は、文自体が真性のモダリティを持たない文になることによるものと考えられる。（23）のように、森山（2000:14）によれば、無標終止形は形態的に断定を表すものと言えるが、常に「確かな断定」の主張を表すわけではない。それは野田（1989）では「真性モダリティをもたない文」[6]と呼ばれている。従って、（24）（25）のル形の場合は、文脈や伝達を表すモダリティ（聞き手めあての終助詞「よ」等）によって、文の成立が可能となるのである。また、動詞がル形以外の形である場合は、不特定主語の能動文が自然となるのは、モダリティの面から見れば、文のモダリティが真性モダリティである一方、過去に起こったこと（「既然性」）、目の前で発生していること（「現場性」）及び何らかの証拠に基づいて推論すること（「証拠性」）といった確実性を表す性質の支えによって、事態をありのままに描くことができることによるものと思われる。

(19) a.誰かが次郎を縛った。　　b.次郎が誰かに縛られた。【A】[7]

(20) a.誰かが次郎を殴っている。　　b.次郎が誰かに殴られている。【B】

(21) a.誰かが次郎に謝っていた。　　b.次郎が誰かに謝られていた。【C】

(22) a.?誰かが次郎を注意する。　　b.次郎が誰かに注意される。【C】

(23) 雨は降る。風は吹く。本当に大変な夜だった。（森山（2000:14））

(24) 誰かが次郎を注意する。またその誰かは手を出して次郎を殴るかもしれない。

(25) a.きっと誰かが次郎を注意するよ。b.きっと次郎が誰かに注意されるよ。【C】

さらに、（26a）のように、動詞がル形以外の形でありながら能動態が不自然な文でも、「らしい」のようなモダリティ表現を付け加えることにより、能動態が自然になり（（26c））、能動・受動が交替可能になるものもある。その一方、（27）のように、動詞がル形でかつ推量の証拠が把握しにくい動詞（心理的動

[5] 奥津（1983:78）では、「一度立てた主語は、必要のない限り、途中で変えない」という原則が指摘されている。

[6] 野田（1989:133-134）によれば、「真性モダリティをもたない文」は、独立した文としては非常に不安定なものであり、何らかの形で他の文なり文章・談話なりに従属するという。「真性モダリティをもたない文」のモダリティは「虚性モダリティ」と呼ばれている。

[7] 本発表では、【　】で動詞の種類を示す。

作を表す動詞等）である場合には、「らしい」を付け加えても自然にならない例もある。

(26) a.?誰かが次郎を認めていた。　　b.次郎が誰かに認められていた。【C】
　　c.誰かが次郎を認めていたらしい。d.次郎が誰かに認められていたらしい。
(27) a.?誰かが次郎を誤解する。　　b.次郎が誰かに誤解される。【C】
　　c.?誰かが次郎を誤解するらしい。　d.次郎が誰かに誤解されるらしい。

4.2 不特定主語の受動文

不特定主語の能動文と同様、不特定主語の受動文の場合には、(28) ～ (30) のように、動詞の種類にかかわらず、動詞がタ形・シテイル形・シテイタ形である場合は、受動態が成立しやすくなり、能動・受動は交替可能である。それに対し、(31) のように動詞がル形でかつ推量の証拠が把握しにくい場合には、不特定主語の受動文が成立しにくく、「らしい」を付け加えても不自然な例がある。不特定主語の受動文の成立は、上で触れた文のモダリティの問題及び確実性を表す性質の支えの有無に関わっていると思われる。

(28) a.太郎が誰かを倒した。　　b.誰かが太郎に倒された。【A】
(29) a.太郎が誰かを殴っている。　　b.誰かが太郎に殴られている。【B】
(30) a.太郎が誰かを注意していた。　　b.誰かが太郎に注意されていた。【C】
(31) a.太郎が誰かにデートの誘いを断る。　　b.?誰かが太郎にデートの誘いを断られる。【C】
　　c.太郎が誰かにデートの誘いを断るらしい。d.?誰かが太郎にデートの誘いを断られるらしい。

5、装定の場合の考察

連体修飾節構造の類型ごとに考察した結果を先取りして言えば、装定における、能動・受動の交替状況と「名詞の不特定性」との関係は表のようにまとめられる。

装定における能動・受動の交替と「名詞の不特定性」

不特定の要素	連体修飾節構造		交替状況	例文番号
主語	タイプI	客体	交替可能	(32) ～ (34)
		相手	交替不可能	(35)　(36)
	タイプII	場所	交替可能	(39)
		原因		(40)
		手段		(41)
	タイプIII	内容補充節		(42)
		相対補充節		(43)
底名詞	タイプI	主体	交替不可能	(45)　(46)
		客体	交替可能	(47)
		相手		(48)

5.1 主語が不特定である場合[8]

5.1.1 タイプⅠ（「客体」）の場合

(32) ～ (34) のように、主語が不特定である場合、かつ連体修飾節構造がタイプⅠ（「客体」）である場合には、動詞のテンス・アスペクト形式や種類にかかわらず能動・受動は交替可能となる。それは連体修飾節構造が底名詞を限定しているため、注視点が底名詞に置かれることになり、話者の底名詞への共感度が高まることにより、視点一貫性への違反の違和感が解消されるのではないかと思われる。すなわち、「登場人物の視点ハイアラーキー」からみれば、共感度はE（次郎）>E（誰か）ではあるが、底名詞

[8] 連体修飾節構造における、不特定主語の能動態・受動態については、タイプⅠの場合には、不特定主語の能動態だけを扱い、タイプⅡ・Ⅲの場合には、それだけではなく、不特定主語の受動態も扱う。

への共感度の高まりにより、「表層構造の視点ハイアラーキー」から見れば、共感度は元々のE（誰か）>E（次郎）から、E（誰か）≧E（次郎）に転じ、視点一貫性への違反の違和感が解消されるのである。

(32) a.誰かが縛る次郎　　b.誰かに縛られる次郎【A】
(33) a.誰かが助けた次郎　　b.誰かに助けられた次郎【B】
(34) a.誰かが責めている次郎　　b.誰かに責められている次郎【C】

5.1.2 タイプⅠ（「相手」）の場合

(35) ～ (38) のように、主語が不特定である場合、かつ連体修飾節構造がタイプⅠ（「相手」）である場合には、能動・受動は交替不可能となる。それは格成分の底名詞への転出の難しさによると考えられる。井上（1975:54）によれば、格成分の底名詞への転出については、主語が最も転出されやすく、間接目的語が三番目にあるという。そのため、(35b) のように、底名詞が受動態の動詞の主語を表す場合は、連体修飾節構造と底名詞の関係が想起されやすく自然となりやすい。従って、この場合には、受動態が選択されやすいのである。

(35) a.?誰かが資料を渡す次郎　　b.誰かに資料を渡される次郎【A】
(36) a.?誰かが資料を渡した次郎　　b.誰かに資料を渡された次郎【A】
(37) a.?誰かが感謝した次郎　　b.誰かに感謝された次郎【C】
(38) a.?誰かが感謝している次郎　　b.誰かに感謝されている次郎【C】

5.1.3 タイプⅡとタイプⅢの場合

(39) ～ (43) のように、タイプⅡ・Ⅲの連体修飾節構造においては、不特定主語の能動態の場合でも不特定主語の受動態の場合でも、能動・受動は共に自然であり、交替可能となる。それは 5.1.1 と同様、連体修飾節構造が底名詞を限定しているため、話者の底名詞への共感度が高まり、視点の一貫性への違反の違和感が解消できることによると思われる。

(39) a.誰かが次郎を殺した場所　　b.次郎が誰かに殺された場所【A】
　　c.太郎が誰かを殺した場所　　d.誰かが太郎に殺された場所
(40) a.誰かが次郎を殴っている理由　b.次郎が誰かに殴られている理由【B】
　　c.太郎が誰かを殴っている理由　d.誰かが太郎に殴られている理由
(41) a.誰かが次郎を倒した方法　　b.次郎が誰かに倒された方法【A】
　　c.太郎が誰かを倒した方法　　d.誰かが太郎に倒された方法
(42) a.誰かが次郎を褒める話　　b.次郎が誰かに褒められる話【C】
　　c.太郎が誰かを褒める話　　d.誰かが太郎に褒められる話
(43) a.誰かが次郎を倒した一方　　b.次郎が誰かに倒された一方【A】
　　c.太郎が誰かを倒した一方　　d.誰かが太郎に倒された一方

なお、(44) のように、底名詞が「動作主が能動的に何かをするための手段」という意味合い（「動作主優位性」）を持つ場合、かつ動作主と被動者が共に特定である場合には、受動が不自然になるため、能動・受動は交替不可能となる（劉（2022））。それに対し、(41ab) のように、能動態の主語が不特定である場合、つまり、受動態の動作主が不特定である場合には、受動態が成立しやすくなり、能動・受動が交替可能となるという興味深い現象が見られる。それは、「次郎が倒された方法」が自然であることから分かるように、「特定動作主→不特定動作主→動作主不在」と動作主が背景化するに従って、被動者が前景化するため、受動態の自然度が増すことによるものと考えられる。

(44) a.看守が犯人を逃がした方法　　b.?犯人が看守に逃がされた方法【A】

5.2 底名詞が不特定である場合

5.2.1 タイプⅠ（「主体」）の場合

(45) (46) のように、連体修飾節構造がタイプⅠ（「主体」）である場合には、能動・受動は交替不可能となる。この場合には、事態を能動態で描きやすい。それは劉（2022）で指摘した「格成分の底名詞への転出の難しさ（「に」格動作主）」によるものと考えられる。

(45) a.次郎を殺した誰か　　b.*次郎が殺された誰か【A】

(46) a.次郎を蹴る誰か　　b.*次郎が蹴られる誰か【B】

5.2.2 タイプⅠ（「客体」「相手」）の場合

（47）（48）のように、連体修飾節構造がタイプⅠ（「客体」「相手」）である場合には、能動・受動は交替可能となる。受動態の方は、底名詞が受動主語「が」格のため転出しやすく、また不特定の存在が底名詞に置かれ、連体修飾節構造によってその不特定の存在が特定化されるため、自然になるのである。

(47) a.太郎が殴っている誰か　　b.太郎に殴られている誰か　【B】

(48) a.太郎が資料を渡した誰か　　b.太郎に資料を渡された誰か【A】

6、まとめと今後の課題

本発表では、以上のように考察を行った結果、主に以下のことが分かった。

まず、述定においては、①動詞がル形以外の場合には、能動・受動は交替しやすい。それはモダリティの性質及び確実性を表す特徴づけられた性質（「既然性」「現場性」「証拠性」）によるものと思われる。②動詞がル形である場合には、動作主が不特定である場合は、受動態が選択されやすく、被動者が不特定である場合は、能動態が選択されやすいと見られる。それはモダリティの性質と推量の証拠が把握しにくいことによるものと考えられる。

次に、装定においては、①主語が不特定、連体修飾節構造がタイプⅠ（「相手」）である場合には、受動態が選択されやすい。また、底名詞が不特定、連体修飾節構造がタイプⅠ（「主体」）である場合には、能動態が選択されやすい。それは格成分の底名詞への転出の難しさによるものである。②主語が不特定、連体修飾節構造がタイプⅠ（「客体」）、タイプⅡ、タイプⅢである場合には、能動・受動は交替しやすい。それは連体修飾節構造が底名詞を限定しているため、話者の底名詞への共感度が高まり、視点一貫性への違反の違和感が解消されることによるものである。③底名詞が不特定、連体修飾節構造がタイプⅠ（「客体」「相手」）である場合にも、能動・受動は交替しやすい。それは、格成分の底名詞への転出のしやすさとともに、不特定の存在が連体修飾節構造の限定によって特定になることによるものと思われる。

さらに、底名詞が「方法」のように、動作主が能動的に何かをするための手段を表す名詞である場合、「特定動作主→不特定動作主→動作主不在」のように、受動態の動作主が背景化するにつれて、被動者が前景化するため、受動態がより自然になり、能動・受動が交替可能となるという現象も観察できた。

なお、本発表では不特定の名詞を「誰か」、モダリティを「らしい」に絞っているが、その他の不特定の名詞やモダリティの場合、さらに受動態の「動作主不在」の場合の考察についてはすべて今後の課題としたい。

参考文献　井上和子（1975）「構造と生成」『国語学』101、pp.49-66／奥津敬一郎（1983）「何故受身か？―〈視点〉からのケース・スタディ―」『国語学』132、pp.65-80／工藤真由美（1990）「現代日本語の受動文」言語学研究会編『ことばの科学 4』、pp.47-102、むぎ書房／久野暲（1978）『談話の文法』大修館書店／小泉保ほか（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店／古賀悠太郎（2013）「受動文の使用／不使用と日本語話者の視点」『神戸市外国語大学研究科論集』16、pp.1-20／古賀悠太郎（2018）『現代日本語の視点の研究　体系化と精緻化』ひつじ書房／建石始（2017）『日本語の限定詞の機能』日中言語文化出版社／角田太作（1991）『世界の言語と日本語 言語類型論から見た日本語』くろしお出版／日本語記述文法研究会（2003）『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』くろしお出版／日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語文法 2 第 3 部格と構文 第 4 部ヴォイス』くろしお出版／野田尚史（1989）「真性モダリティをもたない文」仁田義雄ほか編『日本語のモダリティ』くろしお出版／松木正恵（1992）「「見ること」と文法研究」『日本語学』11（9）、pp.57-71／森山卓郎（2000）「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」森山卓郎ほか著『日本語の文法 3 モダリティ』岩波書店／劉志毅（2022）「能動態・受動態の交替と連体修飾節構造の類型」『早稲田日本語研究』31、pp.61-72

シナイが表す「未完了」について

道法（どうほう）　愛（まな）（広島大学大学院生）

1．はじめに

日本語において，完了は，シタ（＝(1a)）もしくはシテイル（＝(1b)）で表され，未完了は，基本的にシテイナイ（＝(1c)）で表される。

(1)　（予稿集原稿の提出締め切り３日前。教授が指導する学生に）
「予稿集の原稿は，（もう）提出しましたか。」
a.「はい，（もう）提出しました。」　　b.「はい，（もう）提出しています。」
c.「いいえ，（まだ）提出していません。」

一方，(2)(3)のようにスルの否定形シナイが「未完了」として使用可能な場合がある。(2)(3)のシナイは，シテイナイと同様に「発話時までに事態が実現済みでない」という意味での解釈が可能である。

(2)　（近所の公園の花壇を見て不満そうに）
「もう５月なのにチューリップが｛咲いてない / 咲かない｝。」

(3)　（息子がゲームをやめて宿題をしたか母親が見に行くと，まだゲームをしている）
「1 時間経ったけど，まだ｛やってない / やらない｝な。」

しかし，シナイは常に「未完了」として使用可能なわけではない。次の(4)(5)は，(2)(3)と同じく「咲かない」「やらない」を使用した例であるが，(4)は不自然，(5)は「当分実現しない」という別の意味になり，「未完了」として解釈しにくい。

(4)　（旅行でオランダのチューリップを見にきて）
「もう５月なのにチューリップが｛咲いてない /??咲かない｝。」

(5)　（息子がゲームをやめて宿題をしたか母親が見に行くと，まだゲームをしている）
「この調子じゃ，まだ｛やってない /#やらない｝な。」

先行研究で，シナイが「未完了」を表すためには，文脈が重要であることが指摘されている[1]が，先行研究の記述はシナイの「未完了」の特徴を的確に捉えているとは言い難い。そこで，本発表では，シナイの「未完了」がどのような場合に使用可能になり，また，どのような特徴を持つのかを再検討することを目的とする。

2．先行研究と残された課題

シナイが「未完了」を表す文脈を考察しているものに，工藤(1996)と尾崎(2000)がある[2]。

工藤(1996：93)では，シナイが「未完了」を表すのは，「出来事のアクチュアル化が，話し手または聞き手によって強く＜期待＞されている場合」だとされている。例えば，次の(6)では，波線部から出来事がアクチュアル化すること，つまりは，事態が実現済みだと話し手が期待していることがわかり，それによりシナイの「未完了」が使用可能になると解釈できる。

(6)　「精神安定剤を飲んでいるんですけどね。どうもいらいらが直らないんです」
（工藤 1996：95）

---

[1] なお，文脈とは別に，動詞の語彙的性質によってシナイの「未完了」が使用可能になるとするものとして，日高(1995)があるが，これについては，道法・白川(2019)で検証されている通り，日高(1995)であげられている動詞であっても，文脈の関わりがなければシナイは「未完了」を表しにくいため，本発表では扱わない。

[2] これらの先行研究は，本発表が考察対象とするシナイが表す「未完了」を，(5)のように＜未来＞のことを述べる用法と対比し，シナイの＜現在＞用法として扱っている。

他方，尾崎(2000：52)は，「話し手が時間の推移と共に自らも視点を移動させて各々の時点をリアルタイムで捉え，各時点で事態が成立しないことを直接観察・確認」する場合をあげている。例えば，(7)と(8)の文法性判断の違いについて，(7)が自分の家の桜を話題にし，直接観察しているのに対し，(8)は京都の桜を話題にし，直接観察していないためだと説明している。

(7) もうそろそろ五月だけど，うちの桜，まだ｛咲いてない / 咲かない｝の。

(8)「明日京都に行ってくる」

「今行っても，まだ桜｛咲いてない /#咲かない｝よ。」 ((7)(8)共に尾崎2000：45)

以上，工藤(1996)と尾崎(2000)の記述を見たが，両論文はシナイが「未完了」を表すための重要な側面をそれぞれ捉えている。冒頭の例をもとに説明をすると，例えば，(2)と(4)は「5月にはチューリップが咲いている」という期待のもとで述べているという点では共通するが，実現済みでないことをオランダに来て初めて知る(4)は，シナイの「未完了」が使用しにくい。また，(3)と(5)は，話し手が実現済みでないことを以前から確認しているが，「1時間経ったから宿題をしていると思った」というような話し手の期待が含まれている(3) は「未完了」として解釈可能である一方，そのような期待が含まれていない(5)では，シナイが「未完了」として解釈しにくい。このことから，シナイが「未完了」を表すためには，工藤(1996)と尾崎(2000)両方の側面が重要になることが窺えるだろう。

しかしながら，これらの先行研究の記述には問題点も残る。まず，工藤(1996)の問題点として，話し手（あるいは聞き手）が実現済みだと期待していなくとも，シナイの「未完了」が使用できることがあげられる。例えば，(9)は波線部の「安心した」という言葉から故郷が変わっていると話し手が期待しているとは考えにくいが，シナイの使用が可能である。

(9) （久しぶりに故郷に帰り）

「前に帰省した時から随分経つが，｛変わらない / 変わってない｝な。安心した。」

また，尾崎(2000)は，事態が成立しないことを，話し手が各時点で直接観察・確認することが重要だとしているが，(10)のように，話し手が，事態が成立しないことを間接的に，かつ，初めて知るような場合でも，シナイで「未完了」を表すことが可能である。

(10) （買い物に行った夫が帰ってこないので電話をしたら，店が閉まっているという。妻は電話を切り，不満気に）

「11時なのにまだ｛開かない / 開いてない｝。早くご飯作らなきゃいけないのに。」

道法・白川(2019：6)では，本発表と同様の問題意識のもと考察を行い，「事態が実現済みかどうかを話し手が問題にしている」ことが重要だと結論づけている。しかし，同論文の記述は，工藤(1996)や尾崎(2000)で指摘されているシナイの「未完了」の特徴が却ってわかりにくくなっている憾みがある。例えば，(4)(5)でシナイの「未完了」が使用しにくいのは，(4)では尾崎(2000)に関する側面が，(5)では工藤(1996)に関する側面がそれぞれ満たされていないためだと考えられるが，道法・白川(2019)の記述に則った場合，それらの違いが区別されることなく，事態が実現済みかどうかを問題にしていないためだと説明されることになる。このように，同論文の記述は，シナイが「未完了」を表すために何が重要になるのかが不明確であり，また，それゆえにシナイの「未完了」の特徴を十分に捉えられていない。

そこで，本発表では，実例[3]および作例をもとに，工藤(1996)と尾崎(2000)で指摘されているシナイの「未完了」の特徴をそれぞれ捉え直し，シナイの「未完了」がどのような場合に使用可能になり，また，どのような特徴を持つのかを再検討する。

[3] 実例は，BCCWJおよび動画配信会社Netflix上にある作品から収集した。前者の用例にはサンプルIDを，後者の用例には作品名を記載している。そのほか特に記載のない用例は作例である。

３．　尾崎(2000)に関する考察

シナイの「未完了」は，話し手が直接観察しているか否かに関わらず，実現済みになるかどうか，話し手が以前から把握する中で，事態が実現済みにならないことを述べる状況で使用される。例えば(11)は，合図か来るかどうか，以前から発話時まで見ているものの合図がないことを述べる場面であり，(12)は，学生が変化するように話し手が働きかけ，変化するか見ている中で変化がないことを述べている。また，(13)は，生徒が家に帰ったかどうか，学校で連絡を待ちながら気にかけているような状況である。

(11)（ドンは，レイからの合図を待っているが，合図がなく）
ドン「合図｛来ない / **??**来テナイ｝な。」　（アニメ『約束のネバーランド』）

(12)（生徒の態度を改めさせようと奮闘する袴田だったが，効果がなく同僚の冬月に相談する）
袴田「どんだけ一生懸命な態度しても，あいつら何にも｛変わらない / 変ワッテナイ｝んですよね。それで…冬月先生聞いてます？」　（ドラマ『GTO』）

(13)（夜遅くに同僚の教師が残っているのを見つけて）
「あれ？まだ残ってるんですか？」
「それが，うちのクラスの子がまだ家に｛帰らない / 帰ってない｝んです。帰宅の連絡があるまで学校に残らないといけなくて…。」

加えて，当該事態が実現済みでないことを初めて知る場合であっても，実現済みになるかどうか，話し手が以前から把握する中で実現済みにならない事態として捉えられる場合には，シナイの「未完了」が使用できる。以下(10)(14)は，店が閉まっていることや糸が出ないことを初めて知る場合（＝波線部）であるが，シナイの「未完了」が使用可能である。

(10)（買い物に行った夫が帰ってこないので電話をしたら，店が閉まっているという。妻は電話を切り，不満気に）
「11 時なのにまだ｛開かない / 開いてない｝。早くご飯作らなきゃいけないのに。」

(14)（スパイダーマンになることが夢だという流佳をシェアハウスのメンバーも応援している。ある日，流佳は手首に何かに噛まれた跡があったことからメンバーに糸を出すポーズをしてみろと言われ，やってみるが）
ペッペ「（特に何も起こらないのを見て）｛出ない / **??**出テナイ｝な，まだ。」
流佳「まだ｛出ない / **??**出テナイ｝な。」　（『TERRACE HOUSE TOKYO 2019-2020』）

(10)(14)では，当該事態が実現済みでないことを発話時に初めて知っているが，知る以前から，実現済みかどうかを話し手が気にかけているような状況として捉えることが可能である。例えば(10)は，店が開かず，そのせいでご飯が作れない状態が続いている。そのため，いつ店が開くだろうかと待ち，把握する中で，実現済みにならない事態として捉えられているのだと考える。また，(14)も，糸が出ないことを知る以前から，スパイダーマンになりたくてもなれない，つまりは，糸を出したくても出せない状況が続いているため，早く糸が出ないか話し手が把握する中で実現済みにならない事態として捉えられているのである。

このことから，シナイが「未完了」を表すためには，実現済みになるかどうか，以前から把握する中で実現済みにならない事態として話し手に捉えられていることが重要だと考えられる。シナイの「未完了」におけるこのような特徴は，シテイナイと比較してもわかりやすい。以下(15)は，シテイナイではなく，シナイで「未完了」を述べることも可能ではあるが，シナイを使用した場合，「反省や謝罪があるか，逐一確認している」というような，裁判での供述としては不要なニュアンスが生じる。このようなニュアンスが生じるのは，シナイの表す「未完了」が，話し手が把握する中で実現済みにならない事態として捉えて述べる表現だからであろう。

(15)（被告人である希和子が赤ん坊の恵里菜を誘拐した罪を，裁判で検察官が追求する場面）
検察官「被告人は最もかわいい時期である幼児期の姿を親から取り上げ，最も愛情を必要

とする時期の子供から親を取り上げたのです。(中略)誠に身勝手な犯行にも関わらず，被告人は，反省の弁も，謝罪の意も {表しておりません / #表シマセン} 。」

(映画『八日目の蝉』)

以上のことを踏まえ，シナイが「未完了」として使用されるためには，まず，「以前から事態が実現済みでないことを話し手が把握する（把握している）こと」が重要だと考える。

4． 工藤(1996)に関する考察

4.1 「期待」という記述の再検討

シナイの「未完了」が使用される場合，当該事態が実現済みだと話し手が期待しているような場合が多いが，一方で，前掲の(9)や次の(16)のように，話し手が期待していない場合も見られる。(16)は，「終わるはずがない」と述べられていることから，(9)と同様に話し手が実現済みだと期待しているとは言い難い。このような場合でも使用可能であることから，話し手が実現済みだと期待しているか否かが本質的に重要なことではないのであろう。

(9) (久しぶりに故郷に帰り)

前に帰省した時から随分経つが，{変わらない / 変わってない} な。安心した。」

(16) 私はここで国家論を書き残そうと思わないが，一言書かずにいられなくなったわけだ。学生時代にも「国家論」で侃侃諤諤したものだが，まだ {終わらない / 終ワッテイナイ}。いや，終わるはずがない。」 (PB12_00100)

(9)(16)のような場合でも，シナイの「未完了」が使用可能であることを踏まえると，シナイが「未完了」を表すために重要なのは，話し手が，当該事態が実現済みになっているという想定のもとで述べていることだと考える。例えば，話し手が実現済みだと期待している場合 (例：(2)(6)など) であれば，当該事態が実現済みになっているという話し手の期待（＝想定）に基づき，それに反して事態がそうでないことを述べていると言えるだろう。一方，(9)(16)は，話し手自身が，当該事態が実現済みだと期待しているわけではない。しかし，(9)の「前に帰省した時から随分経つ」，(16)の「学生時代にも『国家論』で侃侃諤諤したものだ」という言葉から，「以前帰省した時から随分経つから変化があってもいいものだ」，「学生時代，国家論についてあれだけ議論したのだから十分なはずだ」というように，当該事態が実現済みになっているという想定のもとで話し手が述べていると考えられる点では，期待している場合と共通するのである。このことから，シナイの「未完了」においては，話し手が，当該事態が実現済みになっているという想定のもとで述べていることが重要なのだと考える。

また，第3節の内容とも関連するが，発話時だけでなく，以前から発話時までを含めて，話し手が実現済みだと想定されることとして捉えていることも重要である。例えば，以前から実現済みでないことを把握していても，その時点から実現済みでないことを問題にしていない場合には，シナイの「未完了」は使用しにくい。以下(17)は，居酒屋が開店したか気にかけているものの，店の開店時間が発話時であることから，発話時以前に実現していないことは問題にしにくい。そのため，発話時以前は，実現済みという想定があることとして捉えられず，シナイの「未完了」が使用しにくいのだと考えられる。

(17) (旅行先で偶然美味しそうな居酒屋を見つけた。張り紙を見ると1時間後に開店だったので，ワクワクしながら1時間後に再度来てみたが)

「1時間経ったのにまだ {開いてない / ?開かない}。」

このことから，シナイが「未完了」を表すためのもう一つの重要な条件を，「把握する中で，話し手が，当該事態が実現済みになっているという想定のもとで述べていること」とする。

以上，工藤(1996)の「期待」という記述の問題点を踏まえ，本発表では「想定」という観点から捉え直したが，「想定」の中には，話し手が実現済みだと期待している場合とそうでない場合など，

様々なものがあることが窺えよう。そこで，次節では，シナイの「未完了」における「想定」にどのようなタイプがあるのかということについて述べる。

4.2　「想定」のタイプ —「推論タイプ」と「願望タイプ」—

シナイの「未完了」の「想定」は「推論タイプ」と「願望タイプ」に大別される。

まず，「推論タイプ」について述べる。「推論タイプ」に分類される例としては，(2)(9)(16)があるが，ここでは，前掲の(16)と，次の(18)を例に説明する。

(16) 私はここで国家論を書き残そうと思わないが，一言書かずにいられなくなったわけだ。学生時代にも「国家論」で侃侃諤諤したものだが，まだ {終わらない / 終ワッテイナイ}。いや，終わるはずがない。」 (PB12_00100)

(18)「それでお前さんが指揮者なのか」
「指揮者は県庁の役人です。もう集合時間をとっくに過ぎているのですが，来ないのです。役人は怠慢で良くない」 (工藤 1995：95)

「推論タイプ」は，状況（＝波線部）を根拠に話し手が推論し，当該事態が実現済みになっているという想定が導き出されるタイプである。例えば，(16)は，学生時代，国家論についてあれだけ議論したという事実から，「国家論について語り尽くしていてもおかしくない」と想定が導き出されており，(18)は，集合時間，つまりはすでに来ているという予定があることから，「指揮者が来ているはずだ」という想定が導き出されている。

一方，これらとは別のタイプとして「願望タイプ」がある。「願望タイプ」は，先述した「推論タイプ」のように，何か状況を根拠に「実現済みになっている」という想定を導き出すのではなく，実現済みになっていることへの望ましさが想定に結びついたタイプである。例えば，(19)(20)は，何か根拠に基づいて推論し，「新刊が出ている」「マスコミが帰っている」と想定しているのではなく，「新刊が出ていてほしい」「マスコミに帰っていてほしい」というように，当該事態が実現済みであることが話し手にとって望ましいこととして想定されている。

(19)（友人 A と B が，B の好きな漫画について話をしている）
A「そういえば，君が好きなあの漫画，あれからどうなったの？」
B「それが作者が病気になったとかで今休載中なんだ。早く新刊が読みたいんだけど，まだ {出なくて / 出てなくて}。」

(20)（元暴走族出身である同僚教師鬼塚が問題を起こしたことで，学苑にマスコミが押しかけ，外に出られないような教師たち）
内山田「まったく，理事長ははっきりせんし。」
中丸「マスコミもいつまで経っても {帰らない /??帰ッテナイ} し。私なんかさっきマイク向けられて犯人扱いでしたよ。」 （ドラマ『GTO』）

「推論タイプ」と「願望タイプ」の特筆すべき違いとして，「推論タイプ」の場合には，話し手自身が実現済みになっていると期待しているか否かに関わらず使用できるということがあげられる。例えば，「推論タイプ」の例としてあげた (18)は，予定から実現済みになっていると推論し，話し手自身もそれを期待しているという点では願望タイプにも近いが，(18')のように，話し手が当該事態が実現済みになっていることを期待していなくとも使用可能である。「推論タイプ」は，話し手が，状況から当該事態が実現済みであるということを帰結として想定するものであり，当該事態が実現済みでないことに対して，話し手がどういった評価をしているかは問題にならない。

(18')「それでお前さんが指揮者なのか」
「指揮者は県庁の役人です。もう集合時間をとっくに過ぎているのですが，彼は怠惰な男でして，来ないのです。役人は怠慢で良くない」 ((18)を一部改変)

このように，「想定」という観点から捉え直すことにより，シナイの「未完了」において，状況をもとに推論し，実現済みであるとの想定を話し手が帰結としてもつ場合と，実現済みであることへ

の望ましさといった話し手の評価的な態度から想定が生じる場合のような，質的に異なるタイプが存在するということを明らかにできたのではないかと考える。

５．おわりに

本発表では，先行研究の記述を捉え直し，シナイの「未完了」がどのような場合に使用可能になり，また，どのような特徴を持つのかを再検討し，以下のような結論を得た。

＜条件１＞以前から事態が実現済みでないことを話し手が把握する（把握している）こと

＜条件２＞かつ，把握する中で，話し手が，当該事態が実現済みになっているという想定のもとで述べていること

<条件１>については，「各時点で」「直接」観察・確認しているかどうかより，実現済みになるかどうか，話し手が以前から把握する中で実現済みにならない事態として捉えられているか否かが重要であること，また，<条件２>については，話し手が状況から判断するような場合には，話し手が実現済みだと期待しているか否かに関わらず，使用可能であることを指摘した。

本発表の考察を踏まえると，シナイが「未完了」を表すためには話し手の事態への捉え方が重要であり，また，それにより話し手の事態への捉え方が表れる表現だと言えるだろう。(21)のシテイナイをシナイにして述べた場合，「授業が終わる頃には決まっているはずだ」という，話し手に実現済みだという想定があることが示されるとともに，「決まるか待っている中で（決まらない)」という，以前から把握する中で実現済みにならないといった話し手の事態への捉え方が表される。

(21)（新学期に係を決めていたところ，授業の終わりが近づき，担任が）
「クラス委員がまだ｛決まっていない / 決マラナイ｝が，誰か立候補する奴はいないか？」
（アニメ『デュラララ！！』）

今後は，シナイの「未完了」における特徴をスルと関連づけて考察したい。スルも「発話時直後に実現済みになる」という「限界到達」の意味を表す。例えば(22)は「直後未来」というテンス的な意味に加え，「限界到達」というアスペクト的な意味が表れている。スルの「限界到達」という意味は，須田(2010：28)で「コンテクストに強く依存した意味」とされているように，話し手が事態を知覚でき，かつ，今に実現済みになる事態として話し手に確定的に捉えている場合に表れる。

(22)（木の上にいる子猫がふらついているのを見て）
「あぶない！落ちるぞ！」

シナイの「未完了」の特徴をスルと比較した場合に興味深いのは，4.2 節で取り上げた「願望タイプ」の存在である。状況から実現済みであると判断する「推論タイプ」は，話し手の認識上で実現済みであることが確定的に捉えられており，スルが「限界到達」を表す場合とも関連しているように思われるが，一方で，「願望タイプ」については，関連性が見出しにくい。そのため，今後は「願望タイプ」のようなスルとの関連性が見出しにくいものも含め，否定形式であるシナイの「未完了」において，なぜ＜条件１＞＜条件２＞のような特徴が表れるのかをスルと関連づけて考察を行う。

参考文献

●太田朗(1980)『否定の意味』大修館書店. ／●井上優(2001)「現代日本語の「タ」－主文末の「…タ」の意味について－」『「た」の言語学』pp.97-163, ひつじ書房. ／●尾崎奈津(2000)「シナイの＜現在＞用法をめぐって－シテイナイとの比較から－」『岡山大学大学院文化科学研究科紀要』10(1), pp.41-55, 岡山大学大学院文化科学研究科. ／●工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテクスト―現代日本語の時間の表現―』ひつじ書房. ／●工藤真由美(1996)「否定のアスペクト・テンス体系とディスコース」言語学研究会編 『ことばの科学』7, pp.81-136, むぎ書房. ／●須田義治(2010)『現代日本語のアスペクト論』ひつじ書房. ／●道法愛・白川博之(2019)「シナイの「未完了」用法について－シテイナイと比較して－」『広島大学日本語教育研究』29, pp.1-8, 広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座. ／●日高水穂(1995)「「マダ～シナイ」と 「マダ～シテイナイ」－未実現相の否定表現－」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（上)』pp.151-158, くろしお出版.

日本語量副詞が修飾する名詞句の意味解釈の分析

宮前 純子（大阪大学大学院生）

1.はじめに

本発表では、日本語の量副詞「たくさん」が修飾する項の条件を、他動詞文の目的語名詞句の意味解釈の違いから説明を試みることを目的としている。本発表で対象としているのは、他動詞文の動詞の直前に生起する量副詞「たくさん」である(1)。

(1) a. 先生が英語をたくさん教えた
b. 先生が英語の文法をたくさん教えた

(1a)の「たくさん」は目的語名詞句の「英語」ではなく、動詞句の「教えた」の動作量を修飾していると考えられる。一方で(1b)の「たくさん」は動詞句の動作量も修飾するが、目的語名詞句の量を修飾するという 2 通りの解釈をすることが可能であると考えられる。これは、目的語名詞句が 1 つずつ個別に解釈されるか、集合的に解釈されるかによって「たくさん」が修飾する項によって引き起こされていると考え、ここに着目する。

2.量副詞と動詞の構造に関する研究

日本語の量副詞が修飾する項についての研究は、動詞のもつ機能や意味に注目し、分析が行われてきた。例えば、影山(1993)、岸本(2003, 2005)は、非対格仮説(unaccusative hypothesis)を用いて、「たくさん」が生起する文の構造と「たくさん」が修飾する項について、以下のように分析した(表 1)。

表 1: 非対格仮説を用いた分析

自動詞文		他動詞文
非能格動詞文	非対格動詞	—
動詞を修飾	主語を修飾	直接目的語を修飾

(1) a. たくさん遊んだ
b. たくさん壊れた

（影山　1993: 54）

影山（同）では、(1a)の非能格動詞「遊んだ」の文中に生起する「たくさん」は動詞の動作量を修飾し、(1b)の非対格動詞「壊れた」の文中に生起する「たくさん」は主語（外項）の

数量を修飾すると述べている[1]。

一方、他動詞文中に生起する「たくさん」は影山（1993)、岸本（2003）ともに、直接目的語の数量を修飾するという見解で一致している。

(2) a. たくさん飲んだ

影山(1993: 54)

b. 子供がおもちゃをいっぱい買った。

岸本(2003: 43)

これらの分析結果に加え、「たくさん」が動詞句を修飾する条件として、動作がある一定時間継続され得るものでなければならないと述べ、動詞4分類(Vendler 1967, Dowty 1979)を援用した分析を行った(表2)。なお、高見・久野の分析では自動詞、他動詞の区別はしていない。

表2: 動詞4分類

動詞句を修飾	名詞句を修飾		
活動動詞	状態動詞	到達動詞	達成動詞
意図的で継続可能な動作を表す	一定状態が継続していることを表す	ある状態に至る終了(完了)点を述べ、結果が瞬時に生じることを表す	ある動作の後、結果/終了に至ることを表す
歩く、話す、読む	いる、ある、見る	着く、気づく	教える、壊す

(高見・久野 2006: 139 をもとに作成)

高見・久野の分析では、この4つの動詞の中で「たくさん[2]」が動詞句を修飾するのは、「ある一定時間継続され得る、終了点を持たない動作を表す動詞(句)」であると述べられており、表4の中では活動動詞に限られる。また、それ以外の動詞(句)の場合には、意味的に不自然でない限り、名詞句を修飾すると述べている[3]。

さらに、高見・久野(2006)の研究では、名詞句の性質によって「たくさん」が修飾する項に違いがあることを指摘している(3)。

---

[1] 本発表は、他動詞文中に生起する「たくさん」に主眼を置いているため、詳細な説明は割愛する。

[2] 高見・久野(2006)では、量副詞「いっぱい」についても言及している。

[3] 影山（1993)、岸本(2003, 2005)、高見・久野(2006)では、「たくさん」が動詞句を修飾する場合を「副詞的用法」、名詞句を修飾する場合を「数量詞的用法」としている。

(3)　a.　教え子が東大をたくさん受験した。
　　b.　日本人がエンパイア・ステートメントビルディングをいっぱい訪れた。
（高見・久野 2006: 135 一部改変）

(3)の例は、影山や岸本の動詞に着目した分析では、他動詞文に生起する「たくさん」は目的語を修飾すると分類されるはずである。しかし、高見・久野は(3)の「たくさん」が主語の「教え子」や「日本人」の量を修飾している。その理由として、目的語名詞句は特定の指示物を表し、「たくさん/いっぱい」によって修飾することができないため、主語名詞句を修飾したと述べている。

つまり、動詞がもつ性質に加え、目的語名詞がもつ性質によっても、「たくさん」の修飾できる要素が決まると考えられる。

3.数量詞と名詞句の意味に関する研究

これまでの分析では、動詞句がもつ構造、機能について幅広く分析が行われた。しかし、それでもなお説明できない例が示された。本発表では、名詞句と「たくさん」の関係についてさらに詳細な分析を試みるため、量副詞が持つ数量詞的な用法に着目した。

川添(1996)によると、数量詞が生起する 3 つの形式（「量詞ノ NP」、「NP＋数量詞」、「遊離数量詞」）は名詞のもつ性質によって意味が異なることを明らかにした。川添は 3 つの観点から分析を行っている。

(4)　a.　指示的用法と属性記述的用法に関する点
　　b.　分配的解釈と集合的解釈に関する点
　　c.　数量詞類中の分類詞と名詞句のカテゴリーが常に一致するかという点[4]

(4a)の名詞句が指示的に使われるか属性記述的に使われるかについては、高見・久野が分析をしているように、名詞句が特定の人物などを想起させるかどうかで文章の容認性が異なる。(4b)の名詞句が分配的に解釈されるか集合的に解釈されるかについて、川添(1996)の例文を引用し、説明する(5)。

(5)　a.　10 年ぶりに 6 人の家族が顔を合わせた。
　　b.　10 年ぶりに家族 6 人が顔を合わせた。
（川添 1996: 58）

川添によると、(5a)は「6 人の家族」が家族の構成員それぞれを指す「分配的な解釈」であ

[4] 本発表では、類別詞としての機能については言及をしないため説明を割愛する。

るのに対し、(5b)は「家族 6 人」が家族全体を指す「集合的な解釈」であると述べている。名詞句の集合的な解釈と分配的な解釈を川添(1996)では(6)のように定義している。

(6) a. 集合的な解釈：述語が名詞句によってあらわされる複数のものの集合全体について述べていると解釈される場合
b. 分配的な解釈：複数のもの(の集合)を表す名詞句 が主語(または目的語)にあって、述語がその名詞句によって表される複数のものの中の各個体について何かを述べていると解釈される場合

(川添 1996: 63)

本発表では、数量詞と同様の振る舞いをする量副詞[5]とそれに修飾される名詞句との関係が構造に影響を与えていると考え、川添の分析をもとに、名詞句の 2 つの意味解釈が「たくさん」の修飾に与える影響を分析したい。

4.分析

他動詞文に生起する「たくさん」が修飾する要素と名詞句の意味解釈について分析を行う。本発表で対象としているのは、他動詞文であることから、自他動詞の区別をしていない高見・久野（2006）が用いた動詞 4 分類を利用する。

まず、(7)の「教えた」は、ある動作の後に結果/終了を表す達成動詞であり、主語や目的語の数量が多いことを表す（高見・久野 同)。

(7) a. 先生が英語をたくさん教えた
b. 友達が秘密をたくさん教えた
c. 母が料理をたくさん教えた

(7a)はたくさんの英語と解釈するよりも、教えた時間がたくさんであったと解釈したほうが、容認性が上がると考える。一方で、 (7b-c)の「たくさん」は目的語名詞句の「秘密」、「料理」の量を修飾し、たくさんの秘密、たくさんの料理という解釈が可能である。一方で、(7a)と(7b-d)の違いは、修飾される名詞句が集合的な解釈か分配的な解釈かによるものであると考える。(7a)の「英語」は、英語の学習内容に含まれる単語や文法などといった個別の事象を考慮しないので、集合的な解釈をするほうが自然であると考える[6]。

つづいて、継続可能な活動動詞に含まれる「読んだ」について例を示す(8)。高見・久野

[5] 高見・久野(2006)で述べられている

[6] 「英単語」や「英語の文法」といった個別の事象を考慮した場合には、分配的な解釈になり、たくさんによって修飾することが可能になる

(2006)では、活動動詞は「目的語名詞句」を修飾すると述べられている。

(8) a. 彼女は本をたくさん読んだ
b. 彼は新聞たくさん読んだ
c. 友人は英語をたくさん読んだ

(8a-c)の場合、「たくさん」はそれぞれ目的語名詞句「本」「新聞」を意味的に修飾することができる。一方で、(7a)と同様に、(8c)の「英語」も具体的な事象を指すことができない[7]修飾することができないため、「読んだ」という動詞句を修飾する。先ほどの(7)と同様に、名詞句が集合的な解釈をする場合には、「たくさん」が修飾することができず、分配的な解釈が可能な場合には「たくさん」が修飾することができる。

次に、状態動詞に分類されている「見た」について、例を示す。

(9) a. 私は映画をたくさん見た
b. 彼は写真をたくさん見た
c. 子供たちは動物をたくさん見た

(9a-c)では、「たくさん」は「映画」「写真」「動物」を意味的に修飾している。これらの名詞句は分配的な解釈が可能である。(7)、(8)と同様に、「たくさん」は分配的な解釈が可能な名詞句を修飾することが観察される。

最後に、結果が瞬時に生じることを表す到達動詞について、例を示す。

(10) a. 野球部員はボールをたくさん打った
b. 彼は釘をたくさん打った
c. 子供たちは将棋をたくさん打った

(10a-c)では、「たくさん」は「ボール」「釘」を意味的に修飾している。これらの名詞句は分配的な解釈が可能である。しかし、(10c)については「将棋」を集合的に解釈していることから、「たくさんの将棋」という解釈は容認性が下がると感じられる。

5.まとめ

以上の観察の結果をまとめると表 3 のようになり、(10)について言えるのではないかと考える。

---

[7] 文脈に依存することから、英語で書かれた文章や新聞の記事などの個別事象にすると修飾することができると考えられる。

表 3: 本発表の結果と先行研究の結果

	分配的な解釈 （目的語名詞句）	集合的な解釈 （目的語名詞句）	高見・久野(2006) による分析
活動動詞	名詞句	動詞句	動詞句
状態動詞			名詞句
到達動詞			名詞句
達成動詞			名詞句

（10） 他動詞文で動詞の直前に生起する「たくさん」は、「分配的な解釈」可能な名詞句を修飾する

6.おわりに

本発表では、他動詞文に生起する「たくさん」について、目的語名詞句の解釈が分配的であった場合には名詞句を修飾し、目的語名詞句の解釈が集合的であった場合には動詞句を修飾することを観察した。先行研究では、動詞に注目し、非対格仮説や Vender(1967)の「動詞の意味分類」の枠組みで分析することにより、量副詞と被修飾項の関係について理論的な示唆を得ている。しかし、他動詞文に生起する「たくさん」が修飾する要素については動詞だけでは説明できない例があった。そこで、名詞句に注目し、その解釈の違いが「たくさん」の修飾する要素に影響を与えているという事実について分析した。

しかし、本発表では名詞句の解釈の違いについて述べたものの、川添(1996)で挙げられている指示的用法と属性記述的用法に関する点について言及するに至っていない。なぜ、そのような意味解釈の違いが被修飾要素に違いをもたらすのかについては今後さらに考えなければならない課題である。

【参考文献】

影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
川添愛(1996)「日本語の数量詞の統語的位置と意味との相関」『九州大学言語研究室報告』17, pp.47-65
岸本秀樹（2003）「生成文法の視点から見た日本語」『日本語学』22, pp.40-50
岸本秀樹（2005）『統語構造と文法関係』くろしお出版
高見健一・久野暲（2006）『日本語機能的構文研究』大修館書店
David, Dowty (1979) Word Meaning and Montague Grammar. Dordrecht: Reidel.
Vendler, Zeno (1967) *Linguistics and Philosophy*. Ithaca: Cornell University Press.

現代日本語における副詞「わざわざ」の意味と用法
―「せっかく」との比較を中心に―

許　燕（名古屋大学大学院生）

１．研究目的

本発表は、副詞「せっかく」の＜意志性＞を考察する研究の一環として、典型的な意志副詞である「わざわざ」との比較を通じて、両副詞の意味と用法の考察を目的とする。

２．先行研究と本発表の立場

「せっかく」と「わざわざ」を比較した先行研究は乏しく、ここでは河原崎（1976）と工藤（1982）を取りあげる。河原崎（1976）は、主に「わざわざ」と「せっかく」の置き換え有無に着目して記述している。「せっかく」を連体化した「せっかくの」や、決まり文句の「せっかくですが、せっかくですから」も「わざわざ」に変えることができないと指摘している（1976：88）。また、「せっかく」は、従属節と「連接して陳述部までその意義内容を限定」するのに対して、「わざわざ」はその「行為」のみを連用成分として限定すると述べている（1976：89）。例えば、下記の「せっかく」は「失礼致しました」を「予想して発せられる」一方で、「わざわざ」は「おいでくださる」までしか作用しないとしている。

(1) せっかくおいでくださいましたのに、おかまいできず失礼致しました。
(2) わざわざおいでくださいましたのに、おかまいできず失礼致しました。

このように、河原崎（1976）では「せっかく」と「わざわざ」の置き換え可否のみを減少したに過ぎないと考えられる。これに対して、工藤（1982）では「せっかく」を「条件－接続の叙法」の下位区分である「譲歩～理由」の副詞であるとし、「評価性をあわせもった条件的叙法副詞」であると位置づけている。また、「わざわざ」は「希望・当為的な叙法」の「意図」（1982［2016：13］）に位置付けるにとどまっている。

３．研究方法

本発表では、「せっかく」と「わざわざ」の意味と用法を、その実証研究を通して考察する。ここでは、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』を活用し、現代日本語のおける「せっかく」と「わざわざ」の意味と用法を分析する。

具体的には、「せっかく」の用例採集において検索キーを語彙素「折角」に設定して3331 例を採集した。そこから目視により、翻訳作品 133 例、近代の使用例 17 例、非副詞の例 6 例の計 156 例を除いた 3175 例を研究対象とした。なお、本発表では記述の便宜上、「せっかく」の表記（「せっかく」「せつかく」「折角」「節角」「セッカク」）を「せっかく」に統一した。ただし、直接引用や実例は原文通りに記した。

「わざわざ」においても同様に、検索キーを語彙素「態々」に設定して採集した 2719 例

から目視により翻訳作品 244 例、近代の使用例 12 例の計 256 例を除いた 2463 例を研究対象とした。「わざわざ」の表記においても、(「わざわざ」「態々」「ワザワザ」「わざ／＼」)を「わざわざ」に統一し、直接引用や実例は原文通りに記した。

なお、本発表では例文における「せっかく」および「わざわざ」を＿＿、逆接関係を＝＝、順接関係を＿＿、被修飾名詞を□をもって表記する。

４．分析

本発表では、許（2020）に則って「せっかく」と「わざわざ」の用法分類を行った。以下は、「せっかく」の用法分類とその用例である。

＜副詞用法＞：下記の(3)(4)は連用修飾関係、(5)(6)は連体修飾関係の例である。

(3) せっかくここまで調査したのに、途中でやめてしまった。(作例)

(4) せっかくここまで調査したのだから、もう少し続けたほうがいいんじゃないか。(作例)

(5) せっかくここまでやってきた調査も途中でやめてしまった。(作例)

(6) せっかくここまでやってきた調査をもう少し続けたほうがいいんじゃないか。(作例)

＜連体用法＞：「せっかくの＋N（名詞およびそれに準ずる形式)」

(7) せっかくの調査も途中でやめてしまった。(作例)

(8) せっかくの調査をもう少し続けたほうがいいんじゃないか。(作例)

＜擬似述語用法＞：主語が取れない述語であるという認識からの名づけである。

(9) せっかくだが、調査は途中でやめてしまった。(作例)

(10) せっかくだから、もう少し調査を続けたほうがいいんじゃないか。(作例)

次の表１は上記の分類をもとに用例を分析し、用法ごとにまとめた「せっかく」と「わざわざ」の表である。下記の「わざわざ」における「圧縮用法」とは、「わざわざ」が指示している行為が、「わざわざ」の一語に吸収もしくは前後の文脈によって表わされていることを指す。

表１　「せっかく」と「わざわざ」の用法ごとの用例数

副詞	せっかく			わざわざ		
用法	副詞用法	連体用法	擬似述語用法	副詞用法	連体用法	圧縮用法
使用形式	せっかく～Vル/タのに/のだから、～せっかく～Vル/タ N 助詞、～	せっかくの N 助詞～	せっかくだが/だから～、	わざわざ～わたわざと～わざわざでも～わざわざって～	わざわざの N、礼／詫び	わざわざ～礼/詫び
用例数	2092	795	288	2425	5	33
総計	3175			2463		

５．考察

本節では、４節の分類に基づいて「せっかく」と「わざわざ」の意味と用法を考察し、明らかになった点について述べる。

5.1　意志性

「せっかく」は意志的行為と非意志の状態のどちらも表しうるが、「わざわざ」は典型的な意志副詞であるがために意志性のない事柄に関しては修飾しない特徴がある。これは、「わざわざ」が用いられている文中に「ために」や移動動詞を従わせて目的を表す「に」との共存率が高いことからも明らかである。

(11) ミューラー教師は、僕にある説を耳打ちした。「ローラント君。もしかしたら、シュライヒャー伯爵は、わざわざわしらを歓待する**ために**、この農家を誰かから買い取ったんじゃないかな」しかし、僕はそう思わなかった。たったそれだけのことに家を買うなんて、金をドブに捨てるようなものだからだ。（二階堂黎人『人狼城の恐怖』）

(12) しかし，そのときゼネラルエレクトリック社の人が「どれぐらいの効率か」とわざわざ聞き**に**きたのですが，私たちは作ったばかりで喜んで発表してしまったものですから，あまり測っていなかったのです。（西澤潤一『半導体のおはなし』）

5.2　評価性

「わざわざ」は副詞用法以外の用例が圧倒的に少数であることから、「せっかく」に比べ行為を伴う意志性が強く評価性（余計な・むだな）は弱いと考えられる。「わざわざ」の連体用法の用例は全 2468 例中 5 例と極わずかだった。これに対して「せっかくの」(14) は 795 例と全用例の 25.04%を占めている。下記の(13)のような「わざわざの N」の用例には、他に「おこし、電話、御来向」などいずれも動作性の意味を強く帯びている動作性名詞であった。

(13) 新太郎と万造が着いてすぐに、輔が到着して桂井老が入口の幕を落とす。それに促されたように、常が丁寧に頭を下げた。「今夜は、皆さまをお呼びたてして申しわけございません。わざわざのお運び、ありがとう存じます。」言って常は、やんわりと微笑う。（小野不由美『東京異聞』）

(14) 是は駄目だと、折角の図面を早速取り崩す。（佐渡谷重信『漱石と世紀末芸術』）

また、「わざわざ」の圧縮用法は 33 例（1.34%）と極少数であったが、「せっかくだが／だから」のような擬似述語用法は 288 例（9.07%）と、相当な割合で「わざわざ」を上回っていた。つまり、動詞述語を伴う副詞用法より、動詞を伴わない連体用法や擬似述語用法のほうがより評価的であると言えよう。

(15) 「ああ、このおばさんは、われわれの自転車をとどけにきてくれたんだよ。ありがとう。どうも、わざわざ、ごくろうだったねえ。」「われわれの自転車？」キラップ女史は、かなきり声を出して、「ヤットカさん、あんたの赤い自転車の運命が、たいへん

だよ！」気を失っていたヤットカじいさんも、「赤い自転車」の一言で、われにかえって、とびあがりました。(福永令三『クレヨン王国月のたまご』)

(16)「それ、どういう意味だ？　断る気なのか、ねえちゃん」　「あたりまえでしょ。おねえちゃん、モテモテなのよ。なんで、わざわざあんな…。なんか、おにいさん、勝手に舞い上がってるみたいだけど、もともとおねえちゃんはお見合いなんかで結婚する気もなかったんだし、まあ、百億円積まれても無理ね。ム・リ・ッ」　「ふ、ふざけんな！」純平は、思わず食堂のテーブルを叩いた。(野島伸司『101 回目のプロポーズ』)

(17)「立派というほどではありません。専任は、ぼく一人みたいなものですから」「それにしても、比留間くん事件の解明のために、わざわざ東京からですか」「比留間さんが、社内の本流から外れたことが、今回の事件を解明する、一つの鍵になっているような気がしたもので」「それで、ぼくを…。まあ、お座りください」(金久保茂樹『長崎・京都、復讐の殺人ルート』)

5.3　文末の分析的形式

「わざわざ」は、「てくれる、てもらう、てやる、てあげる、ていただく、お/ご〜いただく/〜くださる」のような授受表現や、当為を表す「なければならない」のような形式と共起しやすいことが分かった。これは、「わざわざ」が意志性が強く、副詞用法の用例が大多数を占めている原因にもなる。

(18)いや、常多君が、カルギルで、カルシャ村の人に数日たったら行くと言っていたのでその男の人が伝えてくれたのだろう。それにしてもわざわざ迎えに来てくれるとは親切なことだ。カルシャ村からこのトンリ村までは、徒歩で四時間の距離なのだ。(佐藤健『マンダラ探険』)

(19)私の顔についている絆創膏や唇の横の傷に気づいたはずだが、彼はさりげなく頭を下げて向かい側に座った。「先日の追加発注の見積り書をお持ちしました」私は鞄から書類を出した。「わざわざお持ちいただかなくてもよろしかったのに」丹野は恐縮したように受け取る。(小杉健治『それぞれの断崖』)

(20)自分でもいちばん象徴的なのが、国語のテストのときに漢字に振り仮名を振りなさいという問題が出る。どうして読めるものにわざわざ平仮名で説明をつけなければいけないのかなと大まじめに考えてしまう。(髙橋克彦『小説家』)

5.4　従属節の述語の制限

「せっかく」の場合、主に動詞述語文であるが、形容詞述語文や名詞述語文の用例も一定数存在し従属節の述語に制限がないと考えられる。しかし、意志性の高い「わざわざ」はほぼ動詞述語文を取っているが、まれに「V たい」の例も見られた(例 21)。

(21)なぜ、わざわざ時間をかけて歩いて帰りたいんです？（井田真木子『小蓮の恋人』)

5.5 文末モダリティの制限

意志的行為のあり方を説明する「わざわざ」は、主文末のモダリティが命令文になれないという制限がある。一方で、「せっかく」は従属節と主節の関係が順接の場合、命令文や禁止文との親和性が高い(例 22)。また、「せっかく」と「わざわざ」は、疑問文には制限を受けず用いられている。

(22)「(中略) せっかく来たんだから、こいつに手錠をかけさせて、新宿警察まで運ばせてやってくれ」(城戸礼『爆裂スパーク刑事』)

5.6 用いられる構文環境

「せっかく」は複文構造にしか用いられないが、「わざわざ」は複文のみならず単文構造にも使用される。次の(23)は、単文構造に用いれる「わざわざ」の用例である。

(23)「あなた達が着てくれなかったら、私、困るわ。あなた達に似合いそうな色をわざわざ選んだのよ」と言いなから、久美は幸子を見て「それとも、詐欺師にはなれないかしら?」と言い足した。(竹山正子『逆転の序曲』)

6. まとめと今後の課題

これまで「せっかく」と「わざわざ」の意味と用法について考察してきた。ここでは、両副詞の性質における特徴を次のようにまとめる。

(ア)意志性:「せっかく」は意志的行為と非意志の状態のどちらにも使えるが、「わざわざ」は意志的行為にのみ用いられる。

(イ)評価性:「わざわざ」は「せっかく」に比べ行為を伴う意志性が強く、評価性が弱い。

(ウ)文末の分析的形式:「わざわざ」は授受表現や当為を表す形式と共起しやすいが、「せっかく」にはこのような特徴が見られなかった。

(エ)従属節の述語の制限:「せっかく」は主として動詞述語文が用いられるが、名詞述語文や形容詞述語文をとる用例も一部見られた。一方で、「わざわざ」はほぼ動詞述語文であり、まれに「V たい」の形式が考察できた。

(オ)文末モダリティの制限:「せっかく」は、従属節と主節の関係が順接の場合、命令や勧誘、および禁止文との親和性が高い。しかし、「わざわざ」にはこのような文末のモダリティを制限する影響力は認められなかった。

(カ)用いられる構文環境:「せっかく」は複文環境にしか用いられないが、「わざわざ」は単文にも複文にも制限なく使われる特徴がある。

以上を踏まえ、本発表では「せっかく」と「わざわざ」の構文構造を次のようにまとめる。

「せっかく」の構文構造

構造1:せっかく+意志/非意志動詞・形容詞・名詞+逆接関係、叙述/疑問
構造2:せっかく+意志/非意志動詞・形容詞・名詞+順接関係、命令/勧誘/禁止/疑問

「わざわざ」の構文構造

構造１：わざわざ　＋意志動詞の叙述／疑問形【単文構造】
構造２：わざわざ　＋意志動詞、　叙述／疑問【複文構造】

今後は、「せっかく」と「わざわざ」と共起する述語を分類し、より精密に構文構造を分析し、文末のモダリティを考察したい。

参考文献

石神照雄（1982）「様相副詞『セッカク』と構文構造」『信州大学教養部紀要』16、pp.1-13／林禔映（2016）「副詞『せっかく』の史的変遷」『国語と国文学』93-8、東京大学国語国文会、53-68／呉珠熙（2002）「『せっかく』の意味と用法―『前提』との関わりを中心に―」『日本語と日本文学』(35)、15-30、筑波大学国語国文学会／河原崎幹夫（1976）「副詞の導入の具体的研究 2『せっかく』(付『わざわざ』)」『日本語学校論集』3、79-90／許燕（2020）「現代日本語における副詞『せっかく』の意味・機能をめぐって」『桜美林論考.言語文化研究』11、73-93／許燕（2021）「現代日本語における『せっかくの』の意味と用法」桜美林大学『人文学研究』１、57-71／工藤浩（1982）「叙法副詞の意味と機能―その記述方法をもとめて―」国立国語研究所『研究報告集 3』〔再録：工藤浩（2016）『副詞と文』ひつじ書房、3-57〕／工藤浩（1997）「評価成分をめぐって」川端善明・仁田義雄編『日本語文法　体系と方法』〔再録：工藤浩（2016）『副詞と文』ひつじ書房、59-80〕／小矢野哲夫（1996）「評価のモダリティ副詞の文章における出現条件―『幸い』と『せっかくを例にして―」『日本語・日本文化研究』6　大阪外国語大学日本語講座、1-16／野田春美（1997）『の（だ）の機能』日本語研究叢書 9、くろしお出版／蓮沼昭子（1987）「副詞の語法と社会通念―『せっかく』と『さすがに』を例として」小泉保教授還暦記念論文集編集委員会編『言語学の視界』大学書林、203-222／前田直子（2009）『日本語の複文―条件文と原因・理由文の記述的研究―』くろしお出版／宮地裕（1983）「二文の順接・逆接」『日本語学』12 月号　明治書院、pp.2-12／渡辺実（1980）「見越しの評価『せっかく』をめぐって―国語学から言語学へ―」『月刊言語』9-2〔再録：渡辺実（2002）『国語意味論』塙書房、317-332〕／渡辺実（2001）『さすが日本語！』筑摩書房

言語資料

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ』（コア・非コアを含む）中納言 2.4.5 データバージョン 2021.03

謝辞

本発表は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2125 の財政支援を受けたものです。この場を借りて「東海国立大学機構融合フロンティア次世代研究事業」に御礼申し上げます。

形容詞〈い足す言葉〉の使用実態とその動向について
―多いい・美味しいくて・正しいかった―

浅川 哲也（東京都立大学）

0. はじめに

マスメディア上や、日常生活で用いられる東京語の話し言葉の中に、「多いい。」・「美味しいくて、」・「正しいかった。」のような、規範的な文法を基準としてそこから逸脱した形容詞活用形の変異を聞くことがある。このような形容詞の語幹に「い」を添加したように見える変異は、近年のインターネット上のテキストなどで散見されるだけではなく、刊行された出版物でもその例を確認することができる。

(1)声が出ないくなるくらい怖かった（NHK総合「所さん!大変ですよ」2020年3月3日放送）
(2)【野毛飲み屋】立ち飲み超おすすめ！女子が好きなもの多いくて、ついつい(YouTube・はめまし！)
https://www.youtube.com/watch?v=k4CphCgDrBI
(3)＃美味しいかった(インスタグラム) https://www.instagram.com/explore/tags/美味しいかった/?hl=ja
(4)やっぱり奥多摩は遠いい≡(YAMAP・2022年2月3日)https://yamap.com/activities/15512160
(5)ヤスイイね（Amazon.co.jpが提供する食品・飲料などに特化したオンラインショップ）
https://www.amazon.co.jp/ヤスイイね-食品・飲料/b?ie=UTF8&node=2452994051
(6)不要な日付や時刻については、表示形式を指定すれば、セルに表示しないくていいわけです。（新居雅行『Excelのカラクリ』2003年）

本発表では、ク活用形容詞（形容詞型の活用をする助動詞「ない・たい」も含む）の各活用形の活用語尾が「―いから／―いかろ・―いく／―いかっ・―いい・―いい・―いけれ・○」となるもの、また、シク活用形容詞の各活用形の活用語尾が「―しいから／―しいかろ・―しいく／―しいかっ・―しいい・―しいい・―しいけれ・○」となる形容詞の変種に「形容詞〈い足す言葉〉」という名称を付して調査の対象とする。比較的改まった場面での話し言葉や、書き言葉における「形容詞〈い足す言葉〉」について、各種のコーパスを主な資料として、「形容詞〈い足す言葉〉」の使用実態を明らかにするとともに、「形容詞〈い足す言葉〉」が発生した原因と、それが共通語における形容詞活用体系にどのような影響を与える可能性があるか、また、形容詞活用形の変遷の中でどのように位置づけられる可能性があるかなど、その動向について検討することを目的とする。調査方法としては、主に「現代日本語書き言葉均衡コーパス検索システム（BCCWJ）」・「国語研日本語話し言葉コーパス（CSJ）」・「名大会話コーパス(NUCC)」・「国会会議録検索システム（以下、「国会会議録」）」を調査資料とし、「形容詞〈い足す言葉〉」をク活用とシク活用とに分け、それぞれの語形での文字列検索を行った。

1.「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）」にある形容詞〈い足す言葉〉

BCCWJのレジスター設定と年代設定とを「すべて」に設定して、「形容詞〈い足す言葉〉」を活用形の語形別に文字列検索し、そこから当該の用例を抽出した。「形容詞〈い足す言葉〉」のような逸脱例は「言いよどみ」あるいは「フィラー」として任意に処理されており、文字列検索に拠らないと抽出することが難しい。また、書籍・雑誌など刊行された印刷物を出典とするデータは入力時のエラーの可能性があるので、検索で抽出された用例は可能な範囲で底本の本文を確認した（注1）。「形容詞〈い足す言葉〉」の形容詞ク活用の終止連体形は「―いい」であり、文字列検索での用例抽出が困難なので、「『日本語教育のための基本語彙調査』データ」（国立国語研究所）のデータ中にある「日本語教育語彙表」のク活用形容詞の語彙を一部訂正し、原則としてこの語彙の範囲で検索の対象とした（注2）。結果は【表1-1】のとおりである。「検索数」は文字列検索による単純な検索数値であるが、これを目視によってスクリーニングし、「形容詞〈い足す言葉〉」の実例を抽出した。

形容詞〈い足す言葉〉は、ク活用形容詞では74例、シク活用形容詞では37例、合計111例が抽出された。このうち、書籍など出版物の本文をテキストデータ化したものは9件であり、それ以外の102例は、口語的性格の強い「Yahoo!ブログ・Yahoo!知恵袋」のテキストデータが出典である。２回以上出現した形容詞を出現数の順に整理したものが【表1-2】である。なお、出現数が１回のみの語は、ク活用では「赤い、いい、うるさい、からい、すごい、切ない、小さい、つらい、広い、深い、細い、まずい、やばい、やわらかい、若い」、シク活用では「怪しい、慌ただしい、うらやましい、輝かしい、悔しい、寂しい、楽しい、ほほえましい、難しい、めずらしい、よろしい」である。BCCWJでの「形容詞〈い足す言葉〉」の頻出語はク活用形容詞では「多い」が最も多く、「ない（助動詞）」・「濃い」がこれに次ぐ。発生頻度上位の語を見ると語幹の拍数が1拍・2拍のク活用形容詞が多い。シク活用形容詞では「おいしい」が比較的多

【表１－１　BCCWJにある形容詞〈い足す言葉〉】

	検索数	実例		検索数	実例
ーいからず	0	0	ーしいからず	0	0
ーいかろう	0	0	ーしいかろう	0	0
ーいく	2224	24	ーしいく	311	11
ーいかっ	500	2	ーしいかっ	25	15
ーいくな	485	7	ーしいくな	2	2
ーいい	228	36	ーしいい	214	8
ーいければ	98	5	ーしいければ	1	1
計	3535	74	計	553	37

【表１－２　BCCWJにある形容詞〈い足す言葉〉頻出語】

ク活用	出現数	シク活用	出現数
多い	17	おいしい	11
ない（助動詞）	15	忙しい	4
濃い	10	ほしい	3
遠い	4	悲しい	2
よい	3	おかしい	2
うまい	3	すさまじい	2
大きい	3	詳しい	2
かわいい	2		
ない（形容詞）	2		

い。用例（7）～(9)は出版された書籍の本文上で実例と確認できたものである。用例(8)は口述筆記の活字化ではないかと思われる。用例(9)は1935年以前に山形県尋常小学校3年生が書いた作文から引用した例で方言使用である可能性がある。

(7) 発赤60mm以上の者がこの程度(あるいはそれ以上)認められることは普通であると認識していないければ，不必要に化学予防が行われ，騒ぎが大きくなる。心すべきことである。(青木正和『日常診療・業務に役立つ結核病学』2002年)

(8) どうしてパチンコやマージャンが趣味としてふさわしくないのか？　楽しいければそれだけで十分な趣味ではないかと思う人もいるでしょうが、…(清水國明『直角死』2005年)

(9) お母さんにお父さんが「そのすみ、けすえべつなだ」といった。それをきいて「こだなすみゆぐないちゃ」といった。はじめばかりよいくて、つかってみるとだんだんよくない。(『村山俊太郎　生活綴方と教師の仕事』2004年)

(10) お店に寄ります。しかも私“雨女”の様で雨の日が多いいです。トホホなのでここは便利です。駅から濡れずに行けます。(Yahoo!ブログ・2008年)

(11) なんでも「アリ」じゃないですか、、、その中でパーソナリティーが濃ければ濃いい方が、成立したり、或いは、グロテスクな内容でもサラッと流せたり。。(Yahoo!ブログ・2008年)

(12) 東京都～宮城県です。式は山形県です。遠いいと思うのですが。子供が心配です。誰か教えて下さい。(Yahoo!知恵袋・2005年)

(13) フランスパンが固くなってしまった場合、おいしいくなる調理法とかご存知ですか？(Yahoo!知恵袋・2005年)

(14) お庭に咲いている食用のお花のエディブルフラワーを浮かべました　冷たくておいしいかったのかな(Yahoo!ブログ・2008年)

２，国語研日本語話し言葉コーパス（CSJ）にある形容詞〈い足す言葉〉

「国語研日本語話し言葉コーパス（CSJ）」で、「形容詞〈い足す言葉〉」を活用形の語形別に文字列検索し、そこから当該の用例を目視によって抽出した。それを整理したものが【表2-1】である。ク活用形容詞では203例、シク活用形容詞では68例である。２回以上出現した形容詞を出現数の順に【表2-2】に整理した。なお、出現数が１回のみの語は、ク活用では「明るい、薄い、冷たい、遠い、太い、弱い、悪い、偉い、幼い、興味深い、くさい、幅広い、深い、まずい、丸い、やわらかい、重たい、小高い、情けない」、シク活用では「危なっかしい、忙しい、嬉しい、恐ろしい、おびただしい、輝かしい、詳しい、望ましい、貧しい、易しい、ややこしい」である。「形容詞〈い足す言葉〉」の頻出語はク活用形容詞では「ない（助動詞）」が最も多く、「ない（形容詞）」がこれに次ぐ。発生頻度上位の語を見ると語幹の拍数が１拍・２拍のク活用形容詞が多い。シク活用形容詞の「形容詞〈い足す言葉〉」は「素晴らしい・楽しい」が最も多く、「難しい」がこれに次ぐ。【表2-3】は抽出された「形容詞〈い足す言葉〉」の使用者を男女ごとに年代別に整理したものである。CSJで調査した範囲では、「形容詞〈い足す言葉〉」の使用者は必ずしも年代的に若い世代に偏るものではなく、年齢55歳以上が使用者のほぼ半数を占めている。用例(15)「素晴らしいい人」、用例(16)「楽しいいー仕事」、用例(17)「明るいいー町作り」の「いー」はCSJでは「フィラー」または「言いよどみ」として処理されており、音声上では「素晴らしい良い人」・「楽しい良い仕事」・「明るい良い町作り」ではないと判断した。用例(23)の「楽しいかっ」は「言いよどみ」で処理されているが当該の用例とした。

(15) あの一地方の新聞にあの一随筆で載せたのなんか読みましても本当にあのーん素晴らしいい人なんですもうん本当にどうしてこうにこにこしてられるのかなって思うような（S07F0966、女 60-64 歳、1935-39 年生）

(16)そのお一何て言いますかあ楽な仕事ですねだからまま非常にま楽しいい一仕事な訳なんですがでまあーまずうパリから入りましてんでパリはあー（S01M0764、男65-69歳、1930-34年生）
(17)いつもそういうものに参加をしてるんですけどもえ一絶えずものを考え絶えず明るいい一町作りをしていこうというのを着々とやってるのがえ一窺えるような気がしております（S03M1346、男55-59歳、1940-44年生）
(18)検査などで項目を減らしたいという時にえーえできるだけ多いい情報がある方がいいんですけれども実施上の観点から言うと変数うーえ一質問の項目などは少ない方がいいと（A07M0857、男40-44歳、1955-59年生）
(19)学校上がるくらいになってやっとえ一成城の片隅に入れてもらったというようなまーあの一駅から遠いい一場所だったんですけれどもえーとですね今つぉその昔を思い出すとですねえー（S00F1673、女35-39歳、1960-64年生）
(20)英語のようなえーま敬語がまないと言いますか日本語のような形ではないい言語もですねえ同様にえー社会的規範ですとかあるいはま一般的な意味での言語使用に（A13F0984、女40-44歳、1955-59年生）
(21)私達から見ると日本にいるから日本語しか必要ないし英語勉強する意識はないくあの一必要はないし高いお金払って何で英語う結局ものにならないんですよ（S04F0792、女50-54歳、1950-54年生）
(22)何年前のことも覚えてますしで勿論そうやって覚えてないとあーの一今頃はあそこの木がおいしいくおいしい実がなってるっていうことも記憶してないと行動範囲が広いもので（S11M0767、男50-54歳、1945-49年生）
(23)私自転車から落とされたりとかして凄く大変だったんですけど凄い今思い出しても楽しいかっ楽しいお花見でしたで気になるその後の二人のことなんですけどえっとー（S01F0204、女20-24歳、1975-79年生）

【表２－１　CSJにある形容詞〈い足す言葉〉】

	検索数	実例		検索数	実例
ーいからず	4	0	ーしいからず	0	0
ーいかろう	0	0	ーしいかろう	0	0
ーいく	70	16	ーしいく	4	1
ーいかっ	689	0	ーしいかっ	12	1
ーいくな	18	0	ーしいくな	18	0
ーいい	368	187	ーしいい	91	66
ーいければ	27	0	ーしいければ	0	0
計	1176	203	計	125	68

【表２－２　CSJにある形容詞〈い足す言葉〉頻出語】

ク活用	出現数			シク活用	出現数
ない（助動詞）	53	うまい	3	素晴らしい	11
ない（形容詞）	16	多い	3	楽しい	10
高い	12	寒い	3	難しい	8
古い	8	少ない	3	新しい	6
良い／よい	5	強い	3	らしい	5
長い	6	細かい	3	おいしい	4
低い	6	かわいい	2	厳しい	4
若い	6	暗い	2	苦しい	3
つらい	6	細い	2	激しい	2
面白い	5	短い	2	珍しい	2
小さい	5	安い	2	正しい	2
赤い	4	四角い	2		
大きい	4	鋭い	2		
近い	4	珍しい	2		
広い	4	にくい	2		
～がたい	4				

【表２－３　CSJにある形容詞〈い足す言葉〉の使用者年代】

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	80-84歳	計
男	8	11	8	14	23	23	21	53	17	47	0	1	226
女	2	2	3	5	8	1	3	6	12	1	2	0	45
計	10	13	11	19	31	24	24	59	29	48	2	1	271
%	3.7	4.8	4.1	7.0	11.4	8.9	8.9	21.8	10.7	17.7	0.7	0.4	100.0

３，「名大会話コーパス（NUCC）」にある形容詞〈い足す言葉〉

「名大会話コーパス（NUCC）」で「形容詞〈い足す言葉〉」を活用形の語形別に文字列検索し、そこから当該の用例を目視によって抽出した。それを整理したものが【表3-1】である。「形容詞〈い足す言葉〉」を出現数の順に整理したものが【表3-2】である。NUCCでは「形容詞〈い足す言葉〉」の用例は10例で他のコーパス資料と比較すると少ない。用例数が少ないがNUCCでの用例は使用者が20～50代の女性の場合が比較的多い（10例中9例）。また、当該の発話者の出身地域（関東2、中部6、関西1、九州1）をみると、この調査範囲内では東海東山地域以西にやや使用者の偏りがみえるようである。NUCCの文字列検索で抽出できた用例を以下に挙げる。用例(24)は「良（い）いくて」の言いよどみと判断した。用例(26)の「うまいいもの」はコーパス内では「未知語」として処理されている。

(24)なんか授業の反省とかいっつも女の先生と話してるけど、内容がすごくい、いくて。うんうんうんへー。え、女の先生って？うんはね、S大でたぶん教えてるね（data117、2002年5月17日、大学の演習室、大学院の同級生、女性20代後半、群馬県前橋市出生、名古屋市居住）
(25)そこもつければいいじゃん。そのカーテン。ここ？うん。いいくない？あの絵、シンガポールで買ったやつだぜ。あ、ほんとに。うんこれかあ。（data116、2002年5月4日、大学の同級生、男性20代後

半、福岡県北九州市出生、名古屋市居住）

(26) うんうんうんうんうん、うん、うん。あ、＊＊＊か。何、またうまいいものめぐりするの？めぐり？あっ、したいね。（data080、2002 年 1 月 8 日、ケーキ屋友人、女性 20 代後半、岐阜県可児郡出生、可児郡居住）

(27) 私には見えなくて、でもＩちゃんは、パパはまあ背が高いくて、それでＩちゃんはその上に肩車してるから、すごいはっきり見えるところにいて、（data058、2001 年 12 月 7 日、喫茶店僚、女性 30 代前半、大阪府岸和田市出生、愛知県名古屋市居住）

(28) 今、いっぱいいっぱいで、私にすごい怒られてて、やらざるをえないくて、家から１歩も出られない状態って知ってて。（data026、2001 年 11 月 23 日、車の中、大学時代の友人、女性 20 代前半、静岡県島田市出生、愛知県名古屋市居住）

(29) 別にあたし、米津川、米津川の米津橋のところでやりたいくない。…あそこね、何か、すごいさびしくない？（data005、2001 年 10 月 23 日、女性 20 代前半、愛知県西尾市出生、西尾市居住）

(30) でも私、白無垢のね、うーん、綿帽子の方を１回やりたいかった。うんうんうんうんうーん。白無垢もいいよねー。うん。写真だけ撮ろう（data068、2001 年 12 月 4 日、喫茶店　、大学院の同級生、女性 20 代後半、東京都台東区出生、東京都台東区居住）

(31) かわいいよねー。なんかねー、なんて言うの。子どもって、そんなに、かわいいかったけど、そんなに好きじゃなかったけど、もうなんか、別格だよね。うん（data082、2001 年 11 月 29 日、名古屋の喫茶店、大学の同級生、女性 20 代後半、三重県鈴鹿市出生、岩手県盛岡市在住）

(32) ええー出た。それ、難しいー。すごい難しかった。難しいかった。初めてやったもん、だって、あんなの。それって、だってー。（data043、2001 年 12 月 2 日、学校、日本語教育の授業の同級生、女性 50 代、岐阜県出生、名古屋市居住）

(33) でも会社に着いちゃうと早いけどね、俺の場合。ああ、忙しいければ。パッと行ってもう何が何だかわからんうちに、１時過ぎてる（data078、2001 年 12 月 23 日、ホテル喫茶コーナー、女性 30 代前半、愛知県名古屋市出生、名古屋市居住）

【表３－１　NUCCにある形容詞〈い足す言葉〉】

	検索数	実例		検索数	実例
ーいからず	1	0	ーしいからず	0	0
ーいかろう	0	0	ーしいかろう	0	0
ーいく	19	2	ーしいく	3	0
ーいかっ	137	2	ーしいかっ	3	1
ーいくな	20	3	ーしいくな	0	0
ーいい	109	1	ーしいい	4	0
ーいければ	1	0	ーしいければ	2	1
計	287	8	計	12	2

【表３－２　NUCCにある形容詞〈い足す言葉〉頻出語】

ク活用	出現数	シク活用	出現数
いい	2	忙しい	1
たい(助動詞)	2	難しい	1
うまい	1		
ない(助動詞)	1		
高い	1		
かわいい	1		

４，「国会会議録検索システム」にある形容詞〈い足す言葉〉

「国会会議録」で、昭和 22 年（1947 年）の第１回国会から、現在（令和 4 年・2022 年）までの期間、衆参両会議、各種委員会すべての議事録において「形容詞〈い足す言葉〉」を語形別に簡易検索し、その中で当該例と確認したものが 148 例であり、次にそれらの検索結果を PDF 化された国会会議録と照会し、テキストコードの誤りや、PDF 上で確認できた誤植などの例を除外して、検索されたテキストデータと、紙仕様等の議事録原文の PDF データとが一致している 97 例を用例とした。それを整理したものが【表 4-1】である。なお、「―いく・―いい」は検索数が 70507～105824 件となるため、今回は用例抽出の対象から除外した。97 例の頻出語を上位の順に整理したものが【表 4-2】である。助動詞と形容詞の「ない」が最も多いが、【表 4-2-2】に整理したとおり、助動詞「ない」の「形容詞〈い足す言葉〉」は「～ないかった・～ないければ」、形容詞「ない」の「形容詞〈い足す言葉〉」は「ないかろう」に分担して現われる傾向がみられ、用例(34)・(35)のように「ないかろう」や「～ないければならない」のような「形容詞〈い足す言葉〉」の定型句が発生している。「国会会議録」での「形容詞〈い足す言葉〉」の出現年代をおおよそ 10 年ごとに整理すると【表 4-3】のとおりである。「国会会議録」では「形容詞〈い足す言葉〉」の使用例が昭和 25 年～54 年（1950～1979 年）に集中しており、昭和 55 年（1980 年）以降は減少傾向にある。【表 4-4】は「形容詞〈い足す言葉〉」の発話者の出生地を可能な範囲で調査し、出生地が判明した発話者の件数が２件以上ある都道府県名を件数順に整理したものである。各地域の出身者に広く使用例がみられるが、中部地方以西の出身者の使用がやや目立つ。用例(36)～(38)は前後の発言内容からみて「形容詞〈い足す言葉〉」を音声言語として発していると考えられる。用例（39）は形容動詞語幹「きれい」を形容詞のように使用し、かつ「形容詞〈い足す

【表4-1　国会会議録にある形容詞〈い足す言葉〉】

	検索数	当該例	実例		検索数	当該例	実例
ーいからず	399	0	0	ーしいからず	5	0	0
ーいかろう	86	40	28	ーしいかろう	11	9	7
ーいくて	123	6	5	ーしいくて	2	1	1
ーいく	70507	ー	ー	ーしいく	1932	11	3
ーいかった	366	22	16	ーしいかった	7	7	7
ーいくなる	123	1	0	ーしいくなる	0	0	0
ーいくなって	18	18	0	ーしいくなって	0	0	0
ーいくなった	4	1	1	ーしいくなった	0	0	0
ーいい	105824	ー	ー	ーしいい	9086	ー	ー
ーいければ	2144	30	27	ーしいければ	3	2	2
計	179594	118	77	計	11046	30	20

【表４－２　国会会議録にある形容詞〈い足す言葉〉頻

ク活用	出現数	シク活用	出現数
ない（助動詞）	32	むずかしい	10
ない（形容詞）	30	好ましい	3
多い	6	よろしい	2
濃い	2	すばらしい	2
たい	1	詳しい	1
低い	1	やかましい	1
いい	1	正しい	1
悪い	1		
きれい	1		
遠い	1		
少ない	1		

【表4－3　国会会議録形容詞〈い足す言葉〉年代別数】

年　代	用例数
昭和22～24年（1947～1949年）	7
昭和25～34年（1950～1959年）	26
昭和35～44年（1960～1969年）	28
昭和45～54年（1970～1979年）	28
昭和55～平成1年（1980～1989年）	2
平成2～11年（1990～1999年）	3
平成12～21年（2000～2009年）	1
平成22～令和1年（2010～2019年）	1
令和2年～3年（2020～2021年）	0
計	97

【表4－4　国会会議録での使用者出身地】

都道府県名ほか	件数		
東京都	7	宮城県	2
大分県	7	山形県	2
新潟県	6	茨城県	2
北海道	4	静岡県	2
青森県	4	長野県	2
鹿児島	4	岐阜県	2
栃木県	3	大阪府	2
山口県	3	奈良県	2
長崎県	3	和歌山県	2
		広島県	2
		福岡県	2

【表４－２－２　国会会議録の「ない」】

	ないかろう	ないかった	ないくなる	ないくなって	ないくなった	ないくて	ないければ	計
ない(助動詞)	1	11	0	0	0	1	19	32
ない(形容詞)	24	0	0	0	0	4	2	30

言葉〉」として用いた例である。「きれい」の語尾「い」によって誤った類推がはたらいたものと考えられる。「きれい」は形容詞ではないが逸脱例として用例数に含めた。

(34) 今少しく耕地を殖やし、一面においては農業技術を大いに研磨、琢磨して狭い土地に多量の主食がとれるようにすれば、必ずしも今のところ心配することはないのではないかろうかと考えております。（一松定吉、第1回国会　衆議院　厚生委員会　第23号　昭和22年10月16日）

(35) 殊にその内容は、設備資金等が主であります。まだいろいろ仕込をなすに必要な資金とか運轉資金等については、何かこれ以外に考えないければならないのじやないか、こういうふうに考えるのでございます。（周東英雄、第3回国会　参議院　水産委員会　第2号　昭和23年11月9日）

(36) 下請の業者が、いま言いましたように多いければ多いほど搾取するんですからね。ピンはねをする、これはあたりまえなことなんです、多いければ。そのしわ寄せが一切労働者個人に来るのはあたりまえです。（枝村要作、第73回国会　衆議院　社会労働委員会　第2号　昭和49年9月10日）

(37) 結局川の中の銅のいわゆる濃度、濃いさというものは、川の中の流れている水の量によって薄められたり、濃いくなったり、ことに渡良瀬の場合は雨の降ったあとがひどいというふうなこともございまして、（宮内宏、第61回国会　参議院　産業公害及び交通対策特別委員会　第10号 昭和44年6月6日）

(38) 税の理想からいえば、甚だ遠いいと思われるような手段を取られたことも…（森下政一：京都府出身、第1回国会 参議院 財政及び金融委員会第42号 昭和22年11月28日）

(39) それが洋風になって、大壁。大壁というのは、こんな壁です、柱が後ろに引っ込んだ。前からベニヤとかいろいろなものを張るから、値打ちが見えないんだよ。もう何でもいいんですよ。整形しておろうが、生まれつききれいかろうが、お化粧しておろうが何でもいいんだ。赤土を塗っておったっていいんだ、見えないんだから。（谷川弥一、第174回国会　衆議院　農林水産委員会　第2号　平成22年3月11日）

５，形容詞〈い足す言葉〉発生の原因とその動向

「形容詞〈い足す言葉〉」は方言使用としての例を除いて、その発生には複数の原因があると考えられる。

(A)「遠いい」などク活用形容詞の例はシク活用形容詞への類推がある。シク活用形容詞の終止連体形は「うれしい（[ureʃii]）」・「おいしい（[oiʃii]）」のように、語末に連母音［ii］または母音の長音［i:］がある。ク活用形容詞の「遠い・多い・濃い」の終止連体形は［to:i］・［o:i］・［koi］であるが、これに「い」を加えると［to:ii］・［o:ii］・［koii］となり、ク活用は語末が連母音［ii］でシク活用と同じ形式になる(注3)。

(B)「遠い・多い・高い・濃い・ない・良い」を例に挙げると東京式アクセントで複数ある形容詞のアクセントの型が「形容詞〈い足す言葉〉」によって中高型に統一されるという発音上の負担軽減がある。

「トーイ」○●●、「トーイー」○●●○　　「コイ」●○、「コイー」○●○
「オーイ」●○○、「オーイー」○●●○　　「ナイ」●○、「ナイー」○●○
「タカイ」○●○、「タカイー」○●●○　　「ヨイ」●○、「ヨイー」○●○

(C)「形容詞〈い足す言葉〉」で出現数の多いク活用形容詞の「遠い・多い・濃い・ない」などは規範的な文法ではその語幹が「とお・おお・こ・な」と2拍または1拍であるが、短い拍数の語幹を音声的に支え難くなると母音「い」を1拍添加して安定させようとする意識がはたらくのではないか。

(D) 形容詞の活用は、本活用（ク・イ）と、カリ活用（カロ・カラ・カッ・ケレ）の2つの系統から成り、また母音イとカ行音を活用語尾中に含む複雑な体系である。規範的な文法の意識が薄れると、言語の線状性によって、形容詞の活用語尾のカ行音の直前に「言いよどみ」が生じやすい。しかし、母音イを語幹に一律に添加することによって、複雑な形容詞の活用の運用上の負担が母音1拍分だけ軽減されるのである。

な・く ＞ な/い/・く
な・かった ＞ な/い/・かった
な・かろうか ＞ な/い/・かろうか
な・ければ ＞ な/い/・ければ

【表5　現代語形容詞の活用の変異の過程】

	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
(a)	多い	多	—かろ —から	—く —かっ	—い	—い	—けれ	○
(b)	多いい	多	—いかろ —いから	—いく —いかっ	—いい	—いい	—いけれ	○
(b)'	多いい	多い	—かろ —から	—く —かっ	—い	—い	—けれ	○
(c)	おいしい	おいし	—かろ —から	—く —かっ	—い	—い	—けれ	○
(d)	おいしいい	おいし	—いかろ —いから	—いく —いかっ	—いい	—い	—けれ	○
(d)'	おいしいい	おいしい	—かろ —から	—く —かっ	—い	—い	—けれ	○

共通語における規範的な形容詞の活用から逸脱した「形容詞〈い足す言葉〉」が共通語で拡大すると、形容詞の基本形自体が変化する可能性がある。これを図示すると【図1】のとおりである。(a)から(b)への変化、(c)から(d)への変化は規範的な文法からの逸脱であるが、(b)から(b)'、(c)から(c)'への推移は語幹意識の解釈の相違でしかない。形容詞終止連体形の活用語尾「い」が、形容詞の語幹に取り込まれることにより(b)'のように「多いく、多いい、多いかった、多いければ」と形容詞の語幹が「—い」の語形に統一されていくという変化が考えられる。「形容詞〈い足す言葉〉」の拡大と定着によって形容詞の語幹に「い」が添加されることになると、この影響を受ける事象として、形容詞終止形に接続する伝聞の助動詞「そうだ」と、形容詞語幹に接続する様態の助動詞「そうだ」との間の混淆がある。次例はBCCWJで「伝聞」の例として処理されているが文脈からみて「様態」と考えられる例である。

(40)最近とあるところでうどんを食べました。正直イメージとして、それほど美味しいそうとも思わなかったのですが逆に、それなりに美味しかったもんですから…（OY03_07119、Yahoo!ブログ2008年）

(41)そんな子はどんな人と結婚するんですかね！？そういう人は、優しいそうな真面目で誠実な男性と結婚して欲しいですよね。。。（OC09_13322、Yahoo!知恵袋2005年）

(注1）BCCWJで検索した抽出例で刊行物を出典とするデータは可能な範囲で底本に遡り用例の真偽を確認した。その結果、以下の抽出例は底本の本文と一致していなかったので用例数から除外した。

○だが、もともと質の悪いものばかりを射っていたので、彼が提供した純度の高いいヘロインに体がもちこたえられなかった。（LBq9_00262131308210、モー・ヘイダー(著)/小林宏明(訳)『死を啼く鳥』2002年）底本は「高い」

○行けば品川の東海禅寺に着くのは真夜中過ぎとなろう。寺には親しいい沢庵和尚が居る。（PB19_003282315015250、髙橋克彦(著)『鬼九郎五結鬼灯』2001年）底本は「親しい」

○「私は、オサキがいなけりゃ、とうに生きてはいないかった人間なんです」（PB39_005926228041800、霜島ケイ(著)『妖面伝説』2003年）底本は「いなかった」

○「役に立ちたいでしょう、結果を見てきてくださらない？」「いいいよ」そんな言い方をされても、見事なプロの技に仰天して腹も立たず、…（PB49_0005012195078610、ペニー・リチャーズ(著)/山田信子(訳)『罪深き二人』2004年）底本は「いいよ」

○字の綺麗な子が、卒論の清書を頼まれることともあったらしいい。ちょっとしたアルバイトになったわけだ。（LBs9_0023984705300、北村薫(著)『朝霧』2004年）底本は「らしい」

(注2）「日本語教育語彙表」はエクセルデータであるが、その形容詞語彙表の「上級前半」に「若い者」という誤記がある。また、「上級後半」に「おこがましいい」という形容詞〈い足す言葉〉が混入していたのでこれを訂正した。検索対象としたク活用形容詞は漢字表記など一部を修正した173語である（初級前半後半・54語、中級前半後半・67語、上級前半後半・52語）。

(注3）浅川哲也・竹部歩美(2014)『歴史的変化から理解する現代日本語文法』（おうふう）に言及がある（pp.198-200）。

【付記】本発表は2019年度科学研究費助成事業（基盤研究(C)）「日本語の先端的な動向と日本語母語話者の誤用問題に関する通時的研究」（19K00647）による研究成果の一部である。

品詞性からみるナ形容詞の分類

焦（しょう）　暁璐（ぎょうろ）（東北大学大学院生）

1. はじめに

現代日本語では、ナ形容詞（形容動詞）を一品詞として認める立場がある。しかし、実際には、ナ形容詞に所属する語の文法的ふるまいは、必ずしも全ての語で一致するわけではない。「密かな」「最適な」という2語を例にすると、「密かな」は多くの場合、次の(1)のように連用修飾語として使われる。それに対して、「最適な」はその用法がほとんどなく、むしろ(2)のように連体修飾語として使われたり、(3)のように述語として使われたりする場合が多い。

(1) 反幕府的、反新選組的とも言える活動を密かに行っていた。(PB49_00081)

(2) パラメータを変えて最適な効果を与えられるようになっています。(PB10_00109)

(3) 生育の邪魔をせずにうまく地下茎を導いてやるためには、丸い容器が最適だ。(PB56_00035)

また、意味的には、「密かな」は「動きの様態」を表すのに対して、「最適な」は「モノに対する評価」を表すというような違いも読みとれる。こうした違いは、ナ形容詞が統語的特徴や意味によってさらに下位分類できることを示している。そこで、本発表では、ナ形容詞の品詞性に着目し、ナ形容詞が統語的特徴からどのように分類できるのか、また、その分類は意味とどのように関わっているのかを明らかにする。

2. 先行研究

従来のナ形容詞の分類に関する研究として、李（2013）は、BCCWJ（短単位）で「名詞-普通名詞-形状詞可能」に所属する語を対象に、ナとノとの共起状況によって、ナ形容詞を、①ノとの共起が顕著でナとの共起は顕著ではないもの（「大量・個別」etc.）、②ナとの共起が顕著であるがノもある程度で共起するもの（「平等・異質」etc.）、③ナとの共起が中程度でノとはほとんど共起しないもの（「複雑・妙」etc.）、という3つのグループに分けている。そして、意味的には、①は「量の概念」、②は「関係概念」、③は「出来事的概念」を表すものが多いことが明らかになっている。しかし、分類基準はナとノの共起状況のみに限られており、品詞性に着目した考察としては不十分である。また、鯨井（2018）は、BCCWJ（長単位・出版書籍・固定長）で「形状詞」としての使用頻度が 50%を超えたものを対象に、ナ形容詞語幹の後接要素（ナ・ニ・ノ・デアル・ダなど）の使用状況からナ形容詞の統語機能を推測し、その偏りによってナ形容詞を、装定寄りのもの（「特殊・種々」etc.）、述定寄りのもの（「不明・不可能」etc.）、副詞寄りのもの（「自動的・非常」etc.）、名詞寄りのもの（「生・無理」etc.）、その他（「残念・大丈夫」etc.）という5類に分けている。この分類から、ナ形容詞のなかに統語機能や品詞性において偏りを持つものが存在することが窺える。しかし、ナ形容詞の各類の間の意味的な差異には触れておらず、品詞性に関する考察は十分とは言えない。その他、ナ形容詞を含めた形容詞全体を文法と意味の観点から分類した研究には、西尾（1972）、八亀（2008）、村上（2017）などがある。しかし、いずれも品詞性に着目する分類ではない。このように、ナ形容詞の分類について、これまでは一定の研究があるものの、品詞性に着目した考察は十分とはいえない。そこで、本発表では、ナ形容詞の品詞性に着目し、ナ形容詞が統語的特徴からどのように分類できるのか、その分類は意味とどのように関わっているのかを明らかにする。

3. 調査方法

本発表が対象とするナ形容詞は、BCCWJ（長単位・出版・コア）の「形状詞」と「名詞」で、

「な」が後接する語彙素のうち「の」以外の格助詞が後接する語彙素を除いたものとする。そのようなものは合計 343 語ある[1]。そのうち、頻度が BCCWJ（長単位・出版）で上位 100 位（使用頻度 485）までの語を対象とする。この 100 語につき、後接要素を「な」「に」「だ系・です系」「で系」「の」「その他」の 6 つに分け、その使用頻度と割合を整理し、ナ形容詞をグループ化する[2]。

4. ナ形容詞の品詞性と意味

4.1 連体詞に近いナ形容詞

グループ化した結果、ナ形容詞のうち、語幹の後接要素が「な」であることが約 70〜95%と極めて多く、ほかの後接要素が僅かであるものがある。これをA類ナ形容詞とし、後接要素の詳細を表１に示す。A類は、次の(4)の「主要な」と(5)の「巨大な」のように、文の中で連体修飾語として使われることが主である。

(4) このうち、最も主要な要素を占めるのは、力学と電磁気学の分野です。(PB1n_00106)

(5) 巨大な世界に対する自分というものの小ささが、彼を絶望へと導く。(PB13_00493)

表１ A類ナ形容詞（19 語）

語彙素	使用頻度	な	に	だ系 です系	で系	の	その他
様々	6392	88.27%	2.63%	2.64%	2.77%	1.83%	1.86%
巨大	1229	94.87%	1.06%	0.57%	2.85%	0.16%	0.49%
立派	1150	71.74%	16.43%	4.78%	4.00%	0.00%	3.04%
多様	1100	80.27%	4.18%	1.18%	11.36%	0.09%	2.91%
強力	833	73.23%	15.25%	2.40%	5.76%	0.36%	3.00%
貴重	858	87.06%	0.35%	3.73%	5.36%	0.23%	3.26%
重大	830	88.55%	0.36%	2.29%	6.51%	0.12%	2.17%
特殊	779	89.86%	0.77%	0.77%	1.54%	4.24%	2.82%
深刻	775	69.29%	13.42%	5.03%	8.90%	0.52%	2.84%
主要	752	92.55%	0.80%	0.00%	0.53%	0.00%	6.12%
伝統的	746	84.99%	13.14%	0.13%	1.07%	0.00%	0.67%
奇妙	729	83.81%	8.37%	2.33%	3.70%	0.14%	1.65%
代表的	716	94.41%	0.56%	1.82%	2.23%	0.00%	0.98%
優秀	644	77.48%	0.47%	6.68%	8.23%	0.00%	7.14%
大規模	598	83.61%	7.69%	0.17%	3.34%	1.51%	3.68%
膨大	560	91.61%	2.68%	1.43%	3.21%	0.18%	0.89%
典型的	540	83.70%	11.11%	0.74%	2.41%	0.00%	2.04%
偉大	526	75.29%	1.14%	2.47%	3.99%	0.00%	17.11%
爽やか	491	69.65%	11.20%	3.46%	6.72%	0.00%	8.96%

現代語の中で、専ら連体修飾語として使われる品詞は「大きな」「主たる」などのような「連体詞」であるから、A類ナ形容詞は連体詞に近いといえる。

A類ナ形容詞の意味特徴について、(a)「巨大な・立派な・強力な・重大な・深刻な・大規模な・膨大な・偉大な・爽やかな」の 9 語は、「巨大な建物」「立派な建物」のように、建物の体積が非常に大きかったり、外観が豪華であったりして他より目立つこと、また、「強力な武器」のように、武器の破壊力が非常に強くて目立つことを表すものであり、いずれも「度合いが大きくて、他より目立つこと」を表す。それに対して、(b)「貴重な・特殊な・奇妙な・優秀な」は「貴重な資料」「特殊な才能」のように、その資料や才能に希少性があって他より目立つというような、「希少性があって、他より目立つこと」を表すものである。また、(c)「主要な・伝統的な・代表的な・典型的な」は、「主要な要素」「伝統的な技術」のように、その要素や技術が主流を占めて他より目立つことを言うものであり、「主流を占め、他より目立つこと」を表す。残りの (d)「様々な・多様な」の 2 語は、「様々な問題」のように問題などの種類が多くて目立つこと、つまり「種類が多くて、他より目立つこと」を表すものである。

[1] 本発表は、村木（2012）の立場をとり、格の体系を持たないことを形容詞の重要な特徴とする。「の」を他の格助詞から区別するのは、BCCWJ において、格助詞「の」には「職務上の特殊の権限」のように、「顧客の特殊な要求」の「な」と同じような形容詞の連体形と思われるものが含まれるからである。

[2] 「だ系」は「だ・ダ・だぁ・だー・だっ・だつ」の中のいずれか、「です系」は「です・でーす・ッス・っす・ですぅ」の中のいずれか、「で系」は「で・である・でもある・でもあっ・であっ・であれ・であろう・であり・ではない・じゃない・でなかっ・ではなかっ・じゃなかっ・でなく・でない・でなけれ・ではなく・ではありません・じゃありません」の中のいずれかを指す。

A類が持つこれらの意味特徴は、高橋（1997）のいう連体成分の「キメツケ」機能を支える。高橋（1997）は、文の中でいま問題にしているモノがどのモノであるかを限定し、「選びだし」や「弁別」に関わる連体成分の機能を「キメツケ」としている。そしてA類は、度合いが強い、希少性がある、主流を占める、種類が多いということを表すことにより、物事を他と弁別する機能を持つ。そこで、A類ナ形容詞の意味特徴は「度合いが強い、希少性がある、主流を占める、種類が多いなど、際だちを表すことによって他と弁別する性質を表す」とまとめられる。

また、A類ナ形容詞と連体詞の間には類義語も少なくない。例えば、「巨大な・膨大な・重大な・大規模な」と連体詞の「大きな・大した・大いなる・大それた」、「奇妙な」と連体詞の「可笑しな・異な・ひょんな」、「主要な」と連体詞の「主な・主たる」、「様々な・多様な」と連体詞の「色んな」などである。このように、意味的にもA類ナ形容詞は連体詞に近いといえるだろう。

4.2 副詞に近いナ形容詞

また、後接要素が「に」であることが約65～90%と多く、ほかの後接要素が比較的少ないグループもある。これをB類ナ形容詞とし、詳細を表2に示す。B類は、次の(6)の「丁寧に」と(7)の「徹底的に」のように、文の中で連用修飾語として使われる場合が多く、他の統語機能は少ない。

(6) 授業の進め方を丁寧に教えてくださった。(PB12_00005)

(7) 国営事業の合理性や必要性を徹底的に検証して改革を断行するとの方針を打ち出しました。(PB13_00406)

表2 B類ナ形容詞（15語）

語彙素	使用頻度	な	に	だ系 です系	で系	の	その他
確か	5254	8.03%	72.10%	6.40%	3.65%	0.06%	9.77%
完全	2752	20.35%	75.15%	0.22%	1.27%	0.04%	2.98%
明確	2184	23.49%	65.11%	0.96%	8.15%	0.00%	2.29%
積極的	2123	24.96%	69.38%	0.89%	3.06%	0.05%	1.65%
確実	1639	15.38%	67.18%	5.06%	5.92%	0.12%	6.35%
勝手	1178	12.82%	74.70%	3.57%	0.76%	0.93%	7.21%
最終的	1084	19.93%	79.70%	0.00%	0.09%	0.09%	0.18%
急速	949	17.07%	81.14%	0.00%	1.16%	0.00%	0.63%
素直	917	16.14%	71.54%	2.07%	7.85%	0.00%	2.40%
盛ん	901	10.65%	64.93%	6.88%	13.98	0.00%	3.55%
丁寧	850	18.00%	75.18%	2.24%	2.12%	0.12%	2.35%
大幅	893	23.52%	73.46%	0.11%	0.11%	0.56%	2.24%
徹底的	607	14.66%	83.69%	0.16%	0.33%	0.00%	1.15%
スムーズ	529	14.18%	75.24%	2.84%	3.21%	0.38%	4.16%
密か	511	12.33%	87.08%	0.00%	0.00%	0.00%	0.59%

現代語の中で、専ら連用修飾語になる品詞は「副詞」であるから、統語的には、B類ナ形容詞は副詞に近いといえる。

B類ナ形容詞の意味特徴について、(a)「急速な・スムーズな」の2語は、「急速な発展」「スムーズな進行」のように、変化が非常に速いこと、進行が流暢で速いことを表すものであるため、「変化や動作の速さ」を表す。次に、(b)「盛んな・密かな」の2語は、「盛んな拍手」が拍手という外的動作の激しさを表し、「密かな期待」が期待という内的動作が黙々とされていることを表すように、「動作の勢い」に言及するものである。また、(c)「積極的な・勝手な・素直な・丁寧な」は、「積極的な人」が能動的で肯定的な態度をとるという人の性格、「勝手な人」がわがままな態度をとるという人の性格を表すように、いずれも「人の性格」を表す。(d)「完全な・大幅な・徹底的な・最終的な」は、「完全な自由」が自由という状態の実現の程度が高いこと、また、「大幅な増加」が増加という変化の実現の程度が高いことを表すように、「実現の程度が高いこと」を表すものである。残りの(e)「確かな・明確な・確実な」は、「確かな証拠」がその証拠が確固とされていること、また、「確実な方法」がその方法が確固とされていることを表すことから、いずれも「確固とされていること」を表すものである。

以上のB類ナ形容詞の中には、ニ形をとる場合、仁田（2002）のいう「様態の副詞」（動きの展開過程の局面を取り上げ、事態の実現のされ方を限定し特徴づけた副詞的修飾成分）に類似す

るものがある。先に掲げたもののうち、(a)の「変化や動作の速さ」を表す「急速な・スムーズな」のニ形は、「急速に処理する」「スムーズに進む」のように動きの速さを描くもので、仁田の「様態の副詞」のうちの、〈動きの質・様への言及を含みながら、動きの早さに関わるもの（「てきぱきと・すらすら」など)〉に近い。実際、「急速に」と副詞「てきぱきと」、「スムーズに」と副詞「すらすら」とは類義語である。また、(b)の「動作の勢い」を表す「盛んな・密かな」のニ形は、「盛んに議論する」「密かに期待する」のように動きの勢いの強弱を描くもので、「様態の副詞」のうちの〈動きの勢い・強さへの言及を含みながら、動きの質・様に関わるもの（「ぐさりと・こそこそと」など)〉に近い。「密かに」と副詞の「こそこそと」は類義語である。(c)の「人の性格」を表す「積極的な・勝手な」などのニ形は、「積極的に参加する」「勝手に決める」のように動作主の態度を示すもので、「様態の副詞」のうちの、〈動き遂行の主体の態度的なあり方を評価的に捉えながら、動きの勢い・強さへの関わりを通して、動きの行われ方を限定し特徴づけているもの（「一生懸命・精一杯」など)〉に近い。「丁寧に」と副詞の「一生懸命」は類義語である。(d)の「実現の程度が高いこと」を表すもののうち「完全な・大幅な・徹底的な」のニ形は、「エサを完全に食べた」「購入価格を大幅に改善した」「森を徹底的に破壊する」のように、動きの実現の程度を描くものであり、「様態の副詞」のうちの〈程度量性につながり、動き実現の程度が、完全性とでも言えばよいようなレベルにあることを表すもの（「すっかり・すっきり」など)〉に近い。「完全に・徹底的に」と副詞の「すっかり」は類義語である。そして、(e)の「確固とされていること」を表すもののうち「明確な・確実な」のニ形は、「病状を明確に告知する」「水源を確実に保護する」のように動きの明晰性を描くもので、「様態の副詞」のうちの〈動きの勢い・強さを表すことが中心ではあるものの、明晰性に関わるもの（「はっきりと・きっぱりと」など)〉に近い。「明確に」と副詞の「はっきりと」は類義語である。

一方、B類ナ形容詞の中には、ニ形をとる場合、工藤（2016）のいう「下位叙法」に類似するものもある。工藤は、積極的に一定の述語形式と呼応する現象が見られないが、広義の平叙文に限られるという叙法的な共起制限がある副詞を「下位叙法（sub-modality)」と呼ぶ。(d)の「実現の程度が高いこと」のうちの「最終的な」のニ形は、「最終的には会社の判断に委ねることで決着を見た」のように、事態が時間や論理における最後の段階に行き着いたことを述べるものである。これは、下位叙法のうちの「結局・どうせ」など、「まとめ」を表す類に近く、「最終的に」と副詞の「結局」は類義語である。また、(e)の「確固とされていること」を表す「確かな」のニ形は、「確かに、完全なアリバイが成立しますね」のように、話し手にとって事態がはっきりしており確認できることを述べるものである。これは、下位叙法のうちの「なるほど・いかにも」など、「確認・同意」を表す類に近く、「確かに」と副詞の「なるほど」は類義語である。

以上のように、B類ナ形容詞のニ形は、「様態の副詞」のように、速さ・勢い・動作主の態度・実現の程度・明晰性などの側面から動きを描いたり、「下位叙法」のように話し手のまとめや確認によって事態を述べたりすることができる。その意味特徴は「動きの速さ・動きの勢い・動作主の態度・動きの実現の程度・動きの明晰性・話し手のまとめ・話し手の確認などの観点から、事態に対する詳しい描写を表す」とまとめられ、意味的には副詞に近いといえる。

4.3 イ形容詞に近いナ形容詞

さらに、「な」が30%～65%、「だ・です系」も10%～30%みられるものがある。これをC類ナ形容詞とし、その後接要素に関する詳細を表3に示す。C類は、統語的特徴として、(8)と(9)のように、連体修飾語として使われる場合も、述語として使われる場合も一定数あるものである。

(8) a. 便利な機能や操作をピックアップして解説します。(PB15_00091)
b. 本店にはほかにも魅力的な商品がいっぱい。(PM51_00627)

(9) a. この割合を覚えておくと便利です。(PB15_00076)
b. 慌てて口ごもる様子がなんとも魅力的だ。(PB19_00477)

表３ C類ナ形容詞（9 語）

語彙素	使用頻度	な	に	だ系 です系	で系	の	その他
好き	4812	46.74%	10.16%	19.74%	11.49%	0.19%	11.68%
嫌	2456	35.22%	7.86%	28.62%	7.86%	0.04%	20.40%
有名	1918	63.14%	8.55%	10.74%	10.11%	0.10%	7.35%
便利	1479	33.54%	6.56%	25.96%	10.55%	0.20%	23.19%
大好き	989	38.93%	1.62%	26.09%	12.84%	0.40%	20.12%
素敵	915	58.80%	4.48%	16.07%	1.86%	0.11%	18.69%
最適	656	42.99%	1.68%	10.67%	6.40%	14.94	23.32%
苦手	638	43.57%	1.88%	20.22%	10.03%	2.19%	22.10%
魅力的	600	53.83%	10.67%	16.33%	9.17%	0.00%	10.00%

現代語の中で、連体修飾用法を主要な機能、述語用法を副次的な機能とする品詞はイ形容詞（形容詞）であると考えられる[3]。そのため、統語的には、C類ナ形容詞はイ形容詞に近いといえる。

C類ナ形容詞の意味特徴について、(a)「好きな・大好きな・有名な・便利な・素敵な・最適な・魅力的な」の 7 語は、「好きな映画」「大好きな歌」のようにその映画や歌が好みにあって良いと思うこと、また、「有名な作品」「便利なツール」のように作品がよく知られて評判が良いと思うことや、ツールが使いやすくて良いと思うことを表し、「プラスの評価」を表すものである。それに対して、(b)「嫌な・苦手な」は「嫌な質問」「苦手なタイプ」などのように、その質問が好みにあわず悪いと思うこと、そのタイプが駄目なもので悪いと思うことを表し、「マイナスの評価」を表すものである。C類ナ形容詞の意味特徴は「良し悪しに関わる評価」とまとめられる。

また、C類ナ形容詞とイ形容詞の間には類義語が存在する。例えば、「素敵な」と「素晴らしい」、「最適な」と「ふさわしい」、「魅力的な」と「美しい」、「苦手な」と「まずい」などである。これは、C類ナ形容詞は意味的にもイ形容詞に近いことを示唆している。

5. ナ形容詞とほかの品詞の連続相

以上の類以外に、語幹の後接要素が「な」であることが 50%～65%と多く、「に」が 20%～40%であるものもある。これをD類ナ形容詞とし、表４に示す。これは全体的に、A類より「な」が 20%～30%低く、「に」が 20%～25%高い。また、「本格的な軍隊」のように、その軍隊が普通の軍隊ではないという希少性があって他より目立つことを表す語と、「鮮やかな色」「純粋な色」のように、色の彩度が高くて他より目立つことを表す語が含まれ、意味的にもA類に近い面を持つ。そのため、D類ナ形容詞はA類に近いが、若干B類に寄ったところに位置づけられる。

また、後接要素が「に」であることが 50%～60%ほどと多く、「な」も 20%～40%であるものもある。これをE類ナ形容詞をとし、表５に示す。これは全体的に、B類より「に」が 15%～30%低く、「な」が 10%～15%高い。また、「真剣な人」「慎重な人」などのように人の性格を表す語と、「正式な回答」「的確な対応策」の例のように、その回答や対応策が確固とされていることを表す語が含まれ、意味的にもB類に近い面を持つ。そのため、E類ナ形容詞はB類に近いが、若干A類に寄ったところに位置づけられる。

さらに、後接要素が「な」と「に」である割合がほぼ同じで、30%～60%であるものもある。これをF類ナ形容詞とし、表６に示す。これは、「な」と「に」の割合は均衡しているので、D類とE類の間に位置つけることができる。また、「な」の割合がC類に近いので、C類にも隣接

[3] 仁田（1998）は、イ形容詞の述定・装定の使用頻度を調査し、装定がイ形容詞の本領で、述定が副次的な機能であるとする。村木（2012）も同じ立場である。

する面もある。

これらと前節で述べた[4]A、B、C類、さらにほかの品詞との関係を図示すると、図1のようにまとめられ、これらが連続相をなすことがわかる。

6. おわりに

本発表では、ナ形容詞の品詞性に着目し、ナ形容詞が統語的特徴からどのように分類できるのか、また、その分類は意味とどのように関わっているのか、という2点を検討した。その結果、ナ形容詞には、典型的な類として、「巨大な・主要な」のような連体詞に近いもの（A類）、「密かな・急速な」のような副詞に近いもの（B類）、「好きな・素敵な」のようなイ形容詞に近いもの（C類）があることが明らかになった。意味的には、A類は「度合いが強い、希少性がある、主流を占める、種類が多いなど、際だちを表すことによって他と弁別する性質を表す」という意味特徴を持つ、B類は「動きの速さ・動きの勢い・動作主の態度・動きの実現の程度・動きの明晰性・話し手のまとめ・話し手の確認などの観点から、事態に対する詳しい描写を表す」という意味特徴を持つ。C類は「良し悪しに関わる評価を表す」という意味特徴を持つ、ということも明らかにした。

今回はナ形容詞を対象にして調査したが、「抜群の」「天然の」などのようなノ形容詞の品詞性と意味はどのような状況であるかも調査する価値がある。それを今後の課題とする。

表4　D類ナ形容詞（12語）

語彙素	使用頻度	な	に
新た	3635	64.48%	33.43%
適切	1908	60.48%	21.59%
豊か	1553	62.20%	24.98%
本格的	917	59.54%	39.26%
穏やか	879	52.67%	23.78%
身近	823	57.59%	34.63%
微妙	788	60.79%	28.30%
個人的	668	58.98%	37.43%
鮮やか	573	62.48%	24.26%
国際的	566	62.72%	33.92%
純粋	554	50.36%	32.49%
華やか	524	60.50%	21.56%

表5　E類ナ形容詞（10語）

語彙素	使用頻度	な	に
簡単	4418	22.25%	57.83%
静か	2019	26.89%	61.71%
真剣	874	25.97%	61.33%
慎重	872	21.79%	61.35%
正式	650	30.62%	55.85%
熱心	637	26.22%	53.53%
冷静	630	24.92%	53.49%
実質的	624	35.58%	61.70%
一時的	603	33.33%	60.70%
的確	536	34.14%	58.77%

表6　F類ナ形容詞（17語）

語彙素	使用頻度	な	に
具体的	3383	45.67%	51.70%
基本的	2891	43.96%	55.27%
奇麗	2870	33.66%	41.22%
見事	1322	38.05%	46.22%
単純	1281	48.63%	32.40%
極端	764	42.41%	53.40%
社会的	731	46.24%	42.13%
圧倒的	691	41.68%	51.66%
精神的	690	51.59%	40.14%
急激	658	44.07%	53.80%
経済的	625	38.72%	42.24%
真面目	622	41.96%	36.50%
曖昧	617	43.92%	32.74%
客観的	596	37.08%	52.52%
真っ赤	540	37.41%	50.37%
快適	508	44.29%	29.53%
歴史的	485	47.42%	42.68%

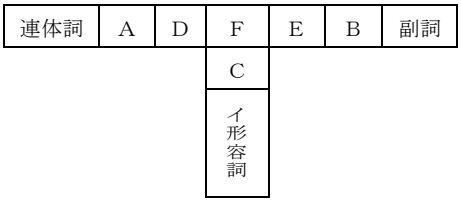


図1 ナ形容詞とほかの品詞の連続相

参考文献

鯨井綾希（2018）「形容動詞に属する語彙の分布と分類―語幹相当語に後接する要素の計量分析を通して―」『上越教育大学国語研究』32、pp. 1-12

工藤浩（2016）『副詞と文』ひつじ書房

高橋太郎（1997）「連体機能をめぐって」『日本語文法　体系と方法』ひつじ書房、pp. 39-54

西尾寅弥（1972）『形容詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所 44

仁田義雄（1998）「日本語文法における形容詞」『言語』27(3)大修館書店、pp. 26-35

仁田義雄（2002）『副詞的表現の諸相』くろしお出版

村上佳恵（2017）『感情形容詞の用法―現代日本語における使用実態―』笠間書院

村木新次郎（2012）『日本語の品詞体系とその周辺』ひつじ書房

八亀裕美（2008）『日本語形容詞の記述的研究―類型論的視点から―』明治書院

李在鎬（2013）「形状詞の『ナ』共起と『ノ』共起のコーパス基盤調査」『計量国語学』29(3)、pp. 77-95

[4] A～F類に分類できなかった18語は「その他」の類とする。「色々な・大切な・大変な・駄目な・僅かな・特別な・複雑な・相当な・残念な・効果的な・豊富な・適当な・真っ直ぐな・独特な・新鮮な・平等な・順調な・良好な」がそれにあたる。

「十分に」の意味と構文特徴、及びその通時的変遷に関する考察

筑波大学人文社会科学研究群　尚（ショウ）　暁歓（ギョウカン）

1. はじめに

本稿の目的は「十分に」の意味と構文特徴を検討すること，及びその共起先の通時的変化を明らかにすることにある。

(1) 真夏なので、まだ外が十分に明るい[1]。

(2) 従者もそれぞれ休ませ、馬にも十分に秣を与えた。

(1) (2) のように，「十分に」は形容詞に係りその程度性を限定しうると同時に，動詞に係りその量も限定しうるため，程度副詞と一緒に議論されることがある（仁田 2002）。しかしながら，「十分に」と程度副詞との異同が必ずしも明確であるとは言えない。そこで，本稿は「十分に」の意味と構文特徴を分析するとともに程度副詞との異同を検討する。またコーパスを利用して「十分に」がどのような通時的変化をしてきたかについて考察する。

2. 先行研究

「十分に」を論じた研究は少ない。その意味について，辞書では「条件が満たされ，不足がない。満足する」との記述が多い[2]。しかし，この「満足する」は「十分に」の意味に常に含まれているとは言いがたい。というのは，次の例 (3) のように，「十分に」は話し手が「満足する」という意味合いが読み取りにくいものがあるからである。

(3) どうか、どうか、今すぐに戦争を止めてほしい。もう十分に人が死んだ。

「満足する」ということは話し手があることを望んでいるというニュアンスが強いが，「十分に」が使用される文がいつもそうとは限らない[3]。ただし，場合によっては話し手が「満足する」という意味合いが読み取れないわけでもない。後述するが，本稿ではこの「満足する」はあくまでも「十分に」の基本的な意味から推論されたものだということを主張する。

「十分に」の構文的な振舞いについては，仁田 (2002) は程度副詞を論じる際に「十分 (に)」[4]が「あり様的限定という様相を持ちながら，程度量的限定でもある」と述べた。(4) は程度限定，(5) は動きの量限定の例として挙げられている。

---

[1] 本稿の用例は，特に出典を明記しない限り，すべて現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）によるものである。BCCWJ での検索日は 2022 年 1 月 27 日で，確認日は 2022 年 3 月 21 日である。検索用アプリケーションは「中納言 2.4.5」，データバージョンは 2021.03 である。語彙素読みが「ジュウブン」で検索して 19452 件の結果が見つかった。その中，「十分に」の用例は 4335 例である。

[2] （辞書の項目名は「十分」となっている場合が多いが）『日本国語大辞典　第二版』『広辞苑　第七版』『大辞林　第四版』を参照されたい。

[3] 例えば『明鏡国語辞典　第三版』では「十分に」の意味に「満足する」という記述はない。

[4] 仁田 (2002) では議論の対象は明確ではない。その内容からみれば，「十分」「十分に」「充分」「じゅうぶん」いずれも対象にしているようである。本稿は紙幅の関係上「十分に」だけを検討する。

(4) そういうんじゃなくて、普通の結婚式だって，十分恥ずかしくない？

（仁田 2002：190，(56)）

(5) ギャンブルにのめりこんでゆく愚を、じゅうぶん知りながら、光野は競馬・競艇に凝り始めた。（仁田 2002：190，(58)）

しかしながら，「あり様的限定」について具体的な説明はないほか，「十分に」が程度限定も量限定もできるという主張については，同様に程度限定も量限定もできる量程度の副詞[5]と同じなのかどうかについても触れられていない。例 (6) は形容詞に係り，その程度を限定する場合であるが，「かなり」と「十分に」とでは容認度に差が見られ，「十分に」はかなり不自然である。

(6) 思わずガッツポーズをしたが、我に帰ると｛かなり／?十分に｝恥ずかしい[6]。

このように，「十分に」については，その意味特徴も構文特徴も，また量程度副詞と共通点や相違点に関しても完全に明らかになっているとは言いがたく，更なる検討を必要とする。

3.「十分に」と程度副詞の異同

3.1 意味特徴

まず，本稿では「十分に」の意味をつぎのように規定する。

(7)「十分に」の意味：

事態が話者の想定した基準やレベルに達する。

つまり，「十分に」は基本的に共起先の表す事態が話者の考えている基準やレベルに達成することについて述べている。また，事態が話者の想定した基準やレベルに達成するため，話し手がその事態に満足することが容易に想起され，推論される。ただし，この推論されやすい「満足する」は「十分に」に常に付随するのではなく，「十分に」の本来の意味とは見なせないことは (3) で示した通りである。

(8) エネルギーが十分に大きくさらに電離（2 次電離）を起こすことができる 2 次電子をδ線という。

(9) バター、レーズン、シナモンを加えて火を止め、十分に冷ましておく。

(8) においては，「十分に」は単なるエネルギーの大きさが高い程度にあるというより，その大きさが 2 次電離を起こすレベルに達しているのだという意味を表す。(9) もただ時間の長さを描写するのではなく，話者の想定した「冷ますべき時間」或いは「理想の状態」に達するまで冷ますことを表している。いずれの場合，ある基準が存在することが考えられる。

---

[5] 仁田 (2002) では程度副詞を程度しか限定できない「純粋程度の副詞」，程度限定も量限定もできる「量程度の副詞」，そして量しか限定できない「量の副詞」の三つに下位分類している。量程度の副詞としては「かなり」「ずいぶん（と）」などのものが挙げられている。

[6] 「十分に」や「かなり」の前に付く「?」は不自然の意味である。なお，自然さの判断は母語話者の確認を受けている。

また（9）は話者が満足するまで動作を行うという「満足する」の読みが可能であるが，(8) ではその大きさについて話者が満足しているという読みがなされにくいと思われる。

つぎに，「十分に」と程度副詞との意味上の相違については，「十分に」は事態が話者の想定した基準に達するかどうかを表すのに対して，程度副詞は事態がどれぐらいの程度や量(以下「程度」）で存在しているかどうかを表すのである。これは具体的に 2 点指摘する。1 点目は，「十分に」は事態が基準に達するかどうかに焦点を当て，事態の程度の高さは不問にする。一方，程度副詞は程度の高さを中心的に示す。例えば，上述した（8）はエネルギーの大きさが話者の想定した「2 次電離を起こす」というレベルに達していることを表すが，それに対して，次の (10) は予算規模が話し手の持つ一般的な認識を一定程度超えていることを表す。また，（11）が示すように，「十分に」は固定した事態程度の高さは表さない。

（10）予算規模がかなり大きい。

（11）a. かなり食べましたが、まだ十分に食べていない。

b. すこししか食べなかったが、もう十分に食べている。　（作例）

ただし，「十分に」が使用される文は事態の程度が高いという読みが場合によって可能である。が，これは推論的な意味にすぎない。人が「十分にご飯を食べている」という話を聞けば，我々は食べた量が多いと連想しやすい。また，「エネルギーが十分に大きくて，2 次電離を起こせる」なら，そのボリュームがとても大きいと想像しがちなのである。

また 2 点目の相違として，「十分に」は基本的に事態がすでに実現していることを前提としないが，程度副詞は基本的に事態が実現している（と想定する）ことを前提とする，という点が挙げられる。「十分に」は事態が実現した後，その実現した後の状態が話者の持つ基準に達しているかどうかを判断することが可能であり，また事態がまだ実現しておらず，基準の達成に向けてこれから動作を行うことも可能である。しかし，程度副詞は事態がどれぐらいの程度で存在しているかを述べるものであるため，事前に事態が存在しなければ判断のしようがない。どれぐらい食べたかを判断するにはまず食べるという事態が実現している必要がある[7]。

3.2　構文特徴

前述のように，「十分に」は共起先の程度限定も量限定もできる。本節は同様の振舞いをする量程度の副詞「かなり」を取り上げ，「十分に」との共通点と相違点を検討する。

まず，共起先の品詞の種類についてであるが，「十分に」も「かなり」も形容詞，動詞，そして形容詞的な意味を持つ名詞[8]と共起する。ただし，話者の心理活動や感情に関わるものの

[7] 相手がたくさんの料理を注文したがまだ食べ始めていない場合でも「かなり食べるね」は言える。この場合，話し手は相手が料理を全部食べてしまうことを想定しているので，「かなり」が自然である。

[8] 「かなりの名士」のような「かなり」がノを介して修飾する名詞の場合は含まない。

場合,「十分に」の方には共起制限が見られる。また,主体の意志的な動作を表す動詞の場合,「かなり」は「十分に」と異なった振舞いを見せている。

具体的には,動詞の場合,①「死ぬ」や「待つ」など,「かなり」によってその数・量的側面が限定されることになるようなものは,「十分に」とも共起できる。また,動詞が状態を表す場合は,「十分に」「かなり」両方とも共起が可能である。②主体の意志的な動作を表す動詞の場合,「十分に」はよく共起し,しかもその動作が発話時点においては実現されていないことが多い。このような場合,「かなり」の使用は制限される。③主体の感情に関わる動詞,特に主体のマイナスの感情を表す動詞の場合は,「十分に」の許容度が低い。以上,3点が指摘できる。

(12) どうか、どうか、今すぐに戦争を止めてほしい。もう{かなり／十分に}人が死んだ。 (=(3))

(13) a. 四十七年と比べると,病院への不満がかなり高まっている。

b. BSC の構成要素を考えても、戦略マップ自体の品質が十分に高まっていない状況にあり(後略)

(14) 火の取り扱いには{?かなり／十分に}注意し、貴重な森林資源を山火事から守りましょう。

(15) {かなり／?十分に}心配しました。 (作例)

①については例えば(12)(13)がある。(12)(13)では「十分に」と「かなり」両方とも使用できるが,前述した両者の間の意味的な違いがここでもやはり観察される。②は(14)のような場合であり,「かなり」は不自然である。これは前述した「かなり」が使用される文においては,事態がまず実現していなければならないということに由来すると考えられる。また③は(15)に示した通りである。「十分に」の容認度が低いこともその意味的な特徴から説明できる。つまり,「心配する」という心的感情について,我々が普通ある基準を持って,「これぐらい心配すれば基準に達する」や「これぐらいの心配だとまだ足りない」というようなことを考えないからである。

また,③とつながり,主体のマイナスの心的感情を表す形容(動)詞の場合も,「十分に」との共起が難しい((16))。この点も「かなり」と異なる。

(16) {かなり／?十分に}嫌いだ。

「十分に」がマイナスの心理感情を表す形容詞と共起しにくい理由は前述の③の場合と同様,マイナスの心理感情については「基準に達するかどうか」ということを通常言わないからだと考えられる。また,BCCWJ でも「十分に」と共起する形容詞はいわゆる属性形容詞が多く,感情形容詞が少ない。

次に,モダリティ及び否定との関係に関しては,「かなり」と「十分に」は正反対の関係にある。程度副詞は基本的に否定形式とともに用いられることはなく,しかも命令・依頼・勧

誘・決意（意志）等の叙法とは共起できない（工藤 2016：113））。しかし，「十分に」は否定形式とも命令・勧誘・決意等のモダリティとも共起する。前述した（13b）は「十分に」が否定形式と共起する場合である。

（17）きのこ狩りや山遊びの際は十分に注意してください。

（18）他の場所から調理場に戻った時などは、せっけんを使って十分に手を洗いましょう。

（19）また労働条件に関しましては団体交渉を十分に持ちたいと思います。

（20）空気が残っていたのでは、酸化によって変質や酸敗が起こるので、脱気は十分にしなければなりません。

（21）しかしこれだけ丁寧なメールを書くにはかなり英語が出来なければなりませんし（後略）

（17）から（19）までは「十分に」を「かなり」に置き換えることができない。また（20）（21）のように，必要性を表すモダリティ形式（日本語記述文法研究会 2014：92）「なければならない」は「十分に」とも「かなり」とも共起するが，BCCWJ での用例数は「十分に」の方がより多い。命令・依頼・勧誘・決意のモダリティと基本的に共起できないことは程度副詞が非意志性という特徴を持つことを暗示している（工藤 2016：113）と指摘されているが，「十分に」と「かなり」の許容度の差を意味の点から見れば，程度副詞は発話時点に事態が実現しており，あるいは実現済みと想定されなければならない。一方で，依頼・勧誘・決意などは発話時点において事態がまだ実現していない状況でこそ使用可能なので，程度副詞との親和性は低い。これに対して「十分に」は発話時点で事態が実現済みであることを要求しないため，上記のモダリティとの共起ができる。と，このように説明できる。

また，共起先が形容詞の場合，特に話者の主観に関わる形容詞になると，「十分に」が使用される文では「～だけで（も）」が現れたり，前後の文と逆接の関係にあったりすることが観察される（22，23）。また（24a）に比べて（24b）は「十分に」が不自然なことから，「十分に」は人の発話時点の心的な感情を表しがたく，ある程度客観性を要求すると考えられる。「かなり」にはこのような制限がない。

（22）ご丁寧に電話を頂戴していたこと北海道スキーから帰京後、母から聞きましてそれだけでも十分に嬉しかったです。

（23）純正マフラーのテールエンドは弱々しいけど、今でも背後のエンジン音が十分に騒々しいから、社外品に替える予定はありません。

（24）a．そういうんじゃなくて、普通の結婚式だって，十分恥ずかしくない？

（＝(4)）

b．思わずガッツポーズをしたが，我に帰ると｛かなり／?十分に｝恥ずかしい。

（＝(6)）

4、「十分に」の共起先の変化

「十分に」の共起先がどのように変化してきたかを見るために，国立国語研究所が開発した日本語歴史コーパス（CHJ）から用例を採集した[9]。表 1 は共起先のタイプによって CHJ と BCCWJ から検索した用例をまとめたものである。

表 1：コーパスにおける「十分に」の共起先についての統計[10]

時代	（共起先が）形容（動）詞	（共起先が）動詞	計
江戸時代	0（0%）	1（100%）	1
明治時代	9（2.6%）	341（97.4%）	350
大正時代	5（2.3%）	211（97.7%）	216
現代（BCCWJ）	275（6.4%）	4055（93.6%）	4330[11]

表 1 の頻度は粗頻度であるため，時代が下ることにつれて，「十分に」と共起する形容（動）詞と動詞の用例数が増加していると結論づけることはできない。しかし，共起する形容（動）詞と動詞の比率については，現代において動詞の比率が下がり，形容（動）詞の比率が上がっていることが分かる。また，用例を見るかぎり，形容（動）詞と共起する場合は現代までは「明確」のような漢語系のものが多かったが，現代では「楽しい」「嬉しい」のような和語系のもの，しかも人の心理や感情に関わるものが頻繁に現れていることも伺える。

5. おわりに

本稿では程度副詞との異同を中心に「十分に」の意味及び構文特徴を検討し，「十分に」と「かなり」の構文上の相違はそれぞれの意味の違いによって説明した。また，「十分に」の共起先の通時的な変化についても確認した。「十分に」と形態的にも意味的にも近いものとして「十分」があるが，両者の間にどのような相違があるかについては今後の課題とする。

主要参考文献

工藤浩（2016）『副詞と文』ひつじ書房

蔡薫婕（2019）『現代日本語文の程度修飾と数量修飾の体系』日中言語文化出版社

仁田義雄（2002）『副詞的表現の諸相』くろしお出版

日本語記述文法研究会編（2014）『現代日本語文法 4　モダリティ』くろしお出版

9 検索日:2022 年 1 月 27 日。確認日:2023 年 3 月 20 日。検索用アプリケーションは「中納言 2.4.5」，（検データバージョンは 2021.03 である。検索方法は BCCWJ で検索した際と同じである。

10 時代区分は CHJ に従っている。表の中の数字がコーパスの中の用例の数であり，括弧内のパーセンテージは当該項目の全体に占める割合（小数点以下 1 桁に四捨五入）である。また昭和時代のデータについて，CHJ も BCCWJ も収録範囲になっているが，CHJ における昭和時代の用例数が 3 例しかなかったため，（CHJ における昭和時代のデータは）カウントしないことにしている。

11 注 2 では BCCWJ から「十分に」の用例を 4335 例検索したと述べたが，中に「十分に範囲内」のような共起先が名詞（句）の例が 5 例あったので，これらをカウントから外したのが表 1 の数字になる。

文末で用いられる助詞「し」の終助詞的用法

入江祐希奈（筑波大学大学院生）

1. はじめに

本発表の目的は、①命令文（禁止文を含む）や疑問文にも接続するという文法的特徴を持ち、接続助詞「し」と異なる機能を持つ、終助詞としてふるまう助詞「し」が発生していることを指摘すること、②そのような文の特徴についてモダリティごとに考察し、終助詞「し」を付加した文に共通の特徴を導き出すことの2点である。

(1) **阿川**　巷間噂されているスポーツキャスターへの道とかは？
　　有森　そういう道は、納得いく形で自分を生かすことはできないと思います。魅力も感じていませんし。
　　（阿川佐和子『阿川佐和子のこの人に会いたい』1997, 白川 2009: 127, (1)）[1]

(2) 毛玉君が急に「にゃーぉぅーっ！」ってこっち見て何か訴えてるから「何？どうした？」って聞いてみても「にゃーぉぅーっ！」ってひたすら鳴くばかりで何言ってるかわからん。遊びたいのかなと思って試しに猫じゃらし持ち出してみたらめちゃ嬉しそうに暴れておる。遊びたいなら遊びたいって言えし。
　　（@opera_yo, 2017/1/29 15:37, Tweet）

(3) A：ネコとかハトも寒そうねー
　　B：え？どこにいる？
　　A：いや…いないけど
　　B：えっじゃあなんで言ったし
　　（タダノなつ『ごろごろゆったりするまんが』, 2012/12/23）

(1)のような平叙文の文末に付く助詞「し」については先行研究があるが、(2)(3)の命令文・疑問文に助詞「し」が付いた用例についてはほぼ議論されていない。本発表は、接続助詞「し」の特徴を喪失している文末の助詞「し」を考察対象[2]とし、発表者が収集した実例と作例を用いてその機能を導き出す。

2. 先行研究と問題点

文末の助詞「し」に関する先行研究として、榊原（2008）や栗原（2009）、白川（2009）、

[1] 以下、引用元を示していない用例は発表者の作例である。また下線部は発表者による。
[2] 具体的には、①「並列」や「理由」の意味が解釈されないもの、②因果関係や並列関係を持ってシ節と関係づけられる後件が推論されないもの、の2点を満たす助詞「し」を考察対象とする。本発表ではこのような助詞「し」を「終助詞の「し」」と呼ぶ。（したがって、本発表の規定では(1)は検討対象から外れることになる）

大山（2017）等がある。これらは全て平叙文に接続する「し」の記述が中心である。命令文に「し」が接続する場合について大山（2017）が言及しているが、「「命令形」に「シ」がつく「強意を表す方言」もある」（大山 2017: 144）と述べるにとどまる。また、榊原（2008）が疑問文に「し」が接続する用例を挙げ「従来使用されなかった部分にあえて「し」を用いることで、聞き手や読み手との間に仲間意識を喚起」（榊原 2008: 37）する機能を持つと述べているが、用例が少なく、文法的特徴への言及もない。

このように、命令文・疑問文に接続する「し」に関する観察は文法論・意味論的には十分とは言えない。本発表ではこれらの用例に着目し、その機能について考察を行う。

3. 終助詞「し」の機能

本節では、終助詞「し」が接続した文についてモダリティごとに検討し、それらの共通点から終助詞「し」の機能を主張する。

3.1 命令文

ここでは、命令文に関する先行研究を参照しながら、助詞「し」が接続することのできる命令文の特徴を示す。井上（1993）は、命令文の機能の決定に対して「タイミング考慮／非考慮」と「矛盾考慮／非考慮」という二つの視点を提示している。以下では、この視点に即して記述する。

まず「タイミング考慮／非考慮」について検討する。(4)は助詞「し」を付加した命令文、(5)は助詞「し」を付加した禁止文である。

(4) a. A：〈冗談めかして〉明日寝坊してもいい？
　　B：ちゃんと起きろし。　【タイミング非考慮】
　b. 〈何度も起こしているのに起きない相手に対し〉もう、起きろし。【タイミング考慮】
(5) a. A：明日、お前のバイト先に遊びに行ってもいい？
　　B：来んなし。　【タイミング非考慮】
　b. 〈泣いている人に対して〉もう、泣くなし。　【タイミング考慮】

(4)(5)はともに許容され、命令文・禁止文ともに、その発話時が動作実行（禁止文では不実行）のタイミングにあるか否かということは助詞「し」を付加して言うことができるかに影響しない。また、井上（1993）及び田川（2019）は「発話時以前のことがらに言及する」タイプの命令文について指摘しているが、終助詞「し」はこのタイプの命令文にも接続することができる。つまり、命令文で指示する動作を実行するタイミングという要素は、助詞「し」を接続することの可否に影響しない。

次に「矛盾考慮／非考慮」について検討する。

(6)　（写真を撮るときに）

a. はい、写真をとるから、動かないで（よ H／ね）。
b. ちょっと。写真をとるんだから、動かないで（よ L）。

（井上 1993: 344, (21)）

(7) 〈写真を撮るときに〉
a. *はい、写真とるから、動くなし。
b. ちょっと。写真とるんだから、動くなし。

井上（1993: 344）では、(6)b を「写真をとる時には動かない」という話し手側のスクリプト（P）に反して聞き手が動いたこと（矛盾することがら〜P）を不適格として異議を申し立て修正を要求する「矛盾考慮」の命令文とし、(6)a は〜P が存在しないことを前提にした「矛盾非考慮」の命令文としている。

(7)は、(6)と同じ文内容の禁止文に終助詞「し」を付加したものである。(7)b のように矛盾することがら〜P が存在する場合には許容されるが、(7)a のように〜P が存在しない場合は「し」が付加された禁止文は許容されない。実際、筆者が収集した用例でも、矛盾考慮の命令文及び禁止文に「し」が接続しており、矛盾非考慮の命令文・禁止文は見られなかった。

以上の事から、終助詞「し」は矛盾考慮の命令文にのみ接続することができると言える。つまり、終助詞「し」を付加した命令文は話し手が聞き手に対して不満を抱いていることを伝達する。

3.2 疑問文と終助詞「し」

続いて助詞「し」が接続した疑問文の特徴について、文法的特徴と機能に関わる特徴を示す。

文法的特徴として、終助詞「し」は、助詞「か」を伴わない補充疑問文にのみ付くことができる。

(8) a. *昨日、あの番組、見たかし。
b. #昨日、あの番組、見たし。
c. *もう出かけますかし。
e. #もう出かけますし。
(9) a. *コーヒー、飲むかし。　それとも、紅茶にするかし。
b. *コーヒー、飲むし。　それとも、紅茶にするし。
c. *和食にしますかし、洋食にしますかし、中華にしますかし。
d. ??和食にしますし、洋食にしますし、中華にしますし。
(10)着地でねじって滑って死亡　なぜねじったし

（NX☆くさあん『【マリオカート 8DX】くさあん 1st/#105』, 2021/8/7）

(11)どこいったし w

（MonarMK『お仕事パズル #1 【Good Job!】』, 2021/8/10）

(8)(9)は、日本語記述文法研究会 (2003) で示された真偽疑問文及び選択疑問文の例文に助詞「し」を付したものであるが、全て終助詞「し」としては許容できない。また、(10)(11)に一部示したように、発表者が収集した疑問文に終助詞「し」を付加した用例は全て助詞「か」を伴わず補充疑問文であった。

次に疑問文の機能の面から検討する。安達 (2002) は、疑問文における〈質問〉の機能を決定する条件として、次の 2 点を挙げている。

(i) 不確定性条件：話し手には何らかの情報が欠けているために、判断が成立していない
(ii) 問いかけ性条件：話し手は聞き手に問いかけることによって、その情報を埋めようとする

これらの条件に照らして助詞「し」を付加した疑問文を検討すると、不確定性条件は満たしているが、問いかけ性条件は満たしていないと言える。これは、安達 (2002) における〈疑い〉の特徴と一致し、その中でも、独話における助詞「し」を伴う疑問文は〈疑念〉の用法、対話における助詞「し」を伴う疑問文は〈不信の表明〉の用法に近いと思われる。用例(3)の対話における疑問文「じゃあなんで言ったし」と独話における用例(10)「なぜねじったし」を用いて説明する。まず不確定性条件については、独話においても対話においても満たしている。(3)は、「なんで」という疑問語が用いられていることからも明らかなように A の発言の理由が B にはわからなかったことを示しており、(10)でも話し手にはねじるという動作を行った理由が不明である。つまり、「し」を付した疑問文は疑問語を必要とするが、この疑問語が不明な情報にあたっており、「話し手には何らかの情報が欠けている」という不確定性条件に合致する。次に問いかけ性条件について、独話と対話で別に記述する。独話においては、聞き手が存在せず問いかけ性条件の「聞き手に問いかける」という点を満たせない。そして〈疑念〉用法と同様、疑問文を発話することが「命題の成立を否定的に捉える気持ち」を表明する意味を持つ。用例(10)では、話し手はねじるという動作によって「死亡」したとしてそのことを否定的に捉えている。この疑問文によって話し手はその理由を求めているわけではなく、否定的な気持ちや不満を伝えたいのである。続いて、対話における問いかけ性条件とその意味機能について述べる。(3)の B による疑問文は、A という聞き手が存在する。しかし、疑問文の発話によって A に「なんで言ったのか」という理由を尋ねているというよりは、「自分にはあなたがなぜそのような発言をしたのか理解できない」という気持ちを伝達していると捉えることができる。これは、「独話用法の〈疑念〉を対話的に使用」した応答用法の〈不信の表明〉の特徴 と並行的である。

以上、本節では助詞「し」が接続した疑問文の特徴及び性質を考察した。助詞「し」は、疑問文であることが明示的な補充疑問文にのみ接続することができる。そして、疑問文の発話によって命題や聞き手に対する話し手の否定的な気持ちを表明している。

3.3 平叙文と終助詞「し」

平叙文に終助詞の「し」が接続した用例を以下に示す。

(12)A：ジャージ貸して〜
B：女子のがいいんじゃない？
A：いーじゃん貸してよ　かっ彼氏のジャージ着たいんだよね〜…
B：友達少ないから借りれる人居ないだけでしょ
A：！　別にそんなこと無いし
B：貸してもいいけどブカブカだよ
A：へへー　大丈夫だって
（くも子『【創作漫画】身長差カップル 2』, 2020/1/10）

(13)先生：彼氏お迎えに来たぞ
女子生徒：(違うし)
（くも子『【新連載のお知らせ】手繰り寄せたい恋と糸　1 話』, 2021/9/3）

(14)〈バッティングセンターでの会話〉
A「ストレス溜まっても 1 人寂しくバット振りにこない」
B「お前みたいにウジウジ飢え死にもしない」
A「生きてるし！よし、勝負だ！買(ママ)った方が次のランチおごりね」
（ちむはる@マイピク不可『覚悟のために』, 2016/2/13, 話者名は発表者による）

(15)〈zoom での話し合いにおいて〉
A：B さんはどう？
〈B さんが回線落ちする〉
C：え、落ちたし

(12)(13)の用例では、助詞「し」に接続する文は「そんなことない」「違う」のように、直前に発話された相手の発話を否定するものである。(14)(15)の用例では、助詞「し」が接続する文は、事実や話し手の期待と異なることに反応して正しい情報を伝えるものである。(14)では、落ち込んでいる A に対して B が「お前みたいにウジウジ飢え死にもしない」という言葉を投げかける。A は「飢え死に」という事実と異なることに対し「生きている」との事実を伝え反論を試みている。(15)では、会議で B さんは発言を求められたが、ちょうどそのタイミングで回線不良のため zoom 会議の場から姿を消してしまった。C は「落ちた」という事実を述べ、話し手の期待（B さんが意見を述べること）が実現されなかったことを表現している。

このように、助詞「し」が接続する平叙文は、その場の状況や相手の発話が事実または話し手の期待と異なるものであった場合に、それらを否定したり正しい事実を伝えたりすることで修正しようと試みるものであるという特徴を持つ。

3.4 終助詞「し」の共通の機能

以上、終助詞「し」が接続することのできる文の特徴について考察を行った。これら終助詞「し」が接続する文の性質の共通点として、以下のことが言える。

(16)終助詞「し」が接続した文は、命令文・疑問文・平叙文いずれの場合においても、話し手の意に反することに対して、否定的な気持ちを表明する機能を持つ。

4. まとめと今後の課題

本発表では、文末で用いられる助詞「し」の中には接続助詞の特徴を喪失した用例が観察されることを指摘した。そして、そのような終助詞「し」を接続した文には共通して話し手の意に反することに対して否定的な気持ちを表明する機能があることを明らかにした。

今後の課題としては以下の 3 点を挙げる。

・終助詞「し」をモダリティや終助詞の体系の中でどのように位置づけるか

・終助詞「し」に関する他の出現制約（原則丁寧体の文に出現できない、裸名詞に後接できない等）と今回明らかにした機能との関係

・接続助詞「し」の言いさし用法との関係

【参考文献】

安達太郎（2002）「第 5 章　質問と疑い」宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃『新日本語文法選書 4　モダリティ』pp. 174-202, くろしお出版

井上優（1993）「発話における「タイミング考慮」と「矛盾考慮」：命令文・依頼文を例に」『国立国語研究所研究報告集』14, pp. 333-360

大山隆子（2017）「「し」の機能：「よ」「から」との比較を含めて」『研究論集』(17), pp. 135-155, 北海道大学文学研究科

栗原さよ子（2009）「終助詞化した「し」『学習院大学国語国文学会誌』(52), pp. 1-15, 学習院大学文学部国語国文学会

榊原芳美（2008）「終助詞としての「し」の機能：日本語教育の観点から」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』(18), pp. 33-45, 関西外国語大学留学生別科

白川博之（2009）「「言いさし文」の研究」くろしお出版

田川拓海（2019）「独話に現れる愚痴命令文と反事実性」『日本語文法』19(2), pp. 126-134, 日本語文法学会

日本語記述文法研究会（編）（2003）「第 3 節　疑問のモダリティ」『現代日本語文法 4　第 8 部　モダリティ』pp. 20-51, くろしお出版

高知県伊豆田神社付近の方言の形容詞のアクセント

高山林太郎（埼玉学園大学）
（たかやまりんたろう）

1. はじめに—調査方法，先行研究，アクセント表記法

本稿の目的は，高知県方言話者3名：高知市出身在住者の下原瑞惠氏（1946年生れ女性，記号「瑞」），幡多郡三原村成山出身在住者の池上博光氏（1947年生れ男性，記号「博」），土佐清水市下ノ加江市野々（いちのの）出身三原村皆尾在住者の新谷己久氏（1937年生れ女性，記号「己」）を対象に（いずれも高山（2018b）の話者で，姓名の公開に同意を得ている），形容詞のアクセント調査を実施し（対面および電話による録音された調査票調査の時期：2017年8月～2021年8月），アクセント体系やアクセント対応を示し，中輪東京式またはそれに準じる方言における形容詞のアクセントの古態の新証拠を示すことである。

本稿の主たる先行研究は高山（2018b）である。その他の先行研究については各節で言及する。高山（2018b）では名詞・形容詞・動詞・四モーラ畳語の類別語彙調査に基づく通時的分析が実施されており，本稿はそこから更に発展させた内容となっている。本稿では形容詞を拍数にかかわらず調査して4拍形容詞までは東京方言などと比較して通時的分析が可能であることを示し，中輪東京式の古態を示すデータが得られることを確認する。

アクセント表記は上野（2006: 2）に則り，引用部分では本稿の表記法に改める。「[」は拍間の上昇（[○○は「高高」），「]」は拍間の下降（[○]○は「高低」），「]]」は拍内での下降（[○○]]は「高降」），「○」は拍（本稿ではモーラに等しい）を指す。東京方言など中輪東京式やそれに準じる方言の丸付数字（⓪，①，②，…）は数字が0なら無核，1以上なら語頭からnモーラ目に下げ核があることを表す。「○]」または「○]]」のある拍に「下げ核」がある。例えば語頭から数えて2拍目の右側に下がり目があれば②型である。また，京都方言や高知市方言など中央式方言のHは高起式（高く始まる声調），Lは低起式（低く始まり上昇する声調）を表し，Hn, Lnのnは0なら無核，1以上なら語頭からnモーラ目に下げ核があることを表す。

「中央式，中輪東京式，内輪東京式，外輪式，市野式，類別語彙，3拍名詞7b類」等は日本語諸方言アクセントの比較言語学的研究に用いられる用語であり，本稿では上野（2006），高山（2018b）における定義で用いている。この種の研究は服部四郎，金田一春彦を経て上野（2006）にまとまっている。概説すると，平安時代末期（院政期）京都方言のアクセント体系が声点資料によって判明した。それを出発点として規則的な音変化で日本語諸方言のアクセント体系が導出されると考えられた。院政期の体系における品詞別の各音調型を類と呼び，それぞれの類に所属語彙（類別語彙）を認めた。その後，本土祖体系は更に複雑だということが判明し，院政期京都方言より更に前の時代に出発点を置き直した。また，琉球祖体系は本土祖体系とは既に異質であり別枠で考える必要があることも分かった。「中央式，中輪東京式」などの用語は，類別語彙の類の統合の違いを表すもので，例えば2拍名詞の院政期における主要な類は1類から5類まであるが，中央式では2類と3類が統合するのに対し（「1/2･3/4/5」と書く），中輪東京式では更に4類と5類も統合している（「1/2･3/4･5」と書く）。

2. 形容詞のアクセント体系とアクセント対応の分析

高山（2018b）では2, 3拍形容詞までしか充分に調査しておらず，4拍形容詞は少数例を調査しただけだった。本節では4拍以上の形容詞についても調査・分析する。話者は高知市方言（中央式古態）の「瑞」，三原村成山方言（中輪東京式古態）の「博」，市野々方言（市野式＝中輪東京式古態亜種；本稿の範囲内では中輪東京式古態として扱ってよく，中輪東京式古態との違いは3拍名詞7b類のアクセントだけである）の「己」の3名で，金田一監修・秋永編（2009）『新明解日本語アクセント辞典』（以下「新明解」）の東京方言のデータも比較に用いる。

形容詞の終止連体形のアクセントについては，「瑞」のデータは2拍以上の全てが高山（2018a）に掲載されている。2, 3拍のデータは「博，己」について高山（2018a），4拍のデータは「博，己」について高山（2019），5 拍以上のデータは「博」について高山（2021）に掲載されている。「己」は4拍の段階で「博」に比べて2型対立が希薄だったので5拍以上は調査していない。本節の分析はこれらのデータと新明解の東京方言のデータに主として基づいている。

2拍形容詞は，1類相当（「憂い・愛い，濃い，酸い」）は「博，己」②型，「瑞」H1型，東京方言①型（東京方言は「憂い・愛い」のデータ無し）に対して，2類相当（「無い，良い」）は「博，己」①型，「瑞」は「良い」L0型と「無い」H1型で分かれ，東京方言①型である。東京方言は1類相当も①型に合流している。高知市方言の「無い」H1 型は有名な例外で，京都や大阪では「無い」L0型となり音韻対応の規則通りである。従って1類・2類の類別語彙については左記の通りである（但し「憂い・愛い」は非日用語）。語彙が各2例しかないため統計分析しないが，一応音韻対応の規則通りになっているので示しておく（音韻対応の規則の詳細については高山（2018b）を参照されたい）。ちなみに文献では1類「濃し」，2類「憂し，酸し，無し，良し」となり，非日用語の「憂し」はともかく，「酸し」が2類であることが気になるが，肝心の京都でも現代方言では「酸い」は1類相当なので，この点は文献と方言で齟齬があり，「酸い」は純然たる日用語とは言えない可能性が高い。また，形容詞1類・2類の定義は原則，院政期京都方言において高起式だったもの（[○○]]，[○○○]]，[○○○○]]，…）を1類，低起式だったもの（○[○]]，○○[○]]，○○○[○]]，…）を2類としているものの，語彙には文献や先行研究で確立したものだけでなく，本稿で調査したものも含む。

3拍形容詞は，先行研究で類別語彙が確立しているが，調査した全ての形容詞を使って分析する。調査項目の中には院政期からの伝承語とは言えないものも含まれる恐れがあるが，現時点では排除せず，音韻対応を見せるかどうかだけに着目する（4拍以上も同様）。音韻対応の規則は，1類は「博，己」③型，「瑞」H2型，東京方言⓪型に対して，2類は「博，己」②型，「瑞」H1型，東京方言②型であり，音韻対応に問題は無い。

「博，己」と「瑞」の対応を見ると，「博，己」③型（1類相当）は36語中35語で「瑞」H2型であり（うち「淡い，多い，鈍い，脆い，緩い」は先行研究（中井（2002）の電子データに挙がるもの；以下「中井」）で2類），「博，己」②型（2類相当）は55語中42語で「瑞」H1型である（残り13語の「瑞」H2型は「青い，偉い，清い，くどい，狡い，凄い，せこい，でかい，はそい，酷い，みぞい，見好い，やばい」で，うち「青い，清い，凄い」は先行研究（「中井」）で2類）。「博，己」と「瑞」を比べると，独立性の検定（BellCurve社『エクセル統計』使用；以下同様）で$p<0.001$水準（最高水準）で「瑞」での現れ方に差がある（表1のa）。よって音韻対応を認めてよい。その

上で，比較に用いる類別語彙については丁寧に絞り込んで行きたい。

「博，己」と東京方言の対応を見ると，「博，己」③型（1 類相当）は 29 語中 17 語で東京方言⓪型であり（残り 12 語の東京方言②型は「淡い，疎い，多い，ごつい，敏い，だるい，ちょろい，とろい，鈍い，のろい，脆い，緩い」で，うち「淡い，多い，鈍い，脆い，緩い」は先行研究（「中井」）で 2 類だが，この 12 語は高知県では 1 類相当で対応している），「博，己」②型（2 類相当）は 46 語中 46 語で東京方言②型である。「博，己」と東京方言を比べると，独立性の検定で $p<0.001$ 水準で東京方言での現れ方に差がある（表 1 の b）。よって音韻対応を認めてよい。その上で，比較に用いる類別語彙については丁寧に絞り込んで行きたい。

高知・東京間の音韻対応を見る場合よりも高知県内の音韻対応を見る場合のほうが 1 類相当の語彙が多いことに注意したい。高知県内でのみ 1 類相当のものは東京を除く全国各地でも 1 類相当かどうか，今後吟味する必要がある。また，先行研究（「中井」）で類別が定まっていないもので今回「博，己，瑞」・東京方言の全地点で一致して音韻対応したものは，1 類相当では「きつい，けむい，眠い」，2 類相当では「えぐい，しわい，ずるい，憎い，ぬるい，ぼろい，惨い，弱い」であり，これらは全国で比較する候補となる。

4 拍形容詞は，先行研究で類別語彙が確立しておらず，調査した全ての形容詞を使って分析する。音韻対応の規則は，1 類は「博，己」④型，東京方言⓪型に対して，2 類は「博，己」③型，東京方言③型であり，3 拍ほど明瞭ではないが音韻対応が認められる。「瑞」を含む高知市方言は 4 拍以上では院政期の 2 型対立を保持していないことがよく知られているので，以降の議論に関わらない。「博」④型 48 語（上の世代が④型だったが「博」は③型のものも含む）に対して「己」④型 13 語（うち「手痛い，体良い，ひだるい」は「博」③型）であり，「己」は 2 型対立をあまりよく保持していないので，以降の議論では「博」のみ扱う。また，東京方言で⓪型と③型併記のものについては全て単純に⓪型の項目として数えているが，これは東京方言における形容詞の 1 型化傾向を考慮して共時的に併用形を持つものを許容するものである。

「博」と東京方言の対応を見ると，「博」④型（1 類相当）は 39 語中 25 語で東京方言⓪型である。25 語の東京方言⓪型は「明るい，危ない，怪しい，いかつい，卑しい，重たい，御安い，悲しい，黄色い，気軽い，気安い，気だるい，煙たい，四角い，冷たい，手厚い，手荒い，手軽い，どぎつい，眠たい，平たい，分厚い，身軽い，空しい，優しい」であり（下線部は秋永ほか編（1998）で文献上 1 類（以下同様），波線部は金田一語類でのみ 1 類），残り 14 語の東京方言③型は「愛しい，聞きよい，悔しい，苦しい，親しい，楽しい，乏しい，眩しい，目敏い，目ぼしい，女々しい，床しい，由々しい，凛々しい」であり（金田一監修・秋永編（2017）と NHK 放送文化研究所編（2016）も同様に③型），その他東京方言にデータが無い「博」④型 9 語は「色濃い，お暗い，小暗い，がめつい，着易い，茶色い，ともしい，丸こい，見づらい」である（うち「茶色い」は後述）。

「博」③型（2 類相当）は 94 語中 80 語で東京方言③型である。80 語の東京方言③型は「敢え無い，あくどい，色良い，煩い，嬉しい，得がたい，大きい，雄々しい，可笑しい，幼い，おっきい，おぼしい，賢い，か弱い，可愛い，汚い，厳しい，際どい，詳しい，気高い，険しい，恋しい，小高い，細かい，賢しい，寂しい，さもしい，しがない，しつこい，しにくい，しぶとい，少ない，すげない，涼しい，すっぱい，素早い，図太い，鋭い，切ない，せわしい，詮無い，正しい，たっ

とい，小さい，近しい，拙い，つましい，つれない，手痛い，手ごわい，でっかい，手早い，手酷い，とうとい，名高い，似げ無い，根深い，儚い，歯痒い，激しい，久しい，ひだるい，等しい，ひもじい，程好い，貧しい，間近い，間遠い，まばゆい，短い，見にくい，醜い，見目良い，めでたい，物憂い，疚しい，余儀無い，由無い，侘しい，わりない」であり，残り 14 語の東京方言⓪型は「危うい，美味しい，お寒い，か細い，気早い，気まずい，毛深い，容易い，手堅い，手ぬるい，手広い，ひ弱い，見やすい，宜しい」であり，その他東京方言にデータが無い「博」③型 38 語は「あざとい，いざとい，お高い，おぼこい，甲斐ない，かわゆい，気強い，気弱い，こそばい，こよない，冴えない，さがない，しづらい，しんどい，すべない，済まない，住みよい，是非ない，足らない，足りない，ちっこい，ちっちゃい，ちゃっちい，づつない，体良い，手づよい，ど偉い，どでかい，ねちこい，根強い，野太い，はしかい，ひやこい，間がよい，無理ない，めんどい，やりこい，訳無い」である。

4 拍形容詞の類別語彙を考える上では，1 類については「博」④型と東京方言⓪型の和集合 62 語を候補としつつ，共通部分の集合 25 語に注目したい。この共通部分の集合を今後吟味することで，より確かな 1 類が得られる（秋永ほか編（1998）で文献上 1 類の語は例証される語例が少なく，類別語彙は方言による所が大きい)。2 類については「博」③型と東京方言③型の和集合 132 語を候補としつつ，共通部分の集合 80 語に注目したい（秋永ほか編（1998）で文献上 2 類の語も例証される語例が余り多くなく，類別語彙は方言による所が大きい)。また，東京方言にデータが無いものは，特に「博」④型 9 語については他の資料を参照したいが，柴田監修，馬瀬・佐藤編（1985）には「がめつい（方言）③型」とあり，金田一監修・秋永編（2017）には「がめつい⓪型，茶色い⓪型」とあり， NHK 放送文化研究所編（2016）には「色濃い③型，小暗い③型，がめつい（俗語）③型，茶色い⓪型，見づらい③型」とあるので，少なくとも「茶色い」は 1 類語彙として認めてよい。

「博」④型 40 語に対して東京方言⓪型 26 語（前述 25 語に「茶色い」を追加して 26 語とし，全体も 39 語から 40 語になる)，③型 14 語であり，「博」③型 94 語に対して東京方言⓪型 14 語，③型 80 語だから，独立性の検定で $p<0.001$ 水準で東京方言での現れ方に差があると言える（表 1 の c)。よって音韻対応を認めてよい。その上で，比較に用いる類別語彙については丁寧に絞り込んで行きたい。4 拍形容詞は今後，諸方言間で類別語彙を積極的に議論してよいと考える。

5 拍形容詞は，先行研究に類別語彙は無く，調査した全ての形容詞を使って分析する。音韻対応の規則は，1 類は「博」⑤型，東京方言⓪型に対して，2 類は「博」④型，東京方言④型であるが，明瞭な音韻対応は認められない。「博」と東京方言の対応を見ると，「博」⑤型（1 類相当）は 28 語中 10 語で東京方言⓪型である（残り 18 語は東京方言④型，その他東京方言にデータが無い「博」⑤型は 8 語)。「博」④型（2 類相当）は 188 語中 162 語で東京方言④型である（残り 26 語は東京方言⓪型，その他東京方言にデータが無い「博」④型は 61 語)。独立性の検定で $p=0.0037<0.01$ 水準（$p<0.001$ は高水準，$p<0.01$ は中間，$p<0.05$ は低水準の有意差で，$p>0.05$ は有意差無しを表す）で東京方言での現れ方に差があると言えるが（表 1 の d)，1 類で対応する語彙が 10 語しかないので，この 10 語（「荒っぽい，薄赤い，薄暗い，聞きづらい，口軽い，香ばしい，小汚い，程遠い，仄暗い，難しい」）がいかに確実に諸方言で対応しているかを見極めた上で判断する必要がある。

6 拍形容詞は，先行研究に類別語彙は無く，調査した全ての形容詞を使って分析する。音韻対応

の規則は，1 類は「博」⑥型，東京方言⓪型に対して，2 類は「博」⑤型，東京方言⑤型であるが，明瞭な音韻対応は認められない。「博」と東京方言の対応を見ると，「博」⑥型（1 類相当）は 34 語中 13 語で東京方言⓪型である（残り 21 語は東京方言⑤型，その他東京方言にデータが無い「博」⑥型は 4 語）。「博」⑤型（2 類相当）は 143 語中 127 語で東京方言⑤型である（残り 16 語は東京方言⓪型，その他東京方言にデータが無い「博」⑤型は 55 語）。独立性の検定で $p<0.001$ 水準で東京方言での現れ方に差があると言えるが（表 1 の e），1 類で対応する語彙が 13 語しかないので，この 13 語（「甘酸っぱい，甘ったるい，甘っちょろい，薄汚い，疑わしい，うら悲しい，気恥ずかしい，気難しい，くすぐったい，小難しい，生易しい，平べったい，物悲しい」）がいかに確実に諸方言で対応しているかを見極めた上で判断する必要がある。

7 拍形容詞は，先行研究に類別語彙は無く，調査した全ての形容詞を使って分析する。音韻対応の規則は，1 類は「博」⑦型，東京方言⓪型に対して，2 類は「博」⑥型，東京方言⑥型であるが，音韻対応は認められない。「博」と東京方言の対応を見ると，「博」⑦型（1 類相当）は 6 語中 2 語で東京方言⓪型である（残り 4 語は東京方言⑥型，その他東京方言にデータが無い「博」⑦型は 3 語）。「博」⑥型（2 類相当）は 41 語中 38 語で東京方言⑥型である（残り 3 語は東京方言⓪型，その他東京方言にデータが無い「博」⑥型は 32 語）。独立性の検定で $p=0.0536>0.05$ となり東京方言での現れ方に差がなく，2 型対立の音韻対応は認められない（表 1 の f）。

8 拍形容詞，9 拍形容詞には「博」語末核型（順に⑧型，⑨型）も東京方言⓪型も認められない。従って 2 型対立の音韻対応は認められない。

表 1. 形容詞の音韻対応のデータと独立性の検定の結果

	形容詞の音韻対応のデータ			独立性の検定の結果			
a	3 拍語	「瑞」H2 型	「瑞」H1 型	検定結果	カイ二乗値	自由度	P 値
	「博，己」③型	35	1	補正なし	47.2700	1	P＜0.001
	「博，己」②型	13	42	Yates の補正	44.3638	1	P＜0.001
b	3 拍語	東京方言⓪型	東京方言②型	検定結果	カイ二乗値	自由度	P 値
	「博，己」③型	17	12	補正なし	34.8692	1	P＜0.001
	「博，己」②型	0	46	Yates の補正	31.6052	1	P＜0.001
c	4 拍語	東京方言⓪型	東京方言③型	検定結果	カイ二乗値	自由度	P 値
	「博」④型	26	14	補正なし	33.6427	1	P＜0.001
	「博」③型	14	80	Yates の補正	31.2924	1	P＜0.001
d	5 拍語	東京方言⓪型	東京方言④型	検定結果	カイ二乗値	自由度	P 値
	「博」⑤型	10	18	補正なし	8.4036	1	0.0037
	「博」④型	26	162	Yates の補正	6.9018	1	0.0086
e	6 拍語	東京方言⓪型	東京方言⑤型	検定結果	カイ二乗値	自由度	P 値
	「博」⑥型	13	21	補正なし	14.6673	1	P＜0.001
	「博」⑤型	16	127	Yates の補正	12.7595	1	P＜0.001
f	7 拍語	東京方言⓪型	東京方言⑥型	検定結果	カイ二乗値	自由度	P 値
	「博」⑦型	2	4	補正なし	3.7265	1	0.0536
	「博」⑥型	3	38	Yates の補正	1.4923	1	0.2219

3. おわりに—まとめと今後の課題

以上を概観すると，2, 3 拍形容詞の音韻対応は問題なく，4 拍形容詞の音韻対応は見込みがあり，5, 6 拍形容詞の音韻対応は 1 類相当の語例が少ないため見込みが少なく，7 拍以上の形容詞の音韻対

応は見込みがないと考えられる。これは4拍以上では，名詞・動詞と同様に，複合語アクセント規則の影響を受けて単純語における規則的な音変化を免れる為と考えられる。また，「博」も東京方言も7拍形容詞までは共時的な2型対立が存在することが分かるが，この特徴は中輪東京式古態を示している「博」としては期待通りの特徴である。今回，拍数にかかわらず形容詞で高知県の中輪東京式古態の方言と東京方言とを初めて比較した意義は，同じ中輪東京式同士といえども四国と関東とでは地理的に隔絶しているので，本土祖体系から共通して受け継がれた4, 5, 6拍形容詞の特徴について議論するのに非常に適しているという点に尽きる。特に4拍形容詞については，中央方言の文献にも語例が少ないとは言え2型対立が例証されているので，類別語彙の議論が期待される。

高知県伊豆田神社付近の方言が中輪東京式古態を維持していることは名詞・形容詞・動詞・四モーラ畳語について高山（2018b）が指摘している。それを受けて本稿では更に形容詞を拍数にかかわらず調査し，4 拍形容詞の類別語彙に関する重要な示唆を与えつつ，やはり中輪東京式古態を維持していることを明らかにした。今後は福井（2019）に見られる岐阜県内輪東京式方言など，中輪東京式古態や内輪東京式古態を維持している各地の方言で同様のテーマに取り組んで行く必要がある。なお4拍形容詞については院政期の2型対立が残る方言であればどんな方言でも役に立つが，先ずは各地の中輪・内輪東京式方言古態のデータが重要となることが予測される。

参考文献

秋永一枝・上野和昭・坂本清恵・佐藤栄作・鈴木豊編（1998）『日本語アクセント史総合資料研究篇』東京：東京堂出版.

上野善道（2006）「日本語アクセントの再建」『言語研究』130: 1-42.

NHK 放送文化研究所編（2016）『NHK 日本語発音アクセント新辞典（第3刷）』東京：NHK 出版.

金田一春彦監修・秋永一枝編（2009）『新明解日本語アクセント辞典（第13刷）』東京：三省堂.

金田一春彦監修・秋永一枝編（2017）『新明解日本語アクセント辞典第2版 CD 付き（第4刷）』東京：三省堂.

柴田武監修，馬瀬良雄・佐藤亮一編（1985）『東京語アクセント資料 上巻・下巻』長野：信州大学人文学部馬瀬研究室，東京：国立国語研究所言語変化第1研究室.

高山林太郎（2018a）『タッスイのッとは何か』高知：リーブル出版.

高山林太郎（2018b）「高知県伊豆田神社付近の方言のアクセント」『音声研究』22(3)：1-16. 東京：日本音声学会.

高山林太郎（2019）「高知県伊豆田神社付近の方言の4拍形容詞のアクセント資料」『埼玉学園大学紀要人間学部篇』19: 383-388. 川口：埼玉学園大学.

高山林太郎（2021）「高知県伊豆田神社付近の方言の5拍以上形容詞のアクセント資料」『埼玉学園大学紀要人間学部篇』21: 433-438. 川口：埼玉学園大学.

中井幸比古（2002）『京阪系アクセント辞典』東京：勉誠出版.

福井玲（2019）「岐阜県旧益田郡方言のアクセントにおける２拍名詞(0)型と(2)型の区別―明治生まれ話者の録音資料から―」『第 33 回日本音声学会全国大会予稿集』86-91. 東京：清泉女子大学. 2019年9月29日.

西周のアクセント資料に対する一解釈 ―中輪式アクセントとして―

中村 明裕[*1]（信濃むつみ高等学校 教諭）

要旨

西周（1829-1897）によるアクセント資料2点（『稿本7』および『詞の麓路』）について先行研究を検討し、新しい解釈を提示する。本発表の主張は以下のとおりである。

(1)『稿本7』における声点は右上が平声、右下が上声、左上が去声である。

(2) 上声は目立った位置（主として1拍目と2拍目の間）に下降があることを意味する。平声と去声とには区別がなく、いずれも目立った位置に下降がないことを意味する。

(3) いずれの資料も西の出身地である石見地方の中輪式アクセントを反映している。

(4) 西によるアクセントの観察は必ずしも正確ではないとみられるが、アクセントの規則等を考察しており、その発想は先駆的である。

1. はじめに

1.1. 本発表の目的

西周（1829-1897）によるアクセント資料は、山岡華菜子（2018、2019）によって紹介され、解釈が提示されている。本発表の目的は、西の資料をよりよく説明できる別の解釈を提示することである。

第1節（本節）では以下、西のアクセント資料の概要を述べる。第2節では『稿本7』の声点の位置について先行研究の説を修正する。第3節では西のアクセント資料が中輪式アクセントを反映しているという解釈を提示する。第4節では西が記述したアクセント規則について論じる。第5節はまとめである。

1.2. 西のアクセント資料の概要

西周は幕末から明治にかけての啓蒙思想家である。1829（文政12）年に石見国津和野藩の藩医の子として生まれた。オランダに留学し、「哲学」などの訳語を生み出したことはよく知られている。貴族院議員を務め、1897（明治30）年に没した。

山岡（2018）は、西の著作の中から以下の3点の資料を紹介し、『稿本7』と『詞の麓路』の2点について分析している。詳しい書誌情報は山岡（2018）を参照されたい。

1.2.1. 『西周文書・稿本（七）』（以下、『稿本7』）

自筆稿本。国立国会図書館憲政資料室蔵。『ことばのいしずゑ』に先行する稿本かという。「こゑ　おなじくして　ひやう　じやう　きよの　けじめ　ある　ことばの　ひやう」と

[*1] nkmr.koborezakura@gmail.com

題された表を含み､漢字に声点を差すという形式で約 700 語のアクセントが記されている。

1.2.2. 『ことばのいしずゑ まきのひとつ』（以下、『ことばのいしずゑ』）

『西周全集』第 2 巻所収。自筆稿本は佐々木信綱の所蔵であったが、現在は所在不明である。明治 3 年以前の成立という。約 400 語が挙げられているが、全集では声点が脱落しているため本発表では検討から外すことにする。

1.2.3. 『詞の麓路 一の上巻』（以下、『詞の麓路』）

自筆稿本。国立国会図書館憲政資料室蔵。「こゑおなじくして三声のけぢめあることばの表」と題された表を含み、カタカナの見出しに声点を差し、その下に「平・上・去」を明記するという形式で､約 1100 語のアクセントが記されている｡明治 6 年以前の成立かという。

2. 『稿本 7』の声点の位置

2.1. 本節の主張

伝統的に、声点は図 1 のように左下から時計回りに平声・上声・去声・入声を表す。『詞の麓路』は図 1 のとおりの声点の位置になっているが､『稿本 7』は左下に点がなく、日本語に使われない入声であることが分かる。山岡（2018）は図 2 のように、左上が平声、右上が上声、右下が去声と解釈している。それに対して本発表は図 3 のように、右上が平声、右下が上声、左上が去声と解釈する。以下、その根拠を 3 点述べる。

図 1. 『詞の麓路』等の声点

図 2. 『稿本 7』の声点への山岡の解釈

図 3. 『稿本 7』の声点修正案

2.2. 『稿本 7』内部の記述

『ことばのいしずゑ』には､「かたは　しやう、あしは　きよ、ひだりの　なかごは　ひやう」（全集 p. 608）という記述がある。山岡（2018）の解釈（図 2）はここから類推したものである。しかし､『稿本 7』内部の記述からは右下が上声であることが導かれる。

まず、普通名詞が人名として転用される場合には去声になるという主張をした箇所（14 ウ）では､「友」など 7 語の右上と左上の両方に声点が差されている。一方が元のアクセントであり、もう一方が人名として用いられたときの去声のアクセントだという意味であろう。したがって、去声は右上か左上のいずれかであり、右下ではない。

次に、動詞は原則として上声であるが同音の動詞が二つある場合は区別するという主張をした箇所（14 ウ-15 オ）では､「飽ク 明ク 起ク 置ク 受ク 浮ク 来ル 暮ル 起ル 送ル 作ル 尽ル」の 12 語が例示されている。それぞれ先に示した「飽ク」等には右下に声点が差され、後に示した「明ク」等には左上に声点が差されている。上声が原則なのであるから、それぞれ

先に示された右下の方が上声と見るべきである。（これらの規則については 4.1.で述べる。）

2.3. 『詞の麓路』との比較

図 3 のように解釈すると、『稿本 7』で平声・上声・去声の注記があるものは、『詞の麓路』でもそのまま平声・上声・去声の注記があるものが多いことになる。山岡（2018）は、『稿本 7』から「早稲田語彙」に含まれる 2 拍名詞と 2 拍動詞を抽出し、『詞の麓路』と比較した表を稿末に載せている。この表を利用して、『稿本 7』と『詞の麓路』とに共通して掲載されている 2 拍語の声点を集計したのが表 1 である。太枠が『稿本 7』と『詞の麓路』とで声点が一致する語の数となる。

表 1. 『稿本 7』と『詞の麓路』の声点の対応（早稲田語彙 2 拍語）

		詞の麓路			
		平声（左下）	上声（左上）	去声（右上）	計
稿本 7	平声（右上）	41	17	24	82
	上声（右下）	16	60	15	91
	去声（左上）	36	21	45	102
	計	93	98	84	275

なお、『詞の麓路』との一致は「ことばの表」のみに見られるのではなく、本文においても顕著にみられる。

2.4. 配置の自然さ

本発表の解釈（図 3）では、声点の位置が右上から通常の縦書きの書字方向に一致する。『稿本 7』で西は我々の見慣れた左下からの時計回りの「平・上・去・入」と全く異なる声点の使い方をしながら、それに対して説明を加えていない。それは、説明を加えなくても分かると西が考えた、自然な並べ方だからではないだろうか。

3. 中輪式アクセントとしての解釈

3.1. 本節の主張

本節では西のアクセント資料 2 点を、次のように解釈する。

(1) 上声は目立った位置（主として 1 拍目と 2 拍目の間）に下降があることを意味する。
　平声と去声とには区別がなく、いずれも目立った位置に下降がないことを意味する。

(2) いずれも西の出身地である石見地方の中輪式アクセントを反映している。

以下では、まず、アクセントについての西の証言と先行研究の解釈について概観する。その上で、本発表の解釈によって西の資料をよりよく説明できることを示す。

3.2. 西の証言と先行研究の解釈

西は「まづ平といふはひとつことばのかしらもしりもたひらかによびてうへ-したにひず

まぬをいふ（略）上といふはことばのかしらにおもくかゝりてしりにかろく去といふはしりにおもくかゝりてかしらにかろきをいふなり」（『詞の麓路』19 オ）と述べている。

山岡（2018 p. 58）はこれに基づいて「平声が平らな音調をあらわし、上声は語の最初が「おもく」（低く）後ろが「かろく」（高く）なる上昇調、それとは反対に去声が下降調をあらわすと考えてよいであろう。」と推定している。しかし、この解釈では西の資料は現代諸方言とうまく合致しない。

また、「おもく」「かろく」をそれぞれ「低く」「高く」の意味に即座に結び付けることはできない。本発表ではむしろ、西が上声を「ことばのかしらにおもくかゝりてしりにかろく」としているのを、語の最初が高く後ろが低い、すなわち、下降するという意味に取る。音調が相対的に高い部分はより強く発音されやすいが、西はそのことを「重くかかる」と捉えたと考えるのである。去声はそれとは反対の上昇調で、平声は文字通り平進調と考える。しかし現代中輪式アクセントには 1 拍目から 2 拍目にかけて平進調と上昇調の区別はないから、去声と平声との間に区別はないことになる。

3.3. 2 拍名詞のアクセント

以下、最も語数が多く、類との対応を見やすい 2 拍名詞について検討する。

西の資料に現れる 2 拍名詞のうち早稲田語彙に含まれるものが、「平声」「上声」「去声」のどれに属するかを、山岡（2018、2019）の集計から抜粋して示すと、表 2 のとおりである[*2]。表 2 を見ると、『稿本 7』でも『詞の麓路』でも、第 1・2・3 類には平声と去声が比較的多く、第 4・5 類には上声が比較的多いことが分かる（太枠部分）。

表 2. 西の資料に現れる 2 拍名詞（山岡 2018、2019 による）

		第 1 類	第 2 類	第 3 類	第 4 類	第 5 類
稿本 7	上声（右下）	10	7	14	27	8
	平声（右上）	18	26	16	5	1
	去声（左上）	41	13	25	6	2
詞の麓路	上声（左上）	18	14	17	33	14
	平声（左下）	36	24	40	8	2
	去声（右上）	31	20	22	3	2

現代中輪式アクセントでは第 4・5 類は[○]○▷型であり、1 拍目から 2 拍目にかけて下降を持つ。また、第 1 類は○[○▷型で第 2・3 類は○[○]▷型であり、単独では両者の区別がつかない。上声は目立った位置に下降があることを意味し、平声と去声は目立った位置に

[*2] 『稿本 7』は山岡（2018）の表 2 により、『詞の麓路』は山岡（2019）の表 8 による。ただし、『稿本 7』については、すでに第 2 節で修正したとおり、山岡（2018）が平声としているものを去声、上声を平声、去声を上声に読み替えてある。

下降がないことを意味すると考えると、この分布が説明できる。

現在、西の出身地である石見国津和野藩（現・島根県津和野町）に当たる地域では、中輪式アクセントが話されている（金田一 1977）。

3.4. その他の語のアクセント

その他の語についても、全体的な傾向としてはおおむね本節の冒頭に示した解釈に合致するようである。

2 拍動詞についても 2 拍名詞と同様、第 1 類（現代中輪式アクセントで○[○型）は平声と去声が多く、第 2 類（[○]○型）は上声が多い（山岡 2018 p.62）。1 拍名詞は数が少ないので 2 拍名詞に比べるとはっきりしないが、おおむね第 1・2 類（○[▷型）は平声と去声が多く、第 3・4 類（[○]▷型）は上声が多い（山岡 2019 p.61）。

『詞の麓路』（21 ウ-22 オ）には「(略) サクラはもと平なれどもヤマザクラとつゞけば上となり（略)」とある。本発表の解釈では、「サ[クラは元は目立った下降がないが、複合してヤ[マザ]クラとなると 1 拍目の後に下降が現れる」のように解釈できる。

4. 西のアクセント規則

4.1. アクセント規則

西は『詞の麓路』（41 オ-42 オ）において、次の 4 つの規則を挙げている。『稿本 7』においてもほぼ同様の説明がなされている。

(1)「ひとつにはもののなは平と上とのふたつおほし」

(2)「ふたつにはもののなをかりてひとのなとなすときはおほく去声となるためしなり」

(3)「みつにははたらき-ことばはなべて上声によむためしなり」

(4)「よつにはかみのためしにかはりておなじこゑのことばふたつあるときは去声によみわくるためしなり」

平声と去声には区別がないとみられるのであるから、(1) はあまり意味のある法則ではなさそうである。また、現代中輪式アクセントからすれば（2）は「上声となる」とあってほしいところである。

（3）については、動詞に有核語が多いのは事実であろう。また、新造語の動詞のアクセント（e.g. 写メる、告る）は一般的に有核となる。

（4）は「よみわくる」と言っているが、無論、語音が同じ語を区別するためにアクセントが区別されているのではない。しかし、この箇所に示された語例（2.2.で引用した『稿本 7』のものと同じ）には注目すべきである。上声とされた語は現代中輪式アクセントで有核であり、去声とされた語は「尽くる」以外無核である。

4.2. 連濁との関係

『稿本 7』には連濁の規則のようなものが多く挙げられている。その中には、いわゆるラ

イマンの法則をライマンより早く指摘した部分など、注目に値する規則が多い。

西は連濁とアクセントとの関係について、「なべての　ためしと　して　ひやうじやうかきよしやうか　なれば、おほく　にごらす、じやうしやう　なれば、かならす　にごる　ためし　なり」(36 ウ) とまとめている。去声と平声 (目立った下降なし) であれば連濁せず、上声 (目立った下降あり) であれば連濁するという意味であろう。たとえば、西は「大鳥」「小鳥」(以上「鳥」は平声)「山鳥」「尾長鶏」(以上「鳥」は上声) を語例として挙げているが、現代中輪式アクセントで「大鳥」「小鳥」は無核かつ連濁せず、「山鳥」「尾長鶏」は有核かつ連濁する。

今日、複合語が有核の場合は連濁しにくく、無核の場合は連濁しやすいと言われることが多い (杉藤美代子 1998、金田一春彦 1976:2001 など)。しかし、太田聡・玉岡賀津雄 (2017) は『新明解日本語アクセント辞典』を資料として、2+2 の 4 モーラの複合名詞における連濁とアクセントの関係を調べた結果、連濁する場合に語末以外にアクセント核があることが多いという傾向を報告している。これは従来言われてきたこととは逆であり、西の主張に近いことになる。

5. まとめ

本発表では西周のアクセント資料について、声点の位置の解釈を修正し、中輪式アクセントを反映するという解釈を提示した。

西の資料には○[○▷型と○[○]▷型の区別等が反映されていないため、得られる情報は限られる。また、類との対応があるとはいっても、その例外となっている語の割合も高く、西のアクセント観察は必ずしも正確ではないとみられる。しかし、品詞や語義に基づいたアクセント規則や、アクセントと連濁の関係について考察しており、その発想は先駆的である。

参考文献

大久保利謙編 (1962)『西周全集 第 2 巻』宗高書房

太田聡・玉岡賀津雄 (2017)「連濁とアクセント――普通名詞と無意味語の場合――」『連濁の研究』開拓社 pp. 69-93

金田一春彦 (1976:2001)「連濁の解」『日本語音韻音調史の研究』吉川弘文館 (初出: *Sophia Linguistica* 2)

――――― (1977)「アクセントの分布と変遷」『岩波講座 日本語 11 方言』岩波書店 pp. 129-180

杉藤美代子 (1998)「柴田さんと今田さん――語音とアクセントの関連――」『柴田さんと今田さん 日本語音声の研究 6』和泉書院

山岡華菜子 (2018)「西周が記述した日本語アクセント―『西周文書・稿本 (七)』と『詞の麓路』を用いて―」『論集』(XIII) アクセント史資料研究会 pp. 55-72

――――― (2019)「西周『詞の麓路』所載の語のアクセントについて」『論集』(XIV) アクセント史資料研究会 pp.49-66

京都府南部若年層方言の語幹重複形容詞における促音・撥音音素の挿入[1]

宮川（みやがわ） 創（そう）
国立国語研究所研究系助教
miyagawa.so.36u@kyoto-u.jp

1. はじめに

重複 (reduplication) とは、語の全体、あるいは一部を繰り返して新しい語を形成する形態論的操作である[2]。語全体を重複させることを全体重複 (full reduplication)、一部を重複させることを部分重複 (partial reduplication) と呼ぶ。重複で形成された語は重複語もしくは畳語、重複で繰り返された部分は重複部分もしくは畳音と呼ばれる。なお、多くの言語では重複回数は 1 回であるが、重複部分を 1 回繰り返すのと 2 回繰り返すので異なる文法機能を持たせるモキル語 (Mokilese; オーストロネシア語族ミクロネシア諸語) のような言語も存在する[3]。また、重複は、統語的に語を繰り返す操作である反復 (repetition) とは音韻的・文法的に区別される[4]。重複は数多くの言語で確認されている。Graz Database of Reduplication (GDR) では様々な語族の 82 言語の重複の例がデータベース化されているほか、World Atlas of Language Structures (WALS) では調査対象の 368 の言語のうち 313 の言語で生産的な重複が存在すると記述されている[5]。

WALS は日本語を「全体重複のみ」 (full reduplication only) を有する言語としている。日本語では、kami~gami 「神々」や hito~bito「人々」など一部の名詞で、連濁を伴う、生産的でない複数性の機能を有する重複が存在する[6]。そのほか、sira~zira-si-i「白々しい」や koo~goo-si-i

[1]［謝辞］筆者に京都府南部方言を教えてくださった話者の皆様、音響音声学的調査についてご指導くださった山岡翔氏、前段階の調査報告に有益なコメントをくださった岡島昭浩先生、金水敏先生、田窪行則先生 (五十音順)、本稿に有益なコメントをくださった占部由子氏、加藤幹治氏、黒木邦彦氏、ジスク・マシュー氏、下地理則氏、陶天龍氏、松岡葵氏、宮岡大氏に心より御礼申し上げます。

[2] 本稿では、重複形態素と語基の境界を Leipzig Glossing Rules に従ってチルダ (~) で、撥音音素を N で、促音音素を Q で表示する。

[3] 例えば、モキル語: jahk「曲げる」、jah~jahk「曲げることができる」、jah~jah~jahk「前後に曲げている」 (Harrison 1976: 236)。ここでは、1 回の部分重複 (reduplication) が可能の機能を有し、2 回の部分重複 (triplication) が反復を伴う動作の進行の機能を有している。

[4] Gil (2005) はリアウ・インドネシア語を実例にして重複と反復の違いを詳細に説明している。

[5] GDR の URL は http://reduplication.uni-graz.at/ (最終閲覧日 2022 年 3 月 22 日) で、このデータベース・プロジェクトについては Hurch & Mattes (2007) を参照。WALS の URL は、https://wals.info/ (最終閲覧日 2022 年 3 月 29 日)で、重複のデータについては Rubino (2013)を参照。

[6] GDR では、複数性を表す機能をもつ重複が様々な語族の言語で確認されている。宮川(2014)では GDR における重複の機能を統計的に調査した。複数性 (82 言語のうち 87%) の次に、様々な語族に渡って存在する重複の機能は、様々な機能の寄せ集めの lexical enrichment (67%)を除けば、強意 (intensification; 54%)、品詞転換 (word class derivation; 40%)、縮小 (diminution; 39%) である (宮川 2014: 492)。

「神々しい」など、一部の形容詞で連濁を生じる生産的でない語根の重複 (例の場合は、sira-、koo-、hute- の重複) が古典語から現代語にかけて見られる[7]。これらの古典語や現代語の形容詞の重複は、語彙的に制限されているため、生産的ではない。しかし、日本語が属する日琉語族でも、琉球諸語では生産的な形容詞重複形が様々な言語あるいは方言で確認されている (占部 2022)[8]。そして、本土の日本語諸方言に目を向けると、京都府南部の方言を中心に、連濁が生じない生産的な形容詞重複形が確認されている (Tani 2012, 谷 2012, 2013)。

2. 先行研究

谷 (2012) は 30 代〜70 代の話者を対象に様々な語形、統語条件で京都方言の形容詞重複形を研究した。この研究では、次の (i)~(iv) の 4 パターンの重複形容詞が観察された。

(i) taka-i~taka-i (40 代前半話者 2 名、70 代前半話者 1 名が完全に許容): 屈折接尾辞 -i を含めて重複するもの
(ii) taQka-i~taka-i (40 代前半話者 3 名、70 代前半話者 1 名が完全に許容): 屈折接尾辞 -i を含めて重複し、かつ促音が重複部分の 2 モーラ目に挿入されるもの
(iii) taQka~taka-i (30 代前半話者 1 名、40 代前半話者 3 名、70 代前半話者 1 名が完全に許容): 語幹のみが重複され、かつ促音が重複部分の 2 モーラ目に挿入されるもの
(iv) taka~taka-i (40 代前半男性話者 1 人が完全に許容): 語幹を重複させるだけのもの

このうちの数人の話者を対象として谷 (2013) では音声学・音韻論的研究がなされ、その語性が議論された。taka- は京都方言では自立形態素ではないことから、(iv) のパターンが重複であることは明らかである。残りの (i)~(iii) において、(i) は taka-i と taka-i、(ii) は taQka-i と taka-i、(iii) は taQka[9] と taQka-i の 2 語ではなく、それぞれ 1 語であることを音響的に証明するために、谷は (i)~(iii) のピッチパターンと統語的な反復 (kowa-i kowa-i kowa-i など) のピッチパターンとを比較した。その結果、これらの重複形容詞のピッチパターンが、統語論的な反復のピッチパターンと異なることが判明した。この結果をもって、谷は、これらの京都方言の重複形容詞が音韻的に 1 語であることを示した (谷 2013: 235)。さらに、谷は重複形容詞には頂高、高、低の

[7] 現代語の重複形容詞については晋 (1995) を、古典語から現代語にかけての重複形容詞の通時的分析については蜂矢 (1998) を参照した。

[8] 占部 (2022) では、琉球諸語の形容詞重複形について、動詞修飾のみできる言語、動詞修飾と名詞修飾ができる言語、動詞修飾と名詞修飾と叙述ができる言語があるため、動詞修飾＞名詞修飾＞叙述の階層性があることを示した。例えば、南琉球八重山語白保方言では、magi~magi=nu munu 「大きいもの」など形容詞重複形によって体言修飾がなされるが、叙述では unu pitu magi-sa 「その人は大きい」など、重複形が使われない (占部 2022: 56)。これに対して、宮古語伊良部長浜方言は、動詞修飾・名詞修飾・叙述の全ての統語パターンの形容詞重複形を取ることができる。この方言の形容詞を分析した Shimoji (2009)、および、記述文法の下地 (2018) 第 8 章 では、宮古語伊良部長浜方言の形容詞は、PC (property concept) 語幹を重複させることによって生じると分析されている。

[9] 京都方言では、taka のように形容詞語幹だけでも、屈折語尾なしで自立語として発話可能である。しばしば、taQka のように促音が挿入され、時に taQkaa のように語末に長音が伴う。

「3 段階のアクセント体系」(谷 2013: 237) を仮定すべきであることを主張した。例えば、◎=頂高、●=高、○=低とすると、kowa-i~kowa-i は谷 (2013) によれば、●○○◎○○か◎○○●○○のアクセントパターンとなる。また、谷 (2012, 2013) は、重複形容詞 (ii) と (iii) において、重複部分 (taQka-i- もしくは taQka-) の 2 モーラ目を常に促音で記述している 。しかし、2013 年、20 代の京都方言母語話者による会話中の発話において、aQtu~atu-i など、谷の (iii) のパターンの重複形容詞のみが見られ、さらに、促音だけでなく saNmu~samu-i のように撥音 (N) が挿入された重複形容詞も見られることに筆者は気がついた。他、筆者は同話者との会話で、谷 (2012, 2013) および Tani (2012) が扱っていない、3 モーラ以上の語幹の形容詞でも重複が可能であることを観察した。そこで、筆者は、20 代前半の京都方言母語話者に対し、この促音・撥音を含む形容詞の語幹重複について調査し、谷の先行研究よりも多くの形容詞において分析を行った。

3. 調査方法

筆者は、2013 年、以下の 20 代前半の京都府南部出身者 2 名のコンサルタントに対して、重複形容詞の調査を行った。

- 話者 A: 22 歳、女性、大学院生: 1990 年京都府京都市生まれ→現在
- 話者 B: 24 歳、男性、大学院生: 1988 年京都府宇治市生まれ→1991 年京都市伏見区に引っ越し→1996 年滋賀県栗東市 (当時栗太郡栗東町) に引っ越し→現在

この調査では、国立国語研究所と Lago 言語研究所が開発した NINJAL-LWP for BCCWJ[10]で用いられている形容詞のうち、頻度が高い 337 のイ形容詞と 54 のナ形容詞 (形容動詞) について語幹を全体重複できるか否か、そして重複可能であればその重複形を、両話者に書面で回答していただいた。その後、音韻論的、形態論的、意味論的特徴について対面で質問を行った。

続いて、2022 年 3 月 11 日に、京都大学吉田キャンパス本部構内文学部校舎の音声学研究室において、音声学者の山岡翔氏の指導のもと、話者 B に形容詞の非重複形と重複形を読み上げていただき、Zoom H5 の録音機と Sennheiser の MKH 416-P48U3 ショットガンマイクを用いて録音を行った。マイクは口から 15cm 程度離し、録音データは、標本化周波数 44.1 kHz、量子化ビット数 16、チャネル数 1 の WAV 形式で SD カードに保存した。その後、録音データを 13 インチ MacBook Pro (M1 チップ搭載; Early 2021) に移し、音響分析ソフト Praat で分析した。

4. 調査結果

イ形容詞については、話者 A では 154、B では 155 の形容詞が重複可能であり、ナ形容詞については、両者ともに raku-na のみが raQku~raku-na と重複可能であり、その他は重複不可であった[11]。重複の機能は、概して GDR の用語を用いると強意 (intensification) であると言え、より詳細に言えば、形容詞が表す性質の程度が大きいことを、強い感情を込めて表すことが話者

[10] 「NINJAL-LWP for BCCWJ」国立国語研究所、https://nlb.ninjal.ac.jp/ (最終閲覧日 2022 年 3 月 26 日)。BCCWJ は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ) を意味する。

[11] 話者両名とも kirei-na は重複不可だが、イ形容詞として再分析した kiQre~kire-i は可能であった。

A・B とのエリシテーションによって明らかにされた。なお、GDR では強意の重複を有する言語は 82 言語のうち 54%であるが、谷の研究 (谷 2012, 2013, Tani 2012) および本研究から、日本語京都府南部方言も、GDR の強意の重複のデータに加えうることを付言したい。

4.1 語幹のモーラ数と重複部分の促音・撥音音素

表 1 は、本調査で得られた重複形容詞の代表例を語幹のモーラ数ごとに整理した表である。

表 1: 調査で得られた重複形容詞の例 (一部)

語幹拍数	語幹	話者 A	話者 B	重複形の大意
1 モーラ	ko- yo-	— —	— —	*とても濃い *とても良い
2 モーラ	atu- ama- ao-	aQtu~atu-i aNma~ama-i aQo~ao-i	aQtu~atu-i aNma~ama-i aQo~ao-i	とても暑い とても甘い とても青い
3 モーラ	sukuna- omota- kanasi-	sukuna~sukuna-i omota~omota-i kanasi~kanasi-i	suQkuna~sukuna-i oNmota~omota-i kaNnasi~kanasi-i	とても少ない とても重たい とても悲しい
4 モーラ	tabeniku- tanomosi- nasakena-	— tanomosi~tanomosi-i nasakena~nasakena-i	taQbeniku~tabeniku-i taNnomosi~tanomosi-i naQsakena~nasakena-i	とても食べにくい とても頼もしい とても情けない
5 モーラ	itizirusi- sirazirasi-	— —	iQtizirusi~itizirusi-i siQrazirasi-sirazirasi-i	とても著しい とても白々しい

1 モーラ語幹形容詞 (例. ko-i「濃い」) は重複不可能であった。2 モーラ語幹形容詞では、話者 A・B ともに重複可能であった。重複部分の第 2 モーラに語幹にはない促音が見られたが、語幹第 2 モーラが鼻音で始まる場合、重複部分の第 2 モーラに促音ではなく撥音が観察された。おそらく、この撥音は挿入された促音が後続の鼻音に逆行同化したものであろう。ただし、語幹に促音がある場合だけは、重複部分第 2 モーラに促音および撥音は見られなかった。例えば、話者 B では語幹 aoQpo-を重複させた場合、*aQoQpo~aoQpo-i は不可で aoQpo~aoQpo-i のみが可能であった。また、表 1 の tanomosi- の例のように、-si-i で終わる形容詞 (古典語のシク活用) でも、屈折語尾 -i を除く語幹全体が重複された。3〜4 モーラ語幹では、促音挿入が話者 B のみで見られた。話者 B では tabe+niku-i など複合形容詞でも複合語幹部分 (tabe+niku-) が重複された。5 モーラ語幹は話者 B でのみ重複できた。ここでも、重複部分 2 モーラ目に促音挿入が見られたほか、sira~zira-si- など重複を含む形容詞語幹も重複された (表 1 の最後の例)。

本研究では、促音が語幹にないかぎり、話者 A は 2 モーラ語幹で、話者 B は 2〜5 モーラ語幹で、重複部分の 2 モーラ目に促音音素が挿入されることがわかった (表 2)。谷 (2012, 2013) の調査では、挿入部分直後の音素が鼻音であっても、重複部分 2 モーラ目に挿入される音素は常に促音として記述されている。しかし、本研究によって、重複部分に挿入された促音の次の音素が鼻音である場合、挿入された促音が逆行同化で撥音に変化することが明らかになった。

表 2: 語幹に促音がない場合の重複形容詞における重複部分 2 モーラ目の促音・撥音の存在

a. 語幹第 2 モーラが鼻音始まり

語幹モーラ数	話者 A		話者 B	
	促音	撥音	促音	撥音
2	no	yes	no	yes
3	no	no	no	yes
4	no	no	no	yes
5	no	no	no	yes

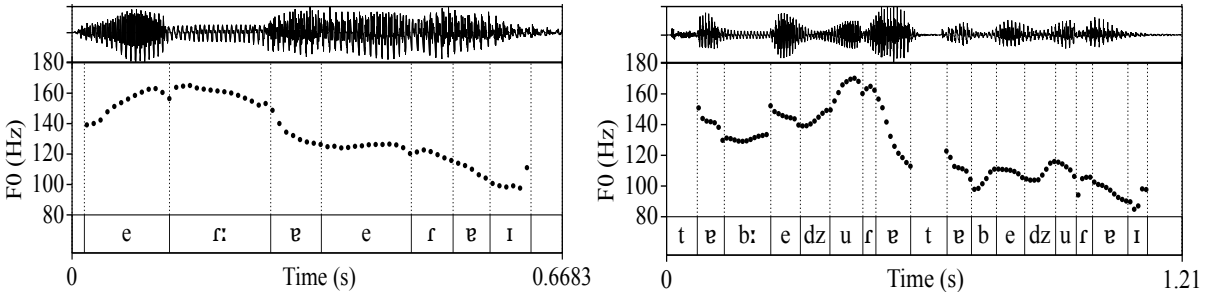
b. 語幹第 2 モーラが非鼻音始まり

語幹モーラ数	話者 A		話者 B	
	促音	撥音	促音	撥音
2	yes	no	yes	no
3	no	no	yes	no
4	no	no	yes	no
5	no	no	yes	no

4.2 アクセントパターン

2022 年 3 月に話者 B に対して調査した重複形容詞は全て高起式であった。図 1 で、2 モーラ語幹重複形容詞の例 (左) と 4 モーラ語幹重複形容詞の例 (右) の音声波形とピッチを表す基本周波数 (fundamental frequency; F0) を示した。2 モーラ語幹重複形容詞 (eQ$^{\downarrow}$ra~era-i など) は、図 1 (左)のように 2 モーラ目まで高く、後は低かった。3 モーラ語幹重複形容詞 (kuQru$^{\downarrow}$si~kurusi-i など) は、重複部分の 3 モーラ目 (kuQru) までが高く、後は低かった。4 モーラ語幹 (taQbezu$^{\downarrow}$ra~tabezura-i など) は、図 1 (右)のように、重複部分 4 モーラ目まで (taQbezura) が高く、後は低かった。5 モーラ語幹 (iQtiziru$^{\downarrow}$si~itizirusi-i など) は、重複部分の 5 モーラ目まで (iQtiziru) が高く、後は低かった。よって、重複部分最終モーラ直前に下がり核があると言える。

図 1: 2 モーラ語幹重複形容詞と 4 モーラ語幹重複形容詞の音声波形と F0 の例 (図内は音声表示)



また、すべてのモーラ語幹重複形容詞で、図 1 の左例のように重複境界直後のモーラで極めて少しだけピッチが高くなる例があった。しかし、ピッチの上昇の程度が非常に小さいため、谷 (2013) に従って頂高・高・低の 3 段階のアクセントを仮定すべきなのかは疑問である。

5. 議論

本調査で観察された京都府南部若年層方言の重複形容詞は、語幹第 2 音節の頭子音の長子音化という統一された現象として捉えるのが一見合理的に見える。しかしながら、aQo~ao-i など語幹 2 モーラ目が母音のみで、音素としては促音で捉えられる声門閉鎖音が挿入される例に関しては、2 モーラ目の先頭が子音ではなく、母音であるため、長子音化では説明できない。よって、重複部分の 2 モーラ目に促音が挿入され、挿入直後の音素が鼻音の場合は、促音が撥音に逆行同化すると説明する方が妥当である。ただし、語幹に促音が無い場合にのみ促音挿入が可能であるほか、話者 A では 2 モーラ語幹形容詞のみに促音挿入が可能という諸制約がある。

6. 結論

30〜70 代の京都方言話者の 2 モーラ語幹重複形容詞を分析した先行研究 (谷 2012, 2013, Tani 2012) で見られた taka-i~taka-i、taQka-i~taka-i、taka~taka-i の 3 パターンは、本調査の 20 代前半の話者 A・B の 2 モーラ語幹重複形容詞では見られず、taQka~taka-i のパターンのみが見られた。先行研究では、形容詞に関しては、2 モーラ語幹の形容詞の重複しか扱われていなかったが、本研究では話者 A では語幹が 4 モーラまで、話者 B では語幹が 5 モーラまで重複できることが確認された。さらに、本研究では、話者 A は 2 モーラ語幹で、話者 B は 2〜5 モーラ語幹で重複部分 (taQka~taka-i の taQka~) に促音が挿入された。ただし、両話者とも、促音挿入部分直後の音素が鼻音の場合、促音が逆行同化して撥音となるほか、形容詞語幹に促音が存在する場合、重複部分に促音挿入 (および促音の撥音への逆行同化) がなされないことが判明した。

話者 B に対するアクセントパターンの分析では、語幹のモーラ数に関わらず、eQ↓ra~era-i のように、重複部分の最後から 2 つめのモーラまで高く、それ以降のモーラは低いことがわかった。このことは、2 モーラ語幹の重複形容詞のみ分析した谷 (2013) では示されていない。

今後は、話者 A と B が重複不可とした形容詞語幹の分析、および、谷 (2012) が 30 代から 70 代の話者に対して行っている様々な語形や統語条件での重複形容詞の使用可能性の調査を、2022 年時点での 20 代・30 代の話者に対して、より幅広いモーラ数の形容詞で実施したい。

参照文献

Gil, David. 2005. “From repetition to reduplication in Riau Indonesian.” In: Bernhard Hurch and Veronika Mattes (eds.), *Studies on Reduplication*, 31–64. Berlin: De Gruyter Mouton.

Harrison, Sheldon P. 1976. *Mokilese Reference Grammar*. Honolulu: University of Hawaii Press. Hurch, Bernhard and Veronika Mattes. 2007. “The Graz Database on Reduplication.” *Faits de Langues* 29(1): 191–202.

Rubino, Carl. 2013. “Reduplication.” In: Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin (eds.), *The World Atlas of Language Structures Online*. Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology. (Available online at http://wals.info/chapter/27, accessed on 2022-03-26.)

Shimoji, Michinori. 2009. “The adjective class in Irabu Ryukyuan.” *Studies in the Japanese Language* 5(3): 33–50.

Tani, Mitsuo. 2012. Adjective reduplication in Kyoto Japanese: a preliminary survey. *Foreign Literature* 61: 67–76.

占部由子. 2022. 「琉球諸語における 形容詞重複形の通方言的比較 —修飾と叙述に着目して—」『日本語の研究』18 (1): 53–69.

下地理則. 2018.『南琉球宮古語伊良部方言』東京: くろしお出版.

晋栄和. 1995. 「現代語畳語形容詞の語構造について: 「転成」との関連をめぐって」『東北大学文学部日本語学科論集』5: 49–60.

谷光生. 2012.「京都方言における重複形容詞と個人語の変異」『外国文学』62: 45–54.

谷光生. 2013. 「京都方言における重複形容詞の音声・音韻的特徴」『宇都宮大学教育学部紀要第 1 部』63: 231–240.

蜂矢真郷. 1998.『国語重複語の語構成論的研究』東京: 塙書房.

宮川創. 2014.「重複語の有契性:言語類型論の視点から」『日本認知言語学会論文集』14: 490–496.

愛媛県大洲方言の動詞尊敬形の形態構造と通時的変化
―言語地図・談話・文法記述のデータを用いて―

宮岡 大（みやおか ひろし）*
（九州大学大学院人文科学府・日本学術振興会特別研究員 DC）

1. はじめに

本発表では，愛媛県大洲方言の動詞尊敬形の形態構造を論じ，それが通時的にどのようにみられるか言語地図・談話・文法記述のデータを用いて記述する。大洲方言などの愛媛県方言では，接頭辞 o- や接尾辞-nahar による動詞尊敬形がみられる。例えば大洲方言では，(1) *kaita*「書いた」に対し，(2)の尊敬形 *okakita, kakinahatta*「お書きになった」がある。

(1)　*kinjoo taroo=wa tegami=o kaita ze.*「昨日太郎は手紙を書いたよ。」
(2)　*kinjoo sensee=wa tegami=o {okakita / kakinahatta} jo.*「昨日先生は手紙をお書きになったよ。」

(1) *kaita* では，動詞語幹 kak-「書く」に過去接辞-ta が後続し，形態音韻交替（例. 音便）が生じる（/kak-ta/ → *kaita*）。一方，(2) *okakita* のように尊敬接頭辞 o- が動詞語幹に先行すると，動詞語幹を連用形（NOT 音便形）にし，それに屈折接尾辞が後続する（/o-kak-i-ta/ → *okakita*）。

本発表では，上述の尊敬接頭辞 o- による尊敬形の形態構造を記述する（§2）。その上で，動詞尊敬形が愛媛県方言において通時的にどのように変化したかを分析する（§3）。

2. 動詞尊敬形の共時的な形態構造: 愛媛県大洲方言を中心に

2.1. 先行研究

藤原（1978）は，接頭辞 o- による尊敬非過去形がみられる地理的分布を，図 1 のように示している。図 1 のとおり，愛媛県大洲方言（藤原 1973）・東中予方言（藤原 1978，今村 1993），愛知県三河方言（古瀬 1971）などでみられることが分かる。これらの現代日本語方言に加え，近世後期上方においても同様の尊敬形がみられる（島田 1960，都竹 1965）。

これらの方言を扱う先行研究において，接頭辞 o- による尊敬形が記述されている。しかし，この尊敬形が語彙的なものか，形態操作として生産的なものか明示されていないもの（武智 1954, 藤原 1973 など）が多い。語彙的なものではないことが示されている先行研究（杉山 1961）においても，全ての語幹や接辞において語形形成が可能か，また連用形とされるのは動詞語根か語幹かといった，形態論的な記述はなされていない。

* miyaoka.0164 (at) gmail.com
大洲方言を教えてくださる KK 氏・DN 氏・SK 氏に，心から御礼申し上げます。本研究は，JSPS 科研費 19H01255, 20H00015, 21J21555 の助成を受けたものです。本研究で用いた「各地方言収録緊急調査」データは，国立国語研究所が所蔵する資料であり，JSPS 科研費 20H00015 の「談話データ整備プロジェクト」を通して提供いただきました。なお，本発表内容は全て発表者の責任によるものです。

図 1.「オ+動詞連用形+ル」分布図
（藤原 1978: 附図第 14 図）

図 2. 愛媛県の方言区画（杉山 1964）地図
（白地図 KenMap Ver.9.2 で発表者作成）

2.2. 調査対象・調査方法

本発表で対象とするのは，愛媛県大洲方言（以下，大洲方言）である。大洲方言の地理は，「伊予郡の双海・中山・広田，上浮穴郡の小田，西宇和郡の保内町の一部〈旧磯津村・日土村〉と喜多郡とをあわせた地域の方言」（杉山 1964: 455）である。この区画を図 2 の地図に示す。

調査協力者は，KK 氏（1932 年生まれ女性）である。KK 氏の調査結果について，多くは DN 氏（1938 年生まれ男性）・SK 氏（1941 年生まれ男性）にも確認している。三氏はいずれも，言語形成期（3〜15 歳）とそれ以降の大半の年数を，大洲市で生活している。調査は，2019 年 8〜11 月に対面で，2021 年 6〜12 月に電話で，発表者作成の調査票を用いて行った。これに加えて，動詞形態論の記述には，2019 年 6 月の三氏らによる自然談話データも用いている。

2.3. 大洲方言の動詞形態論

本節では，大洲方言の動詞形態論を記述する。動詞は，図 3 に示す形態構造をなす。

動詞語幹			屈折
派生接頭辞	動詞語根	派生接尾辞	接尾辞

図 3. 動詞の構造

図 3 の構造のうち，動詞語幹のクラスを設定する。表 1 のとおりである。

表 1. 動詞語幹のクラス

	単独語根	a 語幹	i 語幹	u 語幹
母音語幹 (Vo)	mi-「見る」	mi-		
子音語幹 (Co)	kak-「書く」	kak-a-	kak-i-	kak-u-
変格活用語幹 (IR)	k-「来る」	ko-	ki-	ku-
	s-「する」	se-	si-	su-

次に，文末の屈折接辞を表 2 に示す[1]。【　】は，当該の接辞が後続する語幹クラスを示す。無い場合，その接辞は全ての語幹クラスに後続する。[　]{　} は，当該の接辞が後続する語幹（前者は Co，後者 IR）の種類（表 1）を示す。無い場合，その接辞は単独語根に後続する。

表 2. 文末の屈折接辞

法	時制	肯定	否定
直説	非過去	{u} -ru	[a]{a} -n
	過去	{i} -ta	[a]{a} -nanda
意志		【Co/Vo】-oo,【IR】{a} -u	—
命令		【Co】-e,【Vo/IR】{a} -i	[u]{u} -na

最後に，語根と派生接辞から構成される，動詞語幹の内部構造を示す。現時点で判明している語幹の内部構造は，図 4 に示すとおりである。

待遇		ヴォイス		アスペクト	待遇	
尊敬	語根	使役	受身	非完了	尊敬	丁寧
o-		-sas	-rare	-or	-nahar	-mas

図 4. 動詞語幹の内部構造

2.4. 動詞尊敬形の形態構造（宮岡 2021a, b）

大洲方言において，動詞尊敬形の形成方法には，(3)に示す排他的な 2 通りの方法がある。

(3)　a.　尊敬接頭辞 o- による尊敬形（以下「O 尊敬形」）
　　b.　尊敬接尾辞-rare, -nahar による尊敬形[2]

本節では，(3a)「O 尊敬形」の形成方法を詳述する。O 尊敬形は，(4)に示す方法と順序で形成される。(4c)を経て形成される語形は，図 5 に示す形態構造をとる。

(4)　a.　動詞語根と任意の派生接尾辞が並ぶことで，動詞語幹が形成される
　　b.　移動動詞 ku-「来る」，有生物存在動詞 or-「いる」，or- に由来するアスペクト形態素が(4a)にある場合は，補充法でそれらを oide-「いらっしゃる」にする
　　c.　(4b)以外の場合，(4a)に尊敬接頭辞 o- が先行し，動詞語幹全体を連用形にする
　　d.　(4b)(4c)に屈折接尾辞が後続する

派生接頭辞	連用形語幹		屈折
尊敬 o-	動詞語根	派生接尾辞	接尾辞

図 5. O 尊敬形の形態構造

(4)は，動詞語幹や屈折接尾辞によらず適用可能である。表 3 に動詞語幹ごと，表 4 に屈折接尾辞ごとの O 尊敬形の語形例を示す。加えて，(4c)で動詞語幹全体を連用形にすると記述する根拠となる，動詞語根と派生接尾辞からなる動詞語幹を尊敬形にする例を，(5)(6)に示す。

[1] これ以外の屈折接辞など大洲方言の動詞形態論について，詳細は宮岡（2022）を参照。
[2] それぞれの接尾辞は図 4 に示す位置に生起する。前者は単独語根に，後者は i 語幹に後続する。

表 3. 動詞語幹クラスごとの O 尊敬非過去形・O 尊敬過去形

		非過去	尊敬非過去	過去	尊敬過去
Vo	mi-「見る」	*miru* /mi-ru/	*omiru* /o-mi-ru/	*mita* /mi-ta/	*omita* /o-mi-ta/
Co	kak-「書く」	*kaku* /kak-ru/	*okakiru* /o-kak-i-ru/	*kaita* /kak-ta/	*okakita* /o-kak-i-ta/
IR	s-「する」	*suru* /su-ru/	*osiru* /o-si-ru/	*sita* /si-ta/	*osita* /o-si-ta/

表 4. 屈折接辞ごとの O 尊敬形（例. 動詞語幹 kak-「書く」）

法	時制	肯定	否定
直説	非過去	*okakiru* /o-kak-i-ru/	*okakin* /o-kak-i-n/
	過去	*okakita* /o-kak-i-ta/	*okakinanda* /o-kak-i-nanda/
命令		*okaki* /o-kak-i/	*okakina* /o-kak-i-na/

(5) a. *kakasu* /kak-sas-ru/「書かせる」 b. *okakasiru* /o-kak-sas-i-ru/「書かせなさる」

(6) a. *jobareta* /job-rare-ta/「呼ばれた」 b. *ojobareta* /o-job-rare-ta/「呼ばれなさった」

3. 動詞尊敬形の通時的変化: 愛媛県方言

3.1. 先行研究

O 尊敬形が通時的にどのように成立したか，先行研究の分析方法は(7)(8)の 2 つがある。

(7) 複合動詞分析: 複合動詞「連用形+V」（「連用形+やる」「連用形+ある」）の V が脱落

(8) 連用形命令分析: 連用形命令形式に個々の屈折接尾辞と接頭辞 o- が接続

(7)は，愛媛県方言（武智 1957，岩淵 1964）や近世後期上方（都竹 1965）の O 尊敬形を対象に論じられている。後者は文献において実例が挙げられているが，愛媛県方言の先行研究にこのような形式の実例は挙げられていない。(8)は，近世後期上方（村上 2006）の O 尊敬形を対象に論じられている。以下では，愛媛県方言ではどちらの分析が妥当であるかを検討する。

3.2. 調査方法

O 尊敬形がみられる大洲方言と東中予方言を扱っている先行研究を参照する。この調査対象の先行研究から，調査年月・動詞尊敬形の形式（O 尊敬形以外の尊敬形も含む。ただし，oide- は O 尊敬形から除外する）を確認する。確認した先行研究を表 5 に示す。調査年月が不明のものは，出版年以前の調査であるとする。

表 5. 参照した先行研究

	出典	種類	対象地点 (参照部分)	調査年月
A	国語調査委員会 (1906)	記述	全国 (愛媛県)	1903–04
B	藤原 (1932)	地図	愛媛･広島	(1932 以前)
C	藤原 (1990)	地図	中国･四国	1933–34
D	岡野 (1975)	記･辞	愛媛県松山	(1938 以前)
E	久門 (1974)	記･辞	愛媛県西条	1925–45
F	藤原 (1973)	記述	愛媛県大洲	1950

G	日本放送協会 (1990)	談話	全国 (愛媛県東温)	1956
H	武智 (1957, 1987)	記述	愛媛	1956–57
I	藤原 (1974)	地図	中国･四国	1960
J	藤原 (1978)	記･地	全国 (愛媛県今治)	(1978 以前)
K	国立国語研究所 (編)(2006)	地図	全国 (愛媛)	1979–82
L	愛媛大学方言ゼミナール (編)(1981)	地図	愛媛	1980
M	国立国語研究所 (編)(2003)	談話	全国 (愛媛県松山)	1981
N	各地方言収録緊急調査	談話	全国 (愛媛県大洲)	1981–83
P	国立国語研究所 (編)(1967)	地図	全国 (愛媛)	1982–89
Q	岸江ほか (編)(2008)	地図	愛媛県大洲	2007
R	大西 (編)(2016)	地図	全国 (愛媛)	2010–15

3.3. 調査結果とその解釈

表 5 の先行研究にどのような動詞尊敬形が記述されているか，尊敬接辞ごとに表 6 に示す。

表 6. 尊敬接辞ごとの調査結果（○: その尊敬接辞を用いた尊敬形が出現）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	L	N	Q	現在
-jar	?	?	○	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	×
o-	?	○	?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	?	○
-rare	○	?	?	?	○	?	?	?	?	?	?	○	○	○
-nahar	?	○	○	?	?	○	○	○	?	○	?	○	○	○

表 6 の結果から，愛媛県方言における動詞尊敬形について，(9)(10)を主張する。

(9)　少なくとも 1930 年代から現在まで，O, Rare, Nahar 尊敬形がある
(10)　1930 年代以前には Jar 尊敬形もあるが，これは 1950 年代より前に衰退した

O 尊敬形は 1930 年代（B）から，Rare 尊敬形は 1900 年代（A）から，Nahar 尊敬形は 1930 年代（B）から先行研究に例がある。これらの尊敬形は，(3)に示すように現在の大洲方言においても存在する。このことから，O, Rare, Nahar 尊敬形は 1930 年代から現在まで存在すると分析する。一方，Jar 尊敬形は 1930 年代（C）には記述されているが，1950 年代（F）の文法記述には報告がない。このことから，Jar 尊敬形は 1930 年代以前に存在したが，1950 年代より前には衰退したと分析する。

表 6 と(9)(10)から，O 尊敬形の通時的変化について分析する。(7)(8)に示した分析方法のうち，(7)「複合動詞分析」について，言語地図 C の大洲方言 2 地点で「連用形+やる」が記述されている。しかし，形態素境界の不一致という理由からこの分析は採用できない。「連用形+やる」の屈折接辞が後続する語幹は子音 r 語幹である。一方，(4b)に示したように，O 尊敬形の屈折接辞が後続する語幹は母音 i 語幹（連用形）である。

次に，(8)「連用形命令分析」を検討する。この分析に立つと，O 尊敬形が成立する前に連用形命令形式が出現することが予測される。連用形命令形式は，1950 年代（F）から現在まで記述されている。ただし，資料の性質から，1950 年代（F）以前においても連用形命令形式が存在した可能性がある。一方，O 尊敬形で後続する屈折接辞の調査結果を表 7 に示す。

表 7. O 尊敬形の屈折接辞の調査結果（○: その屈折接辞を用いた O 尊敬形が出現）

	B	D	E	F	G	H	I	J	L	N	現在
非過去 (-ru)	?	○	○	○	○	○	○	○	?	○	○
否定非過去 (-n)	?	○	○	○	?	○	?	?	?	?	○
過去 (-ta)	?	?	?	○	○	?	?	○	?	○	○
命令 (i)	?	?	?	○	○	○	○	?	○	○	○
否定命令 (-na)	(○)	○	?	○	?	?	?	?	?	?	○

連用形命令形式がみられる 1950 年代（F）において，表 7 に示す全ての屈折接辞が O 尊敬形で後続可能であった。このことは連用形命令分析と矛盾しない。加えて，1950 年代（F）以前の資料にも O 尊敬形が存在するが，連用形命令形式が無いのは上述のとおり資料の性質による可能性がある。同様の理由で，後続可能になった屈折接辞の順序も明確には判断できない。

4. おわりに

本発表では，愛媛県大洲方言の O 尊敬形の形態構造を記述し，愛媛県方言の動詞尊敬形が通時的にどのようにみられるかを論じた。前者については，先行研究で明らかでなかった共時的な形態構造を明確に記述した。後者については，愛媛県方言の動詞尊敬形の通時的変化過程を実証的に分析した。しかし，O 尊敬形の成立過程について，複合動詞分析を棄却したが，連用形命令分析を支持/棄却する証拠は現時点では無く，今後の課題である。

参照文献

■愛媛大学方言ゼミナール (編)(1981)『愛媛県言語地図集』愛媛大学方言ゼミナール. ■藤原与一 (1932)『広島愛媛両県方言分布図』広島方言学会. ■藤原与一 (1973)『昭和日本語方言の記述: 愛媛県喜多郡長浜町櫛生の方言』三弥井書店. ■藤原与一 (1974)『瀬戸内海言語図巻』東京大学出版会. ■藤原与一 (1978)『昭和日本語方言の総合的研究 第 1 巻 方言敬語法の研究』三弥井書店. ■藤原与一 (1990)『中国四国近畿九州方言状態の方言地理学的研究』和泉書院. ■岩淵悦太郎 (1964)「言語の変化と方言区画」日本方言研究会 (編)『日本の方言区画』520–538. 東京堂出版. ■今村威 (1993)「松山地方方言の動詞「お……る」について」『愛媛国文研究』43: 106–112. ■岸江信介・津田智史・坂東正康・岡部修典・越智彩乃・玉井紗也香 (編)(2008)『大洲のことば』徳島大学国語学研究室. ■国語調査委員会 (編)(1906)『口語法調査報告書』国定教科書共同販売所. ■国立国語研究所 (編)(1967)『日本言語地図 第 2 集』国立国語研究所. ■国立国語研究所 (編) (2003)『ふるさとことば集成』国立国語研究所. ■国立国語研究所 (編) (2006)『方言文法全国地図 第 6 集 待遇編』国立国語研究所. ■国立国語研究所 (2010)『新日本言語地図』国立国語研究所. ■古瀬順一 (1971)「三河方言における『お行きる』式敬語表現」『国語国文』8: 35–38. ■久門正雄 (1974)『言葉の自然林: 方言俚語の詳密研究と日本語原論』私家版. ■宮岡大 (2021a)「愛媛県大洲方言の動詞尊敬形: 接頭辞 o- に連用形語幹と屈折接辞が後続する形式」第 285 回筑紫日本語研究会・第 51 回九州方言研究会 合同研究会. 2021 年 7 月 3 日. ■宮岡大 (2021b)「愛媛県大洲方言における動詞尊敬形の形態構造」Morphology and Lexicon Forum 2021. 2021 年 9 月 5 日. ■宮岡大 (2022)「愛媛県大洲方言」方言文法研究会 (編)『全国方言文法辞典資料集(7) 活用体系(5)』31–41. 方言文法研究会. ■村上謙 (2006)「近世後期上方における一段化動詞について」『国語と国文学』83(2): 58–71. ■日本放送協会 (1990)『全国方言資料』日本放送出版協会. ■岡野久胤 (1975)『伊予松山方言集』国書刊行会. ■大西拓一郎 (編)(2016)『新日本言語地図: 分布図で見渡す方言の世界』朝倉書店. ■島田勇雄 (1960)「「お行きる」という言い方の由来について」『国文論叢』8: 1–16. ■杉山正世 (1961)「方言の実態と共通語化の問題点 10 愛媛」遠藤嘉基 (編)『方言学講座 3 西部方言』340–368. 東京堂出版. ■杉山正世 (1964)「愛媛県の方言区画」日本方言研究会 (編)『日本の方言区画』446–458. 東京堂出版. ■武智正人 (1954)「愛媛県における方言語法の分布」『愛媛大学紀要 第 1 部 人文科学』2(1): 41–52. ■武智正人 (1957)『愛媛の方言: 語法と語彙』愛媛大学地域社会総合研究所. ■武智正人 (1987)『伊豫の方言: 語法とその分布』私家版. ■都竹通年雄 (1965)「『お行きる』という言い方の歴史と分布」近代語学会 (編)『近代語研究』1: 247–266. 武蔵野書院.

関西における中国人留学生の方言使用　―断定辞、否定辞を中心に―

殷琦（いんき）（大阪大学大学院生）

1. はじめに

これまで、在日留学生における日本語標準語の習得や使用を対象とする研究は多くされてきた。しかしながら留学生と日本語諸方言との関係に焦点を当てる研究はそれほど多くない。また留学生と方言との関係を扱う研究は方言に対する印象や意識を取り上げた調査（松岡ほか 1997、船本 2009 など）がほとんどであり、留学生の実際の方言使用を調査する研究は少ないといえる。留学生の日本語の全体像を捉えるためには、日本の首都圏以外の地域に留学している、つまり、日本語の地域方言というバリエーションとの接触が多いと想定される留学生たちのことばの実態を調査する必要があると考えられる。

そこで本研究は、日本に滞在する留学生の数が最も多い中国人留学生を対象に、方言の社会的勢力が強い関西を調査地とし、談話調査と質問調査の研究方法を組み合わせ、彼らが日本語会話に取り入れる関西方言の使用の特徴と要因を明らかにすることを試みた。本発表では、このうち断定辞と否定辞という二つの項目を取り上げ、量的・質的な分析の結果から、関西在住の中国人留学生が選択的に関西方言を会話に取り入れており、そこには言語内的な要因と社会的な要因の両方が関わっていることを指摘したい。

2. 先行研究と問題のありか

第二言語習得における方言習得に関する研究は欧米の研究者によって多く研究されている。その中に、Baker（2008）と Ringer-Hilfinger（2012）などがある。Baker（2008）と Ringer-Hilfinger（2012）はいずれもある方言要素を手掛かりとして、方言習得の要因を検証する研究である。ただ、実際に第二言語学習者が目標言語のどのような方言項目を習得し、使用しているのかには注目していない。

在日外国人留学生と方言の関係を調査する研究は、方言意識を調査したものがほとんどである。松岡ほか（1997）・船本（2009）はそれぞれ秋田県と熊本県の留学生に方言に対する意識についてアンケート調査を行い、いずれも留学生の地域方言に対する意欲的な学習意識を指摘した。在日外国人留学生の方言使用を研究したものは少ないが、Obsokova（2016）は 3 名の関西の留学生を対象に彼らの方言使用を調査した。その結果として、留学生は、相手と親しい関係を保ち、コミュニケーションをうまく進めるために方言を用い、主に冗談を言う・相手につっこみを入れるといった場面で関西方言を使うと指摘した。しかし Obsokova（2016）は、留学生たちがどのような意図を持って方言を使用しているのかに注目しているため、方言使用自体の特徴やその要因などにはほとんど触れていない。

劉（2016）は日本語学習者の視点から関西方言の文法項目について「自然習得に任せてよい項目」「指導が必要な項目」という二つの面から論じた。そこでは、本発表で扱う断定辞の「ヤ」

は概ね標準語の「だ」に相当していることから、自然習得に任せてよいタイプに入れることができるとし、同様に否定辞の「ヘン」なども自然習得に任せてよいタイプに分類している。

上記の先行研究を踏まえ、本研究は、関西に留学している中国人留学生を対象にその方言使用の実態を明らかにすることを目標とする。本発表では、彼らによる関西方言の断定辞と否定辞の使用状況を取り上げ、留学生の方言使用の特徴と要因を探ってみたい。

3. 調査概要

本研究は関西在住の中国人留学生を対象に、①関西方言の使用実態を調査する談話調査及び②関西方言との接触経験などを尋ねる質問調査を行った。談話調査は 2021 年 2 月から 10 月にかけて実施し、関西在住の 5 名の中国人留学生と彼／彼女らにとって最も親しい日本語話者（非日本語母語話者も含む[1]）との各 40 分ほどの自由会話資料を得た。インフォーマント情報及び談話情報は次の表 1 と表 2 の通りである。また質問調査においては、各インフォーマントの日本語学習歴、関西方言との接触経験、関西方言や特定の方言項目の使用に対する意識などを尋ねた。本発表では、質問調査の結果については考察において補助的に扱うこととする。

表 1　インフォーマント情報

話者 ID	調査時年齢	日本語学習歴（学習形態）	関西の滞在期間[2]
M1	24	6 年（日本語専攻）[3]	3 年 7 か月
M2	26	7 年（日本語専攻）	3 年 1 か月
M3	26	6 年（日本語専攻）	1 年 6 か月
F4	25	6 年（日本語専攻）	1 年 7 か月
F5	25	2 年 6 か月（日本語独学）	1 年 6 か月

凡例　M：男性、F：女性

表 2　談話情報

談話	談話参加者	談話協力者の出身・性別	参加者間の関係	調査年月日	調査場所	文字化時間
D①	M1－T1	韓国・男性	友達	2021/02/09	レストラン（対面）	42 分 28 秒
D②	M2－T2	日本（関西）・男性	友達	2021/10/06	研究室（対面）	41 分 58 秒
D③	M3－T3	ギリシャ・女性	友達	2021/03/22	喫茶店（対面）	45 分 31 秒
D④	F4－T4	日本（非関西）・男性	友達	2021/05/08	公園（対面）	42 分 0 秒
D⑤	F5－T5	日本（関西）・男性	恋人	2021/05/04	自宅（対面）	40 分 17 秒

凡例　T：談話協力者

4. 分析

まず、インフォーマントの関西方言の全体的な使用傾向を表 3 にて確認しておく。

---

[1] Obsokova（2016）は、留学生にとって、NS（Native Speaker：母語話者）より NNS（Non-native Speaker：非母語話者）と話す時の方が方言を話しやすいことを理由に、NNS との会話場面も分析対象に加えている。本研究もこの立場を取り、NS／NNS 問わず最も親しい相手を対話者として選んでもらった。

[2] 調査日まで

[3] 「日本語専攻」は大学で日本語を専門に学んだことを意味する。

分析にあたっては表 3 で示されている語彙や文法など複数の項目を扱ったが、本発表ではそのうち断定辞と否定辞にしぼって分析結果を示す。表 3 からわかるように、方言形の断定辞は全員によって使用されている。一方、関西方言の否定辞については、M1、M2、M3 の 3 名に使用がみられた。否定辞に比べて断定辞の方がより多くの留学生に受容されているのではないかと思われる。以下、4.1 と 4.2 でインフォーマントの断定辞と否定辞の具体的な使用状況を分析していく。

表 3　関西方言の使用状況

方言項目	M1	M2	M3	F4	F5
語彙項目	○（2）	○（4）	○（5）	○（5）	○（4）
断定辞	○	○	○	○	○
終助詞	○	○	○	○	○
否定疑問形式	-	○	○	○	○
ノダ相当形式	-	○	○	○	○
否定辞	○	○	○	-	-
推量形式	-	○	-	○	○
間投助詞	-	-	-	-	○
敬語表現	-	○	-	-	-

凡例　○は使用があることを表し、-は使用がなかったことを表す。語彙項目の（　）内は異なり語数。

4.1. 断定辞

まず、インフォーマントによる断定辞の使用状況を以下の表 4 に示す。

表 4　断定辞の使用数

	M1	M2	M3	F4	F5
ヤ	7	**18**	15	**33**	38
だ	12	14	36	5	18
です	3	1	-	2	69
計	22	33	51	40	125

断定辞の方言形と非方言形（方言形と対になる形式。ここでは「だ」「です」を指す）の使用状況について、表 4 からわかるように、M2 と F4 は「ヤ」の使用数が非方言形「だ」と「です」の使用合計数を上回っている。また F5 の非方言形「だ」と「です」の使用数は方言形「ヤ」の使用数より多いが、普通体である「だ」自体の使用数は「ヤ」の使用数より少ない。ここから、断定辞「ヤ」は留学生にとって比較的習得しやすく、使用しやすい方言項目であると考えられる。これは劉（2016）の「ヤ」が「だ」に相当しており、日本語学習者の自然習得に任せてよいという指摘に合う結果といえそうである。

しかし、「だ」の置き換えとはいえない中間言語的な使用のような例も観察された。また非方言形「だ」「です」にはこのような中間言語的な使用の例はみられなかった。以下（1）（2）で「ヤ」の中間言語的な例を挙げる。

(1)　F4：あ、（アイドル名）君、（アイドル名）君結婚したヤ。

(2)　F5：だから、ゆうと、もしこれ同時にやるヤッタラ、どっちがあたりやったら、

結果的にはきれいに見えるじゃないですかていう話なんですけどね。

このような中間言語的な使用は、非方言形の「だ」「です」にはみられず、「ヤ」に特徴的なものである。中間言語的な「ヤ」の使用は、個人差はあるものの M1 を除くインフォーマント全員にみられた（表 5）。なお、「ヤ」の中間言語的な使用の例は特にケド節とカラ節によくみられた。（3）（4）を参照されたい。

(3) M2：えっと、あっちは、詳しくはわかない、わからないヤケド。

(4) M3：どんだけすごい人って言っても、必ずその人上回る存在があるヤカラ。

表 5 「ヤ」の中間言語的な使用

	M1	M2	M3	F4	F5
ヤの使用数	7	18	15	33	38
ヤの中間言語的な使用数	-	**8**	3	2	6

さらに、表 5 をみると M2 における中間言語的な使用が最も多い。こうしたインフォーマントごとの違いについては 5 で検討する。

4.2. 否定辞

否定辞に関しては、方言形の「ン」・「ヘン」と非方言形の「ない」の使用がみられた。各インフォーマントの方言形と非方言形の使用数を以下の表 6 に示す。

表 6 否定辞の使用数

	M1	M2	M3	F4	F5
ヘン	1	1	1	-	-
ン	1	3	1	-	-
ない	4	33	16	15	38
計	6	37	18	15	38

表 6 からわかるように、関西方言の否定辞を使用しているのは M1、M2、M3 の 3 名の男性のインフォーマントである。F4 と F5 は否定辞「ヘン・ン」の使用がみられず、標準語の否定辞の「ない」のみを使用している。以下（5）～（10）でインフォーマントによる方言否定辞の例を挙げる。【 】内は発話の場面の説明である。

(5) M1：いや、韓国語読めヘンわ。

(6) 【アメリカに留学して簡単にそのまま残れないと話している】
M2：そうそうそう、卒業したら。
K2：そのまま。
M2：泊まってくれヘン。

(7) M3：全然見えヘン。

(8) M1 まじで、大人っぽい？知らンな。

(9) M2：お勧め、僕は上海のものしか知らンので、上海のあいう朝ごはんの、屋台、
屋台でもないか。

(10) 【F3 が帰国したら何をするかについて】

F3：どうせ今戻っても何もできないもん。

M3：就活は全然センな？

「ヘン」使用例は 3 例あり、いずれも「エ段音の語幹＋ヘン」の形式である（例（5）～（7））。一方「ン」の使用は 5 例みられたが、このうちの 4 例が「知らン」で、残る 1 例は「セン」である（例（8）～（10））。「ン」が使用される動詞の種類は限られているようである。

用例数は少ないが、以上の結果から、関西方言の 2 つの否定辞については、「ヘン」がエ段音の動詞語幹と結びつきやすい、「ン」が特定の語の否定形として使用されやすいという可能性が考えられる。方言形の否定辞が使用される環境は限られているのではないかと思われる。

5．考察

ここまで、インフォーマントの談話にみられる関西方言の断定辞と否定辞の使用状況及びその特徴を分析してきたが、本節では、そのような特徴を生み出す要因について質問調査の結果を踏まえて考えたい。

4.1 節で述べたように、留学生による関西方言の断定辞の使用は比較的多いが、用例の中には中間言語的な使用もみられ、特に、ケド節・カラ節での中間言語的な使用が多い。また特に M2 において中間言語的な使用が多かった。M2 の断定辞「ヤ」の使用は関西方言を母方言とする日本語話者からみれば「誤用が多い」「ヤの用法が理解できていない」ということになるかもしれないが、M2 による「ヤ」の多用には社会的な意味があるようである。質問調査において M2 に関西方言の使用理由を尋ねたところ、関西方言を話すと相手と親しくなれると感じる、また相手が親しい人であるほど方言を使いたい、とのことであった。つまり、M2 は方言を社交の道具として用いており、相手が親しい人であれば、用法が正しいかどうかを問わず、できる限り会話に方言を多く入れる傾向があるのではないかと考えられる。M2 は「ヤ」を関西方言の特徴的な表現として捉え、それを積極的に会話に取り入れているとみることができる。また、特にケド節・カラ節での中間言語的な使用が比較的多くみられることから、留学生にとってケド節やカラ節には「ヤ」という関西方言の標識要素を入れやすく、関西方言を話そうとする目的を達成しやすいのではないかと考えられる。要するに、留学生は断定辞「ヤ」を関西方言のマーカーと認識してそれを積極的に使用している可能性があると考えられる。

関西方言の否定辞に関しては、4.2 節で述べたように、全体的な使用数が少なく、「ヘン」がエ段音の動詞語幹と接続して使用される傾向と、「ン」が特定の語に偏って使用される傾向がみられた。このような使用傾向に至る言語内的な要因としては、関西方言の否定辞を使用するには、活用などを覚える必要があり、記憶の負担が大きいことから、留学生たちは方言否定辞の使用を避けようとしている、または、限られた種類の動詞にしか使用せず、生産的な使用に至らないのではないかと考えられる。

さらに、女性である F4 と F5 に方言形の否定辞の使用がみられないことから、M1、M2、M3 のような男性のほうが関西方言の否定辞を用いやすいとも推測される。質問調査においてインフォーマントに関西方言といえばどのようなものがあると思うかと尋ねたときに、「ヘン」を挙げた人も多かった。また関西方言の否定辞の「ヘン」・「ン」に対して「雑」という印象を

持っていると回答した人もいることから、断定辞の「ヤ」と異なり、「ヘン」が関西方言の特徴的な形式と認識されているからこそ、その使用を避けている面があると推測される。つまり、インフォーマントたちは、「ヘン」・「ン」に対する特定のイメージに基づいて、使用するか・しないかを決めている可能性があると考えられる。

6. まとめと今後の課題

本発表では、関西に在住する中国人留学生による関西方言の断定辞と否定辞の使用を取り上げ、関西における留学生の方言使用の特徴とその要因を検討した。インフォーマントの方言形の使用状況と彼らの方言意識などを合わせて分析した結果、以下の 4 点を指摘した。

a. 方言断定辞がインフォーマントによってもっとも多く使用されており、中間言語的な使用もみられ、特に、ケド節・カラ節での中間言語的な使用が多数観察された。
b. 方言否定辞の使用は少なく、使用される環境も限られている。具体的には、「ヘン」がエ段音の動詞語幹と接続して使用される傾向と、「ン」が特定の語に偏って使用される傾向がみられた。
c. 方言断定辞が使われやすい言語内的な要因として、標準語の「だ」と置き換えられる対応関係があることが挙げられる。また留学生にとって方言断定辞が関西方言の標識として意識され、関西方言を話そうとする目的を達成するための手段となっている可能性がある。
d. 方言形否定辞が使われにくい言語内的な要因として、動詞語幹との接続に複雑さがあることが挙げられる。また否定辞のイメージに基づいて、それが関西方言と認識されているからこそ、使用を避けている可能性がある。

以上、関西における中国人留学生の方言使用の特徴と要因を探ってみた。今回は断定辞と否定辞にしぼって分析したが、他の言語項目については、全国的に広く知られている方言形式が用いられやすいなどの特徴がみられる。また、方言使用には個人差があり、それぞれの言語生活や言語意識がこれに関わっているとみられるため、これらを総合的に記述し、留学生の方言使用の全体像を捉えることが今後の課題である。

【参考文献】船本日佳里（2009）「留学生の方言意識―熊本方言テキスト作成のためのアンケート調査から―」『「話してみよう！熊本弁」プロジェクト』.https://www.pu-kumamoto.ac.jp/~iimulab/dialect/sasiyori/index.htm（最終アクセス日 2022/3/27）／松岡洋子・太田寿男・宮本律子（1997）「留学生と地域語―秋田における接触状況と学習意識の調査研究―」『秋田大学教育学部研究紀要人文科学・杜会科学部門』52, pp.125-133.／劉志偉（2016）「学習者の視点から見た『準標準語』文法項目について」『武蔵野大学日本文学研究所紀要』3, pp.53-69.／OBSOKOVA　EKATERINA（2016）『日本語非母語話者による方言使用―大阪に暮らす外国人留学生の関西弁使用をめぐって』平成 27 年度大阪大学文学研究科修士論文（未公刊）.／Baker,Wendy.(2008).Social experiential and psychological factors affecting L2 dialect Acquisition. In Melissa Bowle etc,(Ed.)Selected Proceedings of the 2007 Second Language Research　Forum(.pp.187-198.).Cascadilla Press.／ Ringer-Hilfinger,kathryn. (2012).Learner acquisition of dialect variation in a study abroad context ： the case of the Spanish,Foreign Language Annals,45(3).

談話標識「なんか」から見た拡張的交感機能－聞き手との相互作用に注目して－

肖　潔（北海道大学大学院生）

1. はじめに

本発表は、談話標識の「なんか」が会話の中でどのように交感機能を果たしているのかということについて（検討する/考察する）。本発表で議論する談話標識（語用標識とも呼ぶ）「なんか」は、単独でみると、交感発話とは言えないが、会話の中では、コミュニケーションの形成に役立つような二次的な交感機能が働いている（もしくは、交感機能が背景化している）ととらえられる。Malinowski(1923)が主張した交感機能とは逸脱しているが、人間関係の維持、コミュニケーションの環境を整備するのに役立つものであるため、拡張的交感機能として扱う。従来の助詞・副助詞としての「なんか」とは異なり、談話標識の「なんか」は、「断言をしないで話にのぞむ」という話者のスタンスを示している。このことにより、話者と聴者は対立な関係にならず、柔らかい雰囲気で話を進められるという拡張的交感機能をとらえられる。

2. 先行研究

日本語記述文法研究会（2009）によると、「なんか」は「なんか」類（「なんか」「なんて」「など」）として取り上げられ、主として評価・ぼかしを表すとりたて助詞および主題を表すものとして解釈されている。とりたて助詞としての例は次の（1）～（2）がある。（1）は、マンガを「価値が低いもの」とする話し手の評価が表れている。（2）は、ヨガやヨガに同類のものを漠然と示すようなぼかしが表れている。

（1）マンガなんか読んでいないで、勉強しなさい。「評価」(ibid.2009:7)
（2）ヨガなんか始めてみたらどう？　　「ぼかし」（ibid.2009:8）

評価を表すとりたて助詞としての「なんか」は「なんて」「など」と並び、「価値が低い」「とんでもない」といった話し手の評価を表すものである（ibid.:120）。一方、ぼかしは文中のある要素をとりたて、同類のものがほかにもあることを漠然と示すことにより、文全体の意味をやわらげると述べている（ibid.:126-127）。

また、主題を表す「なんか」は、低評価や見下す態度の対象である主題と端的な例を述べる文の主題がある（ibid.:239）。次のような例が挙げられる。

（3）「低評価や見下す態度の対象である主題」
　　カラオケなんかつまらないよ。　　（ibid.:239）
（4）「端的な例を述べる文の主題」
　A「駅前のラーメン屋さん、繁盛しているらしいね」
　B「そうなんだよ。今日なんか店の前に長い行列ができていたよ」
　　（ibid.2009:240）

（3）の「なんか」は、「カラオケ」という事物を主題として提示し、話し手の「くだらない」といったマイナスの評価を表している。評価を表すとりたて助詞と連続的である（ibid.2009:239）。そして、（4）は「ラーメン屋さんの繁盛」の程度のはなはだしさを端的に具体的な事例で示すとき、その事態を述べる際の主題を示すのに用いられている。

そのほか、「複数の例を挙げる『なんか』」「かなんか」「やなんか」も挙げられている。

（5）この引き出しには、爪切りや耳かきなんかが入っています。（ibid.2009:127）
（6）ジュースかなんかないの？　　（ibid.2009:127）
（7）外食するときは、ベトナム料理｛やなんか/なんか｝をよく食べる。（ibid.2009:154）

（5）における「なんか」は、同類のものの中から複数の例を挙げて示すのに用いられるものである。「爪切り」や「耳かき」と同類のものは省略して「なんか」で表している。（6）における「かなんか」は「かなにか」の話しことばでの形である（ibid.2009:128）。「かなにか」は、主に名詞について、はっきりと特定できない同種のものを指すのに用いられる（ibid.2009:155）。（7）の「やなんか」は「なんか」と似た形式で、同じくくだけた文体で用いられる（ibid.2009:153）。ただし、（5）～（7）は、（2）のぼかしを表すとりたて助詞の意味と類似している。

町田（2021:186-187）は、「なんか」は副助詞としての機能が「など」とほぼ同一であると述べている。否定文に用いられるとき、「など」と同様に、述語が動詞である場合に表示する事態に価値がないという含意[1]が生じる。

（8）太郎は騒ぎなんかしなかった。　（ibid.:187）

これまでの研究により、話し言葉における「なんか」は主に名詞につくとき、助詞や副助詞として機能することが確認されている。しかし、名詞に限らず、発話や節などと連なっているとき、談話標識としての働き方については検討の余地がある。

3. 拡張的交感機能

交感機能は Malinowski（1923）の phatic communion からきているということは言うまでもない。Malinowski（1923:149）によると、交感的表現は、健康についての尋ね、天気についてのコメント、物事の極明らかな状態に関して確認するような話題が交わされるものである。そして、発話の目的は「共同の感情を確立する」（ibid.）ためである。例えば、How do you do? Ah, here you are. Where do you come from? Nice day today（Malinowski1923：150）のようなあいさつの決まり文句がある。上記のような発話の作用は、従来の交感機能だと認識されている。

また、Jakobson（1960:3-7）は、言語伝達行為の六要素における「接触」（contact）という要素に対応する機能は「交感的」（phatic）機能であると述べている。この接触とは、伝達行為が成立するための条件として、話し手と聞き手の物理的および心理的接触のことを指す。言語伝達行為の六要素およびそれに対応する六機能は次の図となっている。

CONTEXT（コンテクスト）
ADDRESSER（発信者）　MESSAGE（メッセージ）　ADDRESSEE（受信者）
CONTACT（接触）
CODE（コード）
（Jakobson,1960:3、訳は発表者による）

図 1　ヤーコブソンの言語伝達行動の六要素

REFERENTIAL（指示的）
EMOTIVE（感情表出的）　POETIC（詩的）　CONATIVE（他動的）
PHATIC（交感的）
METALINGUAL（メタ的）
（Jakobson,1960:7、訳は発表者による）

[1] ここでの「含意」は、「推意」と理解したほうがいいと考えられる。町田（2021:187）では、「なんか」が疑問詞の「何」と副助詞の「か」が複合して形成された形態であり、「何」は発信者が特定することができない事物を表示するという、否定的な意味が含まれているから、動詞が表示する事態に価値がないという「含意」が生じると述べられている。しかし、「含意」は論理的に含まれる情報で、常に成立する論理関係をなすのに対して、「推意」は慣習的に含まれる情報で、成立することが経験的に見込まれるが、必ず成立するわけでないものである（加藤 2004:71）。「なんか」が表示している「価値がない」意味は後者の推意に当てはまると考えられる。

図 2　ヤーコブソンの言語伝達行動の六機能

ヤーコブソンの主張を踏まえると、交感機能は、話し手と聞き手の物理的・心理的接触に重点を置いて作用を果たすものだとわかる。マリノフスキーによって提示されたあいさつの決まり文句は情報内容があまりないが、話し手と聞き手が言い交すことによって心理的接触を深めることができ、交感機能を果たす従来の典型的な交感発話と言える。また、話し手と聞き手の心理的接触が行われることによって、両者のコミュニケーションも融合し、ますます一体化していくことが予測できる。まさに Firth（1964:112）が述べているような phatic communion（交感的言語使用）は基調（keys）や雰囲気（moods）を重要視するものである。雰囲気は、話し手と聞き手とのコミュニケーションの環境を指している。コミュニケーションの環境は穏やか、もしくは和やかな場合、交流はぎこちなさを感じることなく進められる。

よって、交感機能をヤーコブソンの言語伝達行動の六機能の一つとして位置付ける理由は、人間同士のコミュニケーションに不可欠なためである。Jakobson（1960）も述べているように、コミュニケーションにおけるいくつかの機能の存在は階層的になっている。交感機能は六機能の一つとして、ほかの機能とかねて存在することがある。また、機能負担量の観点からみると、交感機能が強い場合、ほかの機能は相応的に弱くなると考えられる。コミュニケーションにおいて、情報の伝達をする際に、聞き手にうまく意見を受け止めてもらう（もしくは、話を聞いてもらう）には、交感機能の作用もあわせて考慮する必要がある。

したがって、情報伝達のみを目的とするコミュニケーションもあれば、情報伝達の際に、聞き手との心理的接触を考慮するコミュニケーションもあるのである。さらに、あいさつのように、情報伝達をせずに、単なる交感発話をもって交感的交流をする場合も存在する。加えて、以上の三つの状況における交感機能の強さもそれぞれ変わっていくのである。下記図 1 のように示す。

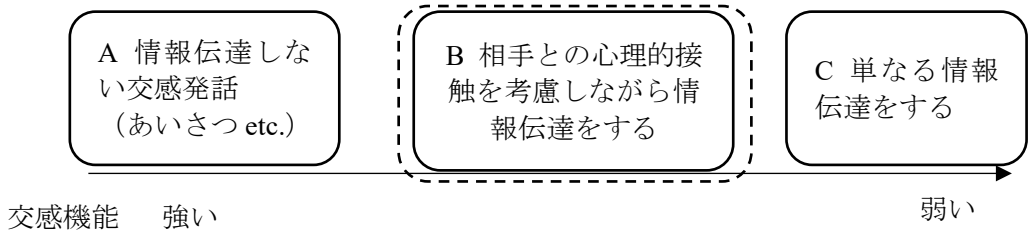


図 3　交感機能の強さの変化

従来、交感機能と言えば、図 3 に示されている A の状況のみが注目されてきた。B の状況における交感機能はそれほど指摘されてはこなかった。本研究では、B の状況に重点を置き、従来の交感機能から逸脱している部分を見ていきたい。聞き手とのコミュニケーションにおいて、情報伝達する際に、ぎこちない雰囲気にならないように環境を整備することがある。このような環境の整備は、会話を開始するときと終結するときのあいさつに限らず、会話中においても不可欠である。例えば、会話中に相手の気持ちを配慮して適切な言葉を選択して使用している、他にも、長時間の相談で疲れたときに合間を見て話題の脱線や話題の切り替えをしたり、会話のクライマックスを迎えるために発話のテクニック(共鳴を引き起こす同調発話など)を用いたりしている。このように、さまざまな場面で会話の環境(雰囲気)を整えているのである。これらは多かれ少なかれ交感機能の役割を果たしている。会話開始時と終結時のあいさつは交感機能を果たすことを主要な目的として存在するものであるが、会話中に情報伝達の際に穏やかな会話環境を確保するための情報のメタレベルでの交感機能を果たすこともある。前者は従来の典型的交感機能であるなら、後者はそこから逸脱した「拡張的交感機能」と言える。本研究は、談話標識「なんか」からその「拡張的交感機能」を捉えていく。

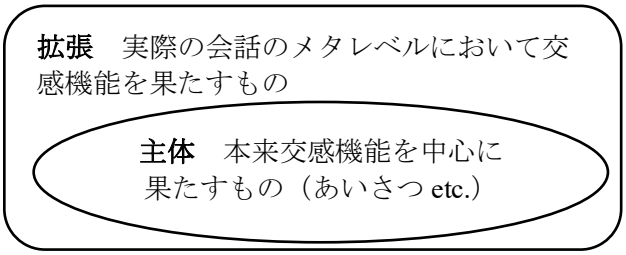


図 4　拡張的交感機能

4. 談話標識「なんか」について

Schiffrin(1987:31-41)によれば、談話標識は、括弧（bracket）のように話の単位（units of talk）の前後に存在し、その語の前後に連なっている談話の連鎖に依拠した要素である(oh, well, and, but, or, so, because, now, then, I mean, y' know はその例である)。話の単位は、音調単位（tone units）、発話、文、節、談話など様々あるという（ibid.）。また、談話標識は、「談話上の目印」（加藤 2004:218）であり、「たぶん」「やっぱり」はその例で情報に関するメタレベルの情報を提示しており、情報に付けるタグに記載されるメタ情報の一部を明示する機能を持っているのである（ibid.:219-220）。本研究は、「なんか」が談話標識として働くとき、どのようにメタレベルで交感機能を果たしているのかを明らかにする。話の単位は発話に限定しないため、発話頭・発話末・発話中に出現した「なんか」に着目して考察を行う。

本研究では、日常会話を中心に調査する。日常会話については、日本語日常会話コーパスモニター公開版（以下、CEJC）を使用する。CEJC は、日常場面における自然会話（男性・女性、10 歳～70 歳までを含める）を 100 時間分の映像を録画録音して公開されているため、本コーパスを中心に検索する。

（9）「T006_004」（抜粋）[2]

（(飲食店で大学の先生・後輩 2 人と授業の打上げ、青木と尾形がそれぞれの先生のティーチング・アシスタントである。)）

01　IC03_青木　パチ パチ屋あるじゃないっすか:＝
02　IC01_尾形　＝うん。
03→IC03_青木　あれ（0.3）グレーゾーンついてるんすか。なんか。
04　IC01_尾形　（0.2）うん?。
05　IC03_青木　（0.4）景品。
06　IC01_尾形　あっ。あ。あー あー。三店方式だっけ?。
07　IC03_青木　はい はい はい はい。

（9）は、尾形が青木に図書券の換金の話をしているとき、青木はパチ屋にも同じように景品の引換はパチ屋とは無関係であるという話をしている。青木は、パチ屋にも同じような換金の話があるという意見を述べるとき、最初は、「パチ パチ屋あるじゃないっすか:」(01)と相手に対して話題を提示してから、「あれ（0.3）グレーゾーンついてるんすか。なんか。」（03）と相手に確認をしている。「グレーゾーンついてるんすか」という質問は「のだ」を付けているため、強い口調を表している。しかし、発話末に「なんか」という用語をつけることによって、「グレーゾーンついている」ということは話し手にはあくまでも推測であり、

---

[2]　会話データは基本的に日本語日常会話コーパスモニター公開版（CEJC）におけるトランスクリプトをもとにしているが、分かりやすく示すように最小限の修正を行っている箇所がある。
トランスクリプト記号
[　]　音の重なり　＝　発話の密着　(0.0)　沈黙・間合い（秒）　(・)　短い間合い
::　音の引き延ばし　.　語尾の音調が下がっている　?　語尾の音調が上がっている
°°小さな音量　(huh)　発話の中の笑い　((　))　転写する人のコメント
(L)ラーフ　笑い　(D)言いよどみ　下線　音の強調

はっきりとした認識ではないという姿勢を聞き手に示している。それにもよって、(03)の全体的な口調がやわらいでいるのである。

(10) [K004_013] (抜粋)
((職場の絵本専門店で店の先輩スタッフ4名と一緒に店に入れる本を選ぶ定例の会議．))
01　N10A_長尾　えー。井上洋介さん?。
02　IC03_篠崎　(0.2) [うん。
03　IC02_佐和　[(そう|そ) [そう。
04　N10A_長尾　[遺作って[こと?。
05　IC04_米山　[うーん。
06　IC02_佐和　こないだ亡くなったからね=
07→IC03_篠崎　=なんか (D ス)最後[だから:。
08　IC04_米山　[うん [うん。
09　IC02_佐和　[うん うーん。

(10)は、絵本専門店のスタッフの方が一緒に絵本を選択している場面である。「井上洋介さん」という作家の絵本を見かけたとき、最近亡くなった方であるため、遺作であるかという話をしている。篠崎は、「最後だから」(07)と言うとき、その前に「なんか」を付けている。発話は「最後だから」だけだとすると、「だから」の使用によって聞き手に言い切るようなイメージを与えるからである。その前に「なんか」を付けると、「あくまでも話し手個人的な考えであり、客観的ではないため、疑問を抱えて聞いてください」という発話のスタンスを示すことができる。それによって、後続の「だから」の口調も弱められ、相手には受け入れやすい言葉になっている。

(11) [T015-008a] (抜粋)
((床屋で中学の同級生の理髪師に散髪してもらいながら雑談している。))
01　IC01_小川　あんまりこう (D ガ) なんてゆう よく はっきりはわかんないんだけど=
02　IC02_正裕　=うーん。
03→IC01_小川　(0.1)でもなんかちょっとこうなんてゆうの
04　IC01_小川　(0.2)力強さがないってゆうか[こう。
05　IC02_正裕　[あー。

(11)は、床屋で中学の同級生と雑談している場面である。二人は先日亡くなった知り合いの話をしている。小川は当時その知り合いに出会ったとき、知り合いの体調に関する印象を話している。「なんというのかはっきりわからないけど」ということであるが、「力強さがない感じ」(03)という話し手の印象を述べるとき、「なんか」を付けている。このときの「なんか」は、「でも」に後続して発話中に現れている。「でも」は、前の文(01)に述べた情報に対してこれから言うこと(「力強さはない」ということ)は対照的であると示したいために用いられている。しかし、「力強さはない」という意見を述べるとき、話者の態度は断言ではなく、「あくまでも主観的な考えである」というメタ的な情報を聞き手にも伝えたく、「なんか」を用いている。

(12) [T015-008a] (抜粋)
((床屋で中学の同級生の理髪師に散髪してもらいながら雑談している。))
IC02_正裕　いや。最近なの?。
IC01_小川　そう。だから 前になんかさ　あの:
IC02_正裕　うん。
IC01_小川　吉井先生とかと飲んだ時があって:(略)

（12）は、（11）と同じ会話場面である。「なんか」は発話中に出現しているが、とりたて助詞や副助詞として働くのではなく、談話標識として機能している。「なんか」は、「これから言うことは必ずしも正しいわけではないが」というふうに、「だから」の口調の強さをやわらげ、断言を回避する姿勢を見せ、優しいスタンスを示している。それによって、話し手と聞き手のコミュニケーションが柔らかい雰囲気で進めることができるようになる。

5　おわりに

上記の分析によって、「なんか」は談話標識として用いられるとき、発話中だけではなく、発話頭と発話末にも出現することが判明した。また、「なんか」は発話中に現れるとき、よく「だから」「でも」のようなはっきりとした意見を断言するときに用いられる談話標識の周りに付けて、発話全体の口調をやわらげる機能を持っている。このような機能は、話し手の心的態度を表すというより、「断言しないで話している」という話し手のスタンスを聞き手に伝えるのである。「断言する」は一種のモダリティの在り方であるため、「断言するかどうか」というより、「断言しない言い方をするよ」「断言しないような言い方で話にのぞむよ」という姿勢を示しているのである。すなわち、モダリティを直接表しているというより、モダリティの使い方を表示しているのである。モダリティに関する何かを表しているため、メタ的モダリティともいえる。

このような「断言しないで話を進める」姿勢は、コミュニケーションの環境を作るという交感機能の役割に当てはまる。本来の発話は交感機能を中心に果たすものではないが、以上のような談話標識としての使用により、会話の雰囲気を和らげる機能も存するのである。よって、図 4 が示している拡張的交感機能としてとらえられる。今後は、談話標識としての「なんか」のような拡張的交感機能としての表現が他にも存するかどうかという点について検討していく。

謝辞　本研究は，JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2119 の支援を受けたものである.

参考文献

Firth. J.R.（1964）‘Context of situation’.The Tongues of Men and Speech. In R. Mackin, &P. D. Strevens（eds）, Language and Language Learning. pp.110-114. London： Oxford University Press

加藤重広（2004）『日本語語用論のしくみ』研究社

小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉 「『日本語日常会話コーパス』モニター版の設計・評価・予備的分析」『国立国語研究所論集』18, pp.17-33, 2020.1.

Malinowski. B（1923）‘Phatic Communion’. Communication in Face to Face Interaction, Selected Readings. Edited by John Laver and Sandy Hutcheson,1972. pp.146-152, Great Britain：Penguin Books

町田　健（2021）『日本語文法総解説』研究社

日本語記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法 5　第 9 部とりたて　第 10 部主題』代表仁田義雄,くろしお出版

Jakobson, R (1960). Linguistics and Poetics. In :Thomas A. Sebeok(ed.) Style in Language, 350-377, John Wiley and Sons, New York.（邦訳:ロマーン・ヤーコブソン（1973）．言語学と詩学 一般言語学　川本茂雄監修，田村すゞ子・村崎恭子・長嶋善郎・中野直子共訳，みすず書房，183－221）

Schiffrin, D.(1987) *Discourse Markers*. Cambridge University Press.

［使用データ］

『日本語日常会話コーパス』モニター公開版,国立国語研究所, https://chunagon.ninjal.ac.jp/,ひまわり全文検索システム

宮古語久松方言の活用パターンによる動詞分類の一試案[1]

陶 天龍（タオ ティアンロン）（東京外国語大学大学院生・日本学術振興会特別研究員 DC1）

1. 研究背景

宮古語諸方言における規則動詞は，一般的に共通語の一段動詞に相当する動詞，及び共通語の五段動詞に相当する動詞に分類することができる。宮古語諸方言における記述では，前者は，「クラス 1」動詞（伊良部方言，下地 2018: 164），「第 1 類動詞」（池間方言，林 2013: 95），「-i 動詞（Les verbs en *-i*）」（大神方言，Pellard 2008: 148），「b 類」動詞（平良下里方言，中本 2014）などと呼ばれており，後者は，「クラス 2」動詞（伊良部方言，下地 2018: 164），「第 2 類動詞」（池間方言，林 2013: 95），「一般類の動詞（Les verbs de la classe générale）」（大神方言，Pellard 2008: 149），「a 類」動詞（平良下里方言，中本: 2014）などと呼ばれている。また，不規則動詞の認定は，方言ごとに異なる。

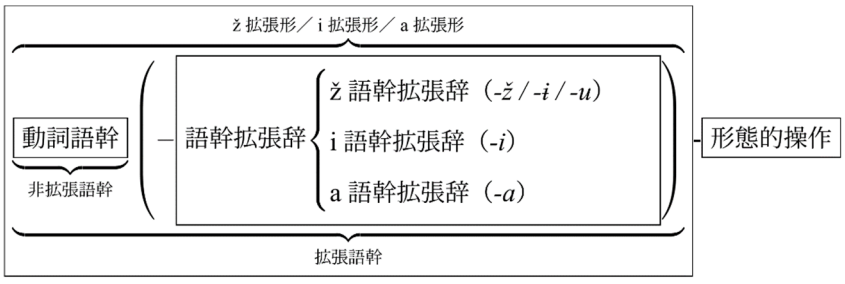
本発表では，久松方言の動詞の活用パターンによる分類の基準を設定し，林（2013）の用語に従って，規則動詞を第 1 類動詞と第 2 類動詞に分類し，さらに語幹拡張辞のあるなしや種類によって第 2 類動詞を 4 つのグループに分ける。そして，不規則動詞の定義を行い，14 の動詞を不規則動詞と認定する。

なお，本発表では，2020 年から 2021 年にかけて，電話調査により，昭和 33 年生まれの女性のコンサルタントから得られた久松方言のデータをもとに分析しているが，2018 年から 2019 年にかけて，久松地区で数名のコンサルタントから収集したデータも参照した。

2. 語幹の定義

本発表では，語幹を「ある形態的操作が適用される部分」と定義する。この定義はHaspelmath and Sims（2010: 36）における語基の定義であるが，本発表では，語基を設定せずに，この定義を語幹の定義として使う。久松方言では，規則動詞に第1類動詞と第2類動詞があり，語幹に接辞添加，重複，複合などの形態的操作を適用させる場合，語幹拡張辞（thematic vowel, Bickel and Nichols 2007: 202-204，日本語訳は下地2018に従う）が要求される場合がある。本発表では，語幹拡張辞がついていない語幹を非拡張語幹（下地2018）と呼び，語幹拡張辞がついた語幹を拡張語幹（下地2018）と呼ぶ（e.g. *ikadi* //ik-a-di// <行く-語幹拡張辞-意志>「行く，行こう」の*ik-* は非拡張語幹であり，*ika-* は拡張語幹である）。語幹拡張辞は，ž語幹拡張辞 {*-ž / -i / -u*}，i語幹拡張辞 *-i*，a語幹拡張辞 *-a*の3種類あり，屈折接辞や派生接辞などによって決まる。各語幹拡張辞がついたときの拡張語幹を下地（2018）に従って，それぞれž拡張形・i拡張形・a拡張形と呼ぶ[2]。

(1) 非拡張語幹と拡張語幹



3. 動詞語幹の種類

まず，久松方言の動詞語幹は，形態的操作によって，非拡張語幹と 3 種類の拡張形（拡

[1] 本発表はJSPS科学研究費補助金（JP20J22719，課題名「言語類型論研究に資する南琉球宮古語久松方言の文法記述」，研究代表者：陶天龍）による研究成果の一部である。また，調査にご協力くださったコンサルタントの方々にお礼申し上げる。

[2] ただし，本発表における ž 語幹拡張辞と ž 拡張形は，伊良部方言（下地 2018）では設定されておらず，本発表の ž 拡張形に相当するものは，伊良部方言では，1 つの定形の非拡張語幹（下地 2018: 164）と見なされている。

張語幹）が使い分けられている[3]。表 1 では，それぞれの語幹につくことが可能な屈折接辞の例を挙げている。

表 1　各種語幹につくことが可能な屈折接辞

	非拡張語幹		ž 拡張形		i 拡張形		a 拡張形	
接辞	*-i / -ru*	命令	*-Ø*	非過去	*-tti*	継起	*-n*	否定非過去
	-i	付帯状況	*-tar* (→*-taa*)	過去	*-mmai*	逆接条件	*-di*	意志
	-amma	否定意志	*-cikaa*	条件	*-ba*	理由／条件	*-mmai*	逆接条件
			-ba	理由／条件			*-ba*	理由／条件

第 2 類動詞の ž 拡張形は，非拡張語幹の末音によって，{*-ž / -i / -u*} のいずれかが決まる。ただし，成節子音（/m, vv, ž, žž/）でおわる非拡張語幹は，ž 語幹拡張辞がつくことが不可能であるが（*jum-φ*[4]），便宜上，これを ž 拡張形に含める。そのため，語幹拡張辞がつくかどうか，また，つく場合の形態によって，第 2 類動詞を表 2 のように，4 つのグループに分けることが可能である。ただし，不規則動詞の語幹は，いずれのグループにも分類できないものがあるが，そのような語幹を「特殊」類語幹と呼ぶ。

表 2　久松方言の動詞語幹の種類

		非拡張語幹（例）	ž 拡張形	i 拡張形	a 拡張形	語幹末音[5]
第 1 類動詞（1）		「探す」*tumi-*	*tumi-ž-*	*tumi-φ-*	*tumi-φ-*	i, e
第 2 類動詞（2）	2a	「書く」*kak-*	*kak-ž-*	*kak-i-*	*kak-a-*	k, g, b, p, r
	2b	「出す」*idas-*	*idas-i-*	*idas-i-*	*idas-a-*	s, t, f, ff
	2c	「買う」*ka-*	*ka-u- (→koo)*	*ka-i-*	*ka-a-*	a, u
	2d	「読む」*jum-*	*jum-φ-*	*jum-i-*	*jum-a-*	m, vv, ž, žž

4.　形態音韻規則

本節では，動詞の非拡張語幹に語幹拡張辞や屈折・派生接辞などの接辞がつく場合に起こる形態音韻規則を紹介する。なお，形態音韻規則で非拡張語幹から，拡張語幹（非拡張語幹+語幹拡張辞）および動詞の活用形（非拡張語幹（+語幹拡張辞）+屈折接辞）の表層形が予測できる動詞をすべて規則動詞として扱う。なお，すべての規則動詞には，非拡張語幹が 1 つのみ存在し，規則動詞の拡張語幹と活用形は形態音韻規則で予測可能である。

(2) 形態音韻規則

i. //r// 削除規則 : //r// で終わる非拡張語幹に子音で始まる接辞がつく場合，//r// が削除される。
　e.g. *nuuž* //nuur̲-ž-Ø//「乗る」　　cf. *nuur̲adi* //nuur̲-a-di//「乗ろう」

ii. //ž// 脱落規則 : 第 1 類動詞は，文末の位置に現れ，かつ非過去接辞 *-Ø* が後続する以外の環境においては，//ž// の脱落が任意に起こる[6]。
　e.g. *mii(ž)taa* //mii-ž̲-Ø//「見た」　　*mii(ž) pžtu* //mii-ž̲-Ø pžtu//「見る人」
　cf. *mii*(ž)* //mii-ž̲-Ø//「見る」[7]

iii. //t// の破擦音化 : //t// で終わる語幹に //i// と //i//（あるいは //j//）で始まる接辞がつくと，//t// が /c/ として実現される。
　e.g. *tac̲i* //tat̲-i-Ø//「立つ」　　cf. *tat̲an* //tat̲-a-n//「立たない」

---

[3] ただし，表 1 のように，一部の接辞は，複数の拡張形に後続することが可能である。(e.g. {*ikaba / ikiba / ikžba*} //ik-{a/i/ž}-ba//「行けば，行くので」)

[4] この *-φ* は語幹拡張辞ではなく，語幹拡張辞がつくことが不可能であるという意味のマーカーである。実質上，*jum-φ-* は *jum-* と同じものであり，非拡張語幹である。

[5] 語幹末音が ff と žž の場合は，*ff-*「閉める，降る」と *žž-*「入る」のように，「語幹末音=非拡張語幹」のものを指す。

[6] ただし，第 1 類動詞に派生する受身の接辞 *-(ra)ree* は，文末の位置に現れ，かつ非過去接辞 *-Ø* が後続する環境においても，//ž// の脱落がしばしば起こる（e.g. *numaree(ž)* //num-raree-ž-Ø//「飲まれる」）。

[7] *(X) は括弧内の要素 X が省略されると，非文になるという意味である。

iv. //a-u// → /oo/：複合境界など一部の例外を除いて，/au/ の連続は存在しない[8]。
e.g. *koo* //ka-u-Ø//「買う」　　cf. *kaadi* //ka-a-di//「買おう」

v. //(u)u-a// → /(a)aa/：複合境界など一部の例外を除いて，/ua/ の連続は存在しない[9]。
e.g. *jukaadi* //juku-a-di//「休もう」　cf. *jukui* //juku-i//「休みなさい」

vi. 母音連続が最大で 2 つ：母音が 3 つ以上連続する場合，母音を 2 つまで削除しなければならない。
e.g. *bjaamma* //bjuu-amma//「酔わない」（*bjuuamma* → *bjaaamma* → *bjaamma*）
sjaamma //sii-amma//「しない」（*siiamma* → *sjaaamma* → *sjaamma*）

vii. //v// 削除規則：//vv// で終わる動詞語幹に，母音で始まる接辞が後続しなければ，//v// が 1 つ削除される。（下地 2018 の分析に従う）
e.g. *nivtaa* //nivv-tar//「眠った」　　cf. *nivvadi* //nivv-a-di//「寝よう」

viii. 最小音韻語規則：最小音韻語は 2 モーラでなければならない。
e.g. *kžž* //kž-φ-Ø//「切る」　　cf. *kžtaa* //kž-φ-tar//「切った」

ix. /ž/ の挿入：久松方言では，/žV/ の連続は，/žžV/（CCV）と /CžžV/（CVCV）という音節構造にのみ存在し，それ以外の環境には存在しない。そのため，//Cž// で終わる動詞語幹に，母音で始まる接辞がつくと，表層形で子音スロットにもう 1 つの /ž/ が挿入される必要がある（//Cž-V// → /CžžV/）[10]。
e.g. *kžžadi* //kž-a-di//「切ろう」　　cf. *kžtaa* //kž-φ-tar//「切った」

5. 不規則動詞

不規則動詞の認定は，方言ごとに異なる。たとえば，伊良部方言（下地 2018: 182-186）では，「特殊な動詞」として「する，来る，ない」が挙げられており，平良下里方言（中本 2014）では，「する」と「来る」が挙げられている。また，大神方言（Pellard 2008: 153）では，「する，ある，いる，追う，死ぬ，舐める，直す，行く」が挙げられており，池間方言（林 2013）では「なさる，取る，駆ける，する，来る，形容詞の動詞化接辞（*-kar*），コピュラ」が挙げられている。ただし，伊良部方言（下地 2018: 191, 208）と大神方言（Pellard 2008: 151-152）では，*-kar*（形容詞の動詞化接辞）とコピュラは，不規則動詞（特殊な動詞）とは異なる項目で扱われている。

本発表では，久松方言で，ある動詞が，①2 つ以上の非拡張語幹があること，②特殊な拡張形，屈折接辞，形態音韻規則，そのほか特殊な活用形などが適用されること，の少なくともいずれかを満たすと不規則動詞として扱う。

このように定義された不規則動詞は現時点では，*tur-*「取る」，*kar-*「形容詞の動詞化接辞」，*anz-*「言う／歌う」，*bjuu-*「酔う」，*mmee-*「いらっしゃる」，*sama-*「なさる／尊敬接辞」，*ur-*/*mii-*「いる」，*ar-*/*njaa-*「ある」，*jar-*/*ar-*「コピュラ」，*ff-*/*fɨr-*「降る」，*ss-*/*ssjuur-*「知る／知っている」，*sɨn-*/*sɨni-*「死ぬ」，*kž-*/*kuu-*「来る」，*sii-*/*ss-*/*sɨi-*「する」の 14 個が確認できている。以下のように語幹の数によって分類できる。

5.1. 1 つの語幹を持つ不規則動詞

・*tur-*「取る（2a）」は //i// で始まる接辞が後続すると，//r// が例外的に脱落することが可能である。

e.g. *tu(r)i* //tur-i//「取りなさい」　　*nuuri* (**nuui*) //nuur-i//「乗りなさい」

・*kar-*「形容詞の動詞化接辞（2a）」の ž 拡張形は，*kaž-* //kar-ž-// という規則的なものが存在する一方，語幹拡張辞がつかない最もよく使われる *ka(a)-* //kar-φ-// という不規則なものも存在する。

e.g. *takaka(ž)taa* //taka-kar(-ž)-tar//「高かった」

・*anz-*「言う（2b）」は唯一子音 /z/ で終わる非拡張語幹であるが，規則的な動詞語幹である。しかし，過去接辞 *-tar* と条件接辞 *-cikaa* がつく場合，規則的な活用形（*anzɨtaa* //anz-ɨ-

[8] また，希に対格助詞 //ju// の //j// が脱落し，//a// で終わる名詞にそのまま後続することがあるが（e.g. {*icoo* / *icaju* / *icau*} //ica=ju// <板=対格>「板を」），規則動詞の場合はすべて iv の規則に従う。

[9] ただし，//u// で終わる名詞に主題助詞 //ja// がつく場合，//j// が落ち，//u// と //a// の連続が /oo/ になるが（e.g. {*usuja* / *usoo*} //usu=ja// <項（うなじ）=主題>「項を」），規則動詞の場合はすべて v の規則に従う。

[10] 久松方言の /ž/ は成節子音であるが，伊良部方言（下地 2018）と同様に，母音のスロットにも子音のスロットにも入るという分析を取る。

tar//, *anzɨcikaa* //anz-ɨ-cikaa//）を持つほか，//zɨ// を脱落させ，*antaa*, *ancikaa* という不規則な活用形も存在する。他の宮古語諸方言では，「言う」という動詞の語幹は *ažž-*（伊良部方言，下地 2018），*au(r)-*（大神方言，Pellard 2008），*az- / ai-*（池間方言，林 2013）などのように，久松方言の /ž/ に相当する音素 /ž/, /ɯ/, /z/ が存在するため，久松方言の *anz-* はもともと**ažž-* であった可能性が高い。そして，//v// 削除規則と同様に，//žž// で終わる動詞語幹でも，母音で始まる接辞が後続しなければ，//ž// が 1 つ削除されると分析できると考えられる（下地 2018 の分析による）。また，すでに言及したように，久松方言の //ž// が一部の環境においてしばしば脱落することがある。そのため，「言う」の語幹が**ažž-* から *anz-* になり，ž 拡張形 *anzɨ-* の //zɨ// が //ž// の代わりに脱落するようになったが，その脱落が過去接辞と条件接辞が後続する場合のみに残留していると考える。ただし，//r// でおわる 2a 類動詞語幹の ž 拡張形は，これらの接辞が後続しても，//ž// が原則的に落ちない[11]。また，第 1 類動詞の ž 拡張形は，多くの環境では，//ž// が脱落することが可能である。

e.g. {*an(zɨ)taa / an(zɨ)cikaa / an*(zɨ) pžtu*}
//anz-ɨ-tar / anz-ɨ-cikaa / anz-ɨ-Ø pžtu//「言った／言ったら／言う人」
cf. {*tu(ž)taa / tu*(ž)cikaa / tu*(ž) pžtu*//（2a）
//tur-ž-tar / tur-ž-cikaa / tur-ž-Ø pžtu//「取った／取ったら／取る人」
{*mii(ž)taa / mii(ž)cikaa / mii(ž) pžtu*}（1）
//mii-ž-tar / mii-ž-cikaa / mii-ž-Ø pžtu//「見た／見たら／見る人」

・*bjuu-*「酔う（2c）」は，*bjuu-* //bjuu-u-// という規則的な ž 拡張形が存在する一方，*bjuuž-* //bjuu-ž-// という不規則な拡張形も存在する。久松方言では，一般的に，2c 類の動詞の語幹拡張辞が *-ž* の場合は，複合語でしか使われないが，この動詞のみ，複合語以外の環境で使われることが可能である[12]。

e.g. *bjuu(ž)cikaa* //bjuu-{u/ž}-cikaa//「酔ったら」
{*umuucikaa /*umužcikaa*} //umu-{u/*ž}-cikaa//「思ったら」
cf. {**umuudasɨ / umuždasɨ*} //umu-{*u/ž}+idas-ɨ-Ø//「思い出す」（2c）
{*vuudasɨ / vuždasɨ*} //vuu-{u/ž}+idas-ɨ-Ø//「追い出す」（2c）

・*mmee-*（1）「いらっしゃる（「来る，いる」の敬語）」は，規則的な第 1 類動詞とほぼ同じ活用をするが，命令形は，*-ru* ではなく，*-ci* という特殊な接辞が使われる。
・*sama-*（1）「なさる／尊敬接辞」は，*mmee-* と同様に，命令形は，*-ru* ではなく，*-ci* という特殊な接辞が使われる。また，*sama-* は唯一 /a/ で終わる第 1 類動詞である。

5.2. 2 つ以上の語幹を持つ不規則動詞

・「いる」は，*ur-*（2a）と *mii-*（1）の 2 つの語幹がある。*ur-* の ž 拡張形は，*už-* //ur-ž-// という規則的なものが存在する一方，語幹拡張辞がつかない最もよく使われる *u(u)-* //ur-φ-// という不規則なものも存在する。また，否定の接辞がつく場合は，*ur-* 以外に，*mii-*「見る（1）」由来の補充形の語幹も存在する。

e.g. *u(ž)taa* //ur(-ž)-tar//「いた」 *uran* //ur-a-n//「いない」 *miin* //mii-n//「いない」

・「ある」は *ar-*（2a）と *njaa-*（特殊）の 2 つの語幹がある。*ar-* の ž 拡張形は，*až-* //ar-ž-// という規則的なものが存在する一方，語幹拡張辞がつかない最もよく使われる *a(a)-* //ar-φ-// という不規則なものも存在する。また，否定の接辞がつく場合は，*njaa-* のみが使われる。

e.g. *a(ž)taa* (**njaataa*) //ar(-ž)-tar//「あった」 *njaan* (**aran*) //njaa-n//「ない」

・コピュラは *jar-*（2a）と *ar-*（2a）の 2 つの語幹がある。*jar-* の ž 拡張形は，*jaž-* //jar-ž-// という規則的なものが存在する一方，語幹拡張辞がつかない最もよく使われる *ja(a)-* //jar-φ-// という不規則なものも存在する[13]。なお，肯定過去形の *jataa* が焦点助詞の *=du* のあとに現れると，//j// が脱落し，*ataa* になることも可能である。また，否定形の場合は *ar-* のみが使われる。

---

[11] ただし，*tutaa* のように，//r// でおわる 2a 類動詞語幹の ž 拡張形（*tur-ž-*）に，過去接辞の *-tar* が後続すると，//ž// を脱落させる話者もいるが，それを不自然と判断する話者もいる。これについては更なる調査が必要だと考える。

[12] 語幹拡張辞が *-ž* の 2c 動詞の拡張語幹は伊良部方言の非定形の非拡張語幹（下地 2018: 164）に当たるものだと考えられる。ただし，久松方言では，このような *-ž* は 2c 類動詞の非拡張語幹にのみ後続し，複合動詞でのみ使われるため，*-ž* がつきうる動詞語幹も *-ž* の機能も伊良部方言より範囲が狭い。

[13] 非過去の *jaa / jaž* は焦点助詞のあとにのみ出現する。

e.g. *sinsiidu* {*jaa / jaž*} //sinsii=du jar(-ž)-Ø//「先生なのだ」
sinsiidu (j)a(ž)taa //sinsii=du jar(-ž)-tar//「先生だった」
sinsiija {*aran /*jaran*} //sinsii=ja ar-a-n//「先生ではない」

・「降る」は *ff-*（2b）と *fɨr-*（2a）の 2 つの語幹がある。*fɨr-* はおそらく共通語から借用されている語幹だと考えられ，これによって作られた活用形の一部は許容度が低く，その場合 *ff-* という規則的な非拡張語幹を使う。また，非過去形は *ff-* で作られた *ffɨ* 以外に，*fɨr-* で作られた *fɨž* と *fɨɨ* もある。*fɨɨ* の最後の /ɨ/ は，//ž// が直前の //ɨ// によって完全同化されてできたものだと考えられる。ただし，*ff-*「閉まる（2b）」の非過去形は *fɨž* と *fɨɨ* という形式はない。また，過去形については，*ff-* で作られた *ffɨtaa* 以外に，*fɨr-* で作られた *fɨžtaa* / *fɨtaa* もある。さらに，*fɨžtaa* の //ž// が //t// によって完全同化された *fɨttaa* という活用形も存在する。

e.g. {*ffaba /*fɨraba*} //{ff /*fɨr}-a-ba//「降れば／降るので」
{*ffɨba / fɨriba*} //{ff / fɨr}-i-ba//「降れば／降るので」
ffɨ //ff-ɨ-Ø//「降る／閉まる」　　{*fɨž / fɨɨ*} //fɨr-ž-Ø//「降る／*閉まる」
ffɨtaa //ff-ɨ-tar//「降った／閉まった」
{*fɨžtaa / fɨtaa / fɨttaa*} //fɨr-ž-tar//「降った／*閉まった」
cf. {*nuužtaa / nuutaa /*nuuttaa*} //nuur-ž-tar//「乗った」

・「知る」は *ss-*（2b）と *ssjuur-*（2a）の 2 つの語幹がある。*ssjuur-* は *ss-* とアスペクト動詞 *ur-* が複合された語幹であり，すべての活用形を作ることが可能である規則的な語幹である。一方，*ss-* は，ž 拡張形が存在せず，その場合は，*ssjuur-* が使われる。なお，*ssjuur-* には「知る」と「知っている」の 2 つの意味がある。

e.g. {**ssɨ / ssjuu(ž)*} //*ss-ɨ-Ø / ssjuur-ž-Ø//「知る，知っている」
{*ssan / ssjuuran*} //ss-a-n / ssjuur-a-n//「知らない」

・「死ぬ」は *sɨn-*（2d）と *sɨni-*（1）の 2 つの語幹がある。*sin-*「死ぬ（2c）」はすべての活用形を作ることが可能である規則的な語幹であるが，命令形や理由・条件形など，いくつかの形式は *sini-*（1）で作ることも可能である。この現象は平良下里方言（中本 2014: 149）や大神方言（Pellard 2008: 153）でも報告されており，中本（2014: 149）では，「古典語におけるナ行変格活用の名残であると考えられる」と述べられている。

e.g. *sɨni* //sɨn-i//「死ね」　　*sɨniru* //sɨni-ru//「死ね」

・「来る」は，*kž-*（2d）と *kuu-*（特殊）の 2 つの語幹がある。*kž-* は ž 拡張形と i 拡張形はそれぞれ，*kž(ž)-* と *kžži-* であるが，a 拡張形は *kuu-* になり，*kž(ž)-* の命令形の *kuu* と同形式になる。また，*-amma* は *kž(ž)-* にはつかず，非拡張語幹 *kuu-* につくが，その場合 //kuu-amma// の表層形は規則通りに *kaamma*（規則 viii：*kaaamma* → 規則 ix：*kaamma*）にはならず，*koomma* となる。

e.g. {*koomma /*kaamma*} //kuu-amma//「来ない」
cf. *jukaamma* //juku-amma//「休まない」　*bjaamma* //bjuu-amma//「酔わない」

・「する」は，*sii-*（1），*ss-*（2b）および *sɨɨ-*（特殊）の 3 つの語幹がある。*sii-* は規則的な語幹であり，すべての活用形を作ることが可能である。*ss-* は ž 拡張形 *ssɨ-* と i 拡張形 *ssi-* が存在するが，i 拡張形は理由・条件形，尊敬形のようなごくわずかな形式しか作れない。また，非拡張語幹 *ss-* に命令接辞 *-i* および付帯状況接辞 *-i* がつくことが可能である。なお，焦点助詞がつくなど，3 モーラ以上の音韻語が形成される環境では，//s// が 1 つ脱落し，*s-* になることもある。また，*sɨɨ-* については，ž 拡張形としてのみ使われる。

e.g. {*sii(ž)taa / (s)sɨtaa / sɨɨtaa*} //sii-ž-tar / ss-ɨ-tar / sɨɨ-tar//「した」
{*siiru / ssi*} //sii-ru / ss-i //「しなさい」
{*siimmai /*ssimmai*} //sii-mai /*ss-ɨ-mmai//「しても」
{*siin /*ssan*} //sii-n /*ss-a-n//「しない」

6. まとめ

本発表では，久松方言の動詞の分類について，1 つの案を提示している。久松方言の動詞を大きく第 1 類動詞と第 2 類動詞に分類し，第 2 類動詞を語幹拡張辞の種類によって，さらに 4 つのグループに分けた（表 2）。また，14 の不規則動詞を選出し，その語幹の数と種類，およびどの形式が特殊なのかを表 3 にまとめている。

また，これら以外に，*fa-*「食べる（2c）」も他の 2c 類の動詞と異なる点がある。例えば，使役接辞で規則的に使役形（{*faas- / faasimi-*} //fa-sas- / fa-a-simi-//）が作れる一方，*fii-*「与え

表 3　久松方言の不規則動詞

	語幹の数（種類）	特殊な形式	例
tur-「取る」	1（2a）	形態音韻規則	r 脱落：*turi* → *tui*
kar-「動詞化接辞」	1（2a）	ž 拡張形	*kaa-* //kar-φ-//
anz-「言う／歌う」	1（2b）	形態音韻規則	zɨ 脱落：*anzɨtaa* → *antaa*
bjuu-「酔う」	1（2c）	ž 拡張形	*bjuuž-* //bjuu-ž-//
mmee-「いらっしゃる」	1（1）	接辞	命令接辞 *-ci*
sama-「なさる」	1（1）	接辞	命令接辞 *-ci*
ur- / mii-「いる」	2（2a/1）	語幹拡張辞	*u(u)-* //ur-φ-//
ar- / njaa-「ある」	2（2a/特殊）	語幹拡張辞	*a(a)-* //ar-φ-//
jar- / ar-「コピュラ」	2（2a/2a）	語幹拡張辞 形態音韻規則	*ja(a)-* //jar-φ-// j 脱落：*jataa* → *ataa*
ff-/ fɨr-「降る」	2（2b/2a）	形態音韻規則	ž 同化 *: fɨž* → *fɨɨ*，*fɨžtaa* → *fɨttaa*
ss- / ssjuur-「知る」	2（2b/2a）		
sin- / sini-「死ぬ」	2（2d/1）		
kž- / kuu-「来る」	2（2d/特殊）	ž 拡張形／命令形 形態音韻規則	*kuu- / kuu* //ua//→/oo/ : //kuu-amma// → *koomma*
sii- / ss- / sɨi-「する」	3（1/2b/特殊）		

る（1）」という動詞語幹で表すことが一般的である。また，尊敬接辞 *-sama* で規則的な尊敬形（{**faama- /*faasama-*} //fa-sama- / fa-a-sama-//）が作れず，*nkigi-*「召し上がる（1）」という動詞語幹を使う。しかし，いずれも派生接辞が後続するときに生じる例外で，*ɨi-* と *nkigi-* を *fa-* の異形態語幹と見るより，それぞれ別の語彙項目と見ることも可能である。また，*fa-* は尊敬形を除いて，2c 類動詞の有するすべての規則的な活用形および派生形を持つため，本発表では，*fa-* を規則的動詞として扱う。

日本語の記述や日本語教育においては，「する」と「来る」のみが不規則動詞として扱われることが多いが，これは語幹の特殊性による分類であり，特殊な形式があるかどうかによる分類とは言いがたい。しかし，庵他（2000）の動詞・形容詞活用表においては，「行く」「なさる」「ある」を五段動詞（I 類）として扱われており，「愛する」を「する」「来る」と同様に，不規則動詞（III 類）として扱われているが，「行く」の語形である「行って」「行った」「行ったら」「行ったり」，「なさる」の語形である「なさいます」「なさい」，「ある」の語形である「ない」「なかった」，「愛する」の語形である「愛さない」「愛さなかった」「愛される」「愛させる」「愛させられる」「愛せ」「愛せば」「愛せる」「愛そう」などは「特に注意すべき語形」として扱われている。このほか，「おっしゃる」「ござる」「いらっしゃる」など敬語関連の動詞も「なさる」と同様な活用をし，「問う」「乞う」は特殊なテ形や過去形「問うて／問うた」「乞うて／乞うた」を持っている。そのため，分析によっては，これらの語は特殊な語幹を持つというより，むしろ特殊な活用形を持つと分析するのが可能であろう。そして，言語記述や言語教育においては，このような特殊な活用形を持つ語の記述や教授も必要ではないかと考えている。

参考文献：

▸Bickel, Balthasar and Johanna Nichols (2007) Inflectional morphology. In: Timothy Shopen (ed.) *Language Typology and Syntactic Description, Volume III: Grammatical Categories and the Lexicon*, 169-240. Cambridge: Cambridge University Press. ▸Haspelmath, Martin, and Andrea D. Sims (2010) *Understanding Morphology*, 2nd edition. London: Hodder Education. ▸林由華 (2013)『南琉球宮古語池間方言の文法』博士論文. 京都大学大学院文学研究科. ▸庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』. 東京: スリーエーネットワーク. ▸中本謙 (2014)「沖縄県宮古島市平良下里方言」方言文法研究会編『全国方言文法辞典資料集(2) 活用体系』（科学研究費補助金「日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の作成とウェブ版の構築」（課題番号 21320089, 研究代表者 日高水穂）研究成果報告書）. ▸Pellard, Thomas (2009) *Ōgami: Éléments de description d'un parler du Sud des Ryūkyū*. Ph.D. dissertation. École des hautes études en sciences sociales. ▸下地理則 (2018)『シリーズ記述文法 1 南琉球宮古語伊良部島方言』. 東京: くろしお出版.

副詞「しかと」の成立に関する一考察

吉本裕史（名古屋大学大学院博士後期課程）

1. はじめに

副詞「しかと」は、ロドリゲスの『日本大文典』(1604 年)において、「肯定(Confirmandi)」[1] の副詞 （以下、肯定の副詞）として記載がある（以下、用例の下線は筆者による)。

(1)　Xicato(しかと)。確かに、間違なく。　　（日本大文典 292 頁）

『虎明本狂言集』（以下、虎明本）における、肯定の副詞の用例を収集・観察した田和(2018:57)によると、「ある動作が確実に遂行される様子を表す「シカト」には、話し手が聞き手に対して動作の確実な実現を表す用法と、それを疑問文で確認する用法があ」るという。また、「擬態語由来の語であり、様態性の強い語であることから、「動作の確実な実現」を様態的に表す」(田和 2018:57)とされる。この指摘からは、肯定の副詞「しかと」が、擬態語から変化して成立したとする見解が看取される（以下の二例は田和(2018:57)による)。

(2)　動作が確実に遂行される様子を表す例

a (仲人)「しかとさやうに聞ひたが　(聟)「何事をいはします　　(虎明本　乞聟)

b (貸手)「…そちハたび／＼人をやれども、しかと返事もせひで　(虎明本　胸突)

(3)　動作が確実に遂行されることを聞き手に確認する例

a (鞁鼓売)「そういふてしかと立つまひか　(朝鍋売)「身共に立てといふか　(虎明本　鍋八撥)

b (主)「それでハいつ方へもゆかふぞ　(太郎冠者)「中／＼どこへなりとも参らふ　(主)「しかとか　(太郎冠者)中／＼　　(虎明本　しびり)

ところが、田和(2018)では、肯定の副詞「しかと」を擬態語由来の語とする先行論および論拠は示されない。加えて、従来、「しかと」の通時的研究には蓄積がなく、「しかと」が擬態語由来の語であることは確かめられていない[2]。

そこで、本発表では、肯定の副詞「しかと」を擬態語由来の語とする説（以下、擬態語由来説）の検証を兼ね、中世後期までの「しかと」の用例を調査し、その通時的な変化の過程について考察する。擬態語由来説が真ならば、「しかと」の歴史的変化は、擬態語の文法変化の一事例として位置づけられよう。また、従来の研究の蓄積が少ない「しかと」を調査することにより、肯定の副詞の部分的解明にもつながる。本発表の調査は、副詞の歴史的研究において意義があるものと考える。

調査には、コーパス検索アプリケーション『中納言』(中納言 2.5.2、データバージョン

[1] 馬場(2015:103)では、「動詞 cōnfirmō「請け合う」の gerundium で、自分の考えを明確に肯定する語」の分類とされている。

[2] 管見の限り、「しかと」の通時的な変化を問題とする研究は見られない。一方で、重複形「しかしか（と)」の語義・用法を考察したものには、山田(1967)、福島(1969)、朴(2000)などがある。このうち、朴(2000)では、「しかと」の語義・用法について部分的に言及が見られる。

2021.03)による検索[3]に加え、中世後期の用例を補填するため、抄物資料（史記抄、毛詩抄、蒙求抄）を使用する。用例収集の対象は、「しかと」、「しっかと」である。

2. 古代語（中世前期まで）の「しかと」

上代においては、万葉集に「しかと」2 例が見られる。ただし、いずれの例も、〔指示副詞シカ+助詞ト〕とすべきであり、擬態語あるいは肯定の副詞とは考えにくい。

(4) 題詞 貧窮問答の歌一首并せて短歌

…寒くしあれば堅塩を取りつづしろひ糟湯酒うちすすろひてしはぶかひ鼻びしびしに然と(志可登)あらぬひげ掻き撫でて我を除きて人はあらじと誇ろへど…

（万葉集巻五・八九二番、山上憶良）

(5) 題詞 大伴坂上郎女、竹田の庄にして作る歌二首

然と(然)あらぬ五百代小田を刈り乱り田廬に居れば都し思ほゆ

（万葉集巻八・一五九二番、大伴坂上郎女）

岡崎(2010)では、上記 2 例は〔否定対極表現のサ系指示副詞「しか」+「と」〕とされている。否定対極表現とは、「ソ系(ソ・サ系列)の指示副詞「ソレホド・サホド」等が否定形式(助動詞「ナイ・ズ」等)と呼応して、あまり大きくない程度を表すもの」(岡崎 2010:218、後注 1)である。つまり、上代の「しかと」は、〔指示副詞シカ+助詞ト〕と分析すべきであり、擬態語あるいは肯定の副詞とは考えにくい。

上代と同様、中古・中世前期の 2 例も、〔指示副詞シカ+助詞ト〕と分析すべき例である。

(6) 乳母、「あなわりな。おとども、しかと思し立ちて、いそぎたまふものをば。…」

（落窪物語 190）

(7) 比日已過、命即衰滅 今日過ぎぬ命もしかと驚かす入相の鐘の声ぞ悲しき

（新古今和歌集 巻二十 釈教歌・一九五五番、寂然法師）

つまり、今回の調査範囲においては、古代語の「しかと」は、すべて〔指示副詞シカ＋助詞ト〕であり、擬態語および肯定の副詞の「しかと」の例は見られない。

3. 中世後期における「しかと」

本節では、中世後期における「しかと」の用例を見ていく。今回の調査では、抄物資料から 86 例、虎明本から 56 例を得た。なお、キリシタン資料からは用例が得られなかった。

本発表では、中世後期の「しかと」を、(i)肯定の副詞、(ii)事態の明瞭性、(iii)緊密の様態の三種に分類する。

---

[3] 検索条件は「キー: 語彙素読み="シカト"」、「キー: (語彙素読み="シカ" AND 品詞 LIKE "副詞%")AND 後方共起: 語彙素読み="ト" ON 1 WORDS FROM キー」である。

3.1　肯定の副詞

中世後期における「しかと」には、事態の真偽判断に用いられる例がある。事態の真偽判断に用いられるという点において、これらは、肯定の副詞の例と考えられるため、肯定の副詞として分類する。

抄物資料においては、肯定の副詞「しかと」は、注釈を加える典籍を解釈・検討する例にのみ見られる。また、「しかと」が名詞述語を修飾する例はすべて、典籍の内容の真偽を判断する例であり、肯定の副詞として判断できる。これらのことから、肯定の副詞「しかと」は、「動作の確実な実現」を様態的に表すのみではないとわかる。

(8)　中国ノ覇王トハ不見ソナセニ五覇ト云ニハ齊桓晋文秦繆宋襄楚荘トハ出タソ若シ秦繆カシカト五覇之一ナラハナセニ此紀ニモ覇トハセイテ　（史記抄　秦本紀）

(9)　大戴禮小戴禮ト云ハ、禮記ノ事チヤホトニ、上ニ以禮ト云ハ、シカト禮記ノ事ソ。（史記抄　儒林列傳）

一方で、虎明本の「しかと」は、56 例中 38 例が、相手の直前の発言内容を受けて、発言内容の真偽を確認する疑問文で用いられる[4]。これらの例は、肯定の副詞の例と考えられる。

(10)　「あふ何成共わごりよがほしひと思ふ物があらばやらふ「それはしつかとそのとをりか「誠じや　（虎明本　引括、40-虎明 1642_05008,9270）

(11)　「おぬし達が分で身共をちやうちやくする事はなるまひ、そのつれな事はおいてくれひ「(a)しかとさやうにいふか「(b)しかとじやが何とせうぞ（虎明本　合柿、40-虎明 1642_07014,11510）

以上のように、肯定の副詞「しかと」は、文章に書かれた内容や相手の発言した内容に対し、その真偽を判断する際に用いられたことが考えられる。

3.2　事態の明瞭性

中世後期の「しかと」には、十分に知覚できるほど、知覚対象の存在・実現のあり方が明瞭であることを表す例が見られる。このような「しかと」を、事態の明瞭性と仮称する。

(12)　ホソイソシカトハエカヽヌ物ソホソウカスカニ書ホトニソ　（蒙求抄）

(13)　扨もおびたたしひ事かな、夜ぶかなによつてしかとは見えぬが、あれから、つつとあれまでじや、一のくひはどこもとぞ（虎明本　牛馬 40-虎明 1642_01024,6340）

抄物資料においては、講釈者が、特定の文言が典籍の中に明記されているかを話題とすることがある。このような場面に現れる「しかと」も、事態の明瞭性の例と考えられる。

(14)　匈奴傳ニ太史公カ孔子著春秋、隠桓之間則章、至定哀之際微ト云タ、其微意カアルソ。當時ノ事チヤホトニ、シカト辞ニ出テ、譏ハエセス、不言ノ中ニ含セタソ。（史記抄　循吏列傳）

---

[4] 田和(2018:57)では、「話し手が聞き手に対して動作の確実な実現を表す用法と、それを疑問文で確認する用法（発表者注：動作が確実に遂行されることを聞き手に確認する例）があり、五五例中四一例が後者である」と指摘されている。用例数の齟齬はあるものの、本発表と概ね同様の主張と解釈できる。

(15) 狼藉ながら、此詩を作て刺進らするぞと、詩には刺たとは見へぬが、爰でしかと刺たとしたぞ。 (毛詩抄)

以下の例も同様に、特定の文言が明記されるかを話題とする場面である。「しかと」が存在動詞「あり（ある)」や、形容詞「なし（ない)」といった、存在を表す述語を修飾している。文言の存在の真偽を判断する例ととれば、肯定の副詞とも分類しうる例である。少なくとも、存在を表す述語の修飾が可能な点において、事態の明瞭性の「しかと」は、様態副詞または音象徴で様態を表す擬態語とは異なるものと考えられる。

(16) 史記ニハ既ニシカト五百率トアルホトニ、チカウテワルイナラハ、字ヲモ改ヘキカ、其マヽテ置クハ相違モナイナリ。 (史記抄　周本紀)

(17) 此序に嫡媵と云て、どの夫人やら知れぬで候。大夫以下の事に似たぞ。され共、文にしかとない程に、是はどれをもかねたで候。 (毛詩抄)

以上のように、事態の明瞭性は、擬態語とは考えにくい。また、特定の文言が典籍の中に明記されるかを話題とする例では、肯定の副詞との判別に迷う例がある。

3.3　緊密の様態

中世後期の「しかと」には、物と物などが、すきまなく接するさまを表す例が見られる。このような「しかと」を、緊密の様態[5]の「しかと」とする。

(18) 蒯緱ト云ハ、スゲテ縄ヲナウテ、劔ノツカヲシツカトマイタソ。緱トハ、劍ノ把ル處チヤトモ云ソ。 (史記抄　孟嘗列傳)

(19) 〽また渡るていにて、跡へかへり、おふて、しかとよふとりつかせられひと云て、 (虎明本狂言集、井礒 40-虎明 1642_06030,12890)

(20) 室家がちとのへだてもなう、きびしうて其後其が天下に及ぞ。しつかとすきひまもなうしたしむ処があつて其が族類にも及だぞ。 (毛詩抄)

田和(2018:56-57)では、「虎明本では、「シカト」が様態を表している例はわずか二例」として、(21)の例が挙げられる。これらの例も、扇の要(扇の骨をとめるための木針)が緊密にはめこまれているさまを表す例、つまり、緊密の様態の例と考えられる。

(21) a (果報者)「…地紙よう、骨にミがきをあてゝ、要しつかとして(虎明本　末広がり)
b (売手)「又要しつかとゝは、此要の事なり、 (虎明本　末広がり)

擬態語の「しかと」が表す様態については、これまで十分に議論されていない。したがって、緊密の様態の「しかと」が擬態語であるとは断言できない。ただし、肯定の副詞や事態の明瞭性は、擬態語とは考えにくいため、今回の調査における分類の中では、最も擬態語に近い分類といえよう。

[5] 近世期の口語・俗語辞書『俚言集覧』(成立年未詳、太田全斎著か)には、「しかと　シカリとも又シツカともシツカリトとも云　俗聢字を用ゐ又締を用う緊密の意也(俚言集覧　中巻 246 頁)」との記述がある。

4. 考察 ―肯定の副詞「しかと」の成立過程―

本節では、今回の調査で得られた用例をもとに、肯定の副詞「しかと」の成立過程を考察する。擬態語由来説を真とする場合、偽とする場合の二通りに分けて考察する。

4.1 擬態語由来説を真とする場合

擬態語由来説を真と想定する場合、「しかと」の変化の過程は、「緊密の様態→事態の明瞭性→肯定の副詞」[6]と考えられる。緊密の様態の「しかと」が、文章の内容や相手の発言内容の真偽判断に用いられる、肯定の副詞に直接変化したとは考えにくい。その一方で、「事態の明瞭性→肯定の副詞」という変化は十分起こり得よう。ある事態が明瞭に存在・実現すれば、その存在・実現の真偽は確かなものになるからである。したがって、擬態語から肯定の副詞への変化の過程は、肯定の副詞へと変化する前に、事態の明瞭性を経ると考えられる。

一方で、「しかと」の変化を「緊密の様態（擬態語）→事態の明瞭性→肯定の副詞」とするとき、以下に挙げる三点が、今後検討すべき問題となろう。一点目は、「緊密の様態→事態の明瞭性」という変化が、どのようにして起こったかという点である。二点目は、擬態語の「しかと」は、緊密の様態を表すかという点である。三点目は、「緊密の様態→事態の明瞭性→肯定の副詞」という変化が、中世後期において発生し、完結している点である。

4.2 擬態語由来説を偽とする場合

擬態語由来説を偽と想定する場合、中世前期までに見られた〔指示副詞シカ＋助詞ト〕から肯定の副詞が成立したとする見方、つまり、「〔指示副詞シカ＋助詞ト〕→肯定の副詞」という過程の想定も可能だろう。肯定の副詞「しかと」が、〔指示副詞シカ＋助詞ト〕に由来するという立場を、指示副詞由来説と仮称する。指示副詞由来説を取る場合、肯定の副詞「しかと」の成立に、擬態語の「しかと」を想定する必要がなく、擬態語由来説の問題三点が解消される。少なくとも、中世後期においても、「しかと」という語形の用例が見られる以上、指示副詞由来説は検討の必要があろう。

実際に、中世後期において、〔指示副詞シカ＋助詞ト〕とも分析可能な例は存在する。以下の例は、肯定の副詞と分類した例である。これらの例においては、指示副詞「しか」が波線部の前文脈を指示する例とも考えられ、「しかと」を〔指示副詞シカ+助詞ト〕と分析することも決して不可能ではないと考えられる。

(8) 中国ノ覇王トハ不見ソナセニ五覇ト云ニハ齊桓晋文秦繆宋襄楚荘トハ出タソ若シ秦繆カシカト五覇之一ナラハナセニ此紀ニモ覇トハセイテ(史記抄 秦本紀(再掲))

(22) 上帝ヲ祠ル祠ヲ、西畤ニ作テ、ヤカテ西畤トコソ、云ツラウソ。西方ノ諸侯チヤホトニ、祠白帝ソ。畤ハ、止也トテ、言ハ神霊ノ所依止也、亦音市、壇ヲツクリテ、天ヲ祭ルヲ謂トシタホトニ、西畤ハ、シカト祠處ノ祠ノ名ナリ。(史記抄 秦本紀)

---

[6] 便宜上、A から B へ変化する過程を「A→B」のように示す。

指示副詞由来説は検討の必要がある一方、指示副詞＋「と」が副詞となる類例の存在や、中世後期に至るまでの指示副詞「しか」の歴史など、課題も多い。

5. まとめ

本稿では、中世後期までの「しかと」の用例を通時的に調査した。古代語においては〔指示副詞シカ＋助詞ト〕の用例のみであったが、中世後期においては、(i)肯定の副詞、(ii)事態の明瞭性、(iii)緊密の様態の三種の例があることを述べた。そのうえで、擬態語由来説を真とする場合は、「緊密の様態（擬態語）→事態の明瞭性→肯定の副詞」という変化の過程が想定できることを指摘した。また、擬態語由来説が偽の場合は、肯定の副詞「しかと」が指示副詞に由来することも考えられるため、指示副詞由来説を検証する必要もあることを述べた。今後は、擬態語由来説と指示副詞由来説のいずれにも残されている課題を解消していくとともに、「しか（と）」の重複形とされる「しかしか(と)」についても調査を行うことで、「しかと」の歴史を詳らかにしていく。

・使用テキスト

(○『新編日本古典文学全集』(小学館)を使用)○万葉集、○落窪物語、○新古今和歌集、史記抄…亀井孝・水沢利忠(1965～1973)『史記桃源抄の研究　本文篇一～五』日本学術振興会、毛詩抄…倉石武四郎・小川環樹校訂(1996)『毛詩抄　詩経（一）（二）』岩波書店、小川環樹・木田章義校訂(1996)『毛詩抄　詩経（三）（四）』岩波書店、蒙求抄…岡見正雄・大塚光信編(1971)『抄物資料集成　第六巻　毛詩抄・蒙求抄』清文堂出版、虎明本狂言集…大塚光信編(2006)『大蔵虎明能狂言集翻刻註解　上下』清文堂出版

・参考文献

岡﨑友子(2010)『日本語指示詞の歴史的研究』ひつじ書房
J.ロドリゲス原著、土井忠生訳(1955)『日本大文典』三省堂
田和真紀子(2018)「ロドリゲス『日本大文典』の「肯定」の副詞について―〈真偽〉・〈蓋然〉・〈程度〉の関連性―」近代語学会編『近代語研究 20』武蔵野書院, pp.37-60
土井忠生・森田武・長南実編訳(1980)『邦訳　日葡辞書』岩波書店
朴才煥(2000)「副詞「しかしか(と)」小考」『湘南文学』34, 東海大学日本文学会, pp.164-174
馬場良二(2015)『João Rodriguez “ARTE GRANDE” の成立と分析』風間書房
福島邦道(1969)「朝鮮語学習書による国語史研究」『国語学』76, 国語学会, pp.47-58
村田了阿編(1965)『増補　俚言集覧　中巻』名著刊行会
山田忠雄(1967)「柴田武(1967)「『日葡辞書』の九州方言」の編集者注」山田忠雄編『本邦辞書史論叢』三省堂, pp.75-80

・付記

本研究は、科学研究費補助金（特別研究員奨励費 21J15462）による助成を受けている。

「引用」のトテはいつから「とりたて」になったか
-体言相当句を受けるトテモとの関連から-

髙谷（たかや）　由貴（ゆき）（京都橘大学）

1. はじめに

現代語において「子どもでも知っている」という際に用いられる極限の「とりたて」は，デモやカテ，ダッテ等の形式が全国に分布しており，このうちダッテは「断定の助動詞ダ＋助詞トテ」が変化したものであるという見方が複数ある（森脇 1995，三井 2003 等）。トテも極限の意味を持つが，現代語では使われにくい（森脇 1995:14，友定 2003:264-265）。中古におけるトテの意味は「引用」が中心で，極限の「とりたて」と解される例についても，引用の一用法であるという立場の研究が多い（小田 2015・辻本 2017）。とすれば，中古語における引用の一用法が，いつからどのようにして極限の「とりたて」になったと言えるのであろうか。本発表ではその変化の契機となったのは，トテに係助詞のモが付いた，「トテモ」との類似性が影響すると主張する。

まず 2 節で，中古において極限の解釈を導くトテ・トテモの位置づけを確認し，3 節で調査資料について述べる。4・5 節で，体言相当句＋トテモが極限を意味することから，モがつかない体言相当句＋トテでも同様に解釈できるという推論がおこったことを主張する。

2. 先行研究と問題提起

2.1 極限を表すトテ・トテモの位置づけ

現代語の話し言葉では，極端なものをとりたてて述べる際に，トテは使われにくいとされる（森脇 1995：14，友定 2003：264-265）。一方，現代でも東日本を中心に使用されるダッテは，断定の助動詞ダと，トテから変化したという（森脇 1995:14，三井 2003:125-126）。

トテは中古語において，主に思考・発話の引用を表す形式だとされていた（小田：2015）。（１）a.のトテが受ける「これまゐらせ給へ」は，大進生昌の発話で「生昌が，これを差し上げてくださいと言って，御硯などを御簾の中に差し入れる」という意味で解される。（１）b.のトテは「女である私も試みてみようと思って」と解され，心内語を引用する機能を持つ。

（１） a.「これまゐらせたまへ」とて，御硯などさしいる。　　（枕草子）
　　b.男もすなる日記といふものを，女もしてみむとてするなり。　（土左日記）

一方，中古語には極限を表すトテもあることが指摘されており，（２）がその用例である（辻本 2017：6）。活用語終止形，または体言相当句に接続し，後続要素に否定・禁止形式を伴う。極限の意味合いとは，「文中のある要素をとりたて，同類のものの中で極端な例として示すとともに，ほかのものは当然そうであるという意味を暗示する」*1機能である。男兄弟という，娘の近くに寄せ付ける蓋然性の高い存在すら寄せ付けない（したがって当然，君達にも寄せ付けない）という解釈となる。辻本は（２）のような極限

*1日本語記述文法研究会（2009：87）による。また，小田（2015）および『日本国語大辞典第二版』ではトテはダッテと同様の意味で用いられるとされる。

を表す用例について，引用用法の一種*2に位置づけている。

（2） 心にまかせてもえ見はべらず。男兄弟とて近くも寄せはべらねば，まして，いかでか君達には御覧ぜさせん（源氏 ・ 少女）［父惟光は男兄弟だって娘の近くに寄せ付けないのに，まして，どうして貴公子にお引き合わせしようか］

2.2 問題提起と本発表の主張

先行研究では，中古語のトテは「とりたて」の専用形式には含まれない（辻本 2017・高山 2003 ）。発表者も，その立場に賛同するものである。中古語における引用の一用法が，後に極限の「とりたて」になったことについて，本発表では，極限のトテモとの意味的な近接が影響すると主張する。

トテモについても，中古から一定数見えることが小田（2015）・辻本（2017）により指摘されている。トテに「モの持つ累加の意味合いが付与されたもの（辻本2017：4）」であり，引用（3）・逆接仮定（極限）（4）としても使用されるという指摘が見える（辻本2017：4-5，小田2015：530）

（3） ･･･なほいと言ふかひなかりけり」とても，また泣きたまひぬ。（源氏・宿木）［…とおっしゃりながらも，またお泣きになった。］

（4） 亡くなりたまへる人とても，骸を起きてもてあつかふこそ世の常なれ（源氏・蜻蛉）［お亡くなりになった方であっても］

（4）のような逆接仮定は，極限的なものをとりたてることと，連続的である（丹羽 1995：27）。トテモが極限として解釈され得るものであり，それが一定の条件下においてトテにも認められるようになったと考えるのである。それは，次のような事実による。

①用例数：トテモの用例数は，極限解釈のトテよりも多い。

②出現順：中古の和文資料において，トテモが使用されはじめた後に，極限解釈のトテが現れる。つまり，トテモの使用開始→極限のトテの使用開始という順序となる。

③文末・文脈の制限の有無：トテのみで極限と解釈しうるには，文末に否定・禁止形式が現れる，明確な格関係を読み込めるという制限が見られるが，トテモにはそのような制限がない。

①②はコーパス等を利用した中古以降から近世までの資料から見える事実であり，③は中古語の資料観察から見える事実である。トテモは，極限のトテに先んじて使用されはじめ，その後，近世まではトテよりも多く使用され，文末・文脈に制限もない。元来，極限に近い意味を持っていたトテモに後れて，トテも極限として解釈されるようになったことを主張する。

次節では，調査に用いる資料について述べ，続いて，どのような例を極限解釈として計上したのか示し，その用例数，出現順，文末・文脈制限の順番に見ていく。

3. 調査の方法・資料

調査に使用した資料*3を示す。

---

*2その他の用法として，名目・事情・資格を表す，等があるとされる（辻本 2017：4～7）。

*3平家物語のみ『日本古典文学大系』（岩波書店），それ以外は『日本語歴史コーパス』を使用した。『日本語歴史コーパス』検索キー＝語彙素：「とて」『日本古典文学大系本文データベース』検索キー「とて」

中古：竹取物語，伊勢物語，大和物語，平中物語，蜻蛉日記，落窪物語，枕草子，源氏物語，和泉式部日記，紫式部日記，堤中納言物語，更級日記，大鏡，讃岐典侍日記

中世前期：今昔物語集，建礼門院右京大夫集，東関紀行，とはずがたり，十訓抄，平家物語

中世後期：天草版伊曽保物語，天草版平家物語，虎明本狂言集

近世：近松浄瑠璃本・洒落本・人情本　（会話のみ）

本発表では，体言相当句*4にトテ/トテモが接続した例を対象にし，トテは後続部に否定・禁止形式を含むものを採り，トテモは後続要素の制限無く採る。活用語終止形について本発表のデータには含めない。

なおトテは，体言相当句に付き，後続部に否定形式を含んでいる文であっても，引用とも極限とも解釈可能な場合がある。意味解釈に幅のある例の場合は，底本（小学館『新編日本古典文学全集』等）の解釈に依り，例えば引用と解釈される（５）は極限に含めない。

（５） ただ今ははかばかしからずながらも，かくてはぐくみはべらば，せまりたる大学の衆とて，笑ひ侮る人もよもはべらじと思うたまふる（源氏･少女）［20-源氏 1010_00021，21950　この私がこうして面倒をみておりますれば，貧しい大学生よと侮り笑う人もまさかおりますまいと存じます］

4. 中古語におけるトテモとトテの出現順と用例数

まず，出現の順番をみると，中古においてトテモが使用されはじめた後に，極限解釈のトテが現れる。つまり，トテモが使用され始めたのちに，極限のトテの使用開始という順序となる。

調査対象資料中，最も古くから見られるトテモの例は（６）の蜻蛉日記・974 年で，「容貌といっても」といった解釈となる。一方で，トテが極限解釈を受ける例の成立年はそれぞれ 1010 年（２）・1100 年（７）と，（６） より後のものに限られる。

（６） いとものはかなく，とにもかくにもつかで，世に経る人ありけり。かたちとても人にも似ず,心魂もあるにもあらで（蜻蛉日記）［20-蜻蛉 0974_00003　9550，容貌といっても人並みでも無し］

（７） その女御の宮とて，のどかには（堤中納言物語）［20-堤中 1055_00001，250150，その女御の宮だって，のんびりしてはいられまい］

トテモと極限解釈のトテの用例を比較すると，調査対象資料中全ての時代・資料において，トテモがより多く観察される。体言相当句を受けるトテ全体の中で，極限と解釈できる例が占める割合と，時代ごとの用例数を表 1 にまとめた。

表の最も右の欄の「全体」は，体言相当句を受ける全ての用例数を示す。中古・近世期では，トテだけで極限と解釈できる例が少ない。中世前期・後期におけるものは，調査した資料に限っては，トテモのみが極限解釈を受けるものとして得られた。

---

*4体言相当句：名詞，代名詞，名詞的接尾辞に接続している例。コーパスで検索して得られたデータに関しては，「中納言」の「インラインタグ」の機能を使用して前接語の情報を得た。「平家物語」については目視で確認を行った。

表１　極限を表すトテ/トテモの時代ごとの用例数

時代	体言相当句＋トテ		
	極限解釈		全体
	トテ	トテモ	
中古	6	29	225
中世前期	0	17	241
中世後期	0	15	124
近世	5	70	163

5.　文末・文脈の制限の有無

トテのみで極限と解釈しうるには，文末に否定・禁止形式が現れるという制限が指摘されている（辻本 2017）。一方，トテモには，そのような文末制限について指摘がない。この点について，極限と累加の意味的近接についての現代語の先行研究を引用して考える。

モの解釈と，述語の肯定・否定の関係について，丹羽（1995:31-32)が（８）を挙げて，重要な指摘を行っている。肯定述語である（８）a.「飲める」の場合は，（９）のような文脈を加えない限り，「ワインもウィスキーも」といったように，「飲める」ものを挙げていくという「累加」の解釈[5]が自然である。

一方，否定述語（８）b.の場合は，「飲めない」ものを一つ一つ挙げるという状況は考えにくい。したがって，「飲める」ものの序列の中で典型を否定することで他も否定する「極限」という解釈[6]に傾きやすいとしている。

（８） a. ウィスキーも飲める（「累加」解釈になりやすい）
　　b. 水も飲めない（「極限」解釈になりやすい）

（９） あの子は酒が強くて，ウイスキーもぐいぐい飲める。

同様のことが「トテモ」にも言える。（１０）は肯定述語，（１１）は否定述語とそれぞれ共起する例である。（１０）は「中宮」「女御たち」といった，帝に仕える人を挙げていく累加解釈に傾きやすい。

一方，否定述語が使用される（１１）は，極限解釈に傾きやすい。「親族・知り合いがいる」可能性が高い「京」にもそのような人はいない，と否定することで，極端なものを取り立てていると解釈できる[7]。否定形式との共起は，序列を想起させやすい（丹羽 1995：480）という傾向は，トテモにも当てはまると言える。

（１０） ただ人の中にはありがたし，内裏には中宮さぶらひたまふ，次々の女御たちとても，いとやむごとなきかぎりものせらるるに挿入（源氏・若菜上）[20-源氏 1010_00034 39010　22420，臣下のなかにはそうした人はいそうもなく，かといって，今上には中宮がお付き申しておられて，その次々の女御たちにしても，じつに高貴な方ばかりそろっておられるのだから]

[5] 注：丹羽は「同類」としている
[6] 注：丹羽は「極端」としている
[7] 「譲歩/接続助詞」と「極限/とりたて」の連続性についての指摘は丹羽（1995:27-28)。

（１１） 京とても，たのもしう迎へとりてむと思ふ類，親族もなし。（更級日記）［20-更級 1059_00002　67660，都といっても，頼もしく迎えてくれる知り合い，親族もない］

トテモは，モが付与されていることにより，累加または極限という解釈と形式とが対応している。

一方，トテには，累加・極限解釈に傾きやすい文法的要素は含まれていない。そのため，（１２）のように否定述語と共起した場合は，序列の中で典型を否定することで他も否定する，極限解釈を読み込みやすいが，そうでなく，肯定述語と共起する場合は，序列が想起される文脈が明示されない限りは，極限解釈に傾きにくいのだろうと考えられる。

（１２） 人柄はいとやむごとなく，おぼえ心にくくおはする君なりけり。若き君たちとて，すきずきしくあてびてもおはしまさず，世のありさまもいとよく知りたまへり。領じたまふ所どころもいと多くはべり。（源氏・東屋）［20-源氏 1010_00050　45300，お若い君達だからといって，浮気がましいところも上品ぶったところもおありでなく，世間の事情もよくわきまえておられます。］

（１３）は，肯定述語と共起している例である。祈祷のために修験者が集められ，それに加えて「陰陽師も」集められたという解釈となる。否定述語と共起していないトテであっても，その他の事物が文脈上に明示されていれば累加解釈に傾きやすいことがわかる。

（１３） …山々寺々をたづねて，験者といふかぎりは残るなくまゐりつどひ，三世の仏もいかに翔りたまふらむと思ひやらる。陰陽師とて，世にあるかぎり召し集めて，八百万の神も耳ふりたてぬはあらじと見えきこゆ。（紫式部日記）［20-紫式 1010_00001 14710，修験者という修験者は一人残らず参り集り，･･･陰陽師とてもありとある者をみな招し集めて祈らせたので］

トテモとトテの文末制限の有無についてみてきたことをまとめると，次のようになる。トテモは，文末が否定述語の場合は極限解釈に，肯定述語の場合は累加解釈に傾きやすくなる。いずれにしても，引用解釈ではなく「とりたて」と解釈される。

トテは否定述語の場合は「とりたて」解釈が可能であるが，文法的要素として累加解釈に傾きやすくする「モ」が含まれないため，肯定述語の場合は「とりたて」と解釈を受けにくい。トテは本来，引用としての用法が主であるため，否定述語と共起しない場合は引用解釈に傾くと考えられる。

トテが「とりたて」解釈を受けるには，否定述語や文脈上のサポートが必要であるが，トテモは制限無く「とりたて」解釈が可能である。

以上の点から，もともと述語の肯定・否定に関係なく「とりたて」解釈となるトテモの存在が契機となり，トテのうち，否定述語や文脈上の条件がそろったものが「とりたて」解釈を受けるようになったと考えられる[8]。

[8] 同じような関係は，現代語のトイッテモ/トイッテにも見られる。引用述語から派生した「トイッテ」「トイッテモ」は典型的には否定形式と共起し（藤田 2000：420），前件で設定した推論を否認する（藤田 2000：426）。(26)は，「言語学者だから，何カ国語も話せる」という推論の否認を行うものであるが，トイッテのほうが前接語に制限があり，名詞を承ける形では用いられにくいとしている。/言語学者といっても，いろんな言葉が話せるとは限らない。/*言語学者といって，いろんな言葉が話せるとは限らない。

6. おわりに

本発表では，トテの「とりたて」への変化は，極限のトテモによる影響であると考え，以下の三点について考察してきた。①トテモが極限のトテに先んじて使用されはじめ，その後，②近世まではトテよりも多く使用され，③文末制限も見られない。

今後の課題として，中世以降から，近世にかけて確認できる次の事実との関連も示したい。中世以降，人称代名詞を受けるトテモが見られるようになったことである（中古には見られない）。（１４）～（１６）は中世前期の「平家物語」の例で，（１４）は，「他の者」に加えて「我」も生き長らえる気がしないことを表す。（１５）は，話者に加えて「御邊」も穏やかで入られまいと述べており，（１６）は父に加え自分も生きていても仕方ないという解釈となろう。これらの例は，引用とは解釈できないと考えられる。

中古まででトテモに極限の意味が定着したために，引用句とは解釈され難く，極限解釈を受け易い人称代名詞[9]も前接出来るようになったと考える。今後検討したい。

（１４） 今は我とてもながらふべしとも不覚 ［平家物語，下，285，今は自分も生き長らえる気がしない］

（１５） 若此謀反とげましかば，御邊とてもおだしうやおはすべきと申せ［平家物語上，166，もしこの謀反を遂行していたら，そなたでも無事安穏でおいでになれようか］

（１６） 大納言がきられ候はんにおいては成経とてもかひなき命をいきて何にかはし候べき。［平家物語上，168，父大納言が切られるというのでは，この成親も生きがいのない命を生きても，なんになりましょう。」

〈参考文献〉

小田勝（2015）『実例詳解古典文法総覧』和泉書院./高山善行（2003）「極限のとりたての歴史的変化」沼田善子・野田尚史編『日本語のとりたて―現代語と歴史的変化・地理的変異』pp.107-122.くろしお出版./友定賢治(2003)「とりたての体系の地理的変異」沼田善子・野田尚史編 『日本語のとりたて―現代語と 歴史的変化・地理的変異』pp.257-273，くろしお出版./辻本桜介(2017)「中古語のトテについて（二）」『米子工業高等専門学校研究報告』52,pp.26-43.米子工業高等専門学校./日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法 ５』くろしお出版./丹羽哲也（1995）「「さえ」「でも」「だって」について」『人文研究』47-7,pp.473-499.大阪市立大学./藤田保幸(2000)『国語引用構文の研究』和泉書院./三井はるみ(2003)「極限のとりたての地理的変異 」沼田善子・野田尚史編 『日本語のとりたて―現代語と歴史的変化・地理的変異』pp.123-142. くろしお出版./森脇茂秀(1995)「助辞「とて」の成立過程・意味用法をめぐって（一）」『別府大学紀要』36,pp.14-25.別府大学

〈コーパス・データベース〉

国立国語研究所（2021）『日本語歴史コーパス』（バージョン 2021.3，中納言バージョン 2.5.2）https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/（2022 年 3 月 1 日確認）/ 日本国語大辞典第二版編集委員会（編）(2000-2002)『日本国語大辞典第二版』小学館 https://japanknowledge.com/library/日本古典文学大系本文データベース http://base1.nijl.ac.jp/~nkbthdb/（2022 年 3 月 1 日確認）/

本研究は JSPS 科研費 20K13057 の成果の一部です。

[9] 極限解釈を受けやすくなることと，前接語との関連については丹羽（1995：28）を参照されたい。

分類語彙表番号を付与した『日本語歴史コーパス』データ

浅原 正幸*　池上 尚　鈴木 泰　市村 太郎
国立国語研究所　埼玉大学　東京大学名誉教授　京都府立大学

近藤 明日子　加藤 祥　山崎 誠
東京大学　目白大学　国立国語研究所

概要

語義情報を付与した通時コーパスは、語彙の通時的変化を捉えるうえで有用な言語資源となる。我々は『日本語歴史コーパス』データ約 64 万語に対して、『分類語彙表』・『日本古典対照分類語彙表』の分類語彙表番号を付与した。本稿では作業手順を解説し、データの基礎統計を示す。

1. はじめに

『日本語歴史コーパス』(CHJ) (国立国語研究所 2022) は、奈良時代編から明治・大正編まで様々な作品を電子化し、形態論情報を付与したコーパスである。我々は科学研究費補助金基盤研究 (A)「日本語歴史コーパスに対する統語・意味情報アノテーション」(2017-2021 年度・研究代表者：浅原正幸) において、CHJ に対して、『分類語彙表増補改訂版』(国立国語研究所 2004) および『日本古典対照分類語彙表』(宮島ほか 2014) の分類語彙表番号付与作業を進めた。

『分類語彙表増補改訂版』(国立国語研究所 2004) は、語を意味によって分類・整理した類義語集である。同梱されている CD-ROM には CSV 形式のデータが格納されており、同データは『分類語彙表－増補改訂版データベース』として公開されている [(1)]。分類語彙表では、語を分類番号・段落番号・小段落番号・語番号の順に階層的に体系化している。分類番号は、ピリオドを挟んで左に統語分類である類を示す 1 桁の数字と、ピリオドを挟んで右に意味分類である分類項目を示す 4 桁の数字からなる。類は、体言である「1. 体」、用言である「2. 用」、形容詞・副詞・連体詞などの「3. 相」、接続詞・感動詞などの「4. 他」の 4 種類のラベルからなる。現在のところ、機能語である助詞・助動詞に対する分類番号は限定的であり、さらに固有名詞は分類語彙表にあまり登録されていないために、分類番号が未定義である要素も出現する。分類項目の 1 桁目を部門と呼ぶ。部門は「.1 関係」「.2 主体」「.3 活動」「4. 生産物」「5. 自然」の 5 種類のラベルからなる。また、分類項目の 2 桁目までを中項目と呼び、意味分類は、部門－中項目－分類項目の順で細かくなる階層構造をなす。『日本古典対照分類語彙表』(宮島ほか 2014) は、竹取物語・徒然草など 17 作品に出現する語彙の頻度とともに対応する分類語彙表番号を付与したものである。同梱されている CD-ROM には頻度表のエクセルファイルが収録されている。現代語と古典語と同じ分類体系ではあるが、古典語の分類番号はピリオドを用いない。

表 1 に「竹取物語」のタグ付け例を示す。「野山」の例では現代語の分類番号「1.5240」が付与され、類「1.」が「体」、部門「.5」が「自然」を表す。さらに、中項目「.52」が「天地」、分類項目「.5240」が「山野」を意味する。「交じる」の例では古典語の分類番号「21532」が付与され、類「2」が「用」、部門「1」が「関係」を表す。さらに、中項目「15」が「作用」、分類項目「1532」が「入り・入れ」を表す。タグ付け作業は、平安時代編、鎌倉時代編、明治・大正編のサンプルを主な対象として進め、一部

* masayu-a@ninjal.ac.jp
(1) https://clrd.ninjal.ac.jp/goihyo.html

pSampleID	pStart	orthToken	lemma	分類番号	類	類ラベル	部門	部門ラベル
20-竹取 0900_00001	250	野山	野山	1.5240	1	体	5	自然
20-竹取 0900_00001	270	に	に					
20-竹取 0900_00001	280	まじり	交じる	21532	2	用	1	関係
20-竹取 0900_00001	310	て	て					
20-竹取 0900_00001	320	竹	竹	1.5401	1	体	5	自然
20-竹取 0900_00001	330	を	を					
20-竹取 0900_00001	340	とり	取る	2.3811	2	用	3	活動
20-竹取 0900_00001	360	つつ	つつ					
20-竹取 0900_00001	380	、	、					

表 1　「竹取物語」のタグ付け例

であるが、室町時代編のサンプルにも作業を行った。

語彙に対して語義情報（統語分類・意味分類）を付与することにより、語彙の通時的な変化を捉えられるようになる。統語分類・意味分類の分布から、各時代の表現としての文体の移り変わりや、作品ごとの内容を代表する主要語義情報を得ることができる。語義ラベルを用いることにより、作品に対する索引としての利用のほか、割り当てられる語彙素の選択から語彙の通時的変化を捉えられる可能性がある。さらには、初学者向けに本文とともに語義情報を示すことで可読性をあげ、古典に親しみやすい環境整備に資する。

本稿では、大規模に語義ラベルを CHJ に付与するために行った工夫の概要を示す。さらに語義ラベル情報の統計分析結果を示す。

2. 作業の概要

分類語彙表番号アノテーション作業手法を確立するために、まずは現代語に対する分類語彙表番号付与手法について検討した。研究所内で整備途中であった「分類語彙表番号－ UniDic 語彙素番号対応表」を近藤により整備を行い (近藤・田中 2020)、WLSP2UniDic [(2)] として公開した。ChaKi.NET とともに配布されているスタンドアロン版 ChaMame [(3)] を用いることで、テキストに出現する形態素に対して対応表に含まれる全ての語義を枚挙することができる。この環境を用いて、加藤・浅原・山崎により『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) (Maekawa et al. 2014) に対する分類語彙表番号付与を進めた。先の WLSP2UniDic を BCCWJ の語彙素番号に対して突合し、枚挙した分類語彙表番号を Microsoft Excel 上に表層形・語彙素とともに展開し、正しい語義を人手で選択する方法によりアノテーションを行った。対応表に出てこない語義については、『分類語彙表増補改訂版データベース』を参照しながら、分類語彙表番号を手入力した。その過程で作業用のリファレンスとして、分類語彙表版 CradleExpress [(4)] を整備した。結果、BCCWJ の書籍・新聞・雑誌コアデータの半分約 33 万語に対して分類語彙表番号を付与した。詳細は加藤ほか (2019a) を参照されたい。なお、BCCWJ に対しては「現代語の助詞・助動詞」(国立国語研究所 1951) にあげられている助動詞の用法も付与した (加藤ほか 2019b)。同データは BCCWJ-WLSP[(5)] として共有した。

BCCWJ に対する分類語彙表アノテーション作業手法が確立した状況で、CHJ に対する分類語彙表番号アノテーションの作業手法について検討した。池上により既に実施していた中古和文サンプルに出

(2) https://github.com/masayu-a/WLSP2UniDic
(3) https://ja.osdn.net/projects/chaki/releases/p15635
(4) https://cradle.ninjal.ac.jp/wlsp
(5) https://github.com/masayu-a/BCCWJ-WLSP

現する形容詞に対する分類語彙表番号アノテーション (池上 2017) の作業手法を参考に、主として奈良～平安～鎌倉時代の作品を元に構築された『古典対照分類語彙表』(宮島ほか 2014) の番号を参照しながら、『古典対照分類語彙表』の編者の一人でもある鈴木の助言のもと、「竹取物語」「土左日記」「方丈記」「徒然草」の 4 作品について小規模なアノテーションを実施した (浅原ほか 2017)。作業者は新編全集の現代語訳を参照しながら、適切な語義を Microsoft Excel 上で選択する作業を実施した。その過程で「古典対照分類語彙表番号-UniDic 語彙素番号対応表」[(6)]の基礎となる表が構築された。

続いて鎌倉時代以降のデータに対して大規模なアノテーションを実施した。前述の「分類語彙表番号－ UniDic 語彙素番号対応表」と「古典対照分類語彙表番号－ UniDic 語彙素番号対応表」により、自動で可能な語義ラベルを付与し、曖昧性解消を行った。いずれの対応表にも出現しない語彙については、分類語彙表の分類体系から適切な分類番号を記述した。鎌倉時代の作品に対して主に説話を扱い「今昔物語集」「宇治拾遺物語」「十訓抄」に対して作業を実施した。この時代の作品のみで 30 万語規模のデータを構築した。近世の作品として「虎明本狂言集」の一部のデータに対して加藤が作業した。近代の作品として「国定国語科教科書（第 1 期)」「国定国語科教科書（第 2 期)」「太陽（第 1 巻第 1 号-第 12 号)」に対して市村が作業を実施した。

3. 作業結果

3.1 基礎統計：統語分類：類の分布

	1. 体	2. 用	3. 相	4. 他	未定義	総計
0900 竹取	2,318	2,252	706	72	7,409	12,757
0934 土佐	1,710	1,272	453	45	4,728	8,208
1100 今昔	40,687	29,498	8,518	1,189	95,706	175,598
1212 方丈	1,433	792	342	100	2,735	5,402
1220 宇治	24,214	21,336	6,290	716	68,149	120,705
1252 十訓	19,808	13,039	3,974	460	52,896	90,177
1336 徒然	8,876	6,138	2,688	213	22,919	40,834
1642 虎明	1,255	811	369	88	2,925	5,448
1895 太陽	13,256	6,131	3,116	853	23,038	46,394
1904 小読	10,846	5,312	2,620	794	25,762	45,334
1910 小読	28,915	12,833	6,388	1,135	47,623	96,894
総計	153,318	99,414	35,464	5,665	353,890	647,751

表 2　統語分類：類の基礎統計

表 2 に統語分類アノテーションの基礎統計を示す。年代ごとに作業量にばらつきがあるが、全体で 647,751 語に対して作業を行った。このうち 353,890 語が機能語・記号・固有名詞などの分類語彙表番号が割り当てられない（分類番号未定義）[(7)]ものであった。

サンプルごとの統語分類の傾向を確認するために、未定義語を除いた 4 つの類のラベルとサンプルに対するカイ二乗検定を行った。表 2 から未定義を除いた分割表に基づいて、観測値と期待値の差としての残差を計算し、期待値の平方根で正規化した標準化残差を表 3 に示す。標準化残差は近似的に平均 0 標準偏差 1 の標準正規分布に従うとされ、絶対値が 1.96 を超える場合に有意水準 0.05 で特徴的な傾向があると言える[(8)]。

(6) https://github.com/masayu-a/WLSP2UniDic_historical
(7) 分類語彙表番号が割り当てられていない固有名詞以外の自立語については、可能な限り対応する分類番号を付与した。
(8) 但し、厳密な比較のためには p 値を推定し、多重比較を適切に補正した値の検討が必要である。

	1. 体	2. 用	3. 相	4. 他
0900 竹取	-13.05	12.91	2.57	-3.12
0934 土佐	-3.62	3.40	1.77	-2.74
1100 今昔	-8.26	21.65	-14.30	-10.59
1212 方丈	1.62	-4.53	1.20	6.87
1220 宇治	-30.90	36.19	-0.78	-10.40
1252 十訓	3.96	5.00	-8.94	-10.43
1336 徒然	-7.27	1.26	12.45	-7.42
1642 虎明	-2.45	-1.80	3.96	5.72
1895 太陽	14.61	-25.52	6.22	19.98
1904 小読	9.40	-20.47	5.86	22.42
1910 小読	31.72	-40.03	6.70	6.65

表 3　統語分類：カイ二乗検定：標準化残差（未定義なし）

「1. 体」の特徴として、「0900 竹取」「1220 宇治」のサンプルが顕著に少なく、「1895 太陽」「1910 小読」のサンプルが顕著に多い傾向がある。「2. 用」の特徴として、「1895 太陽」「1910 小読」のサンプルが顕著に少なく、「1100 今昔」「1220 宇治」のサンプルが顕著に多い傾向にある。このように体言が多いか用言が多いかは相補的な傾向がみられる。「3. 相」の特徴として、「1252 十訓」「1100 今昔」のサンプルが顕著に少なく、「1336 徒然」のサンプルが顕著に多い傾向にある。「4. 他」の特徴として、「1100 今昔」「1220 方丈」「1252 十訓」のサンプルが顕著に少なく、「1895 太陽」「1904 小読」のサンプルが顕著に多い傾向にある。

また、サンプルごとの統語分類の分布の類似度を計量すると、「1212 方丈」を除いて隣接する時代のものが近い傾向が見られた（付録 A 節：図 1 参照）。

3.2　基礎統計：意味分類：部門の分布

	.1 関係	.2 主体	.3 活動	.4 生産物	.5 自然	未定義	総計
0900 竹取	2,335	577	1,722	229	485	7,409	12,757
0934 土佐	1,540	360	1,002	167	411	4,728	8,208
1100 今昔	37,538	12,221	21,942	3,615	4,576	95,706	175,598
1212 方丈	1,335	255	637	147	293	2,735	5,402
1220 宇治	24,924	6,726	14,857	2,661	3,388	68,149	120,705
1252 十訓	16,323	5,461	11,789	1,540	2,168	52,896	90,177
1336 徒然	8,279	2,011	5,710	714	1,201	22,919	40,834
1642 虎明	1,122	389	667	113	232	2,925	5,448
1895 太陽	11,403	3,324	6,888	609	1,132	23,038	46,394
1904 小読	8,915	2,960	4,107	1,363	2,227	25,762	45,334
1910 小読	23,521	6,426	10,881	3,025	5,418	47,623	96,894
総計	137,235	40,710	80,202	14,183	21,531	353,890	647,751

表 4　意味分類：部門の基礎統計

表 4 に意味分類アノテーションの基礎統計を示す。部門「.2 主体」と「.4 生産物」は、類「1. 体」にしか定義されていない分類であるために相対的に頻度が低い。

統語分類と同様に、意味分類についてもカイ二乗検定を行ったもの（未定義を排除）を表 5 に示す。特徴的な傾向として、「.3 活動」が「1252 十訓」「1336 徒然」に多く、「1904 小読」「1910 小読」が少ない。これは、いずれも統語分類の「2. 用」の分類とも関連があると考える。また、「.5 自然」が、「1904 小読」「1910 小読」に多く、「1100 今昔」「1895 太陽」に少ない。さらには、「.4 生産物」が、「1904 小

	.1 関係	.2 主体	.3 活動	.4 生産物	.5 自然
0900 竹取	-4.50	-6.55	8.13	-1.87	4.93
0934 土佐	-2.91	-6.03	2.00	-0.08	10.21
1100 今昔	1.89	13.84	1.28	-4.66	-20.33
1212 方丈	3.49	-6.45	-3.97	1.66	7.29
1220 宇治	3.67	-7.73	5.55	2.79	-8.55
1252 十訓	-12.08	4.75	20.08	-6.71	-11.99
1336 徒然	-1.35	-10.51	14.20	-5.42	-3.30
1642 虎明	-2.25	2.28	-0.97	-0.82	3.62
1895 太陽	6.77	1.74	7.86	-16.49	-15.16
1904 小読	-3.34	5.32	-20.51	14.44	22.51
1910 小読	5.06	-5.71	-28.45	14.91	34.26

表 5　意味分類：カイ二乗検定：標準化残差（未定義なし）

読」「1910 小読」に多く、「1895 太陽」に少ない傾向が見られた。

このように、近代の事例をみると、同時代においてもレジスタ（雑誌と教科書）において、意味分類の分布が異なることがわかる。サンプルごとの意味分類の類似度を計量すると、隣接する時代でもレジスタが異なるものは異なる意味分類ラベルの分布を表出する（付録 A 節：図 2 参照）。

4. おわりに

本研究では、科学研究費基盤研究 (A)「日本語歴史コーパスに対する統語・意味情報アノテーション」で進めてきた、『日本語歴史コーパス』データの分類語彙表番号アノテーションについて紹介した。作業手法とともに、データの基礎統計について示した。

今回、CHJ に分類語彙表番号を付与したが、分類語彙表の意味分類の粒度に基づくアノテーションのために、語義の識別に限界もある。たとえば「いみじ（語彙素：いみじい)」は分類番号 31920 （相-関係-量-程度-程度）が付与されているが、極性までは識別されていない。各語彙のより深い分析においては、さらなる語義の識別作業が必要となる。通時的な語義の分析においては、文脈化単語埋め込みに基づく単語ベクトルが利用できるようになりつつある。しかしながら、ベクトルの中心化・等方化・白色化などの数理的な構造の検討が依然として進んでおらず、必ずしもヒトの語義の識別と合致しているわけではない。

また、今回の作業は国語研短単位に対する語義ラベルを付与した。単位の問題は重要で、短単位であるがゆえに複合語に対して構成する語を分割して語義ラベルを付与せざるを得ない状況が多々あった。鎌倉時代編においては、未整理ではあるが、別単位で語義が変わる場合についての語義情報も整備している。単位が異なるがゆえに計数することが困難になるが、単位が異なる場合に語義が構成的に定義できない場合のアノテーションも重要であると考える。

今後、`https://github.com/masayu-a/CHJ-WLSP` にて、原文の語彙素を削除したデータを公開するほか、国語研共同利用型共同研究（言語資源型）に応募された方に共有を行う。

付録 A.　類・部門分布の距離

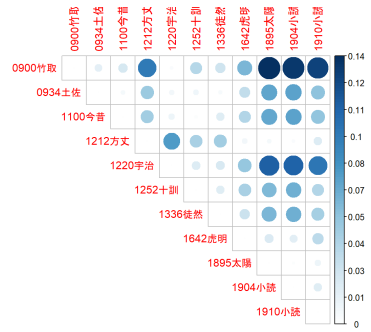


図 1: 類分布の距離（丸が大きいほど遠い）

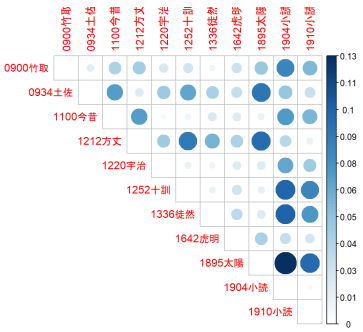


図 2: 部門分布の距離（丸が大きいほど遠い）

謝　辞

アノテーション作業に従事した原裕氏・十河則子氏・南雲千香子氏に感謝いたします。本研究は科研費 JP17H00917(2017-2021)・国立国語研究所コーパス開発センター共同研究プロジェクト「コーパスアノテーションの拡張・統合・自動化に関する基礎研究」(2016-2021)・国立国語研究所共同研究プロジェクト「アノテーションデータを用いた実証的計算心理言語学」(2022-2027) によるものです。

文　献

国立国語研究所 (2022).『日本語歴史コーパス』.

国立国語研究所 (編) (2004).『分類語彙表増補改訂版』　大日本図書.

宮島達夫・石井久雄・安部清哉・鈴木泰 (2014).『日本古典対照分類語彙表』　笠間書院.

近藤明日子・田中牧郎 (2020).「「分類語彙表番号－ UniDic 語彙素番号対応表」の構築」　国立国語研究所論集:18, pp. 77–91.

Kikuo Maekawa, Makoto Yamazaki, Toshinobu Ogiso, Takehiko Maruyama, Hideki Ogura, Wakako Kashino, Hanae Koiso, Masaya Yamaguchi, Makiro Tanaka, and Yasuharu Den (2014). "Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese." *Language Resources and Evaluation*, 48, pp. 345–371.

加藤祥・浅原正幸・山崎誠 (2019a).「分類語彙表番号を付与した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の書籍・新聞・雑誌データ」　日本語の研究, 15:2, pp. 134–141.

国立国語研究所 (編) (1951).『現代語の助詞・助動詞ー用法と実例 (国立国語研究所報告 3)』　秀英出版.

加藤祥・浅原正幸・山崎誠 (2019b).「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』新聞・書籍・雑誌データの助動詞に対する用法情報」　日本語学会 2019 年度春季大会, pp. 169–174.

池上尚 (2017).「『日本語歴史コーパス　平安時代編』出現形容詞に対する古典分類語彙表番号アノテーション」　言語処理学会第 23 回年次大会発表論文集, pp. 310–313.

浅原正幸・加藤祥・鈴木泰・池上尚 (2017).「『日本語歴史コーパス』4 作品に対する分類語彙表番号付与とその分析」　日本語学会 2018 年度秋季大会, pp. 167–172.

古代語の自然発生的自動詞とラレ構文の連続性について

志波彩子（名古屋大学）a-shiba@nagoya-u.jp

1. はじめに

本研究は，古代語（上代，中古）のラ行下二段の自然発生的自動詞とそれが構成する構文を調査することで-*(r)are*-（以下ラレ）による構文との連続性を考察し，ラレ構文がなぜ自発・可能・受身といった意味を発達させたのかを説明することを目的とする。

2. 先行研究と問題の所在

- 川村（2012ab）では，無意志自動詞（本研究の自然発生的自動詞）とラレ構文が不連続であることが強調される。その理由として，以下の 2 点を指摘している。

A. 自動詞は「モノの変化」を述べるのに対し，ラレ構文は「人の身の上に事態が生ずる」ことを表わしている点で，表される事態内容が大きく異なる。

B. 自動詞は一項動詞であるのに対し，ラレ構文は二項述語であり，かつ対象がヲ格表示されることもある。

よって，ラレ構文は「出来文[1]」であるのに対し，無意志自動詞文は出来文ではないとする。しかしその一方で，ラレが自動詞の活用語尾の類推から取り出されたとする説（釘貫 1991 等）が最も有力であることは川村（2012b）も認めるところである。

- 自動詞の表す「自然発生（自ずから然る）」の意味には，次の 2 つの意味がある。

(1) 動作主の介在なしに変化＝事態が実現する。（志波 2020）
ガラスが割れる，氷が溶ける，部屋が温まる，布団が乾く，花が散る，等

(2) 動作主の意志（やコントロール）と関係なく変化＝事態が実現する。（志波・投稿中）（
疲れる，惚れる，憧れる，呆れる，やつれる，（雨に）濡れる，気が狂う，等

- 川村（2012ab）では，無意志自動詞の意味として上の(1)の意味を想定している。この(1)の意味は，たとえ動作主が存在したとしてもその存在を背景化し，モノの変化を中心に述べるという機能と表裏の関係にある。cf. 非情主語受身

(3) 暖房を入れたら，すぐに部屋が温まった。

- 一方で，上の(2)の意味は，ラレ構文が表す意味とほぼ同じ意味を表している。
⇒古代日本語の自動詞と自動詞構文の意味と構造はどのようなものであったのか。

3. 古代語の自動詞構文の特徴（特にラ行下二段動詞）

3.1 上代・中古のラ行下二段動詞が表す意味的特徴（主に上代）

上代のラ行下二段活用動詞を『日本語歴史コーパス（CHJ）』で調査すると，そのおよそ 9 割が自然発生的自動詞（無意志自動詞）であった。上代の四段動詞では約 5 割が他動

[1] 「出来文」とは，通常の他動詞文が個体から個体へのエネルギーの流れ（因果連鎖）として事態を把握しているのに対し，「事態をあえて個体の運動（動作や変化）として語らず，場における事態全体の出来，生起として語る事態認識の仕方を表す文である」（尾上 2003: 36）とする。

詞，約２割が意志的自動詞，そして残りの約３割が無意志自動詞であり[2]，下二段動詞全体では，約６割が他動詞，１割が意志的自動詞，３割が無意志自動詞である[3]ことと比べるとラ行下二段には無意志自動詞が相当に多いことが分かる。以下表１に，「品詞（中分類）＝文語ラ行下二段活用」で検索した結果を，「語彙素」の多い順に表にして示す。

表１：ラ行下二段活用語全 49 語（上代資料のみ，他動詞のみの語に網掛け）

忘る	97	慣る	11	羸る	3	免る	1
濡る	69	隠る	10	生まる	3	腫る	1
別る	61	入る	10	戯る	2	た忘る	1
乱る	48	枯る	9	狂る	2	浮かる	1
離る	38	ぬる	7	晴る	2	結ぼる	1
触る	30	生る	7	溺る	1	下焦がる	1
遅る	27	疲る	5	目離る	1	漏る	1
流る	26	知る	4	溢る	1	割る	1
荒る	23	群る	4	行きかぐる	1	島隠る	1
うらぶる	16	扱入る	4	萎る	1	しわぶる	1
垂る	15	優る	3	雲離る	1		
暮る	14	破る	3	毀る	1		
現わる	14	分かる	3	薄る	1		

- 以上のラ行下二段動詞には，先の自然発生の意味(1)よりも(2)の意味を表すものが多いようである。
- 「忘る」（97 例）は，東国方言では対象[4]が主格表示されることが知られ，本来は無意志的な自動詞であったと言われている（有坂 1957，柳田 2011）[5]。

(4) **我が面**の忘れも（阿我母弖能和須例母）しだは国溢り嶺に立つ雲を見つつ偲はせ（万葉集 14・3515 番）

- 「濡る」（69 例）の対象は，1 例を除いて，人，もしくは「袖，衣手，裳の裾，床」など有情者の広義所有物である。

(5) ぬばたまの黒髪山を朝越えて山下露に濡れにけるかも（山下露尓沾来鴨）（万葉集 7，1241 番）

- 「別る」（61 例）も，95%以上は人もしくは所有物が対象である。そして，基本的には無意志的な事態を表していると考えられる。

---

[2] 四段動詞は，語彙素の多い順に 30 語は「給ふ，思ふ，行く，奉る，坐す，立つ，宣る，言ふ，会う，鳴く，持つ，知る，聞く，待つ，降る，申す，す，渡る，咲く，置く，取る，散る，成る，漕ぐ，去る，返る，継ぐ，打つ，吹く。刈る」となっている。

[3] 下二段動詞全体は，語彙素の多い順に 30 語は，「出づ，見ゆ，寝，仕ふ，給ふ，掛く，越ゆ，収む，思ほゆ，絶ゆ，兼ぬ，立つ，忘る，経，寄す，終ふ，しむ，濡る，消ゆ，告ぐ，別る，定む，明く，更く，得る，かつ，始む，放く（さく），授く，乱る，出」となっている。

[4] 以下，自動詞の第一項を対象と呼んで行く。

[5] 以下，用例には当該述語動詞に下線，事態実現の要因に波下線を施し，述語の対象を太字にする。

(6) **白たへの袖**別る**べき**（袖可別）日を近み心にむせひ音のみし泣かゆ（万葉集 4，645 番）

- 「乱る」（48 例）も対象が人とその所有物の割合は 8 割以上。「思ひ乱る」が 17 例と多い。

(7) 恋ふること増される今は**玉の緒**の絶えて乱れて（玉緒之絶而乱而）死ぬべく思ほゆ（＋万葉集 12，3083 番）

- 「離る（はなる）」（38 例）は基本的に人が主語で，自分の意志の及ばない位置変化を表している。

(8) 障へなへぬ命にあればかなし**妹が手枕**離れ（伊毛我多麻久良波奈礼）あやに悲しも（万葉集 20，4432）

- 「触る（ふる）」（30 例）は意志的行為に見える例も数例あるが，基本的には特に自分の意志に関わらず「触れる」という意味で用いられているように見える。

(9) 玉津島磯の浦廻の砂にもにほひて行かな**妹も**触れけむ（妹触険）（万葉集 9，1799

- 「遅る」（27 例）も人の無意志的な行為を表すと考えられる。

(10)　まそ鏡見飽かぬ君に後れてや（見不飽君尓所贈哉）朝夕にさびつつ居らむ（万葉集 4，572 番）

- 「流る」（26 例）は「川，霞，雪」などの自然現象を対象とする例が多い（(11)）が，上代に「涙」等の所有物が 5 例あり，(12)のような詠み重ねの歌もある。中古には「涙」と詠み重ねの例が「流る」全体の半数以上となる。

(11)　石走り激ち流るる**泊瀬川**（流留泊瀬河）絶ゆることなくまたも来て見む（万葉集 6，991 番）

(12)　泊瀬川流る**水沫**の（流水沫之）絶えばこそ我が思ふ心遂げじと思はめ（万葉集 7，1382 番）

- 「荒る」（23 例）の対象は，「海」が数例あるが，ほとんどが「都，道，門，宮，家，寝床」など，人の広義所有物ないし存在場所である。

(13)　秋されば春日の山の黄葉見る**奈良の都の**荒るらく（寧楽乃京師乃荒良久）惜しも（万葉集 8，1604 番）

- 「暮る」「晴る」等は上代には「日暮る」のような自然現象を詠むもののみであるが，何らかの感慨を持ってその様子を詠む歌が多い。このためか，中古になると「涙にくる，心くる／はる」のような意味の拡張が見られる。

(14)　あかねさす日の暮れぬれば（日之暮去者）すべをなみ千度嘆きて恋ひつつそ居る（万葉集 12，2901 番）

(15)　尼君，のぞきて見たてまつるに，老も忘れ，**もの思ひ**もはるる心地してうち笑みぬ。（源氏物語，松風）

以上見られる例の多くは，「動作主を介さずに対象の変化が実現する」という自然発生の意味(1)ではなく，「人に対して，その人の意志に関わらず変化＝事態が実現する」という意味での自然発生の意味(2)を表している。中古のラ行下二段動詞では，人の身の上に生じる変化を述べる動詞のバリエーションがさらに豊富になる。

(16)　離る（散り散りになる），呆る（途方に暮れる），憧る，あぶる（落ちぶれてさまよう），現る（人に知られる），焦らる（気を揉む），思ひ浮かる（動揺する），埋もる

（引きこもる），うらぶる（悲しみに沈む），遅る，恐る，おびる，溺ほる，面馴る（見慣れる），愚る（放心状態になる），隠る[6]（亡くなる），頽る，暗る，気圧さる，穢る，焦がる，潮垂る，萎る（打ちひしがれる），時雨る（涙がこぼれる），痴る，知る，優る，倒る，疲る，慣る，離る（官職をとかれる），放る（さすらう，落ちぶれる），ひかさる（引き付けられる），惚る，紛る，纏はる（とらわれる），丸かる（（涙で髪が）丸くなる），乱る，羸る（やつれる），結ぼほる（気がふさぐ），睦る（親しみなつく），やつる等（以上あいうえお順，志波（投稿中）より）

3.2 自動詞構文の構造的特徴

- 和文資料では，自動詞構文の対象が人の広義所有物（「心，涙，紐，衣，袖，心，髪，声，目，胸，手，心地，愛嬌」等）であることも少なくない。こうした自動詞構文は，所有者である人に視点が置かれる次のような構造を持ち，視点のある人＝所有者に対して変化＝事態が実現する，という意味を表している。

(17)　構造１[【所有者視点】（要因） 人の広義所有物-主格　自然発生的自動詞]

(18)　見し人のかげすみはてぬ池水にひとり宿もる秋の夜の月と独りごちつつ，殿におはしても，月を見つつ，心は空にあくがれたまへり。「さも見苦しう。あらざりし御癖かな」と，御達も憎みあへり。（源氏物語，夕霧）

のように用いられるとき，対象である「心」の所有者に視点があり，所有者である人に対してその人の意志の及ばないところで「あくがる」という事態が実現することを表わしている。

- さらに，所有者が主題に立って，二項構造を取っているように見える例も散見される（先の(15)も参照，主題に立つ人に二重下線，志波（投稿中）より）。

(19)　構造２［有情者-主題（視点）（要因） 非情物-主格 自然発生自動詞］

(20)　屋形といふものの方にて押す。されど，奥なるは，たのもし。端にて立てる者こそ，**目**くるる心地すれ。早緒とつけて，櫓とかにすげたる物の弱げさよ。（枕草子，うちとくまじきもの）

(21)　何ごとかあらむとも思したらず，さぶらふ人々の泣きまどひ，上も**御涙**の隙なく流れおはしますを，あやしと見たてまつりたまへるを。（源氏物語・桐壺）

(22)　御母にものしたまふ人も、かくののしる乳母なども、はじめより知りそめたりし方に渡りたまはんとなん急ぎ立ちて、この御事をば、人知れぬさまにのみ、かたじけなくあはれと思ひきこえさせたまへりしに、**御心**乱れけるなるべし。（源氏物語・蜻蛉）

- 「古代語において，自発・可能構文で視点の置かれる有情者が格表示される例はなく（川村 2012b: 174，201），特に非情物対象と共起するラレ構文における有情者は未だ主題として添えられるのみで，ラレ述語とは強い格関係を結んでいなかったと考えられる。」（志波・投稿中）

(23)　構造３：ラレ構文の実現構文（自発・可能）の構造形式（志波 2020 を改変）

［有情者$_{\text{主題（大主語）}}$（事柄$_{\text{修飾句}}$）（非情物-ϕ/主格/対格$_{\text{小主語／補語}}$） 動作主必須動詞-(r)are］
（動作主／要因／対象）

[6] 意志的行為の意味も持つ。

(24)【ひどく真っ赤な薄様の手紙を真っ赤な唐撫子に結びつけたのを】取り入れたるこそ，**書きつらむほどの暑さ，心ざしのほど**浅からずおしはかられて，かつ使ひつるだにあかずおぼゆる**扇**もうち置かれぬれ。(枕草子・いみじう暑き昼中に)

(25)とうち誦じたまひても、**鼻の色に出でて、いと寒しと見えつる御面影**、ふと思ひ出られて、ほほ笑まれたまふ。(源氏物語，末摘花)

➢ 対象のヲ格表示：近藤（1980），竹内（2008）等

(26)たらちねの**母**を別れてまこと我旅の仮廬に安く寝むかも（万葉集 20，4348 番）

(27)まことにも思して，男君，いはでをこひに**身**をこがれましとて，やがて男君，埋火のいきてうれしと思ふにはわがふところにいだきてぞぬるとて，かき抱きて臥したまひぬ。女君，「いとさがしきことなり」とて笑ひたまふ。(落窪物語)

(28)人の嫉み深くつもり，やすからぬこと多くなり添ひはべりつるに，横様なるやうにて，つひにかくなりはべりぬれば，かへりてはつらくなむ，**かしこき御心ざし**を思ひたまへられはべる。これもわりなき心の闇になむ」(源氏物語，桐壺)

(29)さりとて，かき絶え音なうきこえざらむもいとほしく，**人の御名の朽ちぬべきこと**を思し乱る。(源氏物語，葵)

3.3 自動詞構文から不可能，受身へ

➢ 古代語のラレ構文の自発と可能は，共に「動作主である人に対して変化＝事態が実現する」という意味で共通する。本研究ではこれを実現構文と呼ぶ。実現構文は，肯定では上述のように「人の意志に関わらず事態が実現する」という自発の意味を表す。一方，否定では，「人が実現を意図しても，事態が実現しない（＝実現の許容性がない）」（尾上 1998 の可能の定義参照）という不可能の意味を中心に表していたと考えられる。

➢ 古代語の自動詞構文の否定の例を見ると，多くは次のように事態が実現しないという単なる「不実現」の意味を表している。

(30)三位、横笛、四位少将、拍子とりて、蔵人少将、伊勢の海うたひたまふ、**声**まぎれずうつくし。(提中納言物語)

自然発生的自動詞の 2 つの意味に対立する否定の意味を考えたとき，「動作主の介在や意志の関わらないところで変化が実現しない」という意味は，あまり表現価値がない。通常は，「何らかの外的な力（要因）が加わっても変化が実現しない」という意味になりやすいと考えられる。例えば(30)のような自動詞構文は，「(管楽の音があっても）声がまぎれず」という意味になっている。

一方，ラレ構文は動詞の表す事態に必ず動作主が関与する動作主必須動詞で構成される。つまり，動詞の語彙的な意味に必ず動作主が含意されるため，否定の場合は，「動作主の意図や力が加わっても変化＝事態が実現しない」という不可能の意味に優先的に解釈されるものと考えられる。可能が否定に偏るのは，こうした事情によると考えられる。

➢ 最後に有情主語の受身は，先の実現構文の構造における要因（原因）が人＝動作主になることで成立するものと考えられる。

(31)　構造 4：ラレ構文の受身構文

［有情者$_{\text{主題(大主語)}}$（有情者$^{\text{動作主}}$-ニ$_{\text{修飾句}}$）（非情物$^{\text{対象}}$-φ/主格/対格$_{\text{小主語／補語}}$）動作主必須動詞-(r)are］
（有情者：対象／所有者）

(32) 昔の蔵人は、夜など人のもとにも、ただ青色を着て、雨に濡れても、しぼりなどしけるとか。（枕草子，成信の中将は、入道兵部卿宮の御子にて）

(33) 大臣も宮も、今日のけしきにまた**悲しさ**あらためて思さる。（源氏物語，葵）

(34) 法師なれど、いと心恥づかしく、**人がら**もやむごとなく世に思はれたまへる人なれば、かるがるしき御ありさまを、はしたなう思す。（源氏物語，若紫）

- 一方，古代語の非情主語の受身は，タリと共起する状態受身もしくは潜在的受影者のいる受身に多くの類型が偏っていると言われるが（志波 2018，川村 2012b），この特徴も自然発生的自動詞構文と重なっていると考えられる。状態受身は先の自然発生の(1)の意味の延長にあり，動作主を背景化した受身となっている。潜在的受影者のいる受身の意味は(1)と(2)の意味の両方の側面を持っている（先の「荒る」の例もこれに近い）。

(35) 橘の木の埋もれたる、御随身召して払はせたまふ。（源氏物語，末摘花）

(36) とのたまふに、**薄二藍なる帯**の御衣にまつはれて引き出でられたるを見つけたまひてあやしと思すに、また畳紙の手習などしたる、御几帳のもとに落ちたりけり。（源氏物語，賢木）

(37) 聞きしより物を思へば**我が胸**は割れて（我胷者破而）砕けて利心もなし（万葉集 12，2894 番）

(38) **かの明石の舟**、この響きにおされて過ぎぬることも聞こゆれば、知らざりけるよとあはれに思す。（源氏物語，澪標）

4. まとめ

古代日本語は，話し言葉に近い資料では，特にラ行下二段の自動詞構文は(2)の「人の意志に関わらず変化＝事態が実現する」という意味で多用されており，こうした意味はラレ構文の意味と連続している[7]。構造的にも有情者の主題を取る点でラレ構文と共通している（これはすべての自然発生的自動詞構文に言える）。よって，ラレ構文の説明に「出来文」（尾上 1998ab-1999，川村 2012ab）という説明装置は必要なく，自動詞の表す「自然発生（自ずから然る）」との連続として捉えられると考えられる。

【引用文献】

有坂秀世（1957）『国語音韻史の研究 増補新版』三省堂.／尾上圭介（1998a）「文法を考える 5 出来文(1)」『日本語学』17-7.／尾上圭介（1998b）「文法を考える 6 出来文(2)」『日本語学』17-10.／尾上圭介（1999）「文法を考える 7 出来文(3)」『日本語学』18-1.／尾上圭介（2003）「ラレル文の多義性と主語」『月刊言語』32-4.／川村大（2012a）「動詞ラル形述語文と無意志自動詞述語文との連続・不連続について」『國語と國文學』89-11.／川村大（2012b）『ラル形述語文の研究』くろしお出版.／釘貫亨（1991）「助動詞「る・らる」「す・さす」成立の歴史的条件について」『国語学』164.／近藤泰弘（1980）「助詞「を」の分類―上代」『國語と國文學』57-10.／志波彩子（2018）「ラル構文によるヴォイス体系―非情の受身の類型が限られていた理由をめぐって」岡崎友子ほか（編）『バリエーションの中の日本語史』くろしお出版.／志波彩子（2020）「受身・可能とその周辺構文によるヴォイス体系の対照言語学的考察―古代日本語と現代スペイン語」『言語研究』158.／志波彩子（投稿中）「自然発生（自動詞）から自発へ―古代日本語と現代スペイン語の対照ー」青木博史ほか（編）『日本語文法史研究』6／竹内史郎（2008）「古代日本語の格助詞ヲの標示域とその変化」『國語と國文學』85-4.／柳田征司（2011）『日本語の歴史２ 意志・無意志』武蔵野書院.

[7] なお，ユ・ラユについては調査不足だが，基本的には同様の連続性が認められるのではないかと考えている。

「上代日本語の甲類の o_1 に対する琉球祖語のもう一つの音対応について」

セリック・ケナン（国立国語研究所）

1. はじめに

上代日本語（以下 OJ）においてそれぞれ甲類・乙類と呼ばれてきた 2 種類の「オ」（以下 o_1、o_2）が区別されていることが周知の通りである（有坂（1955）等）。日琉祖語を対象とした研究の定説によると、この母音の対立が琉球祖語（以下 pRk）では存在しておらず、上代日本語の o_1 と o_2 に対して琉球祖語の *o だけが対応し、さらに、上代日本語における区別の方が古い特徴で、琉球祖語ではオ段甲乙の完全なる合流が既に完了していることが想定されている（服部 1978-1979、Thorpe 1983、Pellard 2013, to appear）。

本発表では、定説に反して、上代日本語の o_1 に着目してそれに対する琉球祖語の音対応は 1 つではなく、2 つ存在すること、すなわち定説の OJ o_1 :: pRk *o の音対応に加えて OJ o_1 :: pRk *u(C)a（「C」は音価不明な子音、「 ( ) 」は存在不明なこと、以下も同）の音対応も存在することを主張する。

2. 問題の所在

表記体系の分析を通じて、上代日本語において現代日本語のオに対して音韻的に対立する、「甲類」・「乙類」と呼ばれてきた 2 種類の母音が区別されていることがよく知られている(1)（有坂 1955 等）。具体的な音価について Miyake (2003) に従って、o_1 を円唇性のある母音（[o]）、o_2 を円唇性のない母音（[ə]）と考えておく。

(1) 上代日本語の o_1/o_2 の例（甲類・乙類の情報は上代編（1967）による、以下も同）

a. 甲類：ko_1「子」、jo_1「夜」、to_1「戸」、mo_1mo_1「腿」、ko_1si「越し」

b. 乙類：ko_2「此」、jo_2「世」、to_2「〜と」、mo_2「〜も」、ko_2si「腰」

先行研究によると、琉球祖語では 5 つの母音（*a、*i、*u、*e、*o）が再建される。そのうち、上代日本語の o_1/o_2 に対して琉球祖語の *o が対応する（Thorpe 1983、Pellard to appear）。この音対応からは次のように解釈される。上代日本語に観察される o1/o2 の対立が日琉祖語より継承された古い特徴の保持である。また、上代日本語で保持されているこの対立は琉球祖語では既に失われており、上代日本語の o_1/o_2 に対応する音が既に pRk *o として合流を遂げている。

しかし、上代日本語の o_1 に着目すると、OJ o_1 :: pRk *o の対応に合わない例が見つかる。表 1 に「例外」例を示す（データ元とデータ提示について 3 節を参照）。先行研究ではこれらの例について個別の言及がないわけではない（「子」: 村山（1981:118-119）、Thorpe (1983:271)、Bentley (2008:251)、「孫」: Thorpe (1983:291-292)、Bentley (2008:217-218)）が、総合的な観点を欠いていることや、説得的な説明がなされていいないことが指摘できる。例えば、Thorpe は「子」に対して pRk kuwa* を再建しており、第二音節の *wa を指小辞とみなした上で、第一音節の *ku を日本語の「子」と同源という説明を試みているが、Thorpe 自身が指摘しているように、この説を取ると殆ど実証されない OJ o_1 :: pRk *u という音対応を想

定せざるを得ない。村山は「子」に対して pRk *kua(:) を再建し、それ自体を日本語の「子」と同源と見なした上で、*ua の二重母音が上代日本語において o_1 として変化していることを主張しているが、この音変化は他に見られない散発的なものなのか、また、「孫」の語末の音節の音対応とどのような関係があるのかなどについては全く考察していない。

表 1 OJ o1 :: pRk *o の「例外」例

	OJ	pRk	AM-YM	NK-YN	OK-SH	MY-TR	YA-IS	YA-YN
「子」	ko_1	*kuCa^{A}	kwa	[kˀwa:	kkwa^{A}	ffa^{A}	[ɸa]:	pa:[1]
「孫」	$umago_1$	*umaga^{C}	ʔmaga	ʔma:[ga	ʔɴmaga^{BC}	mmaga^{C}	[ma:	maŋu^{C}

AM-YM：奄美大島大和浜、NK-YN：今帰仁与那嶺、MY-TR：宮古多良間、YA-IS：八重山石垣、YA-YN：八重山与那国

表 1 に示した「例外」を適切に評価するために、琉球祖語における上代日本語の o_1 の対応を総合的に比較することを経て、次の問いに答える必要がある。すなわち、A.「子」や「孫」で観察される対応が他にあるのか、B. 「子」の対応とそれと同源と思われる「孫」の語末音節の対応の関係がどう説明されるのか。以下では北琉球・南琉球の 13 地点の比較に基づき、この問いについて検討する。

3. データ

・対象地点とデータ : 北琉球／南琉球の各語群（奄美語・沖縄語／宮古語・八重山語）をカバーするよう、次のデータを使用する。北琉球 : 奄美語大和浜 : 長田・須山（1977）、徳之島浅間上野（2014、2015、 2017a、2017b、2018a、2018b、2018c）、与論：菊・高橋（2005）、今帰仁与那嶺：仲宗根（1983）、沖縄首里：国立国語研究所（1963）。南琉球：宮古平良：Jarosz (2015)、宮古皆愛（セリック 2021、調査ノート）、宮古池間西原 :（仲間ほか 2022）、宮古多良間仲筋 :（渡久山・セリック 2020）、八重山石垣四箇 : 宮城（2003）、八重山竹富：（前新ほか 2011、ローレンス 2013, 2019）、八重山鳩間：（加治工 2020）、八重山与那国（池間 1998、与那国方言辞典編集委員会 2021）。なお、各出典の表記を統一した。

・アクセント：松森（2000a、2000b）に従って、琉球祖語において A、B、C の 3 つのアクセントクラスを想定する。各方言のアクセントは単独発音のピッチを「 [ ] 」（それぞれピッチの上昇・下降）の記号で示すか、祖語の対応型を上付き文字で示す。

4. 琉球祖語における上代日本語の o_1 の対応

上代日本語と琉球祖語で共通しており、かつ、o_1 が含まれると特定できる語を比較してみると、定説の通りそのほとんどが OJ o_1 :: pRk *o の音対応を示すことが確認できる(2)（比較データ／アクセントは

[1] 与那国語において（語頭における）t^h、$t^ʔ$と k^h、$k^ʔ$と異なって、p の口頭化音と有気音の対立がないようである（中澤光平私信）、そのため p とだけ表記する。

省略する)。

(2) OJ o_1 :: pRk *o の対応例：OJ jo_1 :: pRk *jo「夜」、OJ to_1 :: pRk *(ja)do「戸」、OJ ko_1 :: pRk *ko「粉」、OJ mo_1mo_1 :: pRk *momo「百」、OJ mo_1mo_1 :: pRk *momo「腿」、OJ mo_1ko_1 :: pRk *moko「婿」、OJ to_1g- :: pRk *tog-「研ぐ」、OJ to_1zi :: pRk *tozi「妻」、OJ to_1ra :: pRk 「寅」、OJ $mato_1$ :: pRk *mato「的」、OJ ato_1 :: pRk *ato「跡」、OJ $pato_1$ :: pRk *pato「鳩」、OJ $sato_1$ :: pRk *sato「里」、OJ $mado_1$ :: pRk *mado「窓／暇」OJ $kuro_1$ :: pRk *kuro「黒」、OJ $siro_1$ :: pRk「白」、OJ so_1ra :: pRk *sora「空」、OJ so_1de :: pRk *sode「袖」、OJ iso_1 :: pRk *iso、OJ $suso_1$ :: pRk *soso「裾」、OJ $kuso_1$ :: pRk *kuso「糞」、OJ jo_1ru :: pRk *joru「夜」、OJ jo_1ri :: pRk *jori(ka)「～より」、OJ ko_1je :: pRk *koje「越え」、OJ $pako_1$ :: pRk *pako、OJ $tako_1$ :: pRk *tako「蛸」、OJ to_1nari :: pRk *tonari「隣」、OJ aro_1zi :: *pRk arozi「主」、OJ $pukuro_1$ :: pRk *pukuro「袋」

しかし、上記の対応の他に、OJ o_1 :: pRk u の対応（2 語：pRk *asub-「遊ぶ」、pRk *itoku「いとこ」)、OJ o_1 :: pRk uCa の対応（2 語)、OJ o_1 :: pRk a の対応（4 語）も見つかっている。後者 2 つの比較データを表 2 に示し、解説する（前者 1 つについては本発表では扱わない)。

表 2 OJ o_1 の「例外」的対応（-：対応語が見つかっていない）

地点＼同源語	「子」	「肥え」	「孫」	「双子」	「太い」	「猫」
OJ	ko_1	ko_1je	umago$_1$	putago$_1$	puto$_1$-	neko$_1$
pRk	*kuCa^{A}	*kuCaje^{B}	*umaga^{C}	*putag(w)a?	*buta-^{A}	*neka^{C}?
奄美大和浜	kwa	kwe:	ʔmaga	takkwa	-	-
徳之島浅間	[kʔwa:	[kʔwɜ:	[mʔa:]ga	buta:[gwa	hutɜ:[haN	-
与論東区	kwa:^{A}	[koi	u[maga	pu[taga	(wata)buta? 「腹の大きい者」	-
今帰仁与那嶺	[kʔwa:	[kʔwe]:	ʔma:[ga	-	~[bu]tʔa: 「～の太い者」	-
首里	kkwa^{A}	kwe:^{BC}	ʔNmaga^{BC}	-	buta-^{A}	-
平良	ffa	ffai	mmaga	futaga	vda-	-
皆愛	ffa^{AB}	ffai^{AB}	mmaga^{C}	futaga^{AB}	uda-^{A}	-
池間西原	ffa^{A}	ffai^{B}	mmaga^{C}	futaka^{A}	uda-^{A}	-
多良間仲筋	ffa^{A}	ffai^{A}	mmaga^{C}	futaga^{C}	uda-^{A}	nika^{C}
石垣四箇	[ɸa]:	[kwai	[ma:	-	-	-
竹富	ɸa:^{A}	koi^{BC}	ma:^{BC}	-	-	-
鳩間	f[fa	]koi	]ma:	-	]butta: 「太い物」	-
与那国	pa:	kʰwai^{C}	maŋu^{C}	tʔaŋa^{C}	-	-

・再建根拠（表 2・3）:「子」と「肥え」は幾つかの地点（今帰仁、宮古など）において *kura、*kuwa と全く同じ対応を示しており、今帰仁の喉頭化、宮古語の後続摩擦化より語頭に *ku を再建する必要がある。ただし、幾つかの地点（奄美大和浜、八重山）において *kura、*kuwa とは若干異なる対応が見られており、そのまま *kura や *kuwa を再建することができない。対応の違いはおそらく、第 2 音節の子音の有無やその違いによると考えられる。また、「子」「肥え」が同じ分節音になる地点（宮古：**ffa**、**ffa**i）とならない地点（竹富：**ɸa**:、**ko**i）があるが、後者の地点で観察される違いは語末音節の子音の相対的消失時期や音節構造によると考えられる。以上を踏まえて、「子」と「肥え」に対して pRk *kuCa が再建される。

・*neka「猫」は琉球諸語におけるハパックズ・レゴメノンで、多良間・水納島にしか分布せず、また日本語からの借用語の上、動物名に付く -a が付いてできた語形である可能性もあるため、OJ o_1 :: pRk a の対応から除外されるかもしれない（ただし、極端な不完全系統仕分けの可能性も検討する必要がある）。

表 3 比較用の他の対応（-：対応語が見つかっていない）

	「枕」	「鍬」	「粉」	「越える」	「婿」	「程」
OJ	makura	kupa	ko_1	ko_1je-	mo_1ko_1	$podo_1$
pRk	*makura^{B}	*kupa-^{A} > *kuwa-^{A}	*ko^{B}	*koje-^{A}	*moko^{C}?	*podo^{A}
奄美大和浜	makura	-	xu:	-	muhu	hudu
徳之島浅間	makkˀwa[:	(t^{h}o:)gwɜ:	k^{h}u[:	-	[muk]kˀwa	-
与論東区	makku[ra	koi(tʃĩ)^{A}	ku[:	huijuɴ	[mu:kwa:	pu[du
今帰仁与那嶺	mak[kˀa:	[kˀwe:	ɸu[:	[ɸujiru]ɴ	[mu]ɸu	(t^{h}akˀi)[p^{h}u]du
首里	makkwa^{BC}	kwe:^{A}	ku:^{BC}	kwi:juɴ^{A}	mu:ku^{C}	ɸudu^{A}
平良	maffa	ffa(tsɿ)	ku:	kui-	muku	pudu
皆愛	maffa^{AB}	ffa(tsɿ)^{AB}	ku:	kui-^{A}	muku^{C}	pudu
池間西原	maffa^{B}	ffa(tsɿ)^{B}	ku:^{B}	kui-^{A}	muku^{C}	hudu[2]
多良間仲筋	maffa^{B}	ffa(tsɿ)^{A}	ku:^{B}	kui-^{A}	muku^{C}	pudu^{A}
石垣四箇	[maɸ(ɸ)a	(kana)pa(i)	[ku:	[kui]ruɴ	[muku	[ɸu]du
竹富	məɸɸə^{BC}~ məppə	pa(i)	ku:^{BC}	kuiruɴ^{A}	muku^{BC}	ɸudu
鳩間	[maf]fa	(kana)pa(i)	]ku:	[kuiruɴ	]muku	ɸu[du
与那国	magura^{B}	pa(ŋai)^{A}	k^{h}u	k^{h}ui	mugu^{C}	-

・表 3 で確認できるように、語頭では、OJ o_1 :: pRk *u(C)a、語末では、OJ o_1 :: pRk *a の対応が見られ、

[2]仲間他（2020）にないようで、上地（2021）で補った。

2 つの対応が相補分布をなしている。与那国 maŋu 「孫」は南琉球でよく起きるとされる（Pellard 2010）a > u の散発的な変化による（他に、与那国 uduru < *udura「鶫」、siru < *sira「お産」が挙げられる）。与那国で語末に同じ形態素を共有すると思われる「双子」が a に終わることも注意される。

5. 考察

表 3 の対応を、特に定説通りの対応を示す「粉」「越える」「程」との違いをどう解釈するかが問題である。1 つ目は琉球側で何等かの改新が起きているとする。しかし、OJ o_1 ::pRk *uCa の音対応を説明するために、動機の乏しい散発的な変化（「子」「肥え」にだけ **o > *u(C)a）を想定せざるを得ない。また、相補分布をなす OJ o_1 :: pRk a の対応との関連性も取れず、同様に琉球側で語末で散発な変化（**o > *a）を想定するか、何か得体の知れない形態素が付いたと説明するほかはないが、このいずれの想定も動機・根拠がともに乏しい。そのため、琉球側で改新が起きたとする解釈は説明力が低いと言える。

一方、2 つ目は琉球祖語が古い特徴を保持しているとする。つまり、OJ で o_1 として既に合流していた音が琉球祖語ではまだ区別されるという解釈になる。この解釈だと、動機のない散発的変化を想定しなくて済む。また、語頭・多音節語で見られる対応違いを次のように説明することができる。すなわち、語頭では変化せず（**#ku(C)a > pRk *#ku(C)a）、多音節語の語末では **-gu(C)a > **-gwa > pRk *-ga のような変化を想定すれば、表 3 の 2 つの対応を統一的に捉えられる。

さらに、OJ の o_1 が複数の通時的出自（o_1 < *au、o_1 < *ua、o_1 < *o など）を持つことが既に指摘されている（大野（1975）等）。つまり、OJ の o_1 が複数の異なる音の合流の結果であると見ることができるため、表 3 の琉球祖語は OJ の o_1 の 1 つの出自（*u(C)a）に対応するという解釈が成り立つ。従って、琉球の「子」「孫」「双子」・「肥え」・「太い」と「粉」「越え」「程」で見られる対応の違いを日琉祖語から継承された古い特徴の保持であり、かつ、規則的な音変化の結果であると解釈し、表 4 で示す対応を新しく提唱する。

表 4 OJ o_1/o_2 の対応（本稿の説）

pRk	pJP	OJ
*u(C)a	*u(C_1)a	o_1
*o	*o、*u(C_2)a、*a(C_2)u ...	
	*ə	o_2

pJP：日琉祖語

6. おわりに

以上、上代日本語のオ段甲乙が琉球祖語では区別されていないという定説に対して、OJ o_1 :: pRk *u(C)a の対応の存在を新しく指摘した。これはつまり、琉球祖語では一部の甲類のオが他とはまだ区別されており、この点において琉球祖語が上代日本語に比べより古い特徴を保持しているということになる。これで

日琉祖語を再建するにあたって、琉球祖語の精密な再建が必須であることが（繰り返し）確認される。

また、本発表で提示した結果によると琉球祖語の母音体系が先行研究で再建されてきた体系より保守的な側面があるということになるため、琉球祖語で短母音として再建されている日琉祖語の二重母音は琉球祖語で本当に短母音化していたかについても検討の余地があると見られるが、今後の課題とする。

参考文献：有坂秀世（1955）『上代音韻攷』三省堂／池間苗（1998）『与那国ことば辞典』池間龍一／上野善道（2014b）「徳之島浅間方言のアクセント資料(1)」『国立国語研究所論集』8:141–175／上地徳男（2021）『佐良浜方言語彙辞典』ボーダーインク／上野善道（2015）「徳之島浅間方言のアクセント資料(2)」『国立国語研究所論集』9:177–205／上野善道（2017a）「徳之島浅間方言のアクセント資料(3)」『国立国語研究所論集』12:139–161／上野善道（2017b）「徳之島浅間方言のアクセント資料(4)」『国立国語研究所論集』13:209–242／上野善道（2018a）「徳之島浅間方言のアクセント資料(5)」『国立国語研究所論集』14:293–322／上野善道（2018b）「徳之島浅間方言のアクセント資料(6)」『琉球の方言』42:137–172／上野善道（2018c）「徳之島浅間方言のアクセント資料(7)」『国立国語研究所論集』16:129–156／大野（1975）「上代日本語の母音体系について」『言語』5-8／加治工真市（2020）『鳩間方言辞典』国立国語研究所言語変異研究領域／菊千代・高橋俊三（2005）『与論方言辞典』武蔵野書院／国立国語研究所（1963）『沖縄語辞典』大蔵省印刷局。上代語辞典編修委員会(1967)『時代別国語大辞典上代編』三省堂／セリック・ケナン（2021）「下地皆愛方言のアクセント体系に関する予備的報告」『言語記述論集』13:215-290／Thorpe, M. (1983). Ryukyuan Language History.Phd thesis, University of Southern California／渡久山春英・セリックケナン（2020）『南琉球宮古語多良間方言辞典』国立国語研究所言語変異研究領域／仲宗根政善（1983）『沖縄今帰仁方言辞典: 今帰仁方言の研究・語彙篇』角川書店／長田須磨・須山名保子（1977）『奄美方言分類辞典』笠間書院／仲間博之・田窪行則・岩崎勝一・五十嵐陽介・中川奈津子（2022）『南琉球宮古語池間方言辞典』国立国語研究所言語変異研究領域／服部四郎（1978–1979）「日本祖語について 1–22」『言語』7(1)–7(3), 7(6)–8(12)／Pellard, T. (2010) Review of "A Linguistic History of the Forgotten Islands: A reconstruction of the protolanguage of the Southern Ryukyus", by John R. Bentley. Diachronica 27(1):170-176.／Pellard, T. (2013) Ryukyuan perspectives on the proto-Japonic vowel system. Frellesvig, Bjarke; Sells, Peter. *Japanese/Korean Linguistics 20*, CSLI Publications, pp.81–96／Pellard, T. (to appear) Ryukyuan and the reconstruction of proto-Japanese-Ryukyuan. Frellesvig, B. & Kinsui, S. & Whitman, J., *Handbook of Japanese historical linguistics*, De Gruyter Mouton／Bentley, J. (2008) A Linguistic History of the Forgotten Islands: A reconstruction of the protolanguage of the Southern Ryukyus. Brill／前新透・波照間永吉・高嶺方祐・入里輝男（2011）『竹富方言辞典』南山舎／松森晶子（2000a）「琉球の多型アクセント体系についての一考察—琉球祖語における類別語彙 3 拍語の合流の仕方一」『国語学』51(1): 93–108／松森晶子（2000b）「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発—沖永良部島の調査から」『音声研究』4(1): 61–71／宮城信勇（2003）『石垣方言辞典』沖縄タイムス社／Miyake, M.H. (2003) Old Japanese a phonetic reconstruction. RoutledgeCurzon／Jarosz, Aleksandra (2015) Nikolay Nevskiy's Miyakoan Dictionary. Reconstruction from the manuscript and its ethnolinguistic analysis. Phd Thesis. Poznan: Adam Mickiewicz University／ローレンス・ウエイン（2012）「竹富島方言アクセントと系列別語彙 : 附 竹富島方言版北風と太陽」『琉球の方言』37:1-24／ローレンス・ウエイン（2019）「竹富島方言アクセント(2)」『琉球の方言』43:97-129

日本語に見る音韻的年輪—化石化した規則と生産的な規則—

黒木（くろき）　邦彦（くにひこ）（神戸松蔭女子學院大學）: kujonjaroo9215@shoin.ac.jp

0　概要

本研究は現代日本語方言数種を資料として、或る共時態の音韻規則に、化石化したものと生産的なものとが混在してゐることを示す。

1　導入: 連聲濁とその過剰適用

「神宮」「遷宮」はそれゞゝ [d͡ʑiŋ̍ŋu:], [seŋ̍ŋu:] ([○]: 便宜的 IPA 表記) のやうに發音される。兩者に共通する漢語形態素「宮」の音形は、漢語借用時の分節音對應に從へば、清音類 /k/ に始まる /kuu/ である (「-音類」は、特定の音韻現象において同じく振る舞ふ分節音同士から成る 自然音類（natural class）)。これが、濁音類 /g/ に始まるが如く [ŋu:] で實現する環境は、次掲 (1A) のとほり、鼻音類に續く位置に限られてゐた。

この、鼻音類に續く清音類が濁音類に替はるやうな音韻現象を「連聲濁」と言ふ (高山 1992、肥爪 2003)。「東宮」「正宮」をそれゞゝ [to:ŋu:], [sʲo:ŋu:] と發音するのも、(1Ba) のやうに、「宮」が鼻音類に續いてゐたことに因る。

(1)	A1. 神宮	A2. 遷宮	B1. 東宮	B2. 正宮	C1. 內宮	C2. 外宮
a. 基底	/zin-kuu/	/sen-kuu/	/toŋ-kuu/	/sjaŋ-kuu/	/nai-kuu/	/ge-kuu/
b. 表層	[d͡ʑiŋ̍ŋu:]	[seŋ̍ŋu:]	[to:ŋu:]	[sʲo:ŋu:]	[nɐikuː]	[gekuː]

/○/: 音素表記　○-○: 接辭境界

では、伊勢神宮の「內宮」「外宮」はどう發音されるか。兩者の「宮」は非鼻音類に續くので、連聲濁を伴はず、(1Cb) と成る。この語形は公式でもあるが、前者を [nɐiŋu:] と發音する者は少なくない。後者を [geŋu:] と發音する者まで有る。

この非公式語形は [to:sʲo:ŋu:] ‘東照宮’, [hɐkozɐkʲiŋu:] ‘筥崎宮’ などに同じく、連聲濁の過剰適用に因るものである (この問題は山田 2018 に詳しい)。表層形 [ŋu:] ‘宮’ に關して言へば、基底形 /kuu/ が連聲濁したものと見るより、心的辭書（mental lexicon）に /guu/ と登錄された基底形がそのまゝ實現したものと見るべきだらう。

たゞし、連聲濁およびその過剰適用は、現代日本語においては特定の形態素にのみ觀察される。たとへば、連聲濁が起こりうる環境を持つ /mon-ku/ ‘文-句’ を [moŋ̍ŋu] と發音する者は無いし、/go-ku/ ‘語-句’ もまた [goŋu:] とは成らない。

2　古代日本語における連聲濁の生産性

連聲濁は、古代日本語 (少なくとも、11 世紀以前の日本語畿內方言) に著しい音韻現象である。次掲 (2) のとほり、鼻音類 (= 閉鎖鼻音[nasal stop] 類ないし濁音類) に續く清音類は、形態統語的環境の別、たとへば、語類 (e.g., (2A) 和語名詞、(B) 漢語名詞、(Γ) 形容詞、(Δ) 動詞) や語構成の別を問はず、濁音類相當で實現してゐた。

(2)	A1. 雉	A2. 商人	B. 源氏	Γ. 芳しい	Δ1. 被る	Δ2. 有らば
a. 基底	/kigisi/ - 吉藝志萬 3375	/aki+pito/ '商ひ+人' 阿岐比斗和	/gwen-si/ '源-氏'	/ka+kupasi-/ '香+精妙' 香具波之萬 4120	/ka~kapur-/ '??~被る' 可賀布利萬 892	/ar;a-m-u=pa/ '有る-IRR-NML=TOP'
b. 連濁	-	aki**m**bito アキビト名	-	ka**ŋ**gupasi-	ka**ŋ**gapur-	-
c. 母音脫落	ki**ŋ**si	aki**m**bto	-	ka**ŋ**gpasi-	ka**ŋ**gpur-	ara**m**pa
d. 閉鎖鼻音化	ki**ŋ**si	aki**m**to	-	ka**ŋ**pasi-	ka**ŋ**pur-	-
e. 連聲濁	ki**ŋ**zi	aki**m**do	gwenzi Guenji葡	ka**ŋ**basi-	ka**ŋ**bur-	ara**m**ba 安良婆萬 3976
f1. 閉鎖弱化	-	aki**ũ**do アキウト法	-	ka**ũ**basi- カウハシキ岩	ka**ũ**bur- かうふり伊 1	-
f2. 順行同化	kinzi Qiji葡	aki**n**do アキムト三	-	ka**m**basi- カムハシキ蘇	ka**m**bur- カンフリ運	-

○;○: 語幹尾境界 (南 1962、黒木 2022 參照)　○~○: 重複　○+○: 複合　○#○: 統語的語境界　m/n/ɲ/ŋ: 前鼻音　∅: 零形態素　萬 (「萬3375」等の數字は歌/段番號。以下同樣):『萬葉集』　蘇:『蘇悉地羯羅經』延喜 9 (909) 年點　岩:『日本書紀』岩崎本平安中期訓　伊:『伊勢物語』10C 前半、武田本　躬:『躬恒集』10C??　和:『和名類聚抄』931–38 年、十卷本　三:『大慈恩寺三藏法師傳』1080–1110 年頃點　類:『類聚名義抄』14C 前半、觀智院本　法:『法華經音訓』1386 年 (參考: 寬永 10 (1633) 年寫本)　運:『運步色葉集』1548 年、元亀 2 (1571) 年本　葡:『日葡辭書』1603–04 年

連聲濁 (2) は、次掲 (3) の自然音類が古代日本語に存在したことを示してゐる。

(3)　連聲濁に見る古代日本語の自然音類

a. 閉鎖鼻音類 /m, n, ŋ/ と濁音類 /b, d, z, g/ とから成る鼻音類:
鼻音類に續く清音類にのみ起こることから

b. 清音類 /p, t, s, k/ と濁音類 /b, d, z, g/ とから成る阻害音類:
清音類が濁音類に相當することから

3　先行研究

連聲濁の研究は、自然音類 (3b) を同じく反映する連濁や、自然音類 (3) (更には、撥

音、促音) の振る舞ひに關心を持つ研究者により進められてきた (濱田 1949a; b; 1952、奥村 1952、高山 1992、肥爪 2003)。これにより連聲濁の派生過程が整理され、日本語における清濁對立の理解も深まった。

しかし、形態音韻論的觀點から連聲濁を研究する者は少ない。動詞接尾辭 /-te/ 'PFV' (e.g., 飲ん-**で**、飲まれ-**て**) が鼻音類 /b, m, n, g/ のいづれかに續くと、濁音類相當の [-de] で實現するといふ形態音韻現象 (黒田 1965、McCauley 1968) が連聲濁に等しいことは分かるにしても、たとへば、連聲濁がどのやうな方言において、どのやうな語に適用されるかは不明である。

その中に有って、形態音韻論的觀點から連聲濁の過剩適用に目を向けた山田 (2018) は教示に富んでゐる。山田は漢語形態素 /san/ '山' の音形に注目し、鼻音類に續く清音類にのみ生じてゐた連聲濁が他の清音にも適用されるやうに成った過程を示した。

これだけを見れば、連聲濁の適用範圍は當初より廣がったやうであるが、實際はさうでもない。連聲濁は純粋な音韻規則として始まり、生産性 (= 語の産出に關與する度合ひ) に富んでもゐたが、次第に子音語幹動詞テ形と漢語とにしか起こらなくなった (§1 の語彙化 /kuu/ '宮' > /guu/ も參照)。今では、鼻音類に續く清音類さへ基本的には連聲濁を避ける (e.g., /mo**n**-**k**u/ '文-句' → [mo**ŋ̃**ku]; /si**n**-**s**ee/ '申-請' → [sʲi**ɲ̃****ʃ**eː])。

山田 (2018) の研究成果を踏まへつゝ、どのやうな清音類がどのやうな時代にどのやうな語において連聲濁するかを次掲 (4) に整理しておく。

(4)	A. 鼻音類に續く清音類	B. 重音節に續く清音類	Γ. 他の清音類
a. 古代	大半の語にて	*	*
b. 中近世	b/m/n/g 語幹動詞テ形、相當數の漢語名詞にて	一部の漢語名詞にて	一部の漢語名詞にて
c. 現代	b/m/n/g 語幹動詞テ形、一部の漢語名詞にて	一部の漢語名詞にて	一部の漢語名詞にて

4 音韻規則と自然音類

4.1 鼻音類の衰退

(4c) のとほり、現代日本語の連聲濁は化石的音韻規則 (= 形態音韻規則) である。連聲濁から導き出される鼻音類 /m, b, n, d, z, ŋ, g/ が現代日本語の音韻規則に殆んど反映されてゐない (cf., 上甑島瀬上方言。尾形 1987 參照) といふことも、連聲濁の化石化を示唆してゐる。たとへば、次掲 (5Γ) の、現代日本語一般における形容詞感嘆形が示す自然音類は鼻音類ではなく、阻害音類 /p, b, t, d, s, z, k, g/ である。

(5)	A. 旨ぃ	B. 凄ぃ	Γ1. ヤバぃ	Γ2. 痛ぃ	Γ3. 酷ぃ	Γ4. 薄ぃ	Γ5. 不味ぃ
a. 基底	/uma-/	/sugo-/	/jaba-/	/ita-/	/hido-/	/usu-/	/mazu-/
b. 表層	*[ubmɐ] [ummɐ]	[suggo] [suŋŋo]	[jɐbbɐ] *[jɐmbɐ]	[itːɐ] *[inːɐ]	[çiddo] *[çindo]	[ussu] *[uɲsu]	[mɐddzu] *[mɐndzu]

4.2 阻害音類の維持

清音類と濁音類とから成る阻害音類は、複合語後部要素先頭の清音類を濁音類相當で實現させる連濁にも反映されてゐる。淺尾 (2007) が示すとほり、連濁は單なる音韻規則ではなく、複合語構成要素の形態統語的・語彙的素性にも依存してゐる。それでも、次掲 (6) のとほり、連濁は現代日本語においても一定の生産性を保ってゐる。

(6)	A. インスタ映え	B. 自撮り	Γ. 爆買ひ	Δ. 倍返し
a. 基底	/insuta+pae/	/zi+tor;i/	/baku+kaw;i/	/bai+kaes;i/
b. 表層	[iɲsutɐbɐe]	[dʑidoɾi]	[bɐkugɐi]	[bɐigɐesi]

清音類と濁音類とが自然音類を成すことは、次掲 (7) のやうな清濁對が音象徴語やキャラクターの特徴を對照させることからも窺ひ知れる (川原 2017 參照)。

(7)	A. 崩落音	B. ロボット名	Γ. 同級生名
a. 清音類	[poropoɾo]	[kɐntɐmu][i]	[tɐmɐtsʲɐɴ][iii]
b. 濁音類	[boroboɾo]	[gɐndɐmu][ii]	[dɐmɐtsʲɐɴ][iv]

i. クレヨンしんちゃん　ii. 機動戦士ガンダム　iii.『ちびまる子ちゃん』　iv.『ちびしかくちゃん』

5 音韻規則の生産性

5.1 現代日本語一般

次掲 (8) のとほり、現代日本語においては連聲濁も連濁も適用範圍が限られてゐる。純粋な音韻規則でない點において兩者は共通するが、新造語の創出力に關しては大きく異なる。連濁は今も (6) のやうな新造語を生み出してゐるが、連聲濁はさうではない。

(8)	A. 連聲濁	B. 連濁
a. 適用範圍	b/m/n/g 語幹動詞テ形 一部の漢語名詞	複合語
b. 新造語の創出力	低	高

連聲濁は b/m/n/g 語幹動詞テ形の全てに適用されるので、新造動詞の語形變化においては生産性を發揮するやうに思はれる。しかし、新造動詞は基本的に派生接尾辭 /-r-/ で

創出されるので (e.g., /taku-r-/ ‘タクシーに乗る’, /oke-r-/ ‘カラオケする’, /sutaba-r-/ ‘スタバに行く’)、b/m/n/g 語幹動詞テ形にのみ起こる連聲濁に出番は無いのである (cf., daizjoobu ‘大丈夫’ > daizjoob-u > daizjob;a-na-i ‘大丈夫ぢゃない’, ??daizjon-da ‘大丈夫だった’)。

生産性を落とし、新造語の創出も叶はぬ連聲濁は、連濁より化石化した音韻規則と言へよう。

圖 1: Google My Maps

5.2 上甑島瀬上方言

生産的音韻規則から化石的音韻規則への史的變化は、連聲濁にのみ生じたことではない。たとへば、上甑島瀬上方言 (圖 1: 1) においては、現代日本語においても生産性・創出力を維持する連濁が化石化してゐる。次掲 (9b) の、清音類を閉鎖鼻音で實現させる傳統的連濁 ((9b) は /s/ → [nʲ] の例) は一部の複合語にしか見られず、清音類を有聲阻害音で實現させる共通語的連濁 (9c) が主流化しつゝある (黒木 2021: 註 17 も參照)。

(9)	A. /saja/ ‘皿’	B. /satoo/ ‘砂糖’	Γ. /sik-/ ‘敷く’
a. 單獨	- [sɐjɐ]	- [sɐroː]	/-ke/ ‘PURP’ [sʲi̥kke]
b. 傳統的連濁	/ko-/ ‘小’ [konʲɐjɐ]	/kujo/ ‘黒’ [kujonʲɐroː]	/ita/ ‘板’ [idɐnʲiki̥] [irɐsʲiːgi̥]
c. 共通語的連濁	/toj;i-/ ‘取る’ [torʲizɐrɐ] *[toinʲɐrɐ]	/kaku/ ‘角’ [kɐkuzɐtoː] *[kɐgunʲɐroː]	/sita/ ‘下’ [sʲi̥tɐzʲiki̥] *[sʲi̥rɐnʲigi̥]

5.3 串木野方言の音韻規則

鹿兒島縣中西部に分布する串木野方言 (圖 1: 2) においては母音融合が語形を特徴附けてゐる。(10A) のとほり、同方言の [e] は他方言の ai (< awi (< api)) に規則的に對應するので、かつては /ai/ → [e] といふ音韻規則が生産的であったと考へられる。たゞし、現在は (10B) のやうに [ɐi] が許容されるので、/ai/ → [e] は昔ほどには働いてゐない。これは、連聲濁が前掲 (4) のやうに生産性を落としたことに通じる。

(10)	A1 貝	A2 間違ひ	A3 書いて	A4 書きに	B1 針	B2 坂に	B3 借りてた
a. 串木野	[ke]	[meg̃ge]	[kete]	[kɐk̃kɐ]	[hɐi]	[sɐkɐ] [sɐkɐi]	[kɐiot̃tɐ]
b. 他方言	kapi	matigap;i	kai-te	kak;i-gai	hari	saka=i	kar;i-wor-ta

【略號】リンク参照

【参照文献】❖奥村 三雄 (1952)「字音の連濁について」『國語國文』21 (5)、京都大學文學部國語學國文學研究室、pp. 327–40 ❖淺尾 仁彦 (2007)「連濁の形式的アナロジーモデル」日本言語學會・第 135 回大會 (於信州大學人文學部) ❖尾形 佳助 (1987a)「上甑島瀬上方言の形態音韻論」九州大學人文科學府・昭和 62 年度修士論文、未公刊 ❖川原 繁人 (2017)『「あ」は「い」より大きい!?: 音象徴で学ぶ音声学入門』ひつじ書房 ❖黒田 成幸 (1967)「促音及び撥音について」『言語研究』50、pp. 85–99、日本言語学会 ❖黒木 邦彦 (2021)「上甑島瀬上方言における歯茎濁音系と歯茎鼻音系との対立」『レキシコン研究の現代的課題』pp. 161–83、くろしお出版 ❖黒木 邦彦 (2022)「日本語動詞の可變部を語幹構成要素と見做すことの妥當性: 語幹聲調の位置から導き出される語幹領域」『語文』116–17、pp. 44–57、大阪大學國語國文學會 ❖高山 倫明 (1992)「連濁と連声濁」『訓点語と訓点資料』88、pp. 115–24 ❖濱田 敦 (1949a)「促音と撥音 (上)」『人文研究』1 (1)、pp. 91–114、大阪市立大學文學會 ❖濱田 敦 (1949b)「促音と撥音 (下)」『人文研究』1 (2)、pp. 32–52、大阪市立大學文學會 ❖濱田 敦 (1952)「撥音と濁音との相関性の問題: 古代語に於ける濁子音の音価」『國語國文』21 (3)、pp. 198–212、京都大學文學部國語學國文學研究室 ❖肥爪 周二 (2003)「清濁分化と促音・撥音」『国語学』54 (2)、pp. 95–108、國語學會 ❖南 不二男 (1962)「三 文法」國語學會 (編)『方言学概説』pp. 209–55、武藏野書院 ❖McCawley, James D. [1965] (1968). *The Phonological Component of a Grammar of Japanese*. The Hague, Paris: Mouton.

【研究助成】❖JSPS 科研費: 16K13227, 17K02689, 19H01262, 19H01265 ❖宮地裕名譽教授記念基金 (大阪大學大學院文學研究科): ポスドク研究支援「鹿児島県北西部方言における述部の語形成とアクセント形成」2010 年度 ❖國立國語研究所: 人間文化研究機構連携研究「鹿児島県甑島の限界集落における絶滅危惧方言のアクセント調査」2011–14 年度

『唐話纂要』の仮名音注にみるハ行子音について

王 竣磊（上海外国語大学学生 wjlbqp2009@gmail.com）

１　はじめに

『唐話纂要』（1716 年初刊，1718 年重印）は近世の儒学者岡島冠山（1674~1728）が編纂した唐話教科書である。本発表では初刊にあたる巻五までの内容を考察の対象とし，漢字の仮名音注にみる日本語のハ行子音について考察を試みる。なお，日本語のハ行子音と言っても，著者の岡島冠山が長崎出身という事実から推測し，加えて仮名音注におけるハ行音の使い方が『東音譜』（1719 年刊）『魏氏楽譜』（1768 年刊）などの長崎関係の文献に共通する点がみられることから判断すれば，同書は実は 17 世紀末期から 18 世紀初期にかけての長崎方言の実態を反映していると認められる（有坂 1938）。

２　『唐話纂要』の基礎音系について

『唐話纂要』の基礎音系について本発表では南京音の混入があるかどうかに留意しつつも，基本的に通説に従い，杭州音とする。

３　ハ行音が使われた仮名音注

３．１　資料調査

本発表では巻一「二字話」から巻五「疋頭」までのすべての漢字とその仮名音注（小曲の部分を除く）を対象に調査し，ハ行音を含む項目を抽出する。ハ行子音を研究対象とするため，整理時においてはまず同じ音注に対応する漢字を類聚し，それから漢字を声母中心で分類する。漢字の分類については以下の表 1 に示した枠組みを用いる。仮名音注は基本的に表記によって仮名ごとにまとめるが，漢字の韻母の状況と日本語の母音との対応関係も確認する。表 2 でこれを示す。そこで，フイと注された漢字はヒイと注されたそれと同じ止摂拗音（細音）に属するので㋑のところに置き，フヲ・フヲンと注された漢字はホ・ホンと注されたものと同じ通摂直音（洪音）に属することから㋕のところに置く。なお，本発表では中古音類はカールグレン（1940）により，現代杭州音の音価は趙（1928）による（下同）。

表１　漢字の分類

漢字類別（略称）	対応する中古音類	現代杭州音	示唆する当時の音声実現
唇音字（F 型字）	非敷奉微母	[f][v]	声母が唇音である。
喉音開口字（H 型字）	暁母開口	[h][ɛ]	声母が唇音ではなく，声母に続く介音あるいは主母音に円唇性がない。
	匣母開口	[ʱɦ][j]	
喉音合口字（HU 型字）	暁母合口	[x(u)][ɐ(y)]	声母が唇音ではなく，声母に続く介音あるいは主母音に円唇性がある。
	匣母合口	[ˣɦ(u)][j(y)]	

表２　日本語の母音と漢字の韻母との対応関係

日本語の母音	漢字の韻母		仮名音注
	中古音類（軽唇音化したものは直音とする）	現代杭州音	
㋐	山咸宕仮蟹効摂の直音	[-uɑ][-aʔ][-ʌŋ][-uʌŋ][ɛ̃]など 広母音中心	ハ ハア ハン ハアン ハアヽ ハアイ ハイ ハ〇ウ
㋑	各摂の拗音と二等韻の文読	[-i][-y][-iV][-iVʔ][-ɪn]など 前狭母音中心	ヒヱ ヒヨ ヒン ヒヱン ヒヤン ヒユン ヒヨン フイ ヒイ ヒヤア ヒヤイ ヒユイ ヒウ　ヒヤ〇ウ
㋒	遇臻流摂の直音	[-u][-ən]など 後狭円唇母音中心	フン フウ
㋓	曽臻流摂の直音	[-əʔ][-ən]など 中央母音中心	ペ ヘヱ ヘヱン ヘ〇ウ
㋕	通果臻蟹止咸摂の直音	[-ᵒu][-ɔʔ][-oŋ][-uən][-uəi]など 後半狭半広円唇母音中心	フヲ ホ フヲン ホン ホヲン ホウ ホイ

上述の作業を踏まえ，資料調査の結果を以下の表 3 で示す。上からは入声（ʔ韻尾）字，鼻音韻尾字，ゼロ韻尾字，i 韻尾字，u 韻尾字の順で配列する。漢字の右下に付された数字はその漢字の出現回数を示す。なお，HU 型字と H 型字に関しては中古音から現代杭州音まで類別を跨いで変化したものが存在する。当時の音声実現が推定しにくいので，ここでは中古音類に従って分類するが，「[　]」で標示する。

表３　仮名音注と漢字一覧表[注1]

類別／漢字／音注	唇音字 (F 型字)	喉音合口字 (HU 型字)	喉音開口字 (H 型字)
ハ	發 14 法 5 髮 2		
ハア			曷 1
ハン	方 19 飯 7 放 6 帆 5 反 4 防 3 坊 3 妨 3 紡 3 番 1 翻 1 幡 1	歡 6 況 4 謊 3 喚 2 慌 2 荒 1	喊 1
ハアン			漢 6 寒 5 行 4 罕 3 旱 2 喊 2 汗 2 翰 1 捍 1 □1
ハア、		花 28 話 19 化 9 華 5 画 3 撾 1 樺 1	
ハアイ			海 10 害 2
ハイ			海 8 害 4 孩 1
ハ○ウ			好 97 號 8 耗 2 豪 2 蒿 1 毫 1
ヒヱ		血 4	歇 3 協 1 吸 1
ヒヨ		畜 1	學 12
ヒン			行 29 興 16 幸 4 掀 2 欣 1 倖 1
ヒヱン		玄 3 喧 2 泫 1 懸 1 萱 1	閑 12 賢 9 絃 4 顯 2 限 1 險 1 現 1 莧 1
ヒヤン			香 12 鄉 8 向 7 響 3 享 2 蚿 1
ヒユン		訓 1	
ヒヨン		兄 16 兇 6	
フイ	非 14 費 11 飛 6 廢 3 誹 2 榧 2		
ヒイ			喜 12 戲 6 稀 4 希 2 繫 1 鯑 1 ■1
ヒヤア			下 63 蝦 6 暇 2 鰕 2 夏 2 遐 1
ヒヤイ			鞋 3 蟹 2 駭 1
ヒユイ		許 10 虛 3 噓 1	
ヒウ			休 34
ヒヤ○ウ			曉 11 孝 4 梟 3 囂 1
フン	分 25 粉 2 糞 2 紛 1		
フウ	夫 25 富 19 府 8 付 3 副 2 父 2 赴 1 復 1 駙 1 斧 1 箄 1 鳧 1 腐 1 芙 1	虎 10 滸 1 戽 1	
ペ[注2]			黑 6
ヘヱ			黒 1
ヘヱン			恨 6 狠 1
ヘ○ウ	否 3 覆 1		後 30 候 7 厚 6 猴 2
フヲ	福 5 拂 1 服 1 ◆1		
ホ	福 7 勿 5 復 2 腹 1 狒 1 蝠 1 覆 1 弗 1		合 4 盒 3 蛤 2 嚇 1 [鶴 1]
フヲン	風 24 奉 7 封 1 楓 1 逢 1		
ホン	奉 3 豐 2 蜂 2 鳳 2 逢 1	紅 8 洪 2 鴻 2 烘 1 轟 1 婚 1 橫 1	
ホヲン		婚 2 昏 1 葷 1	
ホウ		火 23 貨 16 和 12 夥 2 禍 2	[何 30 河 2 荷 1]
ホイ		悔 6 輝 3 誨 2 賄 2 灰 1 諱 1	

３．２　仮名音注の整理

表 3 に示したように，漢字それぞれの異なった主母音と韻尾に対応するため，仮名音注も多岐にわたっている。ハ行子音を観察するのに，漢字を声母の状態によって分類するのみならず，仮名音注に対しても韻尾の反映などを捨象し，声母の反映を中心に抽象化しなければならない。とりわけ声母の違いによる仮名音注の書き分けに焦点をあてる必要があると考えられる。以下，声母による書き分けの状況を確認しつつ，仮名音注を整理する。

３．２．１　入声形式と非入声形式

『唐話纂要』では，杭州音の入声を表すため，例えば「不 プ」「栗 リ」「虱 スヱ」とあるように，母音を伸ばさずに仮名一つか二つからなる短い音注を用いている（以下，入声形式と呼ぶ）。表 3 のハ・ヒヱ・

注 1 □＝木＋感。■＝艹＋稀。◆＝忄＋復。
注 2 への右肩に付された圏点は半濁点ではなく，中央母音[ə]を表す記号である。

ヒヨ・ペ・ヘヱ・フヲ・ホがこれにあたる。一方，ゼロ韻尾の非入声字に対し，例えば「布 プウ」「李 リイ」「犀 スヱヽ」とあるように，母音を伸ばした仮名二つ以上からなる長い音注を用いている（以下，非入声形式と呼ぶ)。表 3 のハア(ヽ)・ヒイ・ヒヤア・フウ・ホウがこれにあたる。さらに表 3 では入声形式と非入声形式は入声字とゼロ韻尾字を書き分けるためにのみ使われるのではなく，鼻音韻尾字の声母の書き分けにも用いられる。ハン(F 型字と HU 型字)⇔ハアン(H 型字), フヲン(F 型字)⇔ホン(F 型字と HU 型字)⇔ホヲン(HU 型字)である。また，孤例ではあるが，入声字の場合でもハ(F 型字)⇔ハア(H 型字)の書き分けがみられる。そうなると，鼻音韻尾字でないハ・ハアヽやホ・ホウも単に韻尾の違いを書き分けるのではなく，ハ・ホ(F 型字専用)⇔ハアヽ・ホウ(HU 型字専用)とあるように，声母の状況も考慮されたと考えられる。こういった入声・非入声形式による F 型字・HU 型字・H 型字の書き分けはハ行子音を知るうえで重要な手がかりになると考えられる。なお，ハイとハアイも入声・非入声形式であるが，同じ漢字に用いられている。上述の書き分けの例と合わせて考える必要があるであろう。

３．２．２　フ形式と一般形式

表 3 には同じ韻母でありながら二通りの仮名音注で写されている漢字がみられる。そのうち，声母の書き分けと認められるものは㋑にみられ，フイ(非母微韻)⇔ヒイ（暁母微韻）である。一方，声母の書き分けが認められないものは㋕にみられ，フヲ(非母屋韻)⇔ホ(非母屋韻)，フヲン(非敷母東韻と奉母鍾韻)⇔ホン(非敷母東韻と奉母鍾韻)である。本発表ではフイ・フヲ・フヲンをフ形式，対応するヒイ・ホ・ホンを一般形式と呼ぶ。こういったフ形式と一般形式の書き分け（あるいは両立）も詳細に分析しなければならない。

３．２．３　兼用

上述の書き分けと逆に，表 3 には同じ仮名音注で全く異なった漢字を写している例がみられる。ハン・フウ・ホン(F 型字と HU 型字)，ヒヱ・ヒヨ・ヒヱン(HU 型字と H 型字)，ヘ〇ウ・ホ(F 型字と H 型字)である。そのうち，主母音と韻尾が同じで単に声母と介音が違うものが多数を占めるが（例えば方と荒，玄と賢，府と虎，否と後，豐と烘など)，音節全体が異なるものもある（例えば福と合)。また，書き分けのない多くの場合には HU 型字が関与しているとみられる。本発表ではこれらを兼用と呼び，書き分けのない状況として上述の書き分けのある場合と対照的に考察する。

以上の分析をふまえ，表 3 の仮名音注をさらに整理し抽象化すると，表 4 のとおりである。

表４　仮名音注の整理・抽象化

日本語の母音	漢字の類別			備考
	F 型字	HU 型字	H 型字	
㋐	ハ	ハ，ハア	ハア	入声・非入声形式による書き分け，兼用
㋑	フイ	ヒ		フ・一般形式による書き分け，兼用
㋒	フ，フウ			兼用
㋓	ヘ		ヘ	兼用
㋔	フヲ，ホ	ホ ホウ，ホヲ	ホ	入声・非入声形式による書き分け， フ・一般形式の両立，兼用

３．３　異なり字数と出現回数の統計

ここでは特に３．２で言及した諸点についてその異なり字数と出現回数を統計する。以下の表 5 で示す。入声・非入声形式による書き分けの場合，F 型字と，HU 型字・H 型字はそれぞれ相当の異なり字数と出現回数を有し，拮抗している。フイ・ヒイによる書き分けの場合でも同様である。フヲ・ホとフヲン・ホンの場合，入声字はフヲよりホの出現回数が多く，鼻音韻尾字はフヲンの出現回数が上回る。

表５　異なり字数と出現回数の統計

仮名音注		異なり字数(出現回数)		
状況	音注	F 型字	HU 型字	H 型字
入声形式と非入声形式 （ハン・ホ・ホンに兼用がみられる）	ハ，ハン	15(77)	6(18)	1(1)
	ハア，ハアヽ，ハアン		7(66)	11(29)
	フヲ，ホ，フヲン，ホン	19(71)	7(16)	4(10)[1(1)]
	ホウ，ホヲン		8(59)	[3(33)]
フ形式と一般形式 （ホ・ホンに兼用がみられる）	フイ	6(38)		
	ヒイ			7(27)
	フヲ	4(8)		
	ホ	8(19)		4(10)[1(1)]
	フヲン	5(34)		
	ホン	5(10)	7(16)	

兼用	ハン	12(56)	6(18)	1(1)
	ヒヱ		1(4)	3(5)
	ヒヨ		1(1)	1(12)
	ヒヱン		5(8)	8(31)
	フウ	14(67)	3(12)	
	ヘ〇ウ	2(4)		4(45)

兼用の場合，㋐㋓の音注はH型字に，㋖㋗の音注と㋘のホはF型字に偏っており，㋘のホンはF型字とHU型字が拮抗している。

４　仮名音注からみたハ行子音

４．１　問題の所在

呉語系中国資料の音訳漢字から日本語のハ行子音を観察する際には三対一の関係となり，すなわち音写側が日本語の音価を自身の持つF型字／HU型字／H型字の三項対立と比較して音写を決定することができる。しかし，『唐話纂要』の場合は逆に一対三の関係となり，当時のハ行子音の音価という一項で杭州音の三項対立に対応しなければならない。杭州音のF型字・HU型字・H型字をすべてハ行音で写すこと自体も当時のハ行子音の状態をうかがう手がかりとなるが，逆にハ行子音の実態をどちらかの一方に決定しがたい原因ともなる。音声面から考えれば，ハ行子音が[h]([ç])の場合，F型字にあたるのはやや想定しくにいとしても[注3]，逆に[ɸ]の状態ならばHU型字とH型字に対応できると考えられる。『唐話纂要』のハ行音は果たしてなぜ杭州音のF型字／HU型字／H型字の三項にも対応できるのか，当時のハ行子音の実態は何なのか，慎重に考えなければならない。そこで３．２で取り上げた書き分けや兼用の状況は実態をわきまえるヒントとなりうるが，表記上の問題にも目を配らないといけない。すなわち，そういった表記レベルの違いからはどこまで音声実現の情報を取り出せるかである。もしそれは完全に著者が作為的に規定したものとなると，当時の音声実現につなげることは逆に危険である。

４．２　先行研究とその問題点

『唐話纂要』をハ行子音の研究に用いた先行研究として，管見の限りでは有坂（1938）と中村（2015）しかない。有坂（1938）は江戸時代中頃のハの子音を対象に種々の文献を総合的に考察した大著である。そのうち，『唐話纂要』について「支那原音のfaはすべてハで写されてゐる。…支那原音huaの場合についても，全く同じことである」と報告してから，

思ふに，長崎あたりでは，ハの頭音は第十八世紀頃までも未だ唇音[注4]だつたので，長崎人にとつては，支那語のfa，huaは容易に彼等自身のハと同一視され得たのではなからうか。

と結論づけている。しかし，氏の観察は専ら杭州音のfa（本発表でいうF型字に相当）とhua（本発表でいうHU型字に相当）に集中しており，十分とは言えない。F型字とHU型字との対応関係から当時のハ行子音に唇音性があると認めても，それだけで[ɸ]に決めるという論述の仕方や一対三の関係への説明には頷けない。一方，中村（2015）はハ行音が杭州音のF型字にもH型字にも用いられていることに気づき，

岡島冠山の言語でハ行が[ɸ]と[h]のいずれであったかは分からない。「花」が「ハア、」であるのを見ると少なくとも「ハ」に関しては[ɸa]であった可能性が高いが決定的ではない。

と棚上げしているが，一対三の関係なのになぜ特にHU型字にあたることから[ɸa]の可能性が高いと言えるのか，論述は明確ではない。また氏の調査も不十分である。大まかな一対三の関係の上に，同書の仮名音注にはさらに３．２と３．３で分析した書き分けや兼用といった細部があるのである。

以上，両氏それぞれの考えをまとめた。結論はさておき，とにかく論述が主観的である点と資料調査が不十分である点を指摘しておきたい。それをふまえ，本発表では３で得た仮名音注の詳細を慎重に利用し，特に書き分けの視点から仮名ごとの状況を考察していきたい。

４．３　書き分けの視点

もし当時のハ行子音が[ɸ]であり，かつ音注を施す側が杭州音の三項対立を全く認識せず，みな同じ音声として捉えていたならば，一対三の関係ができるわけであるが，唐話の初心者ならともかく，『唐話纂要』については想定しにくい。同書は教科書の性格を持ち，著者の岡島冠山も唐話の大家である。やはり杭州音に存在するF型字／HU型字／H型字の区別を認識し，身につけていたと推測したほうが自然である。IPAのない当時において，その区別を日本語の仮名で表すしかなく，その区別を自身の持つ表記体系にどう収

注3 有坂（1938）によると，京都方言と関わる黄檗系唐音や心越系唐音ではF型字とHU型字が基本的にフハ・フワのように写されており，ハの使用がみられない。そこでハの子音がすでに唇音でなかったと結論づけられる。

注4 ここでいう「唇音」はのちに「faの音価」とも言っているので，脱唇音化が発生する前の[ɸ]を指しているとわかる。

めるかがポイントとなる。同じ仮名音注をつけることによる漢字の音韻の混同をなるべく抑えなければならず，すなわち仮名音注による書き分けが必要であると考えられる。

逆に言うと，同じ仮名音注をつけてもそれほどの混同を起こさない，すなわち書き分けの必要がなければ，一般的なハ行音音注で片付いていいのである。例えば表 3 にみられるハ〇ウ，ヒン，ヒヤン，ヒヤ〇ウなど，一種の仮名音注が F 型字／HU 型字／H 型字のうちの一つにしか対応しないものがこれにあたる。その多くは杭州音側の音韻体系に起因するもので，[*fau][*fin][*fiʌŋ][*fiau]といった音節がそもそも存在しないからである。仮に当時の杭州音にそのような音節が存在したとしても，『唐話纂要』に取り上げられていないのも事実である。こういった書き分けの必要がない仮名音注は唐話の教育現場にその発音を個別に指導し，規定することもありうるので，H 型字や F 型字にあたることから直ちに当時のハ行子音の実態につなげることができない。

書き分けの必要があるが，そうしないのは３．２．３の兼用である。表 5 に示したように，㋖のホンを除くと，兼用の異なり字数と出現回数は概ね F 型字か H 型字かの一方に偏っており，少数を占めるのはだいたい HU 型字である。多数と少数の関係があるので，この場合でも「それほどの混同を起こさない」という状況にあたると考えられる。HU 型字は声母が唇音でない点で H 型字に近い性格を有し，声母と後続の円唇性要素と組み合わせれば F 型字に近い性格を有し，いわゆる F 型字と H 型字との「中間地点」のような性質を持っているので，兼用される対象になりやすいであろう。音節構造から考えると，㋐㋑の場合では円唇性介音という日本語の体系からはみ出した存在が，あるいは捨象されて HU 型字を H 型字に合流させ，あるいは声母に圧縮されて HU 型字を F 型字に合流させたと考えられる。よって，こういった兼用の仮名音注もハ行子音の実態を反映できないと考えられる（㋖のホンについては４．４で考察する）。ちなみに，F 型字と H 型字を兼用したホについて，その H 型字の「嚇（陌韻）」「合盒蛤（みな咸摂合韻）」は朝岡春睡『四書唐音辨』（1722 年刊）の杭州音で㋐で写されているが，南京音でみな㋖で写されて HU 型字に属している（張 2019）。もしここで南京音の混入が認められれば，ホも F 型字と HU 型字の兼用となる。

以上より，『唐話纂要』の仮名音注から観察の道具として価値の低いものを考察から除外すると，残ったのは入声・非入声形式による書き分けの例（ハイ・ハアイも含めて），フ・一般形式による書き分けの例（フヲ・ホも含めて），ホンの兼用となる。以下，それらを利用し仮名ごとに分析する。

４．４　仮名ごとの状況

㋐においては仮名音注フウ・フンがもっぱら F 型字にあてられているので，現代語と同様にまだ唇音[ɸ]であったと推定できる。㋐㋖においては，仮名音注の入声・非入声形式の系列が漢字の F 型字／HU 型字／H 型字の系列と並行する傾向がみられる。これをあらためて図 1 にまとめる。表 5 からでも確認できるように，関連する漢字の異なり字数や出現回数が拮抗しているので，書き分けないと大きな混同を招きかねない。加えてハンの兼用と，書き分けの必要がないのにハイ・ハアイの両立がみられることから，こういった書き分けは著者の完全に作為的に考え出したものではなく，当時の音声実現に基づいた結果と考えられる。もしこれが単に表記レベルの問題ならば，より均斉のとれた状況がみられるはずである。

それでは書き分けの背後にある音声実現は何かというと，まず音節の継続時間（長さ）が考えられる。杭州音では入声字が?韻尾を持ち，非入声字と比べると声門が緊張であるとともに音節の継続時間が極めて短い。ハ⇔ハアといった入声・非入声形式の表記はこの継続時間の長さが考慮されてのものであろう。そうなると，当時のハ・ホの子音の実態がうかがえる。入声形式が F 型字にあてられるので，音節の継続時間が短いとハ・ホの子音は唇音に近い音価として現れる。逆に非入声形式が H 型字（ホの場合では HU 型字）にあてられるので，音節の継続時間が長いとハ・ホの子音は声門音に近い音価として現れる。入声が極めて短く，非入声がかなり弛緩であると，日本語の常時の状態も考えなければならない。ここでは同じく 18 世紀の長崎方言を反映した，『吾妻鏡補』所載の呉語系中国資料『海外奇談』の状況を思い浮かべる。王（2021）の分析では当時のハ・ホの子音が脱唇音化の中間段階にあり，[hw]であった。この[hw]が常時の状態であれば，短く圧縮されると[ɸ][f]のような唇音になり，母音に重点を置いて長く伸ばすと[h]のような声門音になり，『唐話纂要』の状況を無理なく説明できる。図 2 でその関係を示す。

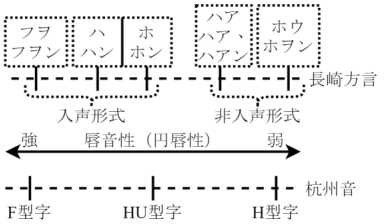


図１　仮名音注と漢字の三項対立との並行関係

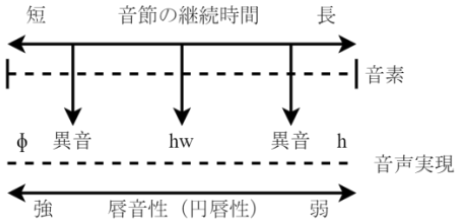


図２　ハ・ホの子音の状態

なお，この，継続時間が長くと声門音に近かった現象については有坂（1938）の記述が参考になる。『魏氏楽譜』では基礎音系の F 型字と HU 型字に対し，基本的にハ(ン)があてられているが，一部の HU 型字の鼻音韻尾字に対し，フワンやホワンがあてられている。氏は「楽譜のこととて，恐らく支那原音の huan, huang をゆつくりと長く引いて歌ふ場合の発音（u の要素が明瞭に独立して聞こえる）を反映してゐるのであらう」と論じ，音注がハンからフワ・ホワンに変わった理由を説明した。裏を返せば，ハン自体を伸ばし，ハアンになると，「u の要素が明瞭に独立して聞こえ」ないので基礎音系の HU 型字にふさわしくないということになるのではないかと考えられる。

㋐の状況をさらに詳しくみる。書き分けの必要がないにもかかわらず，入声形式のホ・ホンとフ形式のフヲ・フヲンが併用されている。これはホの母音自体が円唇性を有し，[ɸo(fo)]と[hwo(ho)]との区別がやや曖昧なので，フ形式を弁別に加えたからであろう。ホといった完全な入声形式の場合，唇音であることがより明瞭なので，異なり字数も出現回数もフヲを上回る。一方，ホンはただホという入声形式を声母の弁別に借用しただけなので唇音の現れがそれほど明瞭ではない。そこでフヲンのほうがより多く使われる。ホンの兼用において F 型字と HU 型字が拮抗しており，強いて言えば HU 型字のほうが多いというのも同じ原因であろう。

㋑においては，フイとヒイによる書き分けがみられ，当時のヒがすでに唇音でなかったかのように見えるが，速断しすぎる。有坂（1938）は「杭州の fi とてもやはり fui から変化したものでないとは断言出来ない」と述べており，[fui]の状態なら逆にフイのほうが適切である。さらに現代南京官話の非母微韻字は[fəi]であり（カールグレン 1940），かつ『唐話纂要』では[fən]がフンで写されているので，もし南京音の混入を想定すると，やはりフイとなる。よって，㋑にみられるフイとヒイの書き分けはヒの子音の実態への説明につながらないと考えられる。そうなると，『唐話纂要』からはヒの実態が判明できないことになり，ほかの文献に頼るしかないのである。㋒においても４．３で述べた書き分けの必要のない例ばかりで，㋑と同じく当時の実態がうかがえない状況である。ちなみに，『海外奇談』に対する分析によると，ヒもへもその子音が当時まだ唇音であった。

４．５　全体像の把握

以上，書き分けの視点から仮名音注の性質を認定し，仮名ごとの状況を考察してきた。17 世紀末期から 18 世紀初期にかけての長崎方言においては，フの子音は現代語と同様，[ɸ]が保たれている。ハ・ホの子音は音素レベルで広い異音の幅を持っており，音節の継続時間が短くなると唇音[ɸ(f)]として現れ，逆に音節の継続時間が長くなると声門音[h]として現れる。常時は脱唇音化の中間段階の音価[hw]を有すると推測できる。唇音であったか唇音でなかったかといった大まかな議論ではなく，『唐話纂要』の仮名音注からは実はこういったハ行子音の細部まで知ることが可能である。しかし，ヒ・への子音についてはやはり文献の限界というのもあり，仮名音注から有効な手がかりを得ず，不明のままである。

５　おわりに

本発表では『唐話纂要』の仮名音注から 17 世紀末期から 18 世紀初期にかけての長崎方言のハ行子音について分析してきた。特にハ・ホの子音の現れ方に音節の継続時間が関わる点を報告した。『唐話纂要』から得たこの結論は『吾妻鏡補』所載の呉語系中国資料『海外奇談』から得た脱唇音化の中間段階との結論と整合性を有しており，近世期に発生したハ行子音の脱唇音化の実態を少し接近することができると考えられる。中間段階の音価[hw]の存在を想定することで，ハ行子音の脱唇音化はワ行との関連がまた考えられ，音韻論的考察も必要になってくるであろう。今後，近世唐音に関わる諸文献はもちろん，欧米人の手による記述も視野に入れ，より一層ハ行子音の脱唇音化への解明を試みたい。

引用参考文献

有坂秀世（1938）「江戸時代中頃に於けるハの頭音について」『国語と国文学』15(10)
王竣磊（2021）「『吾妻鏡補』にみるハ行子音について−暁母合口字に注目して−」『日本語学会 2021 年度春季大会予稿集』
カールグレン，B.著，趙元任・羅常培・李方桂訳（1940）『中国音韻学研究』商務印書館
古典研究会編，長澤規矩也解題（1972）『唐話辞書類集第六集』汲古書院
高松正雄（1985a）「近世唐音弁−南京音と浙江音−」『岐阜大学国語国文学』17
高松正雄（1985b）「近世的唐音の音体系−江南浙北音としての−」『国語国文』54(7)
高山知明（2016）「ハ行子音の脱唇音化−個別言語の特色と音韻史−」『日本語史叙述の方法』ひつじ書房
趙元任（1928）『現代呉語的研究』清華学校研究院（商務印書館 2017 再版）
張照旭（2019）「近世唐音中的杭州音和南京官話−基於《四書唐音辨》的音韻学分析−」『日語学習与研究』203
中村雅之（2015）「唐話纂要の仮名音注について」『KOTONOHA』156
森博達（1991）「近世唐音と『唐音譜』」『国語学』166
李寧（2021）「試論《唐話纂要》的音系性質」『方言』2021(1)
林慶勳（2014）「岡嶋冠山標注匣母字的變化」『漢學研究』30(3)

古代日本語陳述動詞類の極性(肯否)表現の特徴

― 古代日本語中の「ロマンス語接続法」等価表現 ―

廉田(かどた) 浩(ひろし)

1. はじめに

日本語の通時変化の中で、中世の用言活用体系変化(古代の終止形と連体形とが合一化して近世以降の終止=連体形になり、関連して活用型も種類が減少した変化)は非常に顕著なものであり、その原因ないし解釈について過去に多くの研究や議論が行われてきた。しかし、いずれの議論もこの大きな変化の全貌を説明しきったものとは筆者には思えない。その原因としては、活用体系そのものの研究がやや音韻形態面に偏重し、各活用形の統語的な機能や相互関係の詳細な分析等が手薄になり、活用体系の統一的理解が十分でないことが考えられる。

この用言活用体系とその変化の包括的理解を最終目標とし、本稿では、用言活用形の統語機能分析の一環として、古代日本語の用言に助詞が後接する場合の活用形の使い分け現象を他言語の使い分け現象と比較対照する。具体的には、ある種の助詞に接続する場合の、用言活用形の「連体形と、終止形或いは連用形」の使い分けを、ロマンス語の「直説法と接続法」の使い分けと比較対照することによって、各活用形の統語機能を従来とは異なる観点から再検討していく。

古代日本語の時を表す副詞(状況補語)節では、「～まで」のようにある時点を限定する場合、用言連体形が使われ、「～つつ」のように時間継続の場合、連用形が使われる。これに対して、例えばフランス語では、“*avant que* ～”(時点限定的)で接続法が使われ、“*pandent que* ～”(継続的)で直説法が使われる。一種のアスペクト的な違いに対し、古代日本語では「活用形」変化で、ロマンス語では「法」変化で、各々対応しているように見える。本稿では第一に、この現象を再確認し、第二に、別文法範疇と考えられている、活用形と法の間に何か関係があるのかを、接続法の他用法である「極性用法」を参照し、古代日本語の対応する表現で検証する。また、その手段としては、全体を通して、国語研究所開発の日本語歴史コーパスを使い、頻度統計による分析・評価を行う。

2.古代日本語の時間関係を表す副詞節

まず、上記の副詞節の状況を確認するため、用言(時間表現のため形容詞を除く、動詞と助動詞)と後接助詞 マデ、ヨリ、ツツ、ナガラ、によって構成される時を表す副詞節の各用例を調べる。日本語歴史コーパスで、奈良・平安・鎌倉のコア全体(但し、平安和歌集では重複回避のため、古今集を除く)1,688,114 語中の各助詞の前接語の出現頻度を kwic により調べる。各々の出現例文を (1)～(4)、前接語品詞と用言活用形の頻度分布を 表1、表2に示す。但し、各例文では、必要な箇所に単語区切り記号 | を付加する。

表 1 助詞マデ、ヨリの前接語

助詞	マデ						ヨリ					
前接語	助動詞	動詞	(形容詞)	(助詞)	(その他)	総計	助動詞	動詞	(形容詞)	(助詞)	(その他)	総計
出現数	78	487	235	62	1034	1896	303	170	30	74	4895	5472
%	4.1	25.7	12.4	3.3	54.5	100	5.5	3.1	0.5	1.4	89.5	100
連体形	78	481	234			793	302	170	29			501
終止形	0	6	1			7	1	0	(語幹) 1			2

表 2 助詞ツツ、ナガラの前接語

助詞	ツツ						ナガラ					
前接語	助動詞	動詞	(形容詞)	(助詞)	(その他)	総計	助動詞	動詞	(形容詞)	(助詞)	(その他)	総計
出現数	84	2317	0	0	6	2407	63	712	57	0	529	1361
%	3.5	96.3	0.0	0.0	0.2	100	4.6	52.3	4.2	0.0	35.7	100
連用形	84	2317	0			2401	51	711	0			762
連体形	0	0	0			0	11	1	18			30
語幹	0	0	0			0	1	0	39			40

(1) 竹敷の浦廻の黄葉我行きて帰り|来る(久流)|マデ散りこすなゆめ (万葉, 3702)
(2) 御門引き|入るる|ヨリ、けはひことに広々として (源氏,玉鬘)
(3) 天地と共にもがもと|思ひ(於毛比)|ツツありけむものをはしけ…(万葉, 3691)
(4) 杣川におろす筏の|うき|ナガラ浪の枕にいく夜へぬらん(新古今, 653)

この内、ツツでは全ての例が連用形に後接しており、また少数の「例外」を除いて、ナガラは連用形に後接し、マデやヨリは連体形に後接している。総じて言えば、「連用形→継続的(不完成相)／連体形→時点限定的(完成相)」という規則が確認される。このような表現形式の切り替えは、単に各助詞の機能によるだけではなく、古代日本語用言(特に動詞と助動詞)の活用形に内在する機能と協調して現れるものと考えられ、連用形は動作の中断表現由来の不完成相表示機能を内在しているのに対して、連体形は準体節(名詞化)による一体化或いは外延化表現由来の完成相表示機能を内在していると考えられる。

ここで「例外」とした場合について確認しておく。(5)-(7)にナガラの例外的用例、(8)にヨリの例外的用例、(9)に、例外とは言えないが、接続助詞テを介して連用形がヨリに前接する用例を示す。(10),(11) にマデの例外的用例を示す。

(5) あり|し(連体)|ナガラのわが身ならばと(源氏,空蝉)
(6) わくらばにあまの川波|よる(終止)|ナガラ明る空にはまかせずもがな(新古今 325)
(7) 『かくなむ』と、聞こえ|まほし(語幹)|ナガラ、つつましきこと多くて(落窪)
(8) 汝檀越に非|ず(終止)|ヨリは誰の人か此れを哀む(今昔巻 20)
(9) 験ものしたまひけりと見|たまひ(連用)|て|ヨリ、こよなう尊び(源氏,夢浮橋)
(10) 阿須波の神に小柴さし我は斎はむ帰り|来(久)(終止)|マデに(万葉, 4350 防人歌)
(11) 伊香保ろの…ゐでに立つ虹の|現はろ(安良波路)(終止)|マデもさ寝を…(万葉,3141 東歌)

ナガラの前接用言の活用が連体形ないし語幹の場合は全て、(5)-(7)に示す通り「二つの動作の同時進行(継続)」を述べる用法ではなく、「そのままの状態(5)」や「逆接(6)(7)」を述べている。但し(6)の「よる」は「夜」の掛詞。(8)は「日本霊異記からの引用の際に誤訓読したもので、正しくは |ザル(連体)| (馬淵他 2001)」であり、更に時間関係を表したものでもない。また、(9)のヨリの例は、ある動作時点そのものよりもそれ以降の継続動作を描写している。最後に (10),(11) は本来連体形にすべき所を東国語話者が終止形に誤ったものと考えられる。(東国語の活用系が現代日本語に近い「終止＝連体」と仮定すると、誤用の説明は容易(廉田(2017)) この例外的誤用を除くと、「連用形→継続的／連体形→完成的」という規則は、古代日本語では厳格に守られていたと推定される。

3. ロマンス語における接続法の使用範囲(諸文献からのまとめ)

多くの言語で動詞の形態変化(屈折)によるムード表現としての接続法(subjunctive:SUB)が存在しているが、近現代ロマンス語は接続法の使用が比較的顕著な言語グループに属している。但し、ロマンス語の中でも使用頻度に差があり、例えば、スペイン(西)語、イタリア(伊)語、フランス(仏)語を比べると、西語＞伊語＞仏語 の順に接続法使用頻度が低くなると言われている。また、その使用範囲も相互に多少異なっているが、主節以外の従属節ないし補文内で使われる場合は(本稿での考慮対象範囲)、主に以下の三種類と言われている。

A. 補語ないし主語・目的語相当節(名詞節)内使用の場合(用例の一部を示す)

A1.願望、要求、命令、感情、主観評価、不確実性、可能性、等々の表現:Intensional SUB.
(12)[仏] *X souhaite(wish) que(that) Y* zz (述語 SUB)～: X は Y が zz することを望んでいる(**X≠Y**)

A2.補文の陳述内容を主節で否定・疑問にする場合(肯定の場合は直説法):Polarity SUB.
(13)[西] *No(not) creo((I) think) que Y* zz (述語 SUB)～: (私は) Y が zz するとは思わない。

B. 限定用法関係節(形容詞節)内使用の場合:先行詞の実在が無保証、否定的、唯一の存在

C. 状況補語節(副詞節)内使用の場合(用例の一部を示す: *que,che* 等の後の述語が接続法)

C1.時間関係 [仏] *avant que*:～スル前に, *en attendant que:*～までの間, [伊]*prima che:*～スル前に [西] *antes de que:*～スル前に, *después que:*～シタ後で, *hasta que:*～まで [*que*～:未来事象*]

C2.目的・譲歩・条件・仮定等 [仏] *afin que:*～のように, *bien que:*～にも拘らず, [伊] *sebbene:* ～にも拘らず, [西] *como:*～シタら, *a condition que:*～という条件で, *siempre que:*～スル限り

これらの多様な接続法の用法の中で、古代日本語連体形と対応関係がありそうなC1について細かく見てみる。従来、特に西語では「que 節内が未来事象の場合に接続法になる」という時制と関連した説明が一般的になされてきた。しかし、文献(Español-Avanzado)によれば、時制で説明できない例もあり、むしろアスペクトとの関連が指摘されている。ここではこちらを採用する。即ち、「que 節内:不完成相的→直説法、完成相的→接続法」。実際、接続法が使われている副詞節内の事象は、ある時点に生起するもの、または一体のもの、として扱われる。(仏語、伊語等でも同様) したがって、これらの時間副詞節内では、接続法は古代日本語用言連体形と同じ叙述法になる。

次に、それ以外の接続法の使用範疇では、古代日本語はどのような表現形式になっているかを調査する。もし別の範疇でも連体形が使われているようであれば、接続法との関係は非常に強いものと考えられる。本稿では、比較対照を行う使用範疇として、直説法と接続法の使い分け規則がはっきりしていて比較的安定な A2:「極性用法」を選択する。(例えば A1 を選択した場合、仏語で(12)の *'souhaite'* の代わりに、ほぼ同義の *'espere'* を使うと補文内は直説法であり、動詞の選択が難しい。また、B を選択した場合、日本語では先行詞の性質と無関係に連体形が使われ、「法の使い分け」に類似した現象が見られない可能性があり、比較対照範疇に適していない)

A2 で接続法を使う理由は、通常次のような説明がなされる。例えば (13)の例では、*"que_Y_zz."* という事象の実在する保証がないのに、述語 zz に直説法を使うと、その「発語(断定)力:illocutionary-force (Riverno and Terzi(1995))」が大きく *"que_Y_zz."* の実在を保証したことになる。この不都合を避けるため、発語力の弱い接続法を使う。(この「直説法の発語力の大きさ」はその言語のアスペクト体系と関係している。現代日本語や現代英語のように動詞の無標アスペクトが完成相の言語では、直説法であっても発語力が大きくないので、接続法的な叙述法は必須ではない)

4. 古代日本語陳述動詞類複文の肯定・否定と名詞節との接続表現の特徴

前記 A2 の接続法表現と比較対照するため、古代日本語で同様な構文および動詞を選択する。構文としては名詞節を含む複文構造で、その名詞節が主節述語に対する目的語、補語に相当する場合で(主語相当は今回は調査しない)、述語動詞は陳述動詞或いはこれに類した動詞が候補になる。ここでは、比較的使用頻度の高い、思フ、思ス、覚ユ、見ル、見ユ、聞ク、聞コユ、知ル、言フ、の 9 種類の動詞を主節の動詞(主動詞)として選び、これらの補語または目的語に相当する名詞節を含む構文を調査対象とする。そして、各名詞節内の述語句(副述語句)の形態が主節述語の肯定／否定に対してどのように変化するか、もしくは変化しないかを調査する。但し、否定構文としては、比較的頻度の高い「主動詞+否定辞」および「主動詞+助動詞+否定辞」とし、否定辞は、「助動詞ズ、ジ、マジ、助詞デ」とする。これ以外の否定構文も存在するが、出現頻度は小さい。

最初の作業として、前記コーパスで各動詞の単純な出現数を調べる。調査対象の文はこれらの主動詞の前に名詞節と副述語句がなければならない。対象となる構文抽出の手がかりを得るため、これらの動詞の直前の単語(前接辞:(14)に凡例を示す)を調べる。これらの結果を表 3 に示す。各主動詞前接辞の割合分布は、例外的事情により平均から外れている所もあるが、概ね一様である。

(14) 大納言は、我こそかかる目も|見ん(副述語句)|と(前接辞)|思ひ(主動詞)|しか、(源氏, 宿木)

表3 各主動詞(陳述動詞類)の肯定文／否定文の出現数と前接辞の品詞分布

主節	肯定文	肯定文-動詞の前接辞(%)						否定文	否定文ー動詞の前接辞(%)					
動詞	出現数	助詞	助動詞	動詞	形容詞	(代)名詞	その他	出現数	助詞	助動詞	動詞	形容詞	(代)名詞	その他
思フ	12526	69.1	4.9	1.5	5.9	5.4	13.2	453	75.5	2.7	2.0	0.4	5.3	14.1
思ス	3913	59.5	8.6	1.2	13.8	3.6	13.3	109	81.7	1.8	1.8	2.8	1.8	10.1
覚ユ	1868	47.2	13.3	0.2	27.9	3.8	7.6	377	73.2	0.5	0.0	0.8	13.0	12.5
見ル	9706	66.5	3.1	4.0	1.9	10.8	13.7	486	54.1	2.9	8.8	1.9	10.9	21.4
見ユ	2459	63.2	12.4	1.6	10.6	6.6	12.2	632	80.4	1.7	0.2	1.7	9.8	6.2
聞ク	4003	65.4	2.1	6.7	1.7	11.7	12.4	166	56.6	1.2	2.4	3.0	10.2	26.6
聞コユ	4836	40.9	4.6	35.7	3.6	6.4	8.8	279	41.6	1.1	30.1	3.2	6.1	17.9
知ル	2326	50.9	1.2	24.8	0.6	9.8	12.7	3187	38.7	0.7	5.5	0.4	47.8	6.9
言フ	13035	82.7	1.7	0.7	1.1	4.6	9.2	516	83.9	1.4	0.2	0.4	8.3	5.8
単純平均		60.6	5.8	8.5	7.5	7.0	11.5		65.1	1.6	5.7	1.6	12.6	13.5

表3で、前接辞としての助動詞、動詞、形容詞は、ほとんどが連用形で、出現割合が平均値より大きい項の用例で見ると、「あはれ|に(助動詞ナリ連用形)|見ゆ」、「つらきをも|思ひ(動詞連用形)|知りけり」、「物なむ|心細く(形容詞連用形)|おぼゆる」、のように主動詞を連用修飾していて、名詞節を形成しない。また、主動詞「聞コユ」の前接辞として動詞の割合が非常に大きいのは、「いとかくは|思ひ(動詞連用形)|きこえざりき」のような「聞コユ」の謙譲の補助動詞用法が多いためである。用言以外の前接辞で出現頻度割合が高い場合として、「主動詞:知ル_否定_名詞」、「主動詞:聞ク_否定_その他」がある。前者は、「読人(名詞)|知らず」といった慣用表現が多用されているため、後者は、元々サンプル数が少ないところで、「若君の上をだに|え(副詞)|聞かず」といった副詞による連用修飾形式が多用されているためと考えられる。 以上をまとめると、次の結論が得られる。

(15) 主動詞の補語・目的語相当の名詞節は、コト等の形式名詞以外は助詞を介して形成される。

具体的にどのような助詞を介して名詞節が形成されるか調べるため、上記、前接辞:助詞(P1)の前前接辞を見てみる。また、この前前接辞は、用言(Y2:名詞節を形成できる終止形・連体形・已然形・命令形のみを計測)および助詞(P2)の出現割合のみを調べる。前前接助詞(P2)を調べる理由は、「～(名詞節)用言(Y3)|ト(P2)|ハ(P1)|知ラズ」といった構文(P1 が係/副助詞の場合頻度大)を検出するためである。各主動詞の前接助詞全体の中で各助詞(P1)自身の出現割合と、その P1 に対する前前接辞としての助詞(P2)の割合、および用言(Y2)の割合を、肯定文と否定文に分けて表4に示す。また、前接助詞 P1 の中で前前接辞として助詞(P2)をとる割合が大きい「モ、ハ、ゾ、コソ、ノミ、ヤ、ダニ、シモ」について、具体的にどのような助詞を前接しているかを調査し、結果を表5に示す。

表4 主動詞の前接助詞(P1)の出現割合(%) と 各 P1 に対する前前接辞分布割合(%)

	前接助詞 (P1)												
肯定文	と	を	に	も	て	は	ぞ	など	の	こそ	のみ	なむ	や
	格助詞	格助詞	格助詞	係助詞	接続助	係助詞	係助詞	副助詞	格助詞	係助詞	副助詞	係助詞	係助詞
P1 出現%	35.9	13.6	8.5	7.5	6.7	5.6	3.5	3.1	3.0	2.1	1.7	1.3	1.1
前前接辞=助詞%	11.5	2.1	2.5	41.9	0.7	48.5	65.9	13.7	2.4	60.7	48.1	64.7	56.5
前前接辞=用言%	39.2	10.3	1.8	1.6	0.0	1.0	0.7	16.6	0.0	0.7	0.2	0.0	1.4
否定文	も	は	を	と	に	だに	しも	て	の	ば	が	をば	こそ
	係助詞	係助詞	格助詞	格助詞	格助詞	副助詞	副助詞	接続助	格助詞	接続助	格助詞	格助詞	係助詞
P1 出現%	47.8	15.7	7.2	5.3	4.1	3.2	2.6	1.8	1.6	1.5	1.3	1.3	1.2
前前接辞=助詞%	41.7	40.7	1.3	5.8	0.0	65.9	23.3	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	34.1
前前接辞=用言%	1.5	2.7	14.4	29.8	8.0	0.8	0.0	0.0	0.0	52.5	0.0	6.4	0.0

表5 一部の前接係助詞・副助詞(P1)に対する前前接助詞(P2)ト、ヲ、ナドの割合 (%)

前前接	肯定文 前接 P1						否定文 前接 P1				
P2	も	は	ぞ	こそ	のみ	や	も	は	だに	しも	こそ
と (%)	29.6	45.3	66.2	54.5	42.5	44.0	68.6	64.2	39.0	83.3	50.0
を (%)	22.1	0.0	7.2	16.7	28.8	6.0	11.5	0.0	28.8	5.6	16.7
など(%)	5.0	3.4	1.3	0.3	0.9	1.3	2.1	4.6	0.0	0.0	0.0

複文を構成するためには、助詞(P1)の前接辞として用言（終止、連体、已然形）が必要なので、表4から、肯定文では、ト、ヲ、ナド、否定文では、ヲ、ト、ニ、が P1 として有力である。否定文における助詞ハ、モ、の上接辞としての用言（連体形）は主語相当が多く、同じく助詞バの上接辞としての用言（已然形）は副詞節を構成するものであるため、今回の検討からは除外する。また、前述の通り、一部の係助詞や副助詞では、更に前接辞として助詞ト、ヲ、ナド、をとり、P2|P1= 「ト|モ、ト|ハ、等々」といった形式で名詞節を構成する。表5と表4を組み合わせると、否定文における「ト|モ」と「ト|ハ」の出現割合は、各々13.7% と 4.1% になる。つまり、これらの助詞の単体またはその組み合わせが、ロマンス語に於ける “*que*”(complimentizer) に相当しているが、古代日本語では、この接続部が (16)のように、肯定文と否定文とでかなり異なっていることがわかる。但し、( )内数値は%頻度

(16) 肯定文接続部:ト(36)、ヲ(14)、ナド(3) ／ 否定文接続部:トモ(14)、トハ(4)、ヲ(7)、ト(5)、ニ(4)

次に、形式名詞「事」を介して名詞節を構成する場合を調査する。コーパス中、「～用言(連体形)|事」が直接「主動詞」に接続する形式は、名詞節を構成するものがほとんどなく、「～用言|事|助詞|主動詞」の形式が名詞節を構成する。そこで、この間にある助詞(P1／P2|P1)について調査する。

調査結果を表6に示す。表 4 と比べ、助詞ヲの各出現率が約3倍になっていること以外、表4と表6は類似の分布であることが分かる。

表6 「～事」と「主動詞」間にある前接助詞(P1／P2|P1)の出現割合

	(～ 事)	助詞:P1／P2・P1						(主動詞)			
肯定文	を	と	に	など	も	は	ども	をば	を・も	と・は	その他
%	37.7	19.6	8.3	5.1	4.9	4.1	2.2	1.0	2.7	1.2	13.2
否定文	も	は	を	をば	に	と	ども	と・も	を・も	と・は	その他
%	21.5	15.8	20.3	3.2	1.9	1.3	1.3	13.3	5.1	2.5	13.8

5. 古代日本語の極性表現の特徴を説明するためのモデル仮説

表４～表６および(16)の結果を整合性よく説明するため、モデル仮説として(17)を提案する。

(17) 極性表現の説明モデル仮説

a.古代日本語では、名詞節の性質、特に「発語力」を決めているのは末尾に付く助詞(P1)である。
P1 の内、「ト、ナド」等は通常、終止形[1]の活用を名詞節内副述語句に要求、強い発語力を持つ
P1 の内、「ヲ、ニ」等は、連体（已然）形活用を名詞節内副述語句に要求、中位の発語力をもつ
P1 の内、「モ、ハ」等係助詞は、名詞節を主節から切り離し、名詞節の発語力を弱くする

b.肯定文の名詞節(P1)発語力は中位以上→ト、ナド、ヲ、ニ 否定文は中位以下→モ、ハ、ヲ、ニ

c.上記の事は、名詞節の代わりに名詞句や単独の名詞がきた場合の P1 でも概ね成り立つ。

上記のモデル仮説で、概ね表4～表6、(16) の分布や使い分けが説明できるが、少数ながら、仮説にとって不都合な事例も存在している。重要と思われる二つの場合につき、具体例で検証する。

第1の不都合な事例:否定文であるのに、P1 として「助詞ト」が使われている場合。否定文で弱い発語力が必要になるのは、（接続法の説明から）名詞節の事象の実在性が保証できないためであるが、もしなんらかの事情で、それが保証できるのであれば発語力を弱める必要がなくなる。例えば、文の主節の主語（人）、物語の語り手、発話者などが事象の実在性を確信している場合。この種の不都合例を検証してみると、(18) に示すように、ほとんどがこのような場合に該当している。

(18) 文見つらむ|と|思はねば （手紙の中身を見られていたと思っていないので） （源氏 浮舟）

物語中のこの記述の前の部分で、（宛先人ではない）取次の者（本来「文」の中身を見るべきでない者）が途中で「文見つ」ことが語られているので、この補文内容は確定した事実であり、「そう思っていない」のは主語の指し出し人だけ、という状況なので、「文見つらむ|と|も|思はねば」というような「未確定事象」に対する記述にしなかったのではないかと考えられる。

---

[1] 係り結びの場合は、連体形や已然形を要求する。

第2の不都合な事例：肯定文である（否定文でない）のに、P1 として「助詞モ、ハ」が使われている場合。第1の事例とは逆に、名詞節の内容事象の実在保証が明確でない場合に多く出現する。具体的には、疑問文や、譲歩・条件・仮定（接続法 C2 用法に類似）文等。(19)に例文を示す。

(19) なにがし一人をあひ頼む心もことになくてやありけむ|と|は|見たまへつれど （私一人だけを頼りにする気持ちも特になかったのではないかとは察しておりましたが）（源氏，蜻蛉）

上記のような「例外的な」事例を除外すれば、(17)のモデル仮説は、古代日本語極性表現の特徴説明に有効なものと考えられる。

6. まとめと今後の展望

（近現代）ロマンス語（MoR）における「直説法と接続法の使い分け」と類似の現象が、同様の動詞無標アスペクト形態をもつ古代日本語（OJ）に存在するかどうかを歴史コーパスで調査した。

第一の調査範疇は、時の副詞節内の述語形態の使い分けで、ある時点を限定する場合（「～マデ」等）、MoR では接続法、OJ では用言連体形が使われ、時点非限定ないし継続の場合、MoR では直説法、OJ では用言連用形が使われる。即ち、類似の使い分けが存在する。

第二の調査範疇は、陳述動詞類の複文における極性（肯定／否定）変化による使い分けで、肯定文の場合、MoR では直説法、OJ では名詞節末尾に助詞ト、ヲ等が付加され、否定文の場合、MoR では接続法、OJ では同末尾に助詞モ、ハ等が付加される。したがって、少数の例外はあるものの、OJ にも類似の使い分けが存在することが示された。但し、OJ の第二の範疇の使い分けは、動詞の形態変化によるものは間接的で、直接的には助詞の使い分けになる。

最後に、第二の範疇の使い分けを説明するためのモデル仮説（17）を提案する。この仮説は、接続法の特徴説明の場で使われている「発語力」という指標概念を導入することで、少なくとも表面的には、種々の使用実態を整合性よく説明できるものになっている。

今後は、発語力という概念の厳密化やアスペクトとの関係の明確化を行っていく必要がある。また、上記、第一と第二範疇の使い分けで、MoR は同じ「直説法／接続法」に対して、OJ では「動詞活用」と「助詞」という別の手段で行っているが、その原因についても、詳しい分析が必要と考えられる。

資料と参考文献

コーパス：国立国語研究所（2021）『日本語歴史コーパス』バージョン 2021.3 https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/

新編日本古典文学全集「万葉集(小島他 1994)」「源氏物語（阿部他 1994)」「今昔物語(馬淵他 2001)」小学館

六鹿豊（2016）「NHK 出版 これならわかるフランス語文法」NHK 出版

武田好（2016）「NHK 出版 これならわかるイタリア語文法」NHK 出版

廣康好美（2016）「NHK 出版 これならわかるスペイン語文法」NHK 出版

上田博人（2011）「スペイン語文法ハンドブック」研究社

廉田浩（2017）「中世日本(中央)語のﾃﾝｽｱｽﾍﾟｸﾄ体系変化と上代東国語の関連性」日本語学会 2017 年春大会予稿集

B-Violette, Laurence (2019) "The Development of the Polarity Subjunctive in Romance Languages", Dissertation to Harvard Univ., https://dash.harvard.edu/handle/1/42029737

Poplack, Shana et al. (2018) "8 Variation and grammaticalization in Romance: a cross-linguistic study of the subjunctive" in *W.Ayres-Bennet et al.(eds), Manuals in Linguistics,* deGruyter. 217-252, https://doi.org/10.1515/9783110365955-009

Laca, Brenda (2008) "The puzzle of subjunctive tenses", in *Reineke Bok-Bennema et al. (eds), Romance Languages and Linguistic Theory 2008*, John Benjamins, 171-194, https://www.researchgate.net/publication/300466545

Gielau, Elizabeth A. (2015) "Mood distribution and CP domain of subjunctive clauses in Spanish", PhD thesis, Univ. of Iowa, http://doi.org/10.17077/etd.bpl4g56e

Rivero, Maria, and A.Terzi (1995) "Imperatives, V-movement and logical mood." *Journal of Linguistics 31:* 301-332

Español-Avanzado, "Hasta que + subjuntivo/indicativo", https://www.espanolavanzado.com/gramatica-avanzada

「さげすむ」の変遷－「さげしむ」の干渉に注目して－

成田（なりた）　薫子（かおるこ）（京都府立大学学生）

1. はじめに

現代共通語において、「さげすむ」という語は「見下す」意味でのみ用いられる。しかし、『日本国語大辞典第二版』（以下『日国』）によれば、「さげすむ」の原義は、「柱などの傾きをしらべる」であり、元来「見下す」意味は持っていなかった。また、『日国』や先行研究[1]の一部においては、語形の類似した「さげしむ」という語を「さげすむ」の転と扱っているようであるが、「さげしむ」は「さげすむ」とは元来別語であったと考えられ、それら 2 語の干渉が語誌において検討されていないことには問題がある[2]。そこで本稿では、「さげすむ」の語誌を「さげしむ」という語との関係から新たに考察することとした[3]。第二節でサゲスム、サゲシムの意味変遷について、第三節でサゲスムのとる目的語について、第四節でサゲスム、サゲシムの国語辞書等における記述の変遷について、第五節でサゲスムと「蔑」の訓の結びつきの変遷についてそれぞれ論じる。

2. サゲスム、サゲシムの意味変遷

2.1 全用例の概観

まず、サゲスムとサゲシムについて、調査文献（本稿末参照）上初出例のある 14 世紀から 20 世紀（大正期まで）の用例数を総覧する。表 1 は、総用例を意味分類し、各用例数を都合 1 世紀毎[4]に示したものである。意味分類は、用例から帰納し得た**①「計測する」②「物事を推し測る」③「下に見る」**の 3 分類とした。

まず、**サゲスム**については、原義と考えられる①「計測する」が 14 世紀から出ている。その後 16 世紀には、②「物事を推し測る」が 2 例、③「下に見る」が 1 例出現し、16・17 世紀は①②③全ての用例が数例ずつみられる状況となり、その後はほとんどの用例が③に収束するという流れである。サゲスムについては、およそ①「計測する」、②「物事を推し測る」、③「下に見る」の順で重なり合うところがありつつ用法が推移したのであろうということが読み取れる。

表1　3分類と1世紀毎の用例数

	サゲシム			サゲスム・サゲズム			
	②	③	総計	①	②	③	総計
14世紀		1	1	1			1
15世紀	1	2	3	1			1
16世紀	1	2	3	3	2	1	6
17世紀		5	5	6	9	3	18
18世紀		39	39			5	5
19世紀		7	7		1	13	14
20世紀		1	1			26	26
総計	2	57	59	11	12	48	71

一方、**サゲシム**の意味・用法は、原義と考えられる③「下に見る」が全 59 例中 57 例を占め、全時代を通して、変化といえるほどの変化は起こっていないようである。②「物事を推し測る」の意味を持つ用例が、サゲスムより先行して出現することが注意されるが、サゲシムの総用例における割合（59 例中 2 例）からも、②の意味の総用例数における割合（サゲスム 12 例、サゲシム 2 例）からも、サゲシム独自の意味変化によって②の意味が現れたというよりは、類似の語形を持つサゲスムの干渉を受けて出現したものであり、たまたま本稿の調査内ではサゲスムの 16 世紀以前の②の用例がみつからなかったと考える方が自然であろう。

また、18 世紀以降のサゲスム、サゲシムについて注目すると、両者とも、ほぼ③「下に見る」の意味でのみ用いられる状況であり、その中で、サゲスムは 3 世紀間、徐々に用例が増えており、一方でサゲシムは徐々に用例が減っている。似た語形の語が、同じ③の意味中心で用いられる状況の中で、それを原義とするサゲシムは淘汰され、サゲスムがそれに取って代わった、ということを用例数の変化から読み取ることができる。このことについては、国語辞書等におけるサゲスム、サゲシムの関係をみることでより明らかになるが、詳細な考察は第四節に譲る。とにかく以上のように、③の意味においてサゲスムはサゲシムに取って代わり、現代語にはサゲスム（③「下に見る」の意味）のみが残ったことになる。サゲスムから①②の意味が消滅した理由については、①及びその意味拡張の範囲内である②とは明らかに異質であり、かつマイナス評価を表す③が中心的意味として広く用いられるようになったために、誤解を招くことをおそれて用いにくくなったためではないか、と発表者は推測している。また、その場合①②については、他の語が代用されるようになったものと推測されるが、この点の究明は今後の課題としたい。

---

[1] 松井栄一「和語・混種語の異形の考察―明治期国語辞書の見出し語形を手がかりに－」『[明治期国語辞書大系]書誌と研究』大空社、2003

[2] 『時代別国語辞典室町時代編』では、「「さげしむ」の元々持つ、「対象の価値をことさら軽く見る」意味が類似の語形を持つ「さげすむ」に干渉し、「さげすむ」が「そのものの否定的な面に焦点を合せて、ことさらに低く判断する」意味を表すようになった」（発表者要約）との指摘があるが、詳細な検討は示されておらず、根拠も不明である。

[3] 以下、「さげすむ（全活用形）」「さげすみ（名詞）」をサゲスム、「さげしむ（全活用形）」「さげしみ（名詞）」をサゲシムの表記で代用する。

[4] 一般的な時代別区分とは異なるやや乱暴な区分ではあるものの、表内での視覚的なわかりやすさを重視し、採用した。

2.2　1 世紀毎の用例と意味[5]

次に 1 世紀毎の用例について、特徴的なものを中心にみていく。意味認定の結果は、出典の後ろに①②③で示す。

14 世紀：サゲスム 1 例（動詞 1）　サゲシム 1 例（動詞 1）　この時期に見つかった用例は 1 例ずつであり、サゲスムは①「計測する」、サゲシムは③「下に見る」意味である。2.1 で見た全体の出現傾向からも、これがそれぞれの原義と考えられる。

《1》我矢ならは爪よる事もさけすむ事も不苦。　（『三議一統大双紙』、小笠原長秀・今川氏頼・伊勢満忠、1358-）①

《2》此程も刑部か申候は三條には客人おわするなり、かろ／＼しくかよふへからす、尼御前も我をはさけしめ給ふ聟なれは有はてむ事もかたしと常に申候、　（『平家物語』（延慶本）・二末、1309）③

15 世紀：サゲスム 1 例（動詞 1）　サゲシム 3 例（動詞 3）　サゲスムは 14 世紀と同じく、原義①「計測する」の意味であり変化はみられない。それに対し、サゲシムについては、原義③「下に見る」に加え、②「物事を推し測る」の用例が出現する。②は先述の通り、基本的には 16 世紀以降にサゲスムの意味として多く用いられる意味である。

《3》おし直す工もいさやすみがねにさけすむ月のかたぶきにけり　（『七十一番職人歌合』一番・左・番匠、1500 頃か）①

《4》天下ヲサケシメテ見テ、天下ノ中ニ立レタゾ　（『漢書列伝竺桃抄』、1460）②

16 世紀：サゲスム 6 例（動詞 4、名詞 2）　サゲシム 3 例（動詞 2、名詞 1）　サゲスムについては、原義と考えられる①「計測する」の用例が最も多いが、《5》のような②「物事を推し測る」の例が 2 例、《6》の③「下に見る」の用例も 1 例入っている。《6》の『人国記』は、成立自体は室町末であるものの、底本が元禄年間の写本をさらに宝永年間に写したものであるため注意が必要であるが、サゲシムの原義である③「下に見る」によるサゲスムへの意味干渉が起こっている可能性を示唆する用例である。これに対し、サゲシムの用例は、原義③「下に見る」の用例 2 例に加え、15 世紀に引き続き②「物事を推し測る」の用例も 1 例みられ、②の用例が中心的に出現するサゲスムからの干渉が起こっているものと考えられる。

《5》此文見ゑもすまじく候間さけすみにて御よみあるべく候（『豊太閤真蹟集・上』天正五年七月二三日小寺孝高宛消息、1577）②

《6》侍ハ、兵器ヲ身体ヨリハ結構ニシテ我館ニナラベ置、諸朋友ニ是ヲ見セテ、己モ驕ノ気ヲ内ニ含ミ、人ヲサゲスミ我ヲタカブルコト、上下トモニ皆如斯　（『人国記』志摩、室町末）③

《7》智恵モナキ人ノサゲシミヲモ、色々思案ヲメグラシテサヘ面白キ事ヲタクミ出ス事アリ　（『逆耳集』、16C）②

17 世紀：サゲスム 18 例（動詞 10、名詞 8）　サゲシム 5 例（動詞 5）　サゲスムについては、①「計測する」と②「物事を推し測る」の用例を中心に、③「下に見る」の用例も 3 例みられ、前世紀より顕著にサゲシムの原義③「下に見る」の意味の影響がサゲスムに対して及ぼされている様子がみて取れる。一方、サゲシムは、③「下に見る」の用例であり、15・16 世紀のような②「物事を推し測る」の意味の用例はみられない。なお、14・15・16 世紀は、サゲシムは、下二段活用が中心であり、17 世紀には四段活用のみとなる。[6]

《8》さるに、かの鵜師いでてさげすみけるやう、家見のはじめに、ただ何をか参らすべき　（『仁勢物語』、1639）②

《9》北条家の松田、大道寺を始、信玄公の、氏政をさげすみ給ふと、せうしく存ずる也　（『甲陽軍鑑』品三二、17C 初）③

《10》日本の出家衆をきりしたん共さげしむこと　（『吉利支丹退治物語』、1665）③

18 世紀：サゲスム 5 例（動詞 2、名詞 3）　サゲシム 39 例（動詞 24、名詞 15）　18 世紀には、サゲスムは、原義である①および②の用例は全く出現せず、少数ながら、③「下に見る」の用例のみとなっている。一方、サゲシムについては、原義である③「下に見る」意味の用例のみ 39 例がみつかった。

《11》女房眉を皺め、「扨も扨も、世の中には薄情なる者もあるかな。婦人の風下にも立つべき者にあらず」とさげすむ。　（『英草紙』、1749）③

《12》子ながらも賢しい者、偽つて誠とせず母を心のきたない者と、蔑（さげし）まるるも情けなし　（『丹波与作待夜のこむろぶし』上之巻、1707）③

19 世紀：サゲスム 14 例（動詞 9、名詞 5）　サゲシム 7 例（動詞 6、名詞 1）　まず、サゲスムについて、18 世紀にはみられなかった②「物事を推し測る」の用例が《13》の 1 例のみある。ただし、これは 1600 年頃を舞台とする場面であ

---

[5] 以下、傍線発表者。用例の表記は各影印・活字本に従ったが、紙幅の都合上、底本の提示は省略する。

[6] 《2》のみを用例として挙げる『古語大鑑』では、「さげしむ」を四段活用とするが、正しくは下二段活用であろう。また、『広辞苑第六版』では四段活用の用例のみを挙げて、下二段活用に関する記述はない。このような現代辞書における記述の混乱も、偶然ではなく、後に四段活用となっていくサゲシム自体の変化に起因するものと考えられる。

り、その設定に合わせて古語的な意識で用いられたものではないかとも考えられるため、注意が必要である。また、19世紀のサゲスムの他の用例は、全て③「下に見る」のものであり、18世紀に比べ用例数も増えている 。一方で、引き続き③「下に見る」の用例のみのサゲシムは18世紀からかなり用例を減らしている。

《13》是實に慶長四年三月の事なりしが、三成は佐渡守の下墨（サゲズミ）に違はず、果して翌五年兵を起し、關ヶ原の一戰に敗績して身首所を殊にし、而して豐臣氏の天下は終に内府の手に歸したり、（『太陽』「加藤清正（承前）」、1895）②

《14》言ぬこころを察せずは。苦界にありし女子には。似合ぬ不粋とさげしまれうとはいへ。（『明烏後の正夢』初編二之巻、1821）③

20世紀：サゲスム26例（動詞24、名詞2）　サゲシム1例（動詞1）　ここでは大正期までを調査対象としたが、サゲスム、サゲシム両者ともに全て③「下に見る」の用例である。用例数は、サゲスムがサゲシムを大きく上回っている。

《15》一方は武事ばかりを練磨して居て學者は柔弱だと蔑すみ、又一方は何だ武事ばかり遣つて、何も分らない奴がと、（『太陽』「老西郷談」、1901）③

《16》「村のはぢになる女だ。」人々は彼女をさげしみ、嫌つて、親しい言葉すらも交さなかつた。（『太陽』「農村描寫　泥の中で踊る人々」、1925）③

3. サゲスムの目的語の変遷

前節では、サゲスムが時代を下るにつれ、意味・用法の変化を遂げる様相について記述した。そこでその観点から、サゲスムがとる目的語の変化についても調査した結果、

> サゲスムは①「計測する」意味では、基本的に具体的な「もの」を目的語としていたが、②「物事を推し測る」意味においてより多様な目的語を取るようになったことにより、「人を貶める」意味で用いられていたサゲシムの干渉を受けやすくなり、それが③「下に見る」への意味変化に繋がったのではないか

ということがわかり、2.1での考察を補強することが可能となった。以下、具体的に説明する。

現代共通語のサゲスムの目的語となるのは、主に人または人の行動である。しかしここまでで結論づけてきたように、サゲスムの原義は「計測する」であり、その目的語に人はとらなかったはずである。そこで、①②③の用法ごとに目的語の種類（もの・こと・人）[7]を見たところ、表2のような結果となった。①「計測する」が「もの」のみを目的語とするのに対し、①から派生した②「物事を推し測る」では「こと」を中心としながら「もの」「人」、③「下に見る」は「人」を中心に「こと」「もの」も目的語にとっている。こうしてみると、①から③へと用法が変遷する過程で、②において目的語の幅が広がったことが、一つの重要なポイントと考えられる。以下、用例を挙げる。

表2 意味の3分類と目的語種別

①	②			③		
もの	もの	こと	人	もの	こと	人
10	1	9	2	2	3	43

まず、①「計測する」の用例を見ると、以下のように、具体的な物体を目的語としている例が中心である。

《17》我矢ならは爪よる事もさけすむ事も不苦。　目的語：もの（矢）（『三議一統大双紙』、1358－）

次に、②「物事を推し測る」の用例では「もの」「こと」「人」の3種類の目的語がみられる。その中で特に、目的語に「こと」を取るものが注目される。これらは以下のように、「（主体が何かを行う）こと」が目的語になっている。

《18》去大名の中間に長棹といふ者有如何なる心持により此名をはつけたるそと人々さげすみけるに独の作意には唯物のすぐなといふ事にてあらふすと又別人は唯物ほしさうな人にてあらふと　目的語：こと（どのような心持ちで長棹という名前をつけたのかということ）（『醒睡笑』八、1628）

このように、「主体」が何かを行うことを推し測る、というところから、「人」そのものを目的語にすることにつながり得たものと考えられる。②「物事を推し測る」の「人」を目的語とする用例は、数は少ないが以下のようである。

《19》ヒトヲ saguesumu（サゲスム）〈訳〉人を見る、または観察する。つまり、人柄をおしはかる　目的語：人（Fito）（『日葡辞書』、1603）

続いて、③「下に見る」の用例では、目的語が「人」のものが、他の目的語種別に比べ、圧倒的に多い。[8]

《20》父の御さげすみにあづかる事も無念なれば、駿河より加勢の儀は、中中思ひもよらぬ事にて候　目的語：人（信玄）（『甲陽軍鑑』品二二、17C初）

以上のように、サゲスムは、①「計測する」意味では基本的に具体的な「もの」を目的語としていたが、②「物事を推し測る」意味においては「人等の行動」を中心とする「こと」や「人」そのものなど、広く目的語を取るようになった。その結果、元々「人を貶める」意味で用いられていた別語サゲシムの干渉を受けやすくなり、それが③「下に見る」

[7] ここでは、「もの」と「こと」の区別が重要であり、有情物・非情物のみの区別では不十分であったため、「もの」「こと」「人」の三分類を用いた。

[8] 数が少ない「もの」「こと」の用例も、ほとんどが「人」を含意している。なお、「もの」「こと」の用例の時代による出現の偏りはみられない。

への意味変化に繋がったものと考えられる。

4. 国語辞書等における記述の検討

本節では、編纂者による語への意識が反映されたであろう国語辞書等内での記述を中心に、サゲスムとサゲシムの関係について検討する。本邦の辞書でサゲスムとサゲシムの両形を載せる最初の例は、『文明本節用集』、続いて『かた言』である。

《21》剖　サゲシミ　　番匠記　又繰 サゲスム　　（『文明本節用集』、室町中期）

《22》一　物ををしはかるをさげすみといふべきをさけしみといふは如何　さけすみは下墨（さげすみ）といふ事成べし。（『かた言』、1650）

《21》では、「サゲシミ」（意味不詳）を主、「サゲスム」（計測する意）を従として同じ場所に掲出しており、ともすれば同語のような位置づけにあるようにも見える。また《22》では、②「物事を推し測る」意味では「さげすみ」を用いるべきであるのに「さけしみ」を用いることに対して疑義を呈しているが、2.1 で述べたように、サゲシムにおいて②の例が出現するのはサゲスムの影響を受けての事と考えるのが自然であって、それがこの時期の人々にも意識されていたことの傍証となるだろう。ただし、「さけしみ」の意味には言及がないため、編者が単なる音転・音訛であると考えている可能性も捨てきれない。また、これに内容が近い記述は、これより 50 年ほど後の、『諺草』にも見える。

《23》下墨（さげすみ）　物を評論して見る事を下墨て見ると云。番匠が直を見るとて、墨斗の糸をさげて見るにたとへたり。さげしみて見る、又さげすうて見る、並に誤　　（『諺草』、1699）

こちらは、「さげしみ」て見る、「さげすう」て見る、共に誤りとしており、『かた言』の例よりも、音転と捉えているむきが強いように考えられる。いずれにせよ、②「物事を推し測る」意味においては、サゲスムを用いるのが正当であるという意識が強くあるようである。続いて興味深い記述として、『自筆本和訓栞』、『版本和訓栞』を挙げる。

《24》さげすみ　工人の直を視に墨斗の糸をさげて見るによそへていふ語也
さげしむ　人を賤する事にいへり令下の義なるへし　　（『自筆本和訓栞』、江戸中期）

《25》さげしむ　人を賤んする事をいへり下墨の轉成へし
さげすみ　垂準をよめり下墨の義工人の直を視に墨斗の糸をさげて見るよりいふ也　　（『版本和訓栞』、1777）

《24》では、「さげしむ」の成立を「令下の義なるへし[9]」としており、「さげすむ」とは別語と捉えているのに対し、《25》では、「さげしむ」の成立を「下墨の轉成へし」としており、また「さげすみ」の方には、「下墨の義」とある。すなわち自筆本から版本に至る間に、「さげしむ」を「さげすみ」の音転と捉える記述に変更しているのである。はっきりと、サゲシムがサゲスムの転であると言及しているのは、『版本和訓栞』が初めてである。続いて、以下の辞書では、サゲスムについて「Same as sageshimu.（さげしむに同じ）」とあり、サゲシムが主、サゲスムが従の関係になっている[10]。

《26》SAGESIMI,-MU サゲシム　視下　t.v. To look down on, disdain; to regard with contempt. Syn. KARONZURU, NAIGASIRO NI　SURU.
SAGESUMI サゲスミ　n. A plummet.
SAGESUMI,-MU サゲスム　Same as sageshimu.　　（『和英語林集成（第三版）』、1886）

『和英語林集成（第三版）』以降の辞書では、《27》のように、基本的にサゲスムを主として、サゲシムの項に「さげすむに同じ」というように記述されるようになる。ただし『広辞苑』では、「さげしむ」について、「「下げし見る」の意とも、「下墨」の転ともいう」としており、一応、「さげすむ」と同語か別語かわからないという立場をとっている。

《27》さげしむ（動）さげすむニ同ジ。　　（『言海』、1889）

《28》さげしみ【蔑み】「さげすみ」に同じ。
さげし・む【蔑む】[他四]（「下げし見る」の意とも、「下墨」の転ともいう）①見くだす。蔑視する。栂尾明恵上人伝記「いやしみ－・み給へば大罪弥深し」②批判する。とやかくいう。傾城禁短気「物日が厭さに四の五のいふと、－・まるるが無念な」　　（『広辞苑第六版』、2008）

以上をまとめると、『文明本節用集』では、サゲシムが主、サゲスムが従の記述であったのが、『かた言』『諺草』では、サゲスムが主に見える記述になり、『版本和訓栞』ではそれが明記され、『和英語林集成（第三版）』という例外を除けば、それ以降の国語辞書等においては、基本的にサゲスムを主とする記述が続いてきた、ということになる。これらからは、両者が同語でありかつサゲスムが正当であるという意識が形成されていく過程がみられたが、一方では辞書での記述が、サゲスムがサゲシムに取って代わる要因の一つであったかとも考えられる。

---

[9] 「さげしむ」の成り立ちについては、初期の活用が使役の「しむ」と同じ下二段型であること、「さげすむ」に「さげずむ」の形があるような連濁の形がみられないこと、用例・辞書記述を通して、動詞形が現われてから名詞形「さげしみ」（四段活用）が現れるまでに 200 年近い隔たりがあることから、『自筆本和訓栞』にも記載があるように、「下げ令む」から成立した、またはその意識で長く用いられていたという論を主張できると考える。

[10] 『和英語林集成』における語釈の“same as ～”は、立項の前後に影響されず付されているとみられる。

5. サゲスムと蔑の訓の関係

最後に、サゲスムと「蔑」[11]の訓の関係について、サゲスムおよび類義の和語に焦点をあてて論じる。サゲスムは現在では、「蔑」の定訓となっていると考えられ、「改訂常用漢字表」でも「さげすむ」という訓が示されている。しかしながら、意味の変遷を経て、現在の③「下に見る」意味が用いられはじめる前は、当然①「計測する」②「物事を推し測る」の意味に合わない「蔑」がサゲスムの漢字表記として当てられることは無かったはずである。そこで、サゲスム(③)に当てられてきた漢字、および「蔑」の訓について、本邦の漢和辞書類[12]を中心に調査することで、第二節で論じた③「下に見る」への意味変化についての考察の補強としたい。[13]

表3　サゲスム③の意味の漢字表記

	サゲスム　③下に見る						
	下墨	下目	軽蔑	卑下	蔑	蔑視	総計
18世紀	1						1
19世紀	1	1			1	2	5
20世紀			2	1	14	1	18
総計	2	1	2	1	15	3	24

まず表 3 は、サゲスムの③「下に見る」意味の用例の漢字表記を採取した結果を示したものである。これをみると、「蔑」がサゲスムの漢字表記として使われた確例は、19 世紀に初めて、1 例現れる。それが 20 世紀（大正期まで）には 14 例に増え、さらに今日では、サゲスムを表記するとき、「蔑」を用いることは当たり前になっている。

次頁に示した表 4[14]は、「蔑」字についての辞書記述をまとめたものである[15]。ここでは、サゲスムとその類義語「ないがしろにする」「あなどる」「なみする」等の掲出および掲出順を観察する[16]。調査は一番古いもので『天治本新撰字鏡』(1124) からおこなったが、そこには「無加代（ないかしろ）」の訓が挙げられている。「ないがしろ」は、「さげすむ」の類義語の中でも、「蔑」の訓としては特によく出現するものである。この時期の「ないがしろ」の意味について『日国』を見ると、本稿でサゲスム・サゲシムの意味分類③としてきた「(1)（多く「ないがしろにする」の形で）無視するさま。軽んじあなどるさま。」の意味が挙げられている。またその後、18 世紀までには、「アナツル」「ナミス」等の訓が目に留まるが、同様に『日国』には③の意味がある一方で、サゲスムの掲出はない。サゲスムに「蔑」字が当てられた初出例のあった 19 世紀の辞書は、『増続大広益会玉篇大全』(1854) を確認したが、サゲスムおよびサゲスムの類義語の記述はみられなかった。そのような中、20 世紀に至り、『漢和大辞書』(1914)、『大字典』(1917) の語義説明欄にサゲスムが載るようになる[17]。昭和期以降のものではまず、『新修漢和大字典』(1936) に「蔑　㊀ナイガシロニス。さげすむ、かろんずる。「一視」「侮一」」とあるが、凡例に従えば、訓は始めに挙げられている「ナイガシロニス」であり、サゲスムは語義説明であって訓ではない。「蔑」がサゲスム意味を持っているが、訓としては認められていないことになる。また、『改訂増補解字漢和辞典』(1958)、『三訂増補新字鑑』(1980)、『広漢和辞典』(1982) では、「蔑」自体の訓にも語釈にもサゲスムは現れないが、関連語である「蔑視」「蔑侮」の語釈にサゲスムが出現している。これらは、サゲスムが「蔑」に近い意味をもっているが、訓としては認められていないことが示される例である。サゲスムが訓として挙げられるようになるのは、『新字源』(1973)、『講談社新大字典』(1993)、『字通』(1996) である。これらのうち『新字源』(1973) は凡例に従えば、「さげすむ」「ないがしろにする」が《熟している訓》となる。一方で、『講談社新大字典』(1993) の凡例によると主要な訓義は「なみする」「ないがしろにする」であって、サゲスムは含まれない。この凡例は、前身となる『大字典』(1917) の基準を受け継ぐ面があるものの、サゲスムが「蔑」の訓として重要視されていない例とみることはできるだろう。また、『大漢和辞典（修訂第二版)』(1989) には、訓・語釈・関連語の語釈のいずれにもサゲスムは載っておらず、サゲスムが「蔑」の訓としても意味の近い語としても認められていない。以上のように、20 世紀のうち、昭和期以降の辞書記述を見ると、サゲスムを「蔑」の訓として認める記述、近い意味としては認める記述、認めない記述等が拮抗しており、未だサゲスムは「蔑」の定訓としての立場を確立していないものと考えられる。次に、21 世紀の

---

[11] 中国における「蔑」の意味について、『漢語大詞典』(漢語大詞典編輯委員会・漢語大詞典編纂処) の内容を参照すると、「❷轻视；侮慢。」とあり、「蔑」がサゲスムの③「下に見る」に通じる意味を持つことがわかる。

[12] 調査は、部首引きなど辞書から直接引ける場合は直接、そうでない場合は、索引・データベースを用いておこなった。

[13] 本節は第四節までの考察の補足調査であるため、漢和辞書類の悉皆調査には至らなかったが、十分に結論を示し、本論の内容を補強し得たと考える。

[14] 「さげすむ」とその類義語である「ないがしろにする」「あなどる」「なみする」「さみする」等の語を中心に扱うため、それに関係の薄い記述が増える 19 世紀以降の辞書については、内容の一部を任意に省略する。

[15] 漢和辞書等で、漢字の訓をどう認定しているかは、それが「訓」と凡例等に明言されていなければ、判断することが難しい。複数の辞書において、頭字の後に掲げられた和語は、訓釈・訓義というように凡例に表記されており、それが漢字の「読み」として掲げられているのか「意味」として掲げられているのか判然としないためである。そこで、明治期以降に作られる漢和辞書において「訓」ではないとの明確な根拠が凡例等にある場合をのぞき、「頭字の後に掲げられた和語で平仮名または片仮名の一単語」を「訓」として認定することとした。また、江戸期以前の辞書については、「漢字に振られた和語で片仮名の一単語」（1 例漢字表記）は、これもまた判断に迷うところではあるが、すべて、「訓」と判断している。

[16] 第二節でサゲスムとともに検討したサゲシムは「蔑」の漢和辞書記述では出現しなかった。

[17] これが、語の「読み」か「意味」かについては判断が難しいところではあるものの、一応「蔑」の訓として「さげすむ」が挙げられているとできるだろう。ただし、『大字典』(1917) は凡例の記述から、掲出範囲で重要視されるのは「ナミス」「ナイガシロニス」であるから、「さげすむ」は「蔑」の訓として認識されているが、未だ重要な訓ではないということになる。

表4　漢和辞典等の記述

名称	成立	内容
天治本新撰字鏡	1124	蔑（異体字）蔑　二形作 莫結反 無加代也　／　蔑　軽也
法華経単字	1136	蔑　无莫結　別　ナカイシロ　メチ　アナツル
三巻本色葉字類抄	1144頃	蔑　イカル（16/32）　／　蔑已上同　イルカセニス　イルカシ（4/4）　／　蔑ナミス　／　蔑ナイカシロ　／　蔑アナツル
寛元本字鏡集	1243-1247	蔑　屑　ハツ　　蔑（異体字）同　蔑（異体字）同　蔑（異体字）同　蔑（異体字）同　サミス　アナツル　ナイカシロ　／　蔑　キレ
十巻本伊呂波字類抄	鎌倉	蔑　蔑（異体字）　（ナミス　ナイカシロニス）　／　蔑　ナヒカシロニス　／　蔑　イカル（17/31）　／　蔑　アナツル（4/18）
観智院本類聚名義抄	鎌倉末期頃か	蔑　莫結反　アツマル　ナイガシロス　ナミス　　和　メチ　ヘチ
応永本字鏡集	1394-1428	蔑　屑　ハツ　へ　蔑（異体字）蔑（異体字）同　蔑（異体字）同　蔑（異体字）同　蔑（異体字）同　サミス　アナツル　ナイカシロ　／　蔑　キレ
篇目次第（和玉篇）	室町中期	蔑　ヘツ　ナイカシロ　アナツル　／　蔑　莫結切　ヘチ　メチ　アナツル
落葉集	1598	蔑　ベツ　タケノカハ　ナイガシロ
慶長古活字版和玉篇	慶長	蔑　ヘツ　ナイカシロ　アナトル
増続大広益会玉篇大全	1854	蔑　ベツ　メツ　ウハヒ　アキジリ
漢和大辞典: 線音双引	1911	蔑　①ばかにする。②みさぐる。かるくみる
漢和大辞書	1914	蔑　①軽易して無きが如くに視る、さげすむ。あなどる。かろんず、ないがしろにす。
大字典	1917	蔑　**ナミス**（名、佐変）スツ、滅ス、軽易ス、サゲスム、アナドル、**ナイガシロニス**（動、佐変）
新訳漢和大辞典	1921	蔑　㋑①あなどる、かろんず、ないがしろにす
字源	1923	蔑　○なみす、ないがしろにす、かろんず（軽）「軽-」「侮-」「陵-」
新修漢和大字典	1936	蔑　㋭**ナイガシロニス**。さげすむ、かろんずる。「-視」「侮-」
改訂増補解字漢和辞典	1958	蔑　**かろんずる**。**あなどる**。　【蔑視】ベッシ　みくだす。さげすむ。
新字源	1973	蔑　②**さげすむ**。**ないが**しろにする（ないがしろにす）。すてる。
三訂増補新字鑑	1980	蔑　㊐**ナミス・ナイガシロニス**あなどる。【蔑視】ベッシ　みくだす。さげすむ。ないがしろにする。
広漢和辞典	1982	蔑　㊀①**ないがしろにする**。ないがしろにす。**かろんずる**。かろんず。**なみする**。なみす。【蔑侮】ベツブ　さげすみ、あなどる。侮蔑。
大漢和辞典(修訂第二版)	1989	蔑　㊀①**ないがしろにする**。なみする。あなどる。かろんずる。
講談社新大字典	1993	蔑　**なみする**(なみす)(動)。**ないがしろにする**（ないがしろにす）（動）。軽んじる。さげすむ。あなどる。
字通	1996	蔑　字訓あらわす・ないがしろにする・さげすむ・ない
新潮日本語漢字辞典	2007	蔑　さげすむ・ないがしろにする・なみする
全訳漢辞海第四版	2017	蔑　語義一《動》❶軽視する。さげすむ。**ないがし-ろにする・ナイガシ-ロニス**。**あなど-る**。

辞書記述を見る。『新潮日本語漢字辞典』(2007)、『全訳漢辞海第四版』(2017）ではいずれも、「さげすむ」が訓の頭に来ており、「蔑」の訓として重視されていることがうかがえる。また、これら二つの辞書の刊行時期の間となる 2010 年に告示された「改定常用漢字表」には「蔑」字が追加され、その訓は「さげすむ」とされた。これらのことから、21 世紀に入り、サゲスムは「蔑」の定訓として確固たる地位を得たといえる。

以上のように、用例の出現からやや遅れる形ではあるが、漢和辞書類においてサゲスムは「蔑」の訓として、徐々に受容され、今日では定訓となるに至った。このことは、元々「蔑」の訓の中心であった「ないがしろにする」「なみする」などに近い「下に見る」意味をサゲスムが獲得し、さらに、その意味のみで使われるようになったという変遷過程と決して無関係とは考えられず、サゲスムについて用例から論じた意味変遷のあり方の傍証となるであろう。

6. まとめ

本稿では、サゲスムが、およそ①「計測する」、②「物事を推し測る」、③「下に見る」の順で重なり合うところがありつつ用法が推移したこと、および、現在もサゲスムの意味として用いられる③「下に見る」意味は、元来その意味を持っていたサゲシムから干渉を受けて持つようになり、最終的にサゲシムに取って代わったということを結論づけたい。これは、先行研究において「さげしむ」が「さげすむ」の転とされていたり、別語としていてもその干渉について十分な検討がなされていなかったところから、様々な観点を用いて新たにサゲスムの語誌を記述し直し、位置づけたという点で、一定の成果があったと考える。

＊参考文献は紙幅の関係で本文内に随時示したため省略する。また下記の調査文献一覧には、用例が出現したもののみを示した。

調査文献：『平家物語（延慶本)』『三議一統大双紙』『源氏物語千鳥抄』『漢書列伝竺桃抄』『言塵集』『七十一番職人歌合一番』『荘子抄』『太閤真蹟集』『紀州御発向之事』『人国記』『羅葡日辞書』『匠材集』『信長公記』『太閤記』『逆耳集』『日葡辞書』『房総治乱記』『余吾庄合戦覚書』『豊内記』『信長記』『醒睡笑』『鷹筑波集』『仁勢物語』『虎明本狂言集』『吉利支丹退治物語』『談林俳諧訛判』『当世口まね笑』『翁問答』『紫の一本』『若みどり』『毛利家本幸若』『甲陽軍鑑』『風流曲三味線』『武道近江八景』『心中重井筒』『丹波与作待夜のこむろぶし』『堀川波鼓』『心中万年草』『傾城禁短気』『今宮の心中』『生玉心中』『艶道通鑑』『曾我会稽山』『平家女護島』『井筒業平河内通』『心中天の網島』『北条時頼開分二女桜』『記録曾我女黒船』『記録曾我女黒船後本朝会稽山』『富士浅間裾野桜』『契情お国〈哥舞〉妓』『曦太平記』『曦太平記後楠軍法鎧桜』『三浦大助節分寿』『都鳥妻恋笛』『真盛曲輪錦』『略平家都遷』『忠孝寿門松』『花襷厳柳嶋』『其磧諸国物語』『賢女心化粧』『仮名手本忠臣蔵』『英草紙』『排蘆小船』『水月ものはなし』『風流庭訓往来』『西山物語』『妹背山婦女庭訓』『異本郭中奇譚』『甲駅新話』『笑本板古猫』『繁千話』『形容化景唇動　鼻下長物語』『上杉輝虎注進状（偽文書)』『音曲神戸節』『明烏後の正夢』『色深狭睡夢』『仮名文章娘節用』『春色梅児与美』『春色辰巳園』『恋の若竹』『春色恵の花』『春告鳥』『春色戀廼染分解』『雪中梅』『国民之友大東號航海日記（七)』『太陽』『たけくらべ』『骨ぬすみ』『自然と人生』『悪魔』『女学世界』『あらくれ』『或る女』『婦人倶楽部』　**漢和辞書等（第五節）：**「蔑」の記載があった漢和辞書については、表内に示したため省略する。調査したが「蔑」の掲載が無かったのは、『節用文字』『図書寮本類聚名義抄』『世尊寺本字鏡』『法華経音訓』『夢梅本和玉篇』『寛永九年刊和玉篇』『増補和玉篇』『大広益真艸和玉篇』である。

「ＮＰ1つまりＮＰ２」の「つまり」の機能―同格名詞句との対照から―

乾（いぬい）　乃璃子（のりこ）（神戸女学院大学大学院生）[1]

１．はじめに

日本語には、（１）のように指示対象が同じで、「長女が」「由紀子が」という同じ格の名詞が２つ並んで文中で同じ役割を担っている名詞句を「同格名詞句」がある。

（１）　長女 由紀子が生まれた。

同格名詞句は、それを構成する前項名詞と後項名詞が、どのような名詞句と共起するかによって、その語順が決まっており、（２）のように不自然に感じられる場合がある。

（２）　*由紀子 長女が生まれた。

しかし、同格名詞句と同様に２つの名詞が同格構造にあって、換言を表す接続語が挿入されている表現については、（３）のように前項名詞と後項名詞に語順の制約は見られない。

（３）｛長女つまり由紀子／由紀子つまり長女｝が生まれた。

換言を表す接続語「つまり」に関する先行研究の中に、語句と語句に用いられる場合、前項名詞と後項名詞に意味的階層性が存在するのか、語順の制約を持つのかなどを明らかにしたものは、管見の限り見られない。

そこで本発表では、換言を表す接続語として「つまり」を取り上げて、「つまり」を用いた表現の前項名詞と後項名詞の間にある意味関係と、同格名詞句の前項名詞と後項名詞の間にある意味関係を比較し、その異同を考察を通して、「つまり」の機能について検討する。

２．先行研究と問題の所在

同格名詞句に関する先行研究には、小林（1996）、森山（2016）、眞野（2016）などがある。これらは全て、前項名詞と後項名詞の間にいくつかの意味的な階層関係があり、それに沿って、２つの名詞の語順が制約を受けることを主張している点で共通している。

特に、眞野（2016）は、同格名詞句を、２つの名詞とのアクセントが融合せず、どちらかの名詞句を削除しても格として成立し、各名詞句の指示対象が同一で、片方の名詞句を削除しても文意が通じるものと定め、BCCWJによって抽出した用例を分析した研究である。眞野（2016）は、それぞれの名詞句の種類によって各名詞句間の間にある意味を分類した結果、小林（1996）、森山（2016）が主張していない語順の制約もあることを明らかにしている。

具体的には、眞野（2016）によると、NP2が固有名詞である場合、NP1には「我々日本人」のような代名詞、「父覚恵」のような親族名称、「イギリス首相チャーチル」のような肩書きなどの属性、「隣国美濃」のような非飽和名詞[2]、「花の都パリ」のような別称が置かれる。また、NP1が固有名詞の場合には、NP2に「ユウキロックさんご本人」のような再帰代名詞

[1] inui_noriko@yahoo.co.jp

[2]「非飽和名詞」とは、「ｘの…」というパラメータが設定されることで意味をなす名詞であると西山(2003)において述べられている。

類[3]、「ラ・ファイエット夫人」のような親族名称、「エリザベスイギリス女王」のような肩書きによる属性が置かれる。さらに、眞野（2016）は、この名詞句の種類ごとに、「NP1 つまり NP2」[4]と言い換えられるかを調査し、NP１が特定の指示対象を持っていれば、NP2 が NP1 を措定することになるため、概ね「NP1 つまり NP2」に言い換え可能だと主張している[5]。しかし、「NP2 つまり NP1」に置き換えられるかは調査されておらず、同格名詞句と、同様に同格構造にある「つまり」を用いた表現とを比較できるものではない。

さらに、眞野（2020）では、眞野（2016）で取り上げた名詞句の種類について、親族名称のうち、呼称可能なものは NP2 の位置に、呼称不可能なものは NP1 の位置に生じることを明らかにしている。また、肩書きによる属性についても、呼称として使用できるものは NP1 と NP2 の両方に出現するが、使用できない場合には NP1 に生じると述べている。

換言を表す接続語「つまり」に関する先行研究は、石黒(2001, 2008)がある。しかし、どちらも「つまり」の性質については言及しているものの、「つまり」によって接続される各語句の性質に着目しておらず、また、語句と語句での使用に限定した「つまり」の特徴について言及しているものでもない。

そこで、本発表では、BCCWJ によって抽出した「つまり」を用いた表現「NP1 つまり NP2」のうち、NP1 または NP2 が固有名詞で、各名詞句の指示対象が同一で、片方の名詞句を削除しても文意が通じる表現を対象として、「つまり」の機能を分析する。具体的な調査対象と調査方法は次節に示す。

３．調査対象と調査方法

調査対象は、BCCWJ 中納言の長単位検索を用いて抽出した。検索条件は、キーの品詞が名詞、後方共起条件 1 が「キーから 3 語以内、語彙素詰まり、品詞副詞」後方共起条件 2 が「キーから 6 語以内、品詞大分類名詞」と設定した。

検索条件について、後方共起条件 1 を「キーから 3 語以内」、後方共起条件 2 を「キーから 6 語以内」に設定したのは、（４）のように、NP1 及び NP2 に括弧などの記号が付いて、なおかつ、読点が間に挟まっている例も抽出するためである。

（４）“FROZEN”、つまり、「アナと雪の女王」

そして、NP1 あるいは NP2 のどちらかに固有名詞が含まれる例を、目視で確認して抽出した。固有名詞に限定する理由は、固有名詞は指示対象が明らかで、NP1 と NP2 が同一のものを指示しているかどうかの判断が可能だからである。

上記の条件で抽出した調査対象に対して、「NP1 つまり NP2」の NP1 と NP2 の意味関係が、

---

[3] 日本語における再帰代名詞は、「自身」が典型であるが、眞野（2016）では、「自身」以外にも、「自体」「本土」「現地」「両～」などが挙げられて、再帰代名詞類と名付けられている。

[4] 眞野（2016）は、「NP1 つまり NP 2」のほかに、「NP1NP2」を「NP1 の／である NP2」「NP2 の／である NP1」「NP1 という NP2」「NP2 という NP1」「NP1 すなわち NP2」置き換えられるかについても調査が行われているが、本発表では関連性が低いと判断したため、割愛する。

[5] 但し、眞野（2016）は、「イギリス首相チャーチル」のように NP1 に特定の指示対象がない場合、「つまり／すなわち」を挿入した表現「イギリス首相つまりチャーチル」は許容度が下がるとも示唆している。

眞野(2016)が主張する同格名詞句にある意味関係に一致するのかを調査する。そして、「NP1 つまり NP2」から「つまり」を除いても、眞野（2016）が同格名詞句の語順の制約に準じて同格名詞句として成立するのかを調査する。

４.「NP1 つまり NP2」の実例と同格名詞句との比較

４．１ NP2 が固有名詞の場合の NP1 の名詞句の種類

「つまり」を用いた表現の NP1 に出現する名詞句の種類は、眞野（2016）に照らすと、代名詞、再帰代名詞類、親族名称、肩書きによる属性、非飽和名詞、別称の全てに該当した。眞野（2016）では、NP2 が固有名詞の同格名詞句の場合、再帰代名詞類が NP1 に来ることはないと主張されている。この点を除いて、本研究の結果は、「つまり」を用いた表現の NP1 のそれぞれの名詞句の種類が、眞野（2016）の主張に概ね一致する。（５）は代名詞、（６）は親族名称、（７）は肩書きによる属性、（８）は非飽和名詞、（９）は別称、(10) は再帰代名詞類の例である。

（５）まさに、彼ら、つまりデ・オシンスキーとア・スヴェルドローフは当然、その主要人物となっていると私は推量した。(BCCWJ, LBe2_00048)

（６）それは両国、つまり日本とアメリカの習慣の違いといえば確かにその通りなのだが、日本の歴史学の先生方はこの違いが歴史的にはどういう経緯によるものか、説明できるだろうか？ (BCCWJ, LBm2_00070)

（７）(前略) そいつが五日ほど前から奥さん、つまりお葉さんが姿を消したというのです (BCCWJ, PB49_00761)

（８）それで知合の日本に長くいたオランダ人に頼んで、もっとも多く犯罪人を捕えている名探偵、つまり銭形さんのことを知ったわけです (BCCWJ, LBb9_00004)

（９）わたし…カズのことが好きでした。カズ、つまり新谷和之さん。あの日菅野さんの家から発見された遺体の、ひとり。(BCCWJ, LB19_00135)

(10) 彼は、自分の乗っ取りマシーンを梱包し、故国へ、つまりイギリスへ空輸すると言いだした！ (BCCWJ, LBg3_00107)

次に、「つまり」を除いても同格名詞句に代わり、文としての成立を維持できるのかという点について、「つまり」を用いた表現の NP1 と NP2 の名詞句の種類が、眞野（2016）の主張と一致しているということは、「つまり」を抜いても同格名詞句にもなることを示唆している。実際に、再帰代名詞類を除く（５）、（７）～(10) の例は、「つまり」ではなく「φ」を選択しても、(11) ～ (15) のように文の成立を妨げることはない。

(11) まさに、彼ら、{つまり／φ} デ・オシンスキーとア・スヴェルドローフは当然、その主要人物となっていると私は推量した。

(12) (前略) そいつが五日ほど前から奥さん、{つまり／φ} お葉さんが姿を消したというのです

(13) それで知合の日本に長くいたオランダ人に頼んで、もっとも多く犯罪人を捕えている名探偵、{つまり／φ} 銭形さんのことを知ったわけです

(14) わたし…カズ｛つまり／φ｝新谷和之さんのことが好きでした。((９) を改変)

(15) 彼は、自分の乗っ取りマシーンを梱包し、故国｛つまり／φ｝イギリスへ空輸すると言いだした！ ((10) を改変)

但し、(16) のように「つまり」を取り除いても同格名詞句にはならない例がもあった。

(16) でもその日の夜に僕ら｛つまり／φ｝僕とペギーは、パーティーを開くことになっていた。(BCCWJ, LBs9_00225)

(16) は、NP1 が複数を指す代名詞で、かつ NP2 が固有名詞だけでなく代名詞も用いられており、代名詞の役割が重複することになる。そのため、「つまり」を除いても同格名詞句にはならず、文として不自然になってしまう。これは、自分自身を指す際に、自分の名前を使用することが稀であるためである。よって、NP1、NP2 に出現する代名詞が一人称である場合にのみ見られる極めて特殊な例である。

ここまでの分析では、「NP1 つまり NP2」に同格名詞句との大きな差はない。この点について、先行研究では深く取り上げなかったが、森山 (2016) が同格名詞句は広義の言い換えに相当することを示唆しており、本発表もその立場に同意したい。

しかし、再帰代名詞類については、眞野 (2016) の主張に一致していないことを忘れてはならない。例として (17) を挙げる。

(17) *それは両国φ日本とアメリカの習慣の違いといえば確かにその通りなのだが、日本の歴史学の先生方はこの違いが歴史的にはどういう経緯によるものか、説明できるだろうか？

眞野 (2016) は、再帰代名詞の代表である「自身」と同様に、先行詞を必要とする名詞も含め、再帰代名詞類としている。先行詞を必要とするということは、先行詞と再帰代名詞類が逆転した (17) は、NP1 以前に先行詞が不在である点からも文として成立し難くなる。だが、「つまり」があることで、先行詞の次に再帰代名詞類という語順の制約が解除されながらもその結び付きは持続させることができ、(６) のように表現可能になるのである。

４．２ NP1 が固有名詞の場合

NP1 が固有名詞の場合には、NP2 にくる名詞句の種類は、眞野 (2016) でも主張されていた親族名称、肩書きによる属性のほか、代名詞、別称の 4 種の実例を確認した。例として、親族名称は (18)、肩書きによる属性は (19)、代名詞は (20)、別称は (21) に示す。

(18) 森山と私は離婚をしたものの、私は森山の姓のままでいたから、喪主は森山、つまり元の夫のはずだと誤解しているのだろう。 (BCCWJ, PB16_00165)

(19) これは義昭に突きつけられたものだから、結局は義昭つまり室町将軍は何の訴えも受け付けてはならないということになる。(BCCWJ, PM52_00070)

(20) (前略) 自分の処存が天下の大法にかけて誤っているかどうかと云うことは、代官の東安殿―つまり私だ、私が家へ戻れば自然に解ることだと云った風の曖昧な逃口上で私を煙に巻こうとするのだ。(BCCWJ, LBn9_00188)

(21) 自分の奥さんはほとんど山口県、つまり長州に置いたままで、(BCCWJ, LBn9_00252)

他方、眞野（2016）で同格名詞句として成立し、「NP1 つまり NP2」への置き換えも可能であると主張されていた（22）のような再帰代名詞類は、その使用実態を認められなかった。

（22）*ユウキロックさんつまりご本人

これは、4.2 でも示したように、再帰代名詞類は先行詞を必要とするためである。また、（22）のような実例が見られない点から、先行詞と再帰代名詞類は並置することが重要なのであって、先行詞と再帰代名詞類のつながりを「つまり」が分断すると再帰代名詞類を NP2 で示す必要がなくなるものであると考察する。

さて、（18）～（21）の表現から「つまり」を除いても、同格名詞句として成立するのだろうか。まず、親族名称と肩書きによる属性の例から見ていきたい。これらは、眞野（2016）の主張に一致するため、4.1 で見られた例と同様に、「つまり」を除いても同格名詞句になると思われた。しかし、（23）（24）のように、少し不自然さが生じることがわかった。

（23）森山｛つまり／?φ｝元の夫のはずだと誤解しているのだろう。

（24）義昭｛つまり／?φ｝室町将軍は何の訴えも受け付けてはならない（後略）

（23）ついては、眞野（2020）で述べられているように、親族名称は呼称可能かどうかによって生じる位置が違うという問題がある。眞野（2020）によると、呼称可能な親族名称は非飽和名詞にも属しており、パラメータ X を必要とするものである。なお、呼称可能な親族名称が置かれる例は確認できなかった。

眞野（2016）は、肩書きによる属性については呼称可能であれば、同格名詞句の前項名詞と後項名詞のどちらの位置にも生じる得るとのことであった。（24）が呼称不可能な肩書きであることはもちろんだが、呼称可能な肩書きによる実例は確認されなかったことから、「つまり」を用いて言い換える場合には、呼称不可能な肩書きを用いる可能性が考えられる。「つまり」を用いて、NP2 に親族名称含む非飽和名詞が置かれる場合には、それを飽和する

次に代名詞での例は、眞野（2016）が主張する語順の制約に違反するので、これも同格名詞句には成り得ない。特徴的だと思われたのは、NP2 が代名詞になる例が２つ見つかったが、その両方が、（25）のように NP2 が「私」であるものだった。

（25）*代官の東安殿φ私だ

これは、「つまり」を用いた表現では、眞野（2016）では許容できると見られた NP2 に再帰代名詞類が来る（19）のような例が見られないのと関連している。先行詞とのつながりが「つまり」によって断たれる場合、NP2 に再帰代名詞類が来る必要はなくなり使用できないが、その代わりに、「つまり私」が再帰代名詞を代替する役割を果たしている。

別称についても、代名詞の例と同様に、眞野（2016）が主張する語順には違反するので、「つまり」を除くと、（26）のように同格名詞句としては不自然になる。

（26）自分の奥さんはほとんど山口県、｛つまり／?φ｝長州に置いたままで（後略）

（26）に対して不自然さが生じてしまう原因として、単に別称であるからというのではなく、「長州」という名称が、「長州藩」に由来する日本古代の地名であり、指示対象を示す力が固有名詞に相当するためだと考える。日本国内の地名の場合、語句の末尾に表れる「都／道／府／県」によって、NP1 と NP2 のどちらを別称とみなすか判断されていると考えられる。

（26）同様の例だと考えられるのが（27）である。

（27）織田信長には木下藤吉郎、{つまり／φ} 秀吉がいた。(BCCWJ, OB2X_00312)

（27）で「φ」を選択して同格名詞句とすると、「木下藤吉郎秀吉」となり、豊臣秀吉に対して、複数の名前が与えられていたこと及び、そのうちの２つの名前を受け手が理解していなければ、1 人の人物に対する名称であるとの誤解を生んでしまうかもしれない。「つまり」を用いることで、2 つの名詞句に区別があることが示され、それと同時に、別称を示すことができるようになるのである。

５．おわりに

本発表では、「NP1 つまり NP2」の NP1 と NP2 の意味関係の殆どが、同格名詞句「NP1NP2」の NP1 と NP2 のそれぞれの名詞句の種類に対応することを確認した。そして、NP2 が固有名詞の場合、一部の特例を除いて、「つまり」を除いても概ね同格名詞句に形を変えることができることが明らかとなった。これは、森山（2016）も示唆するように、同格名詞句も言い換えを行っているためである。

その一方で、NP1 が固有名詞である場合には、「つまり」を除いても同格名詞句には成らず、文意を損なうことも明らかとなった。また、NP1 が先行詞を必要とする再帰代名詞的表現で NP2 が固有名詞である場合や、NP1 が固有名詞である場合は、「つまり」を用いることで、言い換えを予告するだけでなく、同格名詞句における語順の制約を解除していることを主張した。

今後は、「つまり」「つまり」の類義語である「すなわち」でも同様に、NP1 と NP2 の意味関係が同格名詞句とは異なるのか、語順の制約を解除するような実例が見られるのかを明らかにしたい。また、「NP1 つまり NP2」の実例のうち、同格名詞句の語順の制約に従っている例に対して、「NP1NP2」を使用することとの違いと理由についても明らかにしたい。

参考文献

石黒圭（2001）「換言を表す接続語について-「すなわち」「つまり」「要するに」を中心に-」『日本語教育』110, pp.32-41, 日本語教育学会

石黒圭（2008）『文章は接続詞で決まる』光文社

小林幸江（1996）「「同格」をめぐって」『留学生日本語教育センター論集』22, pp.1-13, 東京外国語大学

西山佑司（2003）『日本語の名詞句と意味論と語用論』ひつじ書房

眞野美穂（2016）「日本語同格名詞句についての一考察――固有名詞が含まれる場合――」, 福田嘉一郎・建石始（編）『名詞類の文法』, pp.21-40, くろしお出版

眞野美穂（2020）「日本語同格名詞句に見る意味的階層と統語構造についての一考察」『統語構造と語彙の多角的研究―岸本秀樹教授還暦記念論文集―』, pp.70-87, 開拓社

森山卓郎（2016）「名詞並置型同格構造」, 庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己（編）,『日本語文法研究のフロンティア』, pp.65-82, くろしお出版

近代翻訳小説における人称詞の翻訳

仲村　怜（明治大学大学院）

1. はじめに

明治以降、日本語の書き言葉が近代化を進める過程で、西洋語の翻訳が重要な役割を担っていたことは近代語の研究において共通の認識であると言える。森岡（1999）や飛田（2008）が指摘するように、西洋語の言語に見られる項目を直訳的に訳したものが日本語内で用いられるようになる「欧文脈」や「欧文直訳体」が、語レベルから構文レベルまで、幅広く当時の日本語に影響を与えたとされる。主語に人称代名詞が明示される文構成についても、その主要な項目の一つとして挙げられており、この時期の文の構成の変化において影響が大きかったと考えられる。

しかし、欧文脈の重要性が議論される一方で、翻訳文について起点テクストと目標テクストの対照研究を行った例は齋藤（2012）や八木下（2018）等の一部に限られており、西洋語の影響を論じる上で重要なテクスト間の対照は不足している。

上記を踏まえ本稿では、自身で構築した「近代翻訳小説パラレルコーパス」（仲村2020）のデータを用い、起点テクスト中の人称詞がどのような割合で、どのような形で翻訳されたのか、また、その訳出方が明治以降にどのような通時的な変遷を辿るのかといった実態を明らかにすることを目的とする。

2. 調査の概要

2.1 調査資料の選定

本調査では、近代の翻訳文学史について概観した吉武（1959）や川戸（2014）を参考に定めた、次の基準①〜④に沿って調査対象の選定を行った。その結果、表 1 の 16 作品が今回の調査対象作品となった。

①明治 18 年から大正期にかけて訳出された作品であること[1]

②文単位で 90%以上の割合で原文が訳出された逐語訳ベースの作品であること

③起点テクストが英語による作品であること[2]

④同一の訳者または同一のテクストから複数の翻訳がされている作品を優先する

表 1　調査対象作品

[1] 明治 18 年発刊の『繋思談』以前の翻訳小説は、「豪傑訳」と呼ばれるような翻案に近い形が主流であるため、起点テクストと目標テクストの対応関係の特定が非常に困難または不可能である場合が多く、本調査に適さないため。

[2]正確にはユゴー作品はフランス語、ドストエフスキー作品はロシア語が起点言語であるが、訳者である森田思軒と内田魯庵は英語版を底本に重訳を行っているため、実質的に英語版が起点テクストであるものとして扱う。

起点テクスト		目標テクスト		
作品名	著者	発刊年	作品名	訳者
Kenelm Chillingly	Edward George Earle Lytton	明治 18 年	繋思談	藤田茂吉
Lady Isabel	Mrs, Henry Wood	明治 21 年	いさ子	織田純一郎
Choses Vues	Victor Hugo	明治 23 年	探偵ユーベル	森田思軒
Little Lord Fauntleroy	Frances Eliza Hodgson Burnett	明治 23 年	小公子	若松賤子
Claude Guex	Victor Hugo	明治 24 年	クラウド	森田思軒
Crime and Punishment	Fyodor Dostoevsky	明治 25 年	罪と罰	内田魯庵
The Black Cat	Edgar Allan Poe	明治 26 年	黒猫	内田魯庵
The posthumous papers of the Pickwick club	Edgar Allan Poe	明治 29 年	牢帰り	森田思軒
The Vision of the Fountain	Charles John Huffam Dickens	明治 31 年	幻影	徳田秋声
The Vision of the Fountain	Nathaniel Hawthorne	明治 35 年	泉のまぼろし	正宗白鳥
The Vision of the Fountain	Nathaniel Hawthorne	明治 37 年	泉の幻影	松本信夫
The Black Cat	Edgar Allan Poe	明治 40 年	黒猫	畑荷香
The Black Cat	Edgar Allan Poe	明治 40 年	黒猫	本間久四郎
The Vision of the Fountain	Nathaniel Hawthorne	明治 40 年	泉の幻影	本間久四郎
The Black Cat	Edgar Allan Poe	明治 44 年	黒猫	平塚らいてう
Crime and Punishment	Fyodor Dostoevsky	大正 2 年	罪と罰	内田魯庵

2.2　調査範囲と調査項目

本調査では、起点テクストの各作品冒頭から地の文 50 文[3]を調査範囲とし、50 文中に含まれる人称代名詞、または人物名を指す固有名詞（以降、人称詞と総称する）のうち、主格（主語）として用いられるもののみを調査対象とした。また、同一文中で and 等の等位接続で節が並列する場合に用いられた主格名詞は対象とした一方で、that 節のように従属

[3] 会話文における人称詞は、森田思軒らの周密訳（柳田 1961）の特徴を踏まえると重要な要素ではあるが、本稿では紙幅の都合上、対象外とした。

する節内で用いられる主格名詞については、集計の際には対象外として扱った。対象とした例を以下に示す。

（1）I could have slain him as an enchanter who kept the mysterious beauty imprisoned in the fountain.（Hawthorne: *The Vision of the Fountain*）
（2）Perhaps the earl himself was thinking so, as he sat there before an enormous mass of papers which strewed the library table.（Wood: *Lady Isabel*）
（3）Claude Gueux was a poor workman, living in Paris about eight years ago, with his mistress and child.（Hugo: *Claude Guex*）

上記の例に対して、各下線部を 1 例と数え、目標テクスト中で同一の内容（人物）を指す語が用いられている場合に A：訳出（内容一致）、目標テクスト中に対応する人称詞が訳出されていない場合に B：非訳出（省略）、起点テクスト中の人称詞が目標テクスト中で所有格＋無情物などのように異なる形式で訳出されている場合に C：訳出（別形式）として分類を行い、集計を行った。一部目標テクストで用いられた件数と訳出例の合計の数が合わない場合があるが、これは文自体が訳出されていない例を含むためである。

【訳出（内容一致）の例】
（4a）At fifteen I became a resident in a country village more than a hundred miles from home.（Hawthorne: *The Vision of the Fountain*）
（4b）私が十五歳の時に、故郷から百哩以上も離れた、或る僻田舎に假住居の身となつた。（明 40　本間久四郎訳）
（5a）He announced himself everywhere as being on a mission from the refugees of Jersey, and he easily gained assistance everywhere.（Hugo: *Choses Vues*）
（5b）ユーベルは至る所己れはゼルシーなる諸亡士よりの使なりと稱せり去れば至る所容易に人々の扶助を得たり（明 23　森田思軒訳）

【非訳出（省略）の例】
（6a）I grew, day by day, more moody, more irritable, more regardless of the feelings of others.（Poe: *The Black Cat*）
（6b）日に增し意地惡く、激怒し易く、他の人情を顧みる事なく、（明 26　内田魯庵訳）

【訳出（別形式）の例】
（7a）I grew, day by day, more moody, more irritable, more regardless of the feelings of others.（Poe: *The Black Cat*）
（7b）日に日に私の心は怒りつぽく、激し易く、情なくなつた。（明 40　本間久四郎訳）

３．調査結果

3.1　調査結果の概観

上記 2.2 で示した基準に沿って、起点テクスト中の人称詞の使用数と対応する翻訳パターンの割合を示したのが次の図 1 である。

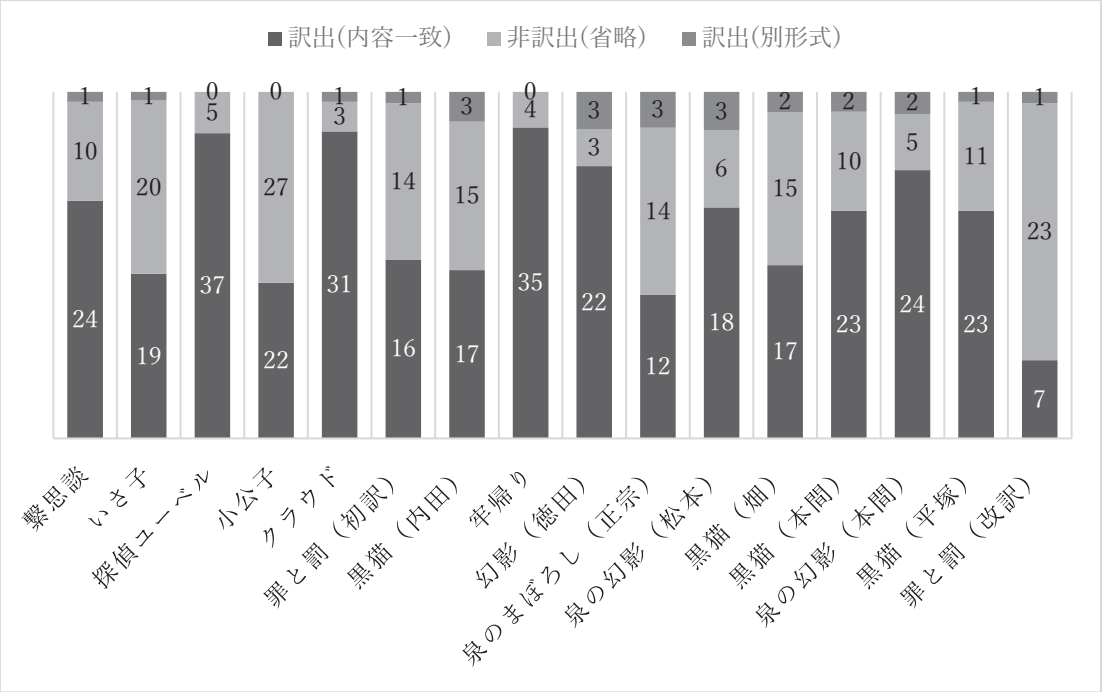


図 1 各作品の人称詞の使用頻度に占める各翻訳パターンの割合

図 1 の集計結果を概観すると、次のような点が指摘できる。

・特定の翻訳パターンが通時的に漸減または漸増し続けるのではなく、訳者や作品によってばらつきが見られる。

・『探偵ユーベル』や『クラウド』、『牢帰り』など、森田思軒による翻訳作品が非常に高い割合で内容一致の訳出を行なっており、周密訳または周密文体と呼ばれる翻訳方法が明確に数値に現れている。

・明治中期の『小公子』や『いさ子』のような口語または談話体の性質が強い作品においては、同時期の文語体による作品（『探偵ユーベル』など）と比較して人称詞の訳出率が低い。しかし、明治 40 年代の口語体の性質が強い作品（『黒猫』等）では、内容一致による訳出の割合の増加も見られる。

・同一の起点テクストを持つ作品（『泉の幻影』等）かつ類似した文体でも内容一致での訳出が増加する傾向が見えるが、魯庵による『罪と罰』の初訳と改訳（ともに口語体）では内容一致が大きく減少するなど、異なる変遷のパターンも見られる。

3.2　内容一致での訳出について

本項では、同一のテキストかつ同一の文体で翻訳パターンが変化した例を取り上げる。

（8b）では（8a）の主語であるIの訳語がどちらも省略されているが、（8c）では対応する語として「余」が訳出されている。二つ目の「余」については、前文を受けて省略しても意味は十分通じると思われるが、このような形で同一内容の主語が連続した場合でも拾って訳出するような例がこの時期にかけて広がっている。森田思軒や徳田秋声のように文語文で極端に高い確率で人称詞を訳出する時期を経て一旦落ち着くが、この時期にまた徐々に増加していくような流れが見られる。

（8a）I watched and waited, but no vision came again. I departed, but with a spell upon me which drew me back that same afternoon to the haunted spring. (Hawthorne: The Vision of the Fountain)

（8b）のがさじと見つめて待てど、かの幻影は再び顯はれず、空しく悄然と宿に歸りしが、魔術師の糸にひかるゝ思ひして其の午後又も怪しの泉に成りぬ、（明35　正宗白鳥訳）

（8c）余は眼を放たずして待ちゐたれども、まぼろしは再びあらはれざりき。かくて余は一度立ち去りしかども何となう心引かるるままに、其午後更に泉を訪づれけり。（明37　松本信夫訳）

3.2　非訳出（省略）について

次に、内田魯庵による改訳例を取り上げ、口語体から口語体への改訳でかつ人称詞の訳出が減少する場合に着目する。（9）では、セミコロン前後で文の接続[4]が行われており、後文が前文の内容を補足する形となっている。前文では形式主語のitが主語の位置を占めているが、dawn uponの実質的な主語は前置詞uponの目的語にあたるhimであるため、（9b）の前文では「彼」を主語に訳出しており、that節の内容については一旦文が区切れた後に後接し、更に所有格のhisも訳出したことで、日本語として若干不自然さの残る訳文となっている。

一方、改訳された（9c）では、（9b）よりも起点テクストの語順レベルでの再現度は下がるものの、文のthat節の内容は「解る」の従属節として訳されている。また、前文に連体修飾の形で「自分の」を訳出することで主語の内容を明らかにし、後文の省略された主語にも照応している。このように、主語としての明示を避けて訳することで、より自然な訳文を構築しようとした結果が、内容一致の訳出の減少に繋がる例も見られた。

（9a）At this moment it dawned upon him that his ideas were becoming confused and that he was very feeble; he had eaten nothing worth mentioning for the last two days.（Dostoevsky: *Crime and Punishment*）

[4] *The Cambridge Grammar of the English Language* では、コロンやセミコロンをsecondary terminal（二次境界）と位置付けており、ピリオドよりも弱い文の境界を示し、前後の文の意味的な繋がりが強い場合などに用いられるとしている。

（9b）豁然としてこの時彼は悟った彼が心は非常にかき乱されてますます薄弱に流れた事を。前二日間彼は殆ど絶食していた。（明 25　内田魯庵訳）

（9c）此の瞬間夜が明けたやうに、自分の考えが度々こんがらがって了ふ事や、身體が衰へ切ってゐる事が解った。實は此の二日間、之ぞといふものを喰はなかったのだ。（大 2　内田魯庵訳）

4. まとめ

本発表では、翻訳作品の対訳データをもとに調査を行い、人称詞の翻訳パターンの変遷について分析した。結果として、①人称詞の訳出は漸増または漸減のような一方向的な変化を辿るわけではないこと、②明治中期には翻訳の際に選択する文体の影響が見られること、③類似した文体内での訳出の増加や、文体の変化（文語→口語）を経た上での訳出の増加など、様々なパターンが見られること、などが明らかとなった。特に①については、全体的に人称詞の微増は見られるが、訳文としての自然さへの注意は明確に払われており、不自然な例は減少していった結果、一方向的な変化とならなかったと考えられる。

今後は、会話文に着目した分析や、非翻訳作品との比較を進め、今回の調査結果の相対的な位置づけを測っていくことが必要と考えられる。

参考文献

Huddleston, R.D. & G.K. Pullum（2002）*The Cambridge Grammar of the English Language.* Cambridge: Cambridge University Press.

近藤明日子（2021）『コーパスと近代日本語書き言葉の一人称代名詞の研究』勉誠出版

齋藤美野（2012）『近代日本の翻訳文化と日本語―翻訳王・森田思軒の功績―』ミネルヴァ書房

仲村　怜（2020）「近代翻訳小説コーパスの設計と構築」『じんもんこん 2020 論文集』情報処理学会

飛田良文（2008）「「英文典直訳」と欧文直訳体」『日本語の研究』4-1, pp.48-68, 日本語学会

森岡健二（1999）『欧文訓読の研究―欧文脈の形成―』明治書院

八木下孝雄（2018）『近代日本語の形成と欧文直訳的表現』勉誠出版

柳田　泉（1961）『明治初期翻訳文学の研究』春秋社

吉武好孝（1959）『明治・大正の翻訳史』研究社出版

関連 URL

国立国会図書館デジタルコレクション

https://dl.ndl.go.jp/

Project Gutenberg: Free e-Books ホームページ

https://www.gutenberg.org/

付記

本発表は科学研究費補助金(特別研究員奨励費 課題番号 20J22595)による成果の一部です。

ミュージカル『オペラ座の怪人』の日本語訳における役割語
―行為要求のモダリティを中心に―

奈良夕里枝（フェリス女学院大学）

１　はじめに

本発表では、日本語教育に資するためにという前提で、ミュージカルにおける「役割語」が、どのような現れ方をしているのかを記述することを目的とする。作品は『オペラ座の怪人』を採りあげ、表現としては、話し手と聞き手の関係や、話し手の感情が現れる傾向があり、役割語との関わりも大きいと考えられる、依頼・命令・禁止表現といった行為要求のモダリティを、主人公級の登場人物である、ファントム、ラウル、クリスティーヌ、マダム・ジリーの男女２名ずつについて見ていくことにする。

そのことで、第１に、キャラクターと聞き手の関係ならびに発話時の感情による日本語の行為要求表現の多様性、漸移層を示し、第２に、日本語に翻訳する際にキャラクターに合わせて、どのように行為要求表現をローカライズしているのかという点を分析し、今後の日本語教育ならびに日本語への翻訳を学ぶ場で活かすことを目的としたい。

日本語教育における役割語分析の意義については、金水（2011）、恩塚（2011）等で論じられてはいるが、その具体的実践については、まだまだ積み重ねが必要であり、本研究が、その一助となることを願っている。

２　行為要求のモダリティ

本発表における行為要求のモダリティの用法については基本的に日本語記述文法研究会編（2003）に従う。

（1）命令「しろ」「しなさい」「する」「した」「のだ」「こと」「ように」
　　依頼「てくれ」「てください」「てくれないか」「てくれるか」「てもらえないか」
　　「てもらえるか」「して」「てほしい」「てもらいたい」
　　許可・勧め・助言「お～ください」「たら？」「といい」「方がいい」「ことだ」
　　禁止「するな」「しないでくれ」「しないでくれないか」「てはいけない」「たらだめだ」
　　不可能「しない」

さらに、本発表では聞き手に行為を促す表現を広く考え、「勧誘のモダリティ」「評価のモダリティ／必要」についても研究対象とする。

（2）勧誘のモダリティ「しよう」「しようか」「しないか」
　　評価のモダリティ／必要「といい」「ばいい」「たらいい」「方がいい」「べきだ」「なくてはいけない」
　　「ものだ」「ことだ」「のだ」「ざるを得ない」「ないわけにはいかない」「しかない」

３　研究対象としてのミュージカルの歌詞

役割語研究の対象として、ミュージカル『オペラ座の怪人』を採りあげる意義としては、次のような点が指摘できる。第 1 に、海外のメガミュージカルが、日本で人気を博す場合、日本人の感性に合わせたローカリゼーションがなされていることが普通であり、そのことと役割語とが密接に関わることが期待される。第 2 に、9 割が歌で構成されており、CD と歌詞カードが公開されており、ほぼ全編を知ることができる。

４　ミュージカル『オペラ座の怪人』の分析

ミュージカル『オペラ座の怪人』はフランスの作家ガストン・ルルーによって 1909 年に発表された小説を、1986 年に作曲家のアンドリュー・ロイド・ウェバーがミュージカル化した作品である。日本での初演は 1988 年であり、翻訳は劇団四季の創設者である浅利慶太と英文学者の安東伸介が行った。

以下、例文の表記は歌詞部分とセリフ部分を区別するため、セリフ部分はイタリック体で示す。ま

た、英語から翻訳する際に日本人のステレオタイプに合わせ、キャラクターをローカライズし、役割語を選択していることを示すため、英語原文も併記した。

４．１　ファントムの行為要求表現

主役の一人である、オペラ座の怪人、ファントムは、感情の起伏が激しいという特徴があり、神的で紳士的な存在でいようとするが、急に怒り、狂気を見せる場面がしばしば描かれる。

４．１．１　ファントムのクリスティーヌに対する行為要求表現（<男ことば>対年少・女性）

愛するクリスティーヌに対しても、ファントムは感情の起伏が激しく、感情により行為要求モダリティも変わる。まずは、「落ち着いている時」を見ていく。

（3）おいで　エンジェル・オブ・ミュージック　　Come to me: Angel of Music

（4）私にゆだねてほしい　私にさわってほしい

Floating, falling, sweet intoxication! Touch me, trust me, savour each sensation!

（5）きらめく夜のひかりを　その手にとらえてごらん

Slowly, gently night unfurls its splendour... Grasp it, sense it - tremulous and tender...

（6）行かなければ　Come we must return

（7）共に歌おうこの歌　　Sing once again with me our strange duet...

（8）耳をすませて　聞いてみたまえ　やさしい音楽を　夜の調べの中で

Turn your face away from the garish light of day,

turn your thoughts away from cold, unfeeling light - and listen to the music of the night ...

（9）目を閉じて　すべての悩み　夢の中に捨てよ

Close your eyes and surrender to your darkest dreams!

Purge your thoughts of the life you knew before!

（3）から（9）までの例文ではすべて英語では命令形になっているが、それに対し、日本語訳の行動要求のモダリティは多様である。（3）では「動詞＋て」、（4）では「てほしい」の依頼表現が使われている。（5）では「てごらん」という勧めの表現が見られる。（6）では評価のモダリティ／必要の義務表現で聞き手への行動要求をしている。（7）は勧誘のモダリティ「しよう」で話し手と一緒に聞き手も行動をすることを要求している。（8）「てみたまえ」（9）「捨てよ」は古語的表現の命令形であり、ファントムの「品」や「格」[i]を表していると考えられる。

また、「落ち着いている時」は英語には命令表現があっても、日本語訳では行為要求表現を使わない例も見られた。

(10) 鏡に向かって ひとみこらせば　私がいるのだ　その中に

Flattering child, you shall know me, see why in shadow I hide!

Look at your face in the mirror - I am there inside!

以上より、ファントムが「落ち着いている時」は英語では命令形で表現されていても、日本語訳では「しろ」のような直接的な命令や禁止表現とはなっていないことが指摘できる。また、「品」「格」を古語で表現し、ファントムを権力のある神的存在にしたてている。

次に、「怒ったり興奮していて、平常心ではない時」を見ていく。

(11) *許さない　選べ！　　You try my patience - make your choice!*

(12) 支度はできた　手を合わせて頼むのだ　助けてください　どうか

Order your fine horses now! Raise up your hand to the level of your eyes!

(11) では「しろ」の強い命令表現を使用し、(12) では「のだ」で命令を表している。

また、怒っている時は英語にはない命令形を日本語訳で使用する (13) (14) のような例も見られた。

(13) 歌え、俺のため！　　you will sing for me!

(14) 恋人をよく見ろ　　Your lover makes a passionate plea!

「平常心ではない時」を表現するために英語では使用されていない命令表現を日本語では使っていることがわかった。

４．１．２　ファントムのラウルに対する行為要求表現（<男ことば>対年少・男性）

ファントムにとってラウルはクリスティーヌを自分から奪っていった憎い恋敵である。そのため「するな」「しろ」の強い行為要求のモダリティが使用されている。

(15) *行くな。　そのつもりなら覚悟しろ！　Don't go! So be it!*

(16) *さあこちらへ、立ち止まるな。　Come on, come on, Monsieur, Don't stop, don't stop!*

(16) の「さあこちらへ、」は「*Monsieur,*」の「品」と皮肉を活かした翻訳だと考えられる。

４．２　ラウルの行為要求表現

ラウルは子爵であり、若く、美男子で、育ちのよさがうかがえる。

４．２．１　ラウルのクリスティーヌに対する行為要求表現（<男ことば>対等年・女性）

ラウルは子爵という高い身分と若さに合った紳士的な行為要求モダリティを使用している。

(17) 夢みてるんだ　信じて　僕の言うことを　This phantom is a fable Believe me

(18) 言ってほしい僕が要ると　Say you need me with you here, beside you...

(19) たのむ　断らないでくれよ　Then help us! Instead of warning us... Help us!

(17) では依頼「動詞＋て」、(18) では依頼「てほしい」、(19) では禁止「ないでくれ」の中でもやわらかい表現を使用している。しかし、緊迫したシーンでは「んだ」を使用する。

(20) *クリスティーヌ、ぼくと一緒に来るんだ。　Christine, come with me...*

また、英語では命令や禁止のモダリティで表現されているが、日本語ではない例がある。

(21) 馬鹿なことを　大丈夫だ　Don't even think it

(22) 悪夢なのだよ　Forget this waking nightmare...

さらに、英語では禁止表現であるが、日本語訳ではポジティブな命令形になっている例もあった。

(23) まかせてくれ　怖れず僕の言う通りに

don't think that I don't care - but every hope and every prayer rests on you now...

また、(24) では英語では評価のモダリティ／必要の義務のモダリティで聞き手への行動要求をしているが、日本語訳は勧誘となっている。

(24) 帰ろうよ　We must return!

ラウルが強くネガティブで強い命令・禁止のモダリティをほとんど使用しないのは、子爵に対する日本人のイメージに合わせたローカリゼーションが役割語を通して行われているためと解釈することもできる。

４．２．２　ラウルのファントムに対する行為要求表現（<男ことば>対年長・男性）

クリスティーヌを巡る恋敵であるファントムに対しては強い命令が使用される。

(25) 悪魔　この人を返せ　さあ返してくれ

Free her! Do what you like only free her! Have you no pity?

以上より、ラウルは日本人の考える 1880 年のパリの子爵のステレオタイプ的なイメージを役割語によって得ている。英語より優しい印象が強いのは、日本にローカライズをした結果だと言える。

４．３　クリスティーヌの行為要求表現

クリスティーヌはファントムをエンジェル・オブ・ミュージックだと信じて憧れ、いつも孤独で夢見がちな不思議な雰囲気をまとっている。美しい声と容姿でファントム、ラウルから愛される。

４．３．１　クリスティーヌのファントムに対する行為要求表現（<女ことば>対年長・男性）

(26) エンジェルの声が聞こえる　つつんで私を　姿を現わして　連れていってね

Angel! I hear you! Speak - I listen... stay by my side, guide me!

Angel, my soul was weak - forgive me... enter at last, Master!

ファントムに対してはすべて依頼の「動詞＋て」が使用されている。

４．３．２　クリスティーヌのラウルに対する行為要求表現（<女ことば>対等年・男性）

ファントムに対する行為要求と同じく、依頼の「動詞＋て」を多く使用している。

(27) 言って二人の愛の誓いは　決して変わらないと

Say you'll share with me one love, one lifetime... say the word and I will follow you ...

ラウルを制止する場面でも英語は多様なのに対し、「やめて」のみを使用している。

(28) *ラウル！馬鹿な真似はやめて。　Raoul, don't…*

(29) ラウル　やめて　*Please, Raoul, it's useless…*

禁止のモダリティではなく「動詞＋て」の依頼のモダリティを使用することで、やわらかいイメージになり、日本人のイメージする孤独でかよわい女性主人公像を役割語で表している。(30) (31) も女性らしさが感じられる表現である。

(30) すぐに馬車を呼んでちょうだい　Order your fine horses! Be with them at the door!

(31) ひとに言っては駄目よ　二人のこと　内緒よ

Think of it! A secret engagement! Look - your future bride! Just think of it!

禁止のモダリティも「しないで」という形を使用している。

(32) 止めないで　もうだめ　殺されるわ　Don't take me back there! He'll kill me!

(33) 聞かないで　いつか　Let's not argue... Please pretend...

次の (34) は英語では話し手の義務と聞き手への命令の表現が見られるが、日本語では勧誘になっている。(35) は「(20) *クリスティーヌ、ぼくと一緒に来るんだ。Christine, come with me...*」に対する答えであるが、「No」という答えは日本人がイメージする可憐な女性主人公のイメージと合わないため、「待って」が使用されていると考えられる。

(34) 大変もう時間だわ　さあ行きましょう

I must go - they'll wonder where I am... wait for me, Raoul!

(35) *待って……上へ行きましょう、屋上へ。　No ... to the roof. We'll be safe there.*

(36) は英語では引き換え条件による脅迫に近い表現になっているが、日本語では「してちょうだい」が使用されている。

(36) *やめてちょうだい　If you don't stop, I'll go mad!*

また、(37) (38) では英語では行為要求の命令、禁止のモダリティが使用されているが、日本語では話し手の事情や心情を述べており、聞き手に対する働きかけはなくなっている。

(37) まだ駄目なの　Wait till the time is right...

(38) いや、戻らない。いやよ……！　Please don't

強い行為要求のモダリティは日本語ではか弱い女性主人公にマッチせず、行為要求のモダリティをなくすことで、ステレオタイプ的なかよわい女性ヒロイン像を作り上げていると考えられる。

４．４　マダム・ジリーの行為要求表現

マダム・ジリーはオペラ座のバレエ団のバレエ教師である。厳しく、支配人やオペラ座のバレリーナたちに対しても厳しい態度を取り、世代が上の女性である。

４．４．１　マダム・ジリーの支配人たちに対する行為要求表現（<女ことば>対等年・男性）

オペラ座の厳しく礼儀正しい「品」と「格」のあるキャラクターらしく、「てくださいませんか」という行為要求表現を使っている。さらに、「しなさい」「お～なさい」の命令のモダリティが使用され、また、緊迫した場面では「動詞＋て」の依頼のモダリティも使用している。

(39) *皆さん、わきにどいてて下さいませんか。*

Gentlemen, please! If you would kindly move to one side?

(40) *この子の歌を聴いてみて下さいませんか。しっかり稽古をつけてもらってるんです。*

Let her sing for you, Monsieur. She has been well taught.

(41) やめなさい　This is madness!

(42) おやめなさい　勝ち目ないんだから

Monsieur, believe me - there is no way of turning the tide!

(43) お願い　やめてよ　Monsieur, I beg you, do not do this ...

４．４．２　マダム・ジリーのクリスティーヌ、ラウルに対する行為要求表現（<女ことば>対年少・男性）

年下に対して行為要求をする時、命令「しなさい」「動詞＋て」を使っている。

(44)（クリスティーヌに）*クリスティーヌ・ダーエ！　もっと集中しなさい。*
You! Christine Daaé! Concentrate, girl!
(45)（ラウルに）*いらっしゃい、私の言う通りにして。急がないと手遅れになってしまいますわ。*
Come with me, Monsieur. Hurry, or we shall be too late...

５　まとめ

以上の分析より、ミュージカル『オペラ座の怪人』の 4 人のキャラクターの行為要求表現の言語的特徴を聞き手との関係ならびに発話時の感情を区分してまとめ、さらにその特徴を整理する。

ファントム　＜男ことば、強い＞（クラス 1[ii]）
○ファントム→クリスティーヌ（対年少・女性）
穏：おいで　てほしい　てごらん　しなければ　てくれ　動詞＋て　しよう
したまえ　文語命令形（捨てよ）
怒：口語禁止形　口語命令形　動詞＋のだ
○ファントム→ラウル（対年少・男性）
穏：口語禁止形　言いさし（こちらへ）
怒：口語禁止形　口語命令形

ラウル子爵　＜男ことば、若い＞（クラス 1）
○ラウル→クリスティーヌ（対等年・女性）
穏：動詞＋て　てほしい　てくれよ
緊：動詞＋のだ　てくれ　しないでくれ
○ラウル→ファントム（対年長・男性）
緊：口語禁止形　口語命令形

クリスティーヌ＜女ことば、若い、弱い＞（クラス 1）
○クリスティーヌ→ファントム（対年長・男性）
穏：して
○クリスティーヌ→ラウル（対等年・男性）
穏：てはだめよ　てちょうだい　動詞＋て　しましょう
緊：動詞＋て　しないで　てちょうだい

マダム・ジリー＜女ことば、強い＞（クラス 2）
○マダム・ジリー→支配人（対等年・男性）
穏：てくださいませんか
緊：お＋動詞＋なさい　しなさい　動詞＋て
○マダム・ジリー→ラウル／クリスティーヌ（対年少・男性／女性）
穏：しなさい
緊：しなさい　動詞＋て
※　□は、役割語的なニュアンスのあるもの

ファントム：心情や場面により行為要求の表現も多様である。
古語を使用することで品や格を表現している。
聞き手の行為を制止する表現は禁止のモダリティ「するな」のみを使用している。
「んだ」の使用例はなく、すべて「のだ」を使用している。[iii]
ラウル：ファントムに対しては強い行為要求の表現を、クリスティーヌに対しては弱い表現を使用している。
聞き手の行為を制止する表現は禁止の他に、「やめろ」という命令形も使用する。
「のだ」の使用もあるが、「んだ」を多用する。

クリスティーヌ：命令のモダリティは使用せず、依頼、勧誘のモダリティを使用している。
聞き手の行為を制止する表現は弱い禁止のモダリティを使用している。
マダム・ジリー：命令の「しなさい」を多用している。
聞き手の行為を制止する表現でも禁止のモダリティを使用せず、
「やめなさい／やめて」の命令／依頼表現を使用する。

参考文献

安藤悠希（2019）『メガミュージカルにおけるローカリゼーション』東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科修士論文

恩塚千代（2011）「韓国の教科書における役割語の役割―「生きた日本語」を教えるバーチャルリアリティ―」、『役割語研究の展開』、くろしお出版

太田眞希恵（2011）「ウサイン・ボルト」の“I”は、なぜ「オレ」と訳されるのか―スポーツ放送の「役割語」―、『役割語研究の展開』、くろしお出版

小野正弘(2019)「夏目漱石『心』の発話における文末構造―物語の展開ならびに内容との関わり―」、『表現研究』第110号、表現学会

金水　敏（2003）『ヴァーチャル日本語　役割語の謎』、岩波書店

金水　敏（2011）「役割語と日本語教育」、『日本語教育』150号、日本語教育学会

金水　敏（2017）「第11章　言語−日本語から見たマンガ・アニメ」、『マンガ・アニメで論文・レポートを書く』、ミネルヴァ書房

金水敏、コンスタンティノーフスカヤ・ナタリア、中屋テレザ、劉翔、文雪、金昴京、平塚 雄亮、チャーイウィロート・チュティパック、ヴォイチェホヴィッチ・トマシュ、リンドソコグ・セバスティアン（2018）『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書（1)』

米井力也（2005）「『風の谷のナウシカ』と役割語―映像翻訳覚書―」、『日本語講座年報』第3号、大阪外国語大学日本語講座

定延利之（2011）『日本語社会　のぞきキャラくり―顔つき・カラダつき・ことばつき―』、三省堂

定延利之（2020）『コミュニケーションと言語におけるキャラ』、三省堂

高田亮（2015）「メジャーリーガーはいつ自分のことを「私」と呼ぶか―翻訳における役割語―」、『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ2015報告書』

鄭惠先（2011）「役割語を主題とした日韓翻訳の実践―課題遂行型の翻訳活動を通しての気づきとスキル向上―」、『役割語研究の展開』、くろしお出版

トーマス・マーチン・ガウバッツ（2007）「小説における米語方言の日本語訳について」、『役割語研究の地平』、くろしお出版

中村桃子（2013）『翻訳が作る日本語――ヒロインは「女ことば」を話し続ける』、白澤社

奈良夕里枝(2022)「ミュージカル『オペラ座の怪人』の日本語訳における役割語とローカリゼーション―ファントムとラウル子爵の自称詞と依頼・命令・禁止表現を中心に―」、『フェリス女学院大学文学部紀要』57号、フェリス女学院大学

日本語記述文法研究会編（2003）『現代日本語文法4第8章モダリティ』、くろしお出版

古川弘子（2013）「女ことばと翻訳―理想の女らしさへの文化翻訳―」『通訳翻訳研究』13号、日本通訳翻訳学会

依田恵美（2007）「〈西洋人語〉「おお、ロミオ！」の文型―その確立と普及―」、『役割語研究の地平』、くろしお出版

[i] （定延2011a）で「品」は上品さで、「格」は「経験や力や地位から総合的に醸し出され」るものであり、≪神≫キャラを格の高いキャラとして挙げている。

[ii] 金水（2017）で「受け手の自己同一化の度合い（内面描写の分量)」「登場頻度」「台詞の言葉遣いとの関連」から、登場人物を3つのクラスに分類しており、クラス1は主人公や準主人公で、受け手の自己同一化の度合いが最も高く、登場頻度も多いとしている。

[iii] 小野（2019）では夏目漱石の『こころ』を分析し、「のだ」「んだ」は、文法論的には等価とみなされるかもしれないが、表現論的にはそうは考えられないと述べている。

「いきなりノダ」について

高甜（東京外国語大学大学院）

1. 研究背景と目的

ノダ文は、その主題（参照点）が何を際立つ対象（saliency）として持つかにより、[コト R」「モノ R」「いきなりノダ」の三つに大別できる(高 2021)。下記例文の(1)はコト R とそれを経て導かれたコト T との関係がプロファイルされ、結果的に説明の意味が生じる。(2)はモノ R を経て導かれたコト T（R を内部要素としつつ）がプロファイルされ、命題的な意味となる。

(1)［重いよ。］$_{コトR}$［ブロンズで作っている］$_{コトT}$のだ。

(2) この時のポイントは筆箱の鉛筆と連絡帳である。筆箱の鉛筆は削らせ、[連絡帳は]$_{モノR}$［元に戻す］$_{コトT}$のだ。

(3) −しかし先生の英雄曲は……
　−黙り給へ。君などに何がわかる？僕はロックを知っているのだ。ロックに平身低頭する犬どもよりもロツクを知つているのだ。　『河童』

(4) おや、変なものがあるよ。くるみの実だよ。そら、たくさんある。流れて来たんじゃない。岩の中に入ってるんだ。　『銀河鉄道の夜』

一方、(3)(4)は コト・モノ参照点を前提として特に要求するわけではなく、いきなりノダが現れるため、「いきなりノダ」と呼ぶ。先行研究においても、「非説明、非関係づけ、発見」のノダの存在が既に指摘されている（吉田 1988, 2000;野田 1997;名嶋 2007;幸松 2016）。しかし、「いきなりノダ」がどのような環境で現れるのか、「説明・関係づけ」のノダとどう関係するのか、理論的な説明が十分であるとは言えない。

本発表は、先行研究での知見を踏まえた上で、理論的な枠組みを用いて「いきなりノダ」の出現環境を整理し、「説明・関係づけ」のノダとの関連性を探ることを試みる。具体的には、「いきなりノダ」の出現環境を把握するために、談話レベルまで広げて例文を観察し、田窪(2010) [1]で提案されている「談話管理理論」の枠組みを導入する。

2. 先行研究との関連

2.1 ノダに関する記述

(5)(6)を典型例として、ノダの本質的な働きは「説明・関係づけ」であるという見方が広く認められている。「先にあった事態を解釈するために、別の事態と関係づけて説明する」という考え方である。しかし、それがノダの全てだと受け入れると、冒頭の(3)(4)のようなノダ文は「周辺的・特殊」な用法と見なされ、例外視されがちになる。

(5) 山田さんが来ないなあ。きっと用事があるんだ。（野田 1997:10）

(6) 僕、明日来ないよ。用事があるんだ。（同上）

実際、野田(1997)は「そうそう、思い出した。ここにポストがあるんだ」のよう文の存在に気づき、それを「非関係づけ」と分類した。吉田(1988)は、話し手自身が知識を獲得

[1] 談話管理理論の枠組みは、田窪(1989a,1989b,1990a,1990b)、金水・田窪（1990）などが元の文献になるが、田窪(2010)はそれらの論考を内容的にあまり変更せずに纏めているので、本稿はそれに参照する。

する表現を「発見・再認識」と呼ぶ。「ある動作を実現させるべき（だと話し手が思う）人物は話し手或いは聞き手である」という文脈の中で、「ノダ」でその動作を指示する表現を「命令・決意」と呼ぶ。「聞き手が確かに知らない（「と話し手が思う」と筆者が加えたい）情報を話し手が提出する」表現を「告白・教示・強調」と呼ぶ。吉田(2000)は、「発見・再認識」「決意・命令」は説明と呼ばれにくいと指摘した上で、「説明」はノダの一部に過ぎないと主張した。これは、説明・関係づけ説では全てのノダを統一的に説明することはできないとの主張（名嶋 2007）を通して、首尾一貫した見方と言える。

幸松(2016)は、発話時における話し手の知覚を述べる際に用いられるノダを、「発見のノダ」と呼ぶ。非ノダ文による発見の文と比べて、前者は知覚事態をそのまま言語化しているのに対して、「発見のノダ」は評価や一般化を経た文であるということが分かった。

2.2 「いきなりノダ」とは

筆者にとってノダ文は、「先にあった事態を解釈するために別の事態と関係づけて説明する」文（コト参照点のノダ文）であり、その意味で「説明・関係付け」をノダの本質とする見方に近い。しかし、実際に使われているノダ文を観察すると、二つの事態の結びつきが明白ではなく、いきなりノダが現れる文がしばしば見られる。

(7) －今日はどうして又……

－今日はこの方のお伴をして来たのです。この方は多分御承知の通り、―就いてはどうかこの方の御案内を願いたいと思うのですが。 『河童』

(8) （窓の向うに四人家族の河童が一緒に晩御飯を食べている）するとトックは溜息をしながら、突然こう僕に話しかけました。「僕は超人的恋愛家だと思っているがね、ああいう家庭の容子を見ると、やはり羨しさを感じるんだよ。」 （同上）

(7)は願い事の申し出で、(8)は内面的感情の表出である。何れも相手には知らないはずの知識を話し手が提示するだけで、「説明・関連付け」とは見なしにくい。このような「ノダ」の出現環境を明らかにするには、該当の発話がどのような状況で発せられたのかという文脈を詳細に分析すると共に、そのような文脈の中でどのように解釈されて各意味機能の認識に至るのかという観点からの考察が必要であると思われる。[2]そこで、ある一定の範囲の情報が分かるため、例をより長目にとり、談話[3]レベルで例文を観察する。では、「いきなりノダ」はどのような環境で現れるのか、「説明・関係づけ」のノダとどう関係するのか、それを理論的に説明することが、次なる課題と言える。

まず、「いきなりノダ」を次のように定義しておく。

【予め際立つ参照点がなく、ノダで提示する内容がいきなり際立つ存在として現れる】

3. 分析案

3.1 談話管理理論（田窪 2010）

談話管理理論は名詞や代名詞や感動詞などの意味解釈のために提案され、メンタルスペース理論に立脚した、話し手と聞き手との相互作用を重視する理論である。田窪(2010)に

[2] 日本語文法学会編（2014:481）で「ノダを含む文の意味合いは、文脈や発話状況から大きな影響を受けて様々な変化を見せる」と、山口（1975:19）で「ノダのノは普通のノの働きを越えて文章論的役割をさえになっていると言えるであろう」と、談話レベルの考察の必要性が示唆されるが、文レベルを超えて談話レベルまでノダを考察し、その意味構造を解明できた研究は、管見の限りではないようである。

[3] 南(2003:121)で、談話を「一つまたはそれ以上の文から成るひとまとまりの言語表現で、ある一定の範囲の情報の伝達の働きをしているものである」とし、本発表はその定義に従う。

よると、まず話し手は相手に特化した情報を長期記憶の中から取り出し、関与知識が成立する。そして発話状況で共有されている事物に加えて長期記憶の中に共有されると想定される知識を「談話の初期値」とし、文はこの初期値を変化させる関数として考えるという。(9)のようなプロセスを成している（P148）。

(9) 長期記憶→関与知識（共有知識＋非共有知識）
関与知識→談話の初期値 D0（共有知識＋現場の事物）
文１ (D0) →談話状態 1 (D1)
文２ (D1) →談話状態 2 (D2)
……

これを基に他言語と比べて日本語の特徴を、本発表と関連する範囲で次の二点示した。

【A. 知識の新旧の区別】談話に新規導入された知識（メタ的用法）と、談話の初期値における知識（指示的な用法）とを義務的に区別する。(10)

【B. 対立型の視点】日本語は対立型の視点を多くとる言語である。独立した聞き手領域を認め、自分に帰属する知識か、相手に帰属する知識かを常に意識した上で、その標識をつけることが義務的に課される。(11)

(10) A:山田さんにちょっと話があったんでね。
B:山田さんって？
A:?彼/*山田さん/山田さんっていうのは道子さん付き合ってる弁護士の人じゃないか。
B: ?彼/その人 /その山田さんって道子に結婚申し込んだ人でしょう。 （P156）

(11) A：ここで右にひねるんだ。
B：右にひねるって、どうやればいいの。 （P254）

3.2 「いきなりノダ」の談話機能と出現環境

上記の談話管理理論を踏まえて、「いきなりノダ」の談話的機能と出現環境について改めて考えてみる。まず、その談話機能の分布を次のように整理できる。

i. 聞き手が知らないと話し手が思う知識を伝える（告知・前置き）
ii. 発話の場で聞き手がまだ認識していないことを認識させる（命令・決意・強調）
iii. 話し手がその場で新しく把握した、或いは一旦忘れて再び認識した（発見・再認識）

(12) －じゃ貴方のように暮しているのは一番幸福な訣ですね。
－貴方は我々河童ではありませんから、お分りにならないのも尤もです。しかし私もどうかすると、あの恐ろしい雌の河童に追いかけられたい気も起るのですよ。 『河童』

(13) 「やあ、暫らく会わなかったね。僕は今日久しぶりにクラバックを尋ねようと思うのだが……」僕はクラバックの如何にも不機嫌だったことを婉曲にトックに話した。（同上）

(12)の働きを「告知」と考えるのはそう特殊ではないと思われる。しかし、どのように解釈されて我々が「告知」という認識に至るのか。【知識の新旧】【対立型の視点】の知見がそれを解く手掛かりとして次のように考えられる。まず、ノダで提示された内容が予め共有された知識ではなく、新規に導入されたことが分かる。そして、一人称でかつ相手に知られるはずのない心の動きを表現するもので、話し手に属する知識であるという文脈が読み取れる。そのような背景的な文脈で、ノダを加えることで「あなたには知らないから注意してほしい」という話し手の気持ちが埋め込まれる。勿論ノダがなくても、文の意味内容や情報伝達に何の問題がないが、談話の効率が下がるであろう。相手の心の準備がないからである。(13)も同じ解釈ができる。ただし、「が」という前置き表現と共起しているから、「注意してほしい」という話し手の気持ちがないじゃないかと疑う人がいるか

もしれない。一見して矛盾の現象だと見えても、実は【新規知識・対立型の視点】の反映であることを側面から裏付ける証拠である。(13)は相手に婉曲的に情報を伝える場面で、いきなりノダが出ると余りにも唐突なので、「ガ」を加えて注意を促す度合いを中和させ、相手の心の準備を相手に任せて、婉曲的に情報を伝えることに成功した。依頼の場面で「ノダ」と「ガ」の共起がよく見られるのは、それが一因であると考えられる。

次に、同じく【新規知識・対立型の視点】という文脈を背景に、「注意してほしい」という話し手の気持ちの表出に止まらず、「相手に認識・実現させる」という相手領域までコントロールしようとする場合もある。結果的に、行為を実現させるなら「命令」(14)(15)b、話し手領域の行動を認識させるなら「決意」(15)a、二度にわたり認識させるなら「強調」(15)c の意味解釈となる。

(14) よくお聞きよ。今夜は久しぶりにアグニの神へ、御伺いを立てるんだからね、そのつもりでいるんだよ。　『アグニの神』

(15) －もうじきサウザンクロスです。おりる支度をして下さい。
－僕もう少し汽車へ乗っていくんだよ。(a)
－ここでおりなけぁいけないのです。(b)
－厭だい。僕もう少し汽車へ乗ってから行くんだい。(c)　『銀河鉄道の夜』

以上を踏まえて、ⅰとⅱの「いきなりノダ」の出現環境を次のように仮説を立てた。

【仮説１】：談話内に新規に導入された情報で、かつ話し手領域に属する知識であるという環境に現れ、聞き手との共有知識を構築しようとするものである。

共有知識を構築しようとしても聞き手が納得できないと、喧嘩になったり会話がうまく続けなかったりすることもあり得る(16)。

(16) （三人の者が大喧嘩になる。そこへ馬に跨った王子が通りかかる。）
王子：おいおい、お前たちは何をしているのだ？（馬から下りる）
第一の盗人：何、こいつが悪いのです。私の剣を盗んだ上、マントルさえ寄こせと云うものですから、――
第三の盗人：いえ、そいつが悪いのです。マントルは私の盗んだのです。
第二の盗人：いえ、こいつらは二人とも大泥坊です。これは皆私の物なのですから、――
第一の盗人：嘘をつけ！
第二の盗人：このおおぼらふきめ！（三人また喧嘩をしようとする）　『三つの宝』

ただし、談話管理理論で説明できるとしても、名詞や代名詞の場合と違い、「いきなりノダ」は義務的ではない。それがあれば、聞き手の知識状態を考慮していることや、出された情報に聞き手に注目してほしいという話し手の期待が示されると考えられる。

4. 発見・再認識の「いきなりノダ」

3.2 で挙げたⅰ～ⅲについて、聞き手が関与していないⅲの場合をまだ検討していない。これは、対話に特化した談話管理理論は独話に適用できないと考えるからである。

4.1 代替案―解釈の領域（岸 2009, 2021）

岸(2009, 2021)は、文が解釈される時に考慮に入れるべき時間・空間的範囲は限定されそれが予め話し手と聞き手との間で共有されていると指摘し、二つの「領域」という概念を提案した。(17)は一つの解釈しかないが、(18)は二つの解釈ができると分析した。

(17) I've had breakfast (this morning)　（岸 2021：118）
t 領域：今日→「今日の朝ご飯を食べた」

(18) Paul　fume.　(英訳：Paul is smoking / Paul smokes.)　（同上）

t 領域：今、ここ→「（今ここで）ポールがタバコを吸っている」→出来事文→知覚

非 t 領域：無、無→「ポールが喫煙者だ」→属性文→知識

t／非 t 領域の対立は「出来事文／属性付与文」「ガ／ハ」、また「知覚可能な事態として表すか、それとも知識として表すか」の対立とも重なると述べた。知覚は知覚主体が認識できる一時空に限られるが、知識はいつでも記憶から取り出して参照でき、時・空間的拘束を受けない。何故ならば、知識は知覚の「その場」である一時空から離れて捉えられている。知覚由来であっても「このような出来事が存在すること」は命題であり、知識として表しうる。生起時点が示されてもそれは情報全体の極一部に過ぎない。

4.2 （非） t 領域に基づく分析

(19)はこれまで認識しなかったことをその場で気づき、「再認識」と呼ぶ。(20)は知覚事態を述べ、「発見」と呼ぶ。会話文といっても、四つ目以降は丁寧体であるのに対して前の三つの文は普通体であることから、最初の「ノダ」は聞き手に対する情報伝達の機能が失われたことを示している。何れも内心発話であり、「共有知識の構築」とは言えない。

(19) ジョバンニは、そうだ、僕たちは今、一緒に誘って出掛けたのだと思いながら、「どこかで待っていようか」と云いました。　『銀河鉄道の夜』

(20) 「ああ、ここはランカシャイヤだ。いや、コンネクテカット州だ。いや、ああ、僕達は空へ来たのだ。私達は天へ行くのです。ご覧なさい。あの印は天上の印です。もう何にも怖いことありません。わたくし達は神様に召されているのです。」青年は喜びに輝いてその女の子に言いました。　（同上）

表現上でいきなり発話されても、その発話に伴う t 領域が潜在的設定され、もし聞き手がいればその内容も了解できる筈である。何故ならば、発話状況の「今・ここ・発話者」という非言語的な文脈が話し手・聞き手の間に暗黙のうちに共有される。(20)は現に目の前のこと（t 領域）を根拠に「僕たちは（今）空へきた」という解釈を支えている。「ノダ」を加えることで、非 t 領域を作り出し、知覚事態を知識へと転換させた。その知識があって初めて、次の「私達は天（上）へ行くノダ」という推論に結びつき、さらに次の認識「私達は神様に召されているノダ」に繋がっていく。つまり、知覚事態は自分の知識の獲得・更新に欠かせない源のような存在であると同時に、時には知識を活用して推論する思考パターンの原動力でもあると言える。それがあってからこそ自分の知識が更新でき、聞き手との共有知識の交換も、知識を応用して説明・推論することもできるようになる。

以上を踏まえて、「発見・再認識」のノダの出現環境を次のように仮説を立てた。

【仮説２】：「今・ここ・発話者」という非言語的文脈に依存する t 領域に現れ、それを「ノダ」で非 t 領域を作りだして一般化し、話し手の知識の獲得・更新となる。

聞き手不要、或いは情報伝達の効果が薄いということは、自分にはまだ定着したばかりの知識からであろう。結果的に会話文より内心発話（普通体しかない）として現れやすい。

5. 「説明・関連付け」との関連

「知識の更新」「共有知識の構築」としての「いきなりノダ」は、所謂「説明・関連付け」のノダと関係するのかを考えてみる。吉田(2000:22)は、「座らせてください。実腰を痛めているんです。」を挙げて、「告知・説明」という二つの意味解釈ができると指摘した。しかし、どのようにして二重解釈ができるのかは氏が述べていない。これに対して、高(2022)ではプロファイル・シフト（図 1）による意味の多義性であると提案した。特に

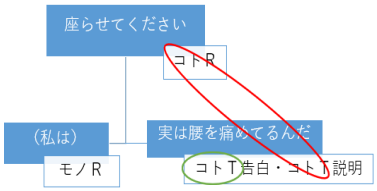


図１　プロファイル・シフト

談話レベルでノダ文を観察すると、よく見えてくる現象である。

似たような現象が「いきなりノダ」でも起きている。(21)はノダ文だけを見ると、いずれも話し手だけ知っている情報を聞き手に告知するとしか考えないが、談話レベルで考えてから初めて、「カムパネルラが川へ入った」ことの説明のために三つのノダ文で情報を聞き手に共有したわけだと分かる。

(21) ージョバンニ、カムパネルラが川へ入ったよ。
　　ーどうして、いつ。
　　ーザネリがね、舟の上から鳥売りのあかりを水の流れる方へ押してやろうとしたんだ。その時舟が揺れたもんだから水へ落ちた。するとカムパネルラがすぐ飛びこんだんだ。そしてザネリを舟の方へ押してよこした。ザネリはカトウに掴まった。けれどもあとカムパネルラが見えないんだ。

つまり、すべての「いきなりノダ」が説明のために情報を共有したわけではないが、聞き手が背景の事情を知りたければ、「共有知識の構築」は「説明」の前提となり、話し手が未知のことを知ろうとすれば「知識の更新」は「推論」の必須条件となる。

6.　まとめと課題

本発表は「いきなりノダ」にいて、特にどんな環境で現れるのか、いわゆる「説明・関係づけ」のノダとどのような関係にあるのかに注目し、理論的な説明を試みた。

目下の分析結果である。①「いきなりノダ」は「談話内に新規に導入され、且つ話し手に属する知識である」という環境に現れ、共有知識の構築を表す。②「非言語的発話場面に依存するｔ領域」という環境に、「発見・再認識のノダ」は話し手の知識の更新として現れる。この二点は（共有）知識の有無で「説明・関係づけ」のノダに繋がっている。

しかし、理論的な説明と言いながら、実際は理論的な説明に向けた分析の方向性を提案したに過ぎない。より詳細に分析していくことが次の課題として残っている。

【参考文献】岸彩子(2009)知覚と解釈の領域．関西フランス語フランス文学 15(0)，pp84-95./岸彩子(2021)談話レベルと名詞句ー「は」と「が」と「の」ー．埼玉女子短期大学研究紀要第 44 号,pp:109-136./大堀壽夫(2004)認知コミュニケーション論.大修館書店./高甜(2021)「ノダ」文の意味再考ー参照点構造の観点からー（口頭発表）.日本語学会秋季大会./高甜(2022)談話における文末形式「ノダ」ー参照点構造の観点からー（口頭発表）.東アジア言語文化学会第 2 回./吉田茂晃(1988)ノダ形式の構造と表現効果.国文論叢(15),pp:46-55./ 吉田茂晃(2000)〈ノダ〉の表現内容と語性について--〈ノダ〉は「説明の助動詞」か.山辺道(44),pp:17-31./金水敏(2021)日本語「ノダ」文の情報構造． 関西言語学会第 46 回大会招待講演./南不二男(2003)文章・談話の全体的構造.著:佐久間まゆみ,文章・談話 (第 6 章).朝倉書店./ 名嶋義直(2007)ノダの文法的意味の記述に向けた試み(その 1)果たしてノダは「説明のモダリティ」か.文化 71(1・2),pp:132-112,東北大学文学会./日本語文法学会編(2014)日本語文法事典.大修館書店./山口佳也(1975)「のだ」の文について.国文学研究(56),pp:12-24./田窪行則 (2010)日本語の構造ー推論と知識管理.くろしお出版./田野村忠温(1990)現代日本語の文法 I―「のだ」の意味と用法―.和泉書院./幸松英恵 (2016)発見のノダについて.学習院大学国際研究教育機構研究年報 (2) ,pp:89-111./野田春美(1997)「の（だ）」の機能.くろしお出版.

日本語の二字漢語の分析性
―中国語との対照―

吉　甜（キチ　テン）（筑波大学大学院）

1. 日本語の二字漢語が分析的なのか

本研究は、中国語の二字漢語との対照を通して、日本語の二字漢語の性格を捉えようとするものである。

これまで日本語の語彙研究において漢語の性格について多く論じされてきた。宮島（1977）は、日本語において和語、外来語は「もも」、「ネクタイ」のように全体として一つの意味単位になるのに対し、漢語は分析的であると主張している。また、西尾（1986）は、日本語の二字漢語には「脳死」のように漢語を独立する一字漢語に分けられる複合語の他、「経済」のように分析できない単純語も存在すると述べている。さらに、大河内(1992)は日中同形語を分析し、中国語において漢字一字一字は意味単位であるのに対し、日本語において漢語は二字、三字をあわせて一意味単位として認識されると指摘している。以上の先行研究から、日本語の漢語の性格に関しては、「分析的」から「分析できないものもある」、さらに「一意味単位」という認識の変化が捉えられる。

しかし、日本語の二字漢語には、確かに分析できるものと分析できないものが存在する。ここから、日本語における二字漢語の分析性をどのように捉えるかという疑問が生じてくる。本研究は、中国語と対照しながら、日本語の二字漢語の分析性を明らかにしたい。具体的には、二字の同形語、それも中国語で語構成が動補関係であるもの（以下：動補同形語）を研究対象として、二字漢語の意味がその漢語を構成する語基の意味であるかどうかという観点から、日本語と中国語における使用される意味の相違を分析し、二字漢語の分析性を検討していく。

2. 分析性

2.1 分析性とは

分析できるかどうかが合成語（複合語と派生語）の判断基準となる。意味のある要素に分けられるかどうかによって、単純語又は合成語に分類できる。単純語とは、たとえば、「山」、「川」、「日」、mountain、river、day 等のように、それ以上意味のある要素に分析できないものを指し、合成語は、「山道」、「日傘」、mountaintop、river-bed、sundial など 2 つ以上の要素の組み合わせから成る単語である（長嶋 1980:238-239)。このように、単純語は、意味のある要素に分けることができないため、分析性がないのに対し、合成語は、意味をもつ要素に分けられるため、分析性を有するものと言える。

ただ、単純語には形式上分析できるものもある。この場合、形式上分析できても、その要素は意味を有していなければならない、または、その要素の意味は分析前の単語との意味的つながりを有していなければならない（山本 1995)。

以上の定義に従い、二字漢語の場合、当該漢語が有意味の 2 つの漢字語基に分けるかということが、二字漢語が複合語なのか単純語なのかの判断基準となる。例えば、「拡大」は、意味のある「拡」と「大」に分けることができるため、複合語である。「経済」は、形式上「経」と「済」に分けることができるが、意味上「経」と「済」の意味には関係ないため、単純語である。つまり、「拡大」は分析性を有し、「経済」は分析性を有していないといえる。

ただし、二字漢語の分析性は容易に判断できない。その理由は、常に分析性が有るか無

いかの二極に分類可能なわけではなく、中間的な性質の漢語が存在するためである。西尾（1980:676-677）も、「日本語の現代語において、「脳死」のように「脳」と「死」に分析できる漢語があるが、「自由」、「影響」のように分析できない意味単位の漢語もある。この間に、漢字語基[1]がいろいろな程度に有意味である多数の二字漢語がある」と指摘している。

二字漢語の語構成の明確性も分析性に関わる。言語使用者にとって、「拡大」のように語構成がわかりやすい場合、2 つの漢字語基に分けることができ、分析的なものである。それに対し、語構成がわかりにくく、自らの理解に基づいてその語を解釈したり、あるいは「経済」のように 2 文字で 1 つの意味を表す場合、その語は単純語の性質を持ち、分析的なものではない。同じように語構成の明確性にも定まった境界はない。

二字漢語と漢字語基の意味の対応や語構成の明確性には幅があり、分析性にも強弱があると考えられる。本研究では、プロトタイプ（prototype）を利用し、二字漢語の分析性を次のように定義する。分析性とは、1 つの二字漢語を 2 つの漢字語基に分ける性質である。「拡大」のように、二字漢語の意味と漢字語基の意味が対応し、また語構成が明確であるものは、複合語の中でも極めて分析性が強いといえる。「経済」のような単純語は、形式上 2 つの漢字語基に分けられるが、全体で 1 意味単位となっており、二字漢語の意味と漢字語基の意味が無関係で、語構成も曖昧であるため、分析性は最も弱い。分析性が最も強い複合語から単純語まで、単純語に近ければ、その二字漢語の分析性は弱くなる。分析性が最も強い複合語に近ければ、その二字漢語の分析性は強くなる。

2.2 分析性と緊密度

分析性の強弱が複合語を構成する語基の緊密度と関わる。それを説明するため、単語化（Lexicalization）のプロセスについて述べる。董秀芳（2011）は、通時的な観点から中国語において二字漢語（複合語）の形成プロセスを中心に分析し、単語化のメカニズムを明らかにした。董秀芳（2011:48-97、318-320）は、2 つの漢字語基から 1 つの二字漢語になる過程に関して、次の①～⑥の段階があると指摘している。①2 つの漢字語基が結合したが、まだ語という単位ではなく、統語構造である。②2 つの漢字語基の距離が縮み、統語構造の性質がなくなり、複合語になる。③このとき、単語化は、止まらずさらに進むことができ、構成要素間の距離がさらに縮まることもある。その結果、言語使用者にとって、複合語の語構成が曖昧になり、言語使用者は自分の理解に基づきその語の語構成を解釈する。④構成要素間の距離が縮んでおり、複合語の意味の透明性（transparency）が失ってしまう。この場合、単語化の程度が高くなる。⑤さらに、語の転換現象（conversion）が生じており、単語化の程度がより高くなり、複合語を構成する要素と複合語全体の関連性が弱くなる。このとき、複合語全体は、一つの独立の項目として記憶する必要がある。⑥複合語の構成要素は距離がさらに縮み、単純語になる。そして、この単純語の性質を持った語を他の語と改めて組み合わせることにより、統語的構造を形成する。ここで新たな単語化が始まり、新しい複合語を生じさせることができる。董（2011）の論をまとめてみると、「2 つの語基から統語構造への形成→複合語への形成→語構成が明確ではなくなる（以下：異分析[2]（metanalysis））→語の意味の不透明→転換→単純語」という 6 段階で単語化が進み、構成要素間の緊密度が高くなることになる。

---

[1] 西尾（1980）では、「要素」という語を使用している。本稿は、用語の統一のため、「漢字語基」を使用することとする。

[2] 上野（2016:44-45）を参照する。

緊密度が高くなければ、複合語を 2 つの語基に分析する性質が弱くなる。複合語が形成された最初の段階から単純語になるまで、2 つの語基の距離が縮んでおり、つまり、語基間の緊密度が高くなる。同時に、2 つに分析可能だったものが分析できなくなっていく。単語化のプロセスの観点からから見て、「2 つの語基から統語構造への形成→複合語への形成→異分析→語の意味の不透明→転換→単純語」の左から右に進むにつれて、複合語を構成する要素の緊密度が高くなり、分析性が弱くなる。また、単純語になる場合、語を他の要素に分けることができない。構成要素の緊密度が最も高く、分析性がなくなる。

3. 動補同形語

3.1 動補同形語とは

本稿で扱っている動補同形語は、日中両言語においては他動詞として使われる同形同義語、かつ、中国語において動補関係を有するものである。動補関係とは、「拡大」、「更新」のようにその漢語を構成する漢字がそれぞれ動作とその結果、あるいは、結果目当ての動作としてとらえられているものである（荒川 1988:63)。

動補関係を対象とする理由は 2 つある。一つ目は、日中両言語において動補同形語の分析性に相違が見られることである。二つ目は、動補関係を有する二字漢語の量が少なく、語ごとに質的な分析を行うことが可能である。

3.2 動補同形語の範囲と分類

動補同形語を判断する際には、①同形同義語であるか、②動補関係であるか、③他動詞として使用できるかというプロセスに従い判断を行う。①について文化庁(1978)、張(1987)、松下他(2017)との 3 つのデータベースを使い、三者全てが同形同義語と判断したものを同形同義語と判断する。②について朱徳熙（1982)、《现代汉语词典第 7 版》、任学良（1980:157-165）を参考にした[3]。③について、他動詞の文型を取れるかということにより判断する。

以上のプロセスを通して、動補同形語は(2) [4]である。

(1) 本稿で扱っている動補同形語

【延長】、【拡大】、【縮小】[5]、【支出】、【推進】、【証明】、【表明】、【廃止】、【訂正】、【改正】、【破壊】、【更新】

二字漢語の意味がその漢語を構成する語基の意味であるかにより、動補同形語を以下の 3 種類に分けることができる。次節から、各分類を分けて論を進めていく。

ア：中国語と日本語の意味は「前語基＋後語基」であるが、日本語において語基は他の語基と置き換えられないものである（吉 2022)。

イ：中国語の意味は「前語基＋後語基」であるのに対し、日本語の意味は「前語基＋後語基」の以外に、他の意味的特徴が付加されているものである。

ウ：中国語と日本語の意味は「前語基＋後語基」であり、同じ意味制約が見られるが、

---

[3] 任学良（1980）では、動補関係の語を“述补式”ではなく、“补充式”と呼んでいる。

[4] 以下、日中同形同義語は【　】、日本語は「　」、中国語は“　”に入れて表記する。

[5] 語構成の品詞分類に従い、「動詞＋形容詞」という語構成を有するものは【拡大】、【延長】という 2 つのみであり、研究対象を増やす必要があると考えられる。【縮小】は、【拡大】、【延長】と同じ語構成があり、張淑栄（1987）と松下他（2017）より、同形同義語と判断されている。文化庁（1978）は、初級・中級の日本語教科書から同形語を選定し（文化庁 1978:7)、範囲が狭く、【縮小】が含まれていないことが予想できるため、本研究では、【縮小】を研究対象として加えることとする。

日本語の方は、他の漢語と組み合わさり、さらに新しい複合語が生じるものである。

4. アに対する分析

アは、【延長】、【拡大】、【縮小】[6]である。

大規模コーパスによる調査から、【延長】、【拡大】、【縮小】は、日中両言語において漢字語基の置き換え性が異なることがわかる。置き換え性とは、その漢語を構成する漢字語基を他の漢字語基に置き換える可能性を指している。

現代日本語書き言葉均衡コーパス(以下：BCCWJ)と北京語言大学のコーパス（BLCU Corpus Center、以下：BCC）において、漢字語基「延」、「拡」、「縮」、「長」、「大」、「小」を含めた動補関係の二字漢語動詞と BCC における漢字語基“延”、“扩”、“缩”、“长”、“大”、“小”を含めた動補関係の二字漢語動詞を検索した。その結果、日本語においては「延」「拡」「縮」「長」「大」「小」を含む二字漢語動詞の 74 語には、「延長」、「拡大」、「縮小」以外に、動補関係の語は「短縮する」という 1 語しかないのに対し、中国語においては、中国語の“延长”、“扩大”、“缩小”の“长”、“大”、“小”を他の結果を表す語基に入れ替え、(2)のような動補関係の語になる。また、“延长”、“扩大” 、“缩小”の“延”、“扩”、“缩”を他の動作動詞と入れ替えることで、(3a)のような動補関係の語と(3b)の動補関係を有する文法構造になる。

(2) 延深、扩宽、扩阔、扩深、扩绿、扩长、扩强、扩广、 缩低、缩窄、缩少、缩近、缩细、缩短、缩瘪、缩扁、缩矮

(3) a. 加长、接长、筑长

b. 拉长、拽长、拖长、留长、做长、写长、养长、放大、做大、睁大、瞪大、长大、搞大、带大、养大、闹大、调小、弄小、切小、捏小

5. イに対する分析

イには【改正】、【更新】、【支出】、【推進】、【表明】、【破壊】がある[7]。

【改正】、【更新】、【支出】、【推進】は、日本語において、二字漢語の意味がその漢語を構成する語基の意味だけではなく、「公的なルールを直す」、「法律関係を継続する」、「一定の目的でお金を支払う」、「おして進める（進んだという結果の意味が含まらない)」などのように、いずれも他の意味的な要素が付加されている。それに対し、中国語においては、「改めて正しくする」、「改めて新しくする」、「お金を外に出す」、「目標に向けて進め、その結果進んだ」のように二字漢語の意味がその漢語を構成する語基の意味である。

【表明】は、日本語において主語名詞が「彼」のような人名詞であることが求められ、さらに改まった場面のみ使用するが、中国語においては人名詞以外の名詞も主語位置に据えることができ、日常生活の場面においても使用できる。【破壊】は、日本語においては重大な場面のみ描写できるが、中国語においては使用場面の制約がない。このように、【表明】、【破壊】は、日本語においては文体的な意味が求められている。

つまり、これらの二字漢語は、日本語において意味のひとまとまりが中国語より強い。

6. ウに対する分析

ウは、【訂正】、【証明】、【廃止】、【改良】である。これらの語は、日中両言語において他の語・形態素と結合し合成語を組み合わせる能力（以下：結合力）が異なる。本稿で言

---

[6] 【延長】、【拡大】、【縮小】に対する分析は、吉甜（2022）に詳細に記述されている。

[7] 紙幅の都合で、例文を省略することとする。

う結合力[8]とは、1 語の結合力の強弱を「ある言語において、その語が他の語・形態素と結合して形成する合成語の多少」と定義している。合成語の数が多ければ、その語が当該言語において結合力が強い。合成語の数が少なければ、その語が当該言語において結合力が弱い。大規模コーパスである NINJAL-LWP for BCCWJ（以下：NLB）と BCC において【訂正】、【証明】、【廃止】、【改良】の結合力を調べた結果、以下のようである。

表 1 日中両言語における【訂正】、【証明】、【廃止】、【改良】を含めた合成語

	日本語	中国語
【訂正】	10	2
【証明】	59	45
【廃止】	10	0
【改良】	37	13

表 1 からわかるように、日本語における「訂正」、「証明」、「廃止」、「改良」を含めた合成語の数が、中国語における“订正”、“证明”、“废止”、“改良” を含めた合成語より多い。すなわち、日本語における「訂正」、「証明」、「廃止」、「改良」の結合力が中国語における“订正”、“证明”、“废止”、“改良”の結合力より強いのである。

7. 日本語が中国語より分析性が弱いこと

2 節で述べるように、分析性が強ければ、漢字語基の緊密度が低い。分析性が弱ければ、漢字語基の緊密度が高い。

4 節の分析では、日中両言語における【延長】、【拡大】、【縮小】の漢字語基の置き換え性が異なることがわかる。日本語において、「延長する」、「拡大する」、「縮小する」の動作を表す漢字語基「延」、「拡」、「縮」が他の結果を表す漢字語基と組み合わさったり、または結果を表す漢字語基「長」、「大」、「小」に他の動作を表す漢字語基を加えることにより、新しい二字漢語が生じないが、中国語においては“延长”、“扩大”、“缩小”はそのようにできる。つまり、「延長する」、「拡大する」、「縮小する」の漢字語基が他の漢字語基と組み合わせることができず、漢字語基間の緊密度が高い。それに対し、“延长”、“扩大”、“缩小”の漢字語基が他の漢字語基と組み合わせ、新しい語または文法構造を形成することができるため、漢字語基間の緊密度が低い。この点から見れば、「延長する」、「拡大する」、「縮小する」の分析性が“延长”、“扩大”、“缩小”より弱いといえる。

5 節の分析により、【改正】、【更新】、【支出】、【推進】、【表明】、【破壊】は、日本語においては漢字語基の意味以外には、他の意味的な制約があり、意味のひとまとまり性が中国語より強いことがわかった。つまり、日本語においては、二字漢語とその漢字語基の意味が対応しなく、語の意味が不透明である。それに対し、“改正”、“更新”、“支出”、“推进”、“表明”、“破坏”の意味は、漢字語基の意味の和であり、他の意味的な制約がない。中国語においては、二字漢語とその漢字語基の意味が対応しており、語の意味が透明である。この点から見れば、中国語の“改正”、“更新”、“支出”、“推进”、“表明”、“破坏”の分析性がより強く、漢字語基の緊密度も低い一方、「改正する」、「更新する」、「支出する」、「推進する」、「表明する」、「破壊する」の分析性が弱く、漢字語基の緊密度が高いことが伺う。

[8] 斎賀（1957:221）では、語の結合力について、「現在の日本語では、複合・派生等の語結合が実際にどのくらいの勢力で用いられるのか。またどのような種類の語が他の語と結合しやすく、どのような語が結合していくのか」と説明している。本章は、斎賀（1957）の定義を受けて定義している。

6節では、日中両言語において【訂正】、【証明】、【廃止】、【改良】の結合力の相違を分析した。【訂正】、【証明】、【廃止】、【改良】は他の語・形態素と結合し、新しい合成語が生じる。ただし、「訂正」、「証明」、「廃止」、「改良」の結語力が“订正”、“证明”、“废止”、“改良”より強く、新しい合成語の構造に入りやすい。つまり、「訂正」、「証明」、「廃止」、「改良」が新しい単語化のプロセスに入りやすいのである。この点から見れば、「訂正」、「証明」、「廃止」、「改良」の分析性が、“订正”、“证明”、“废止”、“改良”より弱く、漢字語基間の緊密度が高いと言える。

8. おわりに

本発表では、二字漢語の意味がその漢語を構成する語基の意味であるかにより、動補同形語の相違を分析・考察した。また、分析性の観点から考察し、動補同形語は、日本語においては分析性が中国語より弱く、漢字語基の緊密度が高いことが明らかになった。和語、外来語など他の語種と比較すると、漢語の分析性が高いが、中国語の二字漢語と比較すると、日本語の漢語の分析性が弱いことを主張したい。

参考文献

【日本語文献】

荒川清秀（1988）「複合漢語の日中比較」『日本語学』7-5 56-67. 明治書院.

上野義雄（2016）『現代日本語の文法構造　形態論編』早稲田大学出版部.

大河内康憲（1992）「日本語と中国語の同形語」大河内康憲(編)『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』179-215.くろしお出版.

吉甜（印刷中）「動補関係の日中同形語の相違」『日中言語対照研究論集』24.

斎賀秀夫(1957)「語構成の特質」『ことばの体系 講座現代日本語の語彙Ⅱ』pp217-248.筑摩書房.

張淑栄（1987）『中日漢語対比辞典』ゆまに書房.

長嶋善郎（1980）「語構成の比較」『日英語比較講座第1巻　音声と形態』235-285 大修館書店.

西尾寅弥（1986）「語の有縁性について」松村明教授古稀記念会（編）『松村明教授古稀記念国語研究論集』669-684.明治書院.

文化庁（1978）『中国語に対応する漢語』大蔵省印刷局.

松下達彦・陳夢夏・王雪竹・陳林柯「日中対照漢字語データベースの開発と応用」2017年度日本語教育学会秋季大会　予稿集.

宮島達夫（1977）「語彙の体系」『岩波日本語9 語彙と意味』岩波書店.

山本清隆（1995）「単純語・複合語・派生語」『日本語学』5-14 38-45. 明治書院.

【中国語文献】

董秀芳（2011）《词汇化 汉语双音词的衍生和发展 修订本》商务印书馆.

任学良（1980）《汉语造词法》中国社会科学出版社.

朱德熙（1982）《语法讲义》商务印书馆.

調査資料

『BLCU Corpus Center』北京语言大学 （検索日: 2021.12.31-2022.3）.

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』国立国語研究所（中納言 2.4.5, データバージョン 2021.3）（検索日:2021.12.31-2022.1）.

『NINJAL-LWP for BCCWJ』国立国語研究所, Lago言語研究所（検索日:2021.12.31-2022.3）.

日本における“端”の用法

―山田孝雄の未完稿「「朝端」といふ語について」を契機とした漢語研究―

久保 柾子（京都府立大学大学院 M2）

1. はじめに

本発表は、「発端」「先端」「端的」「端緒」などに用いられる「端」字がどのように日本において用いられ、またその用法が変遷してきたかを概観するものである。第 2 節では本研究の契機となった山田孝雄の未完成原稿の紹介、第 3 節では山田の補遺、第 4 節では「端」字を含む熟語の日本における用法調査を行うことにより、山田が「朝端」という語に注目した理由に迫る。

2. 山田孝雄による指摘

「「朝端」といふ語について」（富山市立図書館山田孝雄文庫所蔵[1]）と題した自筆原稿において、『神皇正統記』（後醍醐天皇の条）の古写本では「朝端」と書かれている語が、明治以降に出版された版本では「朝家」「朝廷」と記されていることへの疑問を呈し[2]、漢籍をあたって「朝端」の用例を調査している。その結果、『宋書王弘伝』『文選』『白氏文集』に「朝端」の用例がみられること、『唐書百官志』では侍御史を「副端」「台端」としているように、「朝端」のように官職に「端」の字を用いる語法が六朝頃に流行したとみられることを明らかにし、中国の南北朝の頃には宰相のことを「端揆」と呼んでいたことを指摘しているが、そこで不自然に内容が途切れている。そこでまず、次節において「朝端」の用例を改めて整理することとする。

3. 日本における「朝端」の用例の再調査

山田は原稿の中で、『神皇正統記』以外の本邦の文献には触れていない。そこで本節では、日本の古代から近代までの書記資料を対象として「朝端」の用例を調査した。用例が現れた文献は以下の通り、840 年（『日本後紀』）から 1502 年（『文亀二年春日社法楽詩歌』）までの、歴史書、漢詩、古記録、古文書等の漢文資料が中心であった。用例は、ほぼ各文献に 1 例ずつである。
日本後紀　小右記　本朝麗藻　朝野群載　勧修寺家文書　祖師法印中陰願文集　三代制符　建久・寛喜・文永　近衛家文書　吾妻鑑　古今著聞集　弘安改元定記　兼仲卿記弘安十年二月巻裏文書（2 例）　文保三年記　後愚昧記　太平記　雪村大和尚行道記　村菴小稿　東大寺縁起　明文抄　類従類従三代格　文亀二年春日社法楽詩歌　醍醐寺文書（年月日未詳）

用例の一部を次に示す。

---

[1] 未出版、未完成の原稿。紹介と翻字を久保（2021）で行った。

[2] 「神皇正統記後醍醐天皇の条中、建武一統の後参議右近中将源顕家卿を陸奥守に任じて遣さるゝ事に関しての語の中に　　代々和漢の稽古を業として、朝端に仕へ、政務にまじはる道をのみこそ学び侍れ、吏途の方にもならはず、武勇の芸にもたづさはらぬ事なれば、たびくいなみ申しゝかど云々　　といふあり。この語の中の「朝端」の文字をば、慶安の版本には「朝家」とし、群書類従本には「朝廷」とし、明治以後に出版せる本はいづれも「朝家」「朝廷」のいづれかの文字によりて「朝端」とせる本一も存せず。然れども、以上あげたる外、すべての古写本みな「朝端」の文字を、用ゐたり。」（第 1 紙冒頭）

①『日本後紀』(840) 巻第二十二 弘仁三年九月丙子（二十一日）

丙子。右大臣従二位兼・左近衛大將藤原朝臣内麻呂縁病上表辞職曰。臣聞。無徳而進。聖人誡其履危。不才而尊。有識陋其非據。臣之虚薄。久冒殊私。懼切阽原。 荷重岱岳。臣頼先緒、悉歯朝端、寵籍時来。恩叨封邑。誠當上調和四時。下遂理萬物。竭節投命。報効絲豪。

丙子（二十一日）右大臣従二位兼左近衛大将藤原朝臣内麻呂が病となり、次のような辞表を提出した。（略）先祖のおかげで忝(かたじけな)くも朝臣の第一位となり、良い時期に巡り合わせて恩寵を受け、食封を頂戴しています。(略)（『日本後紀：全現代語訳 中』森田悌訳、講談社学術文庫）

②『小右記』長和二年九月二十日

廿日、己酉、今日左府季読経始云々、依物忌不詣、一日貢馬黒糟毛、牽遣見之、依行禊日可騎也、殊可労飼之由、仰年預允貞国、入夜資平来云、左府御読経発願卿相数少（大納言道綱・公任・頼道、中納言懐々、参議道方）又云、来月十六日中宮皇子百日、雲上人可調献籠者、資平所保三枝、(一枝付二籠）一枝銀籠、今二枝籠者、然而乍三枝可作銀籠云々、相府志猶在皆銀、居籠之折敷、或銀、或貴木云々、難堪之世也、立朝端之者難持一銖之銀

(略)「来月十六日の中宮の皇女の御百日の儀に、殿上人は籠物を調献しなければなりません。私に課されたのは『三枝で〈一枝に二籠を付けます。〉一枝は銀籠、もう二枝は竹籠です。』ということでした。ところが、『三枝すべて銀籠を作るように』と云うことです。『相府の志は、やはり皆、銀にある。籠の折敷を据え、或いは銀、或いは貴木とせよ』と云うことでした」と。耐え難き世である。朝端に立つものは一銖の銀を持つことも難しい。(『現代語訳 小右記６ ―三条天皇の信任―』倉本一宏編、吉川弘文館）

③『吾妻鑑』巻第三十二 延応元年七月十五日

弱冠三七歳之時始拝二双親之慈顔一。因レ茲幸過二少呉氏之仁慧一早備大理卿之精要職兼二金吾一。伝二声名於漢日之鳥一位亜二剔相一。顧二献納於虞年之龍一。九通三之左歳也。於二朝端一。不卑。六軍惣一之上将也。取二民間一可レ足。矧亦子道云彰。面観三太閤准后之遂二素意一。

弱冠二十一歳の時に初めて両親に対面した。これにより幸いなことは呉氏の仁恵に勝るものである。すぐに検非違使別当の要職に補せられ、官職は右衛門督を兼ねて名声を漢日に博し、権大納言に任官した。九禁通三の左威であることは、廷臣として卑しいものではない。六軍惣一の上将であることは、人間として十分なものである。まして、子の道を明らかにして、対面して太閤（藤原道家）・准后（綸子）の願いを遂げるのを見ることができた。(『全譯吾妻鏡 4』貴志正造訳注、新人物往来社）

④『古今著聞集』巻第十五 五〇〇 建長二年八月十四日、葉室定嗣出家の時、宿執に催されて詩歌を作る事

陶令亮之帰休、春秋四十三。曾祖遁レ俗、八月十四日。景気逢レ境、自然銘レ肝。昨仕二朝端一何所レ恥。

陶淵明が帰郷したのは春秋四十三年。曾祖父が俗世を離れたのは八月十四日。自然の趣きは出離の心境に適いひとりでに深く心に沁むる。これまで朝廷の重職に仕えたことは、まったく恥じることではない。

（現代語訳は発表者による）

上記のように、「朝端」の語は漢文脈でのみ用いられており、熟語として日本語文に馴染むことなく推移し、やがて本邦の文献上から姿を消すことがわかった。近世には既に字面からは意味をとれなくなっていたために、山田が指摘するような刊本での書き換えがおこなわれたものと推察される。念のため、『神皇正統記』において、「朝」が含まれる他の熟語で書き換えが行わ

れているかについても調査した[3]。

異朝（15）朝廷（4）朝貢（3）朝権（1）本朝（11）来朝（5）朝奨（2）
朝務（1） 帰朝（5）朝家（2）朝参（1）朝要（1） 朝敵（8）朝威（3）
（括弧内は日本古典文学大系の用例数）

このうち、「異朝」15 例のうち、群書類従本で一か所のみ「異国」に、「朝廷」4 例のうち、群書類従本で一か所のみ「朝庭」に変更されていることがわかった。これらは 2 例とも同義語内での書き換えであり、「朝端」が「朝廷」「朝家」に訂されたように、完全に意味が異なる語への書き換えは他には見られないということが確認された。このことからも、「朝」字が「朝廷」や「国」を示すことは長く一般に受け入れられたと考えることに問題はないと考えられる。そこで、次節においては「端」字に焦点を当て、本邦における用法を調査することとする。

4. 本邦における「端」を含む語群の用法

本邦における「端」字の用法について調査した結果を、表 1、表 2 に示す。表の「意味」欄は、『日本国語大辞典』（第二版）および『大漢和辞典』を参考に、発表者が分類した以下の 5 種による。[4]

①はじめ ②ただしい ③はし すみ ④ちいさい こまかい ⑤①～④に分類不可

分類の具体例を示す。

①はじめ…端緒 ②ただしい…端麗、端憂（『文選』六臣注に「端然憂愁」とあり） ③はし すみ…端女、末端 ④ちいさい こまかい…途端 ⑤①～④に分類不可…端的（白話語彙）、万端

調査対象語彙：

・『日本国語大辞典』（第二版）の見出し語に「端」が含まれる二字熟語、『大漢和辞典』に掲載された「端－」の形の二字熟語を調査対象とする。
・和語、固有名詞、日本の文献に用例がないものは除外した。

---

[3] 日本古典文学大系の神皇正統記（猪熊信男氏旧蔵本、室町中期以前書写）、慶安版本の『神皇正統記』（国立国語研究所蔵）、群書類従本の『神皇正統記』を使用した。山田が原稿内で述べている「古写本」は不明であるが、日本古典文学大系の底本では「朝端」と記述されているらしいことから、山田が見た古写本に近い本文を持つと推察できる。なお、調査対象から「頼朝」「義朝」「実朝」「朝臣」「北朝」「南朝」「隋朝」の 7 語は省いた。

[4] 次の図は『唐話纂要』（1718）の例であるが、「端座」に「タヽシクスハル」と注されている。このように当時の日本人による中国語理解を示すものとして語学書なども参考となるであろう。

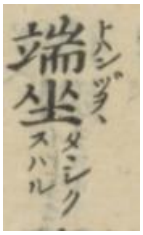


図 1 『唐和纂要』巻一・2 オ「端座」

表の凡例：

・表 1 は「端—」、表 2 は「—端」の形の熟語の用例数を示したものである。

・語は、『日本国語大辞典』（第二版）に示された初出年順に上から並べた[5]。初出欄に「—」とあるものは、『大漢和辞典』の掲載項目である。

・データベースの略称は以下の通り。

群：群書類従　続群：続群書類従　続々：続々群書類従

・表 1 では「意味」欄が②であるもの、表 2 では③であるものに網掛けを施した。

表1「端ー」の用例数

語	意味	『日本国語大辞典』の初出		BCCWJ	群	続群	続々	CHJ					
		年	初出文献名					奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	近代
端粛	②	611	勝鬘経義疏	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
端正・端整	②	701	令集解	218	14	38	12	0	0	53	0	0	29
端座・端坐	②	751	懐風藻	41	32	87	8	0	0	3	0	0	2
端直	②	751	懐風藻	0	3	7	3	0	0	0	0	0	1
端午・端五	①	758	続日本紀	77・11	24・6	52・4	11・1	0	0	0	0	1	3
端首	①	797	三教指帰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
端居	②	818	文華秀麗集	13	5	26	3	0	0	0	0	1	8
端厳	②	927	延喜式	4	11	39	12	0	0	17	0	0	0
端尹	②	1060	本朝文粋	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
端正	②	1177~1181	色葉字類抄	0	12	36	10	0	0	53	0	0	26
端憂	②	平安後	江都督納言願文集	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
端的	⑤	1231~1253	正法眼蔵	611	4	28	8	0	0	0	0	1	16
端拱	②	1259	日蓮遺文	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1
端麗	②	1359~1368	空華集	54	1	2	4	0	0	0	0	1	21
端身	②	1366	大智仮名法語	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
端倪	①	14C	異制庭訓往来	9	1	3	2	0	0	0	0	0	22
端冕	②	室町中	文明本節用集	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
端門	②	1477	史記抄	0	1	10	1	0	0	0	0	0	1
端陽	①	1518	林葫蘆集	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
端月	①	1548	運歩色葉集	0	1	6	0	0	0	0	0	0	2
端直	②	1563	玉塵抄	0	1	6	2	0	0	0	0	0	0
端末	③	1603~1604	日葡辞書	1208	2	0	2	0	0	0	0	0	12
端女	③	1678	評判記・色道大鏡	10	0	0	1	0	0	0	0	0	0
端書	①	1691	中尾源左衛門・浜市右衛門宛芭蕉書翰 - 元禄四年	0	15	33	8	0	2	2	0	1	79
端慤	②	1707	童子問	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2
端厳	②	1771	日本詩史	0	11	39	12	0	0	17	0	0	9
端人	②	1775	十善法語	0	1	7	2	0	0	0	0	1	0
端荘	②	1799	随筆・絵事鄙言	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
端然	②	1807~1811	読本・椿説弓張月	21	0	3	0	0	0	0	0	0	17
端緒	①	1823	遠西観象図説	165	1	6	2	0	0	0	0	0	149
端文	①	1843~1848	人情本・貞操婦女八賢誌	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
端厚	②	1870~1871	西国立志編	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
端姿	②	1874~1876	東京新繁昌記	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
端雅	②	1889	露団々	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
端艇	④	1893~1896	演歌・短艇遠征歌	16	0	0	0	0	0	0	0	0	19
端舟	④	1899	商法	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
端委	②	-	-	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
端揆	②	-	-	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
端勁	②	-	-	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
端重	②	-	-	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

[5] 本調査内で『日本国語大辞典』の示した初出を遡る例が発見された場合もあったが、便宜的にこのように並べた。

表2「ー端」の用例数

語	意味	『日本国語大辞典』の初出		BCCWJ	群	続群	続々群	CHJ					
		年	文献名					奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	近代
異端	①	729	続日本紀	406	4	15	21	0	0	0	0	0	39
雲端	③	751	懐風藻	1	12	13	2	0	0	0	0	1	1
舌端	③	797	三教指帰	1	3	11	1	0	0	0	0	0	10
多端	③	797	続日本紀 - 霊亀元年	77	26	41	20	0	0	0	0	0	83
葉端	③	8C	万葉集	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
南端	③	827	経国集	309	24	55	11	0	0	0	0	0	51
筆端	③	827	経国集	1	8	37	6	0	0	0	0	0	27
一端	③	872	儀式	544	55	99	33	0	0	0	0	1	317
毫端	③	892	田氏家集	0	4	13	3	0	0	0	0	0	0
万端	⑤	893~913	新撰万葉集	125	19	56	23	0	0	0	0	6	66
百端	①	1060	本朝文粋	1	0	1	2	0	0	0	0	0	17
両端	③	1060	本朝文粋	482	24	37	22	0	0	0	0	0	105
紙端	③④	1108	作文大体	0	9	24	1	0	0	0	0	0	0
郊端	③	1162~1164	本朝無題詩	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
毛端	③	1257	私聚百因縁集	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
争端	①	1385	空華日用工夫略集 - 至徳二年	0	0	1	2	0	0	0	0	0	5
鋒端	③	14C	太平記	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
言端	③	室町中	文明本節用集	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0
履端	①	室町中	文明本節用集	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0
二端	③	1477	史記抄	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
発端	①	1477	史記抄	368	2	9	6	0	0	0	0	8	41
鼻端	③	1492~1521	新撰類聚往来	0	1	8	0	0	0	0	0	0	4
語端	③	1598	落葉集	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
檐端	③	1674	艸山集	1	2	1	0	0	0	0	0	0	2
林端	③	1676	新編覆醤集	0	2	4	2	0	0	0	0	0	0
四端	①	1679	大学垂加先生講義	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0
尾端	③	1690	楽家録	4	0	0	1	0	0	0	0	0	1
善端	①	1716	学談雑録	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
巻端	①	1807~1811	読本・椿説弓張月	0	0	4	7	0	0	0	0	0	0
釁端	①	1825	新論	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6
事端	①	1827	日本外史	2	0	2	1	0	0	0	0	0	33
後端	③	1832~1836	江戸繁昌記	54	0	0	0	0	0	0	0	0	9
前端	③	1832~1836	江戸繁昌記	40	0	1	0	0	0	0	0	0	6
最端	③	1837~1847	舎密開宗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
簡端	⑤	1852	漁村文話	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
論端	①	1855	伊藤特派全権大使復命書附属書類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
弊端	①	1866~1870	西洋事情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
起端	①	1867	慶応再版英和対訳辞書	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
口端	③	1868~1872	布令字弁	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
床端	③	1870~1871	西国立志編	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小端	②	1871~1872	安愚楽鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
兵端	①	1871	新聞雑誌 - 二四号・明治四年	6	0	0	1	0	0	0	0	0	5
開端	①	1874	広益熟字典	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他端	③	1876	改正増補物理階梯	13	0	0	0	0	0	0	0	0	10
茎端	③	1877	米欧回覧実記	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
唇端	③	1878~1879	花柳春話	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
辺端	③	1884	小学読本	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
末端	③	1884	生物学語彙	534	0	0	0	0	0	0	0	0	20
極端	③	1886	改正増補和英語林集成	2111	0	0	0	0	0	0	0	0	540
東端	③	1886	東京日日新聞 - 明治一九年	110	15	40	13	0	0	0	0	0	36
線端	③	1887	哲学階梯	12	0	0	0	0	0	0	0	0	1
衝端	③	1890	帰省	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眉端	③	1894	日本風景論	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
左端	③	1898~1899	不如帰	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
指端	③	1899	日本の下層社会	0	1	1	1	0	0	0	0	0	5
岬端	③	1900	自然と人生	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
尖端・先端	③	1904	和蘭皿	85・2320	0	4	0	0	0	0	0	0	27・23
書端	③	1908	俳諧師	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
突端	③	1920~1921	旅日記から	79	0	0	0	0	0	0	0	0	3
小端	①	1922~1923	多情仏心	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
絶端	③	1926	金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
終端	③	1936	城外	38	0	0	0	0	0	0	0	0	1
側端	③	1960	道路交通法	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
途端	④	1960	浄瑠璃・箱根山合戦	3065	0	0	0	0	0	0	0	4	137

5. 結論と課題

前節での調査の結果、「端―」形の熟語では、②「ただしい」の意味に分類されるものが多く（表 1)、「―端」の形の熟語では、③の「はし　すみ」の意味に分類されるものが多かった（表 2)。本発表の契機となった「朝端」という語も、「―端」の形で「(朝廷の)はし」を示す熟語であるが、これらの古来の用法を眺めても、「朝端」が示すような”上位のはし”を含意する語はひとつも存在しない。むしろ、「端女」や「木っ端」「下っ端」などマイナスイメージの語こそ現代に残っていくようである。仏典・漢籍などの中国の文献における、「―端」の形で”上位のはし”を含意する語の存在については、今回の調査では明らかにすることができなかったため、今後の課題となる。しかし、今回の日本での用例調査結果のみを眺めても、『神皇正統記』の諸本で「朝端」が「朝家」「朝廷」といった異義語に書き換えられていることは十分にうなずけることである。山田が「朝端」を取り上げるきっかけとなった違和感は、「端」字の展開をみることでより一層明確になった。

参考文献

・山田孝雄文庫「「朝端」といふ語について」画像ページ
https://www.library.toyama.toyama.jp/wo/autograph/index?autograph_list_flg=1&page=6&lines=10&value_id=055

・久保柾子「山田孝雄未完成稿「朝端」といふ語について」―紹介と翻字―」、『京都府立大学学術報告、人文』、京都府立大学、第 73 号、2021 年 12 月」（2021）URL
https://kpu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=6275&item_no=1&page_id=13&block_id=17

・森田悌 訳『日本後紀：全現代語訳　中』講談社学術文庫、2006

・貴志正造 訳注『全譯吾妻鏡　4』、新人物往来社、1976

・倉本一宏 編『現代語訳小右記 6 三条天皇の信任』吉川弘文館、2018.4

・国立国語研究所蔵『唐話纂要』https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/bunken.php?title=touwasanyo

辞書を母体とした語彙史試論

岩崎 凜太郎*　久保 柾子*　成田 薫子*　鈴木 萌楓*
*京都府立大学学生

1　はじめに

日本の辞書には様々な性格のものがあり、成立時期や内容の近接した辞書の影響関係についてはそれぞれ多くの先行研究がある一方で、まったく性格の異なる辞書同士、あるいは時代が隔たって成立した辞書同士の語彙の比較ということは、あまりおこなわれてこなかったようである。本発表では、いくつかの主要な日本の辞書を用い、それらに収録された語彙（語群）の変遷について、概観する。基点とした辞書は、20 巻本『和名類聚抄』（以下『和名抄』）と版本『和訓栞』[1]である。この二書は、いずれも後世への影響力が大きいことが知られる一方で、成立当時に日本で広く利用されていない語をも収録するという特徴も持つ。これら二つの辞書から任意の語群を選出し、ほかの古辞書および近代辞書における掲載状況、また辞書以外の文献における用例を調べることで、古辞書の語彙選定の模様や、古辞書同士がどの程度「模倣」の関係にあるのかといった点を明らかにし、改めて、各辞書の辞書史における位置付けを明らかにしたい。

2　国語辞書類を対象とした語彙採録状況

2.1　調査対象資料・調査対象語群　本研究では、下記辞書(国語辞書を中心とする)内における下記語群の掲出状況を調査した。調査にあたっては、『日本国語大辞典：第二版』を参考に、漢字・仮名ともに主要な異表記も調査対象とし、清濁や仮名遣いの揺れは無視して同語として扱った。(例：「そはむき/そばむぎ」「くめ/ぐめ」「あは/あわ」等はそれぞれ同語として計上する)

［辞書］[2]：『新撰字鏡』『本草和名』『和名類聚抄』『三巻本色葉字類抄』『観智院本類聚名義抄』『下学集』『撮壌集』『本草色葉抄』『温故知新書』『文明本節用集』『伊京集』『饅頭屋本節用集』『黒本本節用集』『易林本節用集』『落葉集』『日葡辞書』『多識編』『真草二行節用集』『合類節用集』『新刊節用集大全』『和爾雅』『頭書増補訓蒙図彙』『日本釈名』『大和本草』『万海節用和国宝蔵』『和漢三才図会』『和漢音釈書言字考節用集』『早引節用集』『雑字類編』『物類称呼』『自筆本和訓栞』『版本和訓栞』『字引大全』『絵引節用集』『雅言集覧』『増補俚言集覧』『語彙』『和英語林集成：第三版』『ことばのはやし』『言海』『日本大辞書』『増補語林和訓栞』『ことばの泉』『辞林』『大日本国語辞典』『大字典』『大漢和辞典』『日本国語大辞典：第二版』

---

[1] 平安時代中期に源順によって編まれた漢和辞書『和名類聚抄』は、漢語を見出しとし、当時一般の類書と同様、意義分類の形式をとる。注文の多くが漢籍か『漢語抄』(逸書）に拠る一方で、万葉仮名で和名も付される。後世への影響が大きいことから、「辞書のチャンピオン」とも称される（今野（2014）第一章 p.33)。時代を降り、江戸時代に谷川士清が編んだ国語辞書『和訓栞』は、和語を見出しとし、第二音節までを五十音順に配列すること、その上で大部であることから、「現代の国語辞書のさきがけ」(同第三章 p.111)、「日本で最初の近代国語辞書」(『日本国語大辞典第二版』「わくんのしおり」）などと評される。前中後の三篇からなり、古語・雅語・俗語・方言などを含む。

[2] 紙幅の都合上、底本情報はすべて省略する。

［語群］[3]：1 鍾乳・石鍾乳・石乳（いしのち・いしのちち）2 浮石・軽石（かるいし）3 細石・小石・礫（さされいし・ささらいし）4 纖砂・纖沙・真砂・真沙・細砂・細沙（まなこ・まさこ）5 曠野・荒野（あらのら・あらの・あれの）6 火田・畾・焼畠（やいはた・やきはた）7 豆田・豆生（まめふ・まめた・まめはた）8 培壗（つむれ）9 糞堆（あくたふ）10 土塊・塊・壌（つちくれ）11 麦（むき）12 大麦（ふとむき・かちかた・おおむき）13 小麦（こむき・まむき）14 麦奴（むきのくろみ・むきのくろほ・くろ・くろんぼ）15 蕎麦（そはむき・くろむぎ・そは）16 穬麦（からすむき）17 粟・粱（あは）18 秬黍・黒黍・秬・黒稷（くろききみ・くろききひ・くろきひ）19 秫（きみのもち・きひのもち・きひもち・もちきひ・もちあは）20 粱米（あはのうるしね）21 苧麻・蓖麻（からかしは・からえ・たうごま）22 巴戟天（やまひゝらき）23 牽牛子・朝顔（あさがほ）24 蒺藜・蒺藜・蒺莉（はまひし・はまひゆ）25 狼毒（やまくさ）26 防葵（やまなすひ）27 防風（はますかな・はまにかな）28 苦芙（かまな・かみおこしな）29蔄茹（ねあさみ・にひまくさ）30 羊桃（いらゝくさ・いらひくさ）31 くぼ（凹・窪）32 くぼて（葉椀・窪手）33 くぼふね（窪舟）34 くまぢ（隈）35 くまわ・くまみ（隈回）36 くましね（糈米）37 くまのい（熊胆）38 くみど（縢戸）39 くみかみ（辮髪）40 くむしら（隩）41 くめ・ぐめ（貢馬・久米）42 くめべ（来目部・久米部）43 くめぢのはし（久米路の橋・久米路橋）44 くもゐ（雲居・雲井）45 くもで（蜘手・蜘蛛手）46 くもとり（雲鳥）47 くものみね（雲峰）48 くものゆめ（雲夢）49 くもがくれ（雲隠）50 くものはたて（雲幡手・雲旗手）

2.2　調査結果の概観　調査結果を表（次々頁）に示す。大まかな傾向として、『和名抄』の語彙は、中世の辞書において漸次掲載数を減らすが、近世の一部の辞書で再掲に至り、近代以降は網羅的に掲載されるようになる。『和訓栞』の語彙は、基本的に近世以前の辞書における掲載率が低く、近代に入ってからは『和名抄』語彙と同様、網羅的な収録となる。近代辞書の網羅性があらわれるのは『ことばのはやし』からであり、収録率は『言海』とほぼ同じであった。

2.3『和名抄』『和訓栞』『ことばのはやし』から見た語群の様相

2.3.1　『和名抄』語彙から見て　『和名抄』の語彙は、中世では『色葉字類抄』『類聚名義抄』、近世では『合類節用集』『新刊節用集大全』『和漢三才図会』『和漢音釈書言字考節用集』で、多くの一致が見られた。これら三つの節用集は、「順和名」などの形で『和名抄』を出典として示している[4]ことから、表記の一致は当然とも言えるが、見出し語の選定にも『和名抄』が大きく関わっていることは明らかである。西崎（1995）は、節用集ないし古辞書を利用する際の問題として、「新たに語や表記が増補される場合にも、当時の仕様や理解を必ずしも背景とせずに、古今の和漢書から語や表記が採集されたことがあった」[5]と述べ、これらの三節用集を代表格として名指ししているが、本調査はこの説の具体的な補強となったものと考えられる。一方で、『和名抄』語彙の引用（踏襲）率が低く、掲載時に異表記を多く採用している他の辞書については、不要な語や表記を省き、当代の

[3] 数字は通し番号。語群 1～30 は 20 巻本『和名抄』巻 1、巻 17、巻 20 から任意の 10 語ずつ、31～50 は版本『和訓栞：久の部』「くぼ」以降の連続した 20 語を選定した。ただし「くもがくれ」以外の用言・居体言の類は除いた。また語群のうち、次のいずれかに相当するものに下線を引いた。①『和名抄』から選定した語 1～30：見出しの漢字表記・注文中の和名に一致するもの　②『和訓栞』から選定した語 31～50：見出しの語形・語釈文中の漢字表記に一致するもの

[4] 西崎（1995）第二章補節（p.235）に、「節用集の踏襲性」の指摘がある。

[5] 西崎（1995）第二章補節　P.237

表記や読みを多く採用しようとしたものである可能性が大きい。なお、『和漢三才図会』は、「19 秫」「20 粱米」について、それぞれ『和名抄』の記述を引用した上で、「きみのもち」「あはのうるしね」の訓を誤りとし、後者に関しては「大あは」が正しいとしている。このように明示的に前代の辞書記述を批評する辞書は、そうでない辞書（無断もしくは無批判に取捨するもの）の編纂態度を考える上でも、重要な存在であると考えられる。

2.3.2　版本『和訓栞』語彙から見て　20 語のうち、自筆本『和訓栞』を除いて、時代をさかのぼって複数の掲載があるのは 9 語であり、5 例以上となると、僅か 6 語に過ぎなかった。『和訓栞』に古語・雅語がよく収集されていることは周知の事実であるが、本調査結果は、同様の辞書が前時代に存在しなかったことが『和訓栞』の編纂動機の一端であったということの具体的裏付けとなっている。今回選定した語のうち、語釈文中において、漢字表記の根拠として名前が挙がった書物は以下の通りである（表記は『和訓栞』に拠る）。――31 日本紀・霊異記・嚢嚢鈔・新撰字鏡　32 延喜式　33 万葉集　34 日本紀　35 万葉集　36 和名抄　37 和名抄・新撰字鏡　38 神代紀・古事記　40 日本紀・新撰字鏡　41 万葉集　42 古事記　43 元亨釈書　44 日本紀・孝経・古事記　45 伊勢物語　47 陶淵明　50 万葉集

2.3.3　『ことばのはやし』語彙から見て　『ことばのはやし』は、物集高見が自身の編著『日本小辞典』を引き継ぎつつ、1888 年に編纂したもので、見出し語総数 24,300 語余の一冊本である。書誌や編纂方針は山田忠雄（1981）に詳しい。山田の評は、「言海　出現以前において、ことばのその　の二倍の規模を持つ此の一冊本が読書子の机上に送られて、とまれ実用に供せられた事実をこそ喜ぶものである。完成と未完成とは、内容上の善し悪しは　さて措き、雲泥の差がある。」（p.524）との文に集約される。また『ことばのその』『ことばのはやし』が「藍」と「青」に対してほぼ同内容の語釈を施していることを引き合いに、『言海』の語釈システムを国語辞書史における「功業」（p.548）として称える一方で、語彙収集の観点からは、『ことばのはやし』にも一定の評価を与えている。『言海』が雅語辞書的性格を脱し、外国辞書を参考に近代国語辞書としての体裁を確立したことをもって国語辞書史上に重く扱われるのは至極当然のことであるが、一方で、網羅性を旨とする現代国語辞書の祖という観点から見れば、『言海』に先立つものとして『ことばのはやし』の価値を認めなおすことも必要であろう。

【表の凡例】

・◎　…漢字表記と仮名語形の両方が元の辞書の表記（［語群］の下線部分）に一致するもの
・○　…①表記・語形の少なくとも一方が、［語群］に掲載の表記（下線の有無不問）であるもの or②元の辞書と一致する表記・語形（［語群］の下線部分）が、それぞれ別の箇所に立項されているもの
・△　…①表記・語形の少なくとも一方が、［語群］に非掲載の表記であるもの or②表記・語形のいずれか一方が欠けているもの
・―　…閲覧した資料の該当箇所が欠けているか、そもそも存在しない（『語彙』）もの

成立年（西暦） 辞書名 ＼ 語彙		892〜901	892〜901	934	1144	1241	1284	1444	1454	1484	1469	室町末	室町末	室町末	1597	1598	1603	1612	1638	1680	1680	1694	1695	1700	1708
		新撰字鏡	本草和名	和名類聚抄	三巻本色葉字類抄	観智院本類聚名義抄	本草色葉抄	下学集	撮壌集	温故知新書	文明本節用集	伊京集	饅頭屋本節用集	黒本本節用集	易林本節用集	落葉集	日葡辞書	多識編	真草二行節用集	合類節用集	新刊節用集大全	和爾雅	頭書増補訓蒙図彙	日本釈名	大和本草
1	鍾乳		△	◎	○	○									◎			○							△
2	浮石		○	◎	◎	◎				◎					◎						◎	◎			◎
3	細石	○		◎	◎	○				◎		◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎		◎	
4	纖砂			◎	◎					○					△				○	○	○	○	△	△	
5	曠野			◎	◎	◎				○					○				○	◎	◎	◎			
6	火田・畧	△		◎	○	○														◎	○	○			
7	豆田			◎	◎	◎														◎					
8	培壌	△		◎	◎	◎									◎					◎	◎	◎			
9	糞堆			◎	○															◎	◎				
10	土塊	○		◎	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	◎	△		○	○	○	◎			
11	麦	△		◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△				◎	◎	◎	◎	△
12	大麦	△	◎	◎	◎	◎	△			△					○	○	△	◎	○	◎	◎	◎			△
13	小麦	△	◎	◎	◎	◎	△			◎			◎		◎	◎	△	◎		◎	◎	◎			△
14	麦奴			◎	◎	○	△											○		○		○			
15	蕎麦		◎	◎	◎	◎	△	○	◎	△	○	○	○	○	○		△	◎	○	○	○	◎	△	◎	△
16	**穬麦**	△	◎	◎	◎	◎	◎										△	◎		◎	○	○	○		
17	粟	△	△	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎		◎	◎	◎		△	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	△
18	秬黍	△	◎	◎	○	◎	△			△										○	○	○	○		
19	稌	△	△	◎	○	○	△											○		○	○	○	○		○
20	粱米		◎	◎	◎	◎	△		◎	△										◎			△		△
21	蕓麻		◎	◎	◎	◎	△						△				△	○		○	○	○	○		○
22	巴戟天	△	◎	◎	◎	◎	△											◎		◎					
23	牽牛子		◎	◎	◎	◎	△	◎	△		○	△	△	◎		△	△	◎	○	△	◎	◎			◎
24	蒺藜	△	◎	◎	○	◎	◎		○	○		○			△			○	△	○	○				
25	狼毒		○	◎	◎	◎	△											◎		◎					
26	防葵		◎	◎	◎	◎	△											◎		◎					△
27	防風		◎	◎	◎	◎	△			◎	△				△			△	△		◎	△	◎		△
28	苦芙		◎	◎	◎	△												◎		◎		△			△
29	茜茹		◎	◎	◎	◎	△											◎		◎	◎				
30	羊桃		◎	◎	○	△	△			○								◎		◎	◎				
31	くぼ	◎			◎	△			○								△								
32	くぼて	△		◎	◎	◎														◎					
33	くぼふね																								
34	くまぢ					△																			
35	くまわ																				△				
36	くましね			◎	◎	△									◎				◎	◎	◎			○	
37	くまのい	◎	◎	◎	◎		◎								○		△				○	◎	◎		△
38	くみど																								
39	くみかみ																								
40	くむしら	◎																							
41	くめ		○	○	◎				△	◎	◎	◎	◎							△	◎	△			
42	くめべ																								
43	くめぢのはし																				◎				
44	くもゐ															△	△							△	
45	くもで														◎		△			◎	◎				
46	くもとり																								
47	くものみね																			△					
48	くものゆめ																								
49	くもがくれ																								
50	くものはたて									△							△					△			

成立年（西暦） 辞書名 ＼ 語彙		1710 万海節用和国宝蔵	1712 和漢三才図会	1717 和漢音釈書言字考節用集	1752 早引節用集	1764 雑字類編	1775 物類称呼	1777 自筆本和訓栞	1777 版本和訓栞	1806 字引大全	1824 総引節用集	1849 雅言集覧	1899 増補俚言集覧	1884 語彙	1872 和英語林集成　第三版	1888 ことばのはやし	1889 言海	1892 日本大辞書	1898 増補語林和訓栞	1898～1899 ことばの泉	1911 辞林	1915 大日本国語辞典	1917 大字典	1960 大漢和辞典	2000 日本国語大辞典
1	鍾乳		△	◎									○	○	○	○	◎	○		○	○	○		◎	◎
2	浮石		◎	◎								◎	◎	—	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3	細石	◎		◎		◎		◎	◎	◎	◎		◎	—	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎
4	繊砂	○	○	○	○	△		○	◎				◎	—	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	◎
5	曠野			◎						○	○		◎	—	△	◎	◎	○	◎	○	◎	◎		○	◎
6	火田・畷		◎	○					◎	△	◎		◎	—		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
7	豆田							◎					○	—	○	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	△	◎
8	培塿		◎	◎					◎					—	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎
9	糞堆		◎						◎					◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
10	土塊	○		○		◎		◎		○	○	○		—	○	○	◎	◎	○	—	◎	◎	◎	◎	◎
11	麦	◎		◎	◎	◎		◎		◎	◎			—	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎
12	大麦	○	◎	◎		○				○	○		○	—	○	◎	◎	◎		◎	◎	◎		○	◎
13	小麦		◎			◎				◎			△	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
14	麦奴		○	○		○			○		○			—		◎	◎		◎	◎		◎	△	◎	◎
15	蕎麦	○	◎	○	○	○		◎	◎	○	○	◎		—	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
16	**穬麦**		◎	○		○				○	○	◎	○	—	△	◎	○	—		○	○	○	○	◎	◎
17	粟	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎
18	秬黍		△						◎		○			—		○		○	◎			△	○	○	◎
19	稌		◎	○		○			◎	△	○		○	—	△	○	△	△		△	△	◎	○	○	◎
20	粱米								◎		△			◎		◎				◎		△	△	△	◎
21	蕓麻	○	○	○	○	○				○	○		○	—	○	◎	◎	○		△	○	◎		◎	◎
22	巴戟天		◎										◎	—								◎		△	○
23	牽牛子		◎	◎	○	△	△	◎	◎	○	○		◎	◎	△	◎	○	○	○	○	○	◎	○	◎	◎
24	疾藜		○	○		◎							○	—			△	△	△	△	○	○		◎	◎
25	狼毒		△	◎						△			△	—								△	△	◎	◎
26	防葵		◎	△		△								—		◎				◎		◎		△	◎
27	防風	△	◎	△		△	△			△				—		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
28	苦芙		◎			△		◎						—			◎	—	◎	◎	△	◎		◎	◎
29	茜茹		◎			△							△	—	△	◎	◎	◎		△		◎		◎	◎
30	羊桃			◎		△		◎						◎				◎		△		◎		◎	◎
31	くぼ								◎			◎	◎	—	◎	◎	◎	◎		○	◎	○		◎	◎
32	くぼて							◎	◎			◎	◎	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎		◎	◎
33	くぼふね								◎					—											◎
34	くまぢ							◎	◎					—		◎	◎	◎	◎	◎	○	○			◎
35	くまわ							◎	◎					—		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎
36	くましね			◎				△	◎			◎		—		◎	○	○	◎	◎	○	◎		◎	◎
37	くまのい	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎			—			◎	○	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎
38	くみど							◎	◎					—	△	△		△	△	△		△			◎
39	くみかみ								◎					—	△		△	△	△	△	△	△		△	◎
40	くむしら			△					◎				◎	—					◎			△			◎
41	くめ			◎					◎					—			◎								◎
42	くめべ								◎					—				○	◎	○	○		○	○	◎
43	くめぢのはし								◎					—											◎
44	くもゐ			◎					◎			◎	○	—	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎
45	くもで			◎	◎			◎	◎	◎		◎	◎	—	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
46	くもとり								◎			◎	◎	—		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	△	◎
47	くものみね								◎					—					◎	◎	◎	◎	◎	△	○
48	くものゆめ							◎	◎			◎		—					◎			◎			
49	くもがくれ							◎	◎			△		—	△		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎
50	くものはたて								◎			○		—		△			◎	◎	◎	◎	◎	○	○

２.４.１　個別の語について　漢字表記と仮名語形の対応関係について、表に反映できなかったが、個別の語史から見て興味深いものをいくつか取り上げて以下に示す。「1 鍾乳」「6 火田・畷」「7 豆田」については、近代の辞書にそれぞれ「石乳（いしちち)」「焼畠（やいばた・やきばた)」「豆畑（まめばた)」の表記が登場するが、これらは近世までには見られなかったものである。最も仮名語形が変化した語は「14 麦奴」で、「むぎのくろみ・くろむぎ→むぎのくろぼ→くろぼ→くろんぼ→くろんぼう」と変遷していた。また「14 麦奴」は見出し語「13 小麦」に対して小見出しとして掲出される例が多かった。このように語が包摂されていく傾向は、「18 秬黍」「19 秫」と「黍・稷」など、いくつかの語で確認することができた。「19 秫」は、平安時代には雑穀の中でねばりけの多い種を指していたようで、「きび」「あは」と「もち」の組み合わせでできた仮名語形が多く、また当時の総称は「黍（きび)」であったが、中世以降に「稷（きび)」が優勢になると、「黍」と「もちきび」が結びつくようになると、押し出されるように「もちあは」と結びつくさまが確認できた。他にも、語に注目すると興味深い現象が多々うかがえた。

２.４.２　本草書　２.３.１で『和漢三才図会』の特殊性について述べたが、ほかに本草書にだけ認められる傾向として、「11 麦」が『本草和名』『本草色葉抄』『和漢三才図会』で立項されていなかった。これは、「麦」という語が総称であり、一品種としては現実に存在しないことと、具体物を専門的に解説しようとする本草書の編纂態度が関係しているのではないかと考えられる。

３　今後の展望　本調査では、語群がいかなる広がりを見せるかについて、巨視的にとらえるため、振り仮名、語釈文中、語釈内の引用文のいずれに漢字表記、仮名語形が現れるかについてなど、あえて細かく分類せずに調査を行った。これらをすべて分類した上で調査すれば、書誌学的にも辞書どうしの関係をさぐることができよう。今後の課題としたい。

【参考文献】

山田忠雄（1981)『近代国語辞書の歩み：その模倣と歩みと』上下　三省堂
西崎亨（1995)『日本古辞書を学ぶ人のために』　世界思想社
飛田良文・松井栄一・境田稔信（2003)『明治期国語辞書大系：書誌と研究』(明治期国語辞書大系　別巻)　大空社
今野真二（2014)『辞書からみた日本語の歴史』　ちくまプリマー新書 220

『日本語歴史コーパス　平安時代編Ⅱ訓点資料』の公開

柳原恵津子（東京外国語大学非常勤講師）・近藤明日子（東京大学）
・高田智和（国立国語研究所）・月本雅幸（東京大学名誉教授）
・小木曽智信（国立国語研究所）

１．はじめに

2022年3月、従来の『日本語歴史コーパス』(CHJ)[1]のサブコーパス「平安時代編」(仮名文学作品16点)を「平安時代編Ⅰ仮名文学」と改称し、新たに「平安時代編Ⅱ訓点資料」(短単位データ0.4)を公開した。本コーパスは、西大寺本『金光明最勝王経』平安初期点巻一の訓読文を本文とし、形態論情報（短単位のみ）や加点状況を参照できるアノテーションを付与したもので、加点が密に施された訓点資料の形態論情報付きコーパスとしては初の公開となる。

２．収録した資料と本コーパスの概要

西大寺本『金光明最勝王経』平安初期点は、天平宝字6（762）年百済豊虫によって筆写された『金光明最勝王経』全10巻に、830年頃の白書による訓点が記されたものである。平安初期を代表する訓点資料であり、これまで多数の日本語史の研究に利用されて来た。

本コーパスは、この『最勝王経』平安初期点巻一の訓読文を本文とした。訓読文は、従来広く用いられてきた春日（1942）のものをそのまま利用せず、総本山西大寺（編）（2013）による原色原寸大の影印や現段階での訓点語学の成果を踏まえて、新たに作成した。春日が読みを付与しなかった部分には補読をし（(1)）、平安初期の訓法としてより適切な形に一部修正を加えた。（(2)）。

（1）〈春日(1942)〉復梨車毗の童子有リ。(影印7頁49行目[2])
〈コーパス本文〉復<u>た</u>梨車毘の童子有り。(20K西金0830_01001,16320[3])

（2）〈春日(1942)〉常に<u>樂（この）　(み)</u>て奉持し、(影印5頁17行目)
〈コーパス本文〉常に<u>樂ひ</u>て奉持し、(樂ひ：ねがひ、20K西金0830_01001,5020)

原本にはひとつの漢字（あるいは漢字文字列）に対して複数の読み方を加点することが多くある。そのような箇所については、加点方法や加点位置によって、①ヲコト点、またはヲコト点＋右傍仮名点（本点）の組み合わせ、②右傍仮名点（本点、複数ある場合は、原則として漢字右下に最も近くに書かれた読みを優先)、③左傍仮名点（本点、複数ある場合は、原則として漢字左下に最も近く書かれた読みを優先)、④別筆仮名点、の順に優先順位をつけ、優先度の最も高い本点（一種類）が示す読みのみを採用した。

本コーパスは、コーパス検索アプリケーション『中納言』(https://chunagon.ninjal.ac.jp/)

---

[1] 小木曽（2016）参照。

[2] 春日（1942）引用後の括弧内は、総本山西大寺編（2013）影印の（頁数行数）を示す。

[3] コーパス本文引用後の括弧内の数字は、CHJ検索結果欄の（サンプルID,開始位置）を示す。開始位置は、下線のない用例の場合は用例文冒頭の、下線のある場合は当該部分を含む短単位冒頭の開始位置。

より利用できる。形態論情報や本文文字列に対して検索が可能で、検索結果にはKWICや形態論情報をはじめとする各種アノテーションを表示する。

３．本文作成について

３．１．漢字の電子化

コーパスの本文で使用する文字集合は、JIS X 0213:2004に準拠した。

漢字本文が天平宝字6(762)年に書写された写本であるという性質上、本資料には初唐標準とされる字体の漢字や、一回的に用いられたと思われる特殊な字体等が多く用いられる。それらの字体は、学術的な知見・慣例に基づき、もっとも文字集合内の字体（新旧の別のある字については旧字体）への包摂を行った。

（3）〈原本〉明（影印4頁1行目）・觧（影印4頁5行目）
〈コーパス本文〉明（20K西金0830_01001,30）・解（20K西金0830_01001,1640）

３．２．コーパス本文と原文文字列

コーパス本文は、漢字本文を漢字で、ヲコト点・仮名点・補読部分をすべて平仮名で表記する。つまり原本に加点のある部分と作業者による補読部分の区別がつかない。上代特殊仮名遣い「コ」甲乙、ア行ヤ行「エ」の書き分けも反映せず、不読字は本文中に示されない。

このような欠点を補うため、『中納言』の検索結果で表示される「原文KWIC」「原文文字列」では、従来もっとも一般的に行われてきた訓点資料訓読文の表記に則った本文を表示し、該当語の原本での加点状況を確認できるようにした。また、「コ」乙類とヤ行「エ」についても〈コ〉〈エ〉のように記し、原本での表記を参照できるようにした（表1、（4））。

［表1］　コーパス本文・原文文字列の表示方法

原文での記載	コーパス本文	原文KWIC・原文文字列
漢文本文	童子	童子
ヲコト点	梨車毘の	梨車毘の
仮名点	有り	有リ
乙類コ、ヤ行エ	コ	〈コ〉
補読	復た	復（た）
漢文本文（不読字）	（記載なし）	［之］

（4）〈コーパス本文〉復た梨車毘の童子有り。（20K西金0830_01001,16320）
〈原文KWIC・原文文字列〉復（た）梨車毘の童子有リ。

３．３．濁点・踊り字の処理

原本に濁音を示す符号等の表記は見られない。また、仮名点には踊り字（ヽ）がしばしば用いられる。これらについては、コーパス本文では濁音が期待される部分に濁点を付し（(5)）、踊り字を仮名に改めた（(6)）。原本での表記（濁点なし、踊り字の使用）は、原文KWIC・原文文字列で

確認することができる。

（5）〈コーパス本文〉有るべし（影印 13 頁 143 行目）
〈原文 KWIC・原文文字列〉有ルヘシ（20K 西金 0830_01002,50190）
（6）〈コーパス本文〉佛に護らるる童子（影印 7 頁 51 行目）
〈原文 KWIC・原文文字列〉佛に護ラルヽ童子（20K 西金 0830_01001,17150）

３．４．仮名点に混用された漢字の処理

原本に記された仮名点には、片仮名（および一部混用される平仮名・真仮名）とともに、「事（コト）」「如（ゴトシ）」「以（モチテ）」「人（ヒト）」「物（モノ）」「命（ノタマフ）」などの頻用語が漢字で表記される。このような仮名点に混用された漢字は、漢文本文と識別するために、コーパス本文では平仮名に、原文 KWIC・原文文字列では片仮名にひらいて示した。

（9）〈原本での表記（仮名点部分）〉如ク　／　人　／ト命フ
〈コーパス本文〉ごとく　／　ひと　／とのたまふ
〈原文文字列〉コトク　／　ヒト　／　トノタマフ

４．形態論情報の付与

コーパス用本文には短単位の形態論情報を付与した。MeCab[4]用形態素解析用辞書 UniDic[5]を使用して形態素解析を行い、この解析結果を人手で修正して高精度の情報を付与した。形態素解析には、仏教語や漢語、訓点語が多く登録された中世文語（説話・随筆）UniDic[6]を使用したが、人手による修正作業の際に『『日本語歴史コーパス　平安時代編』形態論情報規定集』[7]の規定に沿う形とした。

４．１．語形の認定

形態論情報の付与にあたり、訓読文に現れるすべての語の語形を決定することとなる。訓点によって読みが示されるのは付属語や活用語尾およびごく一部の自立語（動詞・形容詞・形状詞については語幹部分）であり、大半を占める読みの明記されていない漢字書きの部分すべてに、作業者が適切な語形を認定した。この語形の認定は、次の方針に基づいて行った。

まず、和語で訓読するべき語について、原本全十巻での加点状況や、築島（編）(2007-2009)、辞書類での記述などを参照し、830 年当時の読みとして妥当な形を推定した。次に、妥当な和訓が想定しにくい語は字音語として処理し、沖森他（編）(2014) に記載された呉音を語形として採用した。

４．２．語形の認定の特殊例

原則として４．１．で述べた形で語形の認定を行ったが、平安初期加点の仏典という性質を鑑み、定訓と言える和語があっても字音を語形とした語もある。「力」「身」を「チカラ」「ミ」ではなく「リキ」「シン」とした例などである。このような判断をした語は、文脈による読み分けを行わず、一貫

[4] https://taku910.github.io/mecab/

[5] 小木曽（2013）参照。

[6] https://ccd.ninjal.ac.jp/unidic/download_all#unidic_wakan

[7] https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/doc/morph-heian-2016.pdf

して字音で読むことを原則としたが、以下のケースについては、例外的に読み分けを行った。

①本資料全十巻の中に、和訓読み、字音読み双方の加点例が認められる場合
例)「生ス」　サ変（「ショウス」）、サ行四段（「オコス」）双方の語尾の加点例あり。
　　→　活用型の判断可能な未然形、連体形、已然形、命令形は加点に従う。
　　活用型の判断が不可能な連用形、終止形の加点のある例、および加点のない例は、自動詞なら「ショウス」、他動詞なら「オコス」とする。
②複合語の一部と解するべき例
例)「垢」→「ク」と読むことを原則とする。
　　ただし「ツク」の加点がある場合のみ、「アカツク」と判断する。

４．３．多重形態論情報の処理を行ったもの

本コーパスでは、短単位の境界が漢字や仮名の文字列の境界と一致することを前提に、読みを定めて形態論情報を付与している。だが、返読が関与する場所に複数字をひとまとまりと捉えた位置に加点されていて、漢字文字列の並びと複数短単位の並びとが異なってしまう場合（表 2①、漢字列「所有」の「有」にヲコト点「る」の加点あり）や、漢字一字（あるいは漢字文字列）に複数短単位からなる読みを与えるべき場合（表 2②）がある。このようなケースには形態論情報の多重化の技術（小木曽(2017)）を用いて、処理を行った。

［表 2］形態論情報の多重化の例

コーパス本文	書字形		付与する形態論情報（一部）
①所有る	主本文	あら／るる (20K 西金 0830_01001,25050)	語彙素「有る」語彙素読み「アル」語形「アリ」品詞「動詞-非自立可能」活用型「文語ラ行変格」活用形「未然形-一般」／語彙素「れる」語彙素読み「レル」語形「ル」品詞「助動詞」活用型「文語下二段-ラ行」活用形「連体形-一般」
	副本文	所有る	品詞「対象語無し」
②鋒	主本文	ほこ／の／さき (20K 西金 0830_01002,88990)	語彙素「矛」語彙素読み「ホコ」品詞「名詞-普通名詞-一般」／語彙素「の」品詞「助詞-格助詞」／語彙素「先」語彙素読み「サキ」品詞「名詞-普通名詞-副詞可能」
	副本文	鋒	品詞「対象語無し」

５．本コーパスの言語量と語種比率

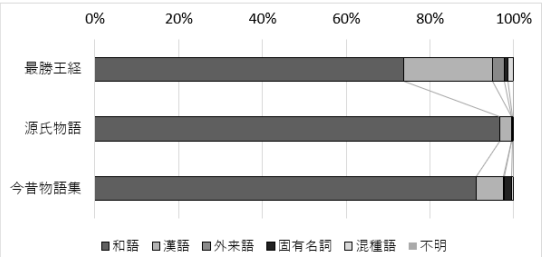
今回公開した西大寺本『金光明最勝王経』平安初期点巻一訓読文の語種の比率を、比較のため CHJ「平安時代編Ⅰ仮名文学」収録の『源氏物語』、「鎌倉時代編Ⅰ説話・随筆」収録の『今昔物語集』の語種比率とともに示すと、表 3・図 1・図 2 のようになる[8]。原漢文に訓点を記した資料であり、

[8] 記号類・未知語類は除く。

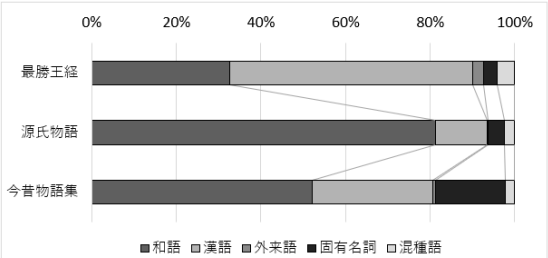
かつ補読によって和語・字音語いずれで読むか定めてもいる点で、他資料とは決定的な違いがあるものの、『最勝王経』平安初期点訓読文の語種比率が、『源氏物語』に比して漢語の比率が高く、この傾向は異なり語数でより顕著であるという『今昔物語集』の傾向をさらに際立たせた様相が認められる。『最勝王経』の混種語の比率が高いのは、字音語が関わるサ変動詞が多いことによる。

［表3］『最勝王経』平安初期点（巻一）訓読文・『源氏物語』・『今昔物語集』の語種ごとの語数

		和語	漢語	外来語	固有名詞	混種語	不明	計
最勝王経	述べ語数	6383	1847	238	79	123	0	8670
	異なり語数	390	683	31	39	49	0	1192
源氏物語	述べ語数	431130	11783	104	1200	1498	0	445715
	異なり語数	5427	821	17	257	157	0	6679
今昔物語集	述べ語数	452965	32516	888	8353	2830	7	497559
	異なり語数	4929	2696	54	1563	217	2	9461



［図1］述べ語数の語種比率



［図2］異なり語数の語種比率

6．関連データ

［表4］　ＣＨＪ版、ＸＭＬ版の比較

	ＣＨＪ版	ＸＭＬ版
ヲコト点・仮名点・補読の区別	○	○
「コ」甲類乙類、「エ」ア行ヤ行の区別	○	○
詳細な加点情報（仮名点位置、符号類等）	×	○
異訓の並記	×	○
形態論情報	○	×
横断検索	○	△

なお、本コーパスの公開に先駆けて、2021年11月に形態論情報以外のアノテーションをより高密度に付与したXML版と、全文検索が簡便にできる全文検索システム「ひまわり」用データ、およびXML版に基づく訓読文（テキストファイル）も公開した[9]。CHJ版では表示できなかったヲコト点の種類（「を」、「たまふ」、「といふ」など）や仮名点の記載位置、異訓、返読符号・合符・分別符など、より詳しい加点状況に関する情報を確認できる。調査したい内容に応じて、使い分けて欲しい。

6．さいごに

本発表では、今春公開された『日本語歴史コーパス　平安時代編Ⅱ訓点資料』の概要について報告した。本コーパスが加わることで、他のサブコーパスとの比較を通じて、当時の漢文訓読の場で使用された日本語の特徴や平安初期に残存した上代語の実態、中古語の成立過程の一端を把握でき、

[9] 国立国語研究所HP「日本語史研究用テキストデータ集」
（https://www2.ninjal.ac.jp/textdb_dataset/sksh/）

訓点資料研究および日本語史研究の更なる発展が期待される。

今回できなかった長単位の形態論情報の付与、巻二～巻十の作成と公開は、言語研究に必要な言語量や形態論情報の提供という点で、いち早く行われるべき課題である。また、本発表や柳原・近藤(2022)で述べたとおり、訓点資料という複雑な形態に対応するためのさまざまな処理を行った。適切に利用するための情報の周知や、処理の妥当性をめぐる議論、作成者側による精度の向上が望まれる。また、月本(2018)によって指摘された、訓点資料の複線性(異訓があり、本文がひとつに定めがたいこと)については、本コーパスでは最も優先度の高い読み以外は収録対象外とし、解決に至らなかった。だが、同じ830年頃の言語資料の一部が切り捨てられていることは大きな問題であり、訓点資料のコーパス化をより進めていくためには解決されなければならない課題である。

このように残された課題が多いが、訓点資料訓読文のコーパスが公開に至ったことの意義は大きい。これを端緒として、さらなる漢文系資料のコーパス開発が試みられることを期待したい。

〈謝辞〉

本発表は，国立国語研究所共同研究プロジェクト「通時コーパスの構築と日本語史研究の新展開」，JSPS科研費18H00674「訓点資料訓読文コーパスの構築と古代日本語史研究の革新」，人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学」国立国語研究所ユニット「表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化」の成果の一部です。

〈参考文献〉

小木曽智信(2013)「歴史的日本語資料を対象とした形態素解析」『自然言語処理』20(5)、2013-5、pp. 727-748
https://doi.org/10.5715/jnlp.20.727

小木曽智信(2016)「『日本語歴史コーパス』の現状と展望」『国語と国文学』93(5)、2016-5、pp. 72-85

小木曽智信(2017)「多重の読みを持つテキストのコーパス化」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』、pp. 159-162　http://doi.org/10.15084/00001470

沖森卓也・三省堂編修所(編)(2014)『三省堂　五十音引き漢和辞典　第二版』三省堂

春日政治(1942)『西大寺本金光明最勝王経古点の国語学的研究』岩波書店

ただし本コーパスの作業には、『春日政治著作集』別巻(1980、勉誠社)収録のものを用いた。

国立国語研究所(2016)『日本語歴史コーパス　平安時代編Ⅰ仮名文学』(短単位データ1.1/長単位データ1.1)
https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/heian.html#kanabungaku

国立国語研究所(2016)『日本語歴史コーパス　鎌倉時代編Ⅰ説話・随筆』(短単位データ1.1/長単位データ1.1)
https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/kamakura.html#setuwa

国立国語研究所(2022)『日本語歴史コーパス　平安時代編Ⅱ訓点資料』(短単位データ0.4)
https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/heian.html#kunten

総本山西大寺(編)(2013)『国宝　西大寺本　金光明最勝王経　天平宝字六年百済豊虫願経』勉誠出版

築島裕(編)(2007-2009)『訓点語彙集成』汲古書院

月本雅幸(2018)「訓点資料訳読文コーパスに関する一問題――訓点の複線性をめぐって――」(「「通時コーパス」シンポジウム2018」での口頭発表)

柳原恵津子・近藤明日子(2022)「『日本語歴史コーパス 平安時代編Ⅱ訓点資料』(短単位データ0.4)解説書　https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/heian.html#kunten よりダウンロード可

『日本語歴史コーパス鎌倉時代編Ⅲ軍記』の公開

片山久留美（国立国語研究所）呉寧真（大葉大学）小木曽智信（国立国語研究所）

１．はじめに

『日本語歴史コーパス鎌倉時代編Ⅲ軍記』は、国立国語研究所で構築中の『日本語歴史コーパス』（小木曽 2016）の一部として 2022 年 3 月に検索アプリケーション「中納言」上で公開された。本稿では『日本語歴史コーパス鎌倉時代編Ⅲ軍記』の概要と特徴および語彙統計の結果について報告する。

２．コーパスの概要

2.1「鎌倉時代編」における位置づけ

『日本語歴史コーパス鎌倉時代編Ⅲ軍記』（以下「本コーパス」と呼ぶ）は、『保元物語』『平治物語』『平家物語』の 3 作品をコーパス化したものである。これらの作品は、和漢混淆文の代表的な作品として鎌倉時代の重要な日本語史資料と位置づけられている。これまで『日本語歴史コーパス鎌倉時代編』ではⅠとして説話・随筆、Ⅱとして日記・紀行のデータが公開されてきた。鎌倉時代の日本語資料には、和文体の性質が強いもの・漢文訓読体の性質が強いものなどさまざまなバリエーションがあるが、本コーパスの公開によって『日本語歴史コーパス』は鎌倉時代の多様な言語資料の在り方をより一層反映したものとなったと言える。

表１　鎌倉時代編Ⅰ・Ⅱの収録作品と総語数

Ⅰ説話・随筆	Ⅱ日記・紀行
短単位　約 84.4 万語 長単位　約 79.2 万語	短単位　約 12.8 万語 長単位　約 11.8 万語
今昔物語集・宇治拾遺物語・十訓抄・方丈記・徒然草	海道記・建礼門院右京大夫集・東関紀行・十六夜日記・とはずがたり

表２　鎌倉時代編Ⅲの総語数

Ⅲ軍記		
	短単位	長単位
保元	52425	46142
平治	42428	37644
平家	236306	206982
計	331159	290768

2.2　テキストの校訂

本コーパスのテキストは、小学館『新編日本古典文学全集』（以下『新編全集』と呼ぶ）41 巻所収の『保元物語』『平治物語』、45・46 巻所収の『平家物語』を底本としている[1]。基本的には『新編全集』のテキストをそのままコーパス本文としているが、形態素解析辞

[1] 『新編日本古典文学全集』のテキストの底本は、『保元物語』『平治物語』は陽明文庫蔵本、『平家物語』は東京大学国語研究室所蔵本（通称「高野本」）である。

書「UniDic」(伝ほか 2007, 小木曽ほか 2013) による解析の支障となる可能性のある以下の①②のような箇所には校訂を加えた。いずれも「中納言」の「原文文字列」「原文 KWIC」には校訂前のテキストが表示される。

① 『平家物語』のカタカナ表記箇所

『新編全集』の『平家物語』のテキストには、底本 (高野本) に表記されていない促音・撥音・長音をカタカナ表記で補っている箇所がある。これらのカタカナ表記箇所は本コーパスのテキストにおいてはすべて平仮名表記に改めた。

(1) (新編全集のテキスト) 其御子、高望の王の時、始めて平の姓を給はッて

(平家物語・巻一『新編全集』45 巻 p.20)

(本コーパスのテキスト) 其御子、高望の王の時、始めて平の姓を給はって

(30-平家 1250_01001,4130[2])

(2) (新編全集のテキスト) 何事も六波羅様といひてンげれば

(平家物語・巻一『新編全集』45 巻 p.29)

(本コーパスのテキスト) 何事も六波羅様といひてんげれば

(30-平家 1250_01004,3080)

② くの字点・同の字点

繰り返し記号のうち、いわゆる「くの字点」については文字を繰り返す表記に改めた。「同の字点 (々)」については基本的に修正を加えずそのままとした。

(3) (新編全集のテキスト) 親の命をそむかじと、泣く〳〵又出で立ちける。

(平家物語・巻一 『新編全集』45 巻 p.42)

(本コーパスのテキスト) 親の命をそむかじと、泣く泣く又出で立ちける。

(30-平家 1250_01006, 34400)

(4) (新編全集のテキスト) 壁に耳あり、おそろし〳〵

(平家物語・巻一 『新編全集』45 巻 p.59)

(本コーパスのテキスト) 壁に耳あり、おそろしおそろし

(30-平家 1250_01009, 10430)

2.3 形態論情報の概要

本コーパスでは、短単位・長単位の 2 種類の言語単位のデータを公開した。単語分割や品詞認定にあたっては「鎌倉時代編 I」「鎌倉時代編 II」と共通の規程 (鴻野 2017) に基づいている。しかし、鎌倉時代はいわゆる古典文法がさまざまな変化を始める時期であり、同じ鎌倉時代の資料の中でも「鎌倉時代編 I」「鎌倉時代編 II」の作品群には見られない語彙・語法が現れることがある。本コーパスの形態論情報を使用する際に注意を要する点について以下に述べる。

[2] 以下挙例に際しては、「中納言」のサンプル ID と開始位置の情報を付す。

① 意志・推量を表す形

本コーパスには、(5)のように意志・推量を表す形式として「～う」の形を取る例が見られる。これは「鎌倉時代編Ⅰ・Ⅱ」には見られない形で、本コーパスにおいても「思はむ」のように「～む」の形を取る例が 1696 例見られる一方、「～う」の形の使用は 82 例に留まる。室町時代の狂言やキリシタン資料では多く現れる形式のため、「室町時代編」では助動詞「む」から独立した形式として語彙素「う」という助動詞を用いて処理しているが、本コーパスでは助動詞「む」からの変化の過渡期的な例と見て、語彙素「む」の語形「う」として形態論情報を付与している。

(5)まづ門出のあしさよ。逆櫓を**たてう**とも、かへさま櫓をたてうとも、殿原の舟には百挺千挺もたて給へ。(平家物語・巻十一)

語彙素「立てる」動詞-一般, 文語下二段-タ行, 未然形-一般（30-平家 1250_11001, 13440）

語彙素「む」助動詞, 無変化型, 終止形-一般（30-平家 1250_11001, 13460）

(6)すこし成ともにたやうにちいさう**たてう**とおもふほどになんじもよくみておけ

（虎明本狂言集・おにがわら）

語彙素「立てる」動詞-一般, 文語下二段-タ行, 未然形-一般（40-虎明 1642_02005, 9280）

語彙素「う」助動詞, 無変化型, 終止形-一般（40-虎明 1642_02005, 9300）

② 連体詞の処理

「鎌倉時代編」の短単位の形態論情報の規程では、「我が（ワガ)」「其の（ソノ)」などの語について、代名詞と助詞に分割できるものは連体詞とせず 2 短単位に分割するとしている。しかし、本コーパスでは漢字一字で表記され 2 短単位に分割することができない例が見られる。こうした場合、テキストを校訂し助詞を補うことはせず、例外的に語彙素「我が」「其の」など一語の連体詞として処理している。

③ 姓と地名

本コーパスには、作品の性質上多くの武士・貴族の名前が登場する。武士の名前の中には、本拠とする地名をそのまま家名または名字として名乗る例が多い。こうした地名に由来する名字について、本コーパスでは基本的に品詞を「名詞-固有名詞-人名-姓」としている。ただし、文脈上地名としての用法であることが明らかな場合は「名詞-固有名詞-地名-一般」として扱った。

(7)五月十日、伊豆の**北条**にくだりつき、流人前兵衛佐殿に令旨奉り

名詞-固有名詞-地名-一般（平家物語・巻四　30-平家 1250_04003, 17680）

伊豆国流人右兵衛佐頼朝、しうと**北条**四郎時政をつかはして

名詞-固有名詞-人名-姓（平家物語・巻五　30-平家 1250_05004, 590）

したしうなって候なれば、**北条**は知り候はず、自余の輩は、よも朝敵が方人をば仕り候はじ。

名詞-固有名詞-人名-姓（平家物語・巻五　30-平家 1250_05004, 5340）

3．語彙統計

本コーパスに収録されている軍記 3 作品は、和漢混淆文の代表的な作品としてこれまでもその文体や語彙的な特徴について論じられてきた。ここでは本コーパスのデータと、「鎌倉時代編 I 説話・随筆」「II 日記・紀行」および「室町時代編 I 狂言」「II キリシタン資料」の各作品のデータを用いて語種構成の比率を対照する。「鎌倉時代編」に収録されている和漢混淆の程度が異なる作品群および後続する「室町時代編」、特に『平家物語』を原拠として編まれた『天草版平家物語』と対照することで、語種の観点から軍記 3 作品の語彙的な特徴の一端を明らかにすることを試みる。

表 3・表 4 は、各作品の短単位データから付属語・固有名詞・記号等を除いた語数を語種別にまとめたものである[3]。表 3 は延べ語数、表 4 は異なり語数によって示した。総語数に占める語種「漢」の割合を「漢語率」として表の右端に示し、漢語率の高い順に作品を並べた。また、本稿末尾に掲載した図 1・図 2 は表 3・表 4 のデータをもとに各作品の語種構成比率をグラフとして示したものである。

延べ語数・異なり語数ともにもっとも漢語率が高いのは『平家物語』であり、『保元物語』『平治物語』も同時代作品の中では高い漢語率であることが確認された。和漢混淆文の中でも漢文訓読体の性質が強いとされる『海道記』も上位となっている。『天草版平家物語』は『天草版伊曽保物語』とともに延べ語数の漢語率では上位に位置するものの、異なり語数ではさほど漢語率が高くない。『平家物語』の漢語語彙の豊富さと、『天草版平家物語』で難解な漢語の使用が避けられる傾向を示唆する結果となっている。

4．おわりに

本稿では『日本語歴史コーパス鎌倉時代編Ⅲ軍記』のテキスト・形態論情報の概要と語彙統計の結果を報告した。軍記 3 作品のデータが追加されたことにより、平安時代から鎌倉時代、室町時代にかけての日本語の歴史的変化をより詳細に捉えることが可能となった。

本コーパスには、地の文・会話・歌などを区別する「本文種別」の情報などが用意されており、検索アプリケーション「中納言」を通じてさまざまな研究に応用することが可能である。本コーパスの公開によって、近年着実に増加している『日本語歴史コーパス』を用いた研究がさらに活発になることが期待される。

---

[3] データの作成にあたっては、「鎌倉時代編 I・II」および「室町時代編 I・II」については「『日本語歴史コーパス』短単位統合語彙表」（バージョン 2021.03）を使用した。「鎌倉時代編Ⅲ」については本稿執筆時点では「統合語彙表」に含まれていないため、構築時のデータを用いて SQL サーバーによってデータを取得した。各作品の全短単位データのうち、「品詞」の「中分類」が名詞-普通名詞、名詞-数詞、代名詞、連体詞、副詞、接続詞、感動詞-一般、動詞-非自立可能、動詞-一般、形容詞-非自立可能、形容詞-一般、形状詞-一般、形状詞-タリに当たるものを取り出し、語種ごとに延べ語数・異なり語数をまとめた。図表の作成にあたっては田中（2015）を参考にした。

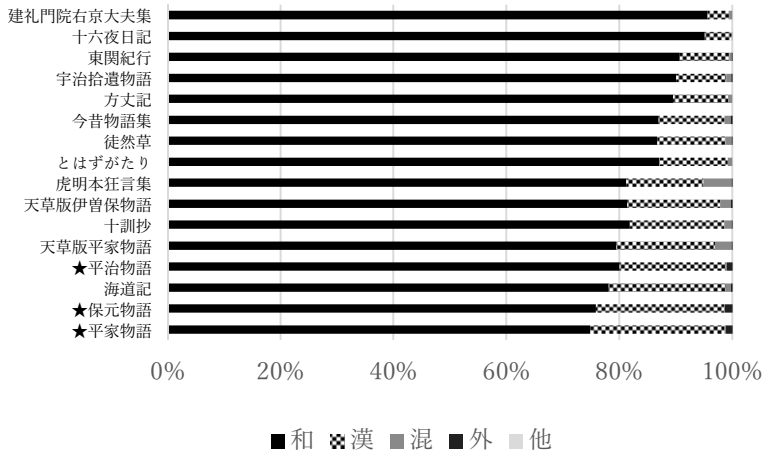
表３　付属語・固有名詞等を除いた各作品の語種別延べ語数

	和	漢	混	外	他	計	漢語率
★平家物語	77632	24647	218	1228	1	103726	23.8%
★保元物語	17053	5104	37	301	1	22496	22.7%
海道記	6658	1767	81	21		8527	20.7%
★平治物語	13695	3222	27	176		17120	18.8%
天草版平家物語	37250	8215	1381	65	1	46912	17.5%
十訓抄	30441	6233	485	59	1	37219	16.7%
天草版伊曽保物語	9945	2015	234	33		12227	16.5%
虎明本狂言集	101933	17177	6208	207	27	125552	13.7%
とはずがたり	29267	4089	233	44		33633	12.2%
徒然草	15467	2148	199	25		17839	12.0%
今昔物語集	227561	30566	2830	888	8	261853	11.7%
方丈記	2355	256	19	2		2632	9.7%
宇治拾遺物語	47601	4668	484	103	1	52857	8.8%
東関紀行	3150	305	14	6		3475	8.8%
十六夜日記	3492	175	4	2		3673	4.8%
建礼門院右京大夫集	8072	320	48	5		8445	3.8%

表４　付属語・固有名詞等を除いた各作品の語種別異なり語数

	和	漢	混	外	他	計	漢語率
★平家物語	4067	3950	225	52	1	8295	47.6%
海道記	1546	1290	56	16		2908	44.4%
十訓抄	2954	2345	147	24	1	5471	42.9%
★保元物語	2155	1640	102	19	1	3917	41.9%
今昔物語集	4781	2608	217	54	3	7663	34.0%
★平治物語	1834	980	64	8		2886	34.0%
徒然草	2307	1034	72	17		3430	30.1%
天草版伊曽保物語	1781	768	76	16		2641	29.1%
虎明本狂言集	5500	2310	285	35	20	8150	28.3%
とはずがたり	2656	1066	81	20		3823	27.9%
天草版平家物語	3797	1458	134	37	1	5427	26.9%
宇治拾遺物語	3271	1027	113	24	1	4436	23.2%
東関紀行	962	224	9	6		1201	18.7%
方丈記	884	203	15	2		1104	18.4%
建礼門院右京大夫集	1414	136	21	4		1575	8.6%
十六夜日記	976	80	4	1		1061	7.5%

【参考文献】
小木曽智信,小町守,松本祐治（2013）「歴史的日本語資料を対象とした形態素解析」『自然言語処理』20 巻 5 号 pp.727-748　https://doi.org/10.5715/jnlp.20.727
小木曽智信 (2016)「『日本語歴史コーパス』の現状と展望」『国語と国文学』93 巻 5 号 pp.72-85
国立国語研究所コーパス開発センター(鴻野知暁）編（2017）「『日本語歴史コーパス鎌倉時代編』短単位規程集」Ver1.0　https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/doc/morph_kamakura_v1_0.pdf
田中牧郎（2015）「『日本語歴史コーパス』による平安時代と室町時代の語彙の比較」『国語研プロジェクトレビュー』6 巻 1 号 pp.11-20　http://doi.org/10.15084/00000797
伝康晴，小木曽智信，小椋秀樹，山田篤，峯松信明，内元清貴，小磯花絵（2007）「コーパス日本語学のための言語資源：形態素解析用電子化辞書の開発とその応用」『日本語科学』22 号 pp.101-123　https://doi.org/10.15084/00002185
【使用資料】
国立国語研究所（2022）『日本語歴史コーパス鎌倉時代編Ⅲ軍記』（短単位データ 1.0/長単位データ 1.0）https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/kamakura.html#gunki
国立国語研究所（2021）『日本語歴史コーパス』バージョン 2021.3 https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/
国立国語研究所通時コーパスプロジェクト，小木曽智信「『日本語歴史コーパス』短単位統合語彙表」（バージョン 2021.03）http://doi.org/10.15084/00003467



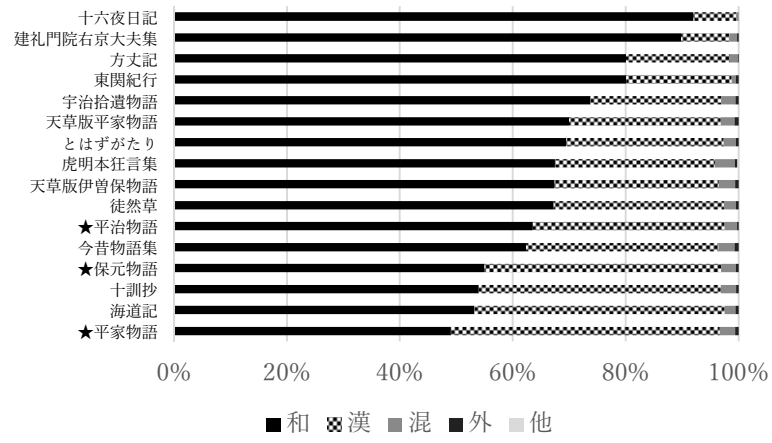


図１・２　語種構成比率
（上段）延べ語数
（下段）異なり語数

【付記】本稿は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「通時コーパスの構築と日本語史研究の新展開」の研究成果を報告したものである。

『日本語歴史コーパス 明治・大正編VI落語 SP 盤』の公開

服部紀子（目白大学）
松崎安子（国立国語研究所）
小木曽智信（国立国語研究所）

1．はじめに

本稿では，2022 年春に公開した『日本語歴史コーパス　明治・大正編VI落語 SP 盤』（短単位データ 0.9）（以下，「明治・大正編VI落語 SP 盤」）の概要について報告する。国立国語研究所は，通時的に日本語史研究ができるよう，『日本語歴史コーパス』（以下，CHJ）として，奈良時代から昭和初期にわたる文献資料を収録したコーパスの開発を進めてきた。しかし，その一方，音声データをもとにした言語資料のコーパス化はこれまで行われてこなかった。今回，公開した「明治・大正編VI落語 SP 盤」は，CHJ において初の試みとなる音声データのコーパス化，すなわち，SP 盤に録音された落語を収録している。そこで，その概要および構築過程について報告し，すでに公開されているサブコーパスと合わせることで，近代語研究において十分に有用なデータとなっていることを示したい。

2．「明治・大正編VI落語 SP 盤」の概要

CHJ では，これまであらゆるジャンルの文献資料のコーパス開発を行ってきた。表 1 は現在公開されているサブコーパスおよび 2022 年 3 月に公開したサブコーパスである。

表 1　公開したサブコーパス

奈良時代編	☑ I 万葉集　☑ II 宣命　☑ III 祝詞	
平安時代編	☑ I 仮名文学　■ II 訓点資料	☑和歌集
鎌倉時代編	☑ I 説話・随筆	
	☑ II 日記・紀行	
	■ III 軍記	
室町時代編	☑ I 狂言	
	☑ II キリシタン資料	
江戸時代編	☑ I 洒落本　☑ II 人情本	
	☑ III 近松浄瑠璃	
	☑IV紀行・随筆	
明治・大正編	☑ I 雑誌　☑ II 教科書	
	☑ III 明治初期口語資料	
	☑IV 近代小説	
	■ V 新聞　■VI 落語 SP 盤	

（☑はすでに公開済，■は 2022 年 3 月公開）

今回公開した「明治・大正編VI落語 SP 盤」の最大の特徴は，CHJ の中で初めて音声データを取り扱った点にある。また，従来，書き言葉を対象としてきた「明治・大正編」の中で初めて話し言葉を主対象とした点も新しい。さらに，CHJ の「江戸時代編」では，「Ⅰ洒落本」，「Ⅱ人情本」，「Ⅲ近松浄瑠璃」と近世の話し言葉研究には欠かせない言語資料を，順次，収録して公開してきた。これらは，明治時代以前における口語の実態を知る手掛かりとなる言語資料であり，「明治・大正編VI落語 SP 盤」とともに調査することで，近世から連続する話し言葉の実態を把握することが期待される[1]。

本コーパスは，SP 盤の落語に関する先行研究でもある金澤・矢島編（2019）で扱われた作品を収録対象としている。同書では，扱う資料の範囲に「一定の時代的限定」を設ける必要があると考え，作品選定の観点として「①演者（落語家）の生年」「②録音の行われた年」「③レコードが発売された年」の 3 つを掲げた。まずは，東京落語について次のように述べている。

> 《前略》この分野の開拓者である清水康行氏による東京語研究の場合を参考にすると，同氏がキーワードとすることの多い「二十世紀初頭」と限定した場合の調査対象は，1903 年から，輸入盤時代の最後と言える 1911（明治 44）年までに録音・発売されたものであり，実際に調査対象となった作品は約 70 点，時間にして 3 時間半程度の分量とのことである。そこで今回の文字化においても，基本的にはこの清水氏の考え方を踏襲し，《以下略》（pp.36-37）

このように述べ，東京落語は 12 名の演者による 69 作品を選定し，さらに，年代が範囲内で，当時の日本語研究資料として有用と判断した外国人落語家，快楽亭ブラックの 7 作品を加えている。また，大阪落語については次のように述べる。

> 一方，大阪落語に関しては，この時期の録音が東京で行われたということから容易に想像がつく通り，東京落語の場合と比較すると絶対量が格段に少ないため，理想から言えば東京の場合と同じ内容の時間的限定を付けたいところだが，致し方なく，もう少し範囲を広げざるを得ない状況にあると思われる。《中略》分量の分で枠をある程度広めにとり，大正末（15〈1926〉）までを許容範囲とすることにした。(p.38)

このような過程を経て，大阪落語の中から 51 作品を選定している。

本コーパスは以上に基づき，収録作品を東京落語 76 作品，大阪落語 51 作品の計 127 作品として，これらに形態素解析辞書 UniDic（小木曽 2014）の体系に基づく短単位情報を付与し，検索アプリケーション「中納言」を通じて公開した。東京落語，大阪落語の短単位数は表 2 の通りである。

---

[1] SP 盤落語を資料とする日本語史研究における位置づけや音声資料としての貴重性については，金澤裕之・矢島正浩編(2019)に詳しい。

表２　東京落語および大阪落語の短単位数（記号を除く）

	短単位数
東京落語	46,918
大阪落語	37,911
総計	**84,829**

上記のように選び，コーパス化した落語テキストは「中納言」上で公開することにより，さまざまな検索が可能となった。付与された形態論情報は UniDic の体系に基づき，語彙素・語形・書字形といった階層構造を持つことから，表記や語形の揺れに関わらず一括して検索することができる。3.3 でも示すように，「明治・大正編VI落語 SP 盤」ではこれまでの文献資料では見られなかった語形や活用語の融合形が出現する。バイナリテキストデータからそれらをすべて抽出するには文字列検索では正確性を欠く。しかし，本コーパスのように階層構造を持つ UniDic の体系に基づいて形態論情報が付与されていれば，語形，発音形の異形から検索しても，それらをまとめ上げた上位の階層にある語彙素，語形にたどり着き，使用数を知ることが可能となる。

また，検索結果をダウンロードすることで，Excel ピボットテーブルを活用した集計表等の作成が容易となる。例えば，録音年別短単位数を集計し，グラフにしたものが図１である。

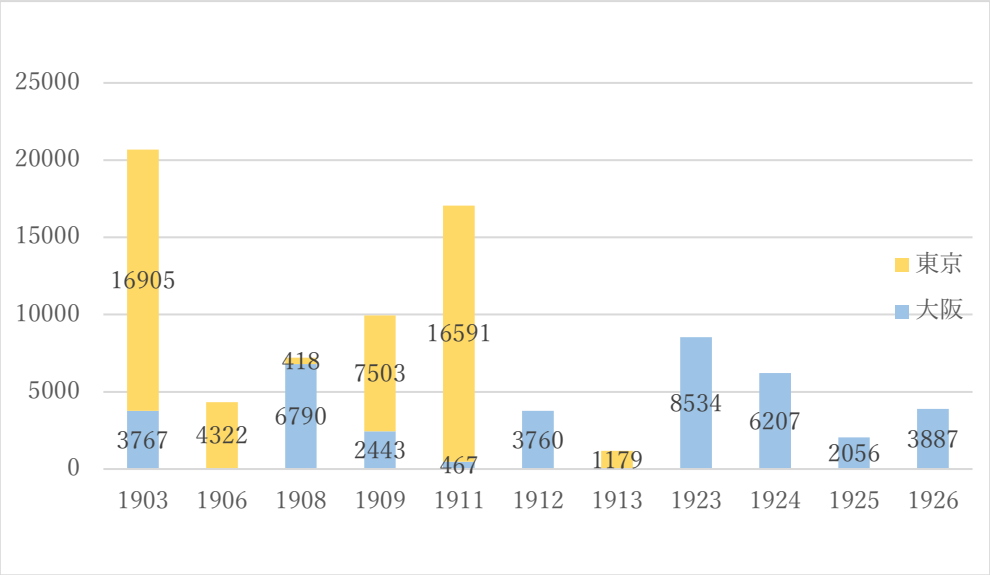


図１　録音年別の短単位数

本コーパスの開発にあたっては，金澤・矢島編（2019）で使用された文字化データを基礎とするが，その際，自動解析結果に対する人手修正を最小限にすることを目的としてテキストを整備し，また，他のサブコーパスとの連携を考慮してアノテーションを施している。以下では，開発時に課題となった３点について報告する。

3. コーパス開発時の課題と対処法

3. 1　テキストの整備

前節で述べたように，本コーパスは金澤裕之・矢島正浩編（2019）で文字化されたデータを基礎としているが，自動形態素解析の障害となるような表記を可能な範囲で修正し，本文を整えた。その際，音声データのノイズを可能な範囲で取り除く処理を施し，それに基づいて適宜修正を加えた。音声に基づくため，表記は不問であるが，基本は漢字ひらがな交じり文とし，長音や促音，漢字表記や仮名遣いなどは，現代の一般的な表記となるように修正した。例えば，「太鼓持ち」について文字化されたデータでは「幇間（たいこもち）」としていたが，一般的な表記「太鼓持ち」へと修正し，自動解析の精度向上を図った。

（例）急に旦那がお立ちになりまして，これから幇間（たいこもち）を二人，一緒にご飯を召し上がっていらっしゃるようなご様子で　（『成田小僧』）

➡修正：急に旦那がお立ちになりまして，これから太鼓持ちを二人，一緒にご飯を召し上がっていらっしゃるようなご様子で　（60R 圓遊 1903_01002）

3. 2　アノテーション

周知のとおり，話芸としての落語の構造は，落語家による語り（地語り）を基盤とし，その中に演目の登場人物による会話が展開するという入れ子型となっている（図 1）。

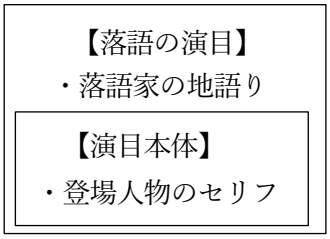


図 2　落語の演目の構造

本コーパスでは，演目本体を包括する落語家の地語りを含めたひとまとまりを 1 演目と捉え，それを 1 サンプルとした[2]。

このように各サンプルは個別の ID のほか付加情報として書誌的情報（落語家・録音年・地域等に関する情報）を有する。それらを含んだ各サンプルは，個別に認識が可能[3]な 15 桁の ID

表 3　本コーパスにおけるサンプル ID の構成

1-2桁目		3桁目		4-5桁目		6-9桁目	10桁目	11-12桁目		13-15桁目
時代 通し番号		ジャンル		作品ID		録音年 （西暦）	区切り 記号	地域		通し番号
60 70	明治 大正	R	落語	nn	落語家略名	yyyy	-	01 02	東京 大阪	地域内連番

[2] 音声資料によっては二つの演目の語りが連続し，明確に分割することが困難な場合もあり，「大学・手と足の喧嘩」や「近江八景・小噺」のように作品を 1 サンプルにまとめたものもある。

[3] 東京落語において「菅原息子」，「山号寺号」，「豊竹屋」「浮世風呂」などは演目名が同じであるが，作品 ID，録音年，通し番号がそれぞれ異なるため，検索用例を含むサンプルが一意に定まる。

を有する。その構成は表３のようになる。

そのうえで，収録後同じ時代編となる「明治・大正編」，および「江戸時代編」のサブコーパスとの併用を鑑み，会話文のタグ付けや話者情報の付与などのアノテーションをおこなった。

すなわち，演目中の登場人物らの会話部分を本文種別「会話」とアノテーションした。加えて，各セリフについては，その話者名が特定できる場合は具体的な名を，特定が不可能な場合は，話中における立場（例：大家，住人）や役割（例：訪問者，接待者）をアノテーションした。立場，役割とも捉えがたい場合は単に性別（例：男（甲），男（乙））と情報を付与した場合もある[4].

3. 3　形態論情報の付与

落語 SP 盤の音声データには，活用形の融合や感動詞，副詞の語形などに，ほかのサブコーパスには見られなかった特殊な語形が現れた。そのため，自動形態素解析の結果に人手修正を加える際，形態素解析辞書 UniDic の体系に基づいて形態論情報を付与した。

例 1）そりゃあ誰でも知ってらあな。（助動詞「てる」終止形-融合）

（60R 小さ 1911_01028,6430）

例 2）おーね，甘酒やわに体動かいでもようしっちゅやっちゃ。（感動詞）

（70R 文團 1925_02016, 20950）

例 3）その朝は，大そうようくやりましたが，（副詞「良く」）

（60R むら 1906_01041,733）

ただし，一部には UniDic の体系に基づかない次のような特殊な品詞がある。

ⅰ　**解釈不明**…語の解釈が困難なため，解釈を保留した文字列．確定材料がなかったもの。

例 4）先生，あなたの，デンチタノ，こう，みやげで評判のお話をするたあを伺いとうがすなぁ。

（60R 圓遊 1903_01010,300）

ⅱ　**外国語**…英単語のローマ字表記部分.

例 5）英国の格言で，Marry in haste, and repent at leisure という言葉がございます。

（60R ブラ 1903_01076,70～）

ⅲ　**経文**…経文や願文の一部で，連続的に漢字の字音で発音していたもの.

例 6）我昔所造，諸悪業皆由，無始貪瞋癡

（60R 枝雀 1909_02026, 6420～）

ⅳ　**言いよどみ**…非語彙的な発音。本来発音される短単位の一部の音などが，短単位とはならないレベルで発音されたもの.

例 7）「エー，いつでも私が，**お**，起きて開けてあげますからなんてェのは，」

（60R 小さ 1911_01029,2090）

例 8）あなたの倅，佐兵衛の倅の佐太郎が，ただ今，**帰**…。

---

[4] 真田・金澤（1991）を参考とした。

（60R 小さ 1911_01029,6440）

v　**読取不可**…音声の聞き取りが困難で，それが二字以上にわたるような場合は「⇦_⇨」をあて[5]，その箇所を「読取不可」とした．

例 9）日本は少し，少しさかい，⇦_⇨そうかって言ったら嘘はない。

（60R 文三 1903_02018,2120）

なお，これらの特殊な品詞の付与された短単位は「中納言」検索結果表示において形態論情報に関する項目のうち，「前文脈」「キー」「後文脈」「原文 KWIC」「品詞」「原文文字列」「振り仮名」[6]以外は空欄となっている。

4．おわりに

今回の公開は書き起こしテキストのみであるが，将来的に音声データとの関連付けを行うことを計画している。本コーパスと「明治・大正編」の既存のサブコーパスとを合わせることで近代語を多角的，複層的にとらえることが可能となることから，近代語研究のますますの活発化を期待する。

参考文献・関連 URL

池上尚(2016)「『今昔物語集（本朝部)』のデータについて」
https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/doc/abstract-kamakura-2016.pdf で公開

小木曽智信(2014)「歴史コーパスにおける形態素解析と辞書整備」『日本語学』432 pp.83-95 明治書院

小木曽智信(2016)「『日本語歴史コーパス』の現状と展望」『国語と国文学』93(5) pp.72-85 明治書院

金澤裕之・矢島正浩編(2019)『SP 盤落語レコードがひらく近代日本語研究』笠間書院

国立国語研究所(2021-)『日本語歴史コーパス』https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/

真田信治・金澤裕之編(1991)『二十世紀初頭大阪口語の実態―落語 SP レコードを資料として―』大阪大学文学部社会言語学講座

付記

本研究は，国立国語研究所の共同研究プロジェクト「通時コーパスの構築と日本語史研究の新展開」の研究成果を報告したものである。

---

[5] 池上尚（2016）4pp.で解説されているうちの「[２] 意識的欠字　b.具体表記保留」の表示形式を適用する。本コーパスでは「⇦_⇨」と表示する箇所が「意識的」な欠字ではなく，単に，テキストとして具体的な表記が不可能であることを表す。

[6] 本コーパスでの振り仮名は，本文とした漢字表記に複数の読みが考えられる場合，人手による形態論情報修正を行う際，音声データ通りの読みに従い確実に修正できるよう，作業の便宜上付したものである。

『日本語歴史コーパス　明治・大正編Ｖ新聞』の公開

髙橋雄太*　仲村怜*　間淵洋子**　小木曽智信*
*国立国語研究所　**和洋女子大学

1. はじめに

国立国語研究所では、上代から近代までの日本語を通時的に研究するための基礎資料として、『日本語歴史コーパス』[1]（以下、CHJ）の構築を進めている。本発表では、その「明治・大正編」の第五弾として 2022 年 3 月に公開した『日本語歴史コーパス　明治・大正編Ｖ新聞』について、概要と特色を報告する。

2. コーパスの概要

2.1 新聞の概要と資料の選定

新聞は明治時代に入って発達したメディアであり、幅広い読者層によって日常的・継続的に読まれた、当時の日本語を計り知ることのできる重要な言語資料である。新聞には近代において、知識層をターゲットとした大新聞と庶民層をターゲットとした小新聞の二系統が存在し、本サブコーパスは小新聞の代表的な資料であり、現代にも継続して刊行されている『読売新聞』をコーパス構築の対象に選定した。『読売新聞』をはじめとする小新聞は、教育を受けない庶民層でも読みやすいように、①文体や表現が平易、②振り仮名が施されている、③記事毎の分量が少なく紙幅も狭い代わりに安価、④政治論説の記事が少ない代わりに市井・社会記事が多く寄書や小説も積極的に掲載する、といった工夫が施され、大衆メディアとしての特徴がある（土屋 2002）。また、言文一致後の口語体とは異なる話し言葉の文体である「談話体」（進藤 1971）が『読売新聞』の初期にもみられる。次の（1）や（2）のように、談話体に特徴的にみられる丁寧体や終助詞、感動詞が多く出現する。

（1）夫に麥湯の姉さんたちは極樂でなければ成りませぬぞ
（無署名記事『読売新聞』1875 年 5 月 2 日）
（2）こんな事をいツたら不動さまの罰があたるか知らんノウバカ、サンザンダァ
（無署名記事『読売新聞』1875 年 5 月 3 日）

『読売新聞』はこのような談話体を中心とした文体から始まり、文語体を経て口語常体中心に変遷するなど、短期間に著しく文体が変化した媒体でもあり、それらの文体変化を計量的に分析できる意味でも、コーパス化の意義が非常に高い資料であるといえる。

[1] CHJ の概要については、小木曽（2016）を参照。

2.2　コーパスの設計と基本情報

本コーパスは、共著者である間淵洋子の科学研究費の助成を受けた個人開発の『読売新聞』の通時的コーパスの構築に始まり、国立国語研究所の通時コーパスプロジェクトが協力することでCHJでの公開に至った。コーパス設計の基本方針や考え方については、間淵（2018）を参照されたい。

CHJの「明治・大正編Ⅴ新聞」は「明治・大正編Ⅰ雑誌」とのメディア間比較を可能とするため、「Ⅰ雑誌」と同じ1875年、1881年、1887年、1895年、1901年、1909年、1917年、1925年の8か年を収録対象年次とした。「Ⅰ雑誌」のコアデータ（人手修正が全編にわたって施されたデータセット、各年およそ3~4万語）と同程度の語数を各年で確保できるよう、特殊な時期（年・年度・月の始めおよび末）を避けて、5月2日と11月2日と定めた（2日が休刊日の場合、3日を採用した）。収録対象とする範囲は各号（1日分）全体とした。ただし、明治期は1号あたりの頁数（語数）が少ないため、語数が充足する程度まで3日以降の続く号も収録対象とし構築を進めた。本コーパスの収録年月日と、各年の記事数と短単位の概数の一覧を、表1に示す。

表1　コーパスの収録範囲と言語量

収録年	紙面数（一号につき）	収録月日	記事数	短単位数（万）
1875（明治8）年	2	5月2、3、4、5、7、8、9日・11月2、4、5、7、8、9、10日	314	4.4
1881（明治14）年	4	5月2、4、5、6日・11月2、4、5、6日	291	5.1
1887（明治20）年	4	5月3、4、5日・11月2、3日	243	4.6
1895（明治28）年	6	5月2日・11月2、3日	203	5.1
1901（明治34）年	6	5月2、3日・11月2日	205	5.6
1909（明治42）年	6	5月2日・11月2日	123	4.7
1917（大正6）年	8	5月2日・11月2日	161	5.7
1925（大正14）年	8	5月2日・11月2日	194	6.2
計			1734	41.4

なお、このほかの詳細なテキストの校訂、形態論情報の付与方針については、髙橋（2022）にて解説しているので、参照の上コーパスを利用されたい。

また、明治・大正期の『読売新聞』は前述の通り文体変化に特色がある。本コーパスの収録範囲の文体[2]の推移を記事数の観点で示すと図1のように、短単位の観点で示すと図2のようになる。

[2] 文末表現による分類を行った。「だ」「である」「た」中心であれば「口語」記事と、「なり」「たり」「き」「けり」「つ」「ぬ」「り」中心であれば「文語」記事と判定した。

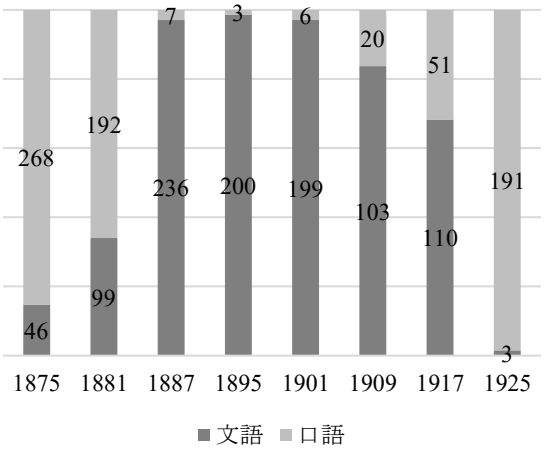


図1『読売新聞』の文体推移（記事数）

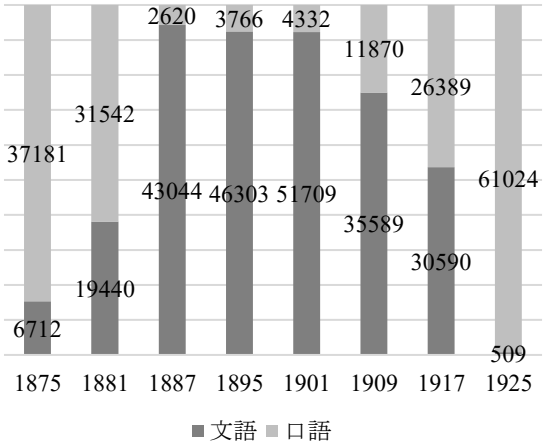


図2『読売新聞』の文体推移（短単位）

創刊当時は口語記事中心であり、1887 年には文語中心に変化し、1909 年頃から再び口語化する過程が見てとれる。1887 年の『読売新聞』の紙面上で『読売新聞』主筆の高田早苗が、もはや「大新聞」と「小新聞」の区別はないことを述べていることを土屋（2002）が指摘する通り、「大新聞」と「小新聞」の概念の形骸化がコーパスデータにおいても確認できる。

また、各年の記事あたりの平均短単位数を算出すると、1875 年が 139.8、1881 年が 175.2、1887 年が 187.9、1895 年が 246.6、1901 年が 273.4、1909 年が 385.8、1917 年が 353.9、1925 年が 317.2 であった。紙面の拡大とともに記事毎の規模も拡大傾向にあり、最初期の「小新聞」の特徴であった紙幅と記事の規模についても変化がみられる。

2.3　原本画像リンクと作者情報のリンク

本コーパスの用例は、「中納言」の検索結果から「底本リンク」列にあるリンクから、原本画像を参照することができる。図 3 にあるような「底本リンク」列のアイコンをクリックすると、当該用例のあるページ（記事）にアクセスすることが可能である。ただし、画像の閲覧には別途「ヨミダス歴史館」との有償の契約、「ヨミダス歴史館」が利用できる環境が必要であり、「ヨミダス歴史館」へのログイン状態でないとリンクが作動しないことに留意する必要がある。また、同じく図 3 の「中納言」の検索結果の作者欄にある作者名をクリックすると、（人物の同定ができた作者に限って）国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス（Web NDL Authorities）の作者情報にアクセスすることができる。

図 3　「中納言」上での原本画像と作者情報のへリンク

３．形態論情報

3.1　形態論情報の概要

本コーパスの形態論情報は、原則的には公開済みの『CHJ　明治・大正編』と同一の基準で付与してあり、互換性がある。原則として底本の本行のテキストを主本文として、それに対して形態論情報（語彙素・語彙素読み・品詞・活用型・活用形等の語に関する情報）を付与した。テキストの読みは右ルビのある場合はそれに拠った。

形態論情報は短単位のみ付与しており、長単位は未実装である。短単位の形態論情報は、形態素解析辞書「UniDic」[3]を使用した形態素解析に基づき、人手により修正することで付与した。

「明治・大正編Ｖ新聞」の短単位バージョン 0.7 は、全編を「非コアデータ」として公開する。人手による形態論情報の修正がおおよそのデータに施されてはいるが、部分的に形態素解析の結果をそのままに残しているため、誤解析が含まれることに留意する必要がある。2022 年 3 月計測時には、本サブコーパスの形態論情報の精度（適合率）は、97.1%となっている[4]。

3.2　短単位を超えた読みを持つテキストに対する形態論情報の付与

『読売新聞』の最初期には、主に布告の部分に（3）のような返読表現、また全編にわたり（4）のような短単位を超える読み（ルビ）が付された文字列が多く出現する。特に（4）のような振り仮名は、漢字や漢語に親しみのない読者層にも内容を理解してもらう

[3] 「UniDic」の基本情報については伝ほか（2007）を、歴史的な資料を対象とした辞書ならびに形態素解析については小木曽ほか（2013）を参照。
[4] ここでいう精度（適合率）は、語彙素の指定誤りに限らず、語彙素が正しく指定されていながらも、語形や活用型、活用形の指定の誤りがみられたものも含む数値である。

ための配慮であるとともに、江戸時代の戯作由来の形式でもあったことがいわれている（進藤 1971）。

（3）但し先般紛失の半圓札引換方申出候者有之（これある）節も本文同様相心得可申事

（大隈重信「〇乙第六十五號」『読売新聞』1875 年 5 月 4 日）

（4）尤も時刻未だ午後四時に至らざる時は暫らく猶豫いたし四時に至り候へば議長砂漏（すなどけい）を用ひて時を計り二分を過ぐるを俟ちて更に計算いたし候

（高田早苗「◎國會問答　議員の出席（三十日の續き）」『読売新聞』1887 年 11 月 2 日）

本コーパスでは同一文字列に対して複数の形態論情報を付与する機能[5]を用いて、文字列を維持しつつ（返読などのテキストの校訂を行わず）、また形態論情報の規程に基づいて、読み通りの形態論情報を付与した。（3）については、語彙素「此れ」で検索をしても、語彙素「有る」で検索をしても下線部のレコード（有之）が検出され、（4）についても、語彙素「砂」で検索をしても、語彙素「時計」で検索しても下線部のレコード（砂漏）が検出される。

この処理を行ったレコードは、「明治・大正編Ｖ新聞」全体で 417 件あり、年別には、1875 年が 306 件、1881 年が 27 件、1887 年が 33 件、1895 年が 8 件、1901 年が 15 件、1909 年が 15 件、1917 年が 10 件、1925 年が 3 件であった。大正期以降の用例はほぼ布告中のもの、あるいは上述の「有之」や、「不申（もうさず）」「如左（さのごとし）」などの固定的に用いられる返読表現に限られ、大正期の『読売新聞』では（4）のような漢語文字列に対する注釈的な振り仮名が、あまり用いられなくなったことが示唆される。

4. おわりに

以上、「明治・大正編Ｖ新聞」の概要と特色について述べた。本コーパスの公開によって、新聞メディアの黎明期の統計的な分析が可能となった。また他の「明治・大正編」のサブコーパスとのジャンル間比較も期待される。

なお、現在昭和期から平成期にかけて通時的な『読売新聞』のコーパスが構築中である（近藤ほか 2020）。昭和・平成期の『読売新聞』のコーパスを含む『昭和・平成書き言葉コーパス』は 2023 年 3 月の公開予定である。公開の折には、合わせて利用されたい。

参考文献

小木曽智信・小町守・松本裕治（2013）「歴史的日本語資料を対象とした形態素解析」『自然言語処理』第 20 巻 5 号、計量国語学会、pp.727-748.

[5] 詳しくは、小木曽（2017）を参照。

小木曽智信（2016）「『日本語歴史コーパス』の現状と展望（古典語研究の新展開）」『国語と国文学』第 93 巻 5 号、明治書院、pp.72-85.
小木曽智信（2017）「多重の読みを持つテキストのコーパス化」『言語資源活用ワークショップ 2016 発表論文集』国立国語研究所、p.159-162、https://repository.ninjal.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1486&file_id=48&file_no=1.
国立国語研究所（2022）『日本語歴史コーパス　明治・大正編Ｖ新聞』（短単位データ 0.7）https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/meiji_taisho.html#shinbun
近藤明日子・小木曽智信・髙橋雄太・田中牧郎・間淵洋子（2020）「昭和・平成書き言葉コーパス」の設計」『2020 年度日本語学会秋季大会予稿集』日本語学会
進藤咲子（1971）「第六章　明治初期の小新聞にあらわれた談話体の文章」『明治時代語の研究―語彙と文章―』明治書院、pp.305-323.
髙橋雄太（2022）「『日本語歴史コーパス　明治・大正編Ｖ新聞』（短単位データ 0.7）概説書」https://ccd.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/doc/abstract-shinbun-202203.pdf.
土屋礼子（2002）『大衆紙の源流　明治期小新聞の研究』世界思想社.
伝康晴、小木曽智信、小椋秀樹、山田篤、峯松信明、内本清貴、小磯花絵（2007）「コーパス日本語学のための言語資源：形態素解析用電子化辞書の開発とその応用」『日本語科学』第 22 巻、pp.101-123.
間淵洋子（2018）「明治・大正期『読売新聞』コーパスの構築と課題」『言語処理学会　第 24 回年次大会発表論文集』pp.500-503、https://anlp.jp/proceedings/annual_meeting/2018/pdf_dir/P4-4.pdf.

関連 URL

国立国語研究所（2021）『日本語歴史コーパス』https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/
国立国会図書館「Web NDL Authorities 国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス」https://id.ndl.go.jp/auth/ndla
読売新聞社「ヨミダス歴史館」https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/

付記

本コーパスおよび本発表は、国立国語研究所の共同研究プロジェクト「通時コーパスの構築と日本語史研究の新展開」、JSPS 科研費 16J08872「コーパスを利用した近現代漢語の表記・語法の多様性に関する計量的・通時的研究」（代表：間淵洋子）、JSPS 科研費 20K13060「新語彙定着期の言語変化―コーパスに基づく通時的語彙研究の実践」（代表：間淵洋子）の研究成果を報告したものである。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における新聞記事種類の分布と典型的新聞記事の特徴

加藤祥（目白大学），浅原正幸（国立国語研究所）

1. はじめに

新聞のテキストは，典型的な書き言葉として利用され，書籍や雑誌のテキストと対照されることも多い。しかし，新聞は報道記事のほか，解説や囲み記事，催し物情報や投稿，連載小説などの様々な種類の記事を含む総体である。典型的な報道記事以外の記事がどのように分布しているのかはあまり分析されていない。そこで，『現代日本語書き言葉均衡コーパス（以降 BCCWJ）』の新聞サブコーパス（以降 PN）に含まれる記事データを用い，新聞記事の分布傾向を調査した。また，記事種別の違いが新聞全体とどのような関係があるかを確かめるために，付与された記事ジャンル（加藤ら 2021）や分類語彙表番号（加藤ら 2019）の分布を用いた調査を行った。さらに，新聞記事において典型的と考えられる報道記事においても，人物紹介やインタビュー，評論等は文体の異なる可能性が考えられる。そこで，いわゆる新聞文体と考えられる典型的な新聞記事がどのようなものであるのか，BCCWJ の PN に付与された記事種別データ（加藤ら 2020）を用いて確認した。

2. 調査対象

BCCWJ の PN には，新聞記事情報が付与されている（加藤ら 2020）。PN ファイル 1,473 サンプルに含まれる記事について，記事種別 1（社説などの評論，インタビュー，催し案内，色（家庭，文化，娯楽など），人（人物紹介など）などの別），記事種別 2（連載，解説，一般報道記事などの別）が取得可能である。本発表の調査では，語彙分布を確認するため，自立語に分類語彙表番号の付与された BCCWJ-WLSP（加藤ら 2019）における PN の 134 記事，117,543 語を調査対象とした。 PN の記事種別として，2 種類の分類情報を付与されている。紀伊國屋書店『CD-HIASK』の種別を援用し，以下の基準によって情報が付与されている。

記事種別 1 は，以下の通りである。

評論：硬めの囲み記事（社説や新聞社コラムを含む）
(1) 今年の国内政治での最大の焦点は夏の参院選だ。一向に出口が見えない長期の不況、社会全体をおおう閉塞状況、重なる将来への不安など前世紀終盤から引き継いだ課題への各党の対応を、国民はどう判断するか。二十一世紀最初の国政選挙の結果が大いに注目される。（PN1b_00002）

投書：囲み記事で「投書」とあるか，投書の引用が明示的な場合
(2) 中学の時に剣道部顧問が異動、名義だけの副顧問だった養護の先生が急きょ代役になり、以来一年間、道場に。受けた助言といえば、「風邪をひいたら水分を取る」くらいですが、とにかく熱心。子どももいるのに、毎日ちゃんと練習終了までいてくれました。（PN1g_00004）

インタビュー：発言がそのまま記述されている場合（※討論の場合は備考に付す）
(3) ― 今の経済状態は「非常事態に当たる」と。◆そうです。日本の金融機関の不良債権問題を調べにきたアメリカ側が、その惨状に腰を抜かした。（PN1b_00004）

ハウツー：料理レシピや手芸指南等に付与
(4) パン粉は牛乳で湿らせ、タマネギはみじん切りにしてバターであめ色にいためる。豚ひき肉はどこの部位でもいいが、脂身が多い方がうまみが出る。赤身の部位の時は、豚バラ肉やベーコンを刻んで加えてもいい。（PN3c_00011）

催し案内：日時が紹介されている場合（イベント情報・テレビ番組等含む）

(5) 自分を知る家族劇イエロードロップスの「スマイリー」世田谷区北沢「劇」小劇場来月３～８日
「紙芝居屋」で生計を立てる父娘。離婚した母は有名な自然食品の研究家であるとともに、秘密クラブ経営者という裏の顔を持つ。ある日、父の元部下のテレビ局プロデューサーを名乗る男が現れ、娘をスカウトしていった。それは娘の実の父親だった―。企画集団「イエロードロップス」（佐東諒一さん主宰）が７月３～８日、世田谷区北沢２の「劇」小劇場で、演劇「スマイリー」を公演する。（PN1b_00016）

人：人物紹介，評伝など（囲み記事であってもインタビューではない場合）
(6) 天から授かった声　八十歳なお現役ソプラノ歌手笹田　和子　マイスターのような誠実さも　ささだ・かずこ　大正十年、大阪府生まれ。昭和十七年、東京音楽学校（現・東京芸大）を卒業後、藤原歌劇団によるワーグナー「ローエングリン」（日本初演）のエルザ役でデビュー。（PN1d_00026）

色：家庭，文化，娯楽などの囲み記事（囲碁将棋の枠も含む）
(7) 第五十六期　本因坊戦挑戦者決定リーグ九段　結城　聡　（１勝２敗）先番　八段　山田規三生　（３敗）【第十三局の５】百三―百二十五（前回の最終手は白９ニ）（PN1b_00006）

(8) 慢性腰痛の人には、腹筋と背筋のバランスの不良が多くみられます。腹筋が弱くなって緩み、背筋の緊張が強くなると、腰椎が後ろに反って腰痛を起こしやすい姿勢になるのです。腹筋とともに背筋力も弱くなり、腰椎を支える力が全体的に低下するということも少なくありません。（PN1h_00022）

人事
(9) 石播社長に伊藤専務昇格　石川島播磨重工業は二十日までに、伊藤源嗣専務が次期社長に昇格するトップ人事を固めた。武井俊文社長は相談役に退く見通し。（PN1j_00021）

募集
(10) メガネ無料券　日本オプティカルは、ハートアップＷｅｂ名鉄豊田駅前店とハートアップＷｅｂ東岡崎店で「ジャスト３プライスメガネ販売」のスタートを記念して、「メガネ無料券」（五千円相当）を５人にプレゼント。はがきに〒住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記。（PN1f_00001）

賞
(11) 緒方貞子さんに独が大功労勲章　緒方貞子・前国連難民高等弁務官は二十三日、ドイツ政府から「大功労十字星章付大綬章」を贈られた＝写真。（PN1a_00009）

記事種別2は「テキスト（一般）」のほか「略歴」「名簿（BCCWJ ではサンプリング対象外）」と以下がある。

連載：連載番号または「上中下」「前後」等が確認できた記事（小説も含む）
(12) 椿山課長の七日間―四十三―相応の事情　十浅田　次郎安西　水丸　画
デパートマンらしくていねいなお辞儀をして、椿山は審査室を出た。　長椅子の上で退屈そうに体を揺すっている蓮にＶサインを送る。（PN1a_00022）

(13) アメリカ星条旗のもとで■上 宗教と建国精神「開かれた社会」続ける分岐点 一枚岩ではない戦争支持（中略）九月十一日以来、アメリカのあらゆる所で、非公式の国歌と呼ばれる「ゴッド・ブレス・アメリカ」（神よ、アメリカを守り給え）が歌われ、全国津々浦々に星条旗がひるがえった。（PN1a_00025）

解説：報道記事の説明部分，事件事象等の囲み説明・催しの囲み説明等
(14) 編集長になる佐藤純一さんは、「ソクラテスがアゴラ（ギリシャ語で市場）で対話したように、人々が集まって話せる街角のような雑誌にしたい」と抱負を話す。「人間会議」は、「宣伝会議」「ブレーン」など歴史のある雑誌を刊行している出版社「宣伝会議」（東京都港区）の新雑誌。（PN1d_00017）

日誌：当該日付の出来事紹介，記者日記等
(15) きょうのこよみ＝二十三日＝（中略）▽千九百九十六（平成８）年　オーストラリアのブリスベーンで開かれた第６回ラムサール条約締約国会議で、新潟市の佐潟が、国内では十番目の登録湿地として認定された。（PN1i_00013）

用語：用語解説・用語説明
(16) ことば 炭素税構想　地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量削減のため、石炭や石油などの化石燃料に、炭素の排出量に応じて課税する炭素税を導入する構想。（PN1k_00021）

データ：日時のみをはじめ数値情報・式辞発表・判決などの全文掲載等
（データ表等はBCCWJ ではサンプリング対象外のため該当なし）
(17) （「瀋陽総領事館事件・調査結果」の全文は次の通り。）基本的事実関係１、総領事館入り口内で女性二名、幼児一名が取り押さえられた際の状況（PN2f_00020）

(18) 漁況▽サバ立て縄・多針釣り漁＝　大正礁および室戸岬周辺の立て縄・多針釣りは、甲浦へ十二隻ゴマサバ０．２トン（一日１隻当たり十七キロ）の水揚げ。室戸では百二十四隻ゴマサバ７．６トン（同六十一キロ）、マサバ水揚げわずか。（PN4m_00003）

死亡：死亡記事（訃報，おくやみ・解説・略歴等の囲み記事形式も含む）
(19) 勝村　龍雄さん（かつむら・たつお＝元大阪曹達〈現ダイソー〉社長）二十四日、老衰で死去、九十歳。通夜と葬儀は近親者のみで行った。ダイソーなど主催の「お別れの会」は十二月十八日午前十一時三十分から大阪市北区中之島５の３の六十八のリーガロイヤルホテル桐の間で。（PN2a_00027）

なお，記事種別１及び記事種別２は各記事にそれぞれ付与されているため，連載される評論（図１左）や解説が囲み記事となっている場合（図１右）のような組み合わせがある。

図１　左：評論×連載の例（PN1c_00004）　右：色×解説の例（PN5a_00003）

3.　記事種別の分布と典型的な新聞記事

BCCWJ-WLSP の PN における記事種別の特徴を語数分布において確認し（3.1），いわゆる典型的な新聞記事がどの程度の割合であるのか，どのような記事が典型的な新聞記事であるのかを確かめる（3.2）。

また，記事種別の語義分布を調査する（3.3）ことによって，典型的と考えられる新聞記事と総体としての新聞の関係性を考察する。

3.1. 記事種別の分布

表 1 にジャンル別の記事種別 1 の記事分布を示す。種別 1 の分布（表 1 総計列）を見ると，一般的な報道記事ではない「評論（社説等を含む硬めの囲み記事）」「人（人物紹介や評伝等の囲み記事）」「色（家庭・文化等囲み記事）」のような囲み記事と「催し案内」等の合計が半数近く（分類あり 45%，分類なし 55%）に上ることがわかる。　また，表 1 のジャンル別分布から，社会記事において色（社会記事 16,962 語中 5,780 語：34%，以下同様に表の列を基準とした割合を示す）や評論（11%）等，文化記事において人（36%）や催し案内（10%）等をはじめとする多様な記事種分布が見られることや，科学記事で色（75%），スポーツ記事で人（31%）のような特徴的な記事種別が見られる。

表 2 にジャンル別の記事種別 2 の記事分布を示す。「解説」のような報道記事の補足や「連載」のような報道記事とは別個の記事分布が見られ，新聞の文体を考える際に想定される新聞テキストは約 6 割（59%）であった。また，「連載」は社会記事（28%）や経済記事（23%）において語数分布が多い傾向にあり，「解説」は科学記事（43%）や社会記事（34%)において多い傾向にある。反対に，いわゆる報道記事にあたるテキストは，事件記事（79%）やスポーツ記事（75%），国際記事（71%）に多い。記事種別の分布は記事ジャンルによって異なっているといえよう。

表 1　ジャンル別の記事種別 1 における語数分布

	スポーツ	科学	経済	見出し	国際	事件	社会	政治	総類	文化	労働	総計	
評論	0	0	5228	0	0	673	1915	1634	682	1600	0	11732	(10.0%)
投書	0	0	0	18	0	0	0	991	0	468	0	1477	(1.3%)
インタビュー	0	0	2479	0	34	0	799	0	840	2245	0	6397	(5.4%)
ハウツー	0	0	0	0	0	0	48	0	0	796	0	844	(0.7%)
催し案内	91	0	220	2	0	0	178	0	4940	1971	0	7402	(6.3%)
人	4035	0	0	9	0	0	288	2640	0	7343	541	14856	(12.6%)
色	0	2894	0	0	0	0	5780	0	0	883	0	9557	(8.1%)
募集	0	0	0	0	0	0	148	0	68	0	0	216	(0.2%)
賞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	385	0	385	(0.3%)
分類なし	9071	977	8872	24	6500	10324	7806	15098	453	4910	642	64677	(55.0%)
総計	13197	3871	16799	53	6534	10997	16962	20363	6983	20601	1183	117543	(100.0%)

表 2　ジャンル別の記事種別 2 における語数分布

	スポーツ	科学	経済	国際	事件	社会	政治	総類	文化	労働	総計	
連載	1508	0	3781	349	0	4784	1572	0	5829	541	18364	(15.6%)
解説	1750	1683	3497	0	2321	5763	2997	1445	5126	0	24582	(20.9%)
テキスト	9939	2188	9521	4639	8676	6274	13154	4700	9646	642	69420	(59.1%)
その他	0	0	0	1546	0	141	2640	838	0	0	5177	(4.4%)
総計	13197	3871	16799	6534	10997	16962	20363	6983	20601	1183	117543	(100.0%)

3.2. 典型的な新聞記事

典型的な新聞記事の種類は，いわゆる報道記事と考えられる。表 1 において特に種別の認定されていない表 2 の一般テキストが重なった部分が該当するものと考えられる。種別 1 と種別 2 を重ねた語数分布を表 3 に示す。表 3 における「分類なし」かつ「テキスト」に該当する 44,955 語（全体の 38.2%）が典型的な新聞記事と考えられる。また，「分類なし」かつ「テキスト」に該当した記事の例を図 2 に示す。典型的な新聞記事と考えられる例である。

表 3　記事種別語数分布

種別 2 / 種別 1	テキスト	解説	連載	略歴	日誌	用語	データ	見出し	語数計
分類なし	44955	11171	6686	0	1574	281	0	10	64677
人	5555	2257	4404	2640	0	0	0	0	14856
評論	2783	5346	3603	0	0	0	0	0	11732
色	4327	2566	2523	0	0	141	0	0	9557
催し案内	5985	605	349	0	461	0	0	2	7402
インタビュー	3757	1841	799	0	0	0	0	0	6397
投書	1477	0	0	0	0	0	0	0	1477
ハウツー	48	796	0	0	0	0	0	0	844
賞	385	0	0	0	0	0	0	0	385
募集	148	0	0	0	0	0	68	0	216
語数計	69420	24582	18364	2640	2035	422	68	12	117543

図 2　典型的な新聞記事（分類なし×テキスト）例　左 : PN1d_00003　中 : PN3b_00001　右 : PN4b_00001

3.3.　記事種別語義分布

記事種別の語義分布を確かめた。ここでは，分類語彙表番号の部門を用い，記事種別の語義分布を表 4（記事種別 1）と表 5（記事種別 2）にそれぞれ示す。分類語彙表番号の付与がない語は付属語・一部の固有名詞である。

表 4　記事種別 1 の分類語彙表番号（部門）分布

	評論	投書	インタビュー	ハウツー	催し案内	人	色	募集	賞	分類なし	総計
.1（抽象的関係）	3042	357	1531	225	1858	3603	2613	64	91	17411	30795
.2（活動の主体）	984	81	495	39	948	1331	718	32	49	6351	11028
.3（精神および行為）	2111	310	1113	141	1161	2658	1277	34	73	10680	19558
.4（生産物および用具）	204	23	81	19	143	139	335	8	8	1121	2081
.5（自然物および自然現象）	188	45	134	5	147	178	294	7	9	893	1900
分類語彙表番号なし	5203	661	3043	415	3145	6947	4320	71	155	28221	52181
計	11732	1477	6397	844	7402	14856	9557	216	385	64677	117543

記事種別によって語義の分布に大差が見られるというほどではないが，新聞総体に対して，表 4 では「インタビュー」において「.1(抽象的関係)」の頻度が低く，「色」において「.4(生産物および用具)」の頻度が高いなどの種別の分布傾向が確認される。種別の分類のない典型的な新聞記事と総体との差が大き

くないといっても，種別による語義分布の影響が考えられる。同様に，表 5 では「連載」で「.3(精神および行為)」の頻度が低め，「解説」で「.2(活動の主体)」の頻度が低めであるなどの分布傾向が確認される。種別の分類のない「分類なし」との差が見られることは，「連載」や「解説」は記事の割合も新聞紙面上に大きく，典型的な新聞記事を想定した場合に総体的な新聞データとの差が生じる可能性が考えられる。

表 5　記事種別 2 の分類語彙表番号（部門）分布

	連載	解説	分類なし	略歴	日誌	用語	データ	その他	総計
.1(抽象的関係)	4688	6673	18054	77	527	116	26	4	3795
.2(活動の主体)	165	1884	6948	273	255	57	6	0	11028
.3(精神および行為)	2851	4162	11589	594	286	59	13	4	19558
.4(生産物および用具)	39	466	1151	3	54	15	0	2	281
.5(自然物および自然現象)	334	372	1139	18	26	1	1	0	190
分類語彙表番号なし	8496	11025	30539	1045	887	165	22	2	52181
計	18364	24582	69420	2640	2035	422	68	12	117543

4.　まとめ

本稿では，BCCWJ の PN に含まれる新聞データに付与された新聞記事情報（加藤ら 2020）を用い，新聞データにおける記事種類の分布を確認した。いわゆる典型的な「新聞記事」は一般的に報道記事であると考えられるが，新聞は様々な種別の記事が含まれるため，本稿の調査において典型的と考えられる新聞記事テキストの割合は新聞データの半数以下であった。また，典型的な新聞テキストと考えられるデータと総体的な新聞データには差異の見られることが確認された。

【謝辞】

本研究の一部は国立国語研究所共同研究プロジェクト「アノテーションデータを用いた実証的計算心理言語学」および，科研費 18K00634 によるものである。

【参考文献・資料】

『ＣＤ－ＨＩＡＳＫ　〈２００４〉　朝日新聞記事データベース』紀伊國屋書店

丸山岳彦，山崎誠，柏野和佳子，佐野大樹，秋元祐哉，稲益佐知子，田中弥生，大矢内夢子, 2011.「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に含まれるサンプルおよび書誌情報の設計と実装」

K. Maekawa, M. Yamazaki, T. Ogiso, T. Maruyama, H. Ogura, W. Kashino, H. Koiso, M. Yamaguchi, M. Tanaka and Y. Den, 2014. “Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese”, Language Resources and Evaluation, 48:2, 345-371.

加藤祥，浅原正幸，山崎誠, 2019.「分類語彙表番号を付与した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の書籍・新聞・雑誌データ」　『日本語の研究』　vol. 15, No. 2, pp. 134-141.

加藤祥，森山奈々美，浅原正幸, 2020.　「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』新聞サブコーパスに対する新聞記事情報の付与」日本語学会 2020 年度秋季大会

加藤祥，森山奈々美，浅原正幸, 2021.「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』新聞記事情報を用いたジャンル別語彙分布」言語資源活用ワークショップ 2021

国立国語研究所（編）, 2004.　『分類語彙表増補改訂版データベース』

日本語の時空間変異における複数形の多義

新永　悠人（弘前大学）　上林　葵（志學館大学）　平塚　雄亮（中京大学）
講師・企画担当　講師　講師・司会

1. 趣旨説明

本ワークショップは、日琉諸方言で文法数の複数を表す語形（複数形）に関して、以下の2つの事実に焦点を当てて考察する。

・日琉諸方言の複数形の一部（～ラ、～ドモ、～キャ）が、必ずしも複数を表さないこと
・日琉諸方言にさまざまな形式の複数形があること

2. 複数形が複数を表さないこと

日琉諸方言において報告されている複数形のうち、～ラ、～ドモ、～キャについては、複数形であるにも拘わらず、単数を表す（1つの対象を指す）例がしばしば報告されている（禰宜田1986:72；小柳2006：40；上林2017：67-69；新永2020：88-89 など）。このような現象に対し、本ワークショップでは、以下の2つの観点から分析をする。

a. 言語類型論的視点からの分析
b. 1つの方言を詳細に見る視点からの分析

まず第1発表者の新永が、世界中の諸言語に報告されている複数形の様々な用法をもとに作成した意味地図（semantic map）による分析を示す（上記の a）。そのうえで、上代奈良方言の「ラ」に対する先行研究（小柳2006）の分析の問題点を指摘する。

次に第2発表者の上林が、神戸市方言の複数形（～ラ）の様々な用法についての詳細な分析を提案する（上記の b）。

3. さまざまな形式の複数形があること

日琉諸方言には、さまざまな形式の複数形（例：～タチ、～ラ、～ドモ、～キャ）が報告されている。第3発表者の平塚は、日本語諸方言の複数形に焦点を当てたうえで、以下の2点を明らかにする。

c. 日本語諸方言で用いられている様々な複数形の地理的分布
d. 3 種の複数標識（タチ、ラ、ドモ）の前に来る名詞・代名詞の特徴

以上の議論を踏まえたうえで、最後の討論の時間に参加者の方々との議論を重ね、日琉諸方言の複数形に関わる諸現象についての理解・考察を深めたい。

意味地図による諸言語の複数形の多義の分析

新永 悠人（にいながゆうと）（弘前大学）
yniinaga@hirosaki-u.ac.jp

1. 問題の所在

奄美大島で話されている湯湾方言の1人称代名詞複数形（waakja）は、以下の（1a）のように話者の同伴者の存在が確実な用法だけでなく、（1b）のように同伴者の存在が不確実な用法（つまり、実質的に話者1人を指す用法）も持つ（そのため後者は「など」で訳した）。

（1）湯湾方言の1人称代名詞複数形（当該部分に下線を引く）

a. 複数の対象を指す例（集合が定） [作例調査データ]

[文脈：「昨日はお友達と3人で集まりましたか？」と尋ねられた際の返答]

kinjoo	waakjoo[1]	jurawantidoo.
昨日は	私たちは	集まらなかったよ

b. 実質的に話者1人を指す例 [自然談話データ]

[文脈：近所でカツオ漁をしていた男性を話題にしている。しかし、その人について話者はあまり詳しく知らないため、それを聞き手に伝えようとして以下のように述べた。]

wanna	sijan.	waakjoo	sijandoo.
私は	知らない	私などは	知らないよ

上記のような複数形の単数指示用法は、本土方言のラやドモを接尾辞とする複数形にも報告されている（新永（2020: 103））。[2] 本発表では、上記のような複数形の単数指示用法をはじめとした諸言語の複数形の様々な用法を比較考察し、そのバリエーションと制約を示す。なお、本発表は新永（2020）の要約である（ただし、同論文公開後に得られた情報を一部補足する）。

2. 奄美大島（湯湾）方言の複数形

湯湾方言では、語幹の種類に応じて3種類の複数標識（-kja、-taa、=nkja）が使い分けられる（詳細は新永（2020: 75）を参照）。本発表では-kja の例のみに注目する。

---

[1] waakja は主題標識の ja「は」と融合することで waakjoo という形式になる。

[2] 新永（2020：103）には東日本方言の例が挙げられていなかった。しかしその後、下地理則氏（九州大学）による日琉諸方言の文法数に関わる網羅的文献調査・整理のプロジェクトの中で、メンバーである松岡葵氏（九州大学）が岩手県気仙沼方言に当該例の報告があることを発見し、筆者に教えてくれた。具体的には、山浦（1986：270）に1人称代名詞の「ore」は「常に単数」であるのに対し、1人称代名詞の「ora」という形式は「単数にも複数『我々』にも」用いられるという記述がある。

表1. 湯湾方言の1・2人称代名詞の文法数の体系

語幹の種類		単数	双数	複数
1人称		wa-n（私）	wa-tt33（私たち二人）	waa-kja（私たち）
2人称	尊称	na-n（あなた様）	na-tt33（あなた様方二人）	naa-kja（あなた様方）
	非尊称	ura （おまえ）	ura-tt33（おまえたち二人）	ura-kja（おまえたち）

先ほどの（1a）では、waakja の示す集合が定であった（つまり、聞き手は、話者の同伴者を特定することができた）。しかし、waakja は聞き手が（話者の）同伴者を特定できない場合にも使うことができる。以下に当該例（2）を示す。

（2）湯湾方言の waakja が不定の集合を指す例 [自然談話データ]
[文脈：話者の母親が昔、大学の教員に方言を教えていたことを伝えている。話者とその友人が近くの橋で夕涼みをしていたが、聞き手は誰がそこにいたのか文脈からは分からない。]

waakja　hasinandu　wutatto, …
私たち　橋のところに　居たら

上記の waakja は話者以外の同伴者が誰であるのか聞き手にとって曖昧である。従って、少なくとも発表者（神奈川県生まれ・育ち、30 代後半）の内省では「私たち」を使うことが難しい（この文脈でいきなり「私たち」と言われると、「一緒にいたのは誰？」と思ってしまう）。

3. 通言語的な視点からの分析

本節では、湯湾方言の複数形の用法を、世界の諸言語の複数形の用法と比較考察する。

表2. 中央アラスカユピック語（Corbett and Mithun 1996: 12）

累加（additive）	連合（associative）
qaya-t カヤック-複数 「3 つ以上のカヤック（小舟）」	cuna-nku-t 人名-連合-複数 「cuna（個人名）とその家族」

まず、文法数の複数においてもっとも有名な累加複数（additive plural）と連合複数（associative plural）の区別を表2に示す。[3] 累加複数とは語幹の指示対象が複数存在する集合（カヤックが複数存在すること）を表すのに対し、連合複数は語幹の指示対象とそれ

[3] 本発表の連合複数は、先行研究では「近似複数（plural of approximation）」と呼ばれるものに相当する。ただし、近年の研究では当該現象を「associative plural」と呼ぶ場合が多く、approximative（または approximative plural）という用語は別の現象（本発表の「集合的例示」）を指すために使用されることがあるため、本発表では「近似複数」という用語を避けた（詳しくは新永（2020: 79）の脚注５を参照）。

以外の同伴者から成る集合（cuna とその友人や家族が存在すること）を表す。この区分を湯湾方言に適用した場合、（1a）の waakja の例は「話者+友人2人」の集合を表す「連合複数」の例であると言える。しかし、（1b）の単数指示の場合はもちろん、（2）のように聞き手が（話者の）同伴者を特定できない状況は「連合複数」とは言えない。

（2）のような用法を考察するうえで有意義なのは、以下の（3）に示したようなネワール語の重複の例である。ネワール語の重複表現では、聞き手は名詞語幹の指示対象以外のメンバーを特定することができない。本発表では、このような用法を「集合的例示」と呼ぶ。[4]

（3）ネワール語の重複（カトマンズ方言；Malla1985: 26; 下線は引用者）

ko: ‘crow’ ＞ ko:ki: ‘crow and similar other things’

la: ‘water’ ＞ la:li: ‘water and similar other things’

上記より、湯湾方言の（2）のような waakja の用法は「集合的例示」に相当すると言える。

最後に、（1b）のような複数形の単数指示の用法を考察する。複数形が単数を指示する用法として通言語的に有名なのは「尊敬複数」（polite plurals）と呼ばれる用法である。

（4）尊敬複数（邦訳は引用者；詳細は新永（2020: 87）を参照）

a. タミル語（Brown and Levinson 1987[1978]: 201-202）

naam「私たち」 ＞ 「俺様」

b. フランス語（新倉ほか 1996: 75-76）

vous 「きみたち」 ＞ 「あなた様」

しかし、湯湾方言の（1b）の waakja は、（4a）とは違って、自身を尊大に表現しているわけではない。また、表1に示した urakja「おまえたち」には単数指示の用法もあるが、もし（4b）のように聞き手への敬意を示したいのであれば、湯湾方言には既に nan「あなた様」という単数形が存在する。従って、湯湾方言の（1b）のような用法は「尊敬複数」とはみなしがたい。本発表では、（1b）のように特に尊敬の意味を表さない単独指示の用法を「単独的・否定的例示」と呼ぶことにする（詳細は新永（2020: 88-89）を参照）。

4. 意味的基準と形式的基準

これまで述べた複数形の諸機能を改めて意味的基準、形式的基準から整理する。まず、本発表の「複数形」とは「指示対象が複数」で、「累加または連合を表す」ことを前提とする。累加とは、英語の dog-s（< dog「犬」の複数形）のように、語幹（または対応する単数形）によっ

[4] 本発表の「集合的例示」に対応する先行研究の用語も様々である（詳しくは、新永（2020: 80ff）を参照）。「similative plural」と呼ぶ先行研究もあるが（Armoskaite and Kutlu 2014）、当該用法を持つ形式を「複数形」と呼ぶことができるかどうかは議論の余地がある。

て集合の構成員すべてを指すことができる用法を指す。累加以外は、以下の基準に基づく。

(5) 複数形の諸用法を区別する意味的基準

a. 指示対象となる集合は定 (definite) である

b. 同伴者の存在が確実である

c. 指示対象 (または聞き手) は、敬意の対象である

表 3. 複数形の諸用法と意味的基準 (「+」は適合、「−」は不適合を示す)

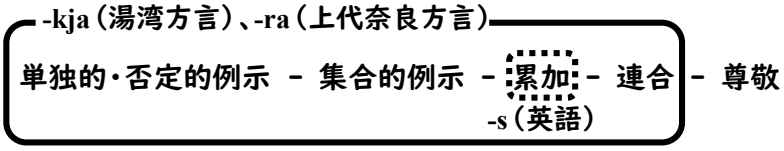
意味的基準	連合複数	集合的例示	尊敬複数	単独的・否定的例示
a	+	−	−	−
b	+	+	−	−
c			+	−

以上の意味的基準で区別された諸用法を、各言語の形式に当てはめて分析すると以下の (6) のような意味地図が作成できる。諸言語の複数形は、(6) のいずれか 1 つ、または隣り合った2つ以上の意味を表し得る。複数標識の具体例を直線と破線で (7) に示す。湯湾方言の-kja という複数標識は、「尊敬」以外の4つの機能を表すことができる。[5]

(6) 複数形の諸機能から導かれる意味地図

単独的・否定的例示 – 集合的例示 – 累加 – 連合 – 尊敬

(7) 湯湾方言の-kja、上代奈良方言の-ra、英語の-s の表す意味範囲



5. 意味地図から言えること

(6) の隣り合わない意味同士を 1 つの形式で表す言語は未だ存在しない。例えば、(8) のように「集合的例示と連合を表すのに累加は表さない」という形式は存在しない。つまり、「連合と集合的例示を表す形式であれば、その形式は必ず累加も表す」という含意的関係がある。

(8) 報告されていない複数標識

単独的・否定的例示 – 集合的例示 – 累加 – 連合 – 尊敬

[5] 湯湾方言の-kja は 1 人称代名詞の場合は累加を表すことができないが、2 人称代名詞の場合は表すことが可能である。ちなみに、通言語的に 2 人称代名詞において累加と連合を形式的に区別する言語は非常に稀である (Daniel 2005: 39 の文末注 7; 同書の 2 人称代名詞の概念の定義は、累加と連合の両方を包含するものとなっている)。

一方で、上代奈良方言（または中古京都方言）の複数標識「ラ」に対して、小柳（2006）では以下のような機能の区別を提案している。

（9）小柳（2006）の用語（一部、渡瀬 2002、2003 の解説）

a. 同類的複数

上代：「越（こし）の君ら」…「『越中の諸君』の意で、複数の『越の君』の集合」

b. 随伴的複数

i. 上代：「荒雄（あらを）ら」…「船頭荒雄に随伴して乗り込んでいた白水郎（あま）たちの存在をも暗示する」

ii. 上代：「妹（いも）ら」 …「『妹』は織女を指し…（中略）織女が侍女らを伴って天漢の対岸に立つ姿を想像したものとみるべきであろう」

iii. 中古：「酒ら」…「個体同士でなく種類同士（「酒」と他の飲食物）」

上記の分類において、（9a）の「同類的複数」は本発表の「累加」に相当する。一方、（9b-i）と（9b-ii）の「随伴的複数」は（文脈に対する解釈により）本発表の「連合」または「集合的例示」に相当する。（9b-iii）の「随伴的複数」は中古の例ではあるが、本稿の「集合的例示」に相当する。従って、小柳（2006）の「随伴的複数」という範疇化は、（8）の実線で囲った用法を範疇化していることになる。しかし、実際には、上代奈良方言の「ラ」は、先ほど（9a）について述べたように「累加」も表すことのできる形式である（さらに、小柳（2006: 40）には「ラ」が単数を指示する例も報告されている）。

多義の説明にはしばしば一元化と細分化の両極のせめぎ合いがあるが（テイラー2017: 337ff）、少なくとも通言語的に未だ報告されていない一元化（「累加」を含めずに「集合的例示」と「連合」を1つのカテゴリーにすること）は避ける必要がある。

6. 今後の課題

意味地図による分析は、多義の一元化・細分化に客観的な基準を与えることができる。しかし、現時点でのデータによるという制約、個別言語の詳細を捨象してしまうという欠点も持つ。重要なのは、個別言語の詳細を見つつ、通言語的な特徴を探るという両者の往復である。

【参照文献】小柳智一（2006）「上代の複数：接尾語ラを中心に」『萬葉』196: 35-51; テイラー、ジョン・R（2017）『メンタル・コーパス』、くろしお出版; 新倉俊一・朝比奈誼・稲生永・井村順一・冨永明夫・宮原信・山本顕一（1996）『改訂版 フランス語ハンドブック』、白水社; 新永悠人（2020）「北琉球奄美大島湯湾方言の名詞・代名詞複数形の機能とその通言語的な位置づけ」『言語研究』157: 71-112; 禰宜田龍昇（1986）『淡路方言の研究』、神戸新聞出版センター; 山浦玄嗣（1986）『ケセン語入門』、共和印刷企画センター; 渡瀬昌忠（2002）『渡瀬昌忠著作集』4、おうふう; 渡瀬昌忠（2003）『渡瀬昌忠著作集』8、おうふう; Brown, Penelope and Stephen C. Levinson (1987[1978]) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press; Corbett, Greville G. and Marianne Mithun (1996) Associative forms in a typology of number systems: evidence from Yup'ik. *Journal of linguistics* 32. Cambridge University Press. 1-17; Daniel, Michael (2005) Understanding inclusives. In: Filimonova, Elena (ed.) *Clusivity: Typology and case studies of the inclusive-exclusive distinction*. John Benjamins Publishing Company. 3-48; Malla, Kamal P. (1985) *The Newari language: a working outline*. Institute for the study of languages and cultures of Asia and Africa.

神戸市方言における「ラ」のはたらき[1)]

上林 葵（かんばやし あおい）（志學館大学）

1. はじめに

本発表は、兵庫県神戸市方言における複数標識の「ラ」に着目し、その機能的特徴を考察することを主眼とする。当該形式は共通語にも見られ、主に次のように使用される。

（1）ここは僕らに任せて、早く帰りなさい。

この例は「ら」が付属することで、前接の語が複数であることを示している。神戸市方言では上記に加え、以下のように使われる場合がある。

（2）今日ラ、どこも混んでるで。　《今日はどこも混んでいるよ》

（3）いま東京ラ、人多いやろな。　《今東京は人が多いだろうね》

（4）休憩ラしてんと、仕事せえ。　《休憩などしていないで、仕事をしろ》

上記例の場合、ラは前接語が複数であることを示しているわけではない。（3）の「東京ラ」は「東京を含む複数の都市」を意味するものではなく、「東京」のみを指示する場合にも使用可能である。以上から、神戸市方言のラには複数性を表す以外の働きがあると考えられる。

本発表では発表者の内省[2)]に基づき、神戸市方言のラの統語的特徴ならびに機能的特徴の記述を試みる。以下、2 節ではラに関わる先行研究を整理し、3 節ではラの生起環境を他方言との違いに触れつつ確認する。4 節ではラの働きを考察し、5 節でまとめを行う。

2. 先行研究と問題のありか

共通語の複数標識「ら」を扱った研究には、森（1963）や石野（1971）、鄭（2001）がある。これらの論考は複数性を示す他の標識との比較において、「ら」の持つ意味的な位置づけを探るものとなっている。一方、複数性以外の働きに着目したものとしては、本発表にも関わる例示としての働きを指摘した阪倉（1966）や、高知県方言における副助詞「ラ（ー）」に着目した上野（2001）などが挙げられる。上野（2001）は地域方言のラを扱ったものとして有用であるが、前接語との承接関係の記述に焦点を置いており、当該形式の持つ意味・機能についてはあまり触れられていない。以上から、特に地域方言におけるラの働きに関し、未だ明らかになっていない点が多いと言える。上記を踏まえ、次節以降の分析に入る。

3. 「ラ」の生起環境

まず本節では神戸市方言のラの生起環境について、上野（2001）の分類に基づき、体言・準体言・用言の順に確認する。

体言への接続に関しては、基本的に代名詞・普通名詞・固有名詞のいずれにも接続可能である。ただし代名詞の場合、「どこ・どいつ・どれ」のような指示代名詞の不定称や、疑問代名詞「誰」「何」などへの接続は不自然となる（5）（6）。

1）本発表は上林（2017）の内容に基づくものである。

2）発表者は 3-5 歳、18-21 歳、29 歳-現在を除き、兵庫県神戸市を中心とする京阪神地域で成育した。

(5) これは｛ここ／そこ／あそこ／?どこ｝ラに置こうかな。

(6) ? あそこで｛誰／何｝ラを見た？

(7) ?｛今／さっき／昔｝ラ、何して遊んでたん？

また、時を表す普通名詞の場合、「今」「さっき」「昔」といった語にも接続しづらい (7)。以上に挙げた例は特定の事物を明示せず、当該形式そのものの指示範囲が曖昧性を孕んでいるという点で共通する。神戸市方言のラは事物の周辺を漠然と示す基本的性質を持ち、上記前接語の性質と重複することから、冗長性回避のために接続しにくくなると予想される。

ラは時を表す名詞のほか、場所や方向、空間を表す名詞、ヒト・モノ・コト名詞にも接続する。ヒト名詞に関しては「妹」などの個人に加え、「家族」などの集団にも接続可能である。目上の人物にも接続することから、待遇は必ずしも関与しない [3] と考えられる (8)。モノ名詞については有生物・無生物に関わらず使用可能である (9)。

(8) 昨日、｛妹／家族／後輩／先輩｝ラと食事した。

(9) その｛猫／朝顔／荷物／自転車｝ラ、どうしたん？

また、固有名詞のうち、人名については敬称の有無に関わらず接続可能である。

(10) ｛田中くん／田中｝ラ、どこ行った？

続いて準体言・用言への接続について述べる。ラは準体言には接続するが、用言には接続しない。用言への接続には準体言を介する必要があり、この点が高知県方言との違いである。

(11) 注射打つ｛のん／ん／*φ｝ラ、大したことないわ。

4. 「ラ」の機能的特徴

ここからは神戸市方言のラの働きについて、複数・例示・評価をキーワードに詳述する。

4.1. 複数の「ラ」

冒頭でも触れたように、神戸市方言のラは共通語の「ら」と同様、前接語が複数であることを表す働きを持つ。ここでいう複数とは、指示対象が 2 つまたは 3 つ以上である場合の意味的な区分のことを指す。複数には同質の構成物による集合を表す「累加複数」と、異質の構成物による集合を表す「連合複数」とがあり、神戸市方言のラはこのいずれも表しうる。

(12) (先生のみ 3 人の集合を指して) 先生ラ、来たよ。 【累加複数】

(13) (先生 2 人と事務員 1 人の集合を指して) 先生ラ、来たよ。 【連合複数】

構成員が先生のみからなる集合を指して「先生ラ」と言うこともでき (12)、また先生以外の要素が含まれていた場合にも、その集合を「先生」という語に代表させて「先生ラ」とすることが可能である (13)。

なお、(13) のような「異質の構成物による集合」を取り巻く状況には、その構成物が何であるかを聞き手が特定できる場合 (定 : definite) とできない場合 (不定 : indefinite) とが考えられる。先の連合複数は聞き手が特定可能な定の場合を指し、対する不定の場合を先行研究では「集合的例示 (新永 2020:85-86)」と呼び、区別している。神戸市方言の場合、このいずれにおいてもラの使用は可能である (14) (15)。

3)「私」や「あなた」など、待遇度の比較的高い人称代名詞にも接続可能である。

（14）（目の前にいる先生・事務員を指して）先生ラ、来たよ。　【連合複数】
（15）（聞き手後方の先生・事務員を指して）先生ラ、来たよ。　【集合的例示】

（14）は話し手・聞き手双方の目の前にいる集合を指していることから、聞き手が集合の構成物を特定できる状況である。対する（15）は聞き手の後方にいる集合を指しており、聞き手にとって「先生ラ」の中にどのような要素が含まれているかが特定できない状況である。これらのいずれにおいても、神戸市方言ではラによって集合全体を指すことができる。

4.2. 例示の「ラ」

ここからは複数性の表示以外の働きをするラについて考察する。本節では例示の働きに着目し、「典型的例示」及び「含意的例示」の 2 種類があることを述べる。

4.2.1. 典型的例示

下記用例のうちラを含むものは、前節までのラの用例と異なり、指示対象が前接語のみに限られる。ただし、いずれの例も話し手の中にいくつかの候補や選択肢が内在しており、ラはそれらのうちの一例として前接語を提示するためのマーカとなっている（16）。

（16）打ち合わせしたいんやけど、今日｛φ／ラ｝空いてる？

この場合、ラがつかない無標の文では「今日」のみに限定して予定を尋ねていることになるが、これにラがつくと、「今日」や「明日」、「来週」など話し手の都合のつくいくつかの候補のうち、「今日」を例として示したうえで聞き手の都合を探るさまを表すことになる。

こうした典型的な例示の働きを持つラは、前接語につくことで「選択肢のうちの 1 つ」というぼかしの意味を強め、聞き手に選択の余地を与える働きを持つと解釈できる。そのため、そうした選択可能性の低い文脈で使用することは難しくなる（17）。

（17）？他に時間取れんから、打ち合わせは今日ラにしてくれる？

上記の文脈では、話し手は時間がないことを理由に打ち合わせを「今日」の一択にするよう聞き手に依頼しており、その他の候補の選択可能性を与えていない。このように聞き手への選択の余地を与えにくい依頼や命令の文脈では典型的例示のラは用いにくい。換言すれば、提案のように背後にある選択肢の存在を喚起する文脈では使用されやすいと言える（16）。

4.2.2. 含意的例示

ラは選択肢のうちの一例を示す典型的例示のほか、選択肢がその前接語一択しかあり得ないという限定的状況においても使用される場合がある（18）。

（18）（洗濯物を外に干すのを見て）今日ラ雨やで。中に干したら？
（19）（洗濯物を外に干すのを見て）今日φ雨やで。中に干したら？

（18）のラは（16）と同じ「今日」という前接語をとっているが、（16）が複数ある候補のうちの一例として「今日」を挙げていたのに対し、（18）は「今日」その日が雨であること、すなわち「今日」のみを指示しており、他の候補日の存在を匂わせているわけではない。

一方、指示対象が前接語のみに限られ、選択可能性もないとすれば、ラがつかない（19）のような場合とどのように異なるのかという疑問が残る。結論から述べると、（18）はラが

後接することで、「今日」という日が「雨になる要素を担った日の代表」であるという意味合いが生じる。例えば「今日」という日が「曇天・湿度が高い」などの条件を持つ場合、それらの条件を含む類似した日の代表としての「今日」という意味合いが強まる。(18) と (19) は、雨になるのが「今日」であることに違いはないが、「『今日』に代表されるような日」というニュアンスが付与されるか否かという点で異なるのである。

本発表では、典型的例示のような具体的な候補までは含まないものの、前接語に代表される条件を担う類似要素を暗示するこうした例示の仕方を「含意的例示」として区別する。

4.3. 評価の「ラ」

最後に本節では、話し手の評価を表すラの働きについて述べる。

(20) （注射が痛かったか聞かれて）注射｛φ／ラ｝、痛くなかったよ。

(21) （注射を打つのかを聞かれて）注射｛φ／ラ｝、痛いしよう打たんわ。

上記例の文意はそれぞれ「注射は痛くなかったこと」「注射は痛いので打てないこと」であるが、ラがつく文には前接語に対する話し手の評価が含まれる。その内実は、前接語を下位に位置づけ軽卑・軽蔑の評価を表すものと、反対に上位の存在として位置づけ畏怖・敬遠の評価を表すものとに分けられる。前者に該当する (20) はラの後接により、「注射など大した痛さではなく、取るに足らない」といった軽卑の意味合いが生じる。後者に該当する (21) にはそうした意味合いは含まれず、むしろ手の届かない隔たりのある存在としての意味合いが強まる。いずれにせよ、ラは前接語が話し手のある種の価値基準から一定の距離を隔てた存在であることマークしていると言える。

5. まとめ

本発表では、神戸市方言における複数標識ラの統語的・機能的特徴を記述した。その結果、ラが体言・準体言にのみ接続する点、前接語の指示範囲が曖昧なものには接続しづらい点を指摘した。加えて、ラの働きが複数・例示・評価に大別できることを主張した。

参考文献

石野博史（1971）「接尾語「ら」の意味と用法」『文研月報』21-5, pp.33-45, 日本放送出版協会.

上野智子（2001）「高知県方言ラ（一）の暗示性と明示性」『日本語科学』9, pp.79-100, 国立国語研究所.

上林葵（2017）「関西方言における接尾辞『ラ』」『阪大社会言語学研究ノート』15, pp.59-71.

阪倉篤義（1966）『語構成の研究』角川書店.

鄭惠先（2001）「複数を表す「たち」と「ら」の使用における選択条件－シナリオの分析結果を中心として－」『社会言語科学』4-1, pp.58-67, 社会言語科学会.

新永悠人（2020）「北琉球奄美大島湯湾方言の名詞・代名詞複数形の機能とその通言語的な位置づけ」『言語研究』157, pp.71-112, 日本言語学会.

森昇一（1963）「接尾語タチ・ドモ・ラ」『国語研究』16, pp.9-24, 國學院大学.

日本語諸方言の複数標識の特性

平塚　雄亮（中京大学）

1．はじめに

本発表では，『日本語諸方言コーパス（COJADS)』を用い，日本語諸方言の複数標識の地理的分布を示したうえで，前接する名詞・代名詞の違い，機能の違いがないかを概観する。

以下，2 節で調査資料および調査方法についてまとめ，3 節では複数標識の地理的分布を示す。4 節では複数標識の前接要素の違いについて，5 節では複数標識の機能の違いについて述べる。6 節はまとめである。

2．調査資料および調査方法

本発表では，COJADS の約 60 時間分のデータのうち，琉球語を除く日本語方言を対象とした。COJADS は書き起こされた方言に対してではなく，その標準語訳に対して形態素情報が付与されている。「語彙素読み」を「タチ」（あるいは「語彙素」を「達」）にし，「品詞―小分類―接尾辞／名詞的／一般」で検索を行ったが，方言テキストにおいてどのような形式で出現しているかは，すべて個別に確認を行った。

また，現在のデータバージョン 2021.01 は，地点によって収録時間が大きく異なっている。たとえば最長の群馬県甘楽郡下仁田町は 269 分であるが，最短の鳥取県米子市はわずか 5 分しかない（複数標識も 1 度も現れない)。そのため，本発表で示す地理的分布や特徴はあくまで現状の COJADS のデータから得られるものである点を断っておく。

3．複数標識の地理的分布

COJADS の文脈だけでは諸方言の複数標識の持つ機能を判断しその範囲を確定させることはむずかしいため，まずはその地理的分布を示す。2 節で示した検索条件によって，1,427 例の用例が得られた。このなかには局所的な分布しかみせない形式も多く存在するが，本発表では用例数が多く比較的広く分布する 3 形式を取り上げる。用例数が多いものから順に，ラ（736 例）・タチ（361 例）・ドモ（88 例）であった。ここで，各地点におけるラ・タチ・ドモの分布図を図 1 として示す。ラを●，タチを▲，ドモを■で表し，それぞれ各地点において使用率が 50%以上であれば記号を大きく，25%以上 50%未満であれば記号を小さくしている。そのため，地点によっては大きな記号と小さな記号が並んでいる場合がある。

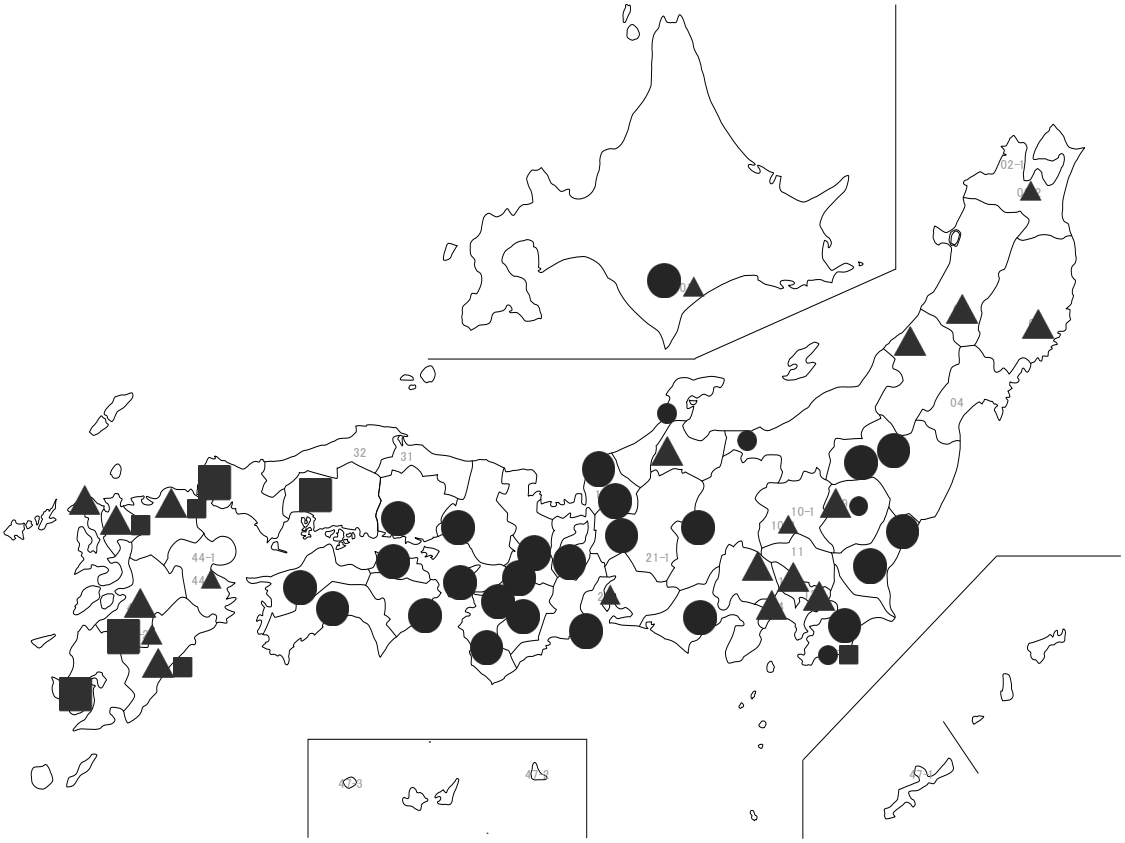


図 1　ラ（●）・タチ（▲）・ドモ（■）の分布図
（使用率 50%以上を大きく，25%以上 50%未満を小さく表示）

図 1 から，以下のようなことが読み取れる。

(1) ラ：近畿，四国を中心に使用されている。福島を除く東北，岡山を除く中国，九州ではほとんど使用されていない。

(2) タチ：東北，関東，中部，九州を中心に使用されている。近畿，四国ではほとんど使用されていない。

(3) ドモ：九州を中心に使用されている。

4. 複数標識の前接要素の違い

続いて，ラ・タチ・ドモに前接する名詞・代名詞に違いがないかをみてみる。地点によって用例数の偏りがあるため，ここでは全地点の用例を合計している。

表 1　ラ・タチ・ドモに前接する（代）名詞

ラ				タチ				ドモ			
一人称	二人称	親族・人間	その他	一人称	二人称	親族・人間	その他	一人称	二人称	親族・人間	その他
554	42	116	24	124	58	171	8	38	0	37	5

全体として二人称代名詞に複数標識がついた例は少ないが，ラとタチにはいずれの名詞・代名詞も広く用いられていることがわかる。COJADS のデータに現れたドモには二人称代名詞への接続が 1 例もみられないが，福岡県柳川市方言（松岡 2021），鹿児島県甑島里方言（森・平塚・黒木 2015），宮崎県椎葉村尾前方言（清岡・平塚・新永 2016）など，ドモが二人称代名詞へ接続する方言の記述も散見される。標準語のドモはほぼ「私ドモ」のみに限定される非生産的な形式であることも考慮すると，ドモが二人称代名詞にも接続する方言と，そうでない方言が存在していると考えられる。

5．複数標識の機能の違い

最後に，複数標識の機能の違いについて考える。2 節で述べた検索方法で得られる結果のなかに，熊本県球磨郡錦町に 1 例のみ無生物にドモがつく例がある。しかし，実際には複数ではなく単独的・否定的例示（新永 2020：87-89）を表していると思われる（標準語訳は「やはりただのときたちは乗せていいんだよ。」となっている）

(4) ヤッパ　タダン　トキドマ　ノセテ　ヨカッタイ。

（熊本球磨郡：43_c_099，10370）

COJADS のデータで単独的・否定的例示を表している形式を確認するには，「語彙素読み」を「ナンカ」および「ナド」にして検索する必要がある。この検索結果を確認してみると，複数標識であるラとドモが，集合的例示（新永 2020：80-86）および単独的・否定的例示を表している例がみられた。ラは福井・大阪河内長野市・兵庫相生市・奈良・和歌山・高知・岡山・山口に，ドモは広島・福岡・佐賀・熊本両地点・大分両地点・宮崎のドモにみられた。タチなど，その他すべての複数標識で集合的例示および単独的・否定的例示として用いられたものはなかった。

(5) ウットコラ　ミナ　ジョークチノ　ハシネ　コノゴロ　カウワ。[私の所なんかは皆　上等の　箸をね　この頃　買うわ。]

（大阪河内長野市：27_d_002-2，9740）

(6) コトシラノ　バーイワ　アンター　ニジューゴンチドコロジャ　ナー。[今年などの場合は　あなた　二十五日どころでは　ない。]

（山口県豊浦郡豊北町：35_e_099，60520）

(7) クラエ　モッテッテ　ローソクー　ツケテ　ハイリドモ　シタラ　オーメダマジャッタンデスケー。[倉へ　持っていって　ろうそくを　つけて　入ったりなど　したら　大目玉だったのですから。]

（広島県広島市：34_c_099，104710）

(8) ジコニドン　オートンサランナイ　マーダ　ツヨカヨ。[事故になんか　あっておられないなら　もっと　強いよ。]

（佐賀県佐賀市：41_c_099，99170）

新永発表にあるように，上代語から存在するラには集合的例示および単独的・否定的例示の機能があった。また，新永（2020）はドモにもその機能があるのではないかという指

摘を行っている。こういった指摘および本発表の調査結果から，ラとドモはそもそも単独的・否定的例示から連合までを広くカバーする形式であり，それが現代の一部の方言にそのまま残存していると考えるのが妥当ではないかと思われる。繰り返すが，タチやその他の複数標識は累加および連合しか表せないという違いがある。

6．まとめ

（a）複数標識の地理的分布

最も用例数の多いラは近畿・四国を中心に，次に用例数の多いタチは東北・関東・九州を中心に，続いて用例数の多いドモは九州を中心に用いられている。

（b）複数標識の前接要素の違い

ラ・タチと異なりドモが二人称代名詞につく例はみられないが，そうでない方言の記述もみられる。

（c）複数標識の機能の違い

ラとドモには単独的・否定的例示や集合的例示の機能もみられるが，タチを含めその他すべての複数標識は累加および連合の機能しかみられない。

付記

本研究は，JSPS 科研費 20K13054，20H00015，19H01262 の研究成果の一部である。

謝辞

福島方言の分析にあたっては，白岩広行氏（立正大）の協力を得た。

使用コーパス

国立国語研究所『日本語諸方言コーパス』（データバージョン 2021.01）
https://chunagon.ninjal.ac.jp/cojads/

参考文献

清岡美里・平塚雄亮・新永悠人（2016）「代名詞体系記述の中間報告」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日（編）『尾前調査班中間報告書―宮崎県椎葉村尾前方言簡易語彙集と文法概説―』pp.55-62，国立国語研究所.

新永悠人（2020）「北琉球奄美大島湯湾方言の名詞・代名詞複数形の機能とその通言語的な位置づけ」『言語研究』157，pp.71-112，日本言語学会.

森勇太・平塚雄亮・黒木邦彦（2015）『甑島里方言記述文法書』国立国語研究所.

松岡葵（2021）「福岡県柳川市方言の文法概説」九州大学修士学位申請論文.

日本語学会 2022 年度春季大会ワークショップ

『日本語歴史コーパス』の活用―語彙表を用いた集計と分析―

小木曽　智信（おぎそ　としのぶ）・竹内　綾乃（たけうち　あやの）（国立国語研究所）

ワークショップの趣旨

コーパスを利用する上で、各々の見出し語が、各々の作品等においていくつ出現しているかは重要な情報である。調査対象とした語について単にその用例を見るだけでなく、その語が各作品やコーパス全体の中で占める位置や、共起する語との関係を測ることで初めて明らかになることが多いからである。コーパスを利用した研究にとって各見出し語の用例数は基礎的な情報であり、たとえばコロケーション強度などの指標を算出するのにも重要である。一方で、『日本語歴史コーパス』の利用のために提供されている検索アプリケーション「中納言」は文脈付き用例を出力するコンコーダンサーである。単に語の用例数を計測するために用いるには無駄が多く、システムに大きな負荷をかけるため、別途、集計済みの語彙表が一般に公開されている。なかでも『日本語歴史コーパス』統合語彙表[1]は、できるだけ時代・作品ごとに分割をしない形で作られており、統計的な指標の計算にも適した形式となっている。コーパスの検索結果を評価するためには、この語彙表の利用は欠かせないものと言える。

しかしながら、『日本語歴史コーパス』の利用数に比して、語彙表のダウンロード数は極端に少なく、十分な利用がなされていない状況である[2]。それを反映してか、コーパスを利用した論文でも単純に用例数（粗頻度）を用いているものが多い。コーパスサイズを考慮した調整頻度すらあまり用いられていないようであり、コロケーション強度などの指標を用いた研究を目にすることはさらに少ない。しかし、調査対象の用例の適切な評価のためには、それがコーパス全体の中でどのように位置づけられるものであるのかを知ることが必要であって、そのためには語彙表を用いた集計と分析が欠かせないはずである。

このような語彙表の利用の低調さの背景には、ユーザーとしてこのデータを具体的にどう利用すれば良いのか分からないという問題があるのではないかと思われる。そこで、本ワ

---

[1] 本稿の執筆時には『日本語歴史コーパス』短単位統合語彙表（ver.2021.03）が最新であるが、2022 年 4 月までに長単位を含めた統合語彙表（ver.2022.03）を公開予定である。

[2] 『日本語歴史コーパス』のユーザー数が 2 万人を超え、年間約 50 万回以上検索されているのに対して、「短単位統合語彙表」のダウンロード数は半年間で 90 回にすぎない。

ークショップでは、『日本語歴史コーパス』の語彙表について、どのように利用するとコロケーション強度などを計算することができるのか、具体的な方法を解説する。ツールとして広く利用されている表計算ソフト Excel を用いることで、多くの利用者が実際に取り組みやすい形で説明を行う。そのうえで、実際にコロケーション強度を用いた研究として、古今和歌集における「思う」のジェンダー差を例に報告する。以上の発表を受けて、聴衆を交えた質疑応答・ディスカッションを行う。

ワークショップの構成

本ワークショップは次のような構成・時間配分で行う。限られた時間ではあるが、「解説」では Excel でデータを用いて計算を行いながら説明するので、参加者も手元の PC で実際にデータの集計を行ってみてほしい。また、「質疑応答・ディスカッション」では、聴衆の積極的な参加に期待する。

- 主旨説明
  担当：小木曽（約 5 分）
- 解説：『日本語歴史コーパス』の語彙表を用いたコロケーション強度の計算
  担当；小木曽（約 30 分）
- 研究紹介：コロケーションでみる古今和歌集における「思う」のジェンダー差
  竹内（約 30 分）
- 質疑応答・ディスカッション
  全員参加（約 30 分）

『日本語歴史コーパス』の語彙表を用いたコロケーション強度の計算

小木曽 智信（国立国語研究所）

はじめに

ここでは、『日本語歴史コーパス』の検索結果と同コーパスの語彙表を用いて、コロケーション強度を計算する方法について説明する。コロケーションとはふつう語の慣用的な結びつきのことを言うが、そのような 2 つ（以上）の語のつながりの強さを測る指標がコロケーション強度である。さまざまな指標が提案されているが、単に共起した用例数を見るのではなく、各々の語の使用頻度や調査対象のコーパスを考慮して結びつきの強さを計算しようとするものであるため、単にコーパスの検索結果用例数だけでなく、語彙表から調査対象の語の頻度や、コーパス全体の語数を取り出して計算に用いる必要がある。以下、コーパスの検索方法、語彙表の利用法、コロケーション強度の計算方法について説明する。

コーパスでの共起語の検索

まず、コロケーション強度に先立って、コーパス中の共起語の用例を検索する方法を確認する。「中納言」では前方共起または後方共起として n 語（n≦10）以内に共起する語を指定して検索することができる。図 1 は語彙素「秋」の前方 5 語以内に共起する名詞を検索する例である。

図 1 前方共起検索の例

このような形で。共起した用例を検索することで単純な共起頻度を確認することができるが、「中納言」の検索フォームによる検索では、前方共起と後方共起をそれぞれ別に検索しなければならない。

検索条件式を利用すると、検索フォームではできない、前後に共起する用例を同時に検索することができる。共起条件として BETWEEN を用いた次の検索条件式は語彙素「秋」の

前方 5 語以内に共起する名詞を検索する例である（式 1）。

式 1　語彙素「秋」の前方 5 語以内に共起する名詞

```
キー: 品詞 LIKE "名詞%"
AND 共起: 語彙素="秋" BETWEEN -5 AND 5 WORDS FROM キー
```

コロケーション強度を計算する場合、共起の場所を前後あわせた範囲内で指定することが多いので、このように検索条件式を利用した検索を行うのが便利である。また、このとき品詞指定を”%”とすることで、共起する語の品詞を限定せず、「秋」の共起語全てを検索することもできる。

下記は、検索対象を「平安-仮名文学」に限定して、「秋」の前後 5 語以内に共起する語を検索する例である（式 2）。

式 2　語彙素「秋」の前後 5 語以内に共起する名詞（平安-仮名文学）

```
キー: 品詞 LIKE "%"
AND 共起: 語彙素="秋" BETWEEN -5 AND 5 WORDS FROM キー
IN subcorpusName="平安-仮名文学" AND core="true"
```

この検索条件式による検索結果（3003 件）をダウンロードし、ピボットテーブルで集計すると、「秋」と共起する頻度が得られる（表 1）。この際、語彙素 ID を用いて集計することで、同一見出し語の判定を確実に行うことができ、後述する語彙表からの頻度取得に用いることができる。

表 1 平安仮名文学における「秋」の共起語（共起頻度上位 10 語）

順位	語彙素 ID	共起語	頻度
1	28989	の	349
2	28178	に	100
3	29321	は	82
4	41407	を	45
5	38984	夜	42
6	28039	なり	38
7	24874	て	36
8	28994	野	32
9	37562	も	26
10	19587	ず	24
11	94987	や	23

このように得られる共起頻度は、共起語が単独で用いられる場合を含めたコーパス中での使用頻度を考慮しないため、共起語が高頻度語であれば単純に高くなる。表 1 に示す上位語の大部分は機能語であり、これを結びつきの強さを測る指標としてそのまま利用することは適切でない。

「統合語彙表」の利用

より適切に結びつきの強さを測るためには、コーパスの検索結果とは別に、調査対象の語の頻度や、コーパス全体の語数を取り出して計算に用いる必要がある。小木曽（2021）で紹介した『日本語歴史コーパス』短単位統合語彙表は、そうした数値を表計算ソフトで容易に取り出せるように工夫した語彙表である。現在は、長単位の情報含む最新版である『日本語歴史コーパス』統合語彙表が公開されている。

ピボットテーブルを用いて調査対象のコーパスに限定してこの語彙表を語彙素 ID ごとに集計することで見出し語別の頻度表を用意することができる。

表 2 平安仮名文学の見出し語別頻度表（高頻度順、一部）

語彙素 ID	合計 / freq
24	95612
28989	44948
25	32278
24874	30080
28178	29017
28039	26073
37562	21016
25826	20913
22642	20685
29321	19285
41407	16478
30503	12469
19587	11805
11228	9767
94822	9653

表 1 のようなコーパス検索結果を集計した共起頻度表から表 2 を参照することにより、共起語のコーパス中の用例数を取得することができる。

以上をまとめて Excel を用いてコロケーション強度を計算する場合の具体的な流れは次のようになる。

① 「中納言」で共起する例を検索する。(例：式 2)
② ①の検索結果をピボットテーブルで語彙素 ID 別に集計して共起頻度の表を作る。(例：表 1)
③ 語彙表をピボットテーブルで「平安-仮名文学」に限定して語彙素 ID で集計する。
(ア)（フィルタで「平安-仮名文学」に限定、列に「語彙素 ID」、値に「頻度」を指定）
(イ) この集計結果を②のファイルの別シートにコピーする。(例：頻度表)
④ ③の頻度表で中心語の頻度と、調査対象のコーパスのサイズ（総語数）を確認する。
⑤ ②のシートで VLOOKUP 関数で語彙素 ID をキーにして③の頻度表から共起語の頻度を取得する。
⑥ 以上から取得できる数字（共起頻度、中心語頻度、共起語頻度、コーパスサイズ）を用いて、コロケーション強度を計算する。

以上の具体的な作業については、文章での説明は煩雑になる上にわかりにくいので、ワークショップでは実際のデータを用いて Excel を操作しながら説明する。

コロケーション強度の指標と計算

コロケーションの強さをはかる指標として、さまざまなものが提案され、利用されている。ここでは比較的計算がしやすい「ダイス係数」「T スコア」「MI（相互情報量)」「MI3」について簡略に説明する。式については Stefan Evert（2004-2010）を参考にした。

$$\textbf{ダイス係数} \quad = 2 \times \frac{\textit{共起頻度}}{\textit{中心語頻度} + \textit{共起語頻度}}$$

情報学で集合の類似度を測る指標として用いられる。式としては最も単純で、コーパスサイズは考慮しないため別のコーパス間で値を比較することはできない。

$$\textbf{Tスコア} \quad = \frac{\textit{共起頻度} - \left(\dfrac{\textit{中心語頻度} \times \textit{共起語頻度}}{\textit{コーパスサイズ}} \right)}{\sqrt{\textit{共起頻度}}}$$

仮説検定に基づく指標。共起頻度を重視するため、高頻度語が高く評価される傾向がある。

$$\textbf{MI（相互情報量）} \quad = \log_2 \frac{\textit{共起頻度}}{\left(\dfrac{\textit{中心語頻度} \times \textit{共起語頻度}}{\textit{コーパスサイズ}} \right)} = \log_2 \frac{\textit{共起頻度} \times \textit{コーパスサイズ}}{\textit{中心語頻度} \times \textit{共起語頻度}}$$

情報理論に基づく相互の依存性の尺度（一方からもう一方が推測できる度合い)。低頻度語で値が極端に高くなるため、足切りが必要となる。

$$\mathbf{MI3} = \log_2 \frac{共起頻度^3}{\left(\frac{中心語頻度 \times 共起語頻度}{コーパスサイズ}\right)} = \log_2 \frac{共起頻度^3 \times コーパスサイズ}{中心語頻度 \times 共起語頻度}$$

MI スコアの低頻度語での欠点を調整するため分母を 3 乗して調整するもの(Daille 1994)。

表 3 は、実際に上記の各方法でコロケーション強度を計算した結果のうち、共起頻度が上位 30 語のものを挙げた結果である。

表 3　コロケーション強度の指標の値（「秋」の共起語、頻度上位 30 語）

語彙素	品詞	共起頻度	コーパス中頻度	ダイス係数	Tスコア	MIスコア	MI3
の	助詞-格助詞	349	44948	0.01539887	17.77901	4.37149524	21.26566
に	助詞-格助詞	100	29017	0.006803415	8.91153	3.19962676	16.48734
は	助詞-係助詞	82	19285	0.00833969	8.256514	3.50274179	16.21785
を	助詞-格助詞	45	16478	0.005338712	5.786774	2.86398088	13.84769
夜	名詞-普通名詞-一般	42	845	0.068571429	6.431831	7.04989121	17.83453
なり	助動詞	38	26073	0.00287302	4.57783	1.95803986	12.45389
て	助詞-接続助詞	36	30080	0.002363756	4.119426	1.67378937	12.01364
野	名詞-普通名詞-一般	32	91	0.135881104	5.65082	9.87258667	19.87259
も	助詞-係助詞	26	21016	0.002430361	3.552956	1.72162055	11.1225
ず	助動詞	24	11805	0.00393927	3.995071	2.43823339	11.60816
や	助詞-係助詞	23	4541	0.009347694	4.440649	3.75514895	12.80227
ば	助詞-接続助詞	22	12469	0.003424391	3.693211	2.23375479	11.15262
と	助詞-格助詞	21	20913	0.001972479	2.870707	1.42058632	10.20522
ぬ	助動詞	19	6943	0.00518913	3.761404	2.86696537	11.36282
来る	動詞-非自立可能	18	1646	0.017769003	4.097109	4.8655577	13.20541
ぞ	助詞-係助詞	16	4602	0.006423123	3.568431	3.21233605	11.21234
き	助動詞	14	6589	0.004017793	3.081087	2.50189243	10.1166
有る	動詞-非自立可能	14	9524	0.002827141	2.786842	1.97038433	9.585094
行く	動詞-非自立可能	12	1355	0.013832853	3.317374	4.56126668	11.73119
成る	動詞-非自立可能	12	2695	0.007804878	3.17227	3.56927426	10.7392
人	名詞-普通名詞-一般	11	7600	0.002756892	2.457055	1.94802923	8.866892
心	名詞-普通名詞-サ変可	10	3691	0.004912798	2.724445	2.85251339	9.49637
けり	助動詞	10	9767	0.001971026	2.0037	1.44860963	8.092466
夕べ	名詞-普通名詞-一般	9	48	0.042056075	2.993998	8.96534382	15.30519
こそ	助詞-係助詞	9	3876	0.004229323	2.515352	2.62995346	8.969803
ど	助詞-接続助詞	9	4011	0.004099294	2.498472	2.58056007	8.92041
月	名詞-普通名詞-助数詞	9	557	0.019210245	2.930354	5.4287728	11.76862
無い	形容詞-非自立可能	8	4167	0.003518804	2.275787	2.35558793	8.355588
待つ	動詞-一般	7	413	0.017654477	2.587196	5.49773827	11.11245
為る	動詞-非自立可能	7	7655	0.001742377	1.560426	1.28554957	6.900259

共起頻度そのものに影響を受けて機能語でも高い値を示すものから、「夜」「野」のように比較的低頻度でも結びつきが強い語に高い値を示すものなど、指標ごとの特徴が見られる。ワークショップの解説では、上記の計算結果シートを各列の値ごとに並び替えながら、各指標の特徴について検討する。

おわりに

コーパスの検索結果である用例を利用する際には、調査対象のコーパスを構成する語全体のあり方を踏まえて用例の評価を行うことが必要である。British National Corpus など、コーパスによっては検索インターフェイスでコロケーション強度を直接出力する事ができるアプリケーションもあるが、『日本語歴史コーパス』にはそうしたツールは用意されていない。また、そうしたものがあったとしても、自分の研究の中で用例を取捨したり、自身で分類を行ったりした結果をもとにしてコロケーション強度を出す場合には、やはり自ら計算することが必要になる。計算式自体はそれほど難しいものではないので、ぜひこのワークショップで紹介する方法を自分の研究に活かしてほしい。

参考文献

Beatrice Daille(1994) Combined approach for terminology extraction: lexical statistics and linguistic ltering. Technical Report 5, Lancaster University

Stefan Evert（2004-2010）Computational Approaches to Collocations / Association measures http://www.collocations.de/AM/（2022/03/29 確認）

小木曽智信(2021)「『日本語歴史コーパス』の新しい語彙表とその応用例」『日本語学会 2021 年度秋季大会予稿集』

国立国語研究所「通時コーパス」プロジェクト・小木曽智信 (2021)『日本語歴史コーパス』短単位統合語彙表（バージョン 2021.03）https://doi.org/10.15084/00003467

謝辞

本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「開かれた共同開発環境による通時コーパスの拡張」であり、また JSPS 科研費 20K20411 の助成を受けたものです。

コロケーションでみる古今和歌集における「思う」のジェンダー差

竹内（たけうち）　綾乃（あやの）（国立国語研究所）

１．はじめに

本研究ではコロケーションという分析方法を用いて、古今和歌集の「ことば」におけるジェンダー差の有無について分析を行う。従来、平安時代には、語彙および文法においてジェンダー差は存在しないと言われていた(遠藤 1997)。しかし、近藤（2005）は n-gram 分析という方法を採用し、コーパスを用いた実証的な分析を行うことで、古今和歌集における「ことば」にはジェンダー差が存在することを示した[1]。この研究においてジェンダー差が認められた「ことば」の１つが「思う」であり、この動詞は「思惟する主体」であることを表す男性的な「ことば」であるとされている（近藤 2005)。では、平安時代において女性は「思う」ことはなかったのだろうか。本研究は、この疑問を出発点として、動詞「思う」に焦点をあて、データの分布、そしてコロケーションという観点から古今和歌集の「ことば」のジェンダー差について考えていくことにする。

２．データ

使用するデータは、『日本語歴史コーパス平安時代編』（短単位データ 1.1）に収録されている古今和歌集のコアデータにおいて「文体種別」が「歌」のデータである。全二十巻および墨滅歌を含む総歌数 1111 首のうち、男歌は 579 首、女歌は 74 首、そして読人しらずは 458 首である[2]。男歌と女歌の歌数は大きく違い、比率にすると約 7.8：1 である。また、全体の述べ語数は 19524 語、異なり語数は 1784 語である[3]。

データの分布

データにおける出現頻度の高い語彙上位 20 語は下記の通りである。

---

[1] 近藤（2005）で使用しているコーパスは『日本語歴史コーパス平安時代編』ではなく、また形態素解析は行われていない。

[2] 近藤（2005）では、男歌 595 首、女歌 87 首、読人しらず 429 首となっている。この違いは、近藤（2005）では読人しらずに分類されている歌のうち、読み手の性別が判断可能なものを男歌または女歌に振り分けたことにより生じている。ただし、何番の歌を男歌、女歌に振り分けたのかは言及されていない。

[3] 全て語彙素 ID で集計を行っている。

表1　出現頻度上位20語

順位	語彙	出現頻度	順位	語彙	出現頻度
1	の	1478	11	ぬ	284
2	に	833	12	む	277
3	は	621	13	ぞ	251
4	も	455	14	や	237
5	を	438	15	人	236
6	ず	413	16	けり	214
7	と	405	17	が	203
8	て	372	18	思う	200
9	なり	344	19	見る	181
10	ば	333	20	有り	178

助詞、助動詞の頻度が高く、最も出現頻度が高い語彙は助詞「の」で1478回である。名詞や動詞は15位以降に登場しており、助詞や助動詞と比較すると出現頻度は低く、内容語で最も出現頻度の高い名詞「人」は236回である。本研究の分析対象である動詞「思う」の出現頻度は200回であり、内容語としては出現頻度が高いことがわかる。

次に、動詞「思う」のジェンダー別の頻度は下記の通りである。

表2　動詞「思う」のジェンダー別出現頻度

男歌	女歌	読人しらず	合計
99	11	90	200

「思う」は男歌に99回、女歌に11回出現し、比率に換算すると9：1である。男歌と女歌の歌数の比率が約7.8：1であることを考えると、動詞「思う」の分布からは男歌、女歌どちらにおいても特徴的ではないと言えるだろう[4]。

3．分析

語彙の分布からは、動詞「思う」にはジェンダー差が見られなかった。そこで、Firth(1957)の“You shall know a word by the company it keeps（語彙がどのような語と共に用いられるのかを知ることにより、その語彙を理解することができる）”という考えに基づき、男歌、女歌において「思う」がどのような語と共起するのかを調べることにより、ジェンダー差の

[4] 2022年3月13日に行われた国立国語研究所主催の通時コーパスシンポジウム2022におけるポスターセッションでは、対数尤度比を用いて男歌、女歌の特徴語の抽出を試みており、動詞「思う」はどちらの特徴語にも分類されなかった。歌数の比率および統計処理どちらの考え方からも「思う」は男歌および女歌どちらの特徴語にも分類することはできない。

有無を分析する。

コロケーション尺度：MI3 (Mutual Information 3)

本研究では、コロケーション強度を算出するにあたり MI3 を採用した。MI3 の計算式は、下記の通りである[5]。

$$\mathrm{MI3} = \log_2 \frac{O_{11}^3}{E_{11}}$$

上記計算式における O は観測頻度、E は期待頻度を表している。O_{11} は実際の共起頻度、E_{11} は語の分布がランダムであると仮定した場合の共起の期待頻度であり、ノード（共起語を抽出するための中心となる語、本研究では動詞「思う」がノードにあたる）と共起語の出現頻度の積を総語数で割ったものである。

読人しらずに分類された歌には、読み手の性別は判断不可能だが、男性が読んだ歌そして女性が読んだ歌が混在していると考えられるため、今回の分析においては全ての読人しらずに分類されている歌を排除し、男歌 579 首、女歌 74 首、合計 653 首を分析対象とし、計算を行う。また、共起語を求めるにあたり、ウィンドウサイズを L5、R5（ノードを中心とし直前の語彙 5 個、直後の語彙 5 個の範囲で共起語を求める）とする[6]。

男歌、女歌における「思う」のコロケーション

男歌および女歌における動詞「思う」の上位 15 位までの共起語とその MI3 の値は下記の通りである。助詞、助動詞は男歌、女歌に共通して出現頻度が高く、内容語と比べると MI3 の値も大きくなるため、下記の表には表示していない。

[5] 本研究では、共起語の抽出および共起強度の計算にプログラミング言語 Python を利用している。

[6] 共起語の抽出は前文脈、後文脈ともに 1 首の範囲を超えないように行っている。

表 3 男歌上位 15 位までの共起語と MI3 値

	語彙	MI3
1	人	12.8015
2	物	12.71393
3	有り	9.72774
4	心	9.693698
5	哀れ	9.693698
6	数々	9.693698
7	我	9.590605
8	消ゆ	9.489557
9	頃	9.448586
10	限り	8.863623
11	夢	8.786808
12	隔つ	8.693698
13	問う	8.641231
14	身	8.615088
15	出ず	8.615088

表 4 女歌上位 15 位までの共起語と MI3 値

	語彙	MI3
1	合う	8.95631
2	身	7.903843
3	わ	7.711198
4	草枕	6.95631
5	訪う	6.95631
6	頃	6.95631
7	唐衣	6.95631
8	紐	6.95631
9	往ぬ	6.95631
10	うたて	6.95631
11	離る	6.95631
12	絆し	6.95631
13	寝	5.95631
14	解く	5.95631
15	空し	5.95631

男性歌における共起語と女性歌における共起語を比較すると、共通する共起語がほとんどないことがわかる。唯一、共通している上位共起語は名詞「身」だけである。男性歌においてコロケーション強度が強い語彙としては名詞「物」や「人」があげられるが、女性歌においてこれらの語彙は「思う」の共起語の上位語には上がっていない。このことは、近藤(2005)において、男性とは「『人を思い』、『物を思い』、さまざまに思惟する主体で」あると主張されていることと一致する。さらに感情に関わる語彙としては男歌では「哀れ」、女歌では「空し」「うたて」が上位共起語に上がっており、男歌と女歌における感情に関わる共起語にも違いがみられる。

データの可視化

上記の表において示した各語彙と MI3 値を用いて、動詞「思う」のコロケーションを可視化することも可能である[7]。下記の図では、ノード「思う」を中心に共起語が表示されており、MI3 値はノードからの距離で示されており（値が大きい語彙はノードからの距離が近い)、丸の大きさは語彙の出現頻度の大きさを示している。また、「思う」を中心に前文脈に出現しやすい語彙は左側に、後文脈に出現しやすい語彙は右側に表示されている。このようにデータを可視化することにより、表データでは示すことができない情報を含めることが可能であり、男歌、女歌のコロケーションを視覚的に容易に比較することも可能になる[8]。

[7] データの可視化には、プログラミング言語 Processing を使用している。

[8] ここで表示しているコロケーショングラフのスケールは紙面に合わせて変更している。

図１　男歌における「思う」のコロケーショングラフ

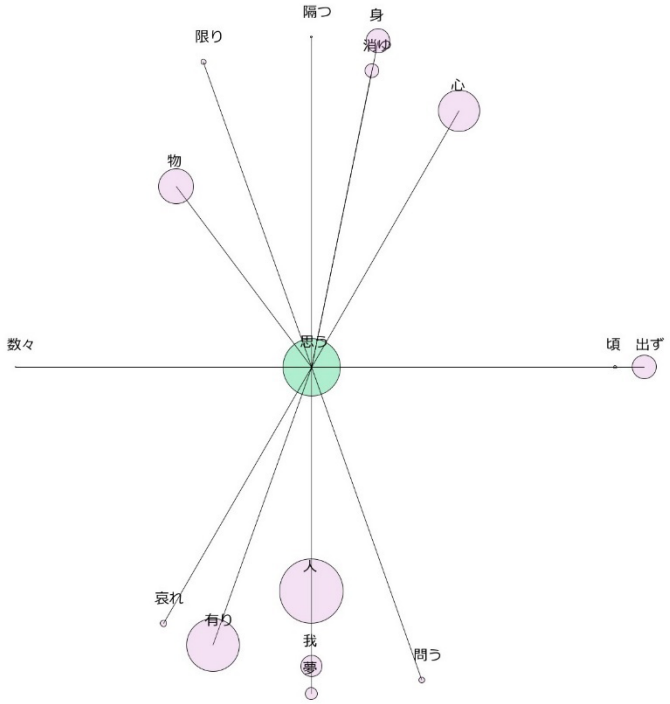
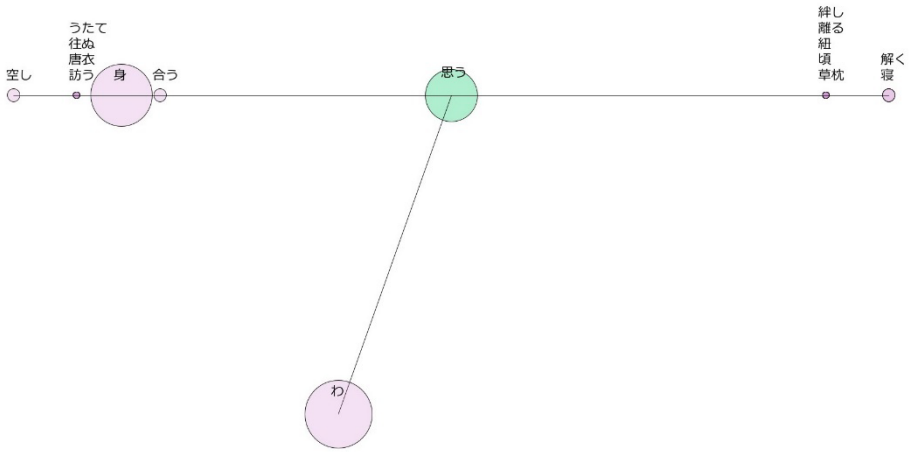


図２　女歌における「思う」のコロケーショングラフ



４．「思う」におけるジェンダー差

MI3 をコロケーション尺度として抽出された共起語から、男歌と女歌における「思う」の共起語にはジェンダー差があるということが示された。コロケーション強度から、男性は「哀れ」を「思い」、女性は「空し」そして「うたて」と「思う」ことがわかったが、ここでは実際にどのような歌の中で用いられているのかを「哀れ」そして「空し」が出現する歌を１例ずつ見ていくことにする。

男歌において「哀れ」が出現する歌の 1 首は、恋歌一に収録されている 474 番の在原元

方の歌である。

立ちかへりあはれとぞ思ふよそにても人に心をおきつ白波

これは、離れていても女性のことを愛おしいと思う、という趣旨の歌である。次に女歌において「空し」が出現する 1 首を見ることにする。恋歌五に収録されている 822 番の小野小町の歌である。

秋風にあふ田の実こそ悲しけれわが身むなしくなりぬと思へば

この歌は、男に飽きられて自分の身が空しくなってしまったと我が身を嘆く歌である。

以上のことから、男性が女性との関係において、相手の女性に対してポジティブな意味で「哀れ」と思っている一方で、女性は男性との関係において内省的に自分の身が「空しい」と思っているということがわかる。ここでは共起語を 2 つしか取り上げていないが、男歌に比べて女歌は内省的でネガティブなものが多いという傾向がある。このことは、谷(2006)において、女歌の特徴は内省的であることだと主張していることを実証的に示すことができたと言えるだろう。

５．おわりに

コーパスを使用し実証的な研究を行うことで、内省の効かない古語の研究においても客観的な証拠を提示することができ、さらに追試を行うことも可能である。そして、コロケーションを分析することで、ディスコースが持つ特徴的な語彙と語彙の繋がりを明らかにし、新たな視点を与えることができる。また近年、コロケーションを可視化することが可能になり、コロケーションの研究は今後の言語分析においても重要な方法であると言えるだろう。

参考文献

遠藤織枝（1997）.『女のことばの文化史』. 東京, 学陽書房.
近藤みゆき（2005）.『古代後期和歌文学の研究』. 東京, 風間書房.
谷知子（2006）.『和歌文学の基礎知識』. 東京, 角川選書.
Firth, J. (1957). A Synopsis of Linguistic Theory, 1930-55. In *Studies in Linguistic Analysis* (pp.1-31). Special Volume of the Philological Society. Oxford: Blackwell.

謝辞

本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「開かれた共同開発環境による通時コーパスの拡張」の成果の一部です。

渡日間もない外国にルーツのある子どもに必要な日本語とは何か

―「アプリで にほんご ―がっこうに いこう―」の開発を手掛かりに考える―

櫛引 祐希子[1]　米澤 千昌[2]　長谷川 ユリ[3]

[本ワークショップの趣旨]

外国にルーツのある子どもにとって必要な日本語とは何か、日本語学から考える意義

現在、日本国内で就労する外国人や国際結婚の増加によって日本国内の学校に在籍する児童生徒の言語的・文化的背景は多様化している。それに伴い、日本語指導を必要とする児童生徒の割合も急激に上昇している。文部科学省が 2 年に 1 度実施している「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」によると、公立の小中高等学校と特別支援学校で日本語指導を必要とする児童生徒は平成 30 年度に 51,126 名おり、この 10 年間で 1.5 培増加している。

こうした児童生徒の呼び方は「移動する子どもたち」(川上 2006)、「複数言語環境を生きる子ども」(尾関 2013)、「多様な文化的、言語的背景を持つ子ども (Culturally, Linguistically Diverse Children)」(カミンズ・中島 2011) など様々である。また日本語を第二言語として習得する児童生徒は JSL 児童生徒と呼ばれる。文部科学省は基本的に「外国人児童生徒」という呼称を用いるが、国際結婚によって日本国籍を有する児童生徒の中にも日本語指導を必要とする子どもがいることから「外国人児童生徒等」と呼ぶこともある。本研究が対象とする子どもは、必ずしも外国籍とは限らない点、日本で生まれたが家庭内でずっと母語のみを使用してきたという「移動」を伴わない子どもがいる点、さらに、これまで母国で母語母文化の中で育ってきた渡日間もない子どもを対象としている点から、上記の呼称ではなく「外国にルーツのある子ども」という呼称を用いることとする。

外国にルーツのある子どもに向けた日本語・日本文化の学習内容や学習方法の研究は、日本語教育学が中心に取り組んでいる。一方、日本語学は外国にルーツのある子どもをめぐる日本語の問題が教育的な性格を色濃くするためか、あまり関心を寄せてこなかった。

だが、母語による概念形成が完成していない渡日間もない外国にルーツのある子どもに対する日本語教育では、白川 (2018) の言う文脈情報に基づいた日本語理解と運用という語用論的研究の成果を踏まえた導入が有効である。また、子どもたちに必要な日本語 (学校生活を送るために習得が必要な日本語と自己表象を成し遂げるために必要な日本語) を考える際には、日常生活の会話場面の言語行動を整理した東北大学方言研究センター (2014～2017)『生活を伝える被災地方言会話集 (1～4)』が一つの理論的基盤となりうる。

[1] 大阪教育大学　kushibiki-y11@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
[2] 大阪教育大学　yonezawa-c73@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
[3] 大阪教育大学　haseyu@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

このように、日本語の実態の解明を本分とする日本語学が培ってきた知見が、日本で豊かな人生を歩んでいくために不可欠となる日本語の土台を築かなくてはいけない外国にルーツのある子どもの教育に貢献できる点は大いにあると考える。

本ワークショップでは、図 1 に示した構成で近年全国的に増加している外国にルーツのある子どもに対して日本語学は何ができるのか議論するための場を用意したい。

趣旨説明（10 分）	担当
外国にルーツのある子どもにとって必要な日本語とは何か、日本語学から考える意義	櫛引
研究発表（50 分）	
外国にルーツのある子どもに必要な日本語を方言から捉え直す	櫛引
外国にルーツのある子どもを取り巻く言語的・文化的課題と必要な日本語支援	米澤
外国にルーツのある子どもに求められる語彙力・表現力とは何か	長谷川
デモンストレーション（10 分）	
「アプリで にほんご ―がっこうに いこう―」の操作説明と活用事例の紹介	米澤・長谷川
参加者との意見交換（20 分）	櫛引

図 1　本ワークショップのアウトライン

[本ワークショップで用いる「アプリでにほんご」について]

外国にルーツのある子どもにとって必要な日本語について考える手掛かりとして、大阪教育大学と NTTLS（NTT ラーニングシステムズ株式会社）によるプロジェクト[4]で 開発中の「アプリで にほんご ―がっこうに いこう―」（以下、「アプリでにほんご」）を用いる。

学習用アプリの開発に取り組んだのは、丹治他（2018）で報告されたように教育現場におけるデジタルモバイルの普及、動画や音声などの刺激による学習意欲の上昇、教材準備に関わる教員の負担軽減、学習到達段階の正確な実態把握、系統的な指導の実現等が理由である。

「アプリでにほんご」の学習内容は、文部科学省（2019）『外国人児童生徒受け入れの手引き　改訂版』で示された「サバイバル日本語」プログラムに該当する。また、想定する学習対象者は主に小学校に在籍する低学年の児童である。高学年以上であれば母語を介した理解やメタ言語的な説明への対応が可能だが、抽象的な概念形成の途上にある低学年は、そうしたことが困難である。つまり、サバイバル期の低学年を対象にした場合、子どもの母語に頼らずに日本での生活に必要となる日本語をどう教えるのかということが課題となる。

---

[4] プロジェクトに関わる大阪教育大学のメンバーには、発表者 3 名の他に教育工学、発達心理学、応用物理学等の研究者がいる。また、開発にあたり柏原市教育委員会、柏原市立玉手小学校、東大阪市教育委員会、大阪市教育委員会、大阪市第 2 共生支援拠点「かけはし」(高殿小学校内)、おおさかこども多文化センターにヒアリング調査を行った。なお、「アプリでにほんご」のイラストは、鈴木なるみ氏が作成した。

「アプリでにほんご」は、具体的な学校生活場面で必要となる日本語が身に付くよう 10 の UNIT で構成されている。1 つの UNIT につき約 2 時間を学習時間として想定している（計 20 時間）。総合的な学習目標①②③は、「日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議」が示した「初期指導（前期）」を参考にして設定した。

①意思疎通を単語レベルでできるようにする。

②日本の学校生活や社会生活に関する最低限のルールを理解する。

③日本の学校生活において積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

上記の目標を達成するために、各 UNIT には学習活動として【ひょうげん】と【ことば】が設定されている。

【ひょうげん】で学ぶのは、各 UNIT における学校生活場面に応じて最低でも一語文として成立する表現（例えば、挨拶、「いい」「どこ」「かして」等）である。例として図 2、3、4 を示す。

図 2 は UNIT2 からの引用である。赤信号で横断歩道を渡ろうとする子どものイラストが表示されている。この場面を解釈し、この状況が「いい」か「だめ」かを判断させて両表現を習得させるのが、この学習活動のねらいである。

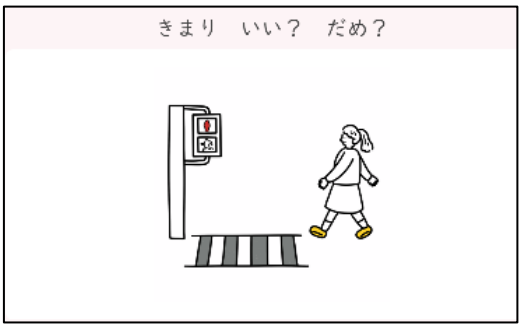


図 2　UNIT2　【ひょうげん】

図 3 は子どもの身近にある文具のシルエットを示し、その名前を答えさせる UNIT3 の一部である。「なに？」という問いに対してどう応じるのが適切かを理解させるのが目的である。画面下の手のマークをクリックすると、シルエットで示された文具の全体像が浮かび上がる。

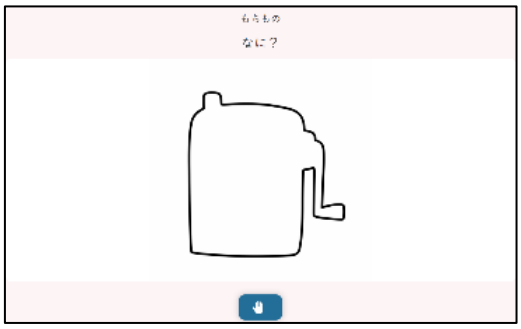


図 3　UNIT3　【ひょうげん】

図 4 は UNIT5 に登場する掃除場面である。海外の学校では児童生徒が自ら教室やトイレの掃除を行うことは習慣化されていないため、雑巾やそのしぼり方を知らない子どもは少なくない。日本の学校で生活するには、こうした日本特有の学校文化についても知っておく必要がある。UNIT5 と UNIT6 の一部では掃除場面を利用して指示詞の習得や「おなじ／ちがう」の両表現を理解させる学習活動を用意している。

図 4　UNIT5　【ひょうげん】

このように「アプリでにほんご」における【ひょうげん】は、米澤・櫛引・長谷川（2022）で論じたように基本的な文型の導入ではなく、アプリ上で示されたイラストや動画を見ながら外

国にルーツのある子どもと日本語指導にあたる教員や支援員が対話を行い、その積み重ねが外国にルーツのある子どもの日本語力の醸成につながる目的で作成されている。

また、【ひょうげん】で設定する学校生活場面についても米澤・櫛引・長谷川（2022）で詳しく報告しているが、とりわけ参考にしたのが次の二つの教材である。

（ⅰ）大蔵守久（1999)『日本語学級〈1〉初級必修の語彙と文字』凡人社.

（ⅱ）村野良子・藤川美穂・豊島教材作成チーム（2014)「がっこうの日本語　絵カード200」ココ出版.

くわえて、日本で暮らす外国にルーツのある子どもに必要となる日本語について整理するために、日常生活の言語行動を目的別にまとめた東北大学方言研究センター(2014～2017)『生活を伝える被災地方言会話集(1～4)』の枠組みを参考にした。ここで示されている様々な言語行動は、日常生活で営まれる言語行動の特徴を捉える指針となる。

例えば、卵が食べられるかどうかを担任や給食係の同級生に伝える「たべる／たべない」という言語行動は主張表明系に該当する。だが、同じ「たべる／たべない」という表現でも、使用される状況によっては疑問反応系となる。これを示したのが下の図5である。

外国にルーツのある子どもと日本語指導にあたる教員や支援員は、図 5 の❶❷で示されたイラストを介して「疑問表明系＋疑問反応系(イラストを見て答える)」の対話を行うが、❸では子ども自身が自分のことを主張する対話が求められる。つまり、❶❷と❸を介して行われる対話は異なる性格を持つものの、いずれも日本語にまだ慣れていない子どもが「たべる／たべない」を用いて異なる目的に応じた言語行動を実践する練習として重要である。

このように渡日間もない外国にルーツのある子どもにとって必要となる日本語を目的別言語行動の枠組みで捉え直すことによって、日本語の基本的な文型の暗記と練習問題の答え合わせを中心とした日本語学習に陥ることなく、実践的なコミュニケーションへの順応を促進させる仕掛けを作ることができると考えられる。

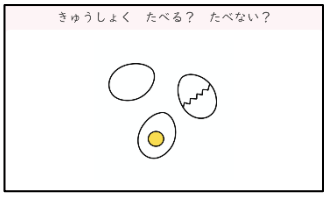
❶	❷	❸
		
アプリ：疑問表明系 「たべる？　たべない？」	アプリ：疑問表明系 「たべる？　たべない？」	アプリ：疑問表明系 「たべる？　たべない？」
子ども：疑問反応系 「たべる」	子ども：疑問反応系 「たべない」	子ども：主張表明系 「たべる／たべない」

図5　UNIT4の「きゅうしょく　たべる？　たべない？」

ところで、米澤・櫛引・長谷川（2022）で述べたように「アプリでにほんご」の【ひょうげん】には音声が入っていない。その理由は、外国にルーツのある子どもを取り巻く日本語の環境が現場によって大きく異なるからである。例えば、UNIT1 に登場する「ありがとう」は、共通語のアクセントでは「り」が高くなるが、関西では専ら「と」が高くなる。成人向けの日本語教育では共通語のアクセントを教えることが優先される傾向にあるが、渡日間もない外国にルーツのある子どもにとって必要なのは、自分を取り巻く日本語の環境に慣れることである。となれば、関西で暮らす外国にルーツのある子どもには「と」が高くなる「ありがとう」の方が優先されるべきだろう。こうした考えに立ち、日本語指導にあたる教員や支援員が普段自分たちの使う日本語で子どもたちと対話し、そこで発せられる音声に子どもたちが慣れ親しめるよう、【ひょうげん】では音声なしが基本設定となっている。

一方、【ことば】で学ぶのは、各 UNIT における学校生活場面に応じた表現の使用において必要となる語彙（例えば、学校生活に必要な文具の名称や教室の名称など）である。「アプリでにほんご」における【ことば】の学習活動では、基本的に 4 種類の問題が提示される。

例えば、図 6 のように「こくばん」という音声を聞いて、１と２のイラストのどちらかを選ぶ問題がある。ここでは予め入力された音声の聞き取りとその音声が指示する対象の理解が確認される。なお、入力済の音声は教員や支援員の発音に変換することが可能である。

また、図 7 のように画面に登場した対象の正しいひらがな表記を選ぶ問題もある。

さらに図 8 と図 9 のようにイラストに描かれた対象を示す文字をドラッグ＆ドロップで選ぶ問題が 2 種類ある。図 8 のように一字だけ空欄になっている問題と図 9 のように全てが空欄になっている問題がある。

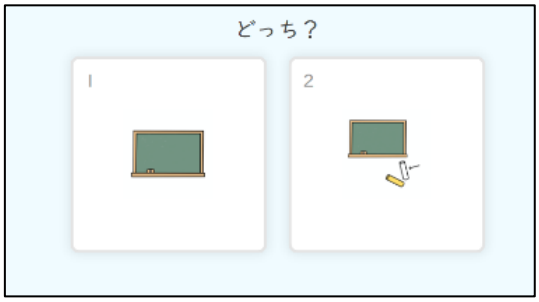


図 6　UNIT6　【ことば】　どっち？

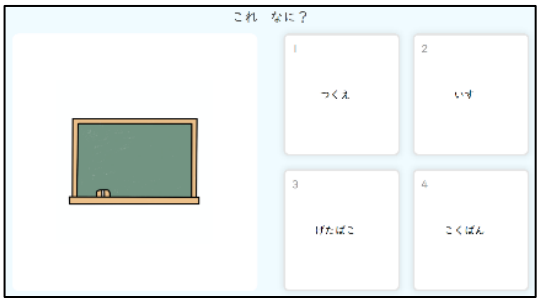


図 7　UNIT6　【ことば】文字選び①

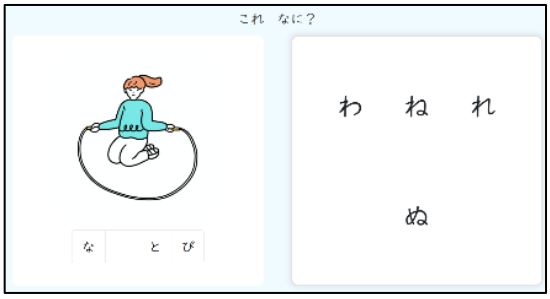


図 8　UNIT6　【ことば】文字選び②

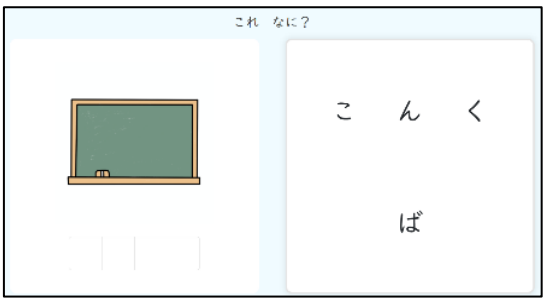


図 9　UNIT6　【ことば】文字選び③

上記のように、【ことば】では問題（クイズ形式）を通して外国にルーツのある子どもが学校生活を営む上で必要となる語彙について習得できるようになっている。ただしサバイバル期であることを考慮し、カタカナは外来語やカタカナ表記が習慣化している語彙（例えば「マスク」「はブラシ」「バケツ」等）に留めて提示している。

なお、「アプリでにほんご」では各 UNIT の学習活動とは独立して「ひらがな」「カタカナ」（濁音、半濁音、拗音の表記も含む）の文字を学び、それぞれの文字と音を一致させたり書き順を習得したりできる「もじ」専用のページも、下の図 10 のように設けてある。

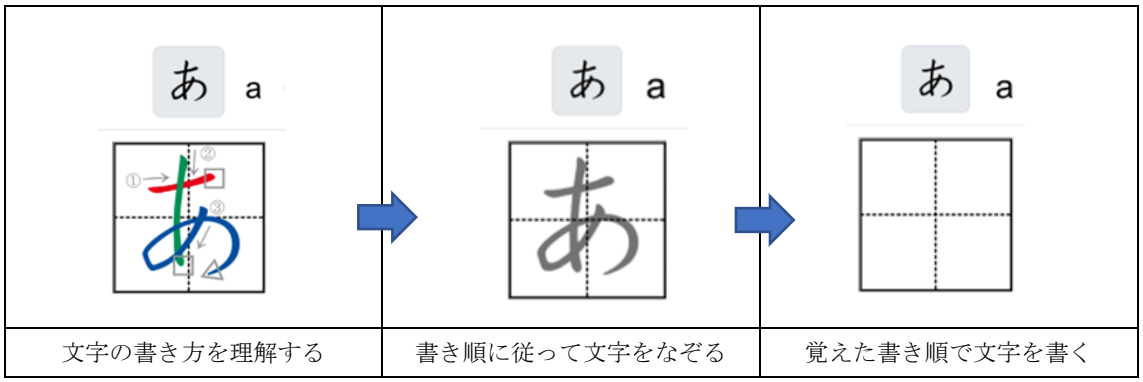


図 10　「アプリでにほんご」における文字の練習

[研究発表ー方言研究の視点から—]

外国にルーツのある子どもに必要な日本語を方言から捉え直す　（櫛引祐希子）

日本語の方言を日本語教育で扱うかどうか、扱うとうすれば何についてどこまで教えるのか、どのような教材でどう教えるのかという問題が議論されるようになったのは 1980 年代からである（伴 1984、1985、佐治 1988）。

生越（1991）によれば、かつてはできるだけ方言的要素を排除することが日本語教育の現場では求められたが、「最近、方言を積極的に教えるべきではないかという意見が出てきた。（231）」とある。当時の最近であるから、今から 31 年前ということになる。その間に作成された方言教材をまとめた佐々木・町（2006）や後藤（2020）を見ると、教材一つひとつの充実化がうかがえるものの教材作成には地域的な偏りがあり、日本語教育における方言の位置づけに対する関心に研究者や日本語教師の間でばらつきがあることがわかる。

方言研究者であり日本語教育にも携わる発表者は、学校における方言が児童生徒や教職員にとって生活語としての機能を果たしている以上、日本の学校に在籍する外国にルーツのある子どもに向けて方言を教えることは不可避であると考える。

山田（2020）は、工場労働者として働くニューカマーを例に挙げ、彼らが必要とする日本語が共通語よりも実際の労働環境で使用される方言語彙や同僚が頻繁に使用する文末表現であることを指摘し、「万が一の場合、命にかかわることも考えつつ、限られた時間で教えるべき語句や表現が厳選された教科書が必要である。（223）」と述べているが、この見解は外国にルーツのある子どもの日本語にも当てはまる。

実際、発表者らが「アプリでにほんご」の開発にあたって行ったヒアリング調査でも、共通語の「だめ」「つらい」ではなく関西で頻繁に用いられる「あかん」「しんどい」を渡日間もない外国にルーツのある子どもに教えるという現場の教員や支援員の声が複数あった。これは、その地域で生きていくために不可欠な生活語を外国にルーツのある子どもに覚えさせるという視座に立ったものである。

ただし、地域の生活語として方言が機能しているかどうかということに地域差があるのも事実である。発表者らがヒアリング調査を行った大阪は方言が生活語として息づいている地域であるため、外国にルーツのある子どもに必要な日本語として方言が自然と結びつく土壌があるが、そうでない地域もあるだろう。

「アプリでにほんご」の【ひょうげん】と【ことば】は、基本設定として共通語の表現と語彙が入力されているが、今まで述べてきた事情を踏まえ、現場のニーズに応じて教員や支援員が教える表現や語彙をカスタマイズできるようになっている。

例えば、図 2 で示した UNIT2 の【ひょうげん】は、関西であれば図 11 のように共通語の「いい」を「ええ」、「だめ」を「あかん」に設定することが可能である。

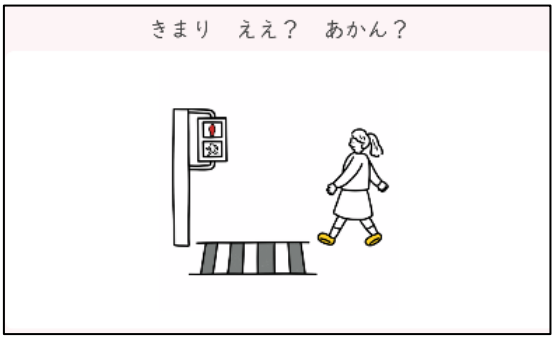


図 11　UNIT2　【ひょうげん】の関西版

このように利用者のニーズに応じて自在にカスタマイズできるというアプリならではの特性は、学校で使われる気づかない方言の対応にも有効である。米澤・櫛引・長谷川（2022）は「うわぐつ」「うわばき」「ズック」を例に挙げて、各学校現場での呼称に応じてカスタマイズできるアプリの利点を述べている。

しかし、こうした利用者によるカスタマイズは、教材作成者である研究者や日本語教師の役割の転換を物語るものとも言える。従来の非デジタル教材等で提示する表現や語彙は教材作成者が選定しなければならなかった。だが、「アプリでにほんご」のように利用者が自在にカスタマイズできる学習用アプリが普及すれば、教材作成者に求められるのは、教えるべき表現や語彙の選定作業だけではなくなる。むしろ、教材のシステムの設計において、どのような場面で利用者は共通語から方言へのカスタマイズを要求するのかという点や、利用者によって用いられる表現や語彙が多様化するのはどのような場面なのかという点を見定める判断が問われることとなる。

こうした判断の根拠として、方言学が明らかにすべき日本語の地域差は、学校関係の方言に限っても、思いのほか多いことが発表者らの大阪で行ったヒアリング調査で確認できた。気づかない方言の研究は特定の地域で成果があるものの、全国的に見れば断片的な情報に留まっているのが現状である。学校で使われる生活語としての方言の実態調査と合わせ、日本国内の学校で用いられる表現や語彙にどのような地域差があるのかを明らかにする基礎研究は、外国にルーツのある子どもがそれぞれの暮らす地域にしっかりと根を張れるようになるためにも今後進展させていく必要があるだろう。

[研究発表ー年少者日本語教育研究の視点から―]

外国にルーツのある子どもを取り巻く課題と必要な日本語支援　（米澤千昌）

１．外国にルーツのある子どもたちが直面しうる課題

渡日間もない外国にルーツのある子どもが直面しうる課題として、まず学校への適応と居場所の確保が挙げられる。池上（1994）は、適応とは「環境と調和できるよう自分自身を合わせていくことと、環境に働きかけて環境自体を変えていくことの両面を持ち合わせている」と説明し、これは環境との相互作用によって体得していくものであると述べている。オーストラリアで英語を第二言語として学ぶ児童生徒を対象に調査を行った Miller（2003）も適応を「新たな言語を通して自己表象を成し遂げる」（日本語訳、金丸 2015）過程であると述べている。このように適応とは、日本への同化を意味するのではなく、日本語での自己表象を通して、周囲にはたらきかけることで実現できるものなのである。また、日本語初期指導のカリキュラム開発を行った矢崎（2012）は、日本語ができない子どもたちが、自分の生活空間の中に居場所を作るためには、早い時期から「ともだちとのつながり」を作ることが重要であると指摘している。つまり、日本の学校に適応し居場所を確保するためには、ただ自分自身を日本の環境に合わせていくのではなく、学校や在籍学級で周囲と関わり、そこでの相互作用によって自己表象を成し遂げるための日本語支援が必要であると言える。

次に、日本語習得に関する課題が挙げられる。現在、子どもたちへの日本語指導は、授業時間に在籍学級から対象となる子どもを抜き出し、別室で支援を行う取り出し授業や、近隣の学校に通う子どもたちが 1 つの学校に集まり支援を受ける拠点校方式、放課後の教室、地域や NPO 団体による日本語教室など、様々な形で行われている。しかし、これらの多くは、環境そのものが学校や在籍学級、他の児童生徒から隔離された状況にある。先述の矢崎（2012）が、早い時期からの「ともだちとのつながり」の重要性を指摘していることからもわかるように、子どもたちへの日本語指導は、ただ必要な日本語を教えればよいというわけではなく、在籍学級での学びや周囲との関わりにつなげるという視点が必要である。

最後に、子どもたちの母語・母文化の喪失という課題についても触れておく。外国にルーツのあるこどもたちにとって母語とは、親子のコミュニケーション言語であるだけでなく、認知力の育成や日本語の伸長、自己肯定感やアイデンティティの確立のためにも重要な役割を果たすものである（中島 2016 他）。しかし、幼い子どもたちの母語は脆弱であり、マイノリティ言語を使用する子どもは、現地語の習得が進むにつれて、年齢相応の母語の力が保持できなくなり、自身の中で現地語が優勢な言語になっていくことがある（中島 2016）。これは子どもが、周囲の人々が母語に対してどのような価値をもっているのか敏感に感じ取り、自ら自身の母語に対しでマイナスの価値づけをしてしまうことが一因であると中島は指摘している。つまり、子どもたちへの日本語支援では、子どもたちの言語や文化を価値のあるものとして認める環境作りが欠かせない。その方法の 1 つとして米澤（2020）は、子どもたちのルーツのある国・地域の言語や文化を含む、複数の言語や文化を同時に扱う活動を日本語教室で実施し、それにより、教室内で複数の言語や文化を等しく価値のあるものとして扱いながら日本語支援を行うことができたと報告している。

2. 外国にルーツのある子どもたちの言語教育

外国にルーツのある子どもたちへの日本語支援を考える際には、子どもの言語習得の特徴も考慮しなければならない。言語教育における子どもの強みは自然習得の力である（中島2010）。そのため小学生、特に低学年の場合、文法説明はあまり有効ではない。児童にとって身近な具体的な場面の中で日本語を聞き、その表現を繰り返し使って活動するといったことが重要となる（文部科学省 2019）。また、成人の日本語学習者は多くの場合、自分の意志により日本語を学習している。しかし子どもたちは、親の都合で来日し、自分の意志とは関係なく、日本語の学習をしている場合がほとんどである。そのため子どもたちの日本語学習への動機づけを高める工夫も必要である。

外国にルーツのある子どもたちへの支援では、子どもたちの「できない」ことに焦点が当てられがちである。「文法が理解できていない」「漢字ができない」と、子どもたちの苦手な部分を克服するための支援が行われ、その結果、子どもたちの学習意欲を低下させてしまうことがある。そのような中、米澤（2019）は、日本語とは全く別の目的、例えば、作品を作ったり、イベントを行ったりすることを目的とし、その過程で日本語を使用することを重視した日本語支援活動を行った。すると子どもたちは、意欲的に活動に取り組み、日本語の発話も増え、苦手とする「書く」活動にも積極的に取り組めたと、米澤は報告している。この活動では、子どもたちの発話は練習のための発話ではなく、「自分のこと」や「自分の伝えたいこと」を伝えるための発話であり、それが子どもの日本語学習への参加の動機づけを高めることにつながっていたと考える。

3. 日本語に触れ始めて間もない外国にルーツのある子どもたちに必要な日本語支援とは

以上より、日本語に触れ始めて間もない外国にルーツのある子どもたちに必要な日本語支援は、以下の 3 点にまとめることができる。

①学校、在籍学級という文脈において、周囲と関わり、自分を表現できる日本語支援
②子どもたちのルーツのある国や地域の言語や文化を取り入れた日本語支援
③練習の場が、自分を表現する場である日本語支援

「アプリでにほんご」は、この 3 つの特徴を考慮し、学習コンテンツが作られている。①については、語用論的視点、つまり、どのような場面で、どのことばや表現を、どのような意味で使うのかを考え、問題を作成している。例えば、「きゅうしょく」の場面で「多い・少ない」ということばを取り入れている。これは、おかずの量に対する自分の意見を伝え、適切な量を入れてもらうことを可能にするための項目である。②、③については、例えば「べんきょう」という単元では、「おなじ・ちがう」ということばを使いながら物を比較するだけでなく、日本と母国の習慣を比較し、同異を伝えられるよう、問題を設定している。

このように、「アプリでにほんご」は、日本語教室での日本語の練習そのものが、学校という文脈で自分を表現するコミュニケーションとなっており、さらにそこで自身のルーツのある国・地域についても日本語で伝えていくことで、教室を、複数の文化を等しく価値あるものとして扱う空間にしているのである。

[研究発表－日本語教育研究の視点から―]

外国にルーツのある子どもに求められる語彙力・表現力とは何か　（長谷川ユリ）

１．子どもの語彙力の発達

国立国語研究所（1964）の調査によれば、小学生は入学時には日常生活のために必要な語彙力があるもののまだ不十分であり、小学校に通う間に語彙が広がると同時に使い方が確実になっていく。子どもたちはことばの発達段階にあるため、日本語を勉強したことがない外国ルーツの子どもであっても、慣れれば自然に日本語が習得できるという考え方があることは否定できない。

しかし、外国にルーツのある子どもの学習言語の語彙力については、来日した時の年齢に関わらず、まず基本的な語彙が習得され、来日年齢が高い場合は学年相当の言語の習得には時間がかかるという調査結果がある（一二三 1996）。また、外国にルーツのある児童の来日1年間の語彙習得を、日本語を母語とする児童と比較した結果、品詞、カタカナ語、デスマスの形の使用割合に違いがあることが明らかになった（松本 1999）。さらに、日本に長期滞在・定住している場合でも、日本語を母語とする子どもにとっては「簡単な」動詞の産出が苦手な外国ルーツの子どもがいるとの指摘もある（西川・青木 2018）。

表現力を大きく支えるのは語彙力の発達であり、子どもの語彙をどのように豊かにするかは大きな課題である。それは外国ルーツの子どもにとっても同じであり、そのための基礎資料として、子どもの日本語教育のための基本語彙調査も行われている（工藤 1999）。日本語の勉強を始めた子どもの場合、単に「語彙力不足」として捉えると、足りないところにばかりに目が向き、語彙数を増やすことだけに終始し、「日本語を母語とする子どもに追いつくにはどうしたらよいのか」が目標となってしまう。語彙の習得のしかたには違いがあることを前提として、学校生活に適応するためにはどのようなコミュニケーション力を形成していけばよいかという視点で日本語支援を行うことが求められる。

2. 初期段階で求められる語彙力・表現力

ここでは、初期段階で求められる外国ルーツの子どもの日本語力について考える。文部科学省（2019）では、初めて日本語を学ぶ子どものためには実際の場面で使用する語彙や表現を聞かせて繰り返す練習や応用できる場面での練習が必要であり、日本語の習得状況によって、例えば、トイレに行きたい時に「トイレ」、「トイレ、いい。」、「トイレ、いってもいい。」、「トイレにいってもいいですか。」などの表現から選択できること、聞いて理解するという設定も可能であることが提案されている。つまり、必ずしも「整った形の文」としての発話が求められるのではなく、単語のみの発話でも、また聞いて分かったと反応するだけでもよいとしているのである。

成人向けの初級の日本語教育であれば、デスマス体と普通体と同時に提示することはあまりない。実際、友だちとの会話ではデスマス体は使わず普通体を使う方が自然であり、学習者によっては普通体の習得が必要な場合もあるが、丁寧度が求められる場面に遭遇する際に困らないようにという考えに基づき、普通体よりデスマス体が優先されるのである。そ

のため、初級の日本語教材では、デスマス体を使用するのにふさわしい場面や人間関係を設定し、できるだけ自然な会話になるようにモデル会話が工夫されていることが多い。また、文法形式を分かりやすく提示するという観点から、話しことばだけでなく、書きことばも導入することがある。

このように、子どもと成人では、優先すべき日本語の表現形式が異なると言える。初期段階の子どもの日本語教育では、自分がおかれている場面で最大限コミュニケーションをはかることが最優先されるべきである。そして、「トイレ、いい。」のような発話は、文法的に整った形の文「トイレに行ってもいいですか」が言えるようになるまで一時的に使う表現という位置づけにするのかは、状況によって判断が異なるだろう。子どもの場合、学校で友だちと話す時はデスマス体を使わない方が自然であり、様々な表現形式を駆使してコミュニケーション力をつけるという視点が非常に重要である。

今回開発したアプリは、教員や支援員が一緒に使って練習することを想定しているが、授業中や休み時間、放課後など様々な場面を設定し、話す相手は教員や支援員だけでなく友だちも含まれる。子どもにとって自然な表現力とは何かという観点からアプリが活用され、様々な活動を通じて子どもたちが自らの力で日本語を習得していくことを願っている。

参考文献

池上摩希子（1994）「日本語教育が必要な児童生徒対象の教育目標構造化の試み ： センター中学生クラスを例に」『中国帰国者定着促進センター紀要』2、pp. 26-47.

大蔵守久（1999）『日本語学級〈1〉初級必修の語彙と文字』凡人社.

生越直樹（1991）「日本語教育と方言」徳川宗賢・真田信治編『新・方言学を学ぶ人のために』世界思想社.

尾関史（2013）『子どもたちはいつ日本語を学ぶのか―複数言語環境を生きる子どもへの教育』ココ出版.

金丸巧（2013）「外国につながる子どもの適応をどのように支えるか　支援者の適応観の変容に着目して」『ジャーナル「移動する子どもたち」―ことばの教育を創発する』4、移動する子どもフォーラム、pp. 1-20.

カミンズ, ジム・中島和子（2011）『言語マイノリティを支える教育』慶応義塾大学出版会.

川上郁夫（2006）『「移動する子どもたち」と日本語教育』明石書店.

工藤真由美（1999）『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房.

国立国語研究所（1964）『小学生の言語能力の発達』明治図書出版.

後藤典子（2020）「日本語教育における方言の課題」小林隆・今村かほる編『実践方言学講座　第3巻 人間を支える方言』くろしお出版.

佐々木史・町博光（2006）「方言学・位相論」縫部義憲監修・町博光編『講座・日本語教育学　第2巻 言語行動と社会・文化』スリーエーネットワーク.

佐治圭三（1988）「日本語教育における位相の問題―日本語教育と関西方言のかかわりを中心に―」『国語学』154、pp. 131-117.

白川博之（2018）「日本語研究から日本語教育研究への越境」『日本語の研究』14-2. pp68-82.
丹治敬之・勝岡大輔・長田恵子・重永多恵（2018）「知的障害特別支援学校の国語における刺激等価性の枠組みに基づく読み学習支援アプリの導入―児童生徒の学習効果と教師にとっての有用性の検討―」『LD 研究』27-3、日本 LD 学会、pp. 314-330.
中島和子（2010）『マルチリンガル教育への招待　言語資源としての外国人・日本人年少者』ひつじ書房.
中島和子（2016）『バイリンガル教育の方法　12 歳までに親と教師ができること　完全改訂版』アルク.
西川朋美・青木由香（2018）『日本で生まれ育つ外国人の子どもの日本語力の盲点 簡単な和語動詞での隠れたつまずき』ひつじ書房
伴紀子（1984）「語学教育の日本語と生活語としての日本語」『アカデミア・文学・語学篇』36、pp. 205-218.
伴紀子（1985）「『生活語』の教育上の配慮」『日本語教育』56、pp. 110-120.
一二三朋子（1996）「年少者の語彙習得過程と言語使用状況に関する考察－在日ベトナム人指定の場合－」日本語教育 90 号、pp. 13-24.
文部科学省（2019）『外国人児童生徒受け入れの手引き　改訂版』明石書店.
松本恭子（1999）「ある中国人児童の来日 1 年間の語彙習得－発話資料のケーススタディ：形態素レベルの分析－」『日本語教育』102 号、pp. 68-77.
矢崎満夫（2012）「『はじめての日本語とクラスの仲間づくり』：「つながり」を主題とした静岡県版日本語初期指導カリキュラムの開発と普及」『静岡大学教育実践総合センター紀要』20、pp. 265-275.
山田敏弘（2020）「方言教科書のつくり方」大野眞男・杉本妙子編『実践方言学講座　第 2 巻 方言の教育と継承』くろしお出版.
米澤千昌（2019）「複数の言語文化環境で育つ子どもの学びを育む支援環境の構築を目指したアクション・リサーチ―大阪府公立小学校の日本語支援教室での実践より―」『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』第 4 号、pp. 63-78.
米澤千昌（2020）「複数の言語文化環境で育つ子どもの学びを育む支援に関する一研究―子どもの情報発信に着目して―」『日本語・日本文化研究』第 29 号、大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻、pp. 243-257.
米澤千昌・櫛引祐希子・長谷川ユリ（2022）「外国にルーツのある児童のための日本語アプリの開発について」『大阪教育大学グローバルセンター年報』26、3 月末日刊行予定.
Miller, J. (2003) *Audible Difference: ESL and Social Identity in Schools.* Clevedon, UK: Multilingual Matters.

[参考 1]

「アプリで にほんご　―がっこうに いこう―」の【ひょうげん】の概要

UNIT	トピック	習得を目指す表現例
1	あいさつ	おはよう
		おはようございます
		こんにちは
		さようなら
		ばいばい
		ありがとう
		ありがとうございます
		ごめん
		ごめんなさい
		きりつ/たってください等
		れい
		ちゃくせき/すわってください等
		おなまえは？
		よろしくおねがいします
2	きまり	いい
		だめ
		かずをかぞえる（1～10）
3	もちもの	わかる
		わからない
		なに？
		ある
		ない
		わすれた
4	きゅうしょく	たべる
		たべない
		のむ
		のまない
		すき
		すきじゃない
		おおい
		すくない
		いただきます
		ごちそうさまでした

UNIT	トピック	習得を目指す表現例
5	そうじ	こう？
		そう
		ちがう
		これ
		だれの？
		ぼくの
		わたしの
6	べんきょう	みて
		かいて
		きいて
		よんで
		きて
		みせて
		かして
		おなじ
		ちがう
		できる
		できない
7	がっこう	どこ？
		ここ
		あそこ
8	からだ	どうしたの？
		だいじょうぶ？
		いたい
		だいじょうぶ
9	じかんわり	なんようび？
		○○ようび、▲▲ある？
		□□、すき？
		なんがつ？
		なんにち？
		たんじょうび、なんがつなんにち？
10	ともだち	いっしょに…（あそぼう、いこう、かえろう）
		いる
		いない
		いれて

各 UNIT で行う【ひょうげん】の学習活動の問題数は以下の通りである[5]。

UNIT1	23 問	**UNIT6**	40 問
UNIT2	20 問	**UNIT7**	13 問
UNIT3	29 問	**UNIT8**	11 問
UNIT4	51 問	**UNIT9**	6 問
UNIT5	12 問	**UNIT10**	28 問

[5] 学習内容の修正を行った結果、米澤・櫛引・長谷川（2020）の問題数に変更が生じた。

[参考２]

「アプリで にほんご　―がっこうに いこう―」の【ことば】の語彙リスト

UNIT1

せんせい
がっこう
ともだち
えんぴつ
なまえ
かさ　＊

UNIT2

いち
に
よん・し
ご
ろく
なな・しち
はち
きゅう・く
じゅう
トイレ
くつ
うわばき・うわぐつ
ごみ　＊
ごみばこ　＊
しんごう　＊
くるま　＊

UNIT3

のり
ものさし
ほん
はさみ
つくえ
けしゴム
ランドセル
ハンカチ
ティッシュ
ノート
したじき
えんぴつけずり
ふでばこ
かばん　＊
すいとう　＊
かっぱ　＊
べんとう　＊
ふくろ　＊
はブラシ　＊
マスク
ぼうし　＊
ぼうさいずきん　＊
ペン　＊
いろえんぴつ　＊
えのぐ　＊
てぶくろ　＊
マフラー　＊
リコーダー　＊
どうぐばこ　＊
しゅうじセット　＊
テープ　＊
タオル　＊
コップ　＊

UNIT4

きゅうしょく
たまご
パン
さかな
にく
えび
ぎゅうにゅう
おちゃ
みず
コーヒー　＊
ケーキ　＊
りんご　＊
ぶどう　＊
スープ　＊
アイスクリーム　＊
にんじん　＊
かぼちゃ　＊
とうがらし　＊
トマト　＊
サラダ　＊
ソーダ　＊
きゅうしょくぎ
おさら
おわん
はし
スプーン
フォーク

UNIT5

ほうき
ブラシ
ぞうきん
バケツ
ちりとり
そうじ

UNIT6

こくばん
チョーク
じゅぎょう
おかね
きょうしつ
サッカー
バドミントン
テニス
バスケットボール
スケートボード　＊
ドッジボール
たっきゅう　＊
さかあがり　＊
なわとび　＊
てつぼう　＊
すいえい
ピアノ
ギター
ダンス

UNIT7

ほけんしつ
しょくいんしつ
おんがくしつ
ずこうしつ
ちょうりしつ
こうてい
たいいくかん
プール
としょしつ
かいだん
ろうか　＊
げたばこ　＊

UNIT8

あたま
め
はな
くち
は
くび
て
ゆび
つめ
うで
あし
おなか
せなか
おしり　＊
からだ　＊
かお　＊
て　＊

UNIT9

きのう
きょう
あした
ようび
こくご
さんすう
りか
せいかつ
しゃかい
おんがく
たいいく
かていか
どうとく
がいこくご（かつどう）
じかんわり
やすみじかん
うんどうぎ・たいそうぎ
みずぎ
いちじ
にじ
さんじ
よじ
ごじ
ろくじ
しちじ
はちじ
くじ
じゅうじ
じゅういちじ
じゅうにじ
じゅうごふん　＊
さんじゅっぷん・はん　＊
よんじゅうごふん＊
じゅういち
じゅうに
じゅうさん
じゅうよん・じゅうし
じゅうご
じゅうろく
じゅうしち
じゅうはち
じゅうく
にじゅう
さんじゅう
よんじゅう
ごじゅう
ろくじゅう

UNIT10

いちがつ
にがつ
さんがつ
しがつ
ごがつ
ろくがつ
しちがつ
はちがつ
くがつ
じゅうがつ
じゅういちがつ
じゅうにがつ
ついたち
ふつか
みっか
よっか
いつか
むいか
なのか
ようか
ここのか
とおか
じゅういちにち
じゅうににち
じゅうさんにち
じゅうよっか
じゅうごにち
じゅうろくにち
じゅうしちにち
じゅうはちにち
じゅうくにち
はつか
にじゅういちにち
にじゅうににち
にじゅうさんにち
にじゅうよっか
にじゅうごにち
にじゅうろくにち
にじゅうしちにち
にじゅうはちにち
にじゅうくにち
さんじゅうにち
さんじゅういちにち
たんじょうび
おめでとう
うち・いえ
こうえん　＊
いる
いない
すなば　＊

「*」のマークがあるものは応用として位置づけた語彙である。

文献資料を読む―中世語研究の継承と展開―

パネリスト　岸本 恵実（大阪大学）
堀川 貴司（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫）
大倉 浩　（筑波大学）
司　会　山本 真吾（東京女子大学）
指定討論者　米谷 隆史（熊本県立大学）

１．趣旨

日本語史研究における近年の動向として、「日本語歴史コーパス」の構築、方言研究の成果や通言語的な知見の援用など、新規の方法が次々と開拓されていることが挙げられる。一方、こうした新手法隆盛の陰に、その意義に改めて光を当てるべき営みがある。それは、日本語史研究の始発であり、過程であり、時に最終目的でもある、文献そのものを観察することから出発し、文献を正確に読んで理解するという営為である。これは、研究の材料となるテキストの更新や拡張に与るだけでなく、日本語史研究の諸領域の広がりと深化を促す原動力ともなってきた。

室町時代から江戸時代初期にかけての日本語を対象とする研究は、和歌や各種の物語、芸道の書、漢籍・仏典関係書等の、基本的には文語規範を墨守する文献群に加え、キリシタン文献を中心とする外国資料、抄物、狂言資料といった、著述の目的自体に口語の反映が織り込まれた文献群が存在することで、共時・通時両面から多様な分析が試みられてきた。これらの文献群が切り取る日本語は口語性という緩やかな共通点を有しながらも、成立の時期や地域及び個々の文献の性格に由来する多様性を含み持っている。それゆえ、文献に対する理解の深化と言語事象の解釈とが連環しつつ研究が進展してきた。その結果、この時期の言語は、社会階層や文体、地域性の面において立体的な像を以て我々の前に立ち現れることとなったのである。語学的研究の側から、文学・芸能・史学の研究に寄与する知見が多くもたらされたのも故なしとしない。

自身で文献資料を読み解き、資料に内在する問題を見出して掘り起こすといった作業は、天草版の『平家物語』や『伊曽保物語』、虎明本狂言集など、主要と目されるテキストとその検索手段が既に提供されている昨今においては迂遠な作業と感じられるかも知れない。しかし、文字・表記、音韻、文法、語彙、文体、言語生活等の幅広い裾野を有する日本語の史的研究が、今後も活力を保って発展していくためには、周辺の学問領域の成果を踏まえつつ語学的な見地から文献資料と研究課題を発掘していく技法が継承されていく必要があることもまた疑いのないところである。

本シンポジウムは、如上の問題意識から、まずは、厚い研究成果の蓄積がある、中世の代表的な文献資料、すなわち、キリシタン文献、抄物、狂言資料のそれぞれについて、これらの「文献資料を読む」ことによって得られた知見を整理し、この知見の継承の意義を改めて問い直し、これからの日本語史研究につなげる道筋を求めて、自由に意見を交わしてみたいと思う。

２．構成

１４：００～１４：１０　趣旨説明・パネリスト紹介：山本 真吾
１４：１０～１４：４０　報告１　キリシタン文献を読む：岸本 恵実
１４；４０～１５：１０　報告２　抄物を読む：堀川 貴司
１５：１０～１５：４０　報告３　狂言資料を読む：大倉 浩
１５：４０～１６：１０　休憩
１６：１０～１６：２５　指定討論者との質疑応答
１６：２５～１６：４５　参加者からの質問への回答
１６：４５～１７：００　全体討論

キリシタン文献を読む

岸本 恵実（大阪大学）

１．はじめに

大航海時代、カトリック宣教団による日本宣教のために作成されたいわゆるキリシタン文献は、『天草版平家物語』（1592）や『天草版伊曽保物語』（1593）を中心に、16 世紀末の口語を反映した数少ない資料の一つとして研究対象とされてきた。上記 2 点は 2018 年 3 月『日本語歴史コーパス』に加えられ、2019 年 3 月には大英図書館のデジタル画像が公開されたことから、その利用は一層増加している。その他の文献についても、画像・テキストデータの公開や新出資料の発見が続いており、量・質ともに研究環境の充実が進んでいる。

一方、キリシタン文献は、日本語以外、例えば日本語以外の言語、宗教・思想、文学、対外交渉、芸術、民俗などを扱う分野の研究対象であり、従来多角的な研究が行われてきた。今後どのような研究発展の可能性があるかを、近年の研究状況のあらましを述べたうえで、キリシタン版『羅葡日辞書』（1595）を例に具体的に述べたい。

２．近年の研究状況

２．１．研究史のふりかえり

キリシタン語学主要書を抜粋しつつ、研究史の概略をふりかえる。区分は小島（1994）を参考に、その後の動向をふまえて新たに行ったものである。本発表では「平成後期以降（2003-） Missionary Linguistics（宣教に伴う言語学）形成期」を中心とする。

明治・大正期（ca. 1876-1927）資料紹介・研究開始期
　Satow（1888）、新村（1915）
昭和第 1 期（ca. 1928-1948）日欧交流史研究期・国語学的研究第 1 期
　橋本（1928）、土井（1942）
昭和第 2 期（ca. 1949-1980）学際的研究進展期・国語学的研究第 2 期
　ロドリゲス原著・土井訳註（1955）、土井・森田・長南編訳（1980）
昭和・平成前期（ca. 1981-2002）地域・言語横断研究展開期
　亀井・チースリク・小島（1983）
平成後期以降（2003-） Missionary Linguistics（宣教に伴う言語学）形成期
　Zwartjes & Hovdhaugen eds.（2004）、豊島編（2013）

２．２．展開の方向

２．２．１．研究方法・研究対象の拡大の例

①研究方法：データベース化
LGR（対訳ラテン語語彙集）https://joao-roiz.jp/LGR/

LGRM（丸山徹校訂ポルトガル正書法書類）https://joao-roiz.jp/LGRM/
DICIweb（CLP ポルトガル語辞書コーパス）http://clp.dlc.ua.pt

②研究対象：デジタル画像公開・新資料の発見
既知資料　ライデン大学図書館（『ヒイデスの導師』『羅葡日辞書』『落葉集』）、バチカン図書館（「バレト写本」『どちりいなきりしたん』）など次々に公開
新出資料　『ひですの経』（ハーバード大学ホートン図書館）、『日葡辞書』（ブラジル国立図書館）、「スヘラの抜書」（『講義要綱』「天球論」の日本語写本、ヘルツォーク・アウグスト図書館）、『さるばとるむんぢ』（ユトレヒト大学図書館）

２．２．２．研究の多角化の例

キリシタン文献を宣教活動の幅に合わせ、日本を中心とする「キリシタン」および「日本語」に限定しない研究が多く見られる。便宜上、（A）分野・（B）時代・（C）地域に三分するが、近年の齋藤編（2020）にも見られるように（A）（B）（C）が複合した共同研究が多い。こうした多角的研究はキリシタン文化研究会（1939 年キリシタン文化研究所創設が起源）などで継続されてきたが、言語については 2003 年から開催されている Missionary Linguistics 国際会議とその論文集の刊行が大きな契機となった。

(A) 分野（日本語学以外）
　例、知識・情報の交流　平岡（2013）、阿久根（2018）
(B) 時代（キリシタン時代以外）
　例、幕末明治期のパリ外国宣教会の活動　山梨（2010）、聖書の邦訳　鈴木（2006）
(C) 地域（日本以外）
　例、インド　丸山（2020）、中国　中砂（2018）、ベトナム　岸本（2018）

３．研究展開のケース

『羅葡日辞書』（約 3 万のラテン語見出しに、日本イエズス会士たちがポルトガル語・日本語対訳を付したもの。1595 年天草刊）を例とする。原文に付した（　）[　]および下線は発表者によるものであり、(　)は邦訳または注、[　]は漢字ひらがな交じり翻字を表す。

３．１．辞書単体の研究

辞書収載の日本語語彙をキリシタン文献以外の日本語文献とつき合わせて分析する従来からの手法だけでなく、以下のような成立に関わる研究が行われている。
・原典対照　『カレピヌス』との比較
原田（2011）により、主となった翻訳底本はラテン語辞書『カレピヌス』の 1580 年リヨン版であることが明らかにされた。翻訳は『カレピヌス』のラテン語語釈をポルトガル語に抄訳し、その抄訳に基づいて日本語訳がなされることが多いが、原典への依拠の度合いは見出しによって異なる。cf. 岸本（2017）

例 1　Históricus, i.（歴史家）
1580 年リヨン版『カレピヌス』p. 572
Hīstŏrĭcŭs, Historiarum scriptor.（歴史を記述する者）{ ι ς τ ο ρ ι ο γ ρ ά φ ο ς , Gallic. Historien. ITAL. Historico, scrittor d'historie. Germ. Ein geschichtschreiber. Hisp. Historiador.} Cicero. pro Muraena, tua vero nobilitas serui sulpiti …（{多言語訳} キケロ『ムーレーナ弁護』「セルウィウス・スルピキウス、あなたの家柄は大変高貴だが、教養ある人々や歴史家にはよく知られているものの、国民や投票者たちにはあまり知られていない」）
Idem in Topicis, Philosophi, Poëtae, & historici.（同じくキケロ『トピカ』「哲学者、詩人、歴史家」）
『羅葡日』p. 331
Históricus, i. Lus. Historiador. Iap. Mucaxi arixi cotouo qirocu xi, coji raireqiuo caqi xirusu mono. [昔ありし事を記録し、故事来歴を書き記す者]

・編纂過程　度量衡の換算など、訳にゆれが認められる。

例 2　palmo（パルモ、ポルトガルの長さの単位）
『羅葡日』p. 85, 542
Bipalmis, e. （2 掌尺の）Lus. Cousa de dous palmos.（2palmo の（もの））Iap. Ixxacu nisun fodono mono. [1 尺 2 寸ほどのもの] … 1 palmo ≒ 6 寸
Palmus, i.（掌尺）Lus. Palmo. Iap. Fassun fodono xacu. [8 寸ほどの尺] … 1 palmo ≒ 8 寸

3．2．展開の方向

3．2．1．研究方法・研究対象の拡大

マノエル・バレト編『葡羅辞書』(1606-1607 作成）が、『羅葡日』を利用するなど日本イエズス会の辞書編纂のあり方を写していることが明らかになった（岸本・豊島（2005））。

テキスト化データやデータベースの整備により、『カレピヌス』以外の資料、特にポルトガルで 16-17 世紀に刊行されたカルドーゾ、バルボーザ、ペレイラらの辞書と、ラテン語・ポルトガル語訳の比較が容易になっている（後述の(B)'）。

3．2．2．研究の多角化

(A)' 分野（日本語学以外）
・天文学との関わり（ラテン語本・日本語本の『講義要綱』との比較）

例 3　Hésperus, i.（ヘスペロス、宵の明星）
1580 年リヨン版『カレピヌス』p. 567
HĒSPĔRŬS,（アトラスの兄弟であることなど、ギリシャ神話の神としての説明がされる）
Haec etiam Serotina stella, & Vesper dicitur, & Vespertigo, & Lucifer, & Venus, de quibus suo loco.（また夕方の星のことで、位置により Vesper, Vespertigo, Lucifer, Venus と言われる）

… Cic. lib. 2. De Nat. deor. … Latine Lucifer dicitur, quum antegraditur solem: quum subsequitur autem, Hesperus.（キケロ『神々の本性について』第二巻…「(金星は）ラテン語で、太陽に先行する時は Lucifer、また後に続く時は Hesperus と呼ばれる」）

『羅葡日』p. 329

Hésperus, i. Lus. Estrella boeyra.（金星）Iap. Bãgueni ichibanni arauaruru foxi. [晩気に一番に現るる星]

『講義要綱』ラテン語本第一部第五章四「星の大きさと銀河について」(尾原 (1997:273))

金星は水星よりも大きく、星の中で最も輝く星である。それは太陽に伴って先行するときはルチフェル〔暁の星〕と呼ばれ、後続するときはヴェスペル〔宵の星〕と名付けられる。

「スヘラの抜書」(402v)

日輪ニ先立テ出ル時ハルシヘルト云イ又日輪ノ入テヨリ後ニ見ユル時ハベスヘルト云フ也

『カレピヌス』の見出しのうち固有名詞は、『羅葡日』では原則として立項されない。しかし固有名詞である Hesperus を、『羅葡日』では「金星」の語釈を抜き出し立項し、しかもポルトガル語訳にない「晩気に一番に現るる星」という説明的訳文を付している。この訳文は『カレピヌス』の援用かと思われるが、『講義要綱』の記述ともほぼ一致しており、ヨーロッパの天文用語が講義・辞書を通じ日本で教えられていたことが知られる。

(B)’ 時代（キリシタン時代以外）

・ポルトガル語辞書への影響　cf. 岸本（2020）

バレト『葡羅辞書』は『羅葡日』を主要典拠の一つにしており、『日葡辞書』(1603 本篇・1604 補遺）も参考書目に入れている。さらに、ポルトガルのイエズス会士ベント・ペレイラ編『葡羅辞書』(1647) の参考書目にはバレト『葡羅』と『日葡』が入っている。以下 Panicale は、ペレイラ『葡羅』以前に刊行された辞書および『羅葡日』には見えない語であり、『日葡』からバレト『葡羅』、ペレイラ『葡羅』に立項された可能性がある。この語は後年、ペレイラ『葡羅』からブルトー編『葡羅辞書』(1712-1728）にも収載された。

例 4　Panicale (脚のはれる病気の名)

『日葡辞書』補遺（342r)

Coyeaxi. [肥足] *Panicale que tem hũa, ou ambas as pernas inchadas.*（片足または両足の脚部のはれる病気)

バレト『葡羅辞書』(vol. 3, 62v)

Panicale.　　（空見出し）

ペレイラ『葡羅辞書』(72v)

Panicale.　*morbus Indicus, quo tumescunt pedes.*（足の腫れるインドの病気)

ブルトー『葡羅辞書』(vol. 6, p.222)

PANICÂLE. Doença da India. O P. Bento Per. no Thesouro da lingua Portugueza, lhe chama em Latim, *Morbus Indicus, quo tumescent pedes.*

(C)’ 地域（日本以外）

・ベトナム（アレクサンドル・ド・ロード作成の資料との比較）　cf. Kishimoto（2021）

イエズス会士ロードは 1623 年ごろマカオで日本語を学習したと述べているが、『ベトナム語・ポルトガル語・ラテン語辞書』（1651）に『羅葡日辞書』『日葡辞書』を参照した形跡は確認できていない。しかし、辞書に付された『ベトナム語概説』にはロドリゲス『日本小文典』（1620）と類似の記述があり、ロードの典拠となった可能性がある。

例 5　日本語の L と中国語の R

ロドリゲス『日本小文典』巻一「日本語を書き表わすのに用いるわれわれのアルファベット字」（池上訳 上 p. 60）

Carece sua pronunciaçam da letra, L, & tambem de, R, dobrado; & os Chinas ao contrario tem, L, & nam tem, R.（日本語の発音には文字〔音〕L がなく、二重字の R〔音〕もない。中国の人びとには、逆に L はあるが、R はない）

ロード『ベトナム語概説』第 1 章「この言語に基づく文字と音節」（p.5）

L, Est in vsu maximè in principio vt lá, folium; hac autem litera omninò carent Iapones, sicuti Cinenses carent r.（L は lá（葉）のように、とくに初めに使われる。この文字は日本語には全く欠けている。中国語では r が欠けているように）

資料の比較にあたっては参照の有無が一つのポイントであるが、バレト『葡羅』やペレイラ『葡羅』のように参考書目が確認できる場合以外、上記の例のように推測にとどまることが多い。言語ごと、文献ごとの相違が大きく単純な比較はできないところが、Missionary Linguistics の方法論における難しさである。基本教義書（ドチリナ）で説明される教義、イエズス会公式のアルバレスラテン文典で用いられるラテン語文法用語など、認識の共有が想定される箇所の比較が有効と思われるが、それらにしても定義、解釈のゆれがあり、当時のヨーロッパの諸説をふまえた考察が求められる。

4．小括

原本調査によってこそわかることは少なくなく、機会があれば必ず行いたいが、今後も画像・データの公開が続くと予想され、原本調査とともに web 資源の活用も必須となろう。個々のテキストを丁寧に読み、データ・知識とつなげていくことが、今後一層重要である。研究の切り口は（A）（B）（C）など無数にあり、新しい着想、方法論も期待されている。

【参考文献】（まず手に取ってもらいたい基本的なものに※を付した）

阿久根晋（2018）「新たな日本情報源としてのオランダ人 「南蛮貿易」断絶以降におけるイエズス会日本管区の情報収集」『洋学 洋学史学会研究年報』25、pp. 1-30

尾原悟編著（1997）『イエズス会日本コレジヨの講義要綱 I 』教文館

亀井孝・H. チースリク・小島幸枝（1983）『日本イエズス会版キリシタン要理』岩波書店

岸本恵実・豊島正之（2005）「バレト著「葡羅辞書」 のキリシタン語学に於ける意義」『日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開』汲古書院、pp. 247-306

岸本恵実（2017）「解説」『フランス学士院本羅葡日対訳辞書』清文堂出版、pp. 911-938
岸本惠實（2019）「西文資料與日語研究」『中国語学』266、pp. 63-78
岸本恵実（2020）「ポルトガル語辞書史における『日葡辞書』」タシロ エリザ・白井純編『リオ・デ・ジャネイロ国立図書館蔵日葡辞書』八木書店
岸本恵実・白井純編（2022）『キリシタン語学入門』八木書店 ※
黒川茉莉（2021）「イエズス会日本語文法の「格」の由来」『上智大学国文学論集』54、pp. 1-19
小島幸枝（1994）『キリシタン文献の国語学的研究』武蔵野書院
齋藤晃編 （2020）『宣教と適応』名古屋大学出版会
新村出（1915）『南蛮記』東亜堂書房
鈴木範久（2006）『聖書の日本語 翻訳の歴史』岩波書店
土井忠生（1942）『吉利支丹語学の研究』靖文社（新版、1971 三省堂） ※（新版の方）
土井忠生・森田武・長南実編訳（1980）『邦訳日葡辞書』岩波書店
豊島正之編（2013）『キリシタンと出版』八木書店 ※
豊島正之（2021）「キリシタン版「ラポ日対訳辞書」のポルトガル語綴り字規範に就て」『上智大学国文学科紀要』38、pp. 1-9
中砂明徳（2018）「明末の天主教漢籍と日本のキリシタン版」京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター編『漢籍の遙かな旅路：出版・流通・収蔵の諸相』研文出版、pp. 5-67
中野遙（2021）『キリシタン版日葡辞書の解明』八木書店
橋本進吉（1928）『文禄元年天草版吉利支丹教義の研究』東洋文庫（橋本進吉博士著作集 11、1961 岩波書店）
原田裕司（2011）『キリシタン版『羅葡日辞書』の原典：「カレピーヌス」ラテン語辞典の系譜』私家版
平岡隆二（2013）『南蛮系宇宙論の原典的研究』花書院
丸山徹（2020）『キリシタン世紀の言語学』八木書店 ※
山梨淳（2010）「近代日本におけるリギョール神父の出版活動とその反響」『カトリック研究』79、pp. 39-73
ロドリゲス、ジョアン原著・土井忠生訳註（1955）『日本大文典』三省堂
ロドリゲス著・池上岑夫訳（1993）『日本語小文典』上・下、岩波書店
Kishimoto, Emi (2021) Some Remarks on Alexandre de Rhodes's Linguistic Works on Vietnamese. In Zwartjes & De Troia eds. pp. 189–200.
Satow, Ernest Mason (1888) *The Jesuit Mission Press in Japan, 1591-1610*. private printing.
Zwartjes, Otto & Even Hovdhaugen eds. (2004) *Missionary Linguistics*. Amsterdam: John Benjamins.
Zwartjes, Otto & Cristina Altman eds. (2005) *Missionary Linguistics II: Orthography and Phonology*. Amsterdam: John Benjamins.
Zwartjes, Otto, Gregory James & Emilio Ridruejo eds. (2007) *Missionary Linguistics III: Morphology and Syntax*. Amsterdam: John Benjamins.
Zwartjes, Otto, Ramón Arzápalo Marín & Thomas C. Smith-Stark eds. (2009) *Missionary Linguistics IV: Lexicography*. Amsterdam: John Benjamins.
Zwartjes, Otto (2011) *Portuguese Missionary Grammars in Asia, Africa and Brazil, 1550-1800*. Amsterdam: John Benjamins. ※
Zwartjes, Otto, Zimmerman, Klaus & Schrader-Kniffki, Martina eds. (2014) *Missionary Linguistics V: Translation Theories and Practices*. Amsterdam: John Benjamins.
Zwartjes, Otto & Paolo De Troia eds. (2021) *Missionary Linguistics VI: Missionary Linguistics in Asia*. Amsterdam: John Benjamins.
謝辞：本稿は、科研費 JP17H02392, JP19K00626, JP20H01267, JP21F21303 の成果の一部である。

抄物を読む

堀川貴司（ほりかわたかし）（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫）

１．はじめに

報告者は、日本漢文学研究、特に中世の五山文学研究を進める必要上、抄物の研究にも参入し、翻刻紹介および論文における利用を行ってきた。今回、そういった文学・文化研究の立場からの報告でよいとのことなので、抄物資料の研究状況を概観した後、資料をどう読むか、という実例を「聞書」を例に示したい。

２．抄物研究の現在

2-1 資料整備

〔影印〕『抄物大系』『抄物資料集成』（正・続・続々）ほか、特定の宗派（曹洞宗）や所蔵者（松ヶ岡文庫・向日庵・建仁寺両足院ほか）などの資料に限定したもの、詳細な研究を伴ったもの（論語抄・詩学大成抄・中華若木詩抄ほか）など、着実に行われてきた。

〔翻刻〕網羅的なものはまだなく（『抄物小系』くらい）、他は個別のもの。

何が影印・翻刻されているかは、柳田（1987）および国文学論文目録データベース参照。

〔目録〕柳田（1983）およびその続編・補遺が唯一網羅的なもの。

〔デジタル化〕各所蔵機関や国文学研究資料館によって、国内の貴重な資料のデジタル化とインターネットを通じた公開が急速に進むなか、抄物関係資料も多く公開されるようになった。また、花園大学国際禅学研究所のテキスト・画像データベース「**電子達磨#2**」において、多種多様な禅宗関係の典籍とともに『四河入海』『天下白』（蘇軾詩抄物）『帳中香』（黄庭堅詩抄物）などが収められ、対象作品の本文から検索可能になった。

これまで、日本語学者による影印・翻刻における資料の選択には、どうしても日本語資料としての価値判断が伴っていた。すなわち、漢文のみの抄物を対象外としていることである。文学研究の立場からは、和文抄物における丁寧な心理描写や作品解釈、漢文抄物における関連資料の博捜列挙は、ともに研究に資する重要性を持っている。今後の研究は、そういった区別をせず、全体像を目指すべきであろう（もちろん、柳田目録は全て網羅）。

＊『三体詩』の抄物の例

〔影印〕『抄物大系』に『三体詩幻雲抄』（月舟寿桂）『三体詩素隠抄』（説心慈宣）
『抄物小系』に『三体詩絶句鈔』（塩瀬宗和）『素隠鈔』
『向日庵抄物集』に『三体詩抄零本』

〔翻刻〕校註漢文叢書に『素隠鈔』

〔デジタル化〕

国立国会図書館　『暁風集』（WA16-99）（万里集九）『絶句鈔』（WA16-138）（彭叔守仙）（ともに写本）

国文学研究資料館　『聴書抜書類』（宮内庁書陵部 353-3、第 3 冊）（古澗慈稽、智仁筆）

京都大学附属図書館　『三体詩抄』（谷村文庫 4-08/サ/2 貴）（版本本文と抄物を合体させた写本、希世霊彦のものを含む）『三体詩絶句鈔』（4-06/サ/1 貴）（塩瀬宗和、古活字版）

駒澤大学図書館　『三体詩絶句鈔』（H085/3）（桃源瑞仙、写本）

市立米沢図書館　『三体詩絶句鈔』（米沢善本 136）（塩瀬宗和、古活字版）
ほかに、原典たる増註本『三体詩』の画像も国会・京大ほか多数見られる。

＊あなどれない近世版本

抄物の制作は近世に入っても続いており、中世の先行する抄物を利用しつつ、独自の解釈を加えるなどの展開を見せている（蔦（2021）、堀川（2021）参照）。もちろん、中世の写本に基づいた古活字版・整版の出版という、あらゆる書物に共通する動きの中に抄物も含まれる。柳田（1983）は、それら版本の伝本についても可能な限り網羅しようとしている。蔵書印や書入注記など、版本にも一本ごとの固有の価値が付加されている。

最近、柳田（1998）第四章 768 頁において「不伝」とされていた規伯玄方（1588-1661）の『般若心経抄』の存在を知った。報告者の所属する斯道文庫で長年調査を続けている建仁寺両足院に蔵されており、調査データの点検過程で「日本古典籍総合目録データベース」を検索すると、『般若心経解義節要』という書名で、漢籍として登録されていた。規伯の名はどこにも出てこないが、本書跋文は規伯が執筆の経緯を記しており、それに間違いない。書名は、原典と区別するため、巻尾題末尾にある「私抄」の二字を補って『般若波羅蜜多心經解義節要〔私抄〕』と呼ぶべきだろう。

同データベースでは唯一、光藤益子氏蔵本が掲載され、画像が公開されている。両足院蔵本と同版で、慶安三年（1650）村上平楽寺刊、柳田氏の詳細な考察がある『禅宗無門関私鈔』および規伯の師である景轍玄蘇の詩文集『僊巣稿』と同時・同版元による刊行である。なお、元禄八年（1695）には抄文のない原典も出版され、これを底本に『大日本続蔵経』（卍続蔵）に収録された。この原典版も稀覯で、龍谷大学図書館蔵本しか見出せない（2022 年龍谷蔵にて画像公開された）。

2-2 資料としての多角的な利用

漢籍・禅籍等の注釈書ではあるが、関連する知識を付け加えて一種の類書のような性格を持つもの、中国に関する記述の注釈として、連想される日本の知識を加えるもの（惟高妙安のものに顕著。柳田（2012）に多くの例が引かれる）があって、それらを利用した研究も進んでいる。川本（2021）が歴史研究の立場から、儒学・科学知識の普及に禅僧が深く関わっていることを明らかにしているのが、その良い例である。

引用される漢籍のなかには本国で失われたものもある。かつて滝川亀太郎が『史記会注考証』（1932-34）を編纂して、日本に伝存する『史記』宋刊本に五山僧によって書き入れられた注（これも抄物の一形態である）から、唐代の史記注釈書の失われた部分を大幅に補った業績は、東洋学の世界では広く知られている。近年でも査屏球（2012）は『三体詩』の抄物に見える、厳子安の「和三体詩」（三体詩所収の唐詩に和韻したもの）を集成し、逸書を復元、作者の伝記考察を行っている。

３．抄物の聞書を読む

3-1 現存資料一覧

ほとんどの抄物が、講義筆録そのものではなく、その後に書き直されたものであるか、そもそも講義とは関係なく机上において執筆されたもの、もしくはそれらの転写本であるのに対し、講義の場において聴講者が書き留めた筆録そのものと思われるものもわずかながら現存している。

柳田（2013）33 頁以下で上げられているのはア～キの 7 点。ク以下は報告者補足。

ア『孝経抄』（足利学校遺蹟図書館、斯道文庫紙焼写真あり。文明 18 年（1486）識語）

柳田（1998）21 頁では、先行研究を否定して、聞書そのものではなく、転写本とする。

イ『中庸抄』（慶應義塾図書館、画像公開。〔室町〕写）

阿部隆一の先行研究を踏まえた柳田（1998）の考察あり。

ウ『孟子題辞抄』（醍醐寺、斯道文庫マイクロ・紙焼あり。〔室町〕写）

阿部（1964）で紹介され、柳田（1998）にも言及あり。清原家系統とのこと。

エ『於雲沢蒙求聞書』（天理大学附属天理図書館、永禄元年（1558）写）

講者仁如集堯か。柳田（2004）の考察、柳田他（2006）翻刻あり。

オ『蒙求抄・服忌令注』（同上吉田文庫、寛永 3 年（1626）梵舜写）

柳田「抄物目録稿補訂（蒙求抄・詩学大成抄・老子経抄・荘子抄）」（『抄物の研究』21、2011）に紹介あり。

カ『聴書抜書類』（書陵部、智仁親王自筆）のうち『蒙求聞書』

クとともに柳田（2005）に考察あり。堀川（1999）では、東坡詩の聞書のなかに、蘇東坡と李節推とが男色関係だったとの説が書き留められていることに注目、この俗説の、西鶴に至る近世前期の流布の源流にこのような講説の場があると推測した。

キ『三体詩聞書・易書之聞書』（大倉精神文化研究所による曼殊院蔵本の昭和 6 年影写本）

柳田（2004a）50 頁に紹介あり。『三体詩聞書』は古澗慈稽が元和 3 年（1617）から 4 年にかけて、『易書之聞書』（研究所整理書名では「之」なし）は大福庵（人物未考）が同 8 年から 9 年にかけて曼殊院で行った講釈の聞書。筆録者は曼殊院を「当門」と呼んでいるところからして、当主良恕であろう。書物の形態はカクに酷似。

ク『聴書類』（書陵部、智仁親王自筆）

ケ『〔東坡詩聞書〕』（佐藤道生氏、慶長 18 年（1613）写）

堀川（2011）に解題・翻刻、同（2015）に考察を収める。場所は禁裏および八条殿、講者文英清韓、筆録者は中院通村か。

コ『〔文選聞書〕』（堀川貴司、〔室町中期〕写）

堀川（2019）解題・翻刻。講者・筆録者とも不明。

サ『古則聞書零本』（壽岳章子『向日庵抄物集』下、1987 清文堂出版、所収）

木田章義氏の解説で聞書そのものか、とする。ただし、これは臨済宗大応派・幻住派や曹洞宗において広く行われた公案解釈等の伝授（密参録という）の一種かと思われ、いわゆる講義の聞書とはやや毛色を異にするか。おそらくこの分野では聞書そのものも多く伝存すると思われ、堀川（2011）にも『垂示』という大応派の資料を紹介した。

3-2 なぜ残ったか

詳しい原本調査を行っていない資料もあるが、画像のみの閲覧も含めてア～コの 10 点について述べると、ア・イは原典全体の注釈で、イは訂正書入があるものの書写態度は丁寧で整っており、講説の場での聞書そのものとは言いにくい。それに対してウ以下は原典の一部分しか注釈しておらず、多くは日付入り、すなわち聴講した部分のみ書き留めた、まさにその場でのものと思われる。

そもそも、師説を細大漏らさず書き留めようとするのは、学問の伝受を目的とするもので、次は自分が教える立場になることを前提にしている。それに対して、室町中期以降、

五山と公家社会の交流によって広く行われるようになった、宮中や公家の邸宅において複数人を聴衆とする講説では、さまざまなレベルの参加者がいて、その場の心覚えとして要点のみを書き留める、といった聴講態度の者もいただろう。おそらくそのような聞書は、その後の学習や研究にはほとんど役に立たないもので、だからこそ残されず、現存するものが少ないのである。

ウ以下のものを見ると、オが梵舜、カクが智仁親王、キが推測だが良恕親王、ケが推測だが中院通村といった身分のある文化人で、その家の蔵書がまとまって伝存するところが多い。つまり、子孫や関係者によって、内容よりも筆跡を重視して保存されていたと思われる資料である。なお、エの舞台「雲沢」は柳田（2004）によって相国寺内の寮舎（塔頭の附属施設）であることが明らかにされているが、室町中期以降、公家が禅寺内での講義に参加することもあり、筆録者にはそういった人物が想定される。コは成立経緯が不明であるが、堀川（2019）は宮中での講義、講者鷺岡省佐、筆録者三条西公条かと推測した。

3-3 資料の形態的特徴

大本（美濃判）　アイエ

半紙本　コ

横中本（大本の半分の大きさで横長）　ウカキク

小本（半紙本の半分の大きさ）あるいはそれ以下　オケ

横本や小本は携帯に便利で、懐や袖に入れて持ち運べる。講説の場に持ち込んでメモを取る、という使い方だろう。ただし、智仁親王の場合（良恕も）は、講師を自宅に招いて行う場合でもこれを用いているようで、おそらくこのようにシリーズ化するため形態を統一したものを自宅でも使い続けたのであろう。横本は、見出し語とその語釈、といった箇条書きを連ねるのに適した形態である。

一方、大本の場合は手に持って筆記するのは難しいと思われ、机に置いて、場合によっては罫線の入った下敷きを敷いて、行取りを整えて書かれたものと思われる。

原装のまま残っているもの（アイ以外。裏打補修されているものも含む）は、本文共紙表紙か無表紙である。これも、2-2 と関わることで、利用や保存に意を用いたなら表紙を付すなどの手を加えるところだが､いわばメモ帳のまま放置していたものが多いのだろう。

3-4 テキスト（原典）はその場にあったか

たとえば『古今集』ならば耳から聞いただけでも筆録にそれほど苦労はしないだろうが、抄物の多くは対象が漢籍であるため、どうしてもテキストを手元に置いて、漢字表記を確かめながら筆録しないと、内容に精通していない聴衆には理解が行き届かず、また聞書も誤字だらけとなるだろう。エケコなどは、原典（作品および中国における注釈）に見える語句は比較的正確に記録しているのに対し、講義の場で突然出てきた漢語については宛字・誤字が目立つという傾向がある。（堀川（2015）参照）

3-5 行間を読む

エは柳田他（2006）に、訂正書入等も可能な限り注記した翻刻が行われているが、原本を見ると、翻刻からは得られない情報がある。

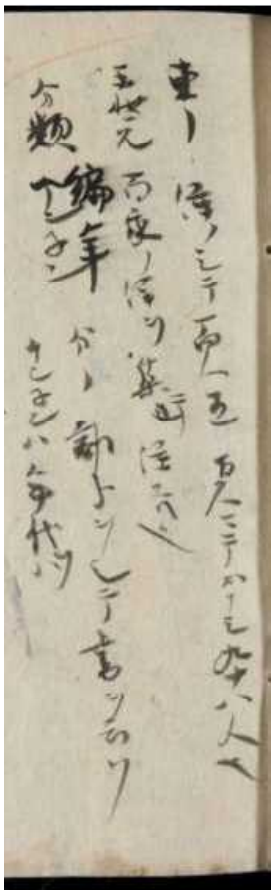
柳田（2004）が指摘するように、筆録者は、参加初回には見出し語として表題（人名二字＋事績二字の四字熟語が基本）の一部または注に見える語句を掲げ、その説明を記す、という形式で筆録していたのに対し、二回目以降はまず標題の四字を記し、その下に割注

の形で説明を聞書する、という形式に変更した。その聞書部分の分量は標題によって大きく変化し、人物の字（あざな）や出典である史書等の書名・巻次のみ、という場合もあれば、標題下部だけでは収まらず、数行にわたって続くものもある。そのなかで、聞書部分が少ないものの中に、次行を空白にしているところが十カ所以上見られる。

空白なしで書かれている部分を見ると、標題ごとの分量に多寡があるので、あらかじめ標題のみを記したノートを準備したのではなく、講義の進行に合わせてその場で標題を記したはずである。したがって、空白の存在は、聞き取れなかったか、記録する必要はないと判断したか、どちらかの理由でその場での筆録を断念し、帰宅後何らかの資料に基づいて補足するためのスペースを作っておこうと考えてのことと推測される。なお、第 13 丁ウラ「叔敖陰徳」は、何か一字書きかけて抹消し「後=可注」とのみ記している。ここは次行の空白を設けていないので、字や出典程度の追記を想定したものであろう。

標題のみで注記がないものもあるので、筆録者の関心は、A詳細な聞書の筆録、B簡略な聞書＋空白、C簡略な聞書のみ、D聞書なし、という四段階くらいに分かれるものと言えそうである。参加四回目、四月二日の聞書末尾に「此以不聞無念 く く く 」とあり、そのつぎに参加した四月二十二日の聞書との間に 28 項目飛んでいるのは、一・二回分欠席し、復帰した二十二日に書き足したのであろう。熱心さがうかがえる。

3-6 ヘンネンかケンネンか



これはケのなかで「編年」に「ケンネン」というルビを振っているのを、堀川（2011）の翻刻を見た Cask Strength 氏がブログで取り上げて、工藤力男氏によるハ行音とカ行音の混同という現象の指摘の一例になるのではないかと述べたもの。

左の図版を見て頂くと、まず「分類」とあるのは、原典の書名『王状元分類集註東坡先生詩』の説明を逐次行っているうちの「分類」を説明しようとしていたので、まず見出しとして筆録者が記したもの。次の「編年／ケンネン」は、詩集の編成方法として、内容分類によるものと制作年次に従う編年によるものとがある、というような説明があったためだろう、それを記したのだが、位置関係や墨色からすると、原典にない語がいきなり出てきたのでまず耳で聞いた音をカタカナで「ヘンネン」と記し、その後の説明「分一（類と記すのを省略した）　部分ヲシテ書ヲ云ソ／ケンネンハ年代ヲハ」で再び「ケンネン」が出てきて、「へ」ではなく「ケ」と聞こえたため、遡って「へ」に縦棒を加えて「ケ」に書き直した。さらに帰宅後何かで調べたか、人に聞いたかして漢字「編年」を書き加えた、といった流れが想像できる。

キには、『三体詩』の作者の一人、薛能が二回出てきて、いずれにも「能」に「タイ」とルビがある。『素隠抄』でタイではなくノウと読むべきだと述べているので、問題になっていたのであろう。漢字の読みは、専門外の人間には予想外の音である場合があり（公家社会にも有職読みがある）、講義を聴くことの意義は案外こんなところが大きいのではないか。

4. おわりに

時間をかけて資料（の実物）に向き合うことが、研究の出発点でもあり、さまざまなアイディアを生み出す源泉にもなるので、斯道文庫を含め、各地の図書館・文庫あるいは寺社へ足を向けてもらえればと思う。また、そのような報告が聞ける機会が多い学会、たとえば訓点語学会への入会もお勧めしたい。

【参考文献】（まず手に取ってもらいたい基本的なものに※を付した）

阿部隆一（1964）「室町以前邦人撰述論語孟子注釈書考（下）」（『斯道文庫論集』3）

柳田征司（1981）「抄物の語彙」（講座日本語の語彙 4『中世の語彙』明治書院）※

柳田征司（1983）「抄物目録稿（原典漢籍経史子類の部）」（『訓点語と訓点資料』70）

柳田征司（2004a）「抄物目録稿（原典漢籍集部の部）」（『同上』113）

→柳田刊『抄物の研究』7、10-17、19-22（1997-2011）に追補および他の原典等の目録を掲載。

柳田征司（1987）「抄物研究文献目録（二）〔付〕抄物ならびに抄物関係資料影印・翻刻目録」（『抄物の研究』6）

柳田征司･木田章義･赤瀬信吾（1996）「〈鼎談〉『毛詩抄』完結によせて―抄物研究の現在」（『文学 季刊』7-3）

柳田征司（1998）『室町時代語資料としての抄物の研究』（武蔵野書院）

序章　抄物の概観、研究史等

第二章第六節　慶應義塾大学三田情報センター蔵『中庸抄』について

第四章　幻住派の抄物

附録　抄物関係文献目録　→『抄物の研究』18・19（2010・2011）に続およびその補遺を掲載。

柳田征司（2004b）「天理大学附属天理図書館蔵『於雲沢蒙求聞書』」（『近代語研究』12）

柳田征司（2005）「梅印元冲講智仁親王聞書『蒙求聞書』」（『築島裕博士傘寿記念国語学論集』汲古書院）

柳田征司他（2006）「〔翻刻〕天理大学附属天理図書館蔵『於雲沢蒙求聞書』」（『奈良大学紀要』34 分冊）

柳田征司（2008）「資料研究の現在―抄物の場合―」（『日本語の研究』4-1）

柳田征司（2012）『日本語の歴史 3　中世口語資料を読む』（武蔵野書院）※

柳田征司（2013）『日本語の歴史 4　抄物、広大な沃野』（武蔵野書院）※

査屏球（2012）「日本蔵南宋遺民詩人厳子安“和唐詩”輯考」（『学術界』172）

蔦清行（2021a）「寛永 19 年版『古文真宝前集抄』の黄山谷詩の注について：万里集九『帳中香』とのかかわりから」（大阪大学『日本語・日本文化研究』31）

蔦清行（2021b）「抄物研究から／翻訳・注釈としての訓点資料と抄物」（『訓点語と訓点資料』146）

山中延之（2021）「抄物研究から」（同上、この 2 点は小特集「訓点資料研究に期待すること」のうち）

木田章義（2021）「（講演記録）国語史研究における抄物への道」（『訓点語と訓点研究』147）

川本慎自（2021）『中世禅宗の儒学学習と科学知識』（思文閣出版）→堀川書評（『史学雑誌』130-11、2021）

堀川貴司（1999）「蘇東坡と李節推」（『東海近世』10）

堀川貴司（2011）『五山文学研究　資料と論考』（笠間書院）

堀川貴司（2015）『続五山文学研究　資料と論考』（笠間書院）

堀川貴司（2019）「『〔文選聞書〕』解題と翻刻」（『立命館文学』664）

堀川貴司（2021）「A Japanese Commentary History of Jianghu fengyue ji : From Medieval to Early-Modern」（ジェフリー・ノット訳、 *Studies in Japanese Literature and Culture* Vol.4）

『江湖風月集』の抄物のうち、『江湖風月集略註』および『略註鈔』を取り上げる。

狂言資料を読む

筑波大学　大倉（おおくら）　浩（ひろし）

1、はじめに

＼罷出たる者は、此あたりにかくれもない、大くわほうの者で御ざる、誠にめでたい御代なれは、うへ〳〵の事は申におよばず、した〳〵までも、あなたのふるまひの、こなたのふるまひのと申て、おびたゝしひことで御ざる　（虎明本「すゑひろがり」）

寛永一九（一六四二）年大蔵虎明筆写の狂言台本の「末広がり」の冒頭である。狂言は現在も伝承のある古典芸能であり、様々な階層の人物が登場する会話劇である。この虎明本は、『時代別国語大辞典（室町時代篇）』をはじめとして中世室町時代の日本語資料としても、また、筆写当時の江戸初期の日本語資料としても用例が使われる。**果たしていつ、誰が話した日本語の資料なのだろうか。**ここでは、狂言史をなぞりながら資料を概観し、日本語史の資料としての狂言資料の扱いについても私見を述べてみたい。

2、芸能としての狂言の変遷

①一四世紀：狂言は猿楽（能楽）という芸能の一部として成立

狂言は一四世紀半ばに能とともに成立した（当時は「猿楽（さるがく）」と呼ばれていた）滑稽な内容のセリフ劇で（注1）、当初は即興（アドリブ）中心をにして詞章や内容も大きく流動していたものと考えられている。台本についても、能には世阿弥自筆台本のように成立期からの台本が残されているのとは対照的に、狂言は演目や役者名が記録にあっても、セリフを記した台本は残されていない。現在伝承されている古典芸能としての狂言も、成立当時の一四世紀半ばの演目やセリフがそのまま固定化して伝承されているわけではなく、一六世紀半ばまでの約二百年間は、上演ごとに様々な演目で観客を笑わせていた流動の時期にあったと考えられている。

②一六世紀：現存最古の台本、天正本

一五世紀以降の戦国の混乱のなかで劇団（座）が淘汰され、残った猿楽座が織豊期の治世の中で復興すると、権力者である武家の保護のもとで、祝言的な筋書の演目を中心に、人気の狂言を繰り返し演ずることが多くなってくる。すでに伝承芸能となっていた能の影響もあって、一六世紀後半から、狂言の演目や筋書が定まってくる。

現存最古の狂言台本**『天正狂言本（天正本）』**（注2）は、この時期に、狂言師が書き残した手控え（上演用メモ）と見られ、詞章そのものを写した部分は少ないが、一〇三曲の狂言の筋立てと歌謡が略記されており、狂言史上重要な資料である。

③一七世紀～一九世紀：武家の式楽として固定化（古典芸能化）

江戸時代に入り、歌舞伎や人形浄瑠璃が芸能として人気を得る中で、徳川幕府が能と狂言（猿楽）を、武家の公的な儀式で演ずる芸能（「式楽」と呼ぶ）と定めて、猿楽座を保護・管理するようになる。この時期から、狂言は古典芸能化し、狂言師たちは、武家を観客とする「室町時代劇の狂言」を、固定し流派として伝承しはじめる。

3、流派と現存する主要台本等　→年表参照

固定化した一七世紀以降に残されている台本について、その詞章を実際に比較してみると、決して一字一句まで固定したセリフが、厳格に伝承され代々繰り返されているわけではない。実際には、江戸時代の日本語の変遷とも様々に絡み合いながら変化があり、また、流派という、伝承に関わる別の意識が詞章にも影響を与えていて、無視できない（注３）。

大蔵流

狂言の家・流派を早くから意識し、伝承すべき狂言の台本を詳細に書き記し、能に対する狂言を、理論的に位置づける書『わらんべ草』も残したのが大蔵宗家弥右衛門虎明（とらあきら一五九七ー一六六二）である。いわば大蔵流狂言の「データベース」を整え、その保守管理のシステムまで配慮した人物である。虎明が記し、父虎清（一五六六ー一六四六）の極めになる台本『**虎明本**』（二三七曲所収）には、寛永一九（一六四二）年筆写の原本が現存し、祖父虎政（一五三一ー一五九六?）からの伝承を含んだ大蔵流狂言の詞章が記述されている。

橋本朝生（二〇一二）などの研究によると、虎明は、山城国相楽郡平尾の生まれで奈良で育ち、父虎清らに従い慶長一八年一七歳で駿河に下り、元和三年二一歳ごろから江戸でも活動するようになる。正保二（一六四五）年ごろに宗家「弥右衛門」を名乗っており、台本を書き記した時期と重なっているが、橋本によると、『**虎明本**』所収の二三七曲のうち七一曲は虎明が実際には演じた記録がない曲であるという。

また、父虎清が最晩年に分家八右衛門清虎に筆写させた『**虎清本**』（一六四六年　八曲）も残されている。八番と少ないため虎明本の陰に隠れがちであるが、比較してみると詞章が大きく異なる曲もあり、虎明の時期に大蔵流の狂言が、演目も含めて完全に固定したものではなかったことがうかがえる。

さらに、後の宗家弥右衛門虎寛（とらひろ一七五八ー一八〇五）が整理した『**虎寛本**』（一七九二年　一六五曲）と比較対照すると、大蔵流が虎明本から一五〇年間の伝承の中で保存したものと改変したもの、詞章整理や演出の変化がとらえられる。（注４）現在の大蔵流狂言はこの虎寛本や弥右衛門派の**山本東本**（幕末期　岩波古典大系に一一〇曲）が基本となっている。

和泉流

大蔵虎明と同時期に台本を整備し始めたのが、京都中心に活動していた和泉流（京流とも）である。最古と見られる『**天理本**』（二二七曲）には年記・識語等がないが、虎明の狂言に対する言及も見られることから、この時期の宗家山脇和泉元宜（もとよし）・元永の残した台本と推定されている。虎明本と較べると筋書的で簡略な記述も多いが、筆録当時（一七世紀初め）の日本語の反映が虎明本より強く見られる。これは、天理本の筆録事情（注５）にも関係しており、虎明本のように系統立てて整理され筆録されたものではなく、長い期間に断続的に筆録されたものと考えられ、用語（たとえば、ゴザアルやホドニ・ニヨッテ）や表記に前後で大きな違いが見られる。また歌謡や語りを「抜書」として別扱いして詳述する記し方からは、狂言詞章全体をデータベース化して固定伝承しようとする虎明とは別の立場がうかがえる。

和泉流には天理本に続いて『**和泉家古本**』（一六五二年以降　欠あり　一八一曲）も残されており、和泉流が伝承の中で詞章や演出をどのように整理したかが、大蔵流より短い時間幅で見ることができる。早くもオヂャルが消えてオリャル専用になるなど、詞章の整理や演出の変化に大蔵流の影響が指摘されている。

その後、天明期の『**波形本**』（二五一曲）、文政期の『**雲形本**』（二〇〇曲）が山脇和泉家の台本として残されているが、現在の和泉流狂言は三宅派の**三宅庄市**（一八二四―一八八五）**手沢本**が元となっている演目が多い。

鷺流

幕府では大蔵流と勢力を二分していた鷺流では、保守的な大蔵流との対抗からも、即興性・当代性を残した狂言を演ずることを優先していたようで、じっさい鷺宗家仁右衛門宗玄（一五六〇―一六五〇）の人気は、虎明の『わらんべ草』からも絶大だったことがわかる。そのためか、狂言を台本にとどめ固定伝承していくデータベース化には当初消極的だった。そのうえ、鷺流は明治に廃絶してしまったため台本などの散逸もある。最古と見られる延宝六（一六七八）年筆写『**忠政本**』は宗家仁右衛門の弟子筋の台本で、二五曲しか残っていない。

大蔵流・和泉流との違いや、自流の別演出など詳細な台本は、分家の鷺伝右衛門保教（やすのり一六七五―一七二四）が記した『**保教本**』（享保年間　一五〇曲）が最古である。オヂャル・オリャルを併用しているいっぽうで筆録当時の語も取り入れるなど、鷺流狂言の固定伝承の過程で詞章整理がどのように行われたのか知るための貴重な資料である。

宗家仁右衛門家の台本では、弟子**森藤左衛門**の台本（一〇一曲）、仁右衛門定賢の弟、**賢通**筆写の台本（一九二曲）がある。保教に繋がる伝右衛門家では弟子名女川辰三郎の**名女川本**（一二〇曲？）や、幕末の**常磐松文庫本**（一三五曲）があるが、それぞれの所収曲の異同も大きい（注6）。

これまでの日本語史研究では、虎明本・虎清本・天理本が主に中世末期（一六～一七世紀）の資料として、保教本や虎寛本は詞章整理の実態や筆録当時（一八世紀）の近世語の反映を探る資料として、それぞれが活用されてきた。いずれにしても、中世語の単純な固定伝承ではないので、詞章の年代の確定には、流派や時期を異にする台本間での比較や、キリシタン資料・抄物資料など別種の資料とのすりあわせが必要である。

版本狂言記

これら各流派の狂言台本に比して、万治三（一六六〇）年刊『**絵入り狂言記**』（**正篇**五〇曲）をはじめとする四種の版本狂言記（以下四種を総称して「狂言記」と呼ぶ）は、刊年こそ明確であるものの、伝承関係や出版事情が明らかではなく、四種の間での用語や記述の程度の差も大きく、調査され言及されることはあっても日本語史では扱いにくい。正篇にはオッシャル・サッシャルなどの近世語や俗語が豊富で、二段動詞の一段化も多く見られるのに、次の元禄一三（一七〇〇）年刊『**狂言記外五十番**』（**外篇**）では逆にマラスル・ゴザナイなど虎明本・天理本に近い中世末期の語が現れ、記述も簡略なものが多く見られる。ところが外篇と同年刊『**続狂言記**』（**続篇**　五〇曲）では、固定伝承を経た大

蔵流虎寛本に近い内容を持ちながらも、用語の整理は不徹底なままであり、享保一五（一七三〇）年刊『**狂言記拾遺**』（**拾遺**　五〇曲）も続篇と同様な状態で、三〇年の違いが見られない。刊行順に用語の整理が進んでゆくとか、刊行当時の近世語の混入が増えてゆくとかいった、各流派の台本の変化に並行するようなとらえ方がしにくい資料なのである。（注７）発表者などは、たとえば大蔵流に近い内容を持つ狂言記の曲だけを選び出しその詞章の特徴を見ていくとか、逆に三つの流派に見えない曲だけを抜き出して近世語の混入を調べてみるなど、四種の刊本の枠にとらわれない個々の曲ごとの分析を進めている。

4、研究の状況と新たな視点

笑いを含んだ内容のわかりやすさもあり、索引など検索ツールの進展とともに、日本語史の資料として、狂言資料は広く活用されている。ただし、これまで述べてきたように、詞章の伝承整理は単純ではないので、書写年代にとらわれず、それぞれの台本や曲の特性を見極めて、語史の中に適切に位置付ける必要がある（注８）。

＊笑いのために、禁句や破格を意識的に取り入れている可能性

▲むこ　も一つ参れしうと殿。（中略）むこもしうともももろともに。むこもしうともろともに。あいまひまふてぞ帰りけれ　（狂言記正篇「吟じ聟」）

単なる誤用ではなく、あえて係り結びの破格を使って舞い終わることで、滑稽な結末を強調しているのでは？

＊キリシタン資料との関連

Ｊ・ロドリゲス『日本大文典』が引用する『惚け物語（Ｆｏ que　Monogatari)』が、狂言「腥物（なまぐさもの）」と関係していることを小林千草氏が指摘している。（『能楽タイムズ』二〇二一年一二月）

＊芸能史の研究では、舞台絵などの画像の研究、地方の諸藩での演能の状況とその伝承、地方に残る鷺流狂言の研究なども進んでいる。

注１　狂言や能楽の歴史については、後の参考文献や能楽協会 https://www.nohgaku.or.jp/en/、国立能楽堂 https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/ の HP を参照。

注２　以下、年表に示した主要な狂言台本の複製翻刻本等についてまとめておく。

天正本：天正六年という年記があるためこう呼ばれているが、成立年は不明。内山弘（一九九八）『天正狂言本　本文・総索引・研究』（笠間書院）、法政大学能楽研究所のＨＰに原本写真がある。

祝本：一七世紀前期の台本か。永井猛（二〇〇二）に写真と翻刻がある。

虎明本：複製本に大蔵弥太郎（一九七六）『大蔵家伝之書古本能狂言』（臨川書店）、翻刻・注釈に池田廣司・北原保雄（一九七二～八三）『狂言集の研究』（表現社）と大塚光信（二〇〇六）『大蔵虎明能狂言集』（清文堂）があり、日本語歴史コーパスに所収。

天理本：複製本に『天理善本叢書狂言六義』（一九七六年　八木書店）、翻刻・注釈に北原保雄・小林賢次（一九九一）『狂言六義全注』（勉誠社）、北川忠彦他（一九九四～五）『天理本　狂言六義』（三弥井書店）がある。

和泉家古本：承応から元禄頃、山脇和泉元信書写か。『日本庶民文化史料集成四　狂言』（一九七五年三一書房）に翻刻。

忠政本：田口和夫（一九九七）『能・狂言研究』（三弥井書店）に写真と翻刻がある。

保教本：『天理善本叢書鷺流狂言伝書一～四』（一九八四年　八木書店）に写真複製。
虎寛本：笹野堅（一九四二～五）『大蔵虎寛本　能狂言』（岩波文庫）に翻刻。
虎光本：文政六（一八二三）年山岸清斎の写本による。橋本朝生（一九九〇～二）『大蔵虎光本狂言集』（古典文庫）に翻刻。
三宅庄市手沢本：野々村戒三・安藤常次郎（一九三八～四三）『狂言三百番集』（冨山房）に翻刻。
名女川本：北川忠彦・関屋俊彦（一九八九～九一）「翻刻鷺流狂言『宝暦名女川本』」（『女子大国文』一〇五～一一一号）。さらに新発見の部分の写真が法政大学能楽研究所のＨＰにある。
賢通本：古川久（一九五三～五六）『狂言集（朝日古典全書）』（朝日新聞社）に一部の翻刻と注釈。
常磐松文庫本：実践女子大学常磐松文庫蔵。竹本幹夫（一九八七）「常磐松文庫蔵『鷺流狂言伝書』一六四点」（『実践女子大学文芸資料研究所年報』第6号）に一部翻刻がある。
古典文庫本：雲形本の明治期の写本。複製に吉田幸一（一九五三～六二）『和泉流狂言集一～二〇』（古典文庫）がある。
版本狂言記：橋本朝生・土井洋一（一九九六）『狂言記　新日本古典文学大系 58』（岩波書店）が四種の翻刻と正篇・外篇の注釈を付す。個々の写真複製と総索引を付すのが、北原保雄・大倉浩（一九八三）『狂言記の研究』（正篇　勉誠社）、北原保雄・大倉浩（一九九七）『狂言記外五十番の研究』（勉誠社）、北原保雄・小林賢次（一九八五）『続狂言記の研究』（勉誠社）、北原保雄・吉見孝夫（一九八七）『狂言記拾遺の研究』（勉誠社）。

注3　池田（一九六七）に諸台本での狂言各曲の所在一覧表がある。各曲の流派による違いについては古川久他（一九七六）『狂言辞典　事項編』（東京堂出版）がまずは参考になる。

注4　蜂谷（一九七七）同（一九九八）などに基本的な論文がまとめられている。

注5　注2の天理本翻刻の解説や小林賢次（二〇〇〇）（二〇〇八）参照。

注6　注2保教本複製にある田口和夫の解説や米田（二〇二〇）参照。

注7　注2の版本狂言記関係書や小林賢次（二〇〇八）など参照。

注8　小林千草（二〇一六～一九）は、幕末期書写の成城大学蔵狂言台本を、主要な狂言台本と曲ごとに詞章を詳細に比較し、各流派での伝承関係や詞章整理を遡るようなかたちで逆照射している。

［参考文献］（まず手に取ってもらいたい基本的なものに※印を付した）

池田廣司（一九六七）『古狂言台本の発達に関しての書誌的研究』（風間書房）
亀井孝（一九四四）「狂言のことば」（『能楽全書』五　東京創元社　『亀井孝論文集5』所収）※
小林賢次（二〇〇〇）『狂言台本を主資料とする中世語彙語法の研究』（勉誠出版）
同（二〇〇八）『狂言台本とその言語事象の研究』（ひつじ書房）※
小林千草（二〇一六～一九）『幕末期狂言台本の総合的研究』（清文堂）
小山弘志（一九五六）「狂言の変遷」（『文学』二四巻 七号）
小山弘志・田口和夫・橋本朝生（一九八四）『岩波講座能・狂言Ⅴ　狂言の世界』（岩波書店）
永井猛（二〇〇二）『狂言変遷考』（三弥井書店）
橋本朝生（二〇一二）『続　狂言の形成と展開』（みづき書房）
蜂谷清人（一九七七）『狂言台本の国語学的研究』（笠間書院）※
同（一九八〇）「狂言のことば（補）」（『能楽全書　綜合新訂版五』　東京創元社）※
同（一九九八）『狂言の国語史的研究』（明治書院）
米田達郎（二〇二〇）『鷺流狂言詞章保教本を起点とした狂言詞章の日本語学的研究』（武蔵野書院）※

主要狂言資料年表　（家と所収曲数）

1375　京都今熊野猿楽に観阿弥・世阿弥親子出演：足利義満が見物
永和元

鷺流	大蔵流	和泉流（京流）	流派不明
1578			天正狂言本（103）
天正６？			
1596～			祝本（23）
慶長～寛永？			
1642	虎明本（弥237）		
寛永19			
1645		天理本（227）	
正保年間？			
1646	虎清本（八8）		
正保3			
1652～		和泉家古本（181）	
承応～元禄6			
1660			狂言記（50）
万治3			
1678　忠政本（仁25）			
延宝6			
1700			狂言記外五十番（50）
元禄13			続狂言記（50）
1716～24　保教本（伝150）			
享保年間			
1730			狂言記拾遺（50）
享保15			
1761～　名女川本（伝120?）			
宝暦11ごろ			
1777　森本（仁101）			
安永６			
1792	虎寛本（弥165）		
寛政4			
1817	虎光本（八164）		
文化14			
1833～		三宅庄市手沢本（262）	
天保～慶応			
1851～　常磐松文庫本（伝135）			
嘉永4～			
1855　賢通本（仁192）			
安政２			
1860～	山本東本（弥194）		
幕末～			
1910　明治末		古典文庫本（200）	

日本語学会2022年度春季大会予稿集
発行日（ウェブ公開日）：2022年4月28日
大会会期：2022年5月14日・15日

〔大会企画運営委員会〕
石黒圭（委員長）　安部朋世　大田垣仁　小木曽智信（副委員長）　北﨑勇帆　甲田直美　櫻井豪人　澤村美幸　田中祐輔　田中啓行（委員長補佐）　平塚雄亮（委員長補佐）　松浦年男　三井はるみ　山本真吾（副委員長）　吉田永弘　米谷隆史　李婷
〔大会実行委員会〕
*北﨑勇帆（実行委員長）*石黒圭　***内田宗一　遠藤佳那子　*大田垣仁　***岡田一祐　*小木曽智信　**白岩広行　*田中啓行　*平塚雄亮 *松浦年男　三樹陽介　**八木下孝雄　**山田昌裕　*山本真吾
（*大会企画運営委員兼任，**事務局委員兼任，***広報委員兼任）